

# 中河原遺跡 1

令和5年（2023年）3月



茨木市教育委員会



# 中河原遺跡 1

令和5年（2023年）3月



茨木市教育委員会





1. 2016-1 調査地から北を望む



2. 2016-1 調査地から南西を望む





1. 2016-1 調査C区 406 土器棺墓検出状況（南から）



2. 2016-1 調査D区 1632 土坑遺物出土状況（南西から）





1097

1. 2016-1 調査 1632 土坑出土絵画土器



建物 1



建物 2・3



建物 4



建物 5



## 序 文

わたしたちが暮らす茨木市は大阪府の北部に位置します。市域北部は広大な森林をもつ山々が連なり、山々より流れる安威川、佐保川、茨木川、勝尾寺川などが市域南部の平野に豊かな水をもたらしています。これらの自然に恵まれた環境のもと、古来数多くの歴史が育まれてきました。

文化施設の充実をはじめ、安心・安全なまちづくりをめざして発展をとげた本市は、交通の利便性や京都・大阪間という立地の良さも手伝い、大規模な開発も少なくありません。昨今の時勢のなか、開発に伴う埋蔵文化財の調査件数は緩やかに増加しています。

本書は、昭和 53 年（1978 年）の発見以来、中河原遺跡において断続的に実施した発掘調査の成果報告書です。

現地調査では、弥生時代中期の竪穴建物や方形周溝墓をはじめとして、古墳時代・飛鳥時代・鎌倉時代の建物跡や土坑など多数の遺構が見つかりました。

特に、弥生時代中期の建物 5 棟が描かれた絵画土器は、類例が少なく、注目されるものです。今回の発掘調査によって、茨木市の古代の様相を明らかにするうえで新たな知見となる貴重な成果を得ることができました。これら一つ一つの調査成果が、郷土茨木の文化財として広く活用されることを願ってやみません。

最後に、今回の調査を実施するにあたりまして、多大なご協力とご配慮をいただきました土地所有者、近隣の皆様をはじめとする関係各位に対しまして、深く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月 31 日  
茨木市教育委員会  
教育長 岡田祐一



## 例　　言

1. 本書は昭和53年度（1978年度）から平成29年度（2017年度）にかけて実施した茨木市郡三・四・五丁目、上郡一丁目に所在する中河原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 取り扱ったすべての発掘調査は、開発事業者からの発掘届出・依頼を受け、茨木市教育委員会が行ったものである。
3. 各発掘調査の担当者については、第Ⅰ章第1節表1に記載している。  
報告書作成・刊行に係る令和4年度の整理体制は、茨木市教育委員会教育総務部 歴史文化財課長  
木下典子・同課長代理 前田聰志のもと、以下の職員が従事した。
4. 本書の執筆は第Ⅰ～第Ⅳ章第11節を木村健明、第Ⅳ章第12節を富田卓見、第Ⅳ章第13・14節・第V章を高村勇士・木村が行い、編集は木村が行った。なお、本書執筆の過程で当時の発掘調査の担当者が残した記録や、既刊の概報を素材にした部分がある。
5. 出土遺物の整理作業については、その一部を国際文化財株式会社西日本支店に委託して実施した。
6. 本書で用いた現地写真は、各調査担当者が撮影した。また、遺物写真の撮影は、木村が行った。  
なお、2016-1調査（D地区）において出土した絵画土器（巻頭図版3）については、独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 中村一郎氏の撮影による。
7. 本書作成および校正にあたっては上記職員のほか、阿部ともよ・川西宏実・川畑康雄・坂田典彦・  
正岡大実・宮西貴史・米山真菜が従事した。
8. 本調査に係る記録類や出土遺物は、茨木市立文化財資料館〔〒567-0861 大阪府茨木市東奈良三  
丁目12番18号 TEL 072-634-3433〕において保管している。広く活用されることを希望する。
9. 現地調査、報告書作成にあたっては以下の諸機関・諸氏より、様々なご協力・ご指導を賜った。  
記して感謝申し上げます（敬称略、五十音順）。  
株式会社日本通運・株式会社ヤマムラ住宅・関西電力株式会社・関電不動産開発株式会社  
辰巳和弘・深澤芳樹・森岡秀人・若林邦彦・若林幸子

## 凡　例

1. 本書に記載された測量成果については、世界測地系（測地成果2000）に基づいている。図中のX・Y座標は国土座標第VI系によるものであり、m単位で表記している。また、平面図の方位は座標値のあるものについては座標北を示している。
2. 標高は東京湾平均海面（T.P.+）値で示した。単位は全てmである。
3. 本報告書に使用した地図は、国土地理院発行（1/25,000地形図）を拡大、縮小、加筆して使用したものである。
4. 本遺跡の土層に示した土色は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定したものである。地層観察用畦の観察面はシートで被覆するなどして、湿った状態を保つように留意した。また、地層の粒度の記載に関しては、地質学で標準的に用いられるWentworthの粒径区分を使用した。なお、同一地層内に異なる粒径の粒度が幅をもって認められるときには、「シルト～粗砂」のように記載した。ただし、場合によっては主体を占めるものを後に「極粗砂混じりシルト」のように記載したものもある。
5. 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、瓦器はアミ掛け、それ以外のものは白抜きで示した。
6. 遺物観察表の法量記載における（ ）は推定復元値、△は残存値を示す。
7. 本書作成においては多くの文献を参考にした。文中に著者名（苗字）と刊行年（西暦）を□内に入れ表示し、参考した箇所を明示するとともに、参考文献名等はP.262～265にまとめて提示した。合わせて参照されたい。なお、記述に際して法人形態は省略した。

# 目 次

卷頭図版

序文

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 本書作成の経緯	1
第1節 既往調査の概要	1
第2節 本書作成の経過と編集方針	1
第Ⅱ章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第Ⅲ章 調査の方法	7
第Ⅳ章 調査の成果	8
第1節 報告にあたって	8
第2節 1978-1調査	11
第3節 1980-2調査	22
第4節 1985-1調査	27
第5節 1990-1調査	29
第6節 1992-1調査	44
第7節 1992-2調査	48
第8節 1992-3調査	50
第9節 1997-1調査	52
第10節 2001-1調査	69
第11節 2007-1調査	74
第12節 2016-1調査（A区）	77
第13節 2016-1調査（B・C・D区）	107
第14節 2017-1調査	242
第Ⅴ章 総括	255
第1節 中河原遺跡の各時代	255
第2節 中河原遺跡出土の弥生土器絵画	258

### 挿図目次

- |   |  |
|---|--|
| 図1 調査区位置図                                       | 図23 1990-1調査 北壁土層断面図                     |
| 図2 茨木市地質図                                       | 図24 1990-1調査 第1・第2遺構面平面図                 |
| 図3 周辺遺跡分布図                                      | 図25 1990-1調査 第2遺構面 S D 5 断面図             |
| 図4 地区割図   | 図26 1990-1調査 第3遺構面平面図                    |
| 図5 1978-1・1980-2・2007-1・2016-1・<br>2017-1調査区配置図 | 図27 1990-1調査 第3遺構面西端平面図                  |
| 図6 中河原遺跡出土弥生土器形態分類図                             | 図28 1990-1調査 第3遺構面 S D 6・7<br>断面図        |
| 図7 1978-1調査 A・B・C区平面図                           | 図29 1990-1調査 第1・第2遺構面遺構<br>出土遺物実測図       |
| 図8 1978-1調査 D区平面図                               | 図30 1990-1調査 第3遺構面 S D 6 出土<br>遺物実測図     |
| 図9 1978-1調査 A区溝1出土遺物実測図<br>(1)                  | 図31 1990-1調査 第3遺構面 S D 6・7<br>出土遺物実測図    |
| 図10 1978-1調査 A区溝1出土遺物実測図<br>(2)                 | 図32 1990-1調査 第3遺構面<br>方形周溝墓状遺構1・2出土遺物実測図 |
| 図11 1978-1調査 D区井戸1出土遺物実測図<br>(1)                | 図33 1990-1調査 第3遺構面 S X 2<br>出土遺物実測図(1)   |
| 図12 1978-1調査 D区井戸1出土遺物実測図<br>(2)                | 図34 1990-1調査 第3遺構面 S X 2<br>出土遺物実測図(2)   |
| 図13 1978-1調査 D区ピット1出土遺物<br>実測図                  | 図35 1990-1調査 包含層出土遺物実測図<br>(1)           |
| 図14 1978-1調査 A・B区包含層出土遺物<br>実測図                 | 図36 1990-1調査 包含層出土遺物実測図<br>(2)           |
| 図15 1978-1調査 C区包含層出土遺物実測図<br>(1)                | 図37 1992-1調査 調査区平面・土層断面図                 |
| 図16 1978-1調査 C区包含層出土遺物実測図<br>(2)                | 図38 1992-1調査 S K 2 平面・断面図                |
| 図17 1978-1調査 出土地区不明遺物実測図                        | 図39 1992-1調査 挖立柱建物1平面・断面図                |
| 図18 1980-2調査 調査区平面図                             | 図40 1992-1調査 遺構出土遺物実測図                   |
| 図19 1980-2調査 遺構出土遺物実測図                          | 図41 1992-1調査 包含層出土遺物実測図                  |
| 図20 1980-2調査 包含層出土遺物実測図                         | 図42 1992-2調査 調査区平面・土層断面図                 |
| 図21 1985-1調査 調査区平面図                             | 図43 1992-2調査 S D 1 断面図                   |
| 図22 1985-1調査 出土遺物実測図                            | 図44 1992-2調査 出土遺物実測図                     |

- |     |          |                      |     |          |  |
|-----|----------|----------------------|-----|----------|--|
| 図45 | 1992-3調査 | 調査区平面・土層断面図          | 図76 | 2016-1調査 | A区2610溝平面・断面図                            |
| 図46 | 1992-3調査 | 出土遺物実測図              | 図77 | 2016-1調査 | A区2606土坑・2616溝・<br>2622落ち込み断面図           |
| 図47 | 1997-1調査 | 調査区平面・土層断面図          | 図78 | 2016-1調査 | A区2605土坑<br>平面・断面図                       |
| 図48 | 1997-1調査 | 調査区東半拡大図             | 図79 | 2016-1調査 | A区2624・2625・2626・<br>2627・2628竪穴建物平面・断面図 |
| 図49 | 1997-1調査 | 調査区西半拡大図             | 図80 | 2016-1調査 | A区2631掘立柱建物<br>平面・断面図                    |
| 図50 | 1997-1調査 | S D 18断面図            | 図81 | 2016-1調査 | A区2632掘立柱建物<br>平面・断面図                    |
| 図51 | 1997-1調査 | S K 6 平面・断面図         | 図82 | 2016-1調査 | A区2621井戸<br>平面・断面図                       |
| 図52 | 1997-1調査 | 柱列1 平面・断面図           | 図83 | 2016-1調査 | A区2629・2630<br>掘立柱建物平面・断面図               |
| 図53 | 1997-1調査 | 柱列2 平面・断面図           | 図84 | 2016-1調査 | A区遺構出土遺物実測図                              |
| 図54 | 1997-1調査 | 掘立柱建物1 平面・断面図        | 図85 | 2016-1調査 | A区2610溝<br>出土遺物実測図（1）                    |
| 図55 | 1997-1調査 | S D 18出土遺物実測図        | 図86 | 2016-1調査 | A区2610溝<br>出土遺物実測図（2）                    |
| 図56 | 1997-1調査 | 弥生時代遺構出土遺物<br>実測図    | 図87 | 2016-1調査 | A区2619溝<br>出土遺物実測図                       |
| 図57 | 1997-1調査 | S X 1出土遺物実測図         | 図88 | 2016-1調査 | A区2605土坑<br>出土遺物実測図                      |
| 図58 | 1997-1調査 | S K 4出土遺物実測図         | 図89 | 2016-1調査 | A区2624～2628竪穴建物<br>出土遺物実測図               |
| 図59 | 1997-1調査 | 古代・中世遺構<br>出土遺物実測図   | 図90 | 2016-1調査 | A区2618溝<br>出土遺物実測図                       |
| 図60 | 1997-1調査 | 包含層出土遺物実測図<br>(1)    | 図91 | 2016-1調査 | A区古墳時代・飛鳥時代<br>遺構出土遺物実測図                 |
| 図61 | 1997-1調査 | 包含層出土遺物実測図<br>(2)    | 図92 | 2016-1調査 | A区古代・中世遺構<br>出土遺物実測図                     |
| 図62 | 1997-1調査 | 包含層出土遺物実測図<br>(3)    | 図93 | 2016-1調査 | A区包含層出土遺物実測図<br>(1)                      |
| 図63 | 2001-1調査 | 調査区配置図               | 図94 | 2016-1調査 | A区包含層出土遺物実測図<br>(2)                      |
| 図64 | 2001-1調査 | A・B区平面・土層断面図         | 図95 | 2016-1調査 | C区北壁土層断面図                                |
| 図65 | 2001-1調査 | C区平面・土層断面図           |     |          |  |
| 図66 | 2001-1調査 | 出土遺物実測図（1）           |     |          |  |
| 図67 | 2001-1調査 | 出土遺物実測図（2）           |     |          |  |
| 図68 | 2007-1調査 | 調査区平面・土層断面図          |     |          |  |
| 図69 | 2007-1調査 | 遺構出土遺物実測図            |     |          |  |
| 図70 | 2007-1調査 | 包含層出土遺物実測図           |     |          |  |
| 図71 | 2016-1調査 | A区南壁土層断面図            |     |          |  |
| 図72 | 2016-1調査 | A区平面図                |     |          |  |
| 図73 | 2016-1調査 | A区平面拡大図（1）           |     |          |  |
| 図74 | 2016-1調査 | A区平面拡大図（2）           |     |          |  |
| 図75 | 2016-1調査 | A区2623竪穴建物<br>平面・断面図 |     |          |  |

- 図96 2016-1調査 B・C・D区西壁土層断面  
図(1)
- 図97 2016-1調査 B・C・D区西壁土層断面  
図(2)
- 図98 2016-1調査 B・C・D区平面図
- 図99 2016-1調査 B・C・D区平面図郭削図
- 図100 2016-1調査 B・C・D区平面図(1)
- 図101 2016-1調査 B・C・D区平面図(2)
- 図102 2016-1調査 B・C・D区平面図(3)
- 図103 2016-1調査 B・C・D区平面図(4)
- 図104 2016-1調査 B・C・D区平面図(5)
- 図105 2016-1調査 B・C・D区平面図(6)
- 図106 2016-1調査 B・C・D区平面図(7)
- 図107 2016-1調査 B・C・D区平面図(8)
- 図108 2016-1調査 B・C・D区平面図(9)
- 図109 2016-1調査 B・C・D区平面図(10)
- 図110 2016-1調査 B・C・D区平面図(11)
- 図111 2016-1調査 B・C・D区平面図(12)
- 図112 2016-1調査 B・C・D区平面図(13)
- 図113 2016-1調査 B・C・D区平面図(14)
- 図114 2016-1調査 B・C・D区平面図(15)
- 図115 2016-1調査 B・C・D区平面図(16)
- 図116 2016-1調査 B・C・D区平面図(17)
- 図117 2016-1調査 B・C・D区平面図(18)
- 図118 2016-1調査 B・C・D区平面図(19)
- 図119 2016-1調査 B・C・D区平面図(20)
- 図120 2016-1調査 B・C・D区平面図(21)
- 図121 2016-1調査 B・C・D区平面図(22)
- 図122 2016-1調査 B・C・D区平面図(23)
- 図123 2016-1調査 C区209・210土坑  
平面・断面図
- 図124 2016-1調査 C区409・463土坑遺物  
出土状況・平面・断面図
- 図125 2016-1調査 C区290・367・368・  
371・424土坑平面・断面図
- 図126 2016-1調査 C区497・537・546土坑  
平面・断面図
- 図127 2016-1調査 C区932・933土坑  
平面・断面図
- 図128 2016-1調査 C区963・964土坑  
遺物出土状況・平面・断面図
- 図129 2016-1調査 D区1561溝平面・断面図
- 図130 2016-1調査 C・D区1562溝平面図
- 図131 2016-1調査 C・D区1562溝断面図
- 図132 2016-1調査 C区1327方形周溝墓  
平面・断面図
- 図133 2016-1調査 C区1328方形周溝墓・  
903溝平面・断面図
- 図134 2016-1調査 C区1316竪穴建物範囲内  
遺構平面・断面図
- 図135 2016-1調査 D区1665・1666土坑  
平面・断面図
- 図136 2016-1調査 C区877土坑、  
D区1700土坑平面・断面図
- 図137 2016-1調査 D区2100・2332・  
2360土坑平面・断面図
- 図138 2016-1調査 C区48・770土坑、  
D区1629土坑平面・断面図
- 図139 2016-1調査 C区127土坑、  
D区1920土坑平面・断面図
- 図140 2016-1調査 D区1632土坑  
平面・断面図
- 図141 2016-1調査 D区2210土坑  
平面・断面図
- 図142 2016-1調査 C・D区607・880溝  
平面・断面図
- 図143 2016-1調査 B区1444溝平面・断面図
- 図144 2016-1調査 C区1320方形周溝墓  
平面・断面図
- 図145 2016-1調査 C区406・1036土器棺墓  
遺物出土状況・平面・断面図
- 図146 2016-1調査 B区1414土器棺墓、  
1415土坑遺物出土状況・平面・断面図
- 図147 2016-1調査 C区1318竪穴建物範囲内  
遺構平面・断面図

- |      |  |      |   |
|------|--|------|---|
| 図148 | 2016-1調査 C区1319竪穴建物範囲内<br>遺構平面・断面図     | 図168 | 2016-1調査 C区463土坑<br>出土遺物実測図             |
| 図149 | 2016-1調査 C・D区1323竪穴建物<br>範囲内遺構平面・断面図   | 図169 | 2016-1調査 C区963土坑出土遺物<br>実測図（1）          |
| 図150 | 2016-1調査 C区1324竪穴建物範囲内<br>遺構平面・断面図     | 図170 | 2016-1調査 C区963土坑出土遺物<br>実測図（2）          |
| 図151 | 2016-1調査 C区1325竪穴建物範囲内<br>遺構平面図        | 図171 | 2016-1調査 C区964土坑出土遺物<br>実測図             |
| 図152 | 2016-1調査 C区1325竪穴建物範囲内<br>遺構断面図        | 図172 | 2016-1調査 D区1561溝出土遺物<br>実測図             |
| 図153 | 2016-1調査 C区1326竪穴建物範囲内<br>遺構平面・断面図     | 図173 | 2016-1調査 D区1562溝出土遺物<br>実測図（1）          |
| 図154 | 2016-1調査 D区2641竪穴建物範囲内<br>遺構平面・断面図     | 図174 | 2016-1調査 D区1562溝出土遺物<br>実測図（2）          |
| 図155 | 2016-1調査 D区2642竪穴建物範囲内<br>遺構平面・断面図     | 図175 | 2016-1調査 D区1562溝出土遺物<br>実測図（3）          |
| 図156 | 2016-1調査 C区470・471溝<br>平面・断面図          | 図176 | 2016-1調査 B・D区ピット<br>出土遺物実測図             |
| 図157 | 2016-1調査 D区985溝平面・断面図                  | 図177 | 2016-1調査 C区210・290・368・<br>371土坑出土遺物実測図 |
| 図158 | 2016-1調査 B区1500溝平面・断面図                 | 図178 | 2016-1調査 C区537・546土坑<br>出土遺物実測図         |
| 図159 | 2016-1調査 C区410・473・483・<br>544土坑平面・断面図 | 図179 | 2016-1調査 C区372溝出土遺物<br>実測図              |
| 図160 | 2016-1調査 C区653・684・720・<br>800土坑平面・断面図 | 図180 | 2016-1調査 C区396溝出土遺物<br>実測図              |
| 図161 | 2016-1調査 C区697土坑、<br>D区2200土坑平面・断面図    | 図181 | 2016-1調査 C区1327方形周溝墓<br>出土遺物実測図（1）      |
| 図162 | 2016-1調査 C区588溝平面・断面図                  | 図182 | 2016-1調査 C区1327方形周溝墓<br>出土遺物実測図（2）      |
| 図163 | 2016-1調査 C区1321掘立柱建物<br>平面・断面図         | 図183 | 2016-1調査 C区1328方形周溝墓<br>出土遺物実測図（1）      |
| 図164 | 2016-1調査 C区1322掘立柱建物<br>平面・断面図         | 図184 | 2016-1調査 C区1328方形周溝墓<br>出土遺物実測図（2）      |
| 図165 | 2016-1調査 C区1329掘立柱建物<br>平面・断面図         | 図185 | 2016-1調査 C区1328方形周溝墓<br>出土遺物実測図（3）      |
| 図166 | 2016-1調査 D区2643掘立柱建物<br>平面・断面図         | 図186 | 2016-1調査 C区1328方形周溝墓・<br>903溝出土遺物実測図    |
| 図167 | 2016-1調査 B区1360・1526溝<br>平面・断面図        |      |   |

- |      |   |      |   |
|------|---|------|---|
| 図187 | 2016-1調査 C区1316竪穴建物範囲内<br>遺構出土遺物実測図           | 図206 | 2016-1調査 B区1444溝出土遺物<br>実測図                           |
| 図188 | 2016-1調査 C区424・877土坑、<br>D区1666・1700土坑出土遺物実測図 | 図207 | 2016-1調査 C区1320方形周溝墓<br>出土遺物実測図（1）                    |
| 図189 | 2016-1調査 C区593溝、<br>D区2332・2360土坑出土遺物実測図      | 図208 | 2016-1調査 C区1320方形周溝墓<br>出土遺物実測図（2）                    |
| 図190 | 2016-1調査 C区48土坑出土遺物<br>実測図（1）                 | 図209 | 2016-1調査 C区406・1036土器棺墓<br>出土遺物実測図                    |
| 図191 | 2016-1調査 C区48土坑出土遺物<br>実測図（2）                 | 図210 | 2016-1調査 C区1325竪穴建物範囲内<br>遺構出土遺物実測図                   |
| 図192 | 2016-1調査 C・D区土坑出土遺物<br>実測図                    | 図211 | 2016-1調査 C区ピット<br>出土遺物実測図                             |
| 図193 | 2016-1調査 D区1632土坑出土遺物<br>実測図（1）               | 図212 | 2016-1調査 C区溝出土遺物実測図                                   |
| 図194 | 2016-1調査 D区1632土坑出土遺物<br>実測図（2）               | 図213 | 2016-1調査 C区土坑出土遺物実測図                                  |
| 図195 | 2016-1調査 D区1632土坑出土遺物<br>実測図（3）               | 図214 | 2016-1調査 C区土坑・溝、D区溝<br>出土遺物実測図                        |
| 図196 | 2016-1調査 D区1632土坑出土遺物<br>実測図（4）               | 図215 | 2016-1調査 C・D区掘立柱建物<br>出土遺物実測図                         |
| 図197 | 2016-1調査 D区1632土坑出土遺物<br>実測図（5）               | 図216 | 2016-1調査 B区1360溝、C区<br>588溝・697土坑、D区2200土坑<br>出土遺物実測図 |
| 図198 | 2016-1調査 D区2210土坑出土遺物<br>実測図                  | 図217 | 2016-1調査 B区包含層出土遺物<br>実測図（1）                          |
| 図199 | 2016-1調査 B区1410・1415土坑・<br>1414土器棺墓出土遺物実測図    | 図218 | 2016-1調査 B区包含層出土遺物<br>実測図（2）                          |
| 図200 | 2016-1調査 C区287溝出土遺物<br>実測図（1）                 | 図219 | 2016-1調査 B区包含層出土遺物<br>実測図（3）                          |
| 図201 | 2016-1調査 C区287溝出土遺物<br>実測図（2）                 | 図220 | 2016-1調査 C区包含層出土遺物<br>実測図（1）                          |
| 図202 | 2016-1調査 C区287溝出土遺物<br>実測図（3）                 | 図221 | 2016-1調査 C区包含層出土遺物<br>実測図（2）                          |
| 図203 | 2016-1調査 C区288溝出土遺物<br>実測図                    | 図222 | 2016-1調査 C区包含層出土遺物<br>実測図（3）                          |
| 図204 | 2016-1調査 C・D区607溝出土<br>遺物実測図                  | 図223 | 2016-1調査 C区包含層出土遺物<br>実測図（4）                          |
| 図205 | 2016-1調査 C・D区880溝出土<br>遺物実測図                  | 図224 | 2016-1調査 D区包含層出土遺物<br>実測図（1）                          |

- |                                       |                                   |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 図225 2016-1調査 D区包含層出土遺物<br>実測図（2）     | 図234 2017-1調査 A区10溝出土<br>遺物実測図    |
| 図226 2016-1調査 D区包含層出土遺物<br>実測図（3）     | 図235 2017-1調査 A区18土器棺墓出土<br>遺物実測図 |
| 図227 2016-1調査 B～D区包含層出土<br>遺物実測図      | 図236 2017-1調査 A区包含層出土遺物<br>実測図（1） |
| 図228 2017-1調査 A区土層断面図                 | 図237 2017-1調査 A区包含層出土遺物<br>実測図（2） |
| 図229 2017-1調査 A区平面図                   | 図238 2017-1調査 A区包含層出土遺物<br>実測図（3） |
| 図230 2017-1調査 A区10溝<br>遺物出土状況図        | 図239 弥生時代時期別遺構配置図                 |
| 図231 2017-1調査 A区18土器棺墓<br>出土状況・平面・断面図 | 図240 中河原絵画A展開図                    |
| 図232 2017-1調査 B区平面・土層断面図              |                                   |
| 図233 2017-1調査 A区6・11溝<br>出土遺物実測図      |                                   |

## 表目次

- |                          |                                |
|--------------------------|--------------------------------|
| 表1 中河原遺跡調査一覧表            | 表3 2016-1調査A区 遺構一覧表<br>(1)～(3) |
| 表2 1997-1調査 遺構一覧表(1)～(2) | 表4 遺物観察表(1)～(55)               |

## 写真図版目次

- PL.1 1978-1調査 遺構  
1. A区 完掘状況（南から）  
2. A区 溝1遺物出土状況（南から）  
3. B区 完掘状況（南から）
- PL.2 1978-1調査 遺構  
1. C区 完掘状況（南から）  
2. D区 完掘状況（南から）  
3. D区 井戸1遺物出土状況（西から）
- PL.3 1980-2調査 遺構  
1. 調査区南半 完掘状況（東から）  
2. 調査区北半 完掘状況（東から）
- PL.4 1990-1調査 遺構  
1. 第1遺構面 完掘状況（西から）  
2. 第2遺構面 完掘状況（東から）
- PL.5 1990-1調査 遺構  
1. 第3遺構面 西側完掘状況（北から）  
2. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構1・2  
完掘状況（南から）
- PL.6 1990-1調査 遺構  
1. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構1  
完掘状況（南から）  
2. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構2  
完掘状況（北から）
- PL.7 1992-1調査 遺構  
1. 調査区西半 完掘状況（北から）  
2. 調査区東半 完掘状況（北から）
- PL.8 1992-1調査 遺構  
1. 調査区南壁 土層断面  
2. S P 3遺物出土状況（北から）
- PL.9 1992-1調査 遺構  
1. S K 2遺物出土状況（北から）  
2. S K 2遺物出土状況（東から）
- PL.10 1992-2調査 遺構  
1. 調査区南壁 土層断面（北から）  
2. 調査区西半 完掘状況（南から）  
3. 調査区東半 完掘状況（南から）
- PL.11 1992-3調査 遺構  
1. 調査区南壁 土層断面（北から）  
2. 調査区 完掘状況（北から）  
3. 調査区中央部 完掘状況（北から）
- PL.12 1997-1調査 遺構  
1. 調査区 完掘状況（東から）  
2. 調査区 完掘状況（西から）
- PL.13 1997-1調査 遺構  
1. S D 18完掘状況（東から）  
2. S D 9・10・11完掘状況（南から）
- PL.14 2001-1調査 遺構  
1. B区 完掘状況（南から）  
2. C区 完掘状況（西から）
- PL.15 2007-1調査 遺構  
1. 調査区東側 完掘状況（南から）  
2. 調査区西側 完掘状況（南から）
- PL.16 2016-1調査 遺構  
1. A区 遺構完掘状況（垂直・上が北）  
2. A区 遺構完掘状況（東から）
- PL.17 2016-1調査 遺構  
1. A区 遺構完掘状況（西から）  
2. A区 北壁土層断面（南から）
- PL.18 2016-1調査 遺構  
1. A区 2605土坑・2618溝土層断面  
(北西から)  
2. A区 2623竪穴建物・2610溝土層断面  
(西から)
- PL.19 2016-1調査 遺構  
1. A区 2623竪穴建物完掘状況（北から）  
2. A区 2623～2628竪穴建物完掘状況  
(南から)
- PL.20 2016-1調査 遺構  
1. A区 2631掘立柱建物検出状況  
(南から)  
2. A区 2632掘立柱建物検出状況  
(南東から)

- PL.21 2016-1調査 遺構
1. A区 2631掘立柱建物 (2474ピット)  
土層断面 (南から)
  2. A区 2631掘立柱建物 (2475ピット)  
土層断面 (南から)
  3. A区 2632掘立柱建物  
(2496~2498ピット)  
土層断面 (南東から)
- PL.22 2016-1調査 遺構
1. A区 2629・2630掘立柱建物完掘状況  
(南から)
  2. A区 2621井戸 環検出状況 (西から)
- PL.23 2016-1調査 遺構
1. A区 2621井戸 井戸側検出状況  
(東から)
  2. A区 2621井戸 井戸枠内完掘状況  
(東から)
- PL.24 2016-1調査 遺構
1. B区 完掘状況 (南から)
  2. B区 完掘状況 (北から)
- PL.25 2016-1調査 遺構
1. C区 完掘状況 (南東から)
  2. D区 完掘状況 (東から)
- PL.26 2016-1調査 遺構
1. D区 完掘状況 (西から)
  2. C区 南壁土層断面 (北西から)
- PL.27 2016-1調査 遺構
1. C区 963・964土坑遺物出土状況  
(北東から)
  2. C区 1327方形周溝墓遺物出土状況  
(北から)
- PL.28 2016-1調査 遺構
1. C区 1327方形周溝墓遺物出土状況  
(南から)
  2. C区 1327方形周溝墓遺物出土状況  
(東から)
- PL.29 2016-1調査 遺構
1. C区 457土坑遺物出土状況 (西から)
- 
2. C区 463土坑遺物出土状況 (南西から)
3. C区 877土坑遺物出土状況 (東から)
- PL.30 2016-1調査 遺構
1. D区 1632土坑遺物出土状況  
(南西から)
  2. D区 1632土坑遺物出土状況  
(南東から)
- PL.31 2016-1調査 遺構
1. C区 406土器棺墓検出状況 (東から)
  2. C区 406土器棺墓検出状況 (南から)
- PL.32 2016-1調査 遺構
1. C区 1036土器棺墓検出状況 (南から)
  2. B区 1414土器棺墓検出状況 (南から)
- PL.33 2016-1調査 遺構
1. C区 1324竪穴建物完掘状況 (南から)
  2. C区 1322掘立柱建物検出状況  
(南から)
- PL.34 2016-1調査 遺構
1. C区 1320方形周溝墓遺物出土状況  
(北から)
  2. C区 697土坑遺物出土状況 (北から)
- PL.35 2017-1調査 遺構
1. A区 完掘状況 (垂直・北が上)
  2. A区 南壁土層断面 (北東から)
- PL.36 2017-1調査 遺構
1. A区 10溝上層遺物出土状況 (南から)
  2. A区 10溝下層遺物出土状況  
(南東から)
- PL.37 2017-1調査 遺構
1. A区 18土器棺墓検出状況 (南から)
  2. B区 完掘状況 (西から)
- PL.38 1978-1調査 出土遺物
1. A区 溝1出土遺物
  2. A区 溝1出土遺物
- PL.39 1978-1調査 出土遺物
1. A区 溝1・D区 井戸1出土遺物
- PL.40 1978-1調査 出土遺物
1. D区 井戸1・包含層出土遺物

- PL41 1978-1調査 出土遺物
1. D区 井戸1出土遺物
  2. B区 包含層出土遺物
- PL42 1978-1調査 出土遺物
1. B区 包含層出土遺物
  2. C区 包含層出土遺物
- PL43 1978-1・1980-2調査 出土遺物
1. C区 包含層出土遺物
  2. 井戸1出土遺物
- PL44 1980-2調査 出土遺物
1. 井戸2出土遺物
  2. 落ち込み1出土遺物
- PL45 1980-2・1985-1調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物
  2. 井戸3・包含層出土遺物
- PL46 1985-1調査 出土遺物
1. 出土遺物
  2. 出土遺物
- PL47 1985-1調査 出土遺物
1. 出土遺物
  2. 出土遺物
- PL48 1990-1調査 出土遺物
1. 第1遺構面 遺構出土遺物
  2. 第2遺構面 遺構出土遺物
- PL49 1990-1調査 出土遺物
1. 第3遺構面 S D 6出土遺物
  2. 第3遺構面 S D 6出土遺物
- PL50 1990-1調査 出土遺物
1. 第3遺構面 S D 6出土遺物
  2. 第3遺構面 S D 6出土遺物
- PL51 1990-1調査 出土遺物
1. 第3遺構面 S D 6出土遺物
  2. 第3遺構面 S D 7出土遺物
- PL52 1990-1調査 出土遺物
1. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構1・2  
出土遺物
  2. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構1・2  
出土遺物
- PL53 1990-1調査 出土遺物
1. 第3遺構面 S X 2出土遺物
  2. 第3遺構面 S X 2出土遺物
- PL54 1990-1調査 出土遺物
1. 第3遺構面 S X 2出土遺物
  2. 包含層出土遺物
- PL55 1990-1調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物
  2. 包含層出土遺物
- PL56 1990-1・1992-1調査 出土遺物
1. 包含層・S K 2・S P 3出土遺物
- PL57 1992-1調査 出土遺物
1. S K 1・S K 2出土遺物
  2. S P 3・S P 5・S P 9出土遺物
- PL58 1992-1・1992-2調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物
  2. S D 1・包含層出土遺物
- PL59 1997-1調査 出土遺物
1. S D 18出土遺物
  2. S D 17・S K 6・S P 71・S P 95・  
S K 134出土遺物
- PL60 1997-1調査 出土遺物
1. S K 6出土遺物
  2. S X 1出土遺物
- PL61 1997-1調査 出土遺物
1. S K 4出土遺物
  2. S K 4出土遺物
- PL62 1997-1調査 出土遺物
1. S D 17・S D 18・S K 4・S K 6・  
包含層出土遺物
- PL63 1997-1調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物
  2. 包含層出土遺物
- PL64 1997-1調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物
  2. 包含層出土遺物
- PL65 1997-1・2001-1調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物

2. 出土遺物
- PL66 2001-1調査 出土遺物
1. 出土遺物
  2. 出土遺物
- PL67 2001-1・2007-1調査 出土遺物
1. 2001-1調査 出土遺物、2007-1調査  
SD 1・包含層出土遺物
- PL68 2007-1・2016-1調査 出土遺物
1. S P 1・SD 7・包含層出土遺物
  2. 2606土坑・2620溝出土遺物
- PL69 2016-1調査 出土遺物
1. 2616溝・2622落ち込み・2623竪穴建物  
出土遺物
  2. 2610溝出土遺物
- PL70 2016-1調査 出土遺物
1. 2610溝出土遺物
  2. 2610溝出土遺物
- PL71 2016-1調査 出土遺物
1. 2610溝出土遺物
  2. 2610溝出土遺物
- PL72 2016-1調査 出土遺物
1. 2610溝・2618溝・2605土坑・  
2439ピット・2621井戸出土遺物
- PL73 2016-1調査 出土遺物
1. 2619溝出土遺物
  2. 2605土坑出土遺物
- PL74 2016-1調査 出土遺物
1. 2624・2625竪穴建物出土遺物
  2. 2624・2625竪穴建物出土遺物
- PL75 2016-1調査 出土遺物
1. 2626・2627竪穴建物出土遺物
  2. 2627・2628竪穴建物出土遺物
- PL76 2016-1調査 出土遺物
1. 2628竪穴建物出土遺物
  2. 2618溝出土遺物
- PL77 2016-1調査 出土遺物
1. 2612溝出土遺物
2. 2613溝・2614溝・2514ピット・  
2494ピット出土遺物
- PL78 2016-1調査 出土遺物
1. 2631掘立柱建物出土遺物
  2. 2621井戸出土遺物
- PL79 2016-1調査 出土遺物
1. 2630掘立柱建物出土遺物
  2. 2577ピット・2578ピット出土遺物
- PL80 2016-1調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物
  2. 包含層出土遺物
- PL81 2016-1調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物
  2. 包含層出土遺物
- PL82 2016-1調査 出土遺物
1. 包含層出土遺物
  2. 包含層出土遺物
- PL83 2016-1調査 出土遺物
1. 463土坑・963土坑・964土坑出土遺物
- PL84 2016-1調査 出土遺物
1. 209土坑・424土坑・463土坑・  
500土坑・537土坑出土遺物
  2. 963土坑出土遺物
- PL85 2016-1調査 出土遺物
1. 963土坑出土遺物
  2. 963土坑出土遺物
- PL86 2016-1調査 出土遺物
1. 963土坑出土遺物
  2. 964土坑出土遺物
- PL87 2016-1調査 出土遺物
1. 1562溝・1746ピット・1327方形周溝墓  
・1328方形周溝墓、457土坑出土遺物
- PL88 2016-1調査 出土遺物
1. 1562溝出土遺物
  2. 1562溝出土遺物
- PL89 2016-1調査 出土遺物
1. 1562溝出土遺物
  2. 1562溝出土遺物

PL90	2016-1調査 出土遺物	
1.	1561溝出土遺物	1. 593溝出土遺物
2.	1452ピット・2020ピット・985溝・	2. 48土坑出土遺物
	1360溝・1390溝・1666土坑出土遺物	
PL91	2016-1調査 出土遺物	PL103 2016-1調査 出土遺物
1.	210土坑出土遺物	1. 48土坑出土遺物
2.	368土坑出土遺物	2. 48土坑出土遺物
PL92	2016-1調査 出土遺物	PL104 2016-1調査 出土遺物
1.	372溝出土遺物	1. 127土坑出土遺物
2.	396溝出土遺物	2. 1632土坑出土遺物
PL93	2016-1調査 出土遺物	PL105 2016-1調査 出土遺物
1.	1327方形周溝墓出土遺物	1. 1632土坑出土遺物
2.	1327方形周溝墓出土遺物	PL106 2016-1調査 出土遺物
PL94	2016-1調査 出土遺物	1. 1632土坑出土遺物
1.	1327方形周溝墓出土遺物	2. 1632土坑出土遺物
2.	1328方形周溝墓出土遺物	PL107 2016-1調査 出土遺物
PL95	2016-1調査 出土遺物	1. 1632土坑出土遺物
1.	1328方形周溝墓出土遺物	2. 2210土坑出土遺物
2.	1328方形周溝墓出土遺物	PL108 2016-1調査 出土遺物
PL96	2016-1調査 出土遺物	1. 287溝・880溝・1414土坑出土遺物
1.	1328方形周溝墓出土遺物	PL109 2016-1調査 出土遺物
2.	1328方形周溝墓出土遺物	1. 2210土坑出土遺物
PL97	2016-1調査 出土遺物	2. 287溝出土遺物
1.	1328方形周溝墓出土遺物	PL110 2016-1調査 出土遺物
2.	1328方形周溝墓出土遺物	1. 287溝出土遺物
PL98	2016-1調査 出土遺物	2. 287溝出土遺物
1.	1328方形周溝墓出土遺物	PL111 2016-1調査 出土遺物
2.	1328方形周溝墓・903溝出土遺物	1. 287溝出土遺物
PL99	2016-1調査 出土遺物	2. 287溝出土遺物
1.	457土坑出土遺物	PL112 2016-1調査 出土遺物
2.	385土坑・468土坑出土遺物	1. 287溝出土遺物
PL100	2016-1調査 出土遺物	2. 288溝出土遺物
1.	415溝出土遺物	PL113 2016-1調査 出土遺物
2.	1629土坑・1666土坑・1920土坑・	1. 288溝出土遺物
	2360土坑出土遺物	2. 607溝出土遺物
PL101	2016-1調査 出土遺物	PL114 2016-1調査 出土遺物
1.	48土坑・770土坑・1632土坑・	1. 607溝出土遺物
	1700土坑出土遺物	2. 880溝出土遺物

PL115 2016-1調査 出土遺物	1. 1444溝・1320方形周溝墓出土遺物	PL127 2016-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物
	2. 1444溝出土遺物		2. 包含層出土遺物
PL116 2016-1調査 出土遺物	1. 1444溝・1320方形周溝墓出土遺物	PL128 2016-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物
	2. 1320方形周溝墓出土遺物		2. 包含層出土遺物
PL117 2016-1調査 出土遺物	1. 1320方形周溝墓出土遺物	PL129 2016-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物
	2. 1320方形周溝墓出土遺物		2. 包含層出土遺物
PL118 2016-1調査 出土遺物	1. 406土器棺墓・1036土器棺墓・ 1325竪穴建物・9ピット・128溝・ 2050溝出土遺物	PL130 2016-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物
			2. 包含層出土遺物
PL119 2016-1調査 出土遺物	1. 1320方形周溝墓出土遺物	PL131 2016-1・2017-1調査 出土遺物	1. 包含層・5溝・6溝・10溝・11溝出土遺物
	2. 1325竪穴建物出土遺物		
PL120 2016-1調査 出土遺物	1. 112ピット・118ピット・188ピット・ 990ピット出土遺物	PL132 2017-1調査 出土遺物	1. 6溝出土遺物
	2. 174ピット・352ピット・907ピット・ 470溝・534溝・933土坑出土遺物		2. 11溝出土遺物
PL121 2016-1調査 出土遺物	1. 471溝・588溝出土遺物	PL133 2017-1調査 出土遺物	1. 10溝出土遺物
	2. 1321掘立柱建物・1322掘立柱建物・ 2643掘立柱建物出土遺物		2. 包含層出土遺物
PL122 2016-1調査 出土遺物	1. 2200土坑・588溝・包含層出土遺物	PL134 2017-1調査 出土遺物	1. 10溝・18土器棺墓・包含層出土遺物
PL123 2016-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物	PL135 2017-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物
	2. 包含層出土遺物		2. 包含層出土遺物
PL124 2016-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物	PL136 2017-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物
	2. 包含層出土遺物		2. 包含層出土遺物
PL125 2016-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物	PL137 2017-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物
	2. 包含層出土遺物		
PL126 2016-1調査 出土遺物	1. 包含層出土遺物		
	2. 包含層出土遺物		

# 第Ⅰ章 本書作成の経緯

## 第1節 既往調査の概要

中河原遺跡は、上郡一丁目・郡四丁目・五丁目にかけて所在する弥生時代～中世の複合遺跡である。昭和53年度に実施された試掘調査によって埋蔵文化財包蔵地として周知され、令和4年度時点で、東西320m、南北400mの範囲に及ぶ。ただし、西側及び南側は郡遺跡と接しており、埋蔵文化財の分布は上記の範囲に留まるものではない。

本書に所収した中河原遺跡に関する調査は12件である（表1）。この中には調査当時の遺跡名称と現在の周知の埋蔵文化財包蔵地における遺跡名に齟齬をきたしているものが含まれるが（図1）、当該調査の内容及び周辺の調査事例を検討した結果、遺構・遺物の評価を行なうにあたっては本書で取り扱うことが適切と判断できたことから、中河原遺跡の一部として報告している。

令和4年度時点では、遺跡を南北に縱断する国道171号線の西側での調査が多く、東側では少ない。

## 第2節 本書作成の経過と編集方針

本書の作成にあたっては、2019年度・2020年度に遺物実測およびトレイス作業の業務委託を行った。

その後、2020年度から2022年度にかけて、各調査の実測原図・写真資料の抽出・整理、および遺構図のトレイス、図面・写真的版組、原稿の執筆・編集といった作業を実施した。2022年度に印刷・製本作業を実施し、業務を完了した。

先述のとおり、本書はこれまでの中河原遺跡における発掘調査全件を対象とするが、2016年度・2017年度調査以外の調査担当者は既に退職している。これらについては、茨木市教育委員会が保管する記録等を基にして報告する。なお、表1に示すように、一部ではあるが、概要報告書を刊行している調査もある。本書はこれらの概要報告書を参考にしたが、内容に著しく齟齬をきたす場合については、総合的に勘案した上で変更を加えた。

今回報告する調査の内、2016-1・2017-1調査については、近畿弥生の会での事例報告〔高村2018〕、大阪府立近つ飛鳥博物館での展示・調査報告会〔高村2019〕で速報的に調査成果を報告して

表1 中河原遺跡調査一覧表

番号	調査年度	調査番号	所在地	調査原因	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	調査担当者	既刊報・備考
1	1978	1978-1	郡四丁目	倉庫建設	80	1979.2.2~3.7	宮崎 勲	
2	1980	1980-2	郡四丁目	倉庫建設	350	1980.12.22~1981.2.10	宮崎 勲	
3	1985	1985-1	上郡一丁目	倉庫建設	180	1985.4.1~4.30	宮崎 勲	
4	1990	1990-1	上郡一丁目	倉庫建設	250	1990.10.1~11.15	酒野邦一	「平成3年度発掘調査概報」
5	1992	1992-1	郡三丁目	共同住宅建設	45	1992.7.10~7.22	中重正之	現在は郡道跡の範囲内
6	1992	1992-2	郡五丁目	共同住宅建設	53	1992.7.10~7.30	中重正之	
7	1992	1992-3	郡三丁目	共同住宅建設	33	1993.1.25~1.29	中重正之	現在は郡道跡の範囲内
8	1997	1997-1	郡五丁目	共同住宅建設	330	1997.5.28~6.21	中重正之	
9	2001	2001-1	上郡一丁目	倉庫建設	203	2001.4.13~4.28	宮崎 勲	「平成13年度発掘調査概報」
10	2007	2007-1	郡四丁目	油水分离槽設置	11.6	2008.2.6~2.8	宮本賢治	「平成20年度発掘調査概報」
11	2016	2016-1	郡四丁目	倉庫建設	571.5	2016.7.12~2017.11.9	宮本卓見	A区
					4.471		高村勇士 永久保洋子	B・C・D区
12	2017	2017-1	郡四丁目	防水水槽設置	79.5	2017.6.27~11.9	高村勇士 永久保洋子	

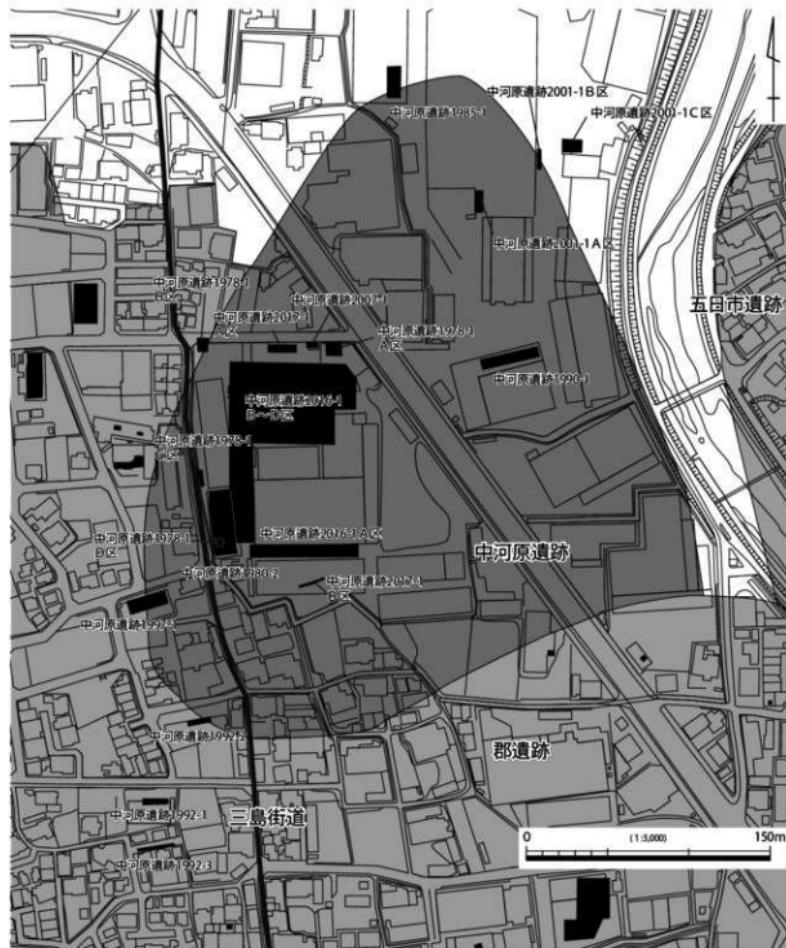


図1 調査区位位置図

いる。また、同じく2016-1調査(D区)で出土した絵画土器については、2018年3月に報道提供を行い、茨木市立文化財資料館において速報展示を行った（掘りたてホヤホヤ発掘速報展いばらき2017会期：2018年3月28日～6月25日）。その後、高精細デジタル写真を基にして、資料紹介をかねて『茨木市立文化財資料館 館報』第4号において詳細な報告を行っている〔高村・川村2019〕。

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

中河原遺跡の所在する茨木市域は、北東—南西に向かって走る有馬高槻構造線によって、大きく南北二つに区分される。北部は更に馬場断層と箕面断層によって三つに区分されるが、概ね標高 300 m 前後の秩父古生層系の岩石により構成される北摂山地と、そこから派生する丘陵部からなる。

中河原遺跡の北側で、千里丘陵の北側を東へ向かって流れる勝尾寺川と、北摂山地に端を発し、南へ向かって流れる佐保川が合流し、茨木川となって市の中心部を流れていた。現在の茨木川は、安威川に合流しており、旧流路の大部分は緑地として、その名残を留めている。

中河原遺跡は市域の南部の千里丘陵の北東端から茨木川の形成した扇状地にかけて立地している。



### 第2節 歴史的環境

中河原遺跡周辺では、旧石器時代から人々の活動痕跡が認められる。

旧石器時代には、郡遺跡・新庄遺跡・見付山東遺跡などでナイフ形石器・舟底形石器などの石器が出土している。ただし、いずれも遊離した単独出土のもので、遺構の確認には至っていない。

縄文時代には、草創期の有茎尖頭器が山間部の千提寺南遺跡や平野部の中条小学校遺跡・新庄遺跡などで単独出土している。また、早期から中期にかけては、市域北部の山間部から丘陵部を中心として土器を中心とする遺物が出土している。一方、平野部では東奈良遺跡で前期の大歳山式土器が出土しているのが、漁撈の開始との関係から注目される〔大野 1997〕。

晩期には、平野部においても各所で遺物が確認されるようになる。特に耳原遺跡では篠原式と長原式の土器棺墓・五日市東遺跡では長原式の堅果類を詰めた深鉢などが確認されている。

弥生時代には、多くの集落が平野部に認められるようになる。前期には、東奈良遺跡・新庄遺跡・耳原遺跡などがある。

中期になると集落が大規模化ていき、東奈良遺跡では大規模な環濠や多数の方形周溝墓が確認され、遺跡の各所から膨大な量の遺物が出土している。また、郡遺跡・倍賀遺跡などでも多数の方形周溝墓や建物跡が確認されるなどしておらず、市内に複数の集落が分布していたことが窺える。

特に東奈良遺跡では、銅鐸・銅戈の鋳型や送風管、ガラス勾玉の鋳型などの鋳造関係遺物の出土により、青銅器やガラスの製造が行われていたことが判明している。

後期には引き続き東奈良遺跡が存続するほか、東奈良遺跡の北側に接する中条小学校遺跡においても遺構・遺物の分布が認められ、土地利用状況の変遷が窺える。また、郡遺跡や中条小学校遺跡などにお

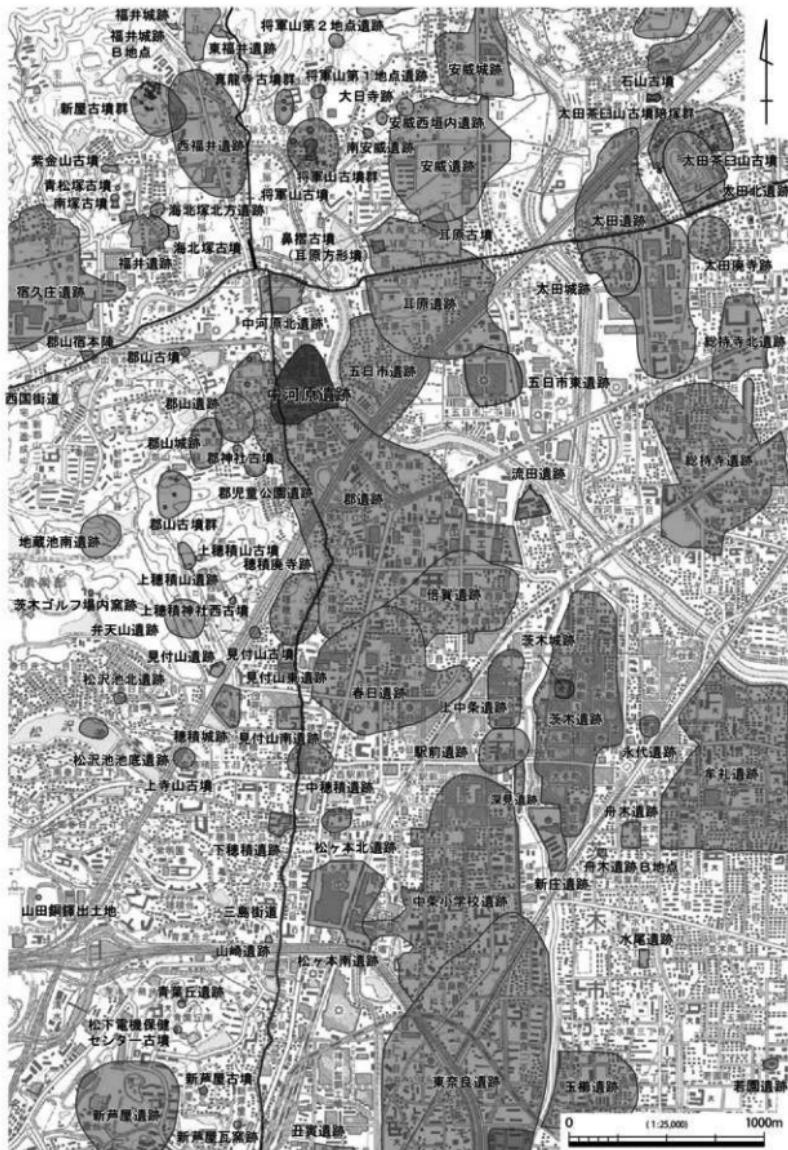


図3 周辺遺跡分布図

いて弥生時代後期から古墳時代前期にかけての円形周溝墓が確認されている。

古墳時代には、多くの古墳が築造されており、前期は紫金山古墳・中期は太田茶臼山古墳・石山古墳のほか、西福井遺跡・太田遺跡・総持寺遺跡・中条小学校遺跡・春日遺跡・郡遺跡などで古墳群が確認されている。後期には、単独墳である南塚古墳・青松塚古墳・海北塚古墳・耳原古墳、群集墳である新屋古墳群などがある。

集落は、安威遺跡・宿久庄遺跡・総持寺遺跡・中条小学校遺跡などで前期・福井遺跡で後期後半の集落がそれぞれ確認されている。その他、西福井遺跡で前期の遺物・宿久庄遺跡で中期・後期の遺物が出土している。

飛鳥時代には、太田廃寺跡で塔心礎と舍利容器が出土している。穗積廃寺跡でも瓦が出土したことにより寺院の存在が推定されている〔茨木市 2012〕。そのほか総持寺遺跡・中条小学校遺跡などで掘立柱建物が検出されている。

律令制下では、現在の茨木市域は島下郡に属しており、新屋・宿久・安威・穂積の4郷の存在が知られる〔註1〕。宿久庄遺跡・中穂積遺跡・郡遺跡・耳原遺跡・総持寺遺跡などで遺構・遺物が出土している。島下郡衙の所在地として郡や郡山付近が想定されてきた〔藤岡 1960・茨木市 2012〕が、確証を得るには至っていない。また、島下郡内に所在した「殖村駅」〔註2〕についても、近世の西国街道が踏襲した「山陽道」（平城京から山陽道諸国への通路）沿いに位置したと考えられるが、遺構の確認には至っていない。

山陽道の他に、市内を南北に縱断する「三嶋路（三島道）」がある。この道は、中河原遺跡の近辺を通っていたと想定されており〔足利 1985〕、天平十六年（744年）に聖武天皇が難波宮から紫香楽宮へ行幸する際〔註3〕や元慶五年（881年）に伊勢内親王が伊勢神宮から退下して解除を行った難波から平安京へ帰京する際〔註4〕に通ったことが知られる。

平安時代には、郡遺跡・下穂積遺跡・太田遺跡・新庄遺跡・中条小学校遺跡などで遺構・遺物が確認されており、市内各地に集落が所在したようである。

鎌倉時代から室町時代には、玉櫛遺跡・宿久庄遺跡・郡遺跡などで、集落が確認されている。特に玉櫛遺跡や宿久庄遺跡では、多くの遺物が出土しており、玉櫛遺跡出土の黄釉鉄絵盤などの一般的な集落では出土しない遺物も認められることから、流通の拠点や荘園の中核施設であった可能性も考えられる〔大阪府文化財センター 2003〕。

室町時代末期には、中河原遺跡周辺はたびたび戦場となった。天文十七年（1548年）に中河原遺跡西方の丘陵上に「郡山堂」が建立され〔註5〕、寺内町が形成された〔中西 2015〕が、永禄十一年（1568年）には足利義昭に従って上洛した織田信長によって破壊された〔註6〕。また、元亀二年（1571年）に起こった郡山合戦（白井河原合戦）時には、中河原遺跡周辺にも戦火が広がったと想定される〔註7〕。このほか、天正六年（1578年）には織田信長が茨木城・高槻城攻略のために、中河原遺跡西方の郡山に本陣を置くなどした〔註8〕。

江戸時代に入ると、茨木城は元和元年（1615年）の大坂夏の陣の後に廃城となり〔註9〕、城跡周辺は茨木在郷町となった。また、西国街道沿いに郡山宿が設けられた。郡山宿本陣は現存しており、国史跡に指定されている。

中河原遺跡とは重なるものではないが、中川原村は17世紀前半には内藤氏、中頃には板倉氏、後半には阿部氏と領主の変更が頻繁に行われ、幕末には一橋蒲原領となっている。

明治二十二年（1889年）には郡・郡山・上野・五日市・畑田・倍賀・上穂積・中穂積・下穂積・奈良の各村が合併し、春日村となる。更に昭和二十三年（1948年）に春日村・茨木町・三島村・玉櫛村が合併し茨木市が発足し、現在に至っている。

註

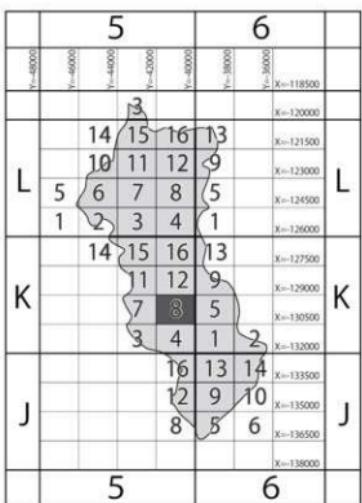
- 註1 「和名類聚抄」国郡部
- 註2 「続日本紀」和銅四年（711年）正月丁未条
- 註3 「続日本紀」天平十六年（744年）三月戊午条
- 註4 「日本三代実録」元慶五年（881年）正月十九日条
- 註5 「天文日記」天文十七年（1548年）三月廿二日条
- 註6 「言繼卿記」永禄十一年（1568年）九月卅日条
- 註7 「大日本史料」第十編之六「尋憲記」元龜二年（1571年）八月二十九日条
- 註8 「信長公記」卷十一「荒木摂津守逆心を企て並びに伴天連の事」
- 註9 「豊田 2007」において、大阪冬の陣の後に破却された可能性も指摘されている。  
『譜牒餘錄』38（『大日本史料』第十二編之十七 慶長十九年（1614年）十二月二十一日の項に所収）

### 第Ⅲ章 調査の方法

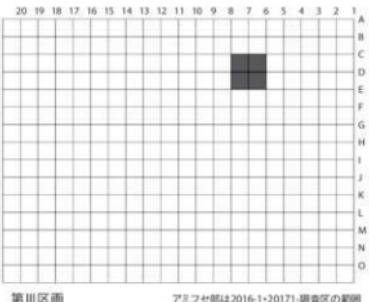
本書に所収した調査は、1978年から2017年にかけての長期間に及んでいる。その間、表土・盛土の機械掘削、遺物包含層及び遺構の人力掘削、図面及び写真による記録作成という基本的な手順に変化はないが、調査に使用する機材等は、時期によって変化している。そのため、全ての調査について一律の調査精度に基づく記録が残されている訳ではない。

茨木市においては、2017年度以降、国土座標に基づく地区割を導入しており、図4のように世界測地系（第VI系）に基づく10m四方のグリッドによって調査地点を管理している。これは、大阪府文化財センターが府下の調査において用いているもので、市内での既往の調査成果との位置関係を把握する上でも極めて有効なものといえる。本書所収の調査では、2016-1調査（第IV章第12・13節）、2017-1調査（第IV章第14節）でこの地区割を用いて調査を実施した。

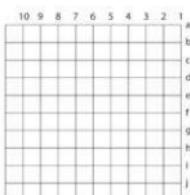
また、2016-1・2017-1調査区においては、空中写真測量も実施している。



第Ⅰ・Ⅱ区画



第Ⅲ区画



第Ⅳ区画 (出土名→表土(次第)のポイント)

図4 地区割図

## 第IV章 調査の成果

### 第1節 報告にあたって

本章において、各調査区の調査成果を調査年度順に報告する。これに先立って、同一敷地内で行われた調査である 1978-1 (第2節)、1980-2 (第3節)、2007-1 (第11節)、2016-1 (第12・13節)、

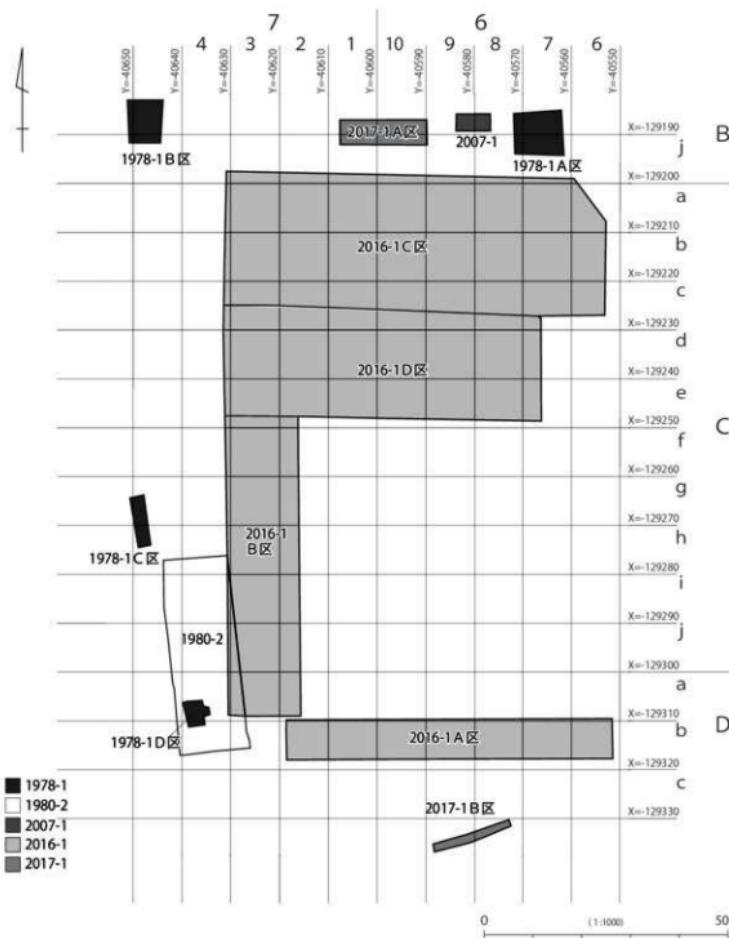


図5 1978-1・1980-2・2007-1・2016-1・2017-1 調査区配置図

2017-1（第14節）の各調査の位置関係について記すと共に、本書で報告する出土遺物の主体となる弥生時代中期の土器についての記述方法を示す。

### 調査区の位置関係

1978-1、1980-2、2007-1、2016-1、2017-1の各調査区の位置関係は図5に示す通りである（図5の外側のゴシック体で記した文字は、図4の地区割図と一致する）。大半の調査区は重複していないが、1978-1（D区）のみ1980-2調査区内に含まれている。また、1980-2調査区の東側と2016-1調査（B区）の西側とは一部が重複している。なお、2016-1調査のA・B・D区に囲まれた範囲は調査を行っていないが、これは既存の建物によって既に損壊されていることを確認したためである。

### 弥生土器の記述方法

出土した弥生土器はほぼ全ての分量を、中期の土器が占めている。その量は膨大であるが、全体の形状が判明するものは少なく、口縁部と底部の破片が大部分を占めている。記述をなるべく簡潔にするために、各器種の口縁部及び高杯・器台といった台付土器の脚裾部形状について図6のように分類した。

これまで、茨木市内では、東奈良遺跡での分類が示されている〔東奈良遺跡調査会1979〕。しかし、そこに示された分類は完形の土器を主体としており、破片資料が主体である本遺跡においてはその分類を利用しがたいことから、改めて分類を行った。

なお、今回提示しているのは、あくまでも当遺跡における口縁部形態に基づく分類であり、器形との相関関係を念頭においたものではない。以下各分類の基準を記す。

#### 広口壺形土器

- A 口縁部が下方に垂下するもの。明瞭に屈曲しているものをA 1、なだらかに垂下しているものをA 2とする。
- B 口縁端部を上下に拡張して、面を成すもの。
- C 口縁端部を下方に拡張して、面を成すもの。
- D 口縁端部を上方に拡張して、面を成すもの。
- E 外反した口縁部が屈折して立ち上がるもの。緩やかに屈曲しているものをE 1、明瞭な角をもって立ち上がるものをE 2とする。
- F 口縁端部が面を成すもの。
- G 口縁端部を丸く収めるもの。
- H 口縁端部を上下に拡張し、受口状に段をつくるもの（河内地方の系統と考えられる）。
- I 口縁端部が上方に断面三角形状を呈して立ち上がるもの。

#### 甕形土器

- A 口縁端部が上方に立ち上がり、断面三角形状を呈するもの。
- B 口縁端部が上方に立ち上がり、受け口状を呈するもの。
- C 口縁端部を上下に拡張し、面を成すもの。
- D 口縁端部が面を成すもの。
- E 口縁端部を丸く収めるもの。

#### 鉢形土器

- A 口縁端部が外反するもの。
- B 口縁端部が直行するもの。
- C 口縁部外面に段を有するもの。

#### 高杯形土器

- A 杯部上端に突帯を巡らせ、口縁部が水平に伸びるもの。水平に伸びて終わるものをA 1、水平に伸

## 広口壺

A 1 (明瞭に垂下)	A 2 (なだらかに垂下)	B (上下に拡張して面を成す)	C (下方に拡張して面を成す)
64	1074	108	1592
D (上方に拡張して面を成す)	E 1 (緩やかに屈折して立ち上がる)	E 2 (明瞭に屈折して立ち上がる)	F (端部が面を成す)
262	1083	1087	766
G (端部を丸く收める)	H (上下に拡張し受口状に段をもつ)	I (断面三角形状に拡張する)	
6	198	193	

## 甕

A (三角形状)	B (受け口状)	C (上下に拡張する)	D (端部が面を成す)	E (端部を丸く收める)
71	272	1600	491	13

## 鉢

A (外反する)	B (直行する)	C (段をもつ)
1178	1177	73

## 高杯

A 1 (水平に伸びる)	A 2 (垂下する)	B (椀状を呈する)
1106	302	1605

## 脚基部

A (上方に拡張)	B (上下に拡張)	C (端部が面を成す)	D (端部を丸く收める)
1281	112	1182	1505

各分類に記した番号は、  
報告中の遺物番号と同じである。

図6 中河原遺跡出土弥生土器形態分類図

- びて、垂下するものをA2とする。
- B 杯部が椀状を呈するもの。
- 脚裾部
- A 裙端部が上方に拡張して、面を成すもの。
  - B 裙端部が下方に拡張して、面を成すもの。
  - C 裙端部は拡張しないが、面を成すもの。
  - D 裙端部を丸く取めるもの。

次節以下において、弥生時代中期の土器を記述する際には、「壺形土器」は「壺」と表記するなど、「～形土器」は省略する。また口縁部形態等については、「口縁部形態はA」というように上記分類を用いて記述する。

## 第2節 1978-1 調査

### (1) はじめに

郡四丁目で計画された倉庫建設に伴って行われた確認調査である。中河原遺跡が埋蔵文化財包蔵地として周知される契機となった調査である。

調査は、図5に示すように敷地の北東隅（A区・東西10m×南北8.2m、調査面積：82m<sup>2</sup>）、北西隅（B区・東西7m×南北9m、調査面積：63m<sup>2</sup>）、西辺中央（C区・東西3m×南北10.2m、調査面積：30.6m<sup>2</sup>）、南西端（D区・東西3.5m×南北5m、一部拡張したため調査面積：19.5m<sup>2</sup>）の4箇所を設定して行い、いずれの調査区からも遺構・遺物を確認した。

A区・B区間では、後に2007-1調査区（第11節）と2017-1調査（A区）（第14節）を行っており、またD区は次節で報告する1980-2調査区内に位置する。C区は建物と敷地外周の堀の間に設定されたことから、南北に細長い調査区となっている（PL 2-1）。

### (2) 基本層序

基本層序は原図などの記録が確認できなかったため不明である。しかし、前述したような調査区の位置関係であるため、近接する他の調査区（図68・95～97・228）と大きくは異ならないと判断される。

### (3) 遺構（図7・8、PL 1・2）

各調査区において遺構を検出した。遺構出土遺物から、弥生時代と中世の遺構が存在することが窺える。また包含層からは古墳時代の遺物も出土した。

A区（図7） 溝3条、土坑4基、ピット14基を検出した。溝1以外は、その性格を推定することができない。

溝 3条の溝の内、溝1は調査区南側を東西方向に延び、東側で南へ屈曲する溝である。東西長約6.0m、南北長0.9m、幅0.55～1.2m、深さ0.5mを測る。

この溝1は、『平成3年度発掘調査概報』第2章「中河原遺跡の発掘調査」で既往の調査例を述べる中で、方形周溝墓としている（茨木市教育委員会1992）。2016-1調査（C区）の成果（第13節）から推定される方形周溝墓の分布域から判断しても、その可能性は十分に考えられる。

溝1内の西側では、弥生土器甕（図9-15）が横向きの押し潰された状態で出土した（PL 1-1・2）。遺物の年代から弥生時代中期前葉～中葉の遺構と考えられる。溝1が方形周溝墓であった場合、出土した甕は供獻土器や土器棺などの可能性がある。

土坑 4基検出した。いずれも平面形状が長楕円形を呈し、長さ1m程度、深さ0.05～0.4mを測る。

ピット 15基を検出した。いずれも平面形状が概ね円形～楕円形を呈し、直径0.25～0.5m、深さ0.2

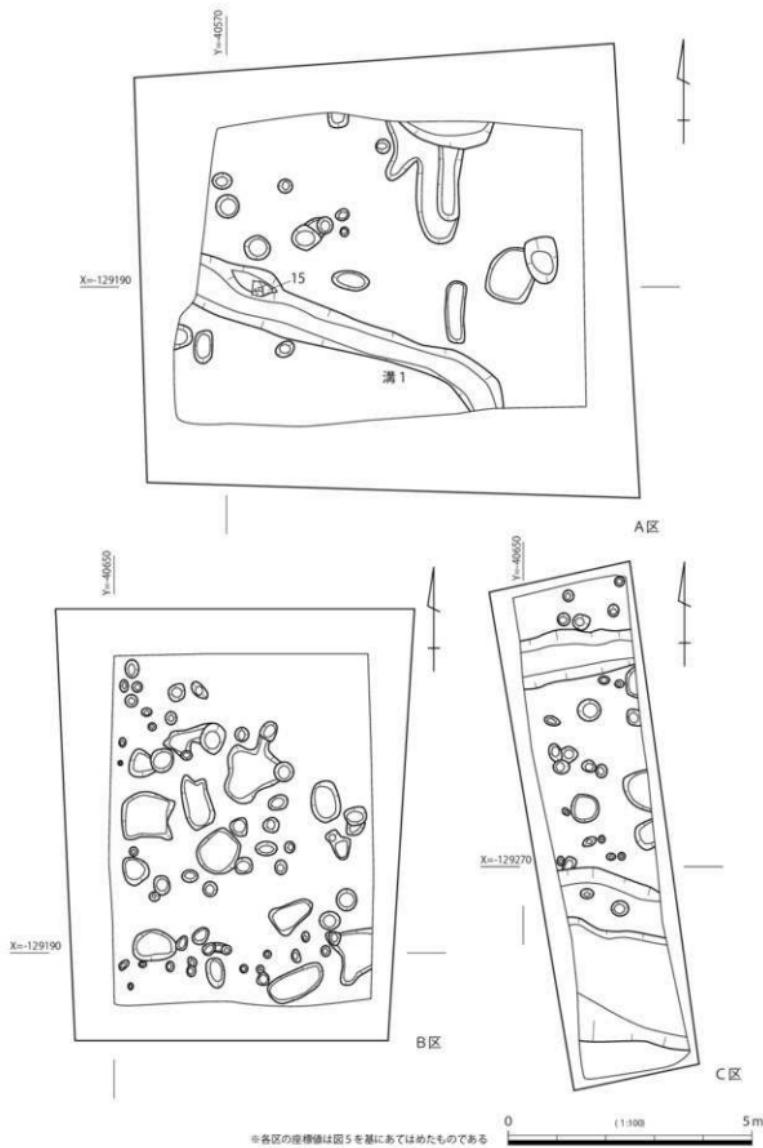


図7 1978-1調査 A・B・C区平面図

~0.3mを測る。

B区（図7、PL.1-3） 土坑10基、ピット56基を検出した。いずれも性格は不明である。

土坑 平面形状が長楕円形のものと不定形な形状のものとが認められる。長径0.8~1.2m程度で、深さ0.1~0.2mを測る。

ピット いずれも平面形状がほぼ円形を呈し、直径0.3m~0.5m、深さ0.15~0.35mを測る。掘立柱建物などを構成するものは検出できていない。

C区（図7） 溝2条、土坑3基、ピット25基を検出した。いずれも性格は不明である。

溝 2条の溝は、共に東西方向に延び、北側の溝は幅0.8~1.1m、深さ0.3mを測る。南側の溝は幅3.5m、深さ0.4mを測る。北側にテラス状の段が認められる。

南側の溝は、2016-1調査（第13節）で報告する1360溝（図167）の西側延長線上に位置している。1360溝は幅は1.4mとやや狭いが、テラス状の段が認められることや、深さ0.35mを測る点が共通しており、同一の溝である可能性も考えられる。その場合、遺構が機能した時期は中世と考えられる。

土坑 2基は部分的な検出に留まっているが、平面形状は概ね円形~楕円形を呈すると考えられる。深さ0.1~0.2mを測る。全体を検出している1基は、平面形状が隅丸方形を呈し、一边0.6m、深さ0.5mを測る。

ピット いずれも平面形状が円形を呈し、直径0.2~0.3m、深さ0.2~0.3mを測る。掘立柱建物などを構成するものは検出できていない。

D区（図8） 井戸1基、土坑1基、ピット2基を検出した。井戸以外の性格は不明である。

井戸1 平面形状は円形を呈し、長径2.0m、短径1.7m、深さ1.0mを測る。井戸枠は検出されていないようであり、埋め戻す際に井戸枠を抜いたのか、素掘りの井戸であったと思われる。遺物は11~13世紀にかけての土師器・黒色土器・瓦器・瓦質土器が出土した。遺物出土状況（PL.2-3）から判断すると、完形の瓦器碗（図11-44・45）が壁際から出土している。瓦器碗の年代は12世紀前半と判断されるが、出土した土師器皿（図11-20~31）および黒色土器（図11-37）の年代は11世紀代と判断される。存続期間がやや長い気もするが、11世紀代に構築された井戸が12世紀前半に廃絶したものと考えておく。13世紀代の遺物は井戸埋没後に堆積したものであろうか。

土坑 平面形状が長楕円形を呈し、長径1.0m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。

ピット 円形~長楕円形を呈する。直径0.5~0.8m、深さ0.2mを測る。ピット1から弥生土器・土師器・瓦器が出土したが、いずれのピットから出土したかは現状では不明である。

#### (4) 遺物（図9~17、PL.38~43）

A区 溝1出土遺物（図9・10-1~19） 溝1からは、弥生土器・石器及び中世の土師器・瓦器が出土した。主体となるのは弥生時代中期前葉~中葉の遺物である。中世の遺物は磨滅が著しいことから、混入と考えられる。

1は土師器皿である。口縁部は摘み上げる。口径から判断して12世紀後半~13世紀頃であろう。2は黒色土器A類椀である。「ハ」字状に開く高台部が残存する。3は瓦器碗である。高台は断面三角形状を呈する。1~3はいずれも磨滅が著しく、調整は不明である。

4~6は弥生土器壺である。4は細頸壺である。緩やかに外方へ開く口縁部をもつ。外面に櫛描波状

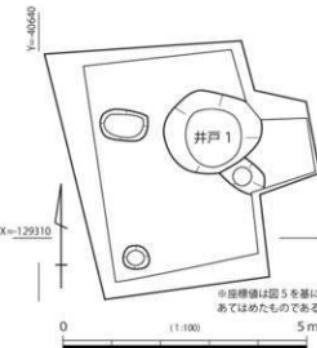


図8 1978-1調査 D区平面図

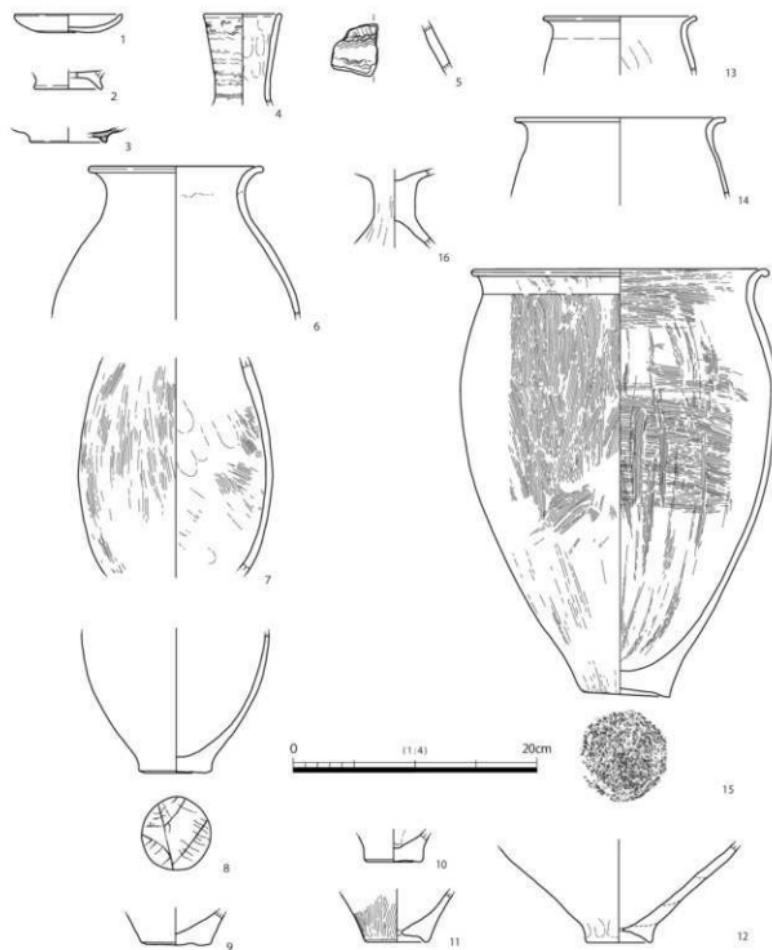


図9 1978-1調査 A区溝1出土遺物実測図(1)

文を施す。内面に指頭圧痕が認められる。5は体部片である。外面に櫛描波状文を施す。6は広口壺である。口縁部形態はGである。

7は摺津型水差の体部片と考えられる。胸部最大径が体部中位から下位に位置する。内外面にハケ、内面にナデを施す。外面に煤が付着する。

8～12は底部である。8～10はいずれも平底を呈し、中央がわずかに窪む。8は底面に木葉痕が認められる。10は内面に板ナデを施す。11は底部中央が窪み、高台状となっている。中央に直径0.4cmの円孔を穿つ。外面にハケを施す。12は底部中央が大きく窪むが、これはこの部分の粘土が剥落した

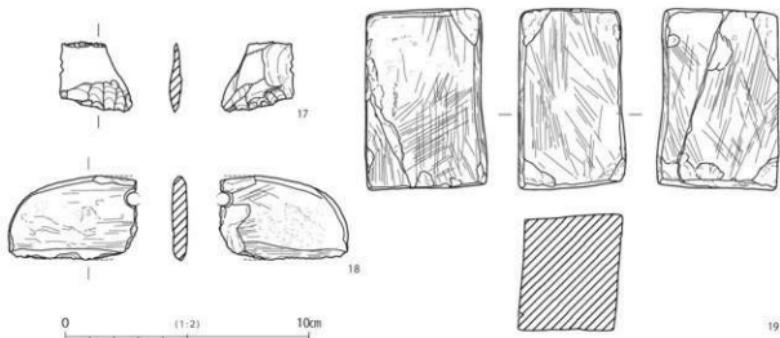


図 10 1978-1 調査 A 区溝 1 出土遺物実測図 (2)

ためと考えられる。外面に指頭圧痕が認められる。

13～15は甕である。いずれも口縁部形態はEである。13は内面にナデを施す。15はほぼ完形である。外面上半及び内面にハケ、外面下半にミガキを施す。底面中央がやや窪み、木葉痕が認められる。

16は高杯である。脚柱部は中実である。外面にハケ後ミガキを施す。

17は二次加工のある剥片である。長さ2.8cm、幅3.0cm、厚さ0.5cmを測り、重量3.7gを量る。図の下側に刃部を形成する。石材はサヌカイトである。

18は磨製石包丁である。平面形は直線刃半月形を呈する。組孔（直径0.5cm）は1個が半分程残存する。残存長5.3cm、幅3.5cm、厚さ0.6cmを測り、重量は17.8gを量る。石材は粘板岩である。

19は砥石である。四面全てに使用痕が認められる。長さ7.45cm、幅5.0cm、厚さ4.4cmを測り、重量は281.0gを量る。石材は砂岩である。

D区 井戸1出土遺物（図11・12-20～50） 土師器・黒色土器・瓦器・瓦質土器が出土している。

主体となるのは、11世紀代～12世紀代であるが、13世紀代のものも認められる。遺物の年代幅が広いが、遺構の項で述べたように、11世紀代に構築されたものが12世紀前半に廃絶したと考えられるため、時期の下る13世紀代の土器は井戸の廃絶後に残っていた窪みに埋まつたものか、この時期の遺構が井戸を切って構築されていた可能性が考えられる。

20～35は土師器皿である。口縁部が外方へ開くもの（20～25）、口縁部下に強くナデを施すもの（31・34・35）、口縁部が直立するもの（30・33）などがある。26は内外面に煤が付着する。

口縁部の形態及び口径から、20～31は11世紀代、32～35は12世紀代の所産と判断される。

36・37は黒色土器A類椀である。共に断面三角形状の高台をもつ。36は磨滅が著しく調整は不明であるが、37は内面にミガキを施す。

38は瓦器皿である。内面に密なミガキを施し、見込みにジグザグ状の暗文を施す。

39～49は瓦器椀である。全て和泉型である。48・49はⅢ-3期～Ⅳ-1期頃（13世紀前半）、それ以外はⅡ-1期～Ⅱ-2期頃（12世紀前半）と考えられる。

39～47は、高台の形状は断面台形状を呈するもの（39・40・44）と三角形状を呈するもの（41・43・45～47）が認められる。いずれも外面には指頭圧痕が認められる。41～43・45・46は外面に分割ミガキを施す。内面のミガキは41・42・46は密であるが、その他はやや疎である。見込みの暗文は41が平行線状、43・44が螺旋状、45・46は不定方向である。43は高台内に線刻を施す。

48・49は、共に高台の形状は断面三角形状を呈する。外面に指頭圧痕が認められ、内面見込みに平

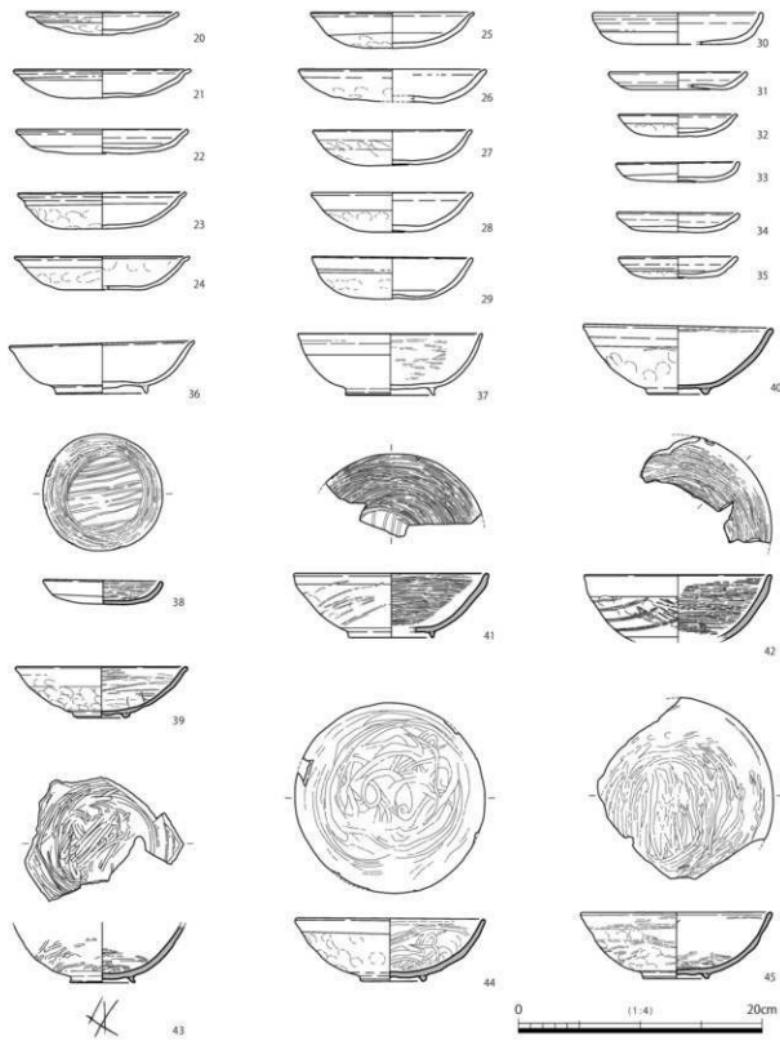


図11 1978-1調査 D区井戸1出土遺物実測図(1)

行線状暗文を施す。

50は瓦質土器三足釜である。ほぼ全体の形状が窺える。短く水平に延びる鰐を持ち、体部最大径は下方に位置する。外面に断面円形脚を三本貼り付ける。13世紀代の所産である。

D区 ピット1出土遺物(図13 51~57) 遺物ラベルに「P 1」と記されているが、D区で検出さ

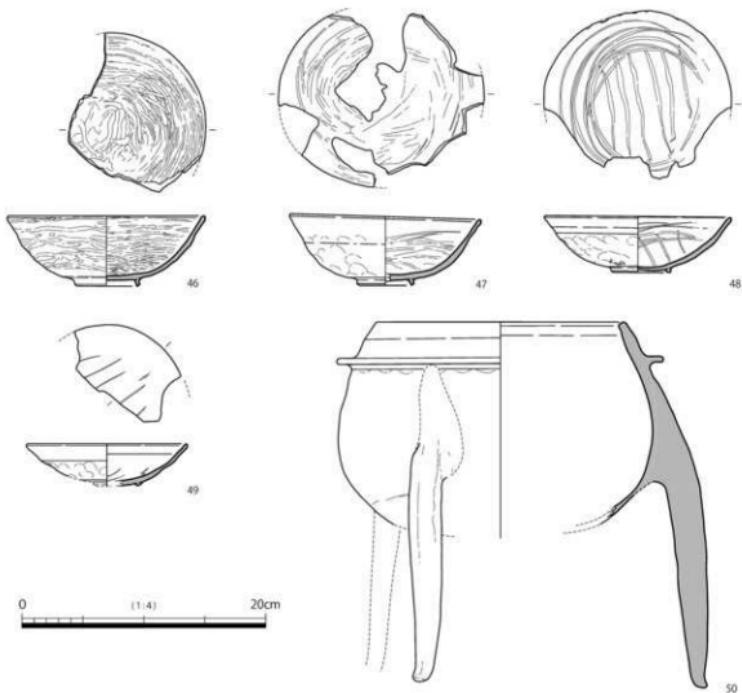


図12 1978-1調査 D区井戸1出土遺物実測図(2)

れた遺構のどちらに該当するものかは不明である。

51は弥生土器壺である。頸部の破片であり、指頭圧痕突帯をもつ。

52・53は土師器皿である。共に口縁部を丸く收める。口径から判断すると、12世紀前半に位置付けられるであろう。

54は瓦器皿である。口縁部は緩やかに立ち上がる。外面にミガキ、内面に平行線状暗文を施す。

55は瓦器高台付皿である。底部と口縁部の境界は明瞭である。高台は断面三角形状を呈する。内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。

56・57は瓦器楕である。56は断面台形状の高台をもち、見込みに平行線状暗文を施す。57は断面三角形状の高台をもつ。高台部のみのため、年代は判断しがたい。

#### 包含層出土遺物(図14～17-58～121)

各調査区の包含層中からは、弥生時代・古墳時代・中世の遺物が出土した。

A区(図14-58～61) 弥生土器・須恵器を図示した。

58は弥生土器無頸壺である。内傾する口縁部をもち、端部は丸く收める。59は弥生土器脚部である。脚裾部形態はBである。裾端面に沈線1条を施す。

60・61は須恵器杯蓋である。60は天井部と口縁部の境に稜をもち、口縁部内面に段をもつ。MT15型式であろうか。61は天井部と口縁部の境に稜は認められず、丸みを帯びた天井部をもつ。TK

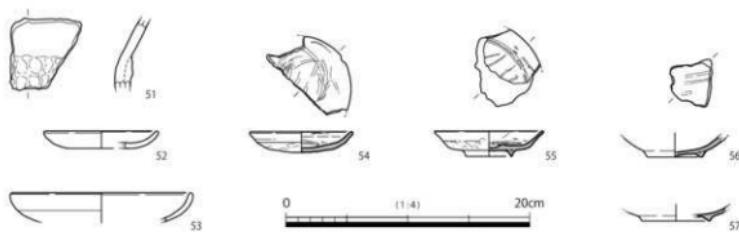


図13 1978-1調査 D区ピット1出土遺物実測図

10型式～TK43型式であろうか。

B区(図14 62～80) 弥生土器・石器・須恵器・埴輪を図示した。

62～73は弥生時代中期の遺物である。74・75の石器は弥生時代に帰属する可能性があるが、詳細な時期は不明である。

62～64は広口壺である。62の口縁部形態はFである。口縁端部外面に刺突文を施す。63の口縁部形態はBである。端面に四線3条、口縁部内面に櫛描列点文を施す。64の口縁部形態はA1である。端面の上下端に凹線を1条ずつ施し、中央に円形浮文を横一列に貼り付ける。

65は壺頸部である。頸部下方に凹線4条を施す。66は体部である。直線文を施し、上部に円形浮文2個が残存する。

67・68は壺口縁部片である。口縁部形態はCである。67は端面に凹線4条を施す。68は外面に凹線6条を施し、凹線上に棒状浮文を貼り付ける。

69は高杯の裾部片である。外面に縱方向の直線文3条が認められ、その下に横方向の刺突文、および直線文を施す。内面にシボリ痕が認められる。

70は底部である。底部中央がわずかに窪み、体部は内側して立ち上がる。

71・72は甕である。71の口縁部形態はAである。内面にハケを施す。内面に煤が付着する。72の口縁部形態はEである。

73は鉢である。口縁部形態はCである。

74は石材が粘板岩であるため、石包丁の破片と判断される。残存長3.9cm、残存幅3.2cm、厚さ0.6cmを測り、重量は11.2gを量る。75はサヌカイトの石核である。長さ6.8cm、幅5.4cm、厚さ2.3cmを測り、重量は64.7gを量る。一部原石の表面が残存している。

76～80は古墳時代の遺物である。須恵器・埴輪を図示した。

76は須恵器杯蓋である。丸みを帯びた天井部をもち、口縁部は外方へひらく。TK10型式～TK43型式に位置づけられるであろうか。

77・78は須恵器杯身である。77は受け部がやや斜め上方に延び、口縁部は直立する。TK10型式MT85号窓段階～TK43型式か。78は受け部が短く水平に延び、口縁部は直立する。TK209型式であろうか。

79は須恵器高杯である。脚柱部の破片で、外面に沈線3条を施す。

80は円筒埴輪である。断面台形状の突帶をもつ。小片のため時期は判断できない。

C区(図15・16-81～107) 弥生土器・石器・土師器・瓦器・磁器・鉄製品を図示した。

81～85は土師器皿である。口縁端部を上方に摘み上げるもの(81・82)と、丸く収めるもの(83～85)がある。口径から判断して、12世紀後半頃と考えられる。

86は瓦器皿である。口縁部は斜め上方に摘み上げる。見込みの暗文は不明である。

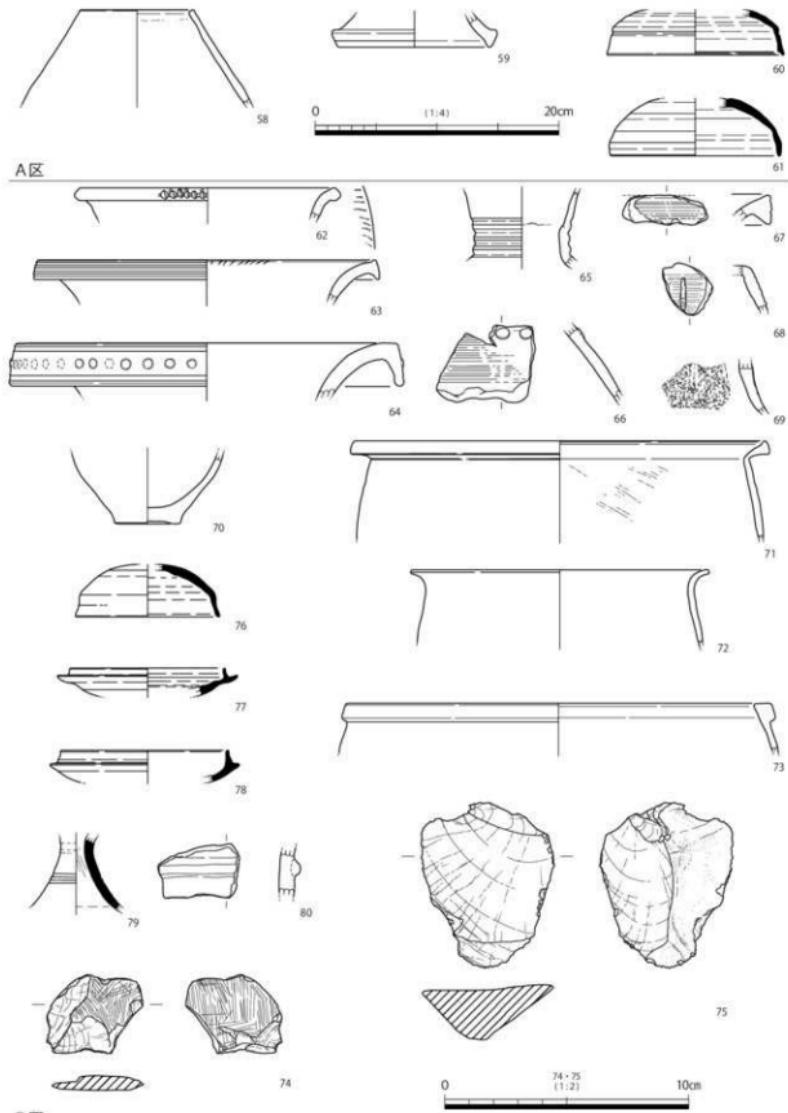


図14 1978-1調査 A・B区包含層出土遺物実測図

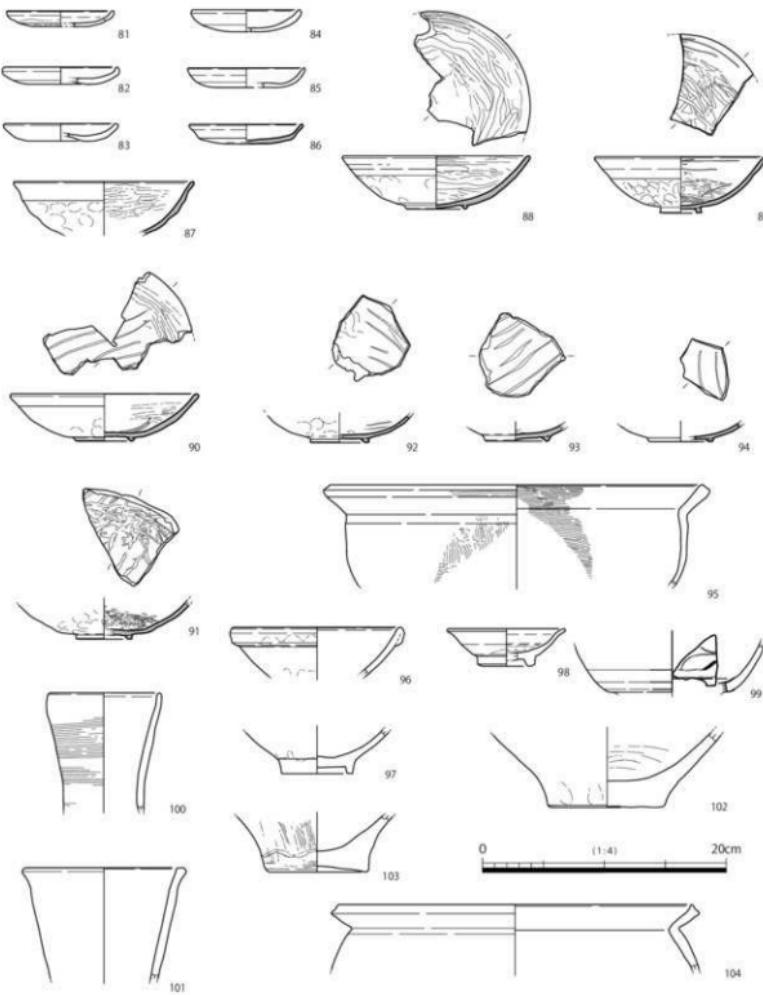


図 15 1978-1 調査 C 区包含層出土遺物実測図 (1)

87～94は瓦器椀である。87～91はいずれも外面に指頭圧痕が認められ、内面にミガキを施す。見込みの暗文は平行線状(90～94)とジグザグ状(89)がある。高台の形状は断面台形状を呈するもの(89・91・92)と断面三角形状を呈するもの(88・90・93・94)がある。いずれも和泉型Ⅲ—2期～Ⅲ—3期頃(13世紀前半)と考えられる。

95は土師器鍋である。口縁部は斜め上方に延び、端部は面を成す。体部内外面及び口縁部内面にハケを施す。

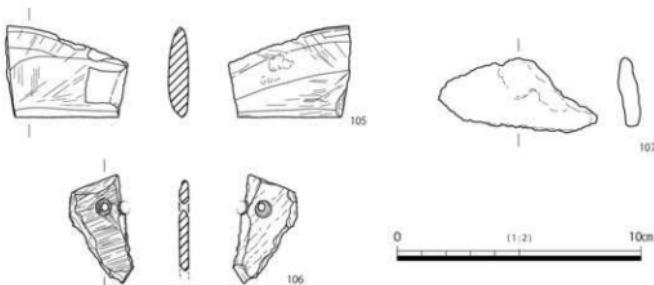


図16 1978-1調査 C区包含層出土遺物実測図(2)

96・97は白磁碗である。96は口縁端部外面に玉縁をもつ。大宰府分類〔太宰府市教育委員会2000〕の白磁碗IV類(11世紀後半～12世紀前半)である。97は断面台形状の高く直立する削り出し高台をもつ。大宰府分類の白磁碗V類(11世紀後半～12世紀前半)か。

98は白磁皿である。口縁部が外方へ広がる。内面見込みに釉ハギを施す。大宰府分類の白磁皿III類(12世紀中頃)である。99は青磁碗である。内面に花文を描く。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗I類(12世紀中頃～後半)である。

100・101は弥生土器細頸壺である。100は外面に櫛描直線文を施す。101は口縁端部が外方へわずかにひらき、端部は面をなす。102・103は弥生土器底部である。102は平底を呈する。103は底面中央がわずかに窪み、外面にハケを施す。104は弥生土器甕である。口縁部形態はAである。

105・106は石包丁である。石材は共に粘板岩である。105は平面形状が直線刃半月形を呈すると考えられる。残存長5.0cm、幅3.7cm、厚さ0.8cmを測り、重量は18.2gを量る。紐孔は残存していない。刃部が銳利である。106は紐孔部分の破片で、平面形状は不明である。残存長2.6cm、残存幅4.5cm、厚さ0.4cmを測り、重量は5.8gを量る。紐孔2個(1個は一部のみ残存・直径1.5cm)が残存する。紐孔は両面から穿たれている。

107は鉄製品である。全体が鋒に覆われており、詳細は不明である。平面形状が三角形を呈することから、火打金とした。山田分類のA類〔山田1989〕に相当し、古代～中世の所産とみられる。

出土地点不明土器(図17-108～121) 図17に掲載したのは、1978-1調査で出土したこと以外の情報が確認できなくなったもので、資料としては問題があるが、古墳時代前期の土師器甕や14～15世紀の青磁碗など、これまでの報告遺物中に含まれていない時期の遺物が存在するため、一括して掲載することとした。

108は弥生土器広口壺である。口縁部形態はBである。端面に凹線3条、頸部と口縁部内面に列点文を施す。109は弥生土器底部である。平底を呈し、底部外面に木葉痕が認められる。外面にハケを施す。110は弥生土器鉢である。口縁部形態はCである。111・112は弥生土器高杯である。111の裾端部形態はCである。脚柱部に凹線1条を施す。112の裾端部形態はBである。円形透かし孔(直径0.8cm)が2個残存する。内面にケズリを施す。外面に煤が付着する。

113は古墳時代前期の土師器甕である。口縁端部をわずかに摘み上げる。口縁部内外面にハケ、体部外面にタタキ、体部内面にケズリを施す。

114は須恵器杯身である。受け部は短く水平に延び、口縁部は斜め上に延びる。TK 43型式か。

115～119は土師器皿である。いずれも口縁端部を丸く收める。口径から判断して13世紀前半頃か。

120は瓦器椀である。体部外面に指頭圧痕が認められる。内面にミガキを施す。内面見込みにジグ

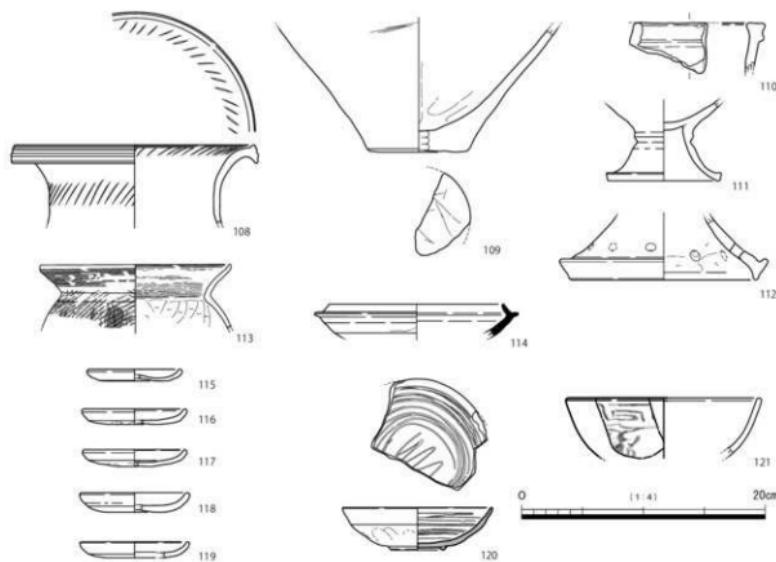


図 17 1978-1 調査 出土地区不明遺物実測図

ザグ状暗文を施す。高台は断面三角形状を呈する。和泉型III-3期（13世紀前半）である。

121は青磁碗である。外面に雷文帯をもち、下側には蓮弁を描く。上田分類のC-2類（14世紀中葉～15世紀前半）である〔上田 1982〕。

### （5）小結

1978-1調査は、中河原遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地となる契機となった調査である。4箇所の調査区はいずれも小規模なものであったが、弥生時代及び中世の遺構が検出された。

弥生時代の遺構は、同一敷地内の調査である2007-1調査（第11節）、2016-1調査（第12・13節）、2017-1調査（第14節）において中期の遺構が密に確認されており、それらとの関連が考えられる。

A区で検出した溝1は、溝の形状や遺物の出土状況および2016-1調査で検出した方形周溝墓の状況などから判断して、既に指摘していたように方形周溝墓の一部である可能性が考えられる。

中世の遺構は、D区で井戸を検出しているが、掘立柱建物などは検出できなかった。しかし、2016-1調査（A区）（第12節）ではこの時期の掘立柱建物を検出しており、敷地の南側に中世集落が広がっていたと考えられる。

## 第3節 1980-2調査

### （1）はじめに

郡四丁目で計画された倉庫建築に伴って行われた発掘調査である。前節で報告した1978-1調査D区を含む調査区である。

また、2016-1調査（B区）（第13節）とは東端が一部重複している（図5）。南北13m×南北40m（調査面積：520m<sup>2</sup>）の調査区を設定して調査を行った。

## (2) 基本層序

断面図の所在を確認することはできなかったが、2016-1調査（B区）と調査区の一部が重複していることから、遺構検出面の標高などは図96・97と大きく異なると推測できる。

## (3) 遺構（図18、PL.3）

調査区全域でピット247基、土坑12基（井戸も含む）、溝2条を検出した。

平面図に遺構番号の記載が無かったため、図19に遺物を掲載した各遺構の位置は不明である。

遺構番号から判断して、井戸は少なくとも3基確認されたようだが、この数に1978-1調査（D区）で検出した井戸（図8）が含まれているのかは定かではない。

図19に掲載した遺物の内容から、井戸1・2、落ち込み1は中世、井戸3は弥生時代中期の遺構と考えられる。

調査区中央部で幅2～3mを測る東西方向の溝を検出している。ただし、削平を受けているようでは遺構の深度は浅く、途切れていますが認められる。この溝は東側に接する2016-1調査（B区）では検出されていない。東側の削平がより大きかった可能性を考えられよう。

## (4) 遺物（図19・20、PL.43～45）

### 井戸1出土遺物（図19 122～131）

須恵器・土師器・瓦器が出土した。主体となる遺物の時期から、12世紀～13世紀代の遺構と考えられる。

122は須恵器鉢の底部である。底面に円孔（直径0.2cm）を1個穿つ。古代を中心に作られた「鉢F」〔奈良文化財研究所2018〕と考えられるため、混入したものと推測される。

123は土師器皿である。外面に指頭圧痕が認められる。口径から判断すると、11世紀代の所産と推測される。

124～128は瓦器椀である。高台の断面形は124・127は半円形、128は三角形状を呈する。125・127は内面にミガキを施す。見込みの暗文は124は平行線状暗文、127はジグザグ状暗文、128は不定方向の暗文を施す。これらは和泉型II～II期頃（12世紀中頃）と考えられる。126は器高が低いので、和泉型III～IV期頃（12世紀末～13世紀前半）の可能性もある。

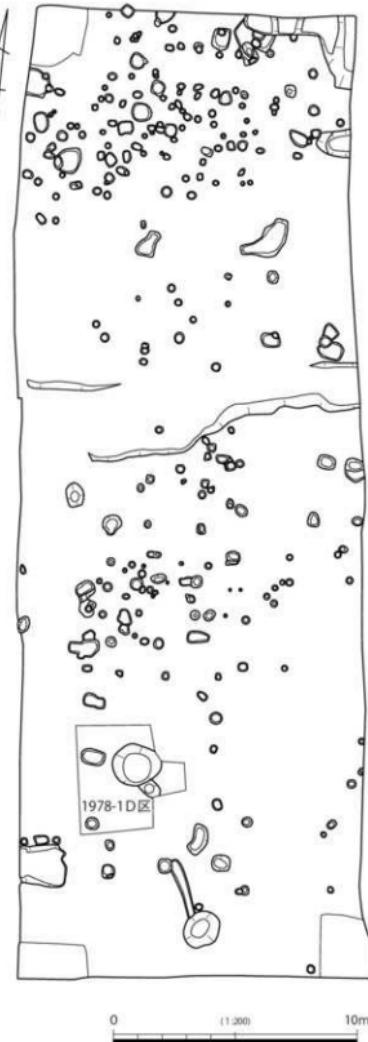


図18 1980-2調査 調査区平面図

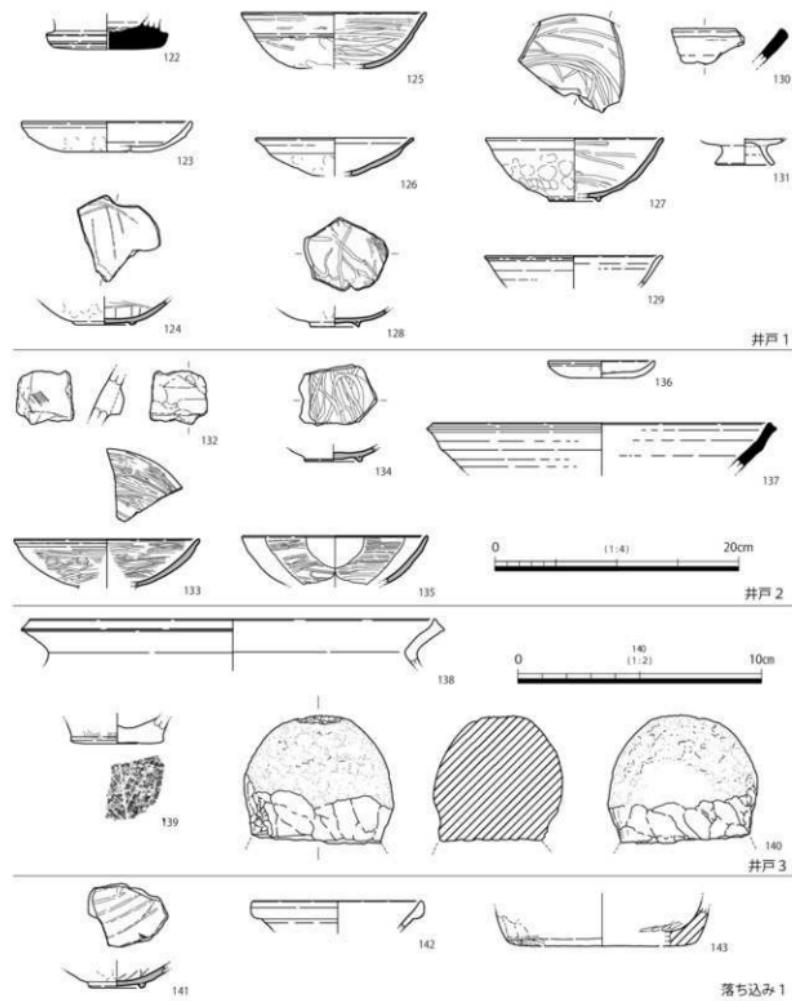


図 19 1980-2 調査 遺構出土遺物実測図

129は灰釉陶器碗である。内外面に施釉する。小片のため詳細は不明である。

130は東播系須恵器鉢である。小片のため定かではないが、口縁部形状はB2類〔日本中世土器研究会2015〕であり、13世紀初頭頃か。

131は土師器台付皿である。「ハ」字状にひらく台部をもつ。皿部分は欠損するため、形状は不明である。

井戸2出土遺物（図19-132～137） 塗輪・土師器・瓦器・須恵器が出土した。主体となる遺物の時期

から12世紀中頃と考えられる。

132は円筒埴輪である。断面台形状の突帯をもつ。図の突帯上端から体部への移行が段差の認められないスムーズな移行であることから、形象埴輪の一部である可能性も考えられるが、小片のため詳細は判断できない。

133～135は瓦器碗である。133・134は内外面に密にミガキを施す。134は断面台形状の高台をもつ。見込みに不定方向の暗文を施す。器形は浅いが、内外面にミガキを密に施すことから、和泉型II～2期頃（12世紀中頃）か。135は内外面に比較的密なミガキを施す。口縁部内面に沈線1条を施す。樟葉型II～2期頃（12世紀中頃）か。

136は土師器皿である。口縁端部は上方に摘みあげる。口径から判断して13世紀後半頃か。

137は東播系須恵器鉢である。口縁部形状はB2類である。13世紀中頃か。

井戸3出土遺物（図19-138～140） 弥生土器・石器が出土した。

138は甕である。口縁部形態はCである。139は底部である。平底を呈し、外面にハケを施す。底面に木葉痕が認められる。

140は石棒の頭部である。球形を呈する。下側に打ち欠きを施すことで球形を作り出している。上部に敲打痕が認められる。石材は砂岩である。縄文時代のものであろうか。

落ち込み1出土遺物（図19-141～143） 瓦器・白磁・石鍋が出土した。

141は瓦器碗である。断面台形状の高台をもつ。見込みに平行線状暗文を施す。

142は白磁碗である。口縁部外側に玉縁をもつ。大宰府分類の白磁碗IV類（11世紀後半～12世紀前半）である。

143は滑石製石鍋である。底部から体部にかけての破片である。小片であるため時期は不明である。包含層出土遺物（図20-144～157） 弥生土器・土師器・白磁・石製品・土製品が出土した。

144～146は土師器皿である。口径から判断して13世紀半ば頃の所産であろう。

147は白磁碗である。体部は斜め上方に直線的に開く。大宰府分類の白磁碗V類（12世紀中頃～後半）である。

148・149は弥生土器甕である。148の口縁部形態はDである。149の口縁部形態はAである。体部外面にハケを施す。153は体部から底部である。底部は平底を呈する。体部は内轉して立ち上がり、内面に指頭圧痕が認められる。150～155は弥生土器底部である。150は底部中央がわずかに窪み、体部は内轉して立ち上がる。151・152・154・155は平底を呈する。151・152は外面にハケを施す。また、151・152・155は底面に木葉痕が認められる。

156は石製品である。長さ8.8cm、幅5.5cm、厚さ2.7cmを測る扁平な礫である。片面に高さ1.0cm程度の突起が認められる。重量は110.2gを量る。用途は定かではなく、自然礫の可能性も考えられる。

157は皮袋形土製品である。内部は中空で、断面三角形状を呈する。ただし、上面に開口部が認められないことから、実用的なものではなく、祭祀用の模造品であろうか。

下端に短い直線状の刻み目が多数認められるが、これは皮を縫合した縫い目を表現している可能性がある。外面の片側に線刻が認められる。画題は定かではないが、魚のようにも見える。

皮袋形土器の類例は、周辺地域では弥生時代末～古墳時代初頭にかけて出土している〔清水2015・大阪府文化財センター2007〕。ただし、これらは口縁部が開口しており、今回報告しているものとは用途や性格が異なっている可能性がある。

## （5）小結

1980-2調査は、中河原遺跡のまとまった面積の調査としては初めてのものである。歎念ながら、検出された遺構の詳細が定かではないため、判断し難い部分が残る。

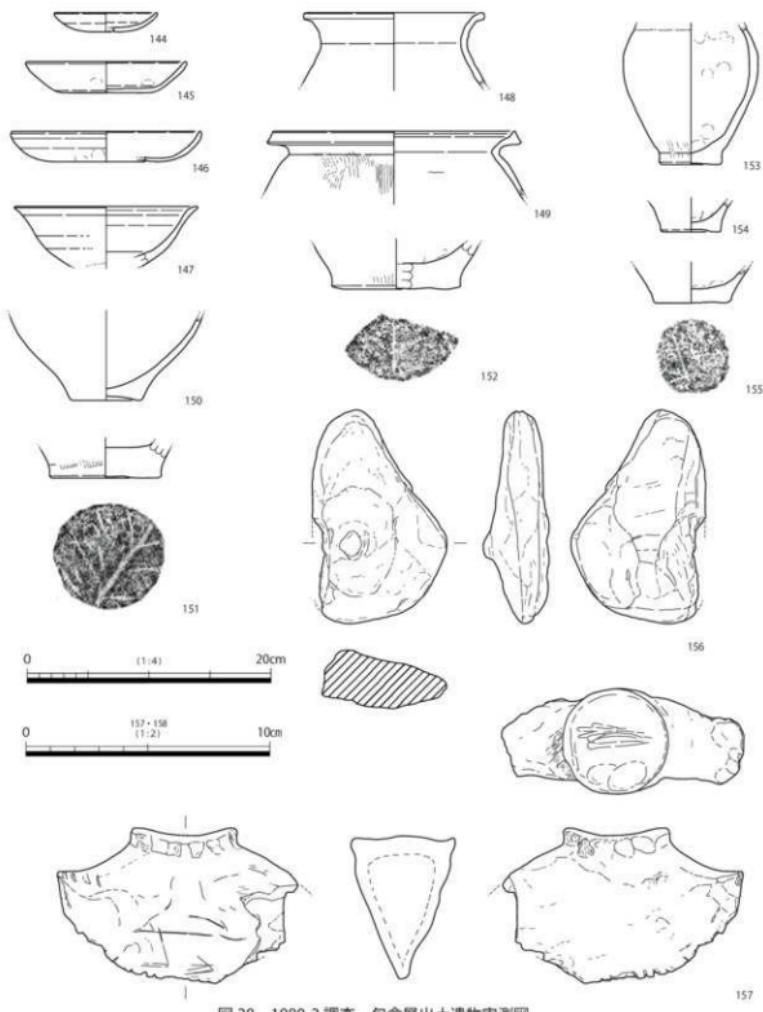


図 20 1980-2 調査 包含層出土遺物実測図

1978-1 調査 (D区) で検出された井戸が調査区内に含まれており、周辺の遺構分布が注目されるところであるが、掘立柱建物などの顕著な遺構は確認されていない。

出土遺物には弥生時代～中世のものが認められた。遺物量が多いのは弥生時代・中世であるが、古墳時代・古代の遺物も出土しており、これらの時期にも何らかの活動の場となっていたことが窺われる。

また、祭祀用と考えられる皮袋形土製品が出土している。類例の少ないものであると共に絵画が描かれており、注目される。

## 第4節 1985-1 調査

### (1) はじめに

上郡一丁目で計画された倉庫建築に伴って行われた発掘調査である。

中河原遺跡の既往調査では最も北に位置する(図1)。南北20m×東西9m(調査面積:180m<sup>2</sup>)の調査区を設定して調査を行った。

### (2) 基本層序

基本層序は、土層断面図に標高値・土層注記がなされていなかったため、詳細は不明である。

### (3) 遺構(図21)

ピット100基、土坑45基、溝12条を検出した。

ピット 直径0.2m、深さ0.1m程度のものが大多数を占める。

調査区内に散在しており、掘立柱建物などを構成するものは検出できなかった。

土坑 土坑は不定形な平面形状のものが多く、その用途は推定しえない。深さ0.2~0.7mを測る。

溝 調査区南端で北西-南東方向に延びる溝を検出した。幅0.8m、深さ0.2mを測る。東西ともに調査区外に延びる。

### (4) 遺物(図22-158~182、PL.45~47)

弥生土器・土師器・須恵器・青磁・埴輪などが出土した。いずれの遺物も遺物ラベルに出土地点の記載がなく、出土地点は不明である。そのため、本報告では全てを1985-1調査出土遺物として一括して扱う。

158は弥生土器甕である。口縁部形態はDである。159~161は弥生土器底部である。いずれも平底を呈する。159は底面の中央に直径0.8cmの円孔を穿つ。161は外

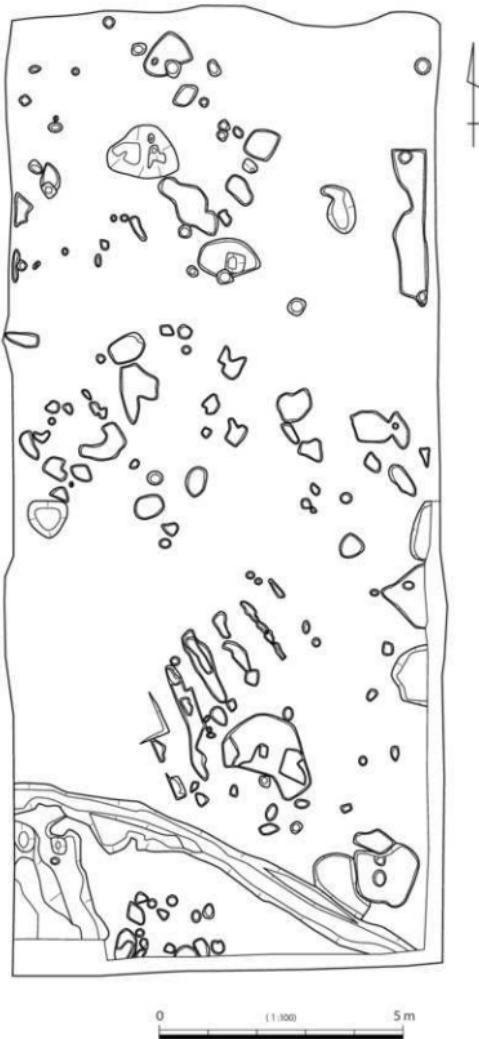


図21 1985-1調査 調査区平面図

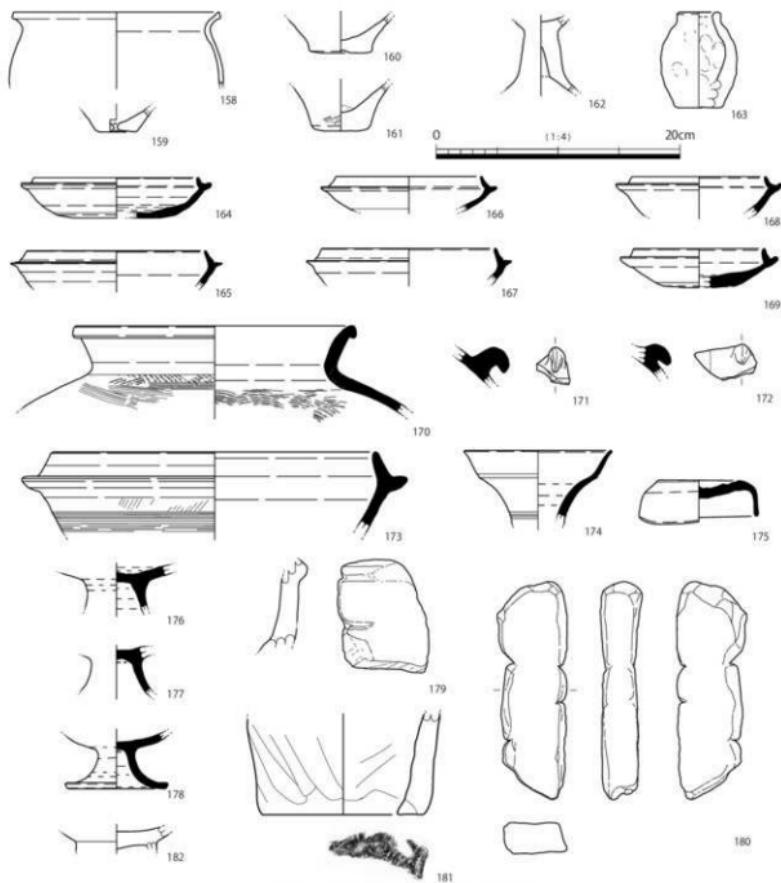


図22 1985-1調査 出土遺物実測図

面にタタキを施す。弥生時代後期と考えられる。

162は土師器高杯である。中空の脚柱部から裾部が屈曲して開く。

163はミニチュア土器の壺である。平底の底部をもつ。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は短く直立する。内外面に指頭圧痕が認められる。

164～178は須恵器である。いずれもTK43型式～TK209型式であろう。

164～169は杯身である。164は受部が短く水平に延び、口縁部は内傾して短く延びる。165～167は受部が水平に延び、口縁部は内傾してやや長く延びる。168・169は共に受部は短くやや斜め上方に延び、口縁部は内傾して延びる。169は底部と体部の境が明瞭である。170は甕である。口縁端部は下方に屈曲し、面を成す。体部外面にタタキ後ハケを施し、内面に同心円當て具痕が認められる。171・172は提瓶である。共に肩部片である。外面に下方に屈曲する把手が残存する。172は外面に自

然軸がかかる。173は鉢である。受部が短く水平に延びる。外面受部下にタタキ後回転ナデ、カキメを施す。174は甌である。頸部は外方へ大きく開いて延び、口縁部は上方へ角度を変えて延びる。頸部に沈線2条を施す。口縁部内面に自然軸がかかる。175は蓋である。焼成時の歪みが天井部に認められる。また、天井部に別個体片が溶着する。176～178は高杯である。いずれも脚柱部は筒状を呈する。178は緩やかに屈曲して開く脚柱部をもつ。裾端部は面を成し、杯部は椀状を呈する。

179～181は埴輪である。179は種類は不明で、天地逆の可能性もある。断面台形状の突帯をもつ。180は家形埴輪の柱部分と考えられる。上端部がやや斜めになっているので、この部分で屋根部と接合していた可能性がある〔青柳 1995〕。また、外面でも橙色を呈する部分と浅黄橙色を呈する部分とが認められるので、別の接合していた部材が剥離している可能性がある。181は円筒埴輪の基底部である。須恵質焼成で、内外面にナデを施す。

182は青磁碗である。高台を欠く底部で、高台内は露胎である。

### (5) 小結

1985-1調査では、多数の遺構を検出しているが、性格を明らかにしうるような遺構は確認できなかつた。遺物は弥生時代～中世の遺物が出土した。その内、埴輪（図22-179～181）が認められることは注目される。ただし、179はかなり磨滅している一方、180・181はそれほど磨滅を受けていない。そのため、3点が同一の古墳に伴うものとの確証はないが、180・181の磨滅の様子からは遠方から流されてきたとは考え難い。調査地の周辺に、形象埴輪を作った古墳が存在する可能性が考えられる。

なお、北西1.9kmと少し距離が離れているが、福井遺跡において、須恵質焼成の円筒埴輪の出土が報告されている〔大阪府文化財センター 2005〕。福井遺跡の例は、中世の耕地拡大に伴って運ばれてきた整地土中からの出土であるが、調査地北側の丘陵上に所在した古墳に用いられたものと考えられている。周辺の埴輪の分布状況として注目される。

## 第5節 1990-1 調査

### (1) はじめに

上郡一丁目において計画された倉庫建築に伴って行われた発掘調査である。中河原遺跡を南北に縱断する国道171号線の東側に位置し、現在は茨木川流路が近迫する（図1）。事前に確認調査を実施した結果、遺物包含層の存在を確認したため、本発掘調査を実施することとなった。

協議の上、建築範囲の一部に当たる東西36m×南北6.5m（調査面積：234m<sup>2</sup>）を調査対象とした。また、確認調査の結果、調査地には盛土が1m近く施されており、遺物包含層は更に1m近く下がった位置に存在することが判明していたため、調査区全体に鋼矢板による土留工を施工した上で調査を実施することとなった。調査に際して盛土は重機で掘削し、以下は土層観察用の畔を残して、人力掘削及び精査・遺構掘削を実施した。

1990-1調査は、『平成3年度発掘調査概報』〔茨木市教育委員会 1992〕（以下、『H3概報』という）で調査の概要を報告しており、本節は資料を再整理した上で『H3概報』を基に改めて報告する。

### (2) 基本層序（図23）

調査区において普遍的に認められる7層を基本層序とした。

第1層 盛土（流通センター建設時の造成土）

第2層 旧耕作土（造成以前の水田耕作土）

第3層 床土（水田に伴う床土）

第4層 黄灰色砂質土層（中世～近世遺物包含層・下面で第1遺構面を検出）

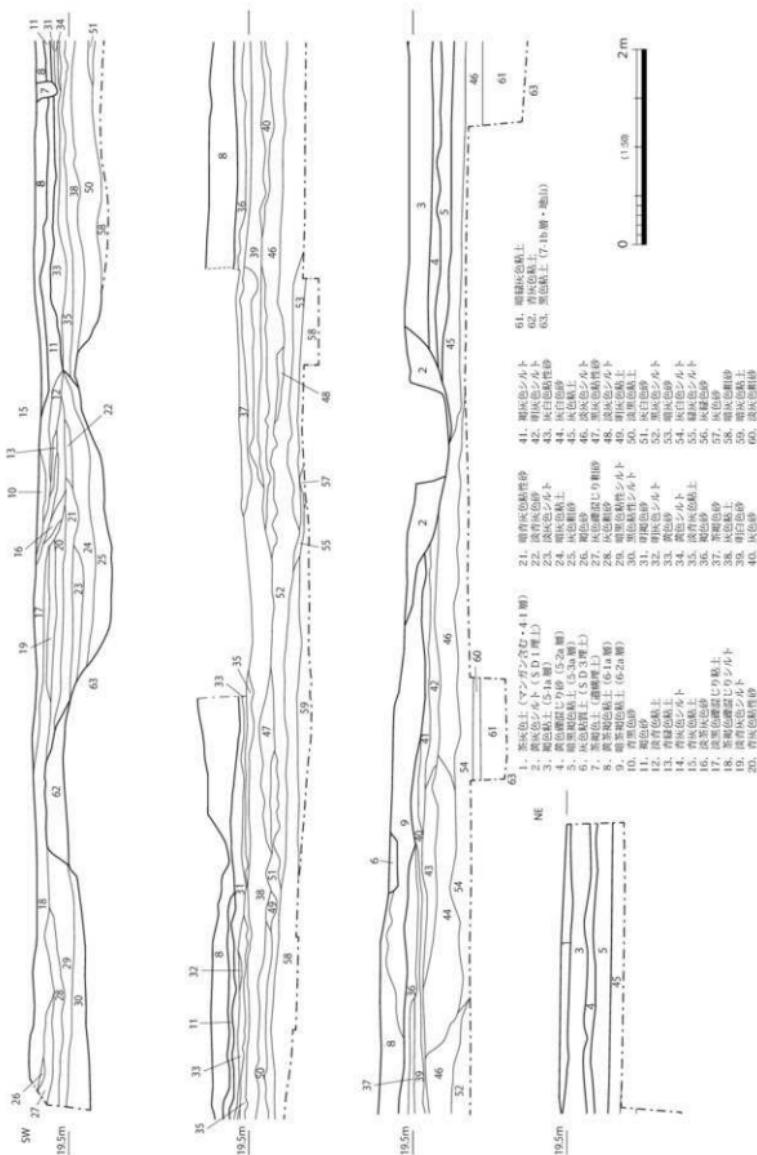


図23 1990-1調査 北壁土層断面図

第5層 茶褐色粘質土層（古代の遺物包含層・下面で第2遺構面検出）

第6層 黄茶色粘質土層（弥生時代の遺物包含層・下面で第3遺構面検出）

第7層 黒色粘土層（地山層）

図23に掲載した土層断面図では、第3層以上については図化していないが、これは、重機掘削時に除去され、かつ鋼矢板の打設により上層が図化できなかつたためである。

今回の調査区は東西に長く、全体として見ると西が高く、東が低くなる。また、茨木川右岸の後背湿地にあたっていることから、層相が複雑に変化しており第5層以下は地点によって大きく土層が異なる。

また、第3遺構面で検出した落ち込み（SX2）は、遺構の深度が鋼矢板の安全深度より深くなることから、全体の完掘には至っておらず、部分的にトレーナーを設けて遺構の深さを確認した。

### （3）遺構（図24～28、PL.4～6）

今回の調査では、3面の遺構面を確認した。各遺構面の時期は、第1遺構面は中世から近世、第2遺構面は古代、第3遺構面は弥生時代中期である。『H3概報』では、第1・第2遺構面を同一図面上で示した。これが調査時にも同時に検出されているか再検討を行ったが、写真・図面等からでは判断できなかった。そのため、『H3概報』と同様の図面提示方法を探った。

#### 第1遺構面（図24）

調査区東部の標高19.6m付近で、近世の溝1条（SD1）、中世の溝3条（SD2～4）、集水池状遺構1基（SX1）を検出した。

**SD1** 調査区の東端において検出した南北方向に延びる溝である。検出長5.3m、幅2.1m、深さ0.5mを測る。埋土は黄灰色シルトの単層である。遺物は弥生土器・東播系須恵器・土師器・瓦器・磁器が出土した。

**SD3** 調査区東部において検出した南北方向の溝である。北側は調査区外に延び、南側はSX1に接する。検出長4.1m、幅1.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色粘質土の単層である。遺物は土師器・須恵器・瓦器が出土した。

**SX1** SD3の南側に接する集水池状遺構である。南側は調査区外に延びており、東西長1.8m、南北長1.2m以上、深さ0.2mを測る。埋土は灰色粘質土の単層である。遺物は土師器・須恵器・瓦器が出土した。

**SD2・4** 調査区東部において検出した南北方向の溝である。SD2は北側が調査区外に延びる。検出長1.8m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。SD4は長さ1.4m、幅0.45m、深さ8cmを測る。埋土は共に灰色粘質土の単層である。共に遺物は出土していない。埋土がSD3・SX1と共に通するため、同時期に埋没したと推測される。

#### 第2遺構面（図24）

調査区西部の標高19m付近で、溝1条（SD5）、土坑7基（SK1～7）、ピット1基（SP1）を検出した。

**SD5（図25）** 調査区西部において検出した南北方向の溝である。南北共に調査区外に延びる。検出長4.4m、幅1.1m、深さ0.2mを測る。遺物は弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

**SK1～SK7** 調査区中央部において検出した。大きさ・形状は様々で、SK1が最も大きく長軸1.8m、短軸0.8mを測る。埋土はいずれも黄灰色粗砂の単層である。遺物はSK1・SK3・SK7から弥生土器、SK2から須恵器が出土した。

#### 第3遺構面（図26）

方形周溝墓状遺構2基、溝2条（SD6・7）、落ち込み1基（SX2）を検出した。標高は西側で19.6m、東側で19m付近となる。

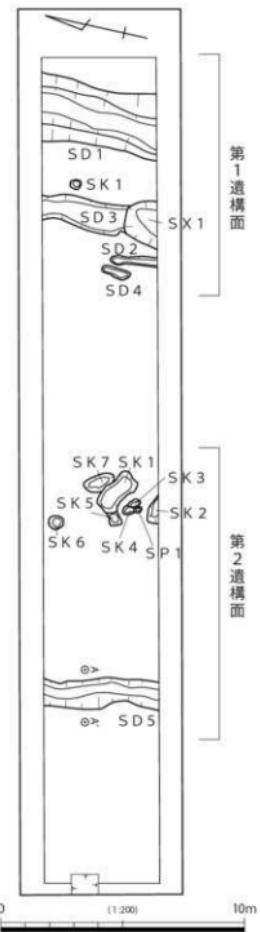


図24 1990-1調査 第1・第2遺構面平面図

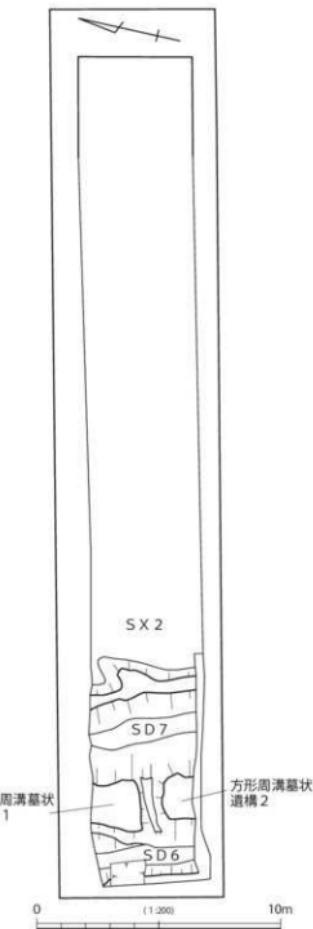


図26 1990-1調査 第3遺構面平面図

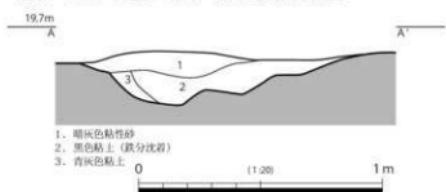


図25 1990-1調査 第2遺構面 SD5断面図

方形周溝墓状遺構（図27・28） 調査区北西部で検出した墳丘状の高まりである（以下、墳丘状の高まりを「墳丘」、その周囲の溝を「周溝」という）。

方形周溝墓状遺構1 北側は調査区外に続く。「墳丘」規模は裾部の東西で約2.8m、「周溝」内縁の肩部で約1.7mを測る。「墳丘」は南北方向で約2mを検出した。

方形周溝墓状遺構2 南側は調査区外に続く。「墳丘」規模は裾部の東西で約2.6m、「周溝」内縁の肩部で約1.5mを測る。「墳丘」は南北方向で約1.5mを検出した。

2基が南北に連なっており、西側にSD6（幅約1.5m・深さ約0.6m）、東側にSD7（幅約3.4m・深さ約0.7m）が伸びている。また、方形周溝墓状遺構1と2の間に溝（幅約0.9m・深さ約0.3m）が東西方向に通っており、全体として、溝が「H」字状を呈する。ただし、SD6・7とそれをつなぐ溝の深さはSD6・7の方が深くなっている。また、SD6・7は南北方向とも調査区外へ続いている。

『H3概報』では方形周溝墓状遺構に関して、「墳丘と推定できる高まりには若干の盛土があり、西側の周溝（SD-06）には、多数の土器群が検出されており、供獻土器の可能性もある。また、本調査地西側の関西電力資料センターにおける調査（註：1978-1調査）で弥生時代中期（畿内第Ⅲ様式新段階）の方形周溝墓（註：1978-1調査A区溝1）が検出されていることを考えると、『コ』の字に曲がる溝と高まりは方形周溝墓の可能性が高い。しかし墳丘の規模が小さく埋葬施設等は確認されておらず出土した土器も完形品は少ない。また、出土した土器のほとんどが破片で口縁部が多く底部が少ない。

これらは方形周溝墓と考えるのに否定的な要素であり、あるいは、墳丘と推定した高まりは茨木川の旧河道の高まり（中州）の可能性もある。出土した土器についても、旧河道中で再堆積したため完形品は少なくほとんどが破片になっていることも考えられる。これらのためあえて断定をさけ方形周溝墓状遺構とした。』と記述している。

本書に所収した2016-1調査（第12・13節）でも、方形周溝墓を検出しており、中河原遺跡における方形周溝墓の事例は増えている。ただし、これらはいずれも墳丘を削平されており、埋葬施設も確認されていない。そのためどのような墳丘を伴っていたかは定かではないが、いずれも一辺8～10m前後の規模であり、上述の通り、「方形周溝墓状遺構」は明らかに規模が小さい。この点では、否定的な要素が強いと考えられる。しかし、厳密な意味で本事例を評価するには材料が不足していることから、本報告においても「方形周溝墓状遺構」の呼称を踏襲する。遺物は弥生時代中期後半の土器・石器が出土した。

SX2 調査区中央部以東において検出した落ち込みである。東側に向かって緩やかに深くなっている。遺構の深さが打設した鋼矢板の安全上の掘削深度を超えるため、完掘には至っておらず、部分的にトレチを掘削することで、遺構底面の確認を行った。埋土は上層では灰色シルト～粗砂が互層状に細かく堆積しており、下層は黒色粘土である。『H3概報』では、「茨木川の後背湿地」と考えた。遺物は落ち込みの肩付近に集中して出土しており、東へ向かうにつれて出土量が減少していく。また、上層に多く下層ではほとんど出土していない。

#### （4）遺物（図29～36、PL.48～56）

##### 第1遺構面出土遺物（図29-183～188）

SD1出土遺物（図29-183～187） 183は弥生土器底部で、平底を呈する。内面にハケを施す。

184は瓦器椀である。外面に指頭圧痕が認められる。和泉型であるが、小片のため時期の判別はしがたい。

185・186は白磁碗である。185は口縁部が外方へ肥厚し、玉縁状を呈する。大宰府分類の白磁碗IV類（11世紀後半～12世紀前半）である。186は削り出し高台をもつ。削り出しが浅く、底部が厚くなっていることから、同じくIV類であろう。

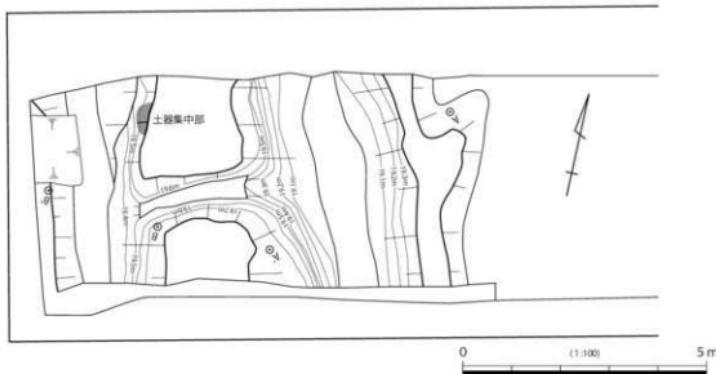


図27 1990-1調査 第3遺構面西端平面図

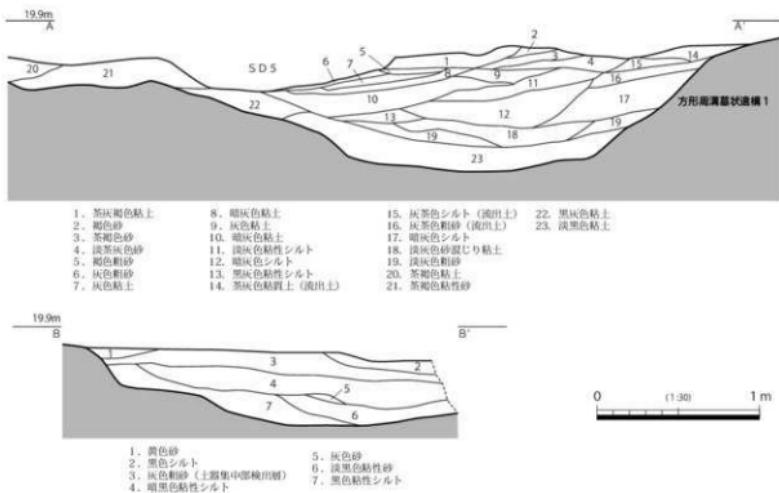


図28 1990-1調査 第3遺構面 SD 6・7断面図

187は東播系須恵器鉢である。平底を呈する。底面に回転糸切り後ナデを施す。

S X 1出土遺物（図29-188） 188は瓦器椀である。断面三角形状の高台をもつ。内面見込みに平行線状暗文を施す。小片であるが、和泉型Ⅲ期頃（12世紀後半～13世紀前半）か。

#### 第2遺構面出土遺物（図29-189～194）

S K 2出土遺物（図29-189） 189は須恵器杯Aである。8世紀頃か。

S D 5出土遺物（図29-190～193） 190・191は広口壺である。190の口縁部形態はA 1である。端面に凹線5条を施し、棒状浮文を5条一組で貼り付ける。口縁部内面に櫛描列点文を3段施し、円孔（直径0.4cm）を穿つ。191の口縁部形態はFである。体部外面に櫛描直線文と櫛描波状文を施す。

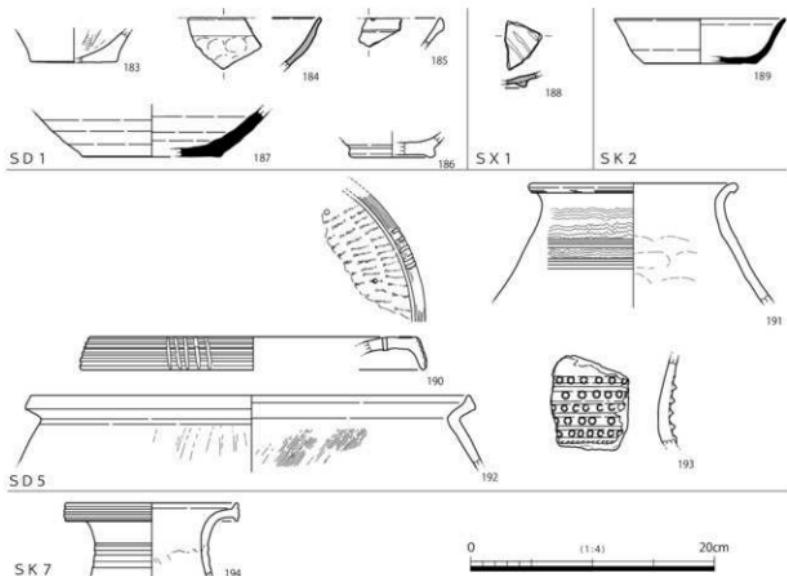


図29 1990-1調査 第1・第2遺構面遺構出土遺物実測図

193は壺頸部である。外面に突帯5条を貼り付け、その間に竹管文を施す。更に下端では突帯上に刺突文を施す。192は甕である。口縁部形態はAである。体部内外面にハケを施す。

S K 7出土遺物（図194） 194は弥生土器壺である。口縁部形態はBである。端面と頸部にそれぞれ凹線3条を施す。

### 第3面遺構出土遺物（図30～34）

図30～32に掲載した遺物は、第3面遺構出土遺物の内、S D 6・7および方形周溝墓状遺構1・2出土の遺物である。『H 3概報』ではすべてを「方形周溝墓状遺構1・2」として報告している。その中には、遺物ラベルに「方形周溝墓（状遺構）」や、「茶褐色砂層」といった層名のみを記載しているものや、「S D 6」・「S D 7」と記載されているものとが混在する。南北方向に延びる2条の溝（S D 6・7）から出土した遺物を方形周溝墓状遺構1・2に分離できなかったため、まとめて報告していた。

本報告では、出土地点の確実なS D 6・7についてはそれぞれに分けて提示し（図30・31）、それ以外の層名のみが記されているようなものは地点が明確でないため、方形周溝墓状遺構1・2としてまとめて提示した（図32）。

S D 6出土遺物（図30・31-195～226） 195～225は弥生土器、226は石器である。

195～199は広口壺である。195の口縁部形態はIである。口縁部下に円孔（直径0.2cm）を穿つ。頸部外面にハケを施す。196の口縁部形態はCである。端面に凹線、端面下端に刺突文、頸部内外面にハケを施す。197の口縁部形態はA Iである。端面に凹線3条、口縁内面に綾杉状に櫛描列点文を施す。198の口縁部形態はHである。端面に櫛描列点文、櫛描簾状文を施す。河内地域で認められる器形であるが、胎土は角閃石などを含まない在地のものであり、「河内系」としておく。内面に煤が付着する。199の口縁部形態はBである。端面に凹線2条、外面にハケを施す。200～203は壺体部で

ある。200は外面に櫛描直線文、斜格子文を施し、円形浮文を貼り付ける。内面にハケを施す。201は外面に櫛描直線文、櫛描流水文を施す。上部に施す直線文も流水文の直線部分にあたるものかもしれない。202は外面に櫛描直線文、斜格子文を施す。203は櫛描波状文、櫛描直線文、斜格子文を施し、円形浮文を貼り付ける。204は無頸壺である。口縁端部が短く外方へ屈曲する。頸部に円孔（直径0.6cm）を穿つ。205・206は底部である。205は底部が高台状に突出する。境界に指頭圧痕が認められる。体部は内彎して立ち上がる。206は平底を呈する。内面に指頭圧痕が認められる。207～212は甕である。207～209・212の口縁部形態はAである。207・209・212は体部内外面にハケを施す。210・211の口縁部形態はDである。210は端面に刺突文を施す。体部外面にハケ後ミガキ、体部内面にハケを施す。211は体部内外面にハケを施す。213～220は鉢である。213～218・220の口縁部形態はCである。213は端面に凹線4条、体部に斜格子文を施す。214は端面に凹線2条、体部外面に櫛描簾状文を施す。215は体部外面に櫛描波状文、櫛描直線文、端面及び体部外面にそれぞれ凹線1条、内面にハケを施す。216は外面に凹線1条、櫛描簾状文、斜格子文を施す。217は端面及び端部に櫛描波状文、体部に櫛描直線文を施す。218は外面に櫛描直線文、櫛描波状文を施す。220は体部外面に直線文を施した後、一部縱方向のミガキ、内面にハケを施す。219の口縁部形態はBである。口縁端部に刻み目、口縁部下に凹線2条を施す。221は広口壺である。口縁部形態はBである。端面に凹線2条、体部に列点文を施す。断面が扁平な四角形状を呈する把手をもつ。222～225は高杯である。222は楕状の杯部をもつ。杯部外面及び、脚柱部外面に密なミガキ、脚柱部内面にケズリを施す。223は杯底部から裾部である。「ハ」字状に聞く脚裾部で、裾端部形態はAである。円孔（直径0.5cm）2個を穿つ。脚部と杯部との境に凹線4条、脚柱部外面にハケを施す。裾端部に煤が付着する。224・225の裾端部形態はBである。共に被熱しているのか、器表面はにぶい橙色を呈する。224は外面にミガキ、内面にケズリ、225は内面にケズリを施す。

226はサヌカイトの剥片である。長さ6.8cm、幅4.6cm、厚さ0.8cmを測り、重量54gを量る。  
SD7出土遺物（図31-227～233） 227～233はいずれも弥生土器である。

227～229は広口壺である。227の口縁部形態はE2である。頸部にヘラ圧痕突帯をもつ。外面にハケ、内面にミガキを施す。228・229の口縁部形態はBである。228は端面に凹線3条、内面に櫛描列点文を施す。229は端面に凹線3条、頸部に櫛描直線文、口縁内面に櫛描列点文を施す。外面にハケを施す。230・231は底部である。230は底面に木葉痕が認められ、外面にハケを施す。底面はわずかに窪む。231は外面にミガキ、内面にケズリを施す。底面は平底を呈する。232は高杯である。裾端部形態はAである。裾部と脚柱部の境に凹線1条、脚柱部内面にケズリを施す。233は甕である。口縁部形態はBである。体部外面下半にケズリを施す。内外面に煤が付着する。

方形周溝基状遺構1・2出土遺物（図32-234～256） いずれも弥生土器である。

234～239は広口壺である。234の口縁部形態はDである。内外面にハケを施す。235～237の口縁部形態はBである。235は端面に櫛描波状文、体部外面にハケを施す。236は端面に凹線2条、口縁部内面に櫛描列点文、体部外面に凹線4条をそれぞれ施す。237は端面に櫛描波状文を施し、円形浮文を貼り付ける。体部外面に凹線2条を施す。口縁部外面直下に煤が付着する。238は頸部で、外面に突帯3条をもつ。239の口縁部形態はA1である。端面に凹線6条を施す。口縁端部内面に櫛描扇形文を施す。240～242は壺の体部・頸部片である。240は頸部に指頭圧痕突帯をもつ。体部外面にハケを施す。内外面共に煤が付着する。241は体部外面に櫛描直線文及び櫛描波状文を施す。242は体部外面に突帯2条と櫛描直線文及び櫛描波状文、体部内面にハケを施す。243は無頸壺である。頸部に円孔（直径0.4cm）を穿つ。口縁部外側に煤が付着する。244～246は甕である。244の口縁部形態はBである。体部内外面にハケを施す。245・246の口縁部形態はCである。共に体部内外面に

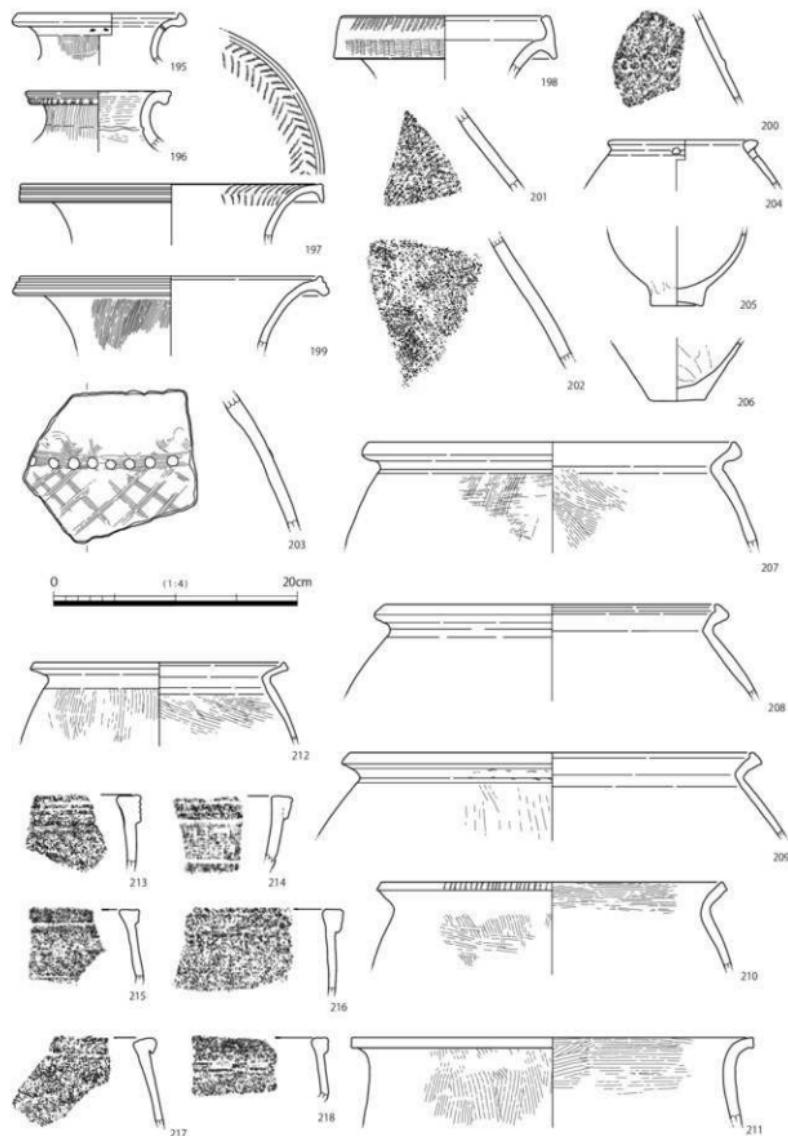


図30 1990-1調査 第3遺構面 SD 6出土遺物実測図

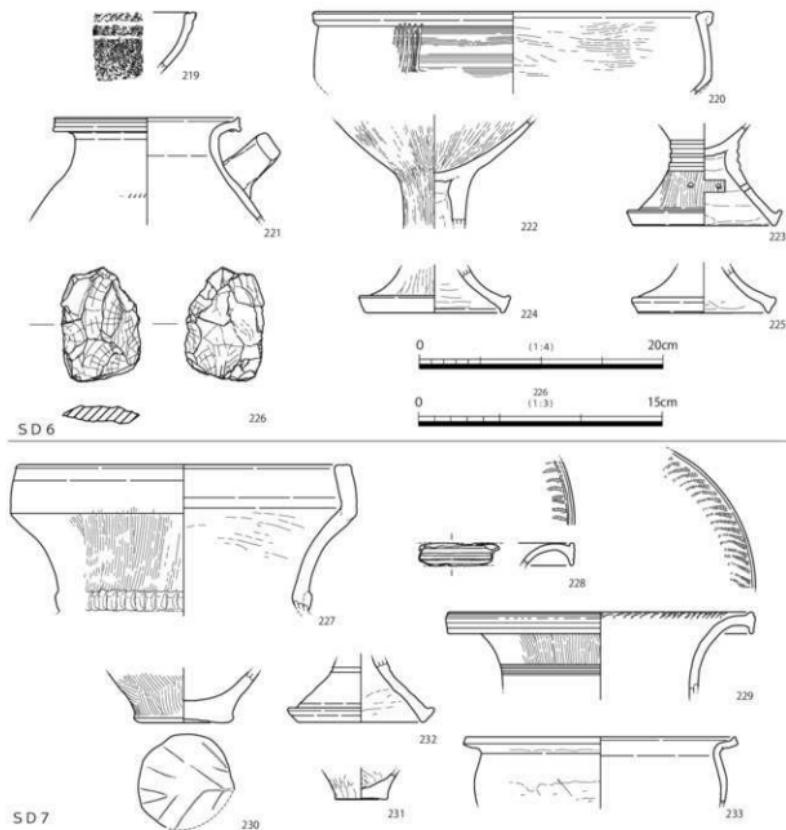


図31 1990-1調査 第3遺構面 SD 6・7出土遺物実測図

ハケを施す。245は端面に刻み目を施す。247～249は底部である。247は底部中央がやや窪む。外面にハケ後ミガキを施し、内面に指頭圧痕が認められる。外面に煤が付着する。248・249は共に平底を呈する。248は体部外面にミガキを施す。249は内面にハケを施す。250～252は高杯である。250の口縁部形態はA2である。端面に櫛描波状文を施し、円形浮文を貼り付ける。251の口縁部形態はBである。口縁部外面に凹線3条を施す。252の裾端部形態はAである。裾部外面に沈線2条および刺突文、上方に櫛描直線文を施す。253は器台である。裾端部形態はBである。外面に凹線4条を施し、円孔（直径0.5cm）を穿つ。外面にミガキ、内面にナデ・ケズリを施す。裾部が被熱している。254は畿内型水差である。算盤玉形の体部をもつ。外面に櫛描直線文と櫛描波状文を交互に施す。体部下半に密なミガキを施す。把手の断面形状は扁平な四角形を呈する。255・256は鉢である。口縁部形態はCである。255は外面に櫛描波状文を施す。256は端面に凹線3条を施し、円形浮文を貼り付ける。また外面に綾杉状の列点文を、口縁部と体部の境に凹線2条を施す。

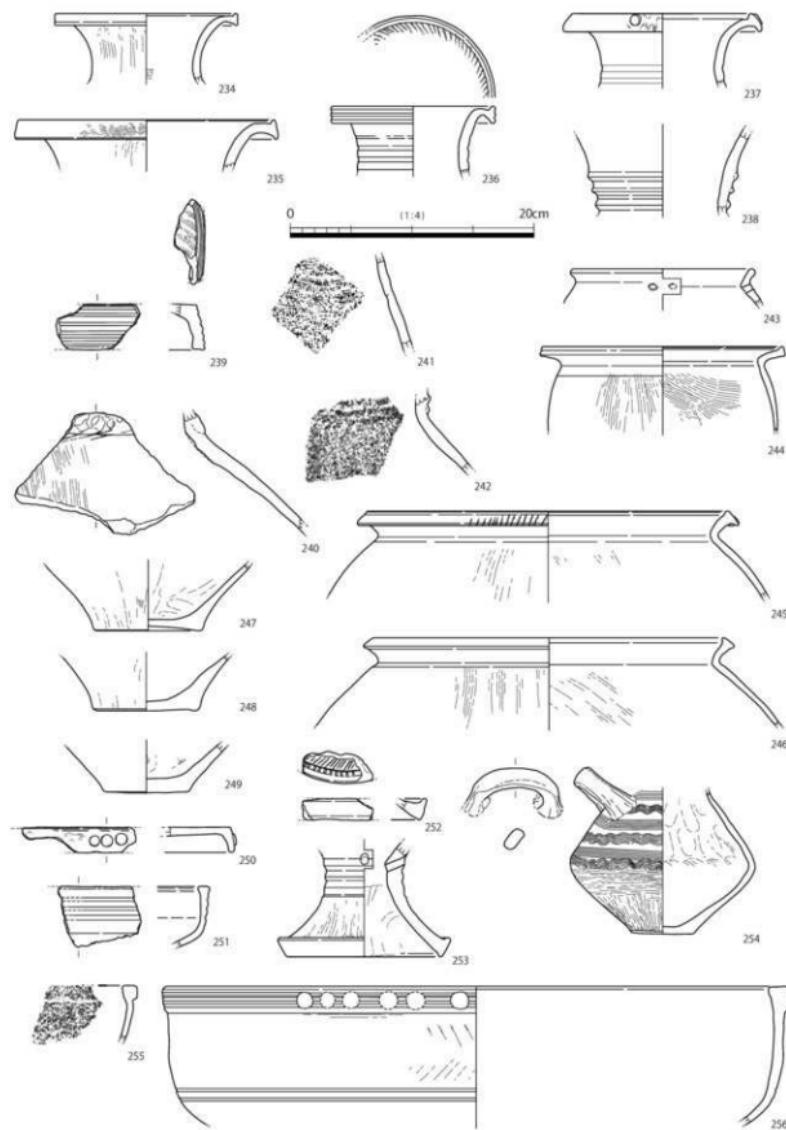


図32 1990-1調査 第3遺構面 方形周溝墓状造構1・2出土遺物実測図

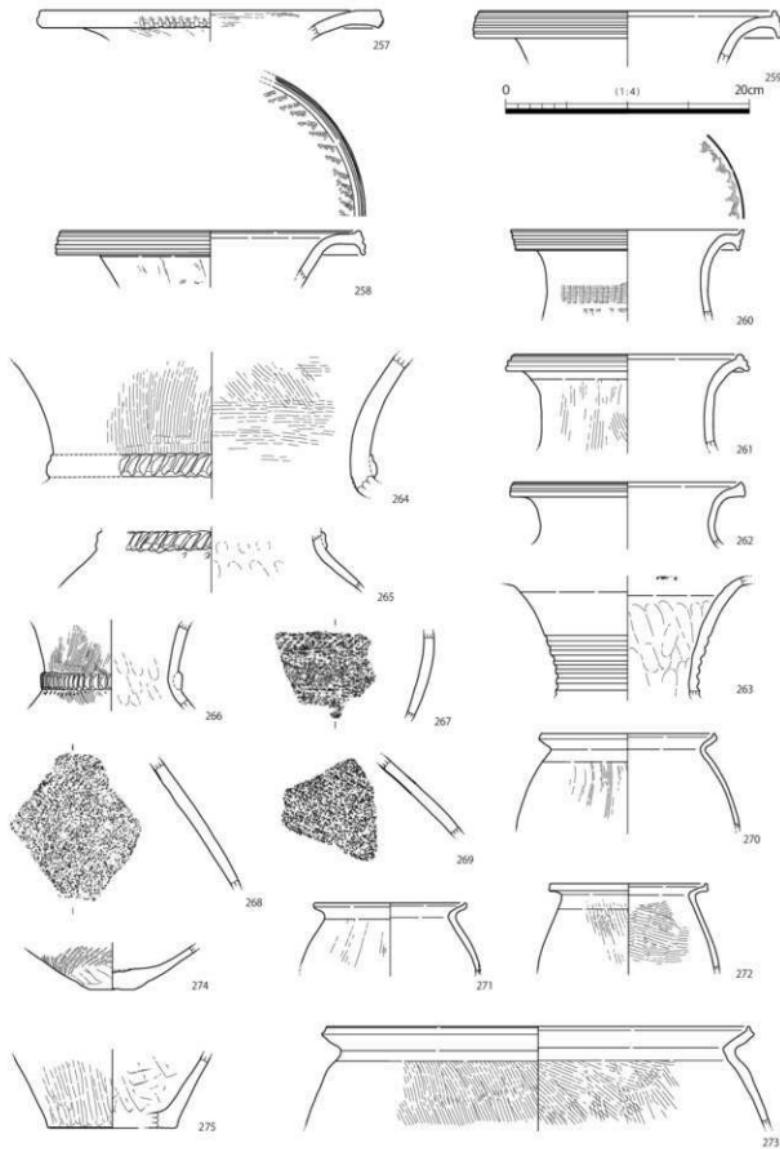


図33 1990-1調査 第3遺構面 SX2出土遺物実測図(1)

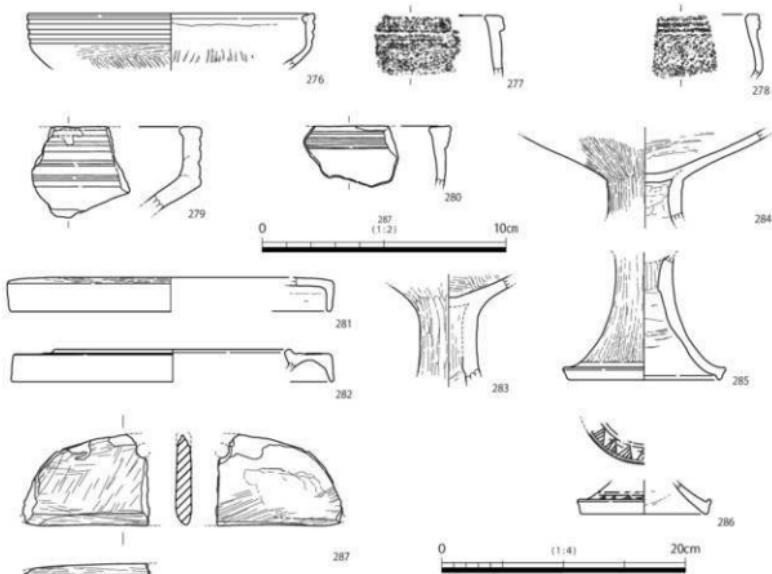


図34 1990-1調査 第3構面 SX2出土遺物実測図(2)

SX2出土遺物(図33・34-257~287) 257~286は弥生土器、287は石器である。

257~265は広口壺である。257の口縁部形態はFである。端面下端に刻み目を施す。中期前葉である。口縁部形態は258~261がB、262がDである。258は端面に凹線3条、頸部外面に櫛描波状文、口縁部内面に櫛描列点文を施す。259は端面に凹線4条を施す。260は端面に凹線3条、頸部外面に櫛描簾状文、口縁部内面に櫛描波状文を施す。261・262は端面に凹線2条を施す。261は外面にハケを施す。263は頸部に凹線6条、口縁部内面に扇形文を施す。264~266は頸部にヘラ圧痕突帯をもつ。264は内外面、266は外面にハケを施す。265は内面に指頭圧痕が認められる。267~269は壺体部である。267は外面に刺突文、直線文を施す。268は外面に櫛描直線文、櫛描波状文、斜格子文を施す。269は外面に櫛描直線文、櫛描波状文、斜格子文を施す。270~273は甕である。いずれも口縁部形態はBである。270・271は体部外面にハケを施す。272は体部内外面にハケを施す。270は内外面ともに、271・272は外面口縁部下に煤が付着する。273は体部内外面にハケを施す。274・275は底部である。274は外面にタタキを施す。内面に煤が付着する。弥生時代後期であろう。275は平底の底部である。外面にミガキ、内面に板ナデを施す。276~280は鉢である。276・279の口縁部形態はBである。外面に凹線3条、内外面にミガキを施す。277・278・280の口縁部形態はCである。277は端面に櫛描波状文、外面口縁部下に櫛描直線文、櫛描波状文を施す。278は端面に凹線2条、外面口縁部下に櫛描簾状文を施す。279は厚手で、外面に凹線4条を施す。280は端面に凹線3条を施す。281~286は高杯である。281・282の口縁部形態はA1である。281は外面に煤が付着する。283は脚柱部外面、杯部内面にミガキ、脚柱部内面にケズリを施し、シボリ痕が認められる。円盤充填法を施す。284は杯底部で、杯部は椀状を呈する。内外面にミガキ、脚柱部内面にケズリを施す。杯底部は円盤充填法を施す。285は脚部である。外面にミガキ、内面にケズリを施す。



図35 1990-1調査 包含層出土遺物実測図(1)

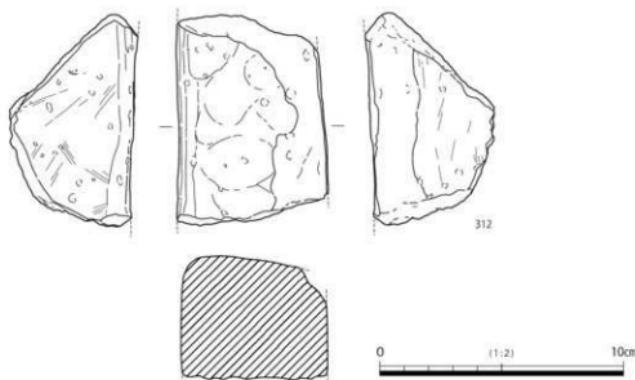


図36 1990-1調査 包含層出土遺物実測図(2)

裾端部形態はBである。裾端部に煤が付着する。286の裾端部形態はAである。外面に鋸歯文を施す。287は磨製石包丁である。平面形状は直線刃半月形を呈する。紐孔(直径0.5cm)が一部残存する。両面に擦痕が認められる。残存長5.2cm、幅3.7cm、厚さ0.65cmを測り、重量は19.8gを量る。石材は粘板岩である。

#### 包含層出土遺物(図35・36-288～312)

##### 第4層出土遺物(図35 288・289) 白磁・青磁を図示した。

288は白磁碗である。口縁部片で、釉薬の色調は灰色を呈する。小片のため時期は不明である。289は青磁碗である。高台際まで釉薬がかかる。外面に細かい縱方向の櫛目文を施す。大宰府分類の同安窯系青磁碗1類(12世紀中頃～後半)である。

##### 第6層出土遺物(図35・36 290～311) 290～311は弥生土器、312は石製品である。

290～294は広口壺である。290・291の口縁部形態はBである。290は口縁部内面に櫛描列点文、端面に櫛描波状文、体部外面上に櫛描波状文、櫛描直線文を施す。291は端面に凹線3条、外面にハケを施す。頸部にヘラ压痕突帯をもつ。292の口縁部形態はCである。内外面にハケを施す。293の口縁部形態はA2である。端面に凹線5条、円形浮文・棒状浮文、口縁部内面に櫛描波状文、円形浮文、櫛描列点文を施す。294の口縁部形態はE2である。端部外面上に凹線および櫛描直線文、櫛描波状文、内面にハケを施す。295は体部である。外面に櫛描直線文・櫛描波状文を施す。296～298は甌である。296・297の口縁部形態はBである。296は内外面に煤が付着する。297は外面にハケを施す。298の口縁部形態はCである。頸部に指頭圧痕突帯をもつ。外面にハケを施す。外面に煤が付着する。299～301は鉢である。299の口縁部形態はBである。外面口縁部直下に凹線1条および、櫛描波状文・櫛描直線文、内面にハケを施す。300・301の口縁部形態はCである。300は端面に沈線3条、口縁部下に櫛描縦状文・櫛描流水文を施す。301は外面に沈線3条を施す。302・304～306は高杯である。302の口縁部形態はA2である。端面にミガキを施す。口縁部と杯部の境に突帯1条をもつ。303は把手付台付鉢である。椀状の杯部をもつ。外面に凹線1条を施し、環状の把手をもつ。304・305は脚柱部である。共に内面にシボリ痕が認められる。304は外面に沈線9条を施す。ヘラを突き刺しただけのような極めて粗雑な細長い透かし孔を四方向に穿つ。305は外面下端に沈線4条を施す。306は脚裾部である。裾端部形態はBである。端面に凹線3条を施す。外面に刺突文を2列巡らせる。307

～309・311は器台である。307・308の裾端部形態はDである。307は脚部が残存する。円形透かし孔（直径0.5cm）を8方向に穿つ。内面にケズリを施す。308は受け部の下部から脚部が残存する。外面にハケを施す。309の裾端部形態はCである。沈線2条を施し、穿孔（直径0.5cm）は2個残存する。310は脚部である。裾部が短く外方へ開く。311は受け部である。受け部は椀状を呈する。外面に刺突文を施し、脚部内面にシボリ痕が認められる。

312は砥石である。現状で長さ8.7cm、幅6.3cm、厚さ5.3cmを測り、重量は373.0gを量る。使用痕は3面に認められる。石材は砂岩である。

### （5）小結

1990-1調査では、弥生時代・古代・中世の遺構・遺物を確認した。古代・中世の遺物はわずかであり、出土した遺物の多くは弥生時代中期のものである。

調査地は、現在の茨木川右岸に近接しており、その影響を強く受ける環境であったと考えられる。このことは、北側100m地点に位置する2001-1調査（第10節）でも流路の可能性がある溝を多数検出していることからも推測できる。第3遺構面で検出された「方形周溝状遺構」は、『H3概報』においては慎重な判断をしたが、現段階においても方形周溝墓か、茨木川旧河道に起因する地形であるのかは断定することはできなかった。ただし、方形周溝墓とするには平面規模が極めて小さいことと、周溝底面から残存頂部までおよそ1m遺存しているにもかかわらず、墓坑の痕跡が確認されていないことなどから、後者の可能性が高いと思われる。

## 第6節 1992-1調査

### （1）はじめに

郡三丁目で計画された共同住宅の建設に伴って行われた発掘調査である。調査地は、現在の中河原遺跡範囲の外方南西に位置し、現在は郡遺跡内に位置する（図1）。確認調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため、建物建築部分の内、埋蔵文化財に影響の及ぶ範囲について本発掘調査を実施することとなつた。調査区は、東西15m×南北4m（調査面積：60m<sup>2</sup>）である。

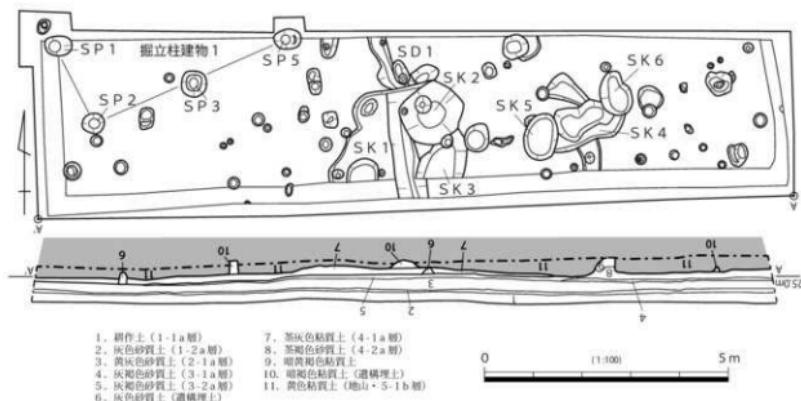


図37 1992-1調査 調査区平面・土層断面図

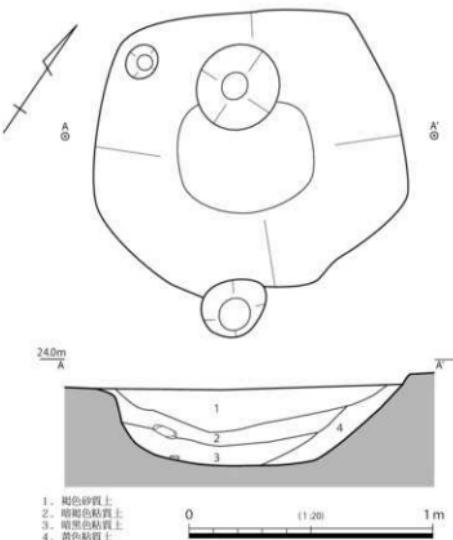


図38 1992-1調査 SK 2平面・断面図

### (2) 基本層序 (図37)

基本層序は5層を確認した。

第1層 耕作土（層厚0.2m）

第2層 黄灰色砂質土（層厚0.2m）

第3層 灰褐色砂質土（中世遺物包含層・層厚0.1m）

第4層 茶灰色粘質土（古代遺物包含層・層厚0.15m）

第5層 黄色粘質土（地山・層厚0.3m以上）

第1層・第2層はほぼ水平の堆積であるが、元々西から東へ下がる傾斜地であったのを、水平に削平して造成した結果と思われる。

### (3) 遺構 (図37～39, PL. 7～9)

遺構面は2面存在するが、遺構面の見極めが困難であったことから、結果的に5層上面でのみ遺構検出を行った。検出面は標高24.8～25.0mを測る。

検出した遺構は、古代の土坑5基、ピット約40基、溝2条、中世のピット16基などである。

調査段階で遺構の時期を区別しているので、おそらく、古代と中世の遺構とでは、埋土の様相が異なっていたと思われる。しかし、記録類を確認する限り、全ての遺構に番号が付与されていないことから、改めて各遺構について検証することができなかった。また、図40に遺物を図示したSP9は、遺物ラベルに遺構番号が記されているものの、その位置は不明である。

以下では、顕著な遺構および遺物を掲載した遺構について報告する。

**溝 SD 1 (図37)** 調査区の中央部を南北に貫く溝で、SK 1などに切られる。規模は幅0.1～0.3m、深さ0.1～0.23mを測る。遺物は出土していない。

**土坑 SK 1 (図37)** 調査区の中央部に位置する不定形の浅い土坑で、SD 1を切り、SK 2・3

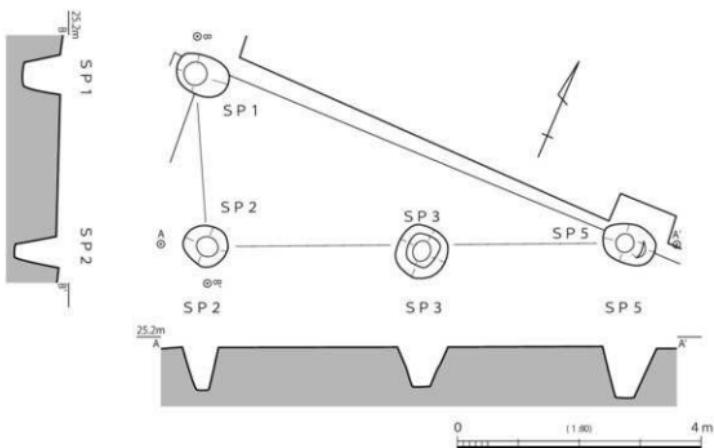


図39 1992-1調査 掘立柱建物1平面・断面図

に切られる。南側は調査区外に延びる。東西2.5m以上、南北2.0m以上、深さ0.04~0.1mである。遺物は土師器・須恵器が出土した。

**S K 2** (図38) S K 1・3、S D 1を切る土坑である。規模は長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.42mを測る。平面形状は隅丸方形を呈し、断面形状は擂鉢状を呈する。遺物は土師器・須恵器が出土している(PL9)。出土遺物から古代の土坑と判断される。

**S K 4** (図37) S K 5・6に切られる土坑である。長軸2.2m以上、短軸1.0m、深さ長軸0.8m以上、深さは南側が0.2m、北側が0.53mを測る。遺物は土師器・須恵器が出土した。

**掘立柱建物** (図39) 調査区北西部で検出したS P 1・2・3・5で構成される。建物の南西部と考えられる部分を検出した。そのため、建物の主軸は不明であるが、S P 1とS P 2を結ぶ南北軸はN-27°-Wをとる。遺構の断面について個別の記録が確認できなかつたため、図39では、断面の輪郭のみを模式的に図示した。各ピットより出土している遺物の年代から中世の掘立柱建物と判断される。

S P 1は長径0.55m、短径0.4m、深さ0.6mを測る。柱痕は検出していない。遺物は土師器・瓦器の小片が出土した。S P 2は長軸0.45m、短軸0.4m、深さ0.72mを測る。直径0.2m程の柱根と拳大程の礫を検出した。遺物は須恵器・瓦器の小片が出土した。S P 3は直径0.55m、深さ0.66mを測る。柱痕は検出していない。遺物は土師器・瓦質土器・陶器が出土した(PL 8-2)。S P 5は長径0.55m、短径0.45m、深さ0.78mを測る。柱痕は検出してないが、検出面において、0.1~0.25m程の礫がまとめて検出しており、柱の根固め石の可能性も考えられる。遺物は土師器・須恵器・瓦器の小片が出土した。S P 3・S P 5の出土遺物から14世紀代と考えられる。

#### (4) 遺物 (図40・41、PL.56~58)

##### 遺構出土遺物 (図40)

**S K 1**出土遺物 (図40-313・314) 須恵器を図示した。共に7世紀後半と考えられる。

313は口縁部にかえりをもつ杯G蓋である。314は杯G身である。丸底気味である。

**S K 2**出土遺物 (図40-315~318) 7世紀後半と考えられる須恵器・土師器を図示した。

315~317は須恵器である。315は口縁部にかえりをもつ杯G蓋である。316は杯G身である。底

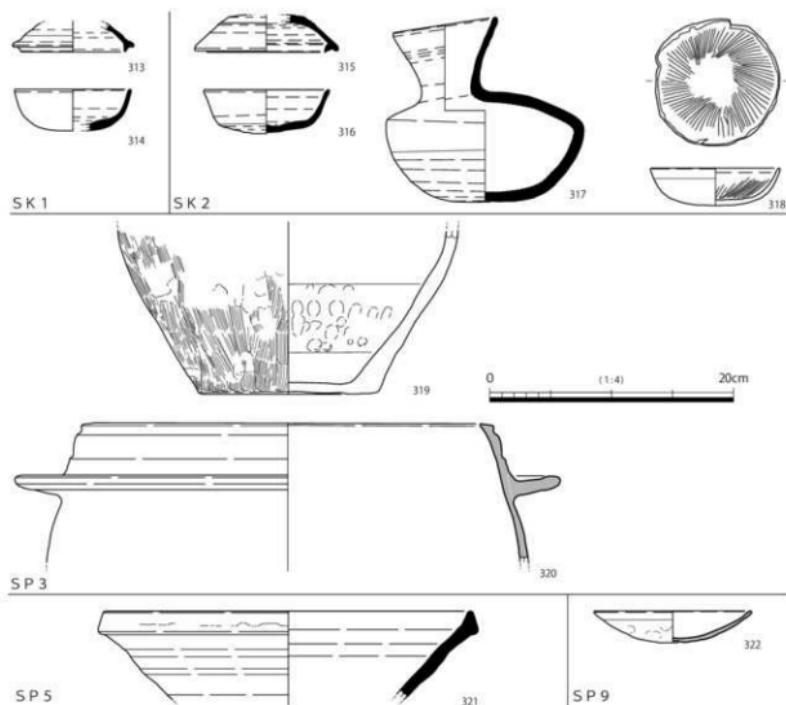


図40 1992-1調査 遺構出土遺物実測図

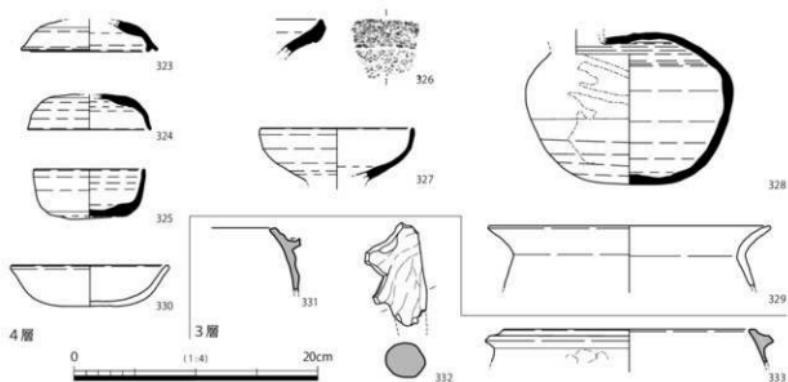


図41 1992-1調査 包含層出土遺物実測図

部から屈曲して外方へ開きながら立ち上がる口縁部をもつ。317は平瓶である。全体的に丸みを帯びた形状である。頸部は斜め上方にのびる。

318は土師器杯Cである。内面に1段の放射状暗文を施す。

S P 3 出土遺物（図40-319・320） 陶器・瓦質土器を図示した。

319は陶器壺の底部である。平底を呈する。外面にハケを施し、内面に指頭圧痕が認められる。

320は瓦質土器羽釜である。鍔は水平に延び、口縁部はわずかに内傾し、上端が面を成す。菅原分類の浜津F型である〔菅原1989〕。13世紀～14世紀前半と考えられる。

S P 5 出土遺物（図40-321） 須恵器を図示した。

321は東播系須恵器鉢である。口縁部形状はB 3類II群である。14世紀初頭である。

S P 9 出土遺物（図40-322） 瓦器を図示した。

322は瓦器椀である。丸底を呈し、高台は認められない。図上では口径が不確定な可能性もあるが、和泉型IV期（14世紀頃）と考えられる。

包含層出土遺物（図41-323～333） 323～330は4層、331～333は3層出土である。

4層出土遺物（図41-323～330） 4層出土遺物は7世紀後半に比定できるものである。

323～328は須恵器である。323は口縁部にかえりをもつ杯G蓋である。324は杯H蓋である。天井部はやや平らである。325は杯G身である。口縁部はまっすぐに立ち上がり、端部は丸く收める。326は甕である。口縁部は上方に拡張する。外面に波状文を施す。327は高杯である。椀状の杯部をもつ。328は平瓶である。口縁部は欠損している。球状の体部をもつ。体部はほぼ完形であるが、口縁部は欠損する。打ち欠いた可能性も考えられる。外面に自然釉がかかる。

329は土師器甕である。口縁部は外方へ開き、端部は丸く收める。330は土師器杯Cである。口縁部はわずかに外方へ開き、端部は丸く收める。

3層出土遺物（図41-331～333） いずれも瓦質土器であり、14世紀代と考えられる。

331は羽釜である。短い鍔が斜め上方に延び、口縁部は内彎し、端部は丸く收める。332は三足釜の脚の体部との接合部分である。333は三足釜の口縁部である。鍔・口縁部共に極めて短い。

## （5）小結

1992-1調査においては、飛鳥時代（7世紀後半）と鎌倉時代（14世紀初頭）の遺構を検出した。

飛鳥時代の遺構については、その性格等は不明であるが、7世紀後半の遺構は茨木市内において確認例が少なく、本遺跡において当該期の活動痕跡が確認できたことは重要である。

鎌倉時代の遺構についても、掘立柱建物を検出し、当該期の集落分布の一端を確認することができた。

## 第7節 1992-2調査

### （1）はじめに

郡五丁目で計画された共同住宅建設に伴って行われた発掘調査である。調査地は、中河原遺跡の南西隅に位置する（図1）。確認調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため、建物建築部分の内、埋蔵文化財に影響の及ぶ箇所について発掘調査を実施した。重機掘削は、前節で報告した1992-1調査と同日に開始したが、人力掘削は1992-1調査の終了後に開始している。調査区は、東西15m×南北3.5m（調査面積：52.5m<sup>2</sup>）である。

### （2）基本層序（図42）

基本層序は5層を確認した。全体的に淡い色調の砂質土・シルトで構成されている。

1層 耕作土（原図に記載されていないため、図42では図示していない）

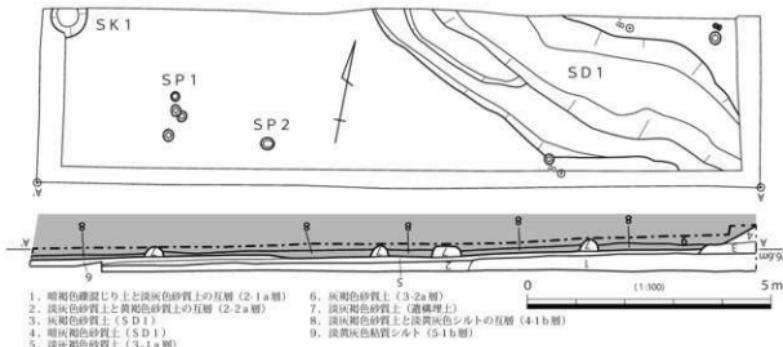


図42 1992-2調査 調査区平面・土層断面図

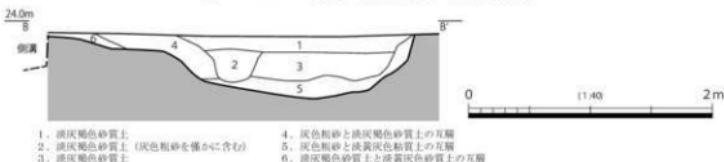


図43 1992-2調査 SD1断面図

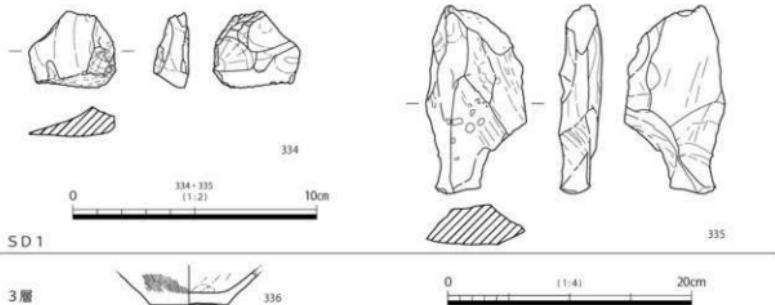


図44 1992-2調査 出土遺物実測図

- 2層 淡灰色砂質土と黄褐色砂質土の互層 (層厚0.3m)
- 3層 淡灰褐色砂質土 (包含層・層厚0.1m)
- 4層 淡灰褐色砂質土と淡黃灰色シルトの互層 (漸移層・層厚0.1m)
- 5層 淡黃灰色粘性シルト (地山層)

2-1a層は、弥生土器片を含む暗褐色礫混じり土だが、他の場所から運ばれた客土と判断している。

### (3) 遺構 (図42, PL.10)

検出した遺構は、溝1条、土坑1基、ピット9基である。SD1は3層上面、その他の遺構は4層上面から切り込んでいることが確認されたが、輪郭が不明瞭であったため、第5層上面（標高26.6m前後）において検出を行った。

S D 1 (図43) 調査区東部に位置し、北西から南西方向へ延びる流路である。3層上面から切り込んでいるので、他の遺構より新しい時期のものである。幅2.3~2.8m、深さ0.43~0.53mを測る。遺物は磨滅した弥生土器片・石器が出土した。

S K 1 (図42) 調査区北西隅に位置する。直径0.7m、深さ0.3mを測る。平面形状は円形を呈する。遺物は出土していない。

S P 1 (図42) 調査区西部に位置する。直径0.18m、深さ0.14mを測る。平面形状は円形を呈する。遺物は土師器片・瓦器片が出土した。

S P 2 (図42) 調査区西部に位置する。直径0.27m、深さ0.14mを測る。平面形状は円形を呈する。遺物は須恵器片が出土した。

#### (4) 遺物 (図 44-334 ~ 336, PL.58)

S D 1 出土遺物 (図44-334・335) 石器を図示した。

共に石材はサヌカイトである。334は剥片である。長さ3.1cm、幅3.6cm、厚さ1.4cmを測り、重量10.3gを量る。一部に原石の表面が残る。335は石核である。長さ7.7cm、幅4.2cm、厚さ1.8cmを測り、重量49.5gを量る。風化が著しく、一部に原石の表面が残る。風化度合から判断して、弥生時代より古いものの可能性もある。

3層出土遺物 (図44-336) 弥生土器を図示した。

336は弥生土器の底部である。平底を呈し、外面にハケを施す。

#### (5) 小結

1992-2調査では、溝・土坑・ピットを検出した。しかし、出土遺物が少ないため、年代決定は困難である。S D 1 の埋土中から、磨滅した弥生土器・石器が出土したため、上流に弥生時代の遺構・包含層が存在すると考えられる。

### 第8節 1992-3調査

#### (1) はじめに

郡三丁目で計画された共同住宅の建設に伴って行った発掘調査である。調査地は、中河原遺跡の南西外方、1992-1調査の約50m南に位置する(図1)。確認調査の結果、埋蔵文化財の存在が確認され、埋蔵文化財に影響の及ぶ埋設管設置部分について、本発掘調査を実施することとなった。調査区は、東西22m×南北1.5m(調査面積:33nf)である。

#### (2) 基本層序 (図45)

基本層序は3層を確認した。

1層 黒灰色土(耕作土・層厚約0.2m)

2層 灰黄褐色砂質土(中世～近世の包含層・層厚約0.2m・下面で遺構を検出)

3層 黄色粘質土(地山層)

#### (3) 遺構 (図45, PL.11)

2層下面(標高24.7m前後)において中世の遺構面を検出した。検出した遺構は、溝10条、ピット9基、落ち込み1基である。

溝 調査区中央部から東側で、南北方向9条(S D 1~9)、東西方向1条(S D 10)を検出した。埋土はいずれも灰色砂質土の單層である。

S D 1~5は溝の芯々距離がほぼ1.5mと均等である。以東のS D 5・6間は3.3m、S D 6・7間は1.8m、S D 7・8間は0.5m、S D 8・9間は1.0mをそれぞれ測る。S D 2・3・7・8以外は、

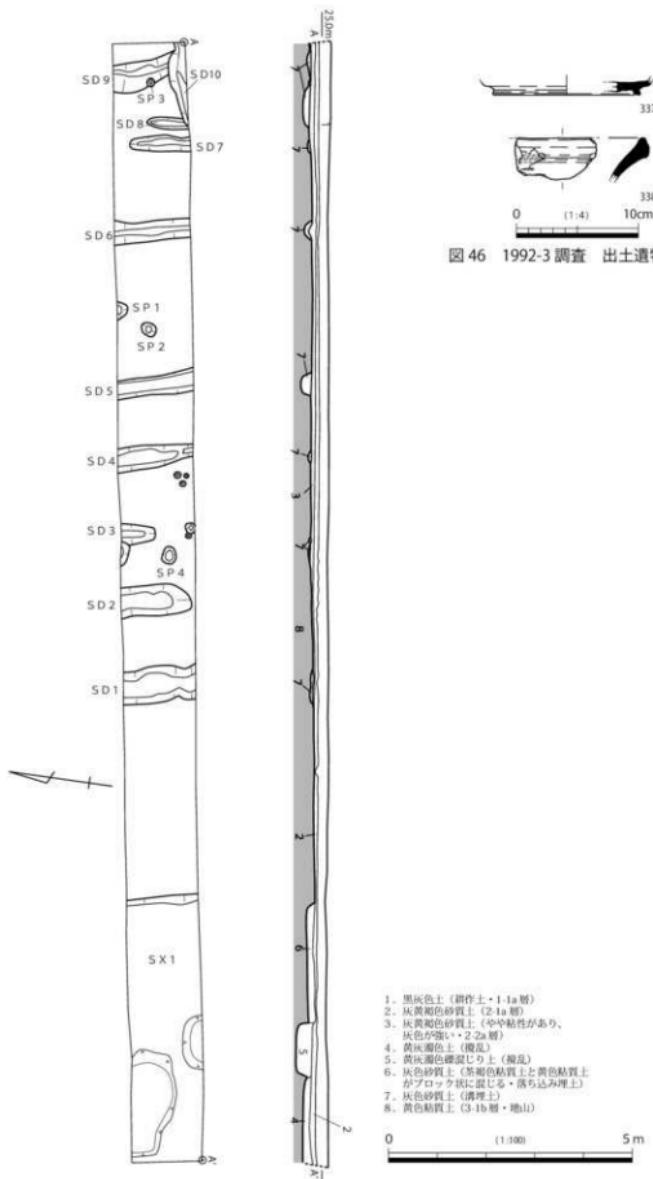


図 45 1992-3 調査 調査区平面・土層断面図

南北とも調査区外へ延びる。各遺構から出土した遺物はその種別のみを記す。

S D 1 は幅 0.55 ~ 0.75 m、深さ 10cm を測る。S D 2 は幅 0.65 m、深さ 20cm を測る。遺物は須恵器片が出土した。S D 3 は幅 0.45 m、深さ 17cm を測る。S D 4 は幅 0.25 ~ 0.5 m、深さ 6 ~ 15cm を測る。S D 5 は幅 0.4 ~ 0.5 m、深さ 17cm を測る。遺物は土師器・須恵器・瓦器の小片が出土した。S D 6 は幅 0.4 ~ 0.5 m、深さ 14 ~ 18cm を測る。遺物は土師器・須恵器の小片が出土した。S D 7 は幅 0.3 m、深さ 7 cm を測る。S D 8 は幅 0.25 m、深さ 4 cm を測る。S D 9 は幅 0.6 m、深さ 6 cm を測る。

S D 10 は調査区東端に位置する東西方向の溝である。S D 8・9 を切る。

ピット 調査区中央部から東部にかけて検出した。直径 0.1m、深さ 0.1m 程度のもの（5基）、直径 0.3m、深さ 0.2m 程度のもの（4基）が存在する。いずれも遺物は出土していない。

落ち込み S X 1 調査区西部に位置する落ち込みである。検出長 2.4m 以上、深さ 0.1m を測る。西端を攢乱に切られる。埋土は灰色砂質土を主体とし、茶褐色粘質土・黄色粘質土がブロック状に混じる。遺物は、古墳時代～中世の土器片がわずかに出土した。

#### (4) 遺物 (図 46-337・338)

本調査における遺物の出土量は極めて少ない。また、遺構出土遺物はいずれも小片であったため、図化することができなかった。図示したものはいずれも 2 層出土である。

337 は須恵器杯 B である。断面四角形状の高台をもつ。8 世紀代であろう。

338 は東播系須恵器鉢である。口縁部片で、口縁部形状は B 3 類である。13 世紀代であろう。

#### (5) 小結

1992-3 調査では、中世の溝を主に検出した。第 6 節で報告した 1992-1 調査の約 20 m 南に位置するが、1992-1 調査で検出された 7 世紀後半の遺構・遺物は確認できなかった。検出した溝は南北方向に平行して伸びており、深さが浅いことから耕作に伴う溝の可能性がある。中世段階に斜面地を造成することで耕作地として利用したと考えられ、調査地点は削平を受けた地点に位置しているのである。そのため、中世以前の遺構が確認できなかったと考えられる。調査地周辺は地点により遺構の遺存状態に大きな差があることが推定される。

### 第9節 1997-1 調査

#### (1) はじめに

郡五丁目で計画された共同住宅の建築に伴って行われた発掘調査である。調査地は、中河原遺跡の西端に位置する（図 1）。確認調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため、本発掘調査を実施することになった。調査区は東西 24.0 m × 南北 9.0 m（調査面積：216m<sup>2</sup>）である。

#### (2) 基本層序 (図 47)

基本層序は 4 層を確認した。

0 層 盛土（層厚 0.7m）

1 層 にぶい黄色粘質土（耕作に伴う底土・層厚 0.1m）

2 層 黒褐色土（遺物包含層・層厚 0.1m・下面で遺構面を検出）

3 層 明黄褐色粘質土（地山）

#### (3) 遺構 (図 48・49、PL.12・13)

2 層下面（標高約 25.6 m）において遺構面を検出した。

ピット 125 基、溝 23 条、土坑 18 基、落ち込み 1 基を検出した。遺構の時期は、埋土の土質・色調

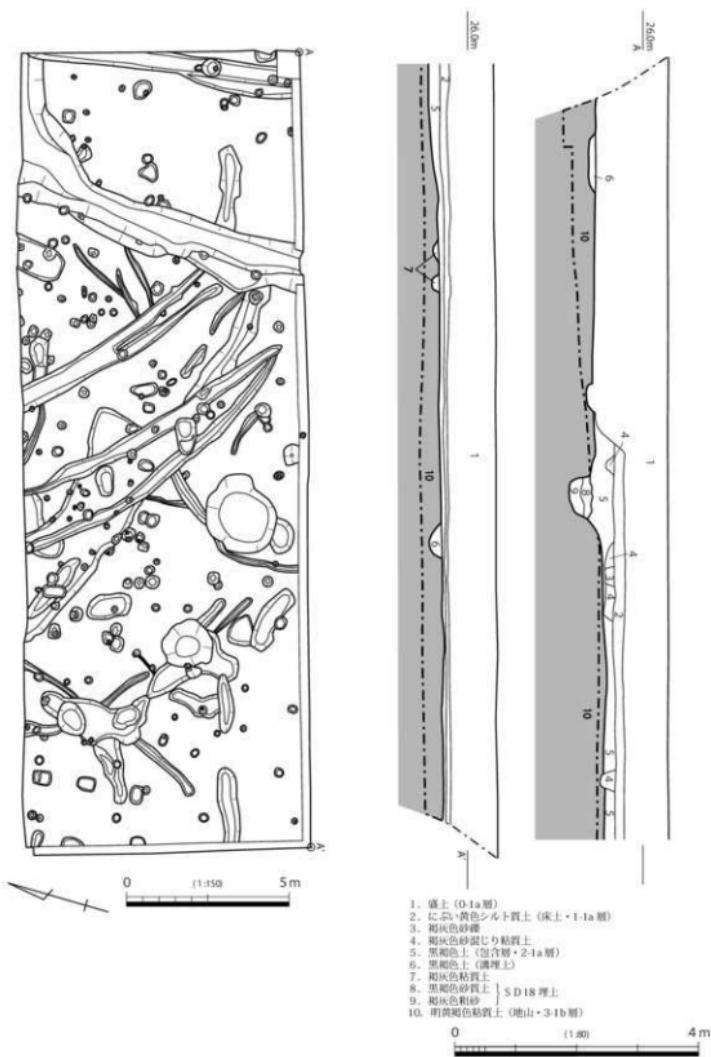


図47 1997-1調査 調査区平面・土層断面図

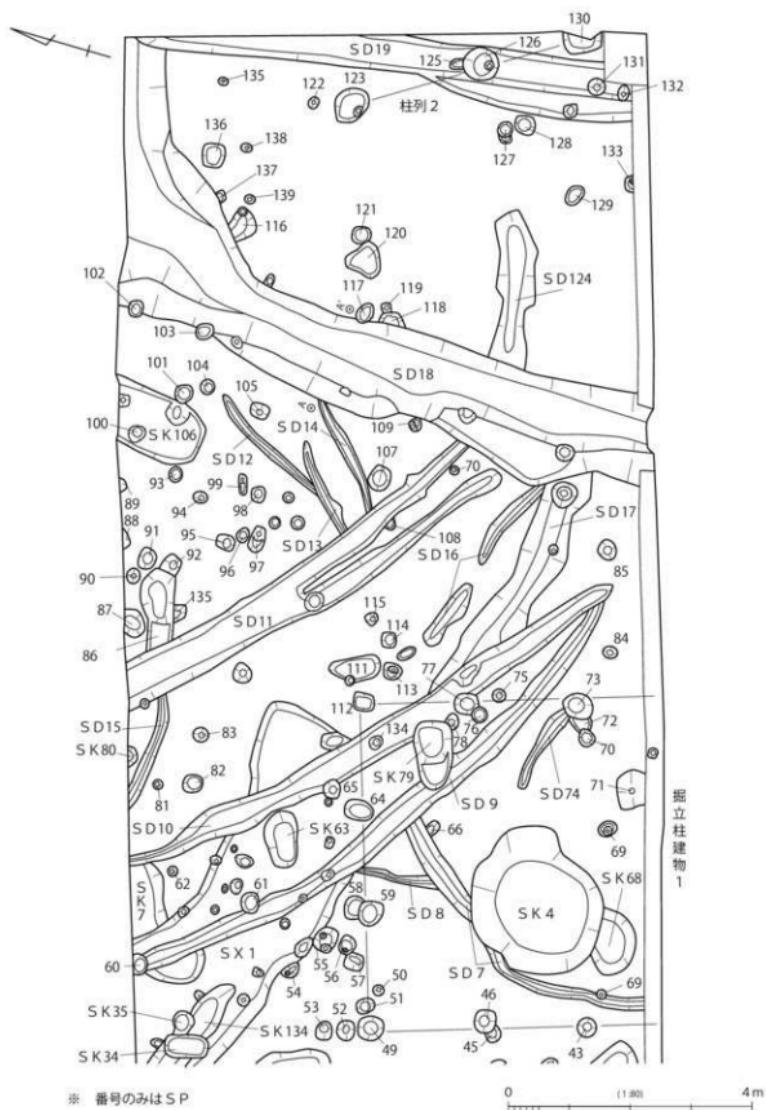


図 48 1997-1 調査 調査区東半拡大図

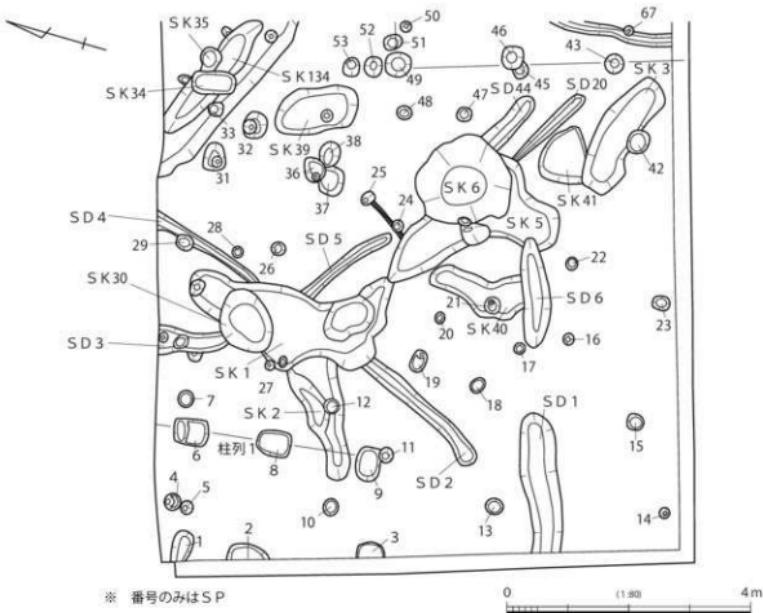


図49 1997-1調査 調査区西半拡大図

によって、おおよそ弥生時代中期と古代・中世の遺構に分けられる。

弥生時代中期の遺構 溝10条、土坑11基、ピット49基を検出した。以下では特徴的なものおよび出土遺物を掲載した遺構について述べる。

**SD 3 (図49)** 調査区西部で検出した北東—南西方向に延びる溝である。北側は調査区外に延びる。検出長1.1m、幅0.3m、深さ5cmを測る。遺物は弥生土器が出土した。

**SD 7 (図48)** 調査区中央部で検出した弧を描く溝である。SK4に切られる。検出長4.7m、幅0.2m、深さ6cmを測る。遺物は弥生土器が出土した。弧を描いていることから、円形と仮定した場合、直径7m程度になり、竪穴建物の周壁溝となる可能性も考えられる。ただし、柱穴となりうるピットは確認できなかつたため、可能性の指摘に留める。

**SD 17 (図48)** 調査区東部で検出した北西—南東方向に延びる溝である。両端をSD10・SD18に切られる。検出長3.9m、幅0.8m、深さ12cmを測る。遺物は弥生土器が出土した。

**SD 18 (図48・50)** 調査区東部で検出した南北方向に延びる溝である。北端で東側へ屈曲する。SD19に切られる。検出長9.2m、幅1.4m、深さ0.5mを測る。溝の埋土は上層が黒～黒褐色土、下層が褐灰色砂～粗砂である。遺物は弥生土器が出土した。

**SD 19 (図48)** 調査区東端を南北方向に延びる溝である。SD18を切る。検出長8.2m、幅0.6m、深さ9cmを測る。埋土は黒褐色粘土質土の単層である。遺物は出土していない。

**SK 1 (図49)** 調査区西端に位置する不定形の土坑である。SD2・4・5などを切り、SK30に切られる。長径3.3m、短径1.5m、深さ5cmを測る。埋土は黒褐色土の単層である。遺物は弥生土器が

出土した。

**S K 5 (図49)** S K 1 の南東に位置する不定形の土坑である。S K 6・S D 6 に切られる。長径 2.7m、短径 1.4m、深さ 0.1m を測る。埋土は黒褐色土の単層である。遺物は弥生土器が出土した。

**S K 6 (図49・51)** 調査区西部で検出した平面形状が円形を呈する土坑である。S K 5などを切る。長径 1.6m、短径 1.45m、深さ 0.5m を測る。埋土は 4 層に分けられ、下層では炭化物を含む。遺物は弥生土器・石器が出土した。

**S K 40 (図49)** S K 5 の西側で検出した「く」字状に屈曲する土坑である。南側を S D 6 に切られる。検出長 1.6m、幅 0.45m、深さ 6cm を測る。遺物は弥生土器が出土した。

**S K 134 (図49)** 調査区中央部、S X 1 の底面で検出した土坑である。平面形状は長楕円形を呈する。S K 34・35 に切られる。長さ 2.35m、幅 0.5m、深さ 0.2m を測る。埋土はにぶい黄褐色土の単層である。遺物は弥生土器が出土した。

**S P 71 (図48)** 調査区中央部の南端で検出したピットである。平面形状は歪な四角形を呈する。長さ 0.6m、検出幅 0.4m、深さ 0.4m を測る。埋土は黒褐色土と黒色粘質土の 2 層からなる。遺物は弥生土器・石器が出土した。

**S P 95 (図48)** 調査区東部で検出したピットである。平面形状は隅丸長方形を呈する。長径 0.3m、短径 0.25m、深さ 0.27m を測る。遺物は弥生土器が出土した。

**柱列1 (図52)** 調査区西部で検出した S P 6・8・9 の 3 基からなる柱列である。検出地点が調査区西端付近であるため、掘立柱建物の南東部に相当する可能性も考えられる。

各ピットの平面形状はいずれも長方形を呈する。柱穴は 3 基とも似た規模であり、長径 0.55m、短径 0.4 ~ 0.45m、深さ 0.13 ~ 0.23m を測る。柱穴の芯々間隔は 1.4m である。建物の主軸は N - 10° - W をとる。遺物は S P 8 から弥生土器が出土した。

**柱列2 (図53)** 調査区東部で検出した S P 123・126・130 の 3 基からなる柱列である。ただし、柱列1 と異なり柱痕跡は確認されていない。検出地点が調査区東端であるため、掘立柱建物の西部に相当する可能性も考えられる。

各ピットの平面形状は円形から隅丸方形を呈する。S P 123 は長径 0.6m、短径 0.5m、深さ 0.2m を測る。S P 126 は S D 19 に切られており、直径 0.55m、深さ 0.1m を測る。S P 130 は東側が

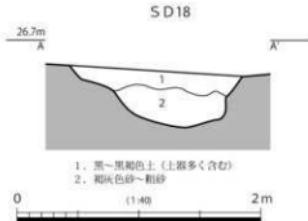


図 50 1997-1 調査 S D 18 断面図

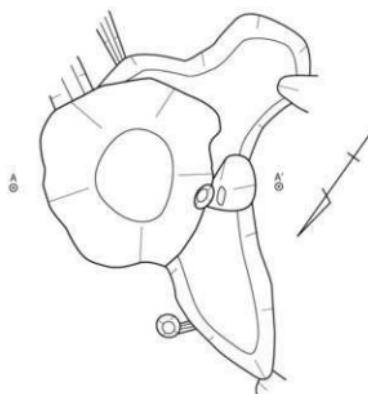


図 51 1997-1 調査 S K 6 平面・断面図

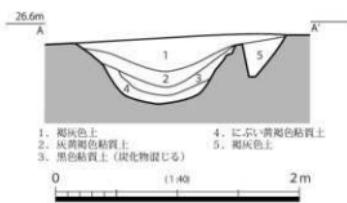
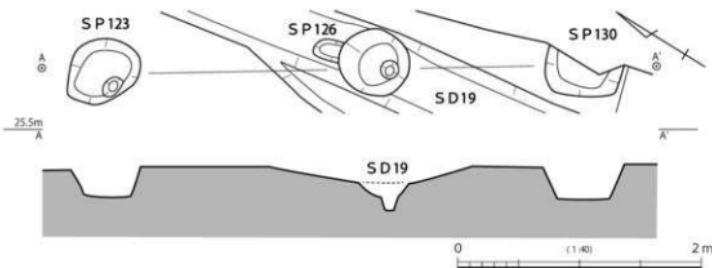
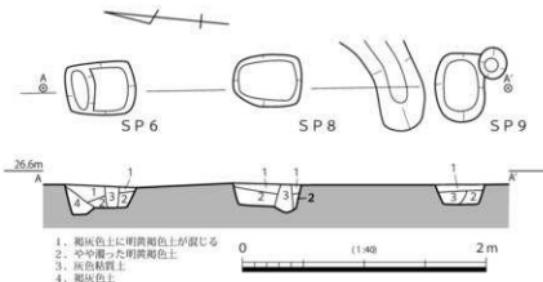


図 52 1997-1 調査 柱列1 平面・断面図



調査区外に位置する。長径 0.6 m、検出幅 0.4 m、深さ 0.28 m を測る。いずれも埋土は黒褐色土の単層で、遺物は出土していない。柱穴の芯々間隔は 1.9 ~ 2.1 m を測る。建物の主軸は N - 30° - W をとる。

**S X 1 (図48・49)** 調査区中央部北側で検出した落ち込みである。S D 9・10・S K 34・35などに切られる。北側は調査区外に延びる。検出長 6.0 m、幅 2.0 m、深さ 0.15 m を測る。埋土は褐灰色土の単層である。遺物は弥生土器が出土した。

古代の遺構 掘立柱建物 1 棟、溝 3 条、土坑 8 基、ピット 43 基を検出した。

**掘立柱建物 1 (図48・54)** 調査区中央部で検出した。南側は調査区外へ延びる。桁行 3 間以上 × 梁行 3 間の側柱建物である。同時併存であるかは不明であるが、中央にはほぼ同時期の遺物が出土する S K 4 が位置している。柱穴は直径 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.1 ~ 0.28 m を測る。

各ピットの平面形状は円形から闊丸方形を呈する。柱穴の芯々距離は 1.7 m を測る。建物の主軸は N - 15° - W をとる。遺物は S P 49 から土師器、S P 64・73 から土師器・須恵器が出土した。

**S K 4 (図54)** 掘立柱建物 1 と重複して検出した土坑である。長径 2.5 m、短径 2.2 m、深さ 0.4 m を測る。平面形状は梢円形を呈する。埋土は 3 層に分かれれる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器が出土した。8 世紀初頭頃である。

**S K 34 (図49)** 調査区中央部で検出した土坑である。S X 1 を切る。平面形状は長方形を呈する。長径 0.7 m、短径 0.45 m、深さ 0.4 m を測る。埋土は灰色砂質土の単層である。遺物は弥生土器が出土した。

**S K 79 (図48)** 調査区中央部で検出した土坑である。S D 9・10 に切られている。平面形状は長方

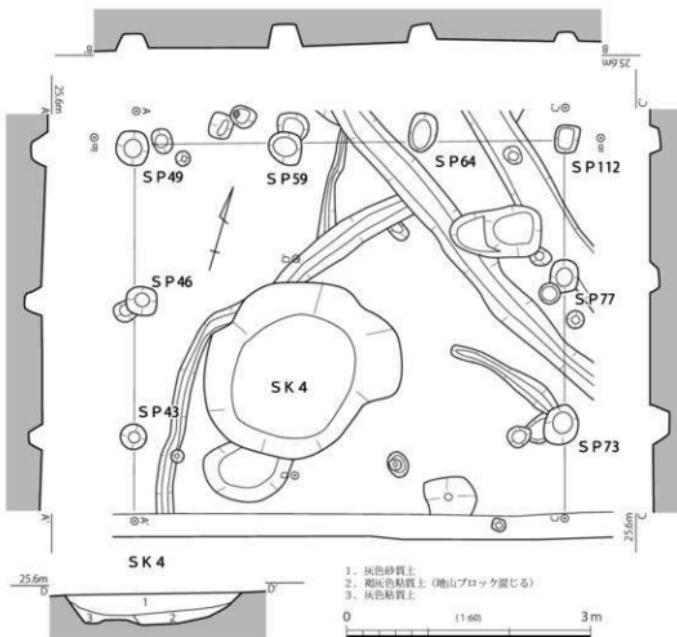


図 54 1997-1 調査 掘立柱建物 1 平面・断面図

形を呈する。長さ1.1m、幅0.6m、深さ0.5mを測る。埋土は灰色砂質土と灰色砂質土に黒褐色土と、明黄褐色粘質土のブロックが混じった層の2層からなる。遺物は土師器・須恵器が出土した。

**S P100 (図48)** 調査区東部で検出したピットである。S K106を切る。平面形状は円形を呈する。直径0.3m、深さ0.12mを測る。埋土は灰色砂質土の単層である。遺物は弥生土器・土師器が出土した。

**S D74 (図48)** 調査区中央部、掘立柱建物1の内側に位置する北西—南東方向に延びる溝である。掘立柱建物1の柱穴であるS P73に切られる。長さ1.5m以上、幅0.2m、深さ8cmを測る。埋土は灰色砂質土の単層である。遺物は磁石が出土した。

中世の遺構 溝4条 (S D9~11・16、図48) を検出している。いずれも北西—南東方向に延びる。埋土はいずれも灰色砂礫の単層である。今回の調査で検出した遺構の内、最も新しい時期の遺構であるため、多くの遺構を切っている。幅は0.25m (S D16) ・0.3m (S D9) ・0.5m (S D10) ・0.8m (S D11) と一定ではない。深さはS D9のみ0.12mとやや深く、他は4~5cm程度である。遺物は弥生土器・土師器・瓦器が出土した。92-3調査(第8節)で検出した中世の溝と同様、耕作に関連する溝の可能性も考えられるが、溝の方位や幅が一定しないため、判断しがたい。

#### (4) 遺物 (図55~62、PL.59~65)

##### 弥生時代の遺構出土遺物 (図55・56)

**S D18出土遺物 (図55-339~352)** 弥生土器・石器・土師器を図示した。

339は弥生土器広口壺である。口縁部形態はBである。端面に凹線3条、頸部に凹線2条を施す。

340～345は弥生土器底部である。340・343は平底を呈する。342・344・345は底部中央が窪む。340・341は底面に木葉痕が認められる。340・342は外面にミガキを施す。343は内面に板ナデを施す。344は外面にミガキ・ケズリを施す。346は弥生土器甕である。口縁部形態はDである。347は弥生土器鉢である。口縁部形態はAである。348・349は弥生土器高杯である。348は脚柱部である。脚柱部は中空である。外面に沈線9条を施す。円盤充填法を施すが、円盤は剥離する。349は脚裾部である。脚裾部形態はBである。端面に凹線3条を施し、円形透かし孔（直径0.7cm）が5個残存する。

351は不明石製品である。長さ10.8cm、幅7.8cm、厚さ0.9cmを測り、重量66.4gを量る。自然縛の可能性も考えられる。

352は大型石包丁である。破損が著しいが、紐孔がわずかに残る。長さ7.2cm、幅7.8cm、厚さ0.9cmを測り、重量66.4gを量る。石材は粘板岩である。

350は土師器甕である。丸底を呈する。外面及び口縁部内面にハケを施し、体部内面に指頭圧痕が認められる。全体の形状が窓え、残存状況も良好であるが、8世紀前半～中頃のもので、混入と考えられる。溝の上面にこの時期の遺構（ピットなど）が存在した可能性も考えられようか。

S D 7 出土遺物（図56-353） 353は弥生土器甕である。外面にハケ、内面に板ナデを施す。口縁端部は欠損する。

S D 3 出土遺物（図56-354） 354は弥生土器底部である。平底を呈する。底部の器壁は薄い。

S K 1 出土遺物（図56-355） 355は弥生土器底部である。平底を呈する。体部は外反しながら立ち上がる。

S K 5 出土遺物（図56-356） 356は弥生土器底部である。平底を呈する。

S D 17 出土遺物（図56-357・358） 357は弥生土器甕である。口縁部形態はDである。外面にハケを施す。358は弥生土器小型台付鉢の体部～底部である。底部が高台状を呈しており、底面中央はくぼむ。外面にハケを施し、内面に工具痕が認められる。

S K 6 出土遺物（図56-359～366） 弥生土器・石器を図示した。

359・360は弥生土器広口壺である。359の口縁部形態はCである。360の口縁部形態はGである。頸部が比較的長い形状を呈する。361は壺体部である。外面に櫛描直線文を施す。

362～364は弥生土器底部である。いずれも平底を呈するが、362・364は底部中央がわずかに窪む。

365は弥生土器高杯である。脚柱部は中実である。裾端部形態はAである。端面に凹線1条を施す。外面及び裾端部内面にハケを施す。

366は打製石錐である。頭部と錐部の境が明瞭で、錐部が細長く延びる。錐部の先端を欠く。残存長3.35cm（頭部2.0cm、錐部1.35cm）、頭部幅2.2cm、錐部幅0.5cm、厚さ0.9cmを測る。重量4.0gを量る。

S P 95 出土遺物（図56-367） 367は弥生土器蓋である。中央に断面三角形状のつまみをもつ。中央がくぼんだ形状を呈する。縁に円孔（直径0.2cm）を穿つ。

S K 134 出土遺物（図56-368） 368は弥生土器底部である。平底を呈する。底面に木葉痕、内面に指頭圧痕が認められる。

S P 71 出土遺物（図56-369） 369はサヌカイトの石核である。長さ6.8cm、幅6.6cm、厚さ1.7cmを測る。重量63.8gを量る。外面に原石の表面が残る。

S K 40 出土遺物（図56-370） 370は弥生土器底部である。中央部がわずかに窪み、高台状を呈する。

S X 1 出土遺物（図57-371～379） 弥生土器・石器・瓦器を図示した。瓦器は混入と考えられる。

371～373は弥生土器広口壺である。371・372の口縁部形態はCである。371は端面下部に刻目

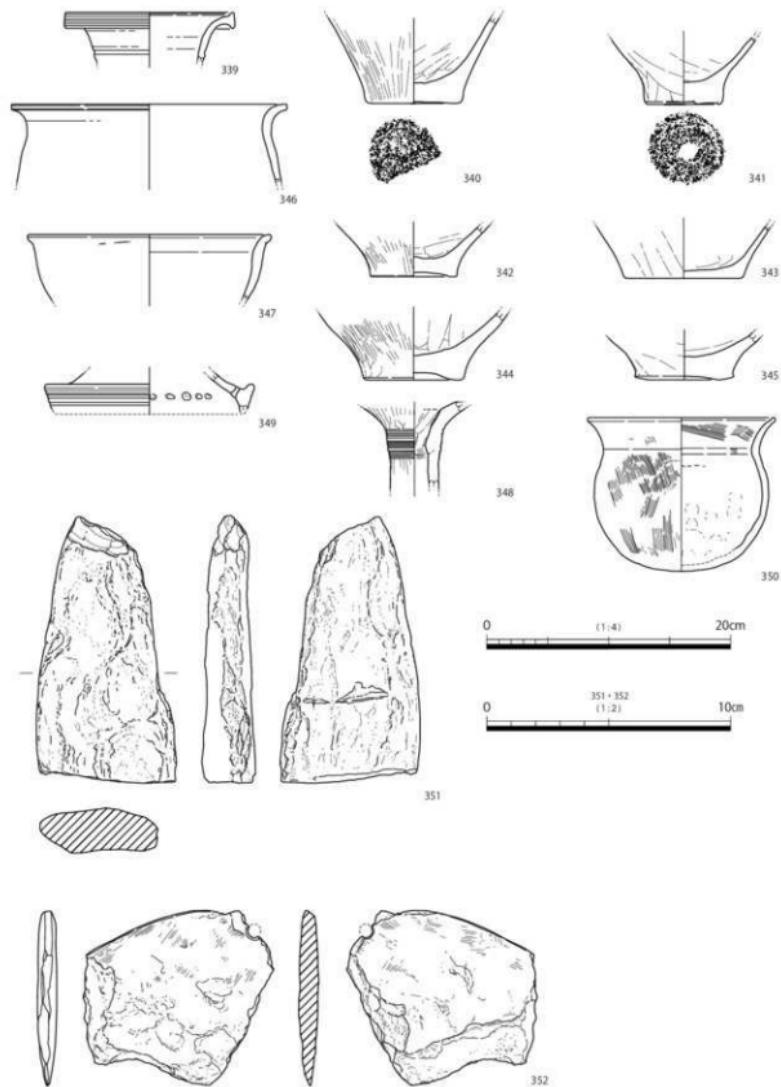


図 55 1997-1 調査 SD 18 出土遺物実測図

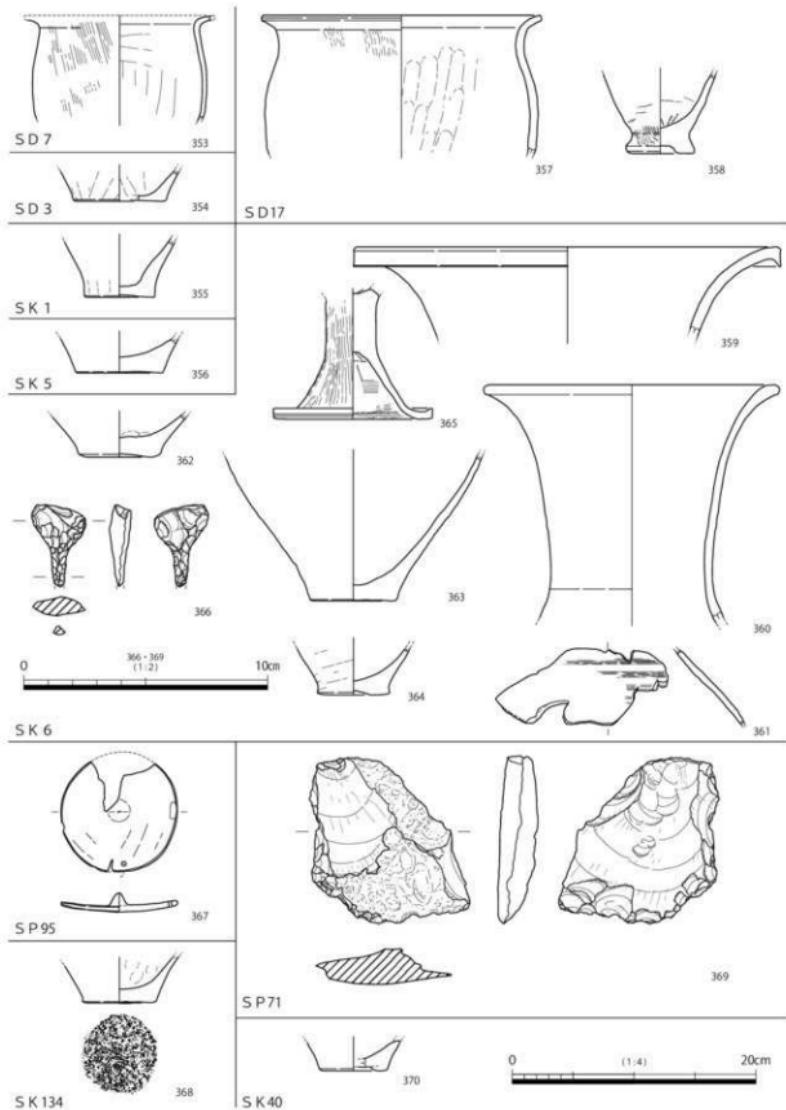


図 56 1997-1 調査 弥生時代遺構出土遺物実測図

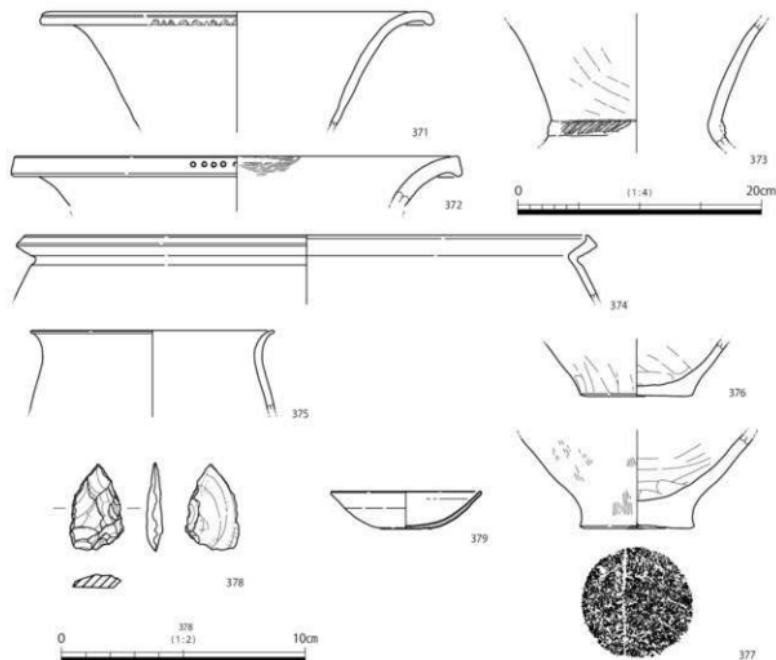


図57 1997-1調査 S X 1出土遺物実測図

文を施す。372は端面に竹管文を横一列に施す。内面にハケを施す。373は頸部と肩部の境にヘラ圧痕突帯をもつ。

374・375は弥生土器裏である。374の口縁部形態はAである。375の口縁部形態はEである。

376・377は弥生土器底部である。共に平底を呈する。377は外面にハケを施し、底面に木葉痕が認められる。

378はサヌカイトの剥片である。長さ3.5cm、幅2.2cm、厚さ0.65cmを測り、重量4.1gを量る。

379は瓦器底である。ほぼ痕跡と化した高台をもつ。和泉型IV期頃（13世紀後半）であろう。

#### 古代の遺構出土遺物（図58・59-380～410）

古代の遺構として報告しているのは、前述したように、遺構埋土の土質・色調等を勘案した時期区分によっている。そのため、図示した遺物が弥生土器のみの遺構でも本項で報告しているものがある。図示した古代の土器は概ね8世紀初頭と考えられる。

S K 4出土遺物（図58-380～398） 弥生土器・土師器・須恵器を図示した。

380・381は弥生土器底部である。ともに平底を呈する。380は体部が斜め上方に延び、残存する上端で体部最大径を測る。381は底面に十字状の線刻が認められる。

382・383は土師器杯ないし皿である。382は内面にヘラミガキを施す。383は内面にハケを施す。

384は土師器杯Cである。外面にケズリ、内面に放射状暗文を施す。

397・398は土師器裏である。共に口縁部が外方へ開き、外面にハケを施す。397は口縁内面にもハ

ケを施す。

385～387は須恵器杯ないし皿B蓋である。いずれも外面に自然釉がかかる。385は扁平なつまみをもち、口縁部に断面三角形状のかえりをもつ。386はつまみを欠く。扁平な天井部を持ち、口縁部は垂下して、断面三角形状を呈する。387は宝珠形のつまみをもつ。天井部の中央が窪む。口縁部は垂下して、断面三角形状を呈する。388～392は須恵器杯Aである。390は底部と口縁部境の屈曲が明瞭である。391は口縁部に歪みが認められる。393～395は須恵器杯Bである。高台は393が「ハ」字状に開き、394・395は断面台形状を呈する。393は外面に自然釉がかかり、別個体片が溶着する。396は須恵器台付壺である。胸部最大径を測る位置に沈線2条を施し、その間に刺突文を帶状に巡らせる。高台は剥離ないし打ち欠きによって欠損する。高台には3方向の方形透かし孔を穿っていた痕跡

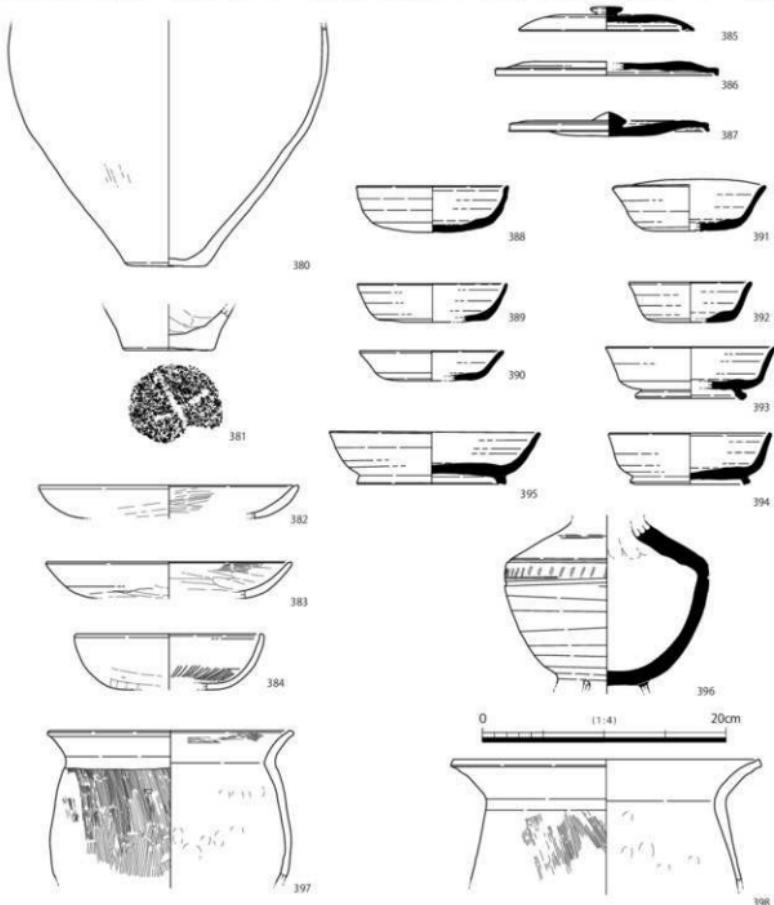


図58 1997-1調査 SK 4出土遺物実測図

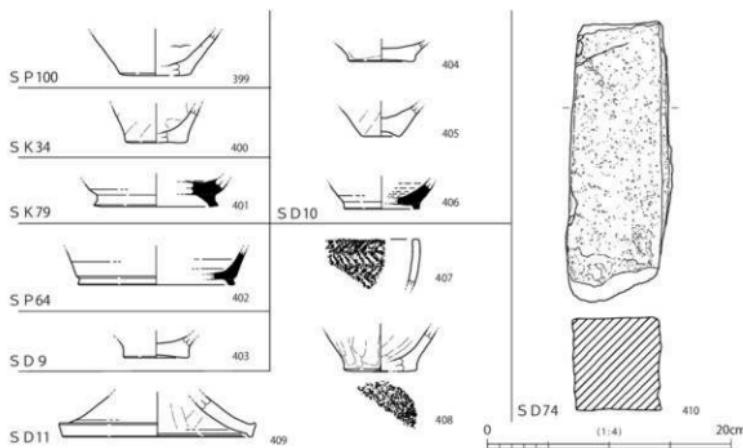


図59 1997-1調査 古代・中世遺構出土遺物実測図

が底部外面に認められる。

S P 100出土遺物 (図59-399) 399は弥生土器底部である。平底を呈する。

S K 34出土遺物 (図59-400) 400は弥生土器底部である。平底を呈する。

S K 79出土遺物 (図59-401) 401は須恵器壺底部である。断面台形状の高台をもつ。

S P 64出土遺物 (図59-402) 402は須恵器杯Bである。断面台形状の高台をもつ。

S D 9出土遺物 (図59-403) 403は弥生土器底部である。底部中央がわずかに窪む。

S D 10出土遺物 (図59-404～406) 404・405は弥生土器底部である。404は中央がわずかに窪む平底を呈する。405は中央が大きく窪む。

406は須恵器小壺の底部である。断面台形状の高台をもつ。

S D 11出土遺物 (図59-407～409) 407は弥生土器壺である。内縁する口縁部で、外面に綾杉状の刺突文を施す。417(図60)と同一個体の可能性もある。408は弥生土器底部である。平底を呈する。底面に木葉痕が認められる。409は弥生土器高杯である。脚裾部で、裾端部形態はBである。

S D 74出土遺物 (図59-410) 410は砥石である。長さ23.0cm、幅8.8cm、厚さ8.4cmを測り、断面形状は四角形を呈する。重量は3013.1gを量る。石材は砂岩である。1面に使用痕が認められる。

包含層出土遺物 (図60～62-411～454) 弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・石器を図示した。弥生時代中期～中世にかけての遺物が出土した。

弥生土器 (図60・61-411～441) 411～421は壺である。411～416・419～421は広口壺である。

415の口縁部形態はA 1である。端面に凹線4条・円形浮文・刻み目、口縁内面に櫛描列点文を施す。

411・412・416・419～421の口縁部形態はBである。端面の凹線は2条(412・421)と3条(416・420)をそれぞれ施す。416は凹線上に円形浮文、420は口縁内面に櫛描列点文を施す。419

は口縁部に円孔(直径0.3cm)を3個穿つ。413の口縁部形態はCである。413は内外面にハケを施す。

417は内縁する口縁部をもつ。外面に綾杉状の列点文を施す。418は体部片である。外面に櫛描直線文・櫛描波状文・斜格子文、内面にケズリを施す。422～425・430・431は甕である。口縁部形態は、422がD、431がEである。431は外面にハケを施す。423・424・430の口縁部形態はAであ

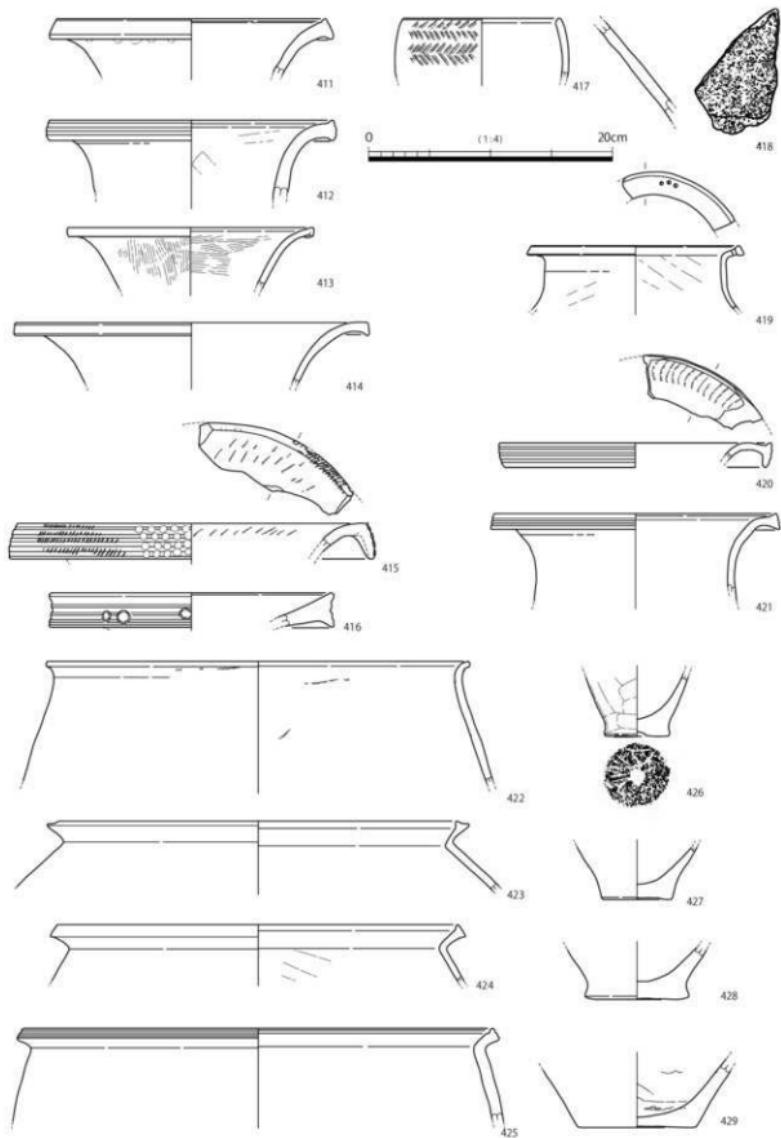


図 60 1997-1 調査 包含層出土遺物実測図（1）

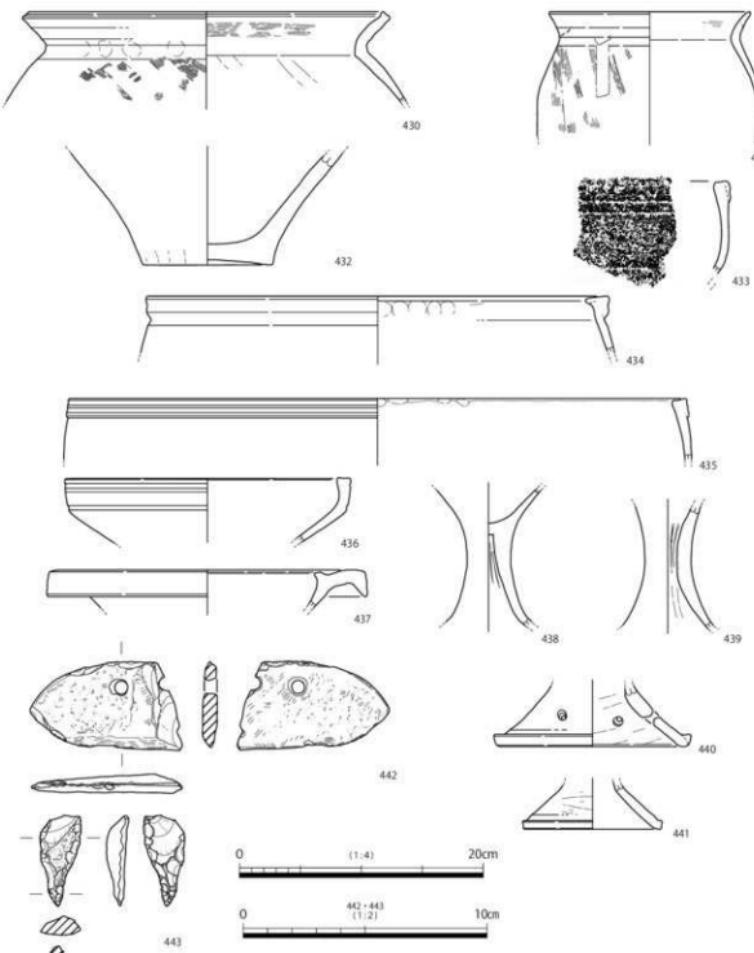


図 61 1997-1 調査 包含層出土遺物実測図 (2)

る。425は端面に凹線 2 条を施す。430は口縁部内面及び体部外面にハケを施す。426～429・432は底部である。いずれも平底を呈する。426は底部中央が窪む。底面に木葉痕が認められる。433～435は鉢である。いずれも口縁部形態は C である。433は端面に凹線 1 条、外面下端に沈線 1 条、口縁部下に柳描直線文及び柳描波状文を施す。434は外面に煤が付着する。435は端面に凹線 2 条を施す。436～441は高杯である。436の口縁部形態は B である。外面に凹線 2 条を施す。437の口縁部形態は A 2 である。口縁部と杯部の境に突帶 1 条が巡る。口縁部はやや厚手である。438・439は脚柱部である。共に中空の脚柱部で、内面にシボリ痕が認められる。439は円盤充填法によって杯底部を塞いでいたよ

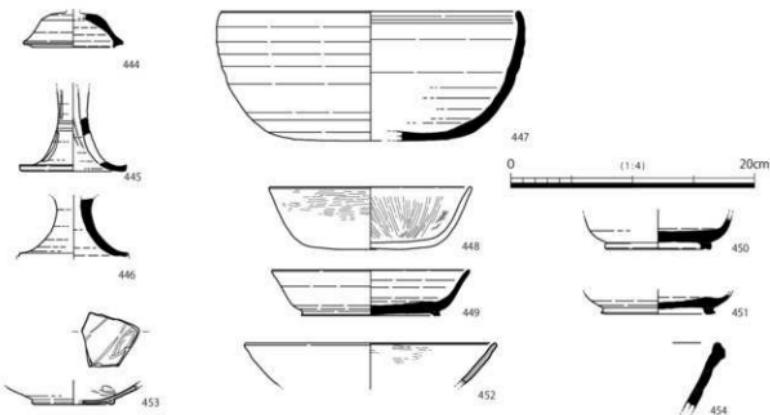


図62 1997-1調査 包含層出土遺物実測図（3）

うであるが、円盤は剥離している。440・441は裾部である。440の裾端部形態はAである。円形透かし孔（直径0.5cm）は1個が残存する。441の裾端部形態はCである。

**石器（図61-442・443）** 442は磨製石包丁である。平面形状は直線刃半月形を呈する。紐孔（直径0.5cm）を二個穿つ。残存長6.2cm、幅3.6cm、厚さ0.65cmを測る。重量は20.7gを量る。石材は粘板岩である。

443は打製石錐である。全体が多角形を呈し、尖った部分に錐部を作り出す。一部に原石の表面が残る。長さ3.7cm、幅1.7cm、厚さ0.95cmを測る。重量は4.2gを量る。石材はサヌカイトである。

**古墳時代の土器（図62-444～446）** いずれも須恵器である。444は蓋である。天井部は高く盛り上がる。つまみは欠損する。口縁部にかえりをもつ。焼成不良で、灰白色を呈する。445・446は高杯である。445は脚柱部に二段の方形透かし孔を穿つ。外面に自然軸がかかる。446は裾端部が欠損する。

**古代・中世の土器（図62-447～454）** 447は須恵器鉢である。底部から丸みを帯びた体部が内縛して立ち上がる。やや焼成が悪く、瓦質土器気味になっている。

448は土師器鉢Aである。外面にヘラミガキ、内面に放射状暗文を施す。

449～451は須恵器鉢Bである。いずれも断面台形状の高台をもつ。449は口縁部が外方へ開いて延びる。450・451は底部から口縁部境の屈曲が強い。

452・453は瓦器椀である。452は内面口縁部直下に沈線1条およびミガキを施す。小片のため定かではないが、楕葉型III-1期頃（12世紀中頃）であろうか。453は断面半円形を呈する高台をもつ。見込みに平行線状暗文を施す。

454は東播系須恵器鉢である。口縁部形態はB 2類である。口縁端部外面に軸がかかる。

## （5）小結

1997-1調査では、弥生時代・古代・中世の遺構・遺物を検出した。弥生時代については溝、柱列などの中期の遺構・遺物を確認しており、当該地は集落域の一部であったと想定される。

また、8世紀初頭の掘立柱建物・土坑などの遺構も確認した。南側120mに位置する1992-1調査（第6節）では、7世紀後半の遺構・遺物を確認している。茨木市域では、この時期の遺構・遺物の報告事例は少なく、集落動態を考える上で重要な成果といえる。

表2 1997-1調査 遺構一覧表(1)

遺構名	規模(m)			遺物	時期	遺構名	規模			遺物	時期
	長さ	幅	深さ				長さ	幅	深さ		
S P 1	0.5以上	0.35	0.07	発生	S P 82	0.3	0.3	0.4			古代
S P 2	0.7	0.25以上	0.15			S P 83	0.25	0.25	0.25	土師器	古代
S P 3	0.4	0.25以上	0.1	発生	S P 84	0.2	0.2	0.05	土師器・須恵器	古代	
S P 4	0.25	0.25	0.28	発生	S P 85	0.35	0.25	0.17	発生	弥生	
S P 5	0.25	0.2	0.11	発生	S P 87	0.5	0.4	0.16	発生	弥生	
S P 6	0.55	0.45	0.23	発生	S P 88	0.3以上	0.1以上	0.1			不明
S P 7	0.3	0.25	0.14	発生	S P 89	0.2	0.1以上	0.1			不明
S P 8	0.55	0.4	0.19	発生	S P 90	0.25	0.25	0.17			不明
S P 9	0.55	0.4	0.13	発生	S P 91	0.35	0.3	0.14			不明
S P 10	0.3	0.25	0.17	発生	S P 92	0.3	0.3以上	0.33			不明
S P 11	0.3	0.25	0.2	発生	S P 93	0.25	0.25	0.1			不明
S P 12	0.25	0.25	0.22	発生	S P 94	0.2	0.2	0.2			不明
S P 13	0.3	0.25	0.17	古代	S P 95	0.3	0.25	0.27	発生	弥生	
S P 14	0.15	0.15	0.1	古代	S P 96	0.25	0.25	0.17			不明
S P 15	0.3	0.3	0.06	古代	S P 97	0.4	0.2	0.38			古代
S P 16	0.2	0.2	0.1	古代	S P 98	0.25	0.2	0.14	発生	弥生	
S P 17	0.15	0.15	0.07	発生	S P 99	0.35	0.15	0.1			不明
S P 18	0.25	0.2	0.1	土師器	S P 100	0.3	0.3	0.12	発生・土師器	古代	
S P 19	0.4	0.25	0.23	発生	S P 101	0.3	0.3	0.1			古代
S P 20	0.2	0.15	0.06	発生	S P 102	0.3	0.2	0.2			不明
S P 21	0.25	0.25	0.14	土師器	S P 103	0.3	0.25	0.12			不明
S P 22	0.2	0.2	0.05	発生	S P 104	0.25	0.25	0.04			不明
S P 23	0.3	0.2	0.07	発生	S P 105	0.3	0.25	0.33	土師器・須恵器	古代	
S P 24	0.2	0.2	0.1		S P 107	0.4	0.35	0.07			不明
S P 25	0.25	0.2	0.5		S P 108	0.2	0.15以上	0.06			不明
S P 26	0.15	0.15	0.33	土師器	S P 109	0.2	0.2	0.14			古代
S P 27	0.15	0.15	0.1		S P 110	0.15	0.15	0.04			不明
S P 28	0.15	0.15	0.12	発生	S P 111	0.9	0.4	0.04	発生	古代	
S P 29	0.25	0.25	0.04	発生	S P 112	0.35	0.3	0.1			古代
S P 31	0.45	0.35	0.42	発生	S P 113	0.3	0.25	0.18	発生	弥生	
S P 32	0.45	0.4	0.44	発生	S P 114	0.25	0.25	0.2	発生	弥生	
S P 33	0.25	0.25	0.12	土師器	S P 115	0.2	0.2	0.27	発生	弥生	
S P 36	0.45	0.35	0.06	土師器	S P 116	0.45以上	0.4	0.16	発生	弥生	
S P 37	0.5	0.4	0.1	発生	S P 117	0.35	0.25	0.1	発生	古代	
S P 38	0.4	0.3	0.1	古代	S P 118	0.45	0.2以上	0.2	発生	古代	
S P 42	0.4	0.35	0.09	発生	S P 119	0.2	0.15	0.24	発生	古代	
S P 43	0.3	0.3	0.18	古代	S P 120	0.6	0.6	0.15	土師器・須恵器	古代	
S P 45	0.3	0.25	0.1	土師器	S P 121	0.35	0.3	0.1			古代
S P 46	0.4	0.4	0.2	古代	S P 122	0.2	0.2	0.15			不明
S P 47	0.25	0.25	0.18	古代	S P 123	0.6	0.5	0.2	発生	弥生	
S P 48	0.25	0.25	0.53	古代	S P 125	0.25以上	0.2	0.07			不明
S P 49	0.4	0.4	0.2	土師器	S P 126	0.55	0.55	0.1	発生	弥生	
S P 50	0.15	0.15	0.2	古代	S P 127	0.25	0.25	0.06			古代
S P 51	0.3	0.25	0.17	古代	S P 128	0.35	0.3	0.07	発生	弥生	
S P 52	0.35	0.3	0.22	古代	S P 129	0.4	0.25	0.04			不明
S P 53	0.3	0.25	0.53	古代	S P 130	0.6	0.4以上	0.28	発生	弥生	
S P 54	0.3	0.25以上	0.06		S P 131	0.3	0.3	0.35			不明
S P 55	0.4	0.3	0.13	発生	S P 132	0.25	0.2	0.35			不明
S P 56	0.3	0.25	0.1	古代	S P 133	0.3	0.15	0.22			不明
S P 57	0.3	0.3	0.24	古代	S P 134	0.25	0.2	0.25			不明
S P 58	0.4	0.35以上	0.25	古代	S P 135	0.15	0.15	0.14	発生	弥生	
S P 59	0.4	0.4	0.3	古代	S P 136	0.4	0.4	0.06	発生	弥生	
S P 60	0.35	0.25	0.15	発生	S P 137	0.2	0.2	0.1	発生	弥生	
S P 61	0.35	0.25	0.1	土師器	S P 138	0.2	0.2	0.18	発生	弥生	
S P 62	0.15	0.15	0.27		S P 139	0.15	0.15	0.07	発生	弥生	
S P 64	0.5	0.35	0.14	土師器・須恵器	S D 1	2.3以上	0.6	0.14	須恵器	古代	
S P 65	0.3	0.3	0.42	古代	S D 2	2.4以上	0.25	0.04	発生	弥生	
S P 66	0.25以上	0.2	0.1		S D 3	1.1以上	0.3	0.05	発生	弥生	
S P 67	0.15	0.15	0.1		S D 4	1.8以上	0.2	0.03	発生	弥生	
S P 69	0.15	0.15	0.1		S D 5	1.7以上	0.2	0.04	発生	弥生	
S P 70	0.3	0.25	0.22	土師器・須恵器	S D 6	1.8	0.45	0.34	土師器	古代	
S P 71	0.6	0.42以上	0.4	発生・石器	S D 7	4.7以上	0.2	0.06	発生	弥生	
S P 72	0.3	0.25以上	0.1		S D 8	1.4以上	0.15	0.06			不明
S P 73	0.5	0.4	0.25	土師器・須恵器	S D 9	10.0以上	0.3	0.15	発生・土師器・瓦器	中世	
S P 75	0.2	0.2	0.32	発生	S D 10	9.0以上	0.5	0.05	発生・土師器・須恵器	中世	
S P 76	0.25	0.25	0.1	古代	S D 11	3.6以上	0.8	0.05	発生・土師器	中世	
S P 77	0.4	0.3	0.1	古代	S D 12	2.3以上	0.2	0.08			不明
S P 78	0.3	0.2	0.01		S D 13	1.6以上	0.2	0.1			不明
S P 80	0.35	0.1以上	0.06		S D 14	2.1以上	0.2	0.1			不明
S P 81	0.15	0.15	0.2		S D 15	2.0	0.2	0.03			不明

表2 1997-1調査 遺構一覧表(2)

遺構名	規模(m)			遺物	時期	遺構名	規模			遺物	時期
	長さ	幅	深さ				長さ	幅	深さ		
SD16	3.2以上	0.25	0.04	土師器	中世	SK7	1.1以上	0.6以上	0.1	弥生	弥生
SD17	3.9以上	0.8	0.12	弥生	SK30	1.1	0.8	0.27	弥生・土師器・須恵器	古代	
SD18	9.2以上	1.4	0.5	弥生・石器・土師器	弥生	SK34	0.7	0.45	0.4	弥生	古代
SD19	8.2以上	0.6	0.1	弥生	SK35	0.4以上	0.35	0.6		古代	
SD20	1.5以上	0.2	0.1	弥生	SK39	1.4	0.8	0.1	弥生	弥生	
SD44	1.1以上	0.3	0.1	弥生	SK40	1.6以上	0.45	0.1	弥生	弥生	
SD74	1.5以上	0.2	0.1	石	古代	SK41	1.0	0.8	0.1	弥生	弥生
SD124	2.6以上	0.6	0.33	不明	SK63	0.95	0.55	0.38	土師器	古代	
SK1	3.3	1.5	0.05	弥生	SK68	1.1	0.75	0.15		古代	
SK2	2.1以上	0.7	0.17	弥生	SK79	1.1	0.6	0.5	土師器・須恵器	古代	
SK3	2.1	0.6	0.1	弥生・土師器	古代	SK86	1.3以上	0.55	0.25	弥生	弥生
SK4	2.5	2.2	0.4	弥生・土師器・須恵器	古代	SK106	1.5以上	1.0	0.1	弥生	弥生
SK5	2.7	1.4	0.1	弥生	SK134	2.35	0.5	0.2	弥生	弥生	
SK6	1.6	1.5	0.5	弥生・石器	弥生	SK1	6.0以上	2.0	0.15	弥生・石器・瓦器	弥生

## 第10節 2001-1調査

### (1) はじめに

上郡一丁目で計画された倉庫建築に伴って行われた発掘調査である。調査地は、国道171号線の東側に位置し、現在の茨木川流路に近接する(図1)。調査時点においても倉庫自体の営業活動は継続して行われていたことと、既存建物部分では埋蔵文化財が確認できなかったことから、A～Cの3調査区において調査を行った(図63)。

各調査区の規模は、A区が東西5m×南北14m(調査面積:70m<sup>2</sup>)、B区が東西2m×南北13m(調査面積:26m<sup>2</sup>)、C区が東西13m×南北8m(調査面積:104m<sup>2</sup>)である。

なお、「平成13年度発掘調査概報」[茨木市教育委員会2002](以下、「H13概報」という)で、調査の概要を報告した。本節は資料を再整理した上で「H13概報」を基に改めて報告する。

### (2) 基本層序(図64・65)

調査地の旧地形は西から東に向かって下がっている。そのため倉庫とする際に盛土を施し平坦にされ

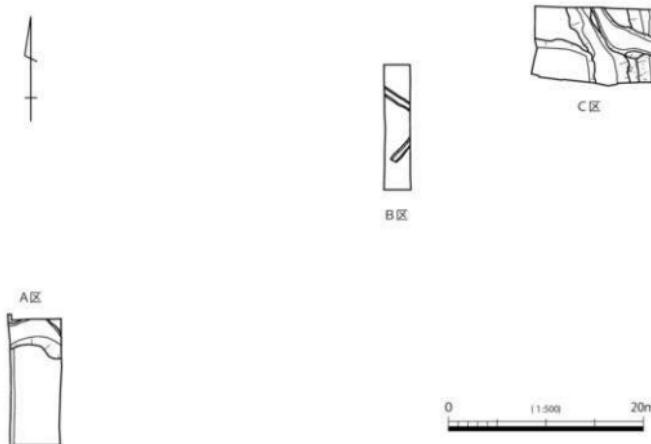


図63 2001-1調査 調査区配置図

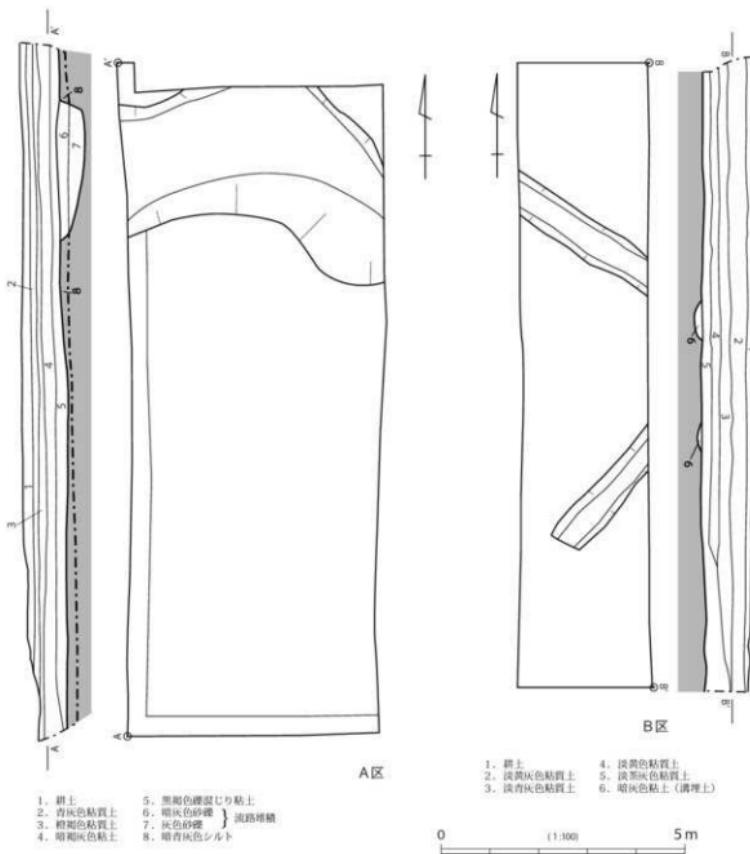


図 64 2001-1 調査 A・B区平面・土層断面図

ている。これについては『H 13 概報』において、「西の調査区では約 2.5 m、東調査区では約 3.7 m の盛土がなされていた。」とある。ただし、原図に記載されていなかったため、図 64・65 に記載していない。さらに、原図に標高値が記載されていなかったため、各構造面の高低差については不明である。

A・B区では 1 層目に近・現代に帰属すると想定される耕作土を確認しており、A区では耕作土以下 0.6 m、B区では耕作土以下 1.0 m で遺構面を検出している。C区では耕作土を確認しておらず、堆積状況が異なっている。これは C区が最も現在の茨木川に近接しているため、その影響を受けている可能性がある。C区では遺構面を捉えきれず、ほぼ全体が流路等の堆積と考えられ、その想定と符合する。

### (3) 遺構 (図 63～65、PL.14)

A区 (図64) 調査区北側で幅約 1.7～2.0m、深さ約 0.52m を測る東西方向の流路を検出した。検出範囲は一部に留まるが、蛇行しているように見受けられる。遺物は弥生時代中期から後期の土器が出土

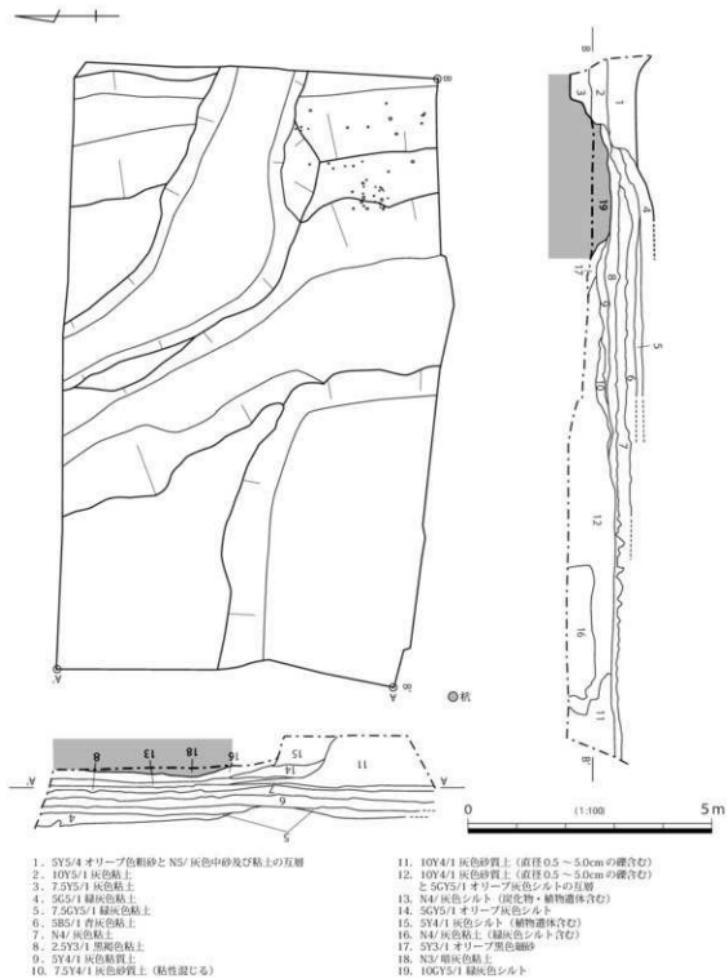


図65 2001-1調査 C区平面・土壌断面図

した。

B区(図64) 調査区中央部で直交する方向に延びる2条の溝を検出した。ただし、調査区外に続いているので、実際に交差しているかどうかは不明である。溝はそれぞれ幅約0.45m、深さ約0.2mを測る。溝から弥生時代中期の土器が出土した。『H13概報』においては、一辺の長さが3.5m以上の方形周溝墓の可能性を考えたが、それを積極的に判断する資料を新たに見出すことはできなかった。

C区(図65) 調査区中央部から東側において、3条の溝ないし流路の切り合いを検出した。南東部

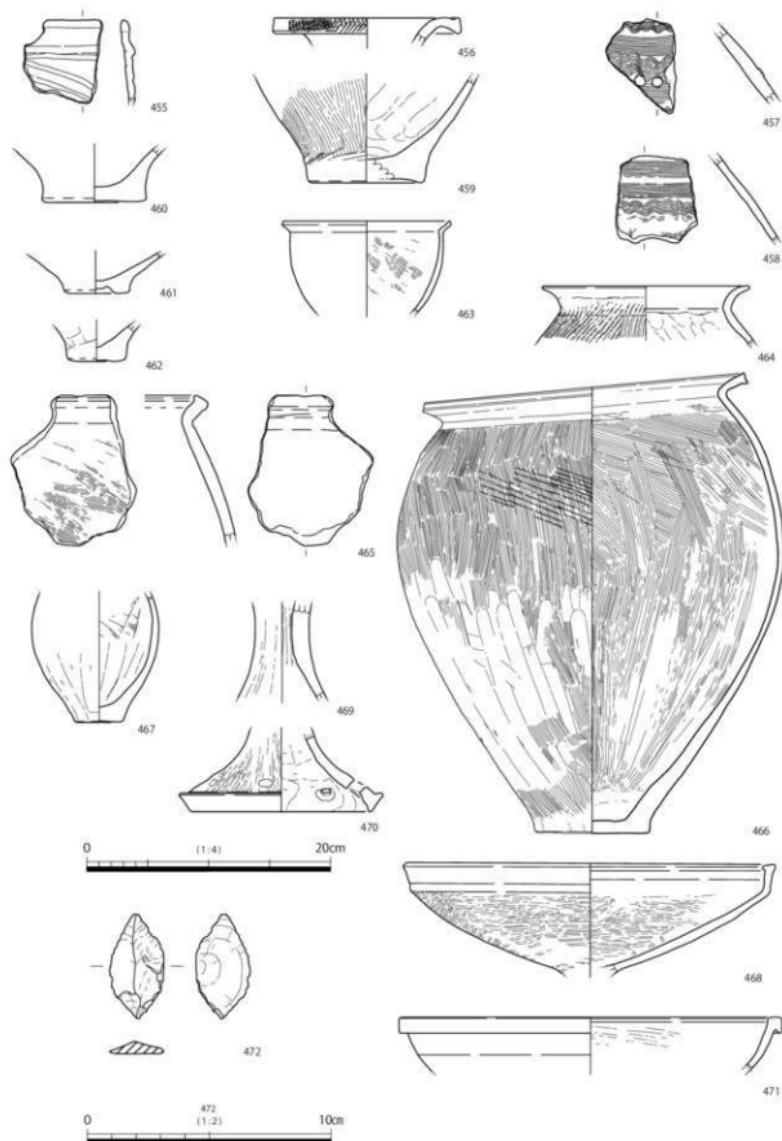


図66 2001-1調査 出土遺物実測図（1）

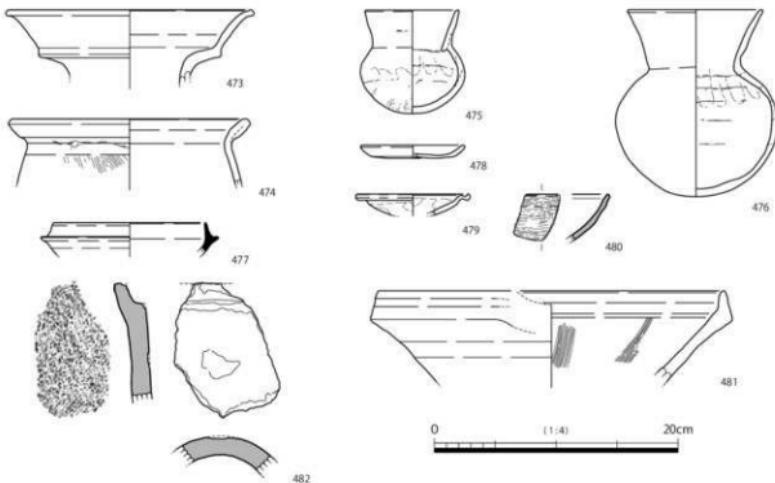


図 67 2001-1 調査 出土遺物実測図（2）

では溝に伴うものか不明であるが、杭を多数検出している。南西部では深さ0.5~0.6mの落ち込みないし湿地状の遺構を検出した。いずれの遺構からも弥生時代~古墳時代にかけての遺物が出土した。

#### (4) 遺物（図66・67、PL.65~67）

『H 13概報』では、遺物は各調査区および各遺構から出土していると報告した。しかし、一部を除き出土地点を特定できなかったため、本報告では一括して遺物の時期ごとに報告する。

縄文時代の遺物（図66-455） 455は縄文土器である。口縁部片で、外面に沈線3条を施す。後期前葉頃と推測する。

弥生時代の遺物（図66-456~472・図67-473） 456は広口壺である。口縁部形態はBである。端面に斜格子文を施す。457・458は壺体部片である。457は外面に櫛描波状文及び櫛描直線文を交互に施し、円形浮文2個が残存する。458は外面に櫛描直線文及び櫛描波状文を施す。459~462は底部である。459・460・462は平底を呈する。459・462は外面にハケを施す。461は底部中央が窪み、器壁が薄くなっている。463~467は甕である。463の口縁部形態はDである。内面にハケを施す。464の口縁部形態はEである。外面にハケを施す。体部内面に指頭圧痕が認められる。465の口縁部形態はAである。内面にタタキを施す。466は全形を復元できた。口縁部形態はDである。端面に凹線1条を施す。体部外間にタタキ後ハケおよびナデ、体部内面にハケを施す。底部は平底を呈する。467は体部から底部にかけて残存する小形の甕である。体部外面上半にケズリ、体部内面上半にハケ、下半にナデを施す。468~470は高杯である。468は杯部である。口縁部形態はBであり、上端が面を成す。杯部内外面にミガキを施す。469は中空の脚柱部である。外面にミガキを施し、内面にシボリ痕が認められる。470は裾部である。裾端部形態はBである。外面にミガキ、内面にケズリを施す。円形透かし孔（直径1.2cm）を8方向に穿つ。471は鉢である。口縁部形態はCである。ただし、折り返した下端は器面に接していない。内面にハケを施す。473は二重口縁壺である。口縁部は外方へ開き、端部は丸く収める。

472はサヌカイトの剥片である。長さ4.25cm、幅2.25cm、厚さ0.5cmを測る。重量は4gを量る。

一見、石鎚のような形態であるが、刃部が形成されていないことから刺片とした。

古墳時代の遺物（図67-474～482） 474～476は土師器である。

474は甕である。口縁部を下方に折り返し、端部は肥厚する。体部外面にハケを施す。475は小形丸底壺である。球形の体部から直立する口縁部が延びる。体部外面にハケ後ナデを施し、体部内面に指頭圧痕が認められる。辻編年2期と推測される〔辻 1999〕。476は壺である。球形の体部をもつ。頸部内面に指頭圧痕が認められる。

477は須恵器杯身である。受部は短く水平に延び、口縁部はわずかに内傾して立ち上がる。TK 10型式M T 85号窯段階と推測される。

中世の遺物（図67-478～482） 478・479は土師器皿である。478は平らな底部から口縁部が屈曲して斜め上方に延びる。口径から判断して、12世紀後半の所産である。479は口縁端部は「て」の字状を呈する。口径から判断して、11世紀代の所産と推測される。

480は瓦器椀である。口縁端部内面に沈線1条、内外面にミガキを施す。棹葉型II～III期（12世紀～13世紀初頭）である。

481は備前焼鉢である。口縁部は上方に拡張し、面を成す。内面に櫛状工具により掘目（7条一単位）を施す。乗岡編年中世5期（15世紀後半）〔乗岡 2000〕と考えられる。

482は丸瓦である。玉縁部分が残存する。四面に布目圧痕が認められる。

## （5）小結

2001-1調査では、各調査区において溝ないし流路を検出した。特にC区では複数の流路が複雑に切り合う状態を確認している。C区は中河原遺跡内の各調査において最も茨木川に近接した調査区であるため、その影響を受けていると考えられる。

出土した遺物の年代は縄文・弥生・古墳・中世と多岐にわたっている。流路によって上流から運ばれてきた遺物も含まれていると考えられるが、図示したものは磨滅が比較的少なく、長距離を流されてきたものとは考え難い。そのため、比較的近い位置に活動の場があったと考えられる。

## 第11節 2007-1調査

### （1）はじめに

郡四丁目の倉庫敷地内で計画された油水分離槽の設置工事に伴って実施された発掘調査である。

調査区は東西7m、南北3.5m（調査面積：24.5m<sup>2</sup>）である。なお、『平成20年度発掘調査概報』〔茨木市教育委員会 2010〕（以下、「H 20概報」という）で調査の概要を報告した。本節は資料を再整理した上で、「H 20概報」を基に改めて報告する。

### （2）基本層序（図68）

基本層序は1～4層に大別される。

第1層 盛土（造成に伴う盛土・層厚1.4m）

第2層 緑灰色粘質土（中世遺物包含層・層厚0.15m）

第3層 黒褐色粘質土（弥生時代遺物包含層・層厚0.2m・下面で遺構面を検出）

第4層 黄褐色粘質土（地山）

なお、調査区東壁では、第2層及び第3層は後世の擾乱・削平を受けており、確認できなかった。

### （3）遺構（図68、PL.15）

第3層下面において遺構の検出を行った。検出した遺構は溝2条、ピット9基である。

S D 1 幅0.6m、深さ0.4mを測る。調査区内を北東～南西方向に延びる。断面図からは包含層（第3

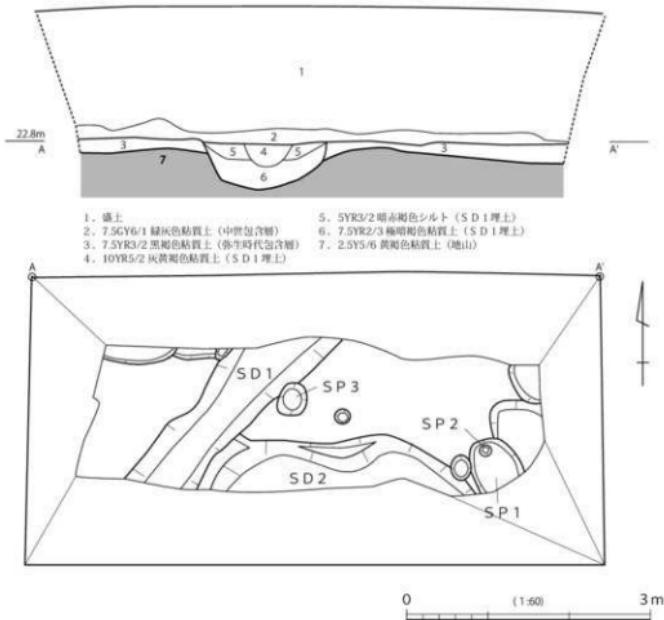


図 68 2007-1 調査 調査区平面・土層断面図

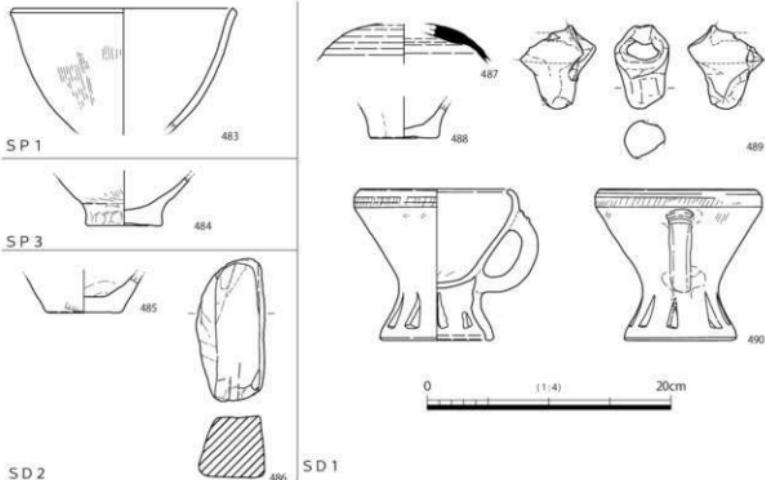


図 69 2007-1 調査 遺構出土遺物実測図

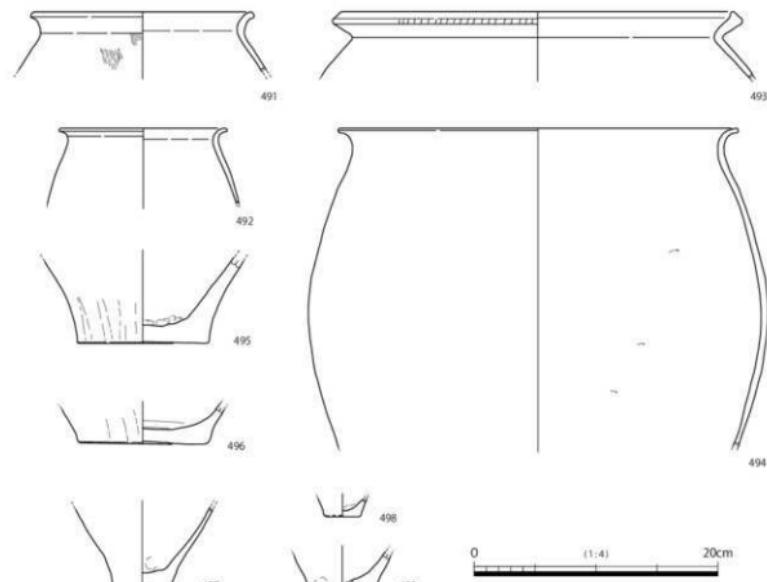


図 70 2007-1 調査 包含層出土遺物実測図

層)を切り込んでいることが確認できる。『H20概報』においては、「方形周溝墓の東側周溝」とした。確かに、SD1の西側の立ち上がりは墳丘を連想させるが、積極的にこれを東側と判断できる資料は見出せなかった。遺物は中期後葉の弥生土器が出土した。

**SD2** 調査区南端で検出した。検出長3.4m、検出幅0.6m、深さ0.24mを測る。遺物は弥生土器・石器が出土した。

**SP1** 調査区南東部で検出した。検出長0.5m、幅0.6m、深さ0.1mを測る。遺物は弥生土器が出土した。

**SP2** SP1の底で検出した。直径0.15m、深さ5cmを測る。遺物は弥生土器が出土した。

**SP3** 調査区中央部で検出した。SD1を切る。長径0.4m、短径0.35m、深さ0.25mを測る。遺物は弥生土器が出土した。

#### (4) 遺物 (図 69・70-483 ~ 499、PL.67・68)

##### 遺構出土遺物 (図 69-483 ~ 490)

**SP1** 出土遺物 (図 69-483) 483は弥生土器鉢である。口縁部形態はAである。

**SP3** 出土遺物 (図 69-484) 484は弥生土器底部である。突出した平底を呈し、底部外面に指頭圧痕が認められる。体部外面にハケを施す。

**SD2** 出土遺物 (図 69-485・486) 485は弥生土器底部である。平底を呈する。体部外面にハケを施し、体部内面に指頭圧痕が認められる。

486は砥石である。長さ11.7cm、幅5.7cm、厚さ5.1cmを測り、重量509gを量る。石材は不明である。

**S D 1 出土遺物（図69-487～490）**

487は須恵器杯蓋である。天井部のみが残存する。

488は弥生土器底部である。平底を呈する。489は不明土製品である。図の上部に円孔が貫通する。下部は中実の円柱状を呈する。複数の部材を組み合わせるものであろうか。490は弥生土器把手付台付鉢である。口縁部は内側に内縫し、口縁端部外面に刺突文を施す。台部に三角形状の透かし孔を9方向に穿つ。断面四角形を呈する環状の把手をもつ。把手上部と体部との接合部分に突帯2条をもつ。

**包含層出土遺物（図70-491～499）**

中世の遺物は細片で図化できなかっただため、図示した遺物は弥生土器のみである。

491～494は弥生土器甕である。491・492の口縁部形態はDである。491は体部外面にハケを施す。493の口縁部形態はAである。口縁端部外面に刺突文を施す。494の口縁部形態はEである。体部外面にケズリを施す。495～499は弥生土器底部である。いずれも平底を呈する。495は外面に板ナデ、496は外面にケズリ後ヨコナデを施す。

**(5) 小結**

2007-1調査では、中世及び弥生時代の遺物包含層を確認した。限られた範囲の調査であったが、弥生時代中期後半の溝（S D 1）を検出することができた。

『H 20概報』では、S D 1を「方形周溝墓の周溝」とした。隣接する1978-1調査A区・2016-1調査C区・2017-1A区でも、それぞれ方形周溝墓ないしその可能性のある溝を検出している。それらの状況や完形の把手付台付鉢の出土などから、S D 1も方形周溝墓の周溝である可能性は十分に想定されるが、調査面積が限られており確証を欠くため、本報告では可能性の指摘に留める。

**第12節 2016-1調査（A区）****(1) はじめに**

郡四丁目地内で計画された倉庫建設に伴って行われた発掘調査である（図1）。

既存建物を解体する前に確認調査を実施することとなったため、2016年3月24日に3箇所、2016年7月12日および14日に7箇所の試掘トレンチを設定して調査を実施した。その結果、いずれのトレンチにおいても埋蔵文化財の存在が確認されたため、本発掘調査を実施することになった。ただし、敷地の中央部（A・B・D区に囲まれた範囲）については、既存建物の建設により大きく破壊されないと判断されたため、調査対象から除いた。

発掘調査は、建物の解体工事と並行して実施したため、調査区をA～D区の4地区とした。

2016-1調査はその成果が膨大な量に及ぶため、独立した調査区であるA区（本節）とB～D区（第13節）に分けて報告する。本節で報告するA区は、東西66.6m×南北8.58m（調査面積：571.5m<sup>2</sup>）の調査区である。

**(2) 基本層序（図71）**

調査区南壁断面において、大別4層の基本層序を確認した。この4層は、それぞれ1～3層程度に細分することが可能である。

0層 現代の造成に伴う盛土・攪乱の層準である。調査地周辺の地勢は、西から東へ下る緩傾斜地となっており、それをを利用して西から東へ低位となる耕作地が造成されていた。これを現況のようなほぼ平坦な地盤とするために耕作地の上に盛られた当層は、東へ向かうほどに層厚が増す。層厚は調査区西端で0.42m、東端で1.15mを測る。なお、調査区北辺際は、北接する既存建物に伴う配管によって攪乱を受けている。

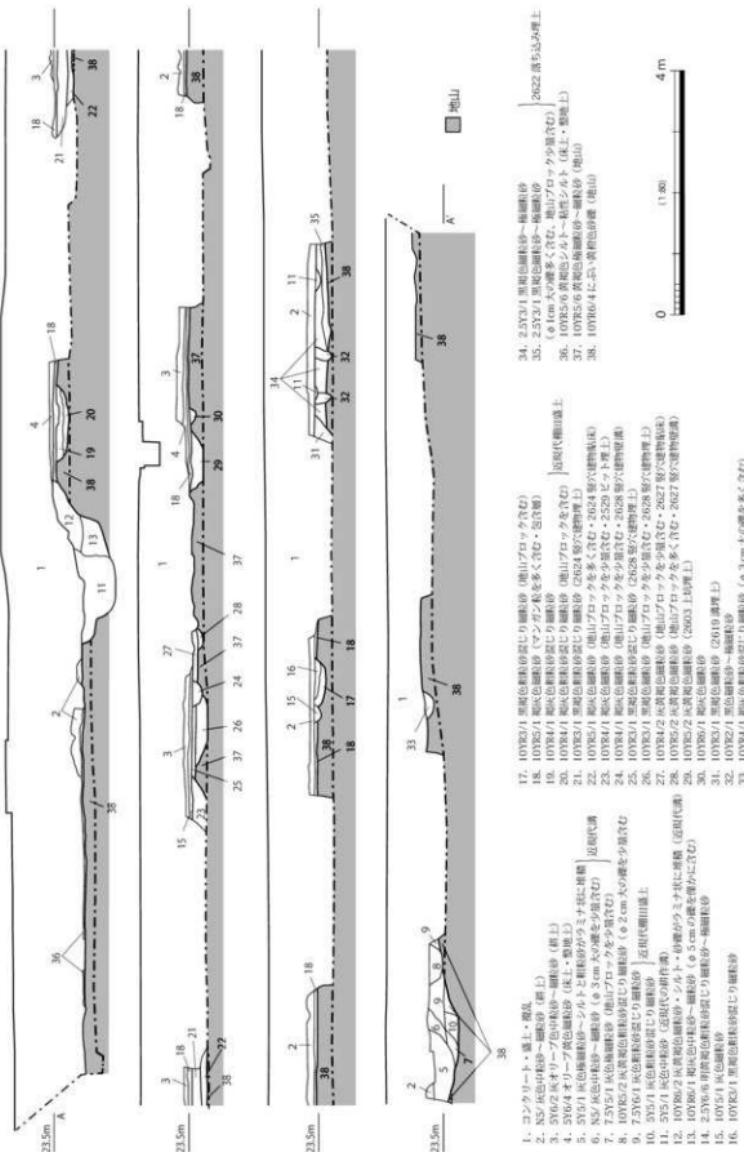


図 71 2016-1 調査 A区南壁土層断面図

1層 近現代の耕作に関連する層準である。層厚は約0.15mを測る。

近現代に棚田造成が行われた際に東側を削平し、その境に畦畔を作ることによって耕作地段差を形成している。これについては調査区東端から西へ10mの地点で、比高約0.5mの段差を確認したほか、調査区西端から東へ約13mの地点でも、畦畔状の高まりを確認した。いずれの畦畔においても、低位の耕作地側に幅1.3m前後・深さ0.5m前後を測る溝が南北方向に延びている。

2層 褐灰色細粒砂で構成される層準である。近現代の耕作地造成の際に削平された調査区東・西端部や、現代の擾乱部分では認められない。

当層は全体が土壤化によって褐灰色を呈しており、層中より弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・石器等の遺物が出土した(図93・94)。層厚は約5cmを測る。遺構は2層下面で検出した。

3層 黄褐色系の自然堆積土で構成される層準である。調査地周辺におけるベース層で、A区では黄褐色極細粒砂～細粒砂(上層)と、黄橙色砂礫(下層)で構成される。調査区の東・西両端では、後世の削平を受け上層は消失している。

### (3) 遺構(PL.16～23)

調査の結果、A区においては200基の遺構を確認した(図72～74)。

内訳は、竪穴建物6棟、掘立柱建物4棟、井戸1基、溝13条、土坑5基、ピット・柱穴168基、落ち込み1箇所、不明土坑2基である。

これら遺構の時期は、弥生時代中期、古墳時代後期、古代、中世の各時代にわたる。以下、時期ごとに主要な遺構について記述する。その他の遺構については、表3に規模および出土遺物の種別を記載する。



図72 2016-1調査 A区平面図

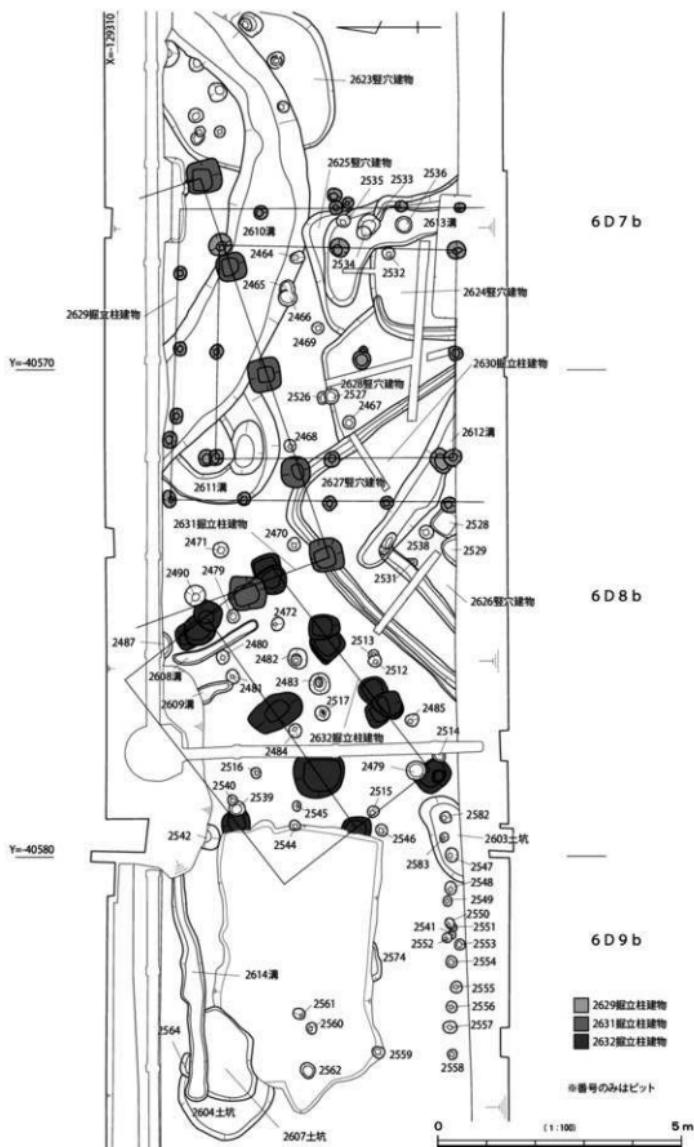


図 73 2016-1 調査 A 区平面拡大図 (1)

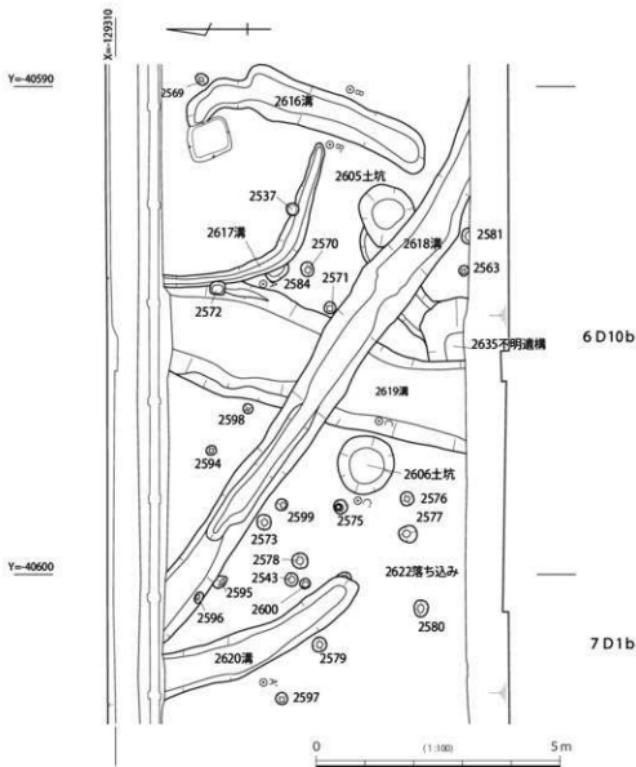


図74 2016-1調査 A区平面拡大図(2)

### 弥生時代中期の遺構

検出した主な遺構は、竪穴建物1棟、溝4条、土坑2基である。

2623 竪穴建物(図75) 6D7b区で検出した竪穴建物である。平面形状はやや歪な円形を呈し、直径3.5m・深さ0.2mを測る。遺構底面の直上で、層厚6cmを測る貼床と思われる堆積(図75 4層)を確認した。遺構中央部を2610溝に切られる(PL.19-1)。

竪穴建物底面において2437・2502・2503・2505・2519～2524ピットなど複数のピットを検出したが、いずれが2623竪穴建物に伴う柱穴であるかは判断できなかった。遺物は弥生土器が出土した。2610溝(図76) 6D7b区で検出した溝である。遺構の規模は、長さ9.5m以上・幅1.6m・深さ0.16mを測る。2623竪穴建物を切る。平面形は、調査区北壁から南東方向へ直線状に5.5mほど延び、緩やかに北壁の方向へ屈曲する。溝の東端は擾乱を受ける。

今回検出したのは、溝の一部であるため全容は不明であるが、検出した箇所の溝筋や規模、出土遺物などから方形周溝墓の周溝と推測される。調査範囲内では墳丘盛土・埋葬施設などは確認できず、削平されたと考えられる。遺物は弥生土器・石器・土師器が出土した。

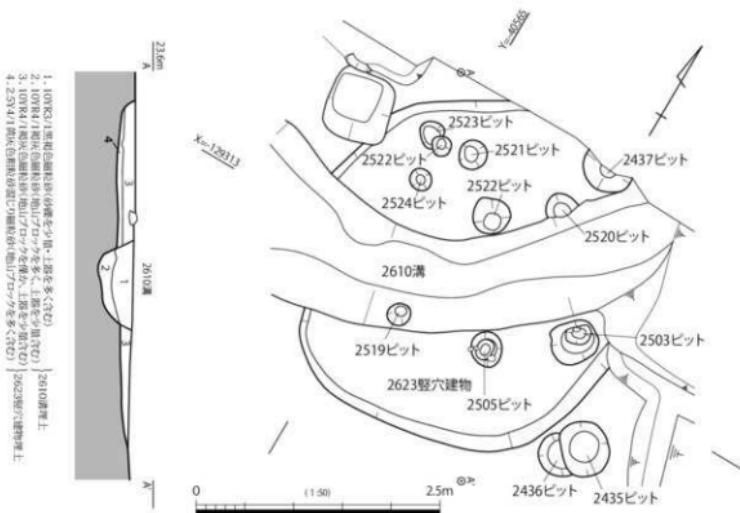


図75 2016-1調査 A区2623堅穴建物平面・断面図

2611溝(図76) 6D8b区で検出し、直径2.62m、深さ0.43mを測る。平面形は円形を呈する。2610溝に切られる。遺構内には底面に不自然に窪む箇所や、3層由来と考えられる礫が集中している箇所が認められた。こうした完掘時の状況や土層断面観察などから判断すると、人為的な遺構ではなく、倒木あるいは地震動等の荷重痕跡と考えられる。遺物は弥生土器が出土したが、混入と考えられる。

2616溝(図74・77) 6D10b区で検出した南北方向に延びる溝である。長さ5.2m・幅0.9m・深さ0.23mを測る。遺物は弥生土器が出土した。

2619溝(図74・77) 6D10b区で検出した南北方向に延びる溝である。検出長5.3m以上、幅1.8m、深さ0.14mを測る。2622落ち込みを切り、2618溝に切られる。遺物は弥生土器・石器が出土した。

2620溝(図74・77) 7D1b区で検出した南北方向に延びる溝である。2622落ち込みを切る。長さ4.3m以上、幅0.8m、深さ0.1mを測る。遺物は弥生土器・石器が出土した。

2605土坑(図78) 6D10b区で検出した土坑である。長径1.3m、短径1.1m、深さ0.46mを測る。平面形はやや不整な円形を呈する。南西部を2618溝に切られる。遺物は埋土の中位から弥生土器が多く出土した。

2606土坑(図74・77) 6D10b区で検出した土坑である。直径1.1m、深さ0.52mを測る。平面形は円形を呈する。2622落ち込みを切る。遺物は弥生土器が出土した。

2622落ち込み(図74・77) 調査区西部の6D10b・7D1b区で検出した。長さ6.4m以上、幅6.6m以上、深さ0.3mを測る。遺構の東肩は2619溝に切られているため不明である。他にも2622落ち込みと重複している遺構を多数検出しているが、すべて2622落ち込みを切っている。

遺構埋土は、ほぼ全域を黒褐色細砂・極細砂が占める。遺構東肩は重複する2618溝によって削平されているが、遺構西肩は直線状を呈している。この状況から、北北西—南南東方向に延びる大溝の可能性を考えられるが、今回の調査範囲では遺構の全体像は判断できなかったため、落ち込みとした。遺物

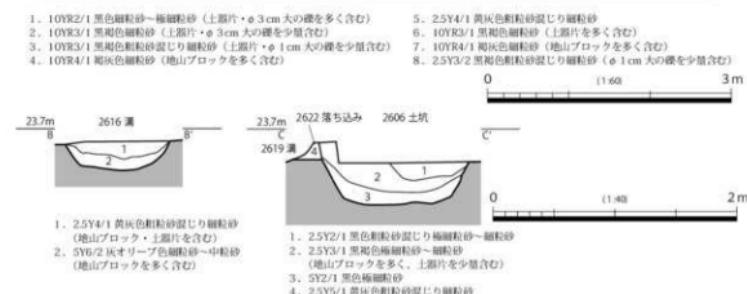
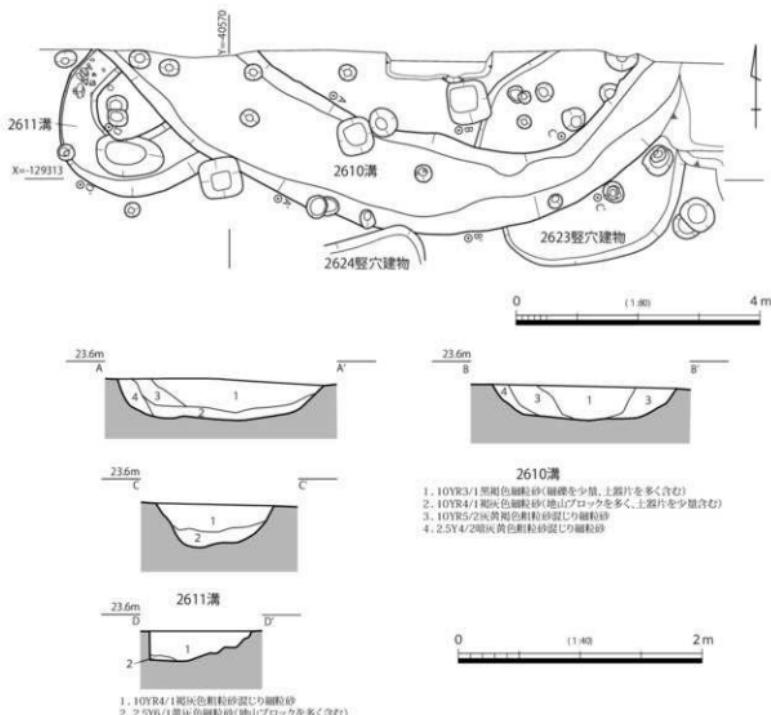


図 77 2016-1調査 A区 2606土坑・2616溝・2622落ち込み断面図

は弥生土器が出土した。

#### 古墳時代後期～飛鳥時代の遺構

検出した主な遺構は、竪穴建物5棟、掘立柱建物2棟、溝1条、ピット1基である。

2624～2628竪穴建物（図79） 6D7b・8b区で5棟の竪穴建物が重複した状況で検出した。いずれの建物も、南側は調査区外へと続いているため全容は不明であるが、方形あるいは不整な隅丸方形を呈すると思われる。遺構の深さは8～15cmを測る。なお、遺構検出時及びトレレンチからの出土遺物については、いずれの建物に帰属するか明確にすることができなかった。

検出した竪穴建物の内、図79に示した平・断面の切り合い関係から、2625竪穴建物が最も古いと考えられる。

2625竪穴建物は、一辺約2.0mを検出しており、南側を2624竪穴建物、西側を2628竪穴建物に切られる。また、2613溝が2624・2625竪穴建物を切る。確実に2625竪穴建物出土の遺物を抽出することができないため、詳細な時期は不明である。

次に古いと考えられるのは2628竪穴建物である。西側を2627竪穴建物、南東部を2624竪穴建物に切られる。一辺1.6m程度が残存する。A-A'断面において北東側は約3.0mまで伸びていることが確認できたが、本来の規模は不明である。出土遺物（図89-643～646）から判断してTK10型式TK10号窯段階であろう。

2627竪穴建物は、検出した内で最大の検出範囲を測る。ただし、一辺すべてでは検出できておらず、北東側4.2m、北西側5.2mを検出したに留まる。出土遺物（図89-633・635・637・639）から判断して、TK10型式MT85号窯段階であろう。

2626竪穴建物は、北西側の一辺（2.4m程度）を検出したに留まり、北東側は2612溝に切られる。

2626・2627竪穴建物の新旧は、土層断面から2626竪穴建物の方が新しいと判断できる。ただし、出土遺物からは明瞭な時期差を認ることはできない。また、2626・2627竪穴建物は、周壁溝と考えられる溝が並行しており、建て替えが行われた可能性と、溝で内部を区画していた同一の建物である可能性の双方が考えられる。2624竪穴建物とは直接切り合っていないため、先後関係が推測できない。

2624竪穴建物は一辺2.6m程度を検出した。土層断面の状況から、2625・2628竪穴建物を切っていると判断できる。出土遺物（図89-614・615）から判断してTK209型式であろう。

以上のことから、これらの竪穴建物の先後関係を整理すると、2625竪穴建物→2628竪穴建物→2626・2627竪穴建物→2624竪穴建物という変遷を想定することができよう。遺物から判断され

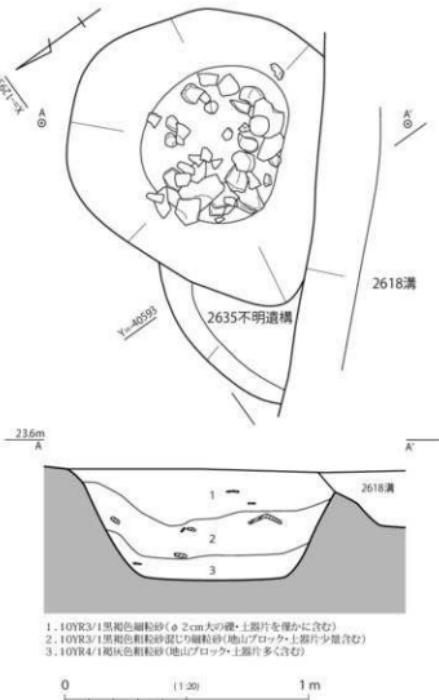
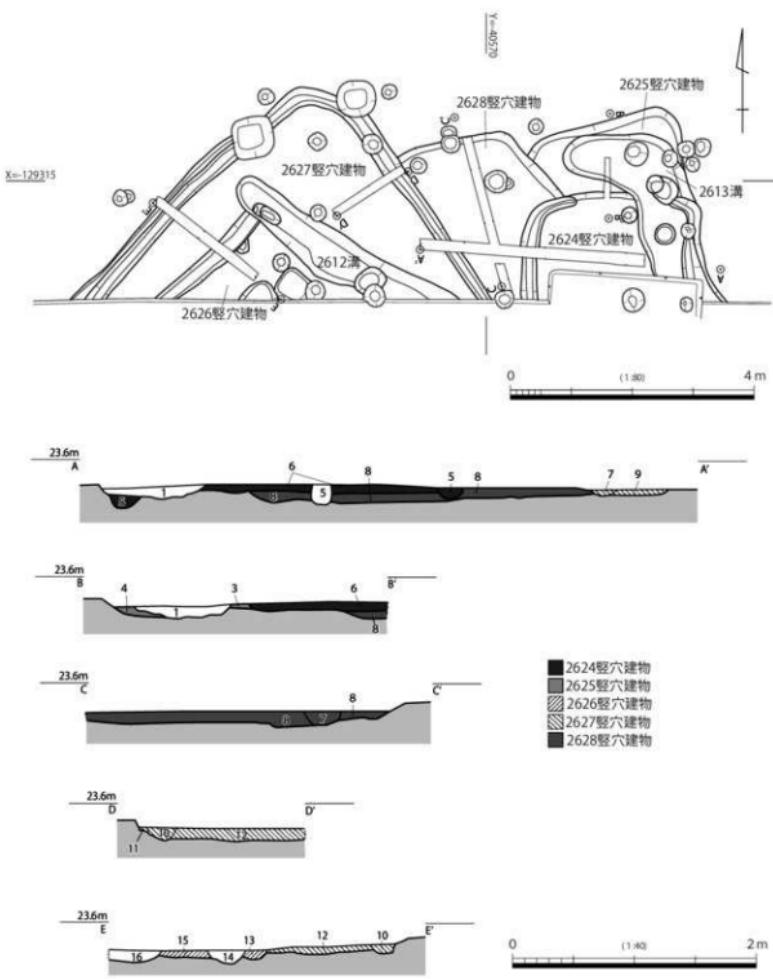


図78 2016-1調査 A区2605 土坑平面・断面図



1. 10Y84/2灰黃褐色粒砂混じり細粒砂(地山ブロック少々含む) 2613溝理上
2. 10Y84/3に少々黄褐色細粒砂(地山ブロック少々含む)
3. 10Y84/1褐色細粒砂 2625竪穴建物理上
4. 10Y84/1黄褐色細粒砂(地山ブロック多く含む) 2625竪穴建物理上
5. 2.5Y3/1黒褐色細粒砂(地山ブロック多く含む) 2624竪穴建物理上
6. 10Y83/1黒褐色細粒砂(地山ブロック少々含む) 2624竪穴建物理上
7. 2.5Y3/1黄褐色細粒砂(地山ブロック少々含む) 2627竪穴建物理上
8. 10Y85/2灰褐色細粒砂混じり細粒砂(地山ブロック・炭化物多く含む)
9. 2.5Y5/2灰黄褐色細粒砂(地山ブロック多く含む) 2627竪穴建物底?
10. 2.5Y5/1黄褐色細粒砂(地山ブロック少々含む) 2627竪穴建物理上
11. 10Y85/2灰褐色細粒砂混じり細粒砂(地山ブロック・炭化物多く含む)
12. 2.5Y5/3灰褐色細粒砂(地山ブロック多く含む) 2627竪穴建物理上
13. 2.5Y5/1黄褐色細粒砂(地山ブロック多く含む) 2626竪穴建物理上
14. 2.5Y3/1黄褐色細粒砂(地山ブロック・炭化物を少々含む)
15. 5Y5/2灰オーブ色細粒砂(地山ブロック多く含む) 2626竪穴建物底?
16. 10Y84/1褐色細粒砂(地山ブロック多く含む) 2529ピット理上

図 79 2016-1 調査 A区 2624・2625・2626・2627・2628 竪穴建物平面・断面図

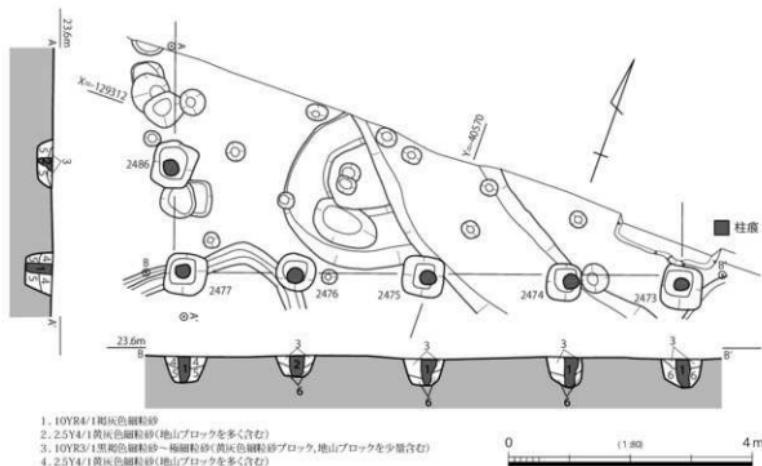


図80 2016-1調査 A区 2631掘立柱建物平面・断面図

る時期幅は、TK 10型式TK 10号窓段階（2628竪穴建物）からTK 209型式（2624竪穴建物）の幅が想定される。

**2631掘立柱建物（図80）** 6D7b・8b区で検出した梁行1間以上×桁行4間の側柱建物である（2473～2477、2486ピット）。柱穴の平面形は隅丸方形を呈し、一辺0.6m前後、深さ0.45m前後を測る。各柱穴において直径約0.25mの柱痕跡が確認できた。2474・2475・2477ピットでは、柱材が遺存しており、抜き取り等は確認できない。柱間距離は、梁行で1.8m、桁行で2.1mを測る。建物の主軸は、N-71°-Eをとる。後述する2632掘立柱建物とは一部の柱穴が重複しており、切り合い関係から、2631掘立柱建物の方が新しいと判断できる。北側は調査区外に位置するため、建物の全容は不明である。遺物は各柱穴から土師器・須恵器（飛鳥I期）が出土した。

**2632掘立柱建物（図81）** 6D8b区で検出した梁行2間×桁行3間の総柱建物である（2488・2489・2491～2498・2500・2501・2506～2511・2518ピット）。柱穴の平面形は隅丸方形を呈し、一辺約0.6m、深さ0.2～0.3mを測る。各柱穴に直径0.2m前後の柱痕跡が確認できた。柱間距離は、梁行で2.0m、桁行で1.8mを測る。柱穴2～3基が重複しているものが認められ、ほぼ同位置で建て直しが行われたと推測される。柱穴の配置は、建物内部の5基（2507～2511ピット）は桁行の軸に概ね沿うが、梁行の軸からは0.13～0.2m程度西へずれている。建物の主軸はN-50°-Eをとる。建物北辺の柱穴の内3基は攪乱によって消失している。また、総柱建物であることから、倉庫としての使用が想定される。遺物は柱穴からTK 43～209型式の須恵器杯身が出土した（図91）。ただし、建物全体での遺物出土量はわずかであり、かつ時期を推定しうる遺物はこの1点のみである。混入の可能性も考慮すると、この1点のみで時期を判断する根拠とはし難い。ただし、重複する2631掘立柱建物よりは古いことから、飛鳥I期以前と判断することはできる。

前述した竪穴建物では、最も新しい2624竪穴建物からTK 209型式の須恵器が出土したが、直接切り合っていないため、先後関係等は不明である。

**2618溝（図74・77）** 6D10b区で検出した北西-南東方向へ直線的に延びる溝である。検出長10.0

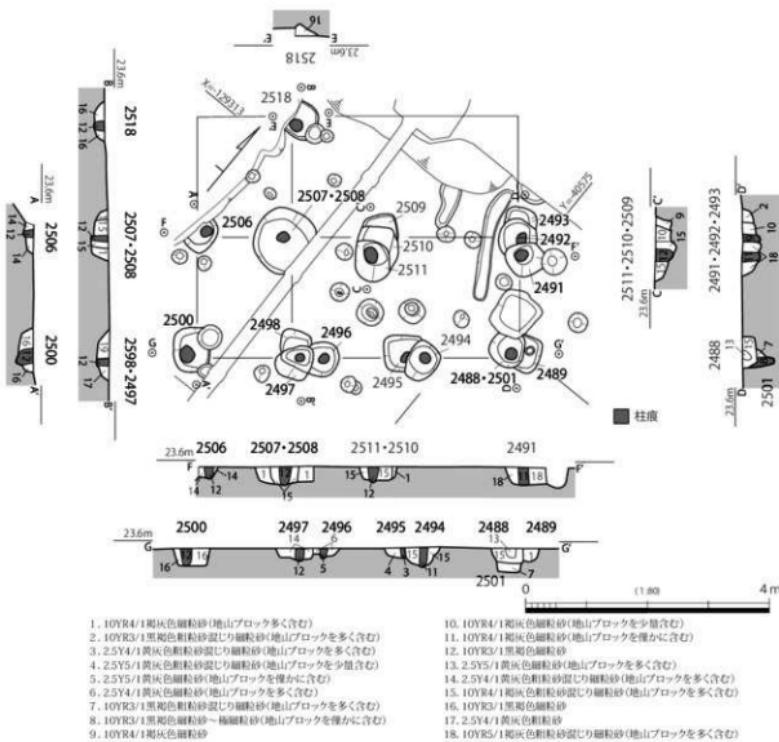


図 81 2016-1調査 A区 2632 挖出柱建物平面・断面図

m以上、幅0.9m、深さ0.31mを測る。2605土坑・2619溝・2622落ち込みを切る。遺物は土師器・須恵器が出土した。

**2439ビット(図72)** 調査区東部の6D7b区で検出したビットである。遺構の規模は長径0.4m、短径0.2m以上、深さ0.18mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。2438ビットに切られる。掘立柱建物を構成する柱穴となる可能性があるが、調査区南端で検出したことも影響するのか、周間に建物を構成しうる柱穴は認められない。遺物は土師器・須恵器が出土した。

#### 平安時代の遺構

検出した主な遺構は、井戸1基である。調査区西部において検出した。

**2621井戸(図82)** 7D2b区で検出した井戸である。井戸の構造は、鐘方分類の組立て式円形縦板型に相当する(鐘方2003)。掘形は3段に掘削されており、下位になるほど狭くなる。最上部は南辺および東辺南半が壊乱を受けて消失している。残存する範囲では、北側は一辺1.7m、西側は一辺1.6m以上、深さ0.35mを測り、底面が平坦な竪穴状を呈する。本来は概ね1.7m四方の隅丸方形を呈していたと考えられる。底面には、中央に位置する2段目の掘形の周間に直径0.1m前後の礫が密集している状況が確認された。礫は円磨度の低い角をもつものが多い。この礫の一部は、後述する井戸枠の縦板

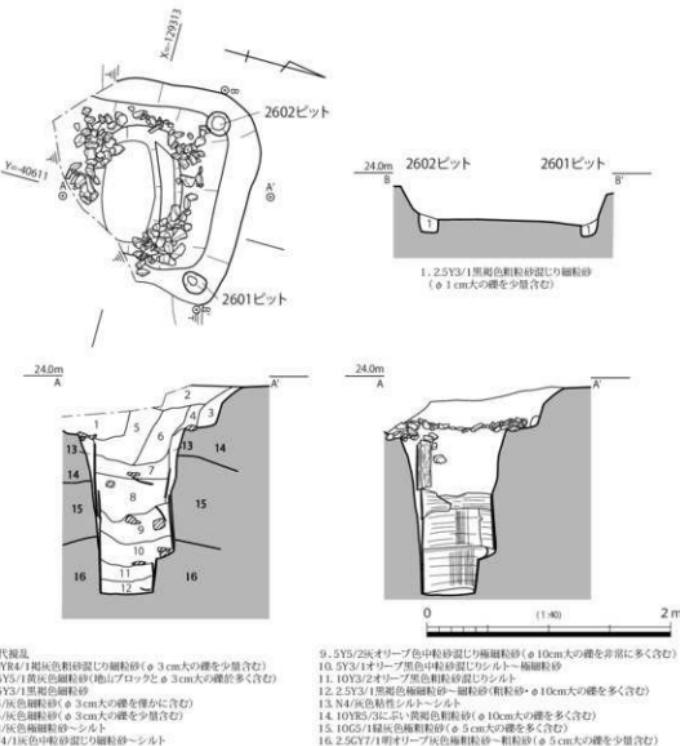
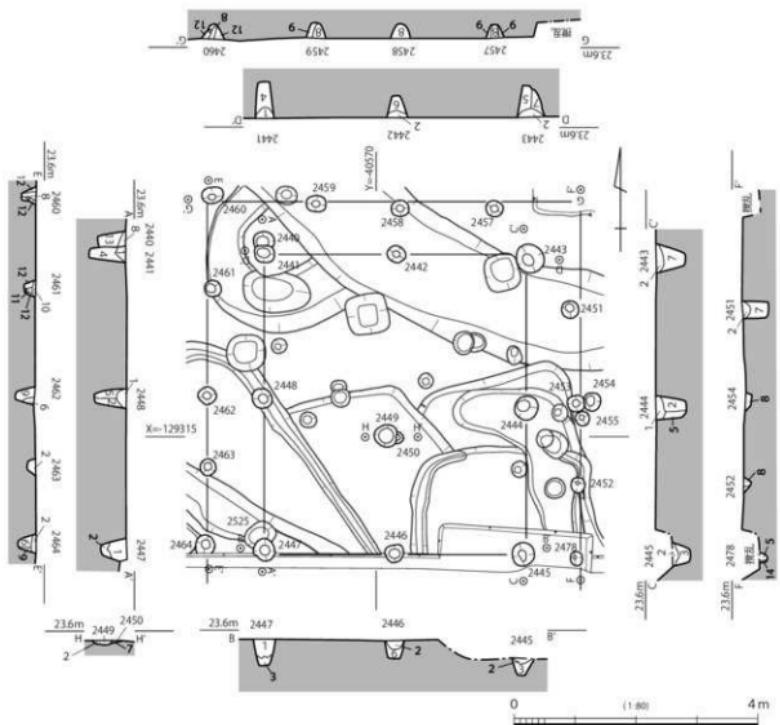


図 82 2016-1調査 A区 2621 井戸平面・断面図

上辺と重複している箇所も認められる。このことから、礫は縦板を設置した後に意図的に敷かれたものと判断できる。その用途は、井戸使用時の作業場もしくは、井戸の廃棄時に取り除かれた上部構造の基礎部分である可能性が考えられる。また掘形の北西及び北東角で 2601・2602 ピットを検出した。両ピットの規模は直径 0.12 m、深さ 0.12 m を測り、平面形は円形を呈する。ピットの芯々距離は、1.3 m を測る。井戸の柱穴となる可能性がある。

2段目の掘形の平面形は、東西方向に長軸をもつ楕円形を呈しており、長径 1.06 m、短径 0.87 m、深さ 1.35 m（遺構検出面から底までの深さは 1.7 m）を測る。掘形上部には、井戸側として縦板が巡っている。井戸側に用いられている縦板は、長さ 40～50cm、幅 8～10cm、厚さ 1cm を測る。縦板には、横桟などによる保持は確認できず、掘形壁面との間で確認した灰色粘性シルト～シルト土で貼り付けていたとみられる（図 82-13）。縦板は北西部で欠落していた以外は残存していた。また、掘形下部の曲物内で出土した板材もあり、縦板の一部と考えられる。

掘形下部では三段に積み上げられた曲物を確認した。平面形は円形・楕円形を呈する。楕円形を呈しているのは土圧の影響と思われ、本来はいずれも円形であったのだろう。2段目の掘形上端から上段の曲物の上辺までの深さは、0.47 m（遺構検出面からの深さは 0.82 m）を測る。上段の曲物は、残存状



1. 2.5Y4/1 黄灰色細粒混じり細粒砂(地山ブロック少含む)
2. 2.5Y5/1 黄灰色粗粒混じり細粒砂
3. 2.5Y5/2暗灰 黄色粗粒混じり細粒砂(地山ブロックを多く含む)
4. 2.5Y5/3/1 黒褐色細粒砂混じり細粒砂(地山ブロックを多く含む)
5. 10YR3/1 黑褐色細粒砂
6. 10YR4/1 黄灰色細粒砂(地山ブロックを多く含む)
7. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
8. 10YR5/1 喬灰色細粒砂
9. 10YR5/1 喬灰色細粒砂(地山ブロックを僅かに含む)
10. 2.5Y7/4/4 黄灰色粗粒砂混じり細粒砂(地山ブロックを多く含む)
11. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂(地山ブロックを少含む)
12. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂(地山ブロックを多く含む)
13. 10YR4/1 喬灰色細粒砂(地山ブロックを多く含む)
14. 10YR6/3/1 黄褐色粗粒砂混じり細粒砂(地山ブロックを多く含む)

図 83 2016-1 調査 A区 2629・2630 挖立柱建物平面・断面図

態が悪く詳細は定かではないが、縦板下端部が曲物の外側に位置する。中段の曲物は、円形に近い平面形で、直径 0.62 m、高さ 0.3 m を測る。下段の曲物は、一部に土圧による変形が認められ、平面形が梢円形を呈し、長径 0.66 m、短径 0.49 m、高さ 0.27 m を測る。曲物はいざれも取り上げ時に崩壊してしまったため遺物としては図示できなかった。そのため、曲物の概略をここで記しておく。曲物の側板の厚さは約 0.3cm を測り、上下の帯板は認められない。樋紐によって縫じられていることも確認できたが、樋紐の端部が側板から外れていたことから、縫じ方の詳細は不明である。曲物内面には、縦方向と斜め方向のケビキが認められる。

遺物は遺構内の各地点で出土した。掘形上部の埋め戻しと思われる土からは、土師器杯・須恵器壺が出土した。掘形下部では、上段の曲物上辺付近で須恵器杯身、中段の曲物内から漆器皿、下段の曲物上辺付近で木札、下段の曲物内から土師器杯・黒色土器碗などが出土した。出土した遺物の年代から、2621 井戸の廃絶時期は 9 世紀後半～10 世紀初頭頃と推測される。

## 中世の遺構

検出した主な遺構は、掘立柱建物2棟(2629・2630掘立柱建物)・ピット2基(2577・2578ピット)である。

2630掘立柱建物(図83) 6D7b・8b区で検出した梁行2間×桁行2間の側柱建物である。それぞれの柱穴では明瞭な柱痕跡を確認できなかった。柱穴の芯々距離は梁行で約2.1m、桁行で約2.4mを測る。建物の主軸は正方位をとる。2440~2448ピットは、いずれも直径0.35m前後、深さ0.4m前後を測り、平面形は円形を呈する。建物の内側では、2449・2450ピットを検出している。両ピットは、2630掘立柱建物と関連する可能性も考えられるが、柱筋にのらず深さ0.1mと他の柱穴と比べ極めて浅いため、可能性を指摘するに留める。遺物は各柱穴から弥生土器・土師器・須恵器・瓦器が出土した。

2629掘立柱建物(図83) 6D7b・8b区で検出した。2630掘立柱建物の各辺から外側に0.9m離れた位置で確認した梁行4間×桁行4間以上の側柱建物である。各柱穴において明瞭な柱痕跡を確認することはできなかった。柱穴の芯々距離は一定しておらず、1.2~1.8mを測る。建物の主軸は正方位をとる。2451~2455・2457~2464・2478ピットは、いずれも直径0.3m前後、深さ0.25m前後を測り、平面形は円形を呈する。遺物は各柱穴から弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

2629掘立柱建物と2630掘立柱建物は、建物の主軸方位が同じであり、それぞれの柱列の間隔も0.9mと一定であることから、2630掘立柱建物が身舎、2629掘立柱建物が外周柱穴列として、互いに密接な関連を有していた可能性も考えられる。

2577ピット(図74) 6D10b区で検出したピットである。直径0.27m・深さ0.24mを測り、平面形は円形を呈する。2622落込みを切る。遺物は土師器・瓦器が出土した。

2578ピット(図74) 6D10b区で検出したピットである。直径0.26m・深さ0.24mを測り、平面形は円形を呈する。2622落込みを切る。遺物は瓦器が出土した。

## (4) 遺物(図84~94、PL.68~82)

### 弥生時代中期の出土遺物(図84~88)

2623竪穴建物出土遺物(図84-505・506) 505は把手である。断面形状は扁平な四角形を呈する。やや細身ではあるが、水差等の把手であろう。506は底部である。底面中央が窪む。

2610溝出土遺物(図85・86-519~561) 519~525は広口壺である。口縁部形態は519・520はA1、521・523はC、522・524・525はFである。519は端面下端に細かい刻み目、内面にハケを施す。520は端面下端に不揃いな刻目文を施す。521は端面に櫛描波状文を施す。内外面にハケを施す。522は丸みを帯びた体部から頸部が外方へ開いて延びる。頸部外面にハケ、体部内面にユビナデを施す。523は頸部に櫛描波状文、内面にハケを施す。524は口縁部がやや下方に下がっている。525は内外面にハケを施す。526・531~556は底部である。526・531・532・238~540・545・546・550・552・553・555は底部中央がわずかに窪む。それ以外は平底を呈する。534・538・540・542~544・546~550・553・554は外面にハケ、541は内外面にハケ、545は外面にハケ、内面にヘラナデを施す。531・532・534・538~545・547・549~551・554・555は底面に木葉痕が認められる。537は底面に直径1.2cmの円孔を穿つ。547は体部がほぼ垂直に立ち上がる。556は底部の端が外方へひらく。527~530は甕である。口縁部形態は527はE、528~530はDである。530は外面にハケを施す。557・558は高杯である。557は端部を丸く收める。外面にハケを施す。558の裾端部形態はAである。559はミニチュア土器である。筒状の器形を呈する。外面にハケを施す。

560・561は石器である。共に石材はサヌカイトである。560は打製石鎌である。刃部は長三角形、基部は平基式である。刃部の端を欠く。残存長3.3cm、幅2.2cm、厚さ0.4cmを測り、重量3gを量る。561は剥片である。長さ4.2cm、幅4.7cm、厚さ0.8cmを測り、重量9gを量る。

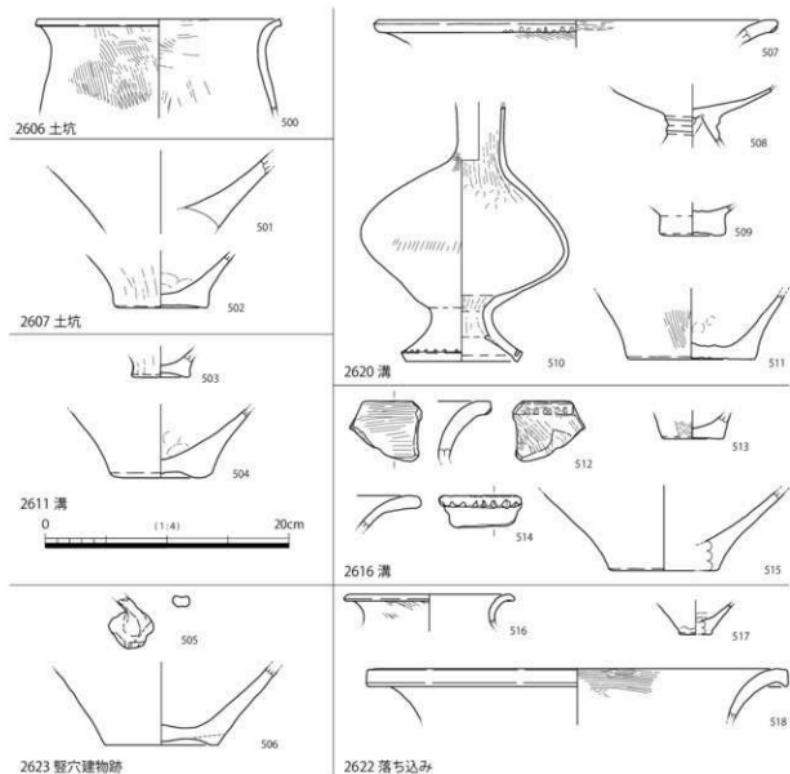


図84 2016-1調査 A区遺構出土遺物実測図

2606土坑出土遺物（図84-500） 500は壺である。口縁部形態はDである。内外面にハケを施す。外面に煤が付着する。

2607土坑出土遺物（図84-501・502） 501・502は共に底部である。502は底面がわずかに窪む。外面にハケを施す。

2611溝出土遺物（図84-503・504） 503・504は共に底部である。共に底面中央が窪む。

2616溝出土遺物（図84-512～515） 512・514は壺である。共に口縁部形態はFである。端面下端に刻み目を施す。512は内外面にハケを施す。513・515は底部である。513は平底を呈し、外面にハケを施す。底面に木葉痕が認められる。515は底面を欠くため、平底かどうかは不明である。

2619溝出土遺物（図87-562～589） 562～564は広口壺である。562の口縁部形態はCである。端面にS線を施す。口縁部内面に断面三角形状の突帯2条と竹管文が巡る。563の口縁部形態はCである。端面に凹線1条を施す。564の口縁部形態はFである。565は壺である。直立する頸部から口縁部が大きく外方へ開く。口縁端部形態はGである。566～568は壺体部である。566は外面に櫛描直線文・櫛描波状文、567は外面に斜格子文、568は外面にハケ・櫛描直線文、内面にハケをそれぞれ施す。569

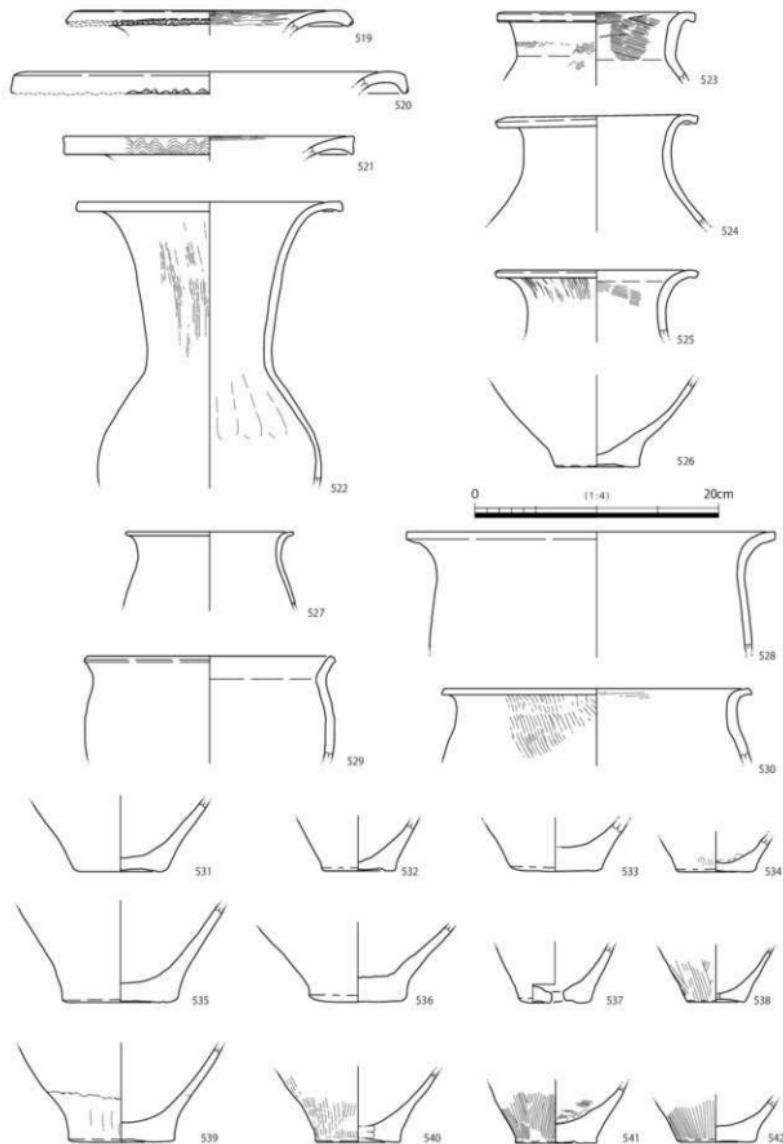


図 85 2016-1 調査 A 区 2610 溝出土遺物実測図 (1)

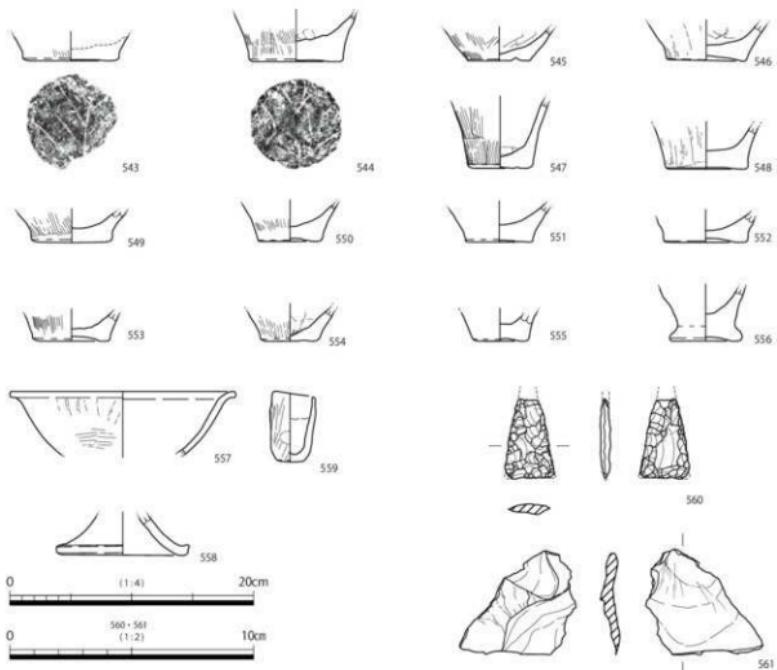


図 86 2016-1 調査 A 区 2610 溝出土遺物実測図 (2)

~579・581~587は底部である。571・572・577・581・583・587は底面が窪む。その他は平底を呈する。573は外面にヘラナデ、574は外面にミガキ、内面にハケ、575は外面にミガキ、577・581・583は外面にハケをそれぞれ施す。577・581・585は底面に木葉痕が認められる。580は甕である。口縁部形態はBである。

588・589は石器である。588は磨製石包丁である。紐孔は2個穿たれているが、一方は一部が欠損する。平面形状は内唇刃半月形を呈する。残存長10.6cm、幅4.9cm、厚さ0.7cmを測り、重量48gを量る。石材は緑泥片岩である。

589は打製搔器である。長さ6.4cm、幅6.6cm、厚さ1.2cmを測り、重量44gを量る。図下側の表裏に刃部を形成する。石材はサヌカイトである。

2620溝出土遺物（図84-507~511） 507は広口壺である。口縁部形態はGである。端面下端に刻目文、内外面にハケを施す。510は台付細頸壺である。体部は算盤玉形を呈する。頸部はまっすぐに伸びる。外面にハケを施す。脚部は「ハ」字状に開き、裾端部は面を成す。端部付近に刺突文を施す。現状では底部が塞がっていないが、本来は円盤状の粘土で塞がれていたものが剥離したのであろう。508は高杯である。脚柱部と杯底部の境に凹線を施す。脚柱部内面にシボリ痕が認められる。509・511は底部である。509は底部中央が窪む。511は外面にミガキを施し、内面に指頭圧痕が認められる。

2622落ち込み出土遺物（図84-516~518） 516は甕である。口縁部形態はEである。外面にハケを施す。517は底部である。底径2.6cmと小形であるため、ミニチュア土器の底部の可能性がある。518は

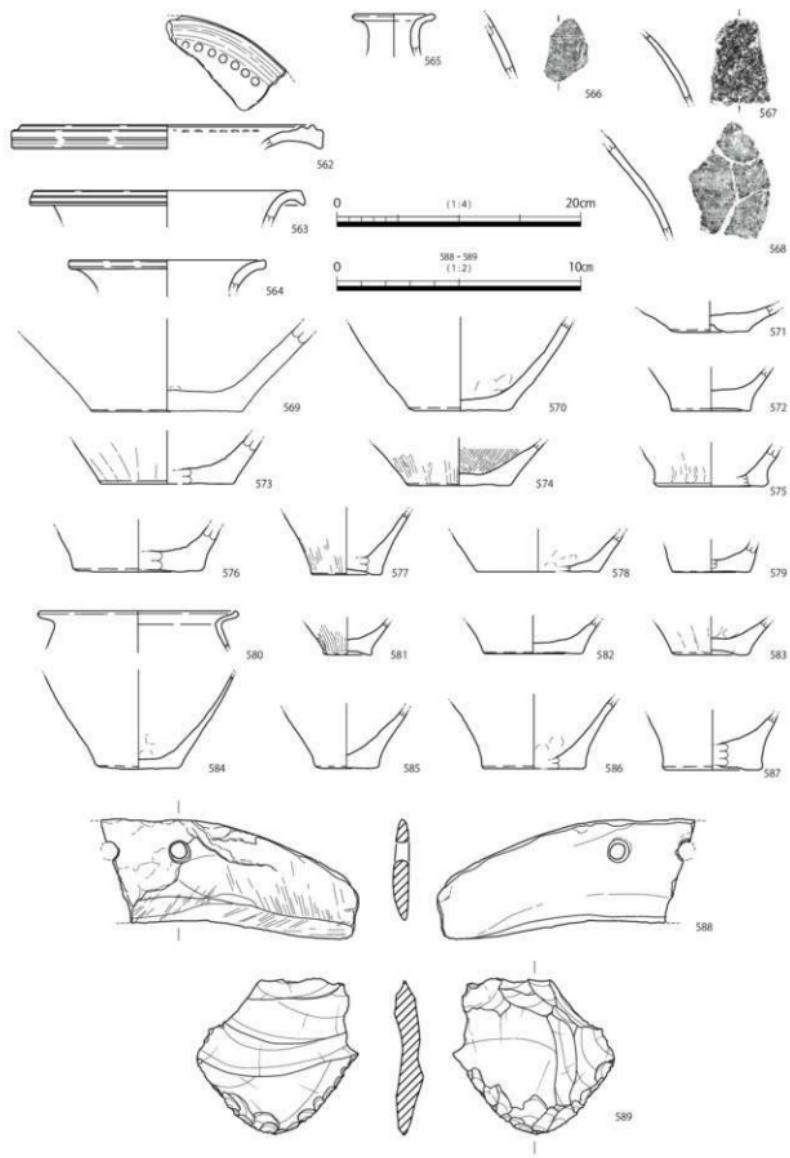


図 87 2016-1 調査 A 区 2619 溝出土遺物実測図

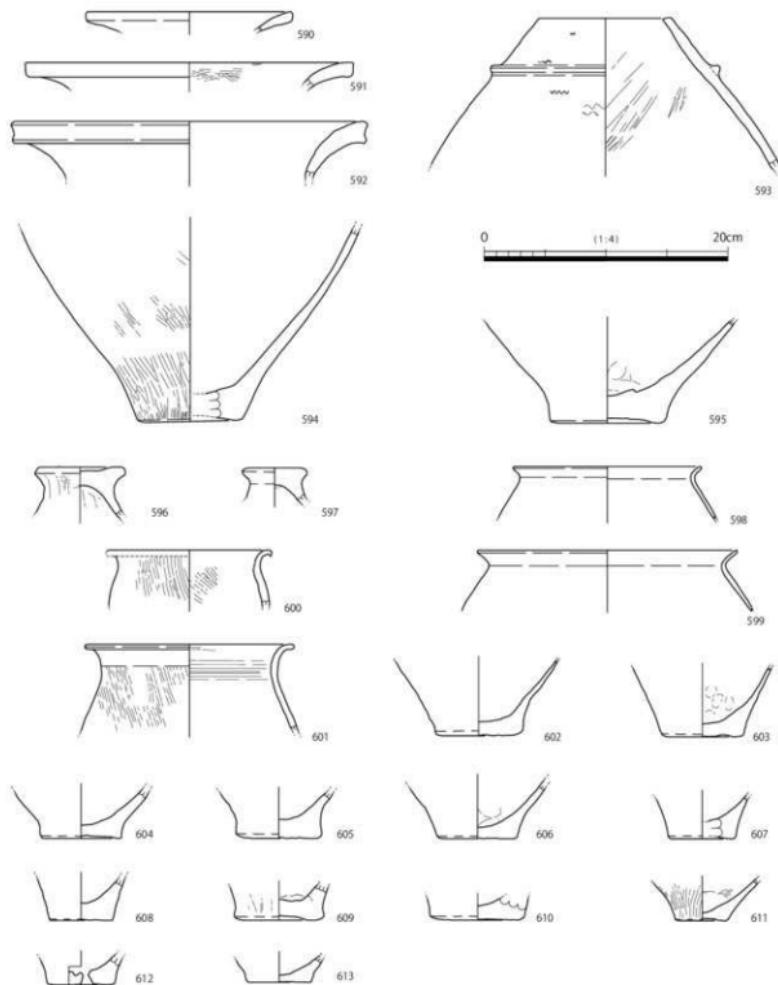


図88 2016-1調査 A区 2605土坑出土遺物実測図

広口壺である。口縁部形態はCである。内面にハケを施す。

2605土坑出土遺物（図88-590～613） 590～592は広口壺である。口縁部形態は590・591がF、592はCである。590は外面に煤が付着する。591は内面にハケを施す。592は端面がヨコナデにより窪む。593は無頸壺と思われる。口縁端部から3.8cm下がった位置に断面三角形状の突帯が巡る。外面にわずかながら櫛描波状文が認められる。594・595・602～613は底部である。594・595・604・609・611は底面がわずかに窪む。その他は平底を呈する。594は外面にミガキ・ハケ、609・611は

外面にハケを施す。612は底面に直径1.0cmの円孔を穿つ。602・604は底面に木葉痕が認められる。602は外面に煤が付着する。596・597は蓋である。596はつまみ部分の頂部が窪む。外面にハケを施す。598・601は甕である。口縁部形態は598・599・601がE、600がDである。598・599の頭部は直角に近い角度で曲がる。600・601は内外面にハケを施す。頭部がゆるやかに外反する。

#### 古墳時代後期～飛鳥時代の出土遺物（図89～91）

2624～2628 穫穴建物出土遺物（図89-614～646） 図89では、2624～2628 穫穴建物の出土遺物を図示した。「2624・2625」、「2626・2627」、「2627・2628」のように複数の竪穴建物の名称を併記している遺物があるが、これは、遺構検出の段階では、個別の竪穴建物を分けることができなかつたため、遺構間をまたぐトレンチを設定して切り合いを把握するべく努めたが、その結果、トレンチで出土した遺物は、厳密にその帰属を判断できなかつたことによる。

2624 穫穴建物出土遺物（図89-614・615） 614・615は須恵器杯蓋である。外面に回転ヘラケズリを施す。TK 209型式であろう。

2624・2625 穫穴建物出土遺物（図89-616～630） 須恵器はTK 10型式TK 10号窯段階である。

616はサヌカイトの石核である。長さ5.3cm、幅7.5cm、厚さ2.2cmを測り、重量70gを量る。

617～620は須恵器杯蓋である。620は外面に回転ヘラケズリを施す。621～624は須恵器杯身である。621・624は外面に回転ヘラケズリを施す。625は須恵器甕である。口縁端部は下方に折り返して肥厚する。626は須恵器平瓶である。口縁端部は丸く收め、端部下方に沈線2条を施す。627・628は須恵器高杯である。627は杯底部で、口縁部との境に段をもつ。底面に方形透かし孔の痕跡が認められる。628は脚柱部に方形透かし孔を穿ち、透かし孔の下に沈線2条を施す。

629・630は土師器把手である。共に断面形は扁平な四角形状を呈する。

2626 穫穴建物出土遺物（図89-631・632） 631は土師器把手である。断面形は円形を呈する。

632は須恵器器台である。外面にカキメを施す。方形透孔を2段穿つ。

2626・2627 穫穴建物出土遺物（図89-633～636） 須恵器はTK 10型式MT 85号窯段階であろう。

633は須恵器杯蓋である。天井部と口縁部の境に沈線1条を施す。外面に回転ヘラケズリを施す。634・635は須恵器杯身である。外面に回転ヘラケズリを施す。

636は弥生土器底部である。平底を呈する。埋土中に混入したものであろう。

2627・2628 穫穴建物出土遺物（図89-637～642） 須恵器はTK 10型式MT 85号窯段階であろう。

638は弥生土器広口壺である。口縁部形態はBである。端面に凹線4条を施す。埋土中に混入したものであろう。

637は須恵器杯蓋である。天井部と口縁部の境に稜は認められない。口縁端部は内傾する面を成す。

639・640は須恵器杯身である。639は外面に回転ヘラケズリを施す。641・642は須恵器高杯である。

641は杯底部である。外面にカキメを施す。方形透かし孔の痕跡が認められる。642は脚柱部である。端部は面を成す。

2628 穫穴建物出土遺物（図89-643～646） 須恵器はTK 10型式TK 10号窯段階であろう。

643は須恵器杯蓋である。丸みを帯びた天井部をもち、天井部と口縁部の境に稜をもつ。外面に回転ヘラケズリを施す。644～646は須恵器杯身である。いずれも外面に回転ヘラケズリを施す。

2612 溝出土遺物（図91-659～666） 須恵器はTK 43型式である。

659は弥生土器底部である。底面はわずかに窪む。埋土内に混入したものであろう。

660～666は須恵器杯身である。外面に回転ヘラケズリを施す。663・666以外は受部が水平に延び、口縁部は斜め上方に延びて端部は丸く收める。663は受部がやや斜め下方に延び、口縁部はほぼ直上に延び、外反する。残存状況が6分の1程度であるため、焼成時の歪みの影響の可能性もある。666

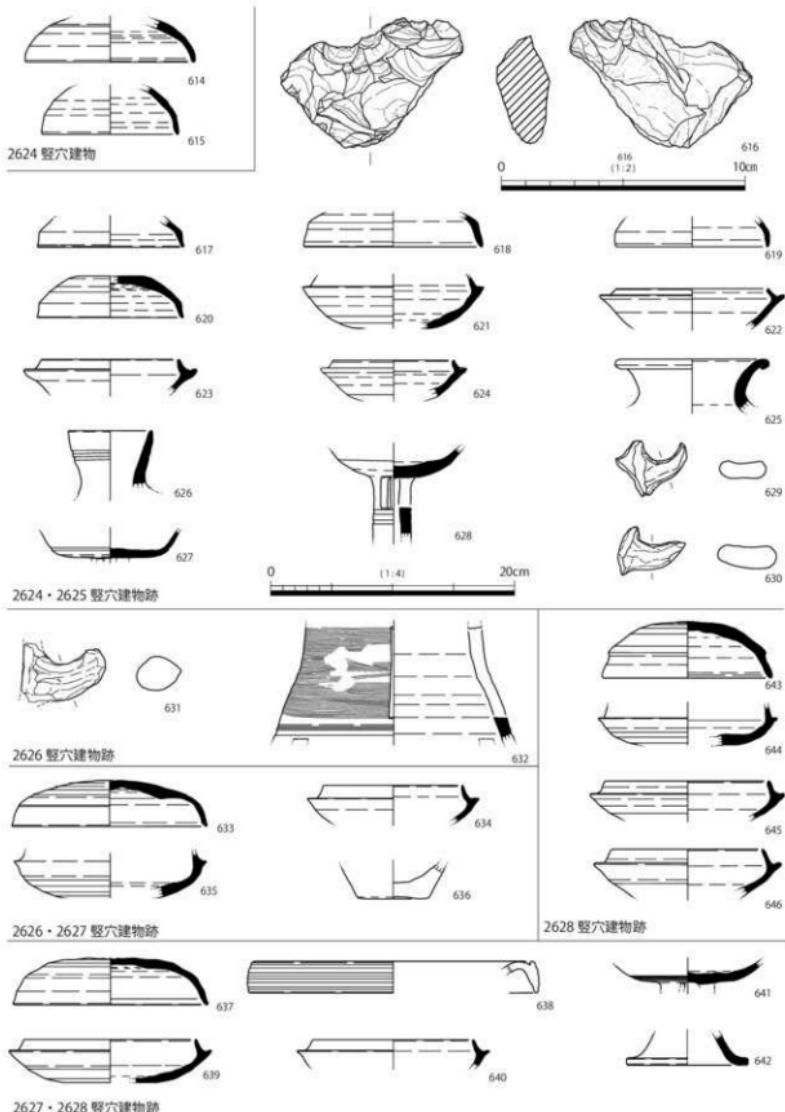


図 89 2016-1 調査 A 区 2624 ~ 2628 穹穴建物出土遺物実測図

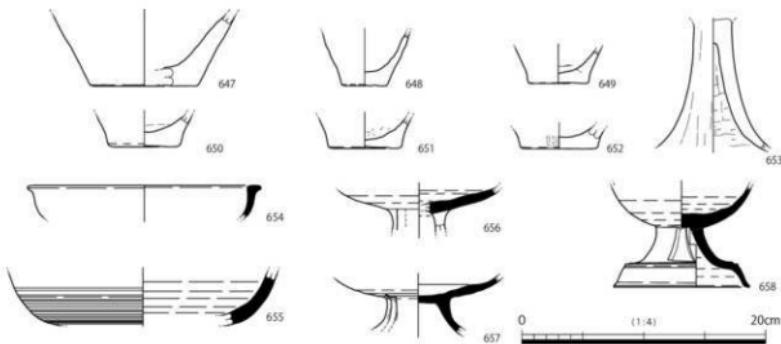


図90 2016-1調査 A区 2618溝出土遺物実測図

は口縁部を欠くが、受部は斜め上方に延びる。

2613 溝出土遺物（図91-667～669）須恵器の時期はTK 43型式である。

667は須恵器杯身である。体部はやや厚手である。口縁部は斜め上方に立ち上がり、端部は丸く收める。668・669は須恵器高杯である。共に脚柱部で、668は方形透かし孔を穿つ。

2614 溝出土遺物（図91-670） 670は須恵器杯身である。受部は斜め上方に延び、口縁端部は丸く收める。外面底にヘラ記号が認められる。TK 43型式である。

2618 溝出土遺物（図90-647～658） 647～653は弥生土器で、埋土中に混入したものである。647～652は底部である。いずれも平底を呈する。652は外面にハケを施す。653は高杯である。内面にケズリを施す。

654～658は須恵器高杯である。654・655は鉢の可能性も考えられる。656～658は、脚部に方形透かし孔を穿つ。656・657の杯部は水平方向に延びる。皿状を呈すると考えられる。658の裾部は屈曲し、下方に延びる。杯部は球状を呈する。台付壺の可能性も考えられるか。

2604 土坑出土遺物（図91-671） 671は須恵器杯身である。受部は水平に延び、口縁部は斜め上方に延び端部は丸く收める。TK 10型式MT 85号窯段階であろう。

2514 ピット出土遺物（図91-673） 673は須恵器杯身である。口縁部は斜め上方に延びる。TK 43型式であろう。

2439 ピット出土遺物（図91-672） 672は須恵器台付壺である。外面に回転ヘラケズリを施す。体部は完形であるが、脚部および口縁部を欠く。打ち欠いた可能性も考えられる。脚部には方形透孔を穿つ。

2631 掘立柱建物出土遺物（図91-676～682） 2475・2476・2477・2486の各ピットから出土した遺物を図示した。

676は土師器把手である。断面形状は円形を呈する。体部との接合面で剥離している。

677は須恵器杯蓋である。天井部は平坦である。口縁端部は丸く收める。678～680は須恵器杯身である。678は受部が斜め上方に延びる。底部は平底を呈する。677～680は飛鳥Ⅰ期である。679・680は口縁部が斜め上方に延びる。TK 43～209型式であろう。681は須恵器高杯である。脚裾部は水平に延び、端部は面を成す。外面にカキメを施し、方形透かし孔を穿つ。

682は石包丁である。紐孔は1つのみ完存しており、もう1箇所の孔は欠損する。紐孔が水平方向に並ぶならば、大型石包丁となる可能性も考えられる。石材は粘板岩である。重量34gを量る。

2632 掘立柱建物出土遺物（図91-674・675） 674は打製石鎌である。刃部は長三角形状、基部は有茎

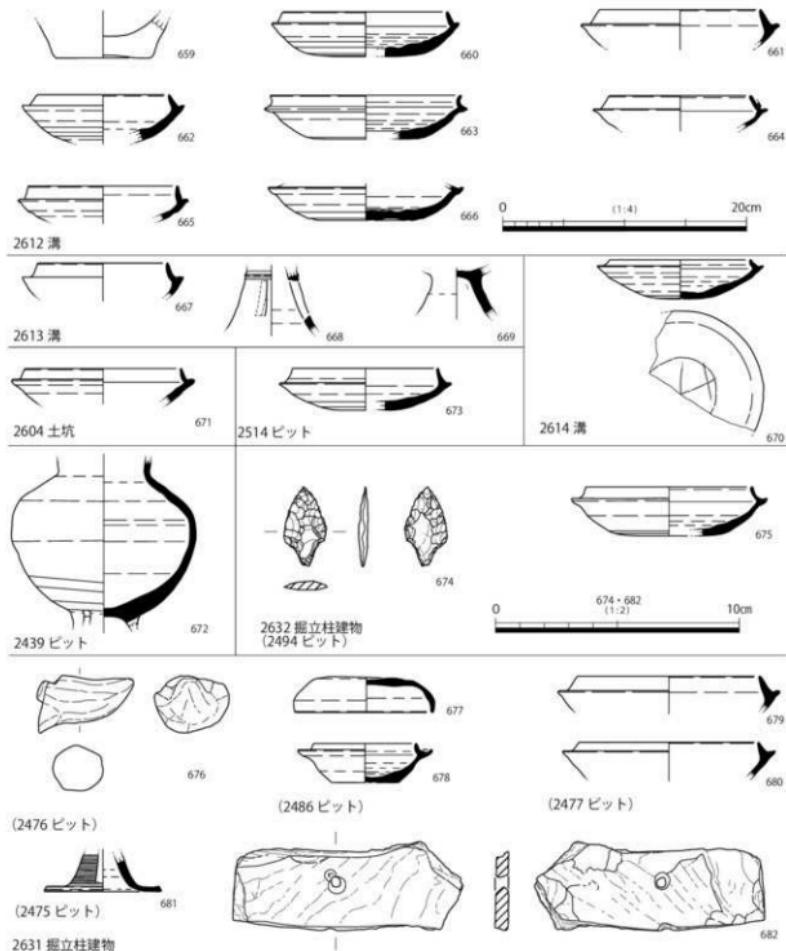


図 91 2016-1 調査 A区古墳時代・飛鳥時代遺構出土遺物実測図

式である。長さ 3.25cm、幅 1.75cm、厚さ 0.4cm を測り、重量 2 g を量る。石材はサヌカイトである。埋土中に混入したものであろう。

675 は須恵器杯身である。外面に回転ヘラケズリを施す。口縁部は厚さが薄く、口縁端部は丸く収める。TK 43 ~ 209 型式であろう。

#### 平安時代前期の出土遺物（図 92）

2621 井戸（図 92-683 ~ 691） 683 ~ 685 は土師器杯である。内外面ともにナデを主とし、683 は外面に指頭圧痕が認められ、684 は外面にケズリを施す。685 は断面台形状の高台をもつ。

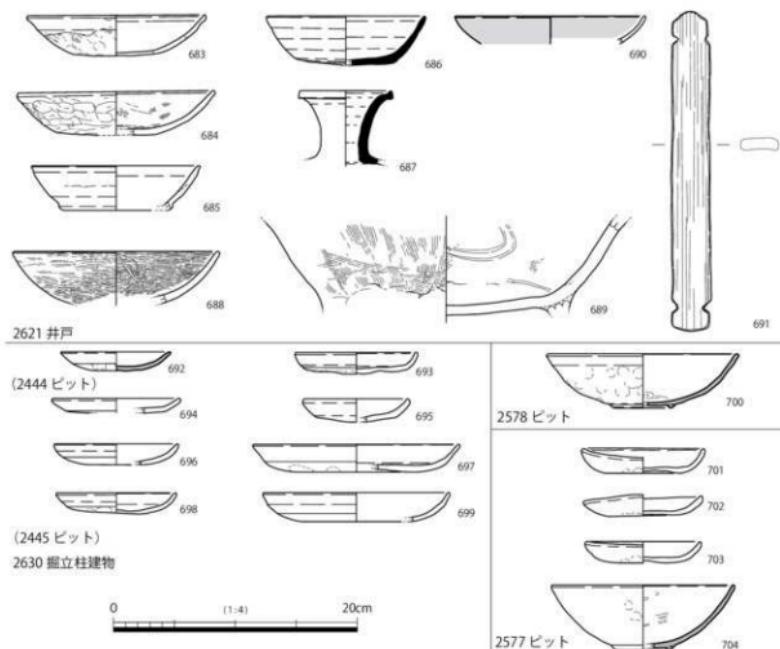


図92 2016-1調査 A区古代・中世遺構出土遺物実測図

686は須恵器杯身である。口縁部は底部から斜め上方に立ち上がり、口縁端部は丸く收める。687は須恵器壺である。口縁端部は上方に肥厚し、面を成す。

688は黒色土器A類楕である。内外面に密なミガキ、内面に暗文を施す。

689は土師質台付土器である。内外面ともにハケ・ナデ調整を施す。底部のみの残存であるため、器種は不明である。底面に高台の剥離した痕跡が認められる。

690は漆器皿である。内外面に黒漆を塗布する。出土したのは口縁の一部のみで、他の部分は出土していない。

691は木札である。両端部の左右に三角形状の切り込みを施す。図の上部はやや山形を呈するが、下端はほぼ平坦である。墨書の痕跡は確認できなかった。

#### 中世の出土遺物（図92）

2629・2630 掘立柱建物出土遺物（図92-692～699） 2444ビットから692・693、2445ビットより694～699が出土した。

692は瓦器皿である。外面に指頭圧痕が認められ、口縁端部は丸く收める。内面の暗文などは磨滅のため不明である。693～699は土師器皿である。いずれも口縁端部は丸く收める。口径から判断すると12世紀後半頃か。

2577ビット出土遺物（図92-701～704） 701～703は土師器皿である。701・702は口縁部に歪みが認められる。口径から判断すると12世紀後半頃か。

704は瓦器椀である。和泉型III-1～2期頃（12世紀後半～13世紀初頭）であろう。

2578 ピット出土遺物（図92-700） 700は瓦器椀である。和泉型III-1期頃（12世紀後半）であろう。遺物包含層出土遺物（図93・94-705～755） 弥生時代・古墳時代・古代・中世の遺物を図示した。

705～718は弥生土器である。705・706は広口壺である。口縁部形態は共にFである。端面下端に刻み目、内面にハケを施す。707は甕である。口縁部形態はDである。外面にタタキを施す。

708～717は底部である。709・712～716は底面がわずかに窪む。708・709・713は外面にハケを施す。709・712・713・714は内面に指頭圧痕が認められる。708～710・712・715は底面に木葉痕が認められる。717は底径が3.2cmと小さいことから、ミニチュア土器の可能性がある。718は高杯である。中実の脚柱部である。

719・721は打製石器である。719は搔器である。長さ6.1cm、幅7.2cm、厚さ1.1cmを測り、重量54gを量る。石材はサヌカイトである。721は石錐である。残存長4.9cm、幅1.8cm、厚さ0.9cmを測り、重量6gを量る。頭部は欠損しており、錐部のみが残存する。錐部の先端も欠損する。石材はサヌカイトである。720は砥石である。長さ5.45cm、幅3.65cm、厚さ2.55cmを測り、重量60gを量る。石材は不明である。

722～742は須恵器である。いずれもTK43～209型式であろう。722～726は杯蓋である。722は天井部と口縁部の境に沈線一条を施す。723～725は天井部と口縁部の境に稜をもち、723・725はその境が明瞭である。727～733は杯身である。いずれも受部は斜め上方に延び、口縁部は内傾して立ち上がるが、器壁は薄い。734～739は壺である。734・735は、口縁端部が肥厚し段をもち、断面形状は方形を呈する。734は外面にカキメを施し、735はヘラ記号が認められる。736・737は、口縁端部を下方に丸める。738は短頸壺である。口縁部は直立し、外面にカキメを施す。739は肩の張った器形を呈する。口縁部は欠く。740～742は高杯である。740は中空の脚柱部で、中央に上に1条・下に2条の合計3条の沈線を施す。741は脚裾部である。端部は丸く收める。方形透かし孔を穿つ。742は「ハ」字状に開く脚部と椀状の杯部をもつ。

743～747は、土師器把手である。断面形状は不整形な円形、もしくはやや湾曲した隅丸方形を呈する。744で体部が一部認められる以外は、いずれも体部との接合面で剥離している。

748～751は土師器皿である。いずれも比較的低平な器形である。口径から判断して12世紀後半頃と考えられる。

752は灰釉陶器碗である。「ハ」字状に開く高台をもつ。時期は9世紀後半～10世紀初頭頃である。釉薬はかかっていないが、器形より灰釉陶器と判断した。

753～755は瓦器椀である。いずれも和泉型II-2期頃（12世紀中頃）である。753・754は外面上に密なミガキを施す。755は断面三角形状の高台をもつ。

## （5）小結

2016-1（A区）調査において、弥生時代中期・古墳時代後期から飛鳥時代前半、9世紀後半から10世紀初頭、12世紀後半など複数時期の遺構が認められた。

弥生時代中期においては、中期前葉の2623竪穴建物やそれを切る2610溝が認められた。中期前葉の集落域が2016-1（A区）の範囲にまで及んでいたことが確認できる。2610溝が方形周溝墓の溝として捉えることが可能であるならば、土地利用の変化も想定される。また、中期中葉から後葉の遺構・遺物は少ないが、調査区を横断する2619溝が認められた。中葉から後葉においても活動の範囲としては認められるであろう。

古墳時代後期から飛鳥時代前半においては、狭い範囲において複数の建物遺構が重複して認められた。方形の竪穴建物5棟分が切り合いをもって検出され、TK10型式からTK209型式までの須恵器が

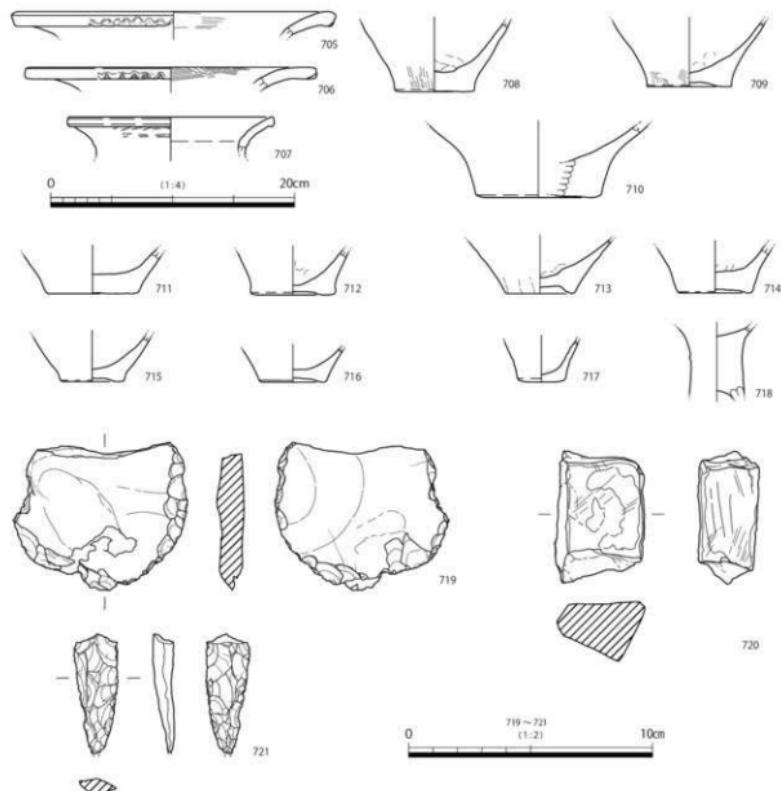


図93 2016-1調査 A区包含層出土遺物実測図(1)

出土した。これに續くように、T K 209型式から飛鳥Ⅰ期までの須恵器が出土した掘立柱建物2棟が切り合をもって検出された。土器型式では、一定の重複をもちながら、竪穴建物から掘立柱建物への順序が認められる。個別構造の並存や先後関係は必ずしも明確ではないが、竪穴建物から掘立柱建物への変遷が想定される。

9世紀後半から10世紀初頭においては、2621井戸が認められた。中河原遺跡では、当該期の明確な遺構はこの他に確認されていない。この井戸を確認したことにより中河原遺跡における当該期の人々の営為が明確になった。今後、当該期の遺構・遺物が周辺においてさらに確認される可能性がある。

12世紀後半においても、2629・2630掘立柱建物が確認された。2629掘立柱建物としたものが、2630掘立柱建物の庇や縁などの外周柱穴列として捉えられる可能性がある。正方位を指向する庇などを持った建物であれば、一定程度の格式をもった建物であったと想定される。

2016-1(A区)調査は東西に細長い調査区であったため、各遺構の広がりについては明確にならない部分があるが、各時代の居住や用水の確保など、その用途が明確な遺構が多く確認されたことにより、中河原遺跡における各時代の人々の営為が明らかとなった。

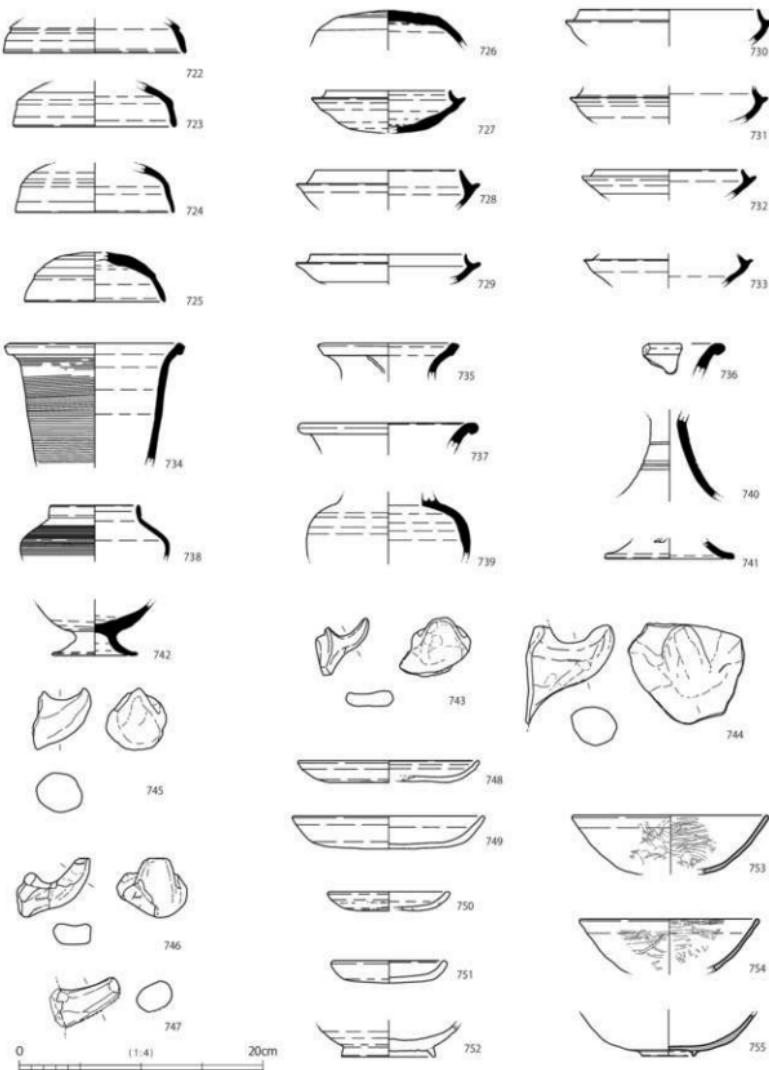


図 94 2016-1 調査 A区包含層出土遺物実測図 (2)

表3 2016-1調査A区 遺構一覧表(1)

遺構番号	種別	グリッド	規模(m)			遺物	備考
			長さ	幅	深さ		
2433	ピット	6D6b	0.4以上	0.4以上	0.07	発生	
2434	ピット	6D9b	0.3	0.3	0.13	発生	
2435	ピット	6D7b	0.5	0.4	0.2	土師器	柱痕あり
2436	ピット	6D7b	0.4	0.4	0.18		
2437	ピット	6D7b	0.5	0.2以上	0.26	土師器・須恵器	柱痕あり
2438	ピット	6D7b	0.4	0.2以上	0.15	土師器・須恵器	
2439	ピット	6D7b	0.4	0.2以上	0.17	土師器・須恵器	
2440	ピット	6D8b	0.3	0.2	0.6	土師器・須恵器	2630廻立柱建物
2441	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.6		2630廻立柱建物
2442	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.35	発生	2630廻立柱建物
2443	ピット	6D7b	0.4	0.4	0.5	発生	2630廻立柱建物
2444	ピット	6D7b	0.4	0.3	0.5	土師器・須恵器・瓦器	2630廻立柱建物
2445	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.3	土師器・須恵器	2630廻立柱建物
2446	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.3	土師器・須恵器	2630廻立柱建物
2447	ピット	6D8b	0.3	0.3	0.44	発生	2630廻立柱建物
2448	ピット	6D8b	0.3	0.2	0.52	土師器・瓦器	2630廻立柱建物
2449	ピット	6D7b	0.4	0.3	0.05	発生	2630廻立柱建物
2450	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.05		2630廻立柱建物
2451	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.21		2629廻立柱建物
2452	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.1		2629廻立柱建物
2453	ピット	6D7b	0.3	0.2	0.23	土師器・須恵器	柱痕あり・2629廻立柱建物
2454	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.1		2629廻立柱建物
2455	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.13	発生	柱痕あり・2629廻立柱建物
2456	ピット	6D7b	0.3	0.1以上	0.28		2629廻立柱建物?
2457	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.21		2629廻立柱建物
2458	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.21	発生	2629廻立柱建物
2459	ピット	6D8b	0.3	0.2	0.24	土師器	2629廻立柱建物
2460	ピット	6D9b	0.3	0.2	0.24	土師器	2629廻立柱建物
2461	ピット	6D8b	0.3	0.2	0.17	発生	2629廻立柱建物
2462	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.32		2629廻立柱建物
2463	ピット	6D8b	0.3	0.2	0.14	発生	2629廻立柱建物
2464	ピット	6D8b	0.3	0.3	0.28	発生	2629廻立柱建物
2465	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.08		
2466	ピット	6D7b	0.4	0.3	0.08		
2467	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.07	土師器	
2468	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.11	発生	
2469	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.24	発生	柱痕あり
2470	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.27		柱痕あり
2471	ピット	6D8b	0.3	0.3	0.39	発生	柱痕あり
2472	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.09		
2473	ピット	6D7b	0.7	0.7	0.45	発生・土師器	柱痕あり・2631廻立柱建物
2474	ピット	6D7b	0.5	0.5	0.5	発生・須恵器	柱痕あり・2631廻立柱建物
2475	ピット	6D8b	0.6	0.6	0.42	石器・土師器・須恵器	柱痕あり・2631廻立柱建物
2476	ピット	6D8b	0.6	0.5	0.35	発生・土師器・須恵器	柱痕あり・2631廻立柱建物
2477	ピット	6D8b	0.7	0.6	0.45	発生・土師器・須恵器	柱痕あり・2631廻立柱建物
2478	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.12		2629廻立柱建物
2479	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.06		
2480	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.32	発生	柱痕あり
2481	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.14		柱痕あり
2482	ピット	6D8b	0.4	0.3	0.17	発生	柱痕あり
2483	ピット	6D8b	0.5	0.4	0.07		
2484	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.08		柱痕あり・2633廻立柱建物
2485	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.15		
2486	ピット	6D8b	0.8	0.7	0.25	発生・土師器・須恵器	柱痕あり・2633廻立柱建物
2487	ピット	6D8b	0.5	0.1以上	0.05以上		2631廻立柱建物
2488	ピット	6D8b	0.6	0.4以上	0.23	発生・須恵器	柱痕あり・2632廻立柱建物
2489	ピット	6D8b	0.6	0.2以上	0.22	土師器・須恵器	柱痕あり・2632廻立柱建物
2490	ピット	6D8b	0.4	0.4	0.31	発生	柱痕あり
2491	ピット	6D8b	0.6	0.5	0.3	土師器	柱痕あり・2632廻立柱建物
2492	ピット	6D8b	0.5	0.3以上	0.28	土師器	柱痕あり・2632廻立柱建物
2493	ピット	6D8b	0.5	0.2以上	0.17		2632廻立柱建物
2494	ピット	6D8b	0.6	0.5	0.33	石器・土師器・須恵器	柱痕あり・2632廻立柱建物
2495	ピット	6D8b	0.6	0.6	0.18	発生	柱痕あり・2632廻立柱建物
2496	ピット	6D8b	0.5以上	0.5	0.17	発生	柱痕あり・2632廻立柱建物
2497	ピット	6D8b	0.5	0.5	0.21	発生	柱痕あり・2632廻立柱建物
2498	ピット	6D8b	0.5	0.2以上	0.2	発生	柱痕あり・2632廻立柱建物
2499	ピット	6D8b	0.4	0.3	0.07	発生	
2500	ピット	6D8b	0.7	0.5	0.28	土師器・須恵器	柱痕あり・2632廻立柱建物
2501	ピット	6D8b	0.3	0.3	0.53		2623廻穴建物?
2502	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.2	発生	2623廻穴建物?
2503	ピット	6D7b	0.4	0.4	0.36	発生	柱痕あり・2623廻穴建物?

表3 2016-1調査A区 遺構一覧表(2)

遺構番号	種別	グリッド	規模(m)			遺物	備考
			長さ	幅	深さ		
2504	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.18	発生	柱痕あり・2623号穴建物?
2505	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.16		
2506	ピット	6D8b	0.5	0.3以上	0.17		
2507	ピット	6D8b	0.6	0.4以上	0.3	土師器	2632号立柱建物
2508	ピット	6D8b	1.0	0.6以上	0.25	土師器・須恵器	2632号立柱建物
2509	ピット	6D8b	0.5	0.2以上	0.25		2632号立柱建物
2510	ピット	6D8b	0.6	0.3以上	0.24	発生・土師器	2632号立柱建物
2511	ピット	6D8b	0.5	0.5	0.28		柱痕あり・2632号立柱建物
2512	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.14	発生	
2513	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.13		
2514	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.1	須恵器	
2515	ピット	6D8b	0.1	0.1	0.07		
2516	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.1		
2517	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.08		
2518	ピット	6D8b	0.5以上	0.5	0.17	土師器	柱痕あり・2632号立柱建物
2519	ピット	6D7b	0.3	0.1以上	0.12		2623号穴建物?
2520	ピット	6D7b	0.3	0.2以上	0.19		2623号穴建物?
2521	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.06		2623号穴建物?
2522	ピット	6D7b	0.2	0.1	0.06		2623号穴建物?
2523	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.05		2623号穴建物?
2524	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.03		2623号穴建物?
2525	ピット	6D8b	0.4	0.3以上	0.32	土師器・須恵器	2630号立柱建物
2526	ピット	6D8b	0.2	0.1以上	0.1		
2527	ピット	6D8b	0.3	0.2	0.04		
2528	ピット	6D8b	0.8	0.8	0.15		
2529	ピット	6D8b	0.6以上	0.4以上	0.1		
2530	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.03		
2531	ピット	6D8b	0.4	0.2以上	0.07	須恵器	
2532	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.04		
2533	ピット	6D7b	0.3	0.2以上	0.05	土師器	
2534	ピット	6D7b	0.3	0.3	0.05	土師器	
2535	ピット	6D7b	0.2	0.2	0.2	発生	
2537	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.1		
2538	ピット	6D8b	0.3	0.2	0.08		
2539	ピット	6D8b	0.3	0.3	0.06		
2540	ピット	6D8b	0.1	0.1	0.06	発生	
2541	ピット	6D8b	0.1	0.1	0.06	発生	
2542	ピット	6D8b	0.5	0.3以上	0.18	土師器	
2543	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.41		柱痕あり
2544	ピット	6D8b	0.1	0.1	0.25		
2545	ピット	6D8b	0.1	0.1	0.12		
2546	ピット	6D8b	0.1	0.1	0.07		
2547	ピット	6D8b	0.2	0.1	0.12		
2548	ピット	6D9b	0.2	0.2	0.13		
2549	ピット	6D9b	0.2	0.1	0.1		
2550	ピット	6D9b	0.2	0.2	0.14		
2551	ピット	6D9b	0.1	0.1	0.03		
2552	ピット	6D9b	0.2	0.1	0.1		
2553	ピット	6D9b	0.2	0.1	0.16		
2554	ピット	6D9b	0.1	0.1	0.14		
2555	ピット	6D9b	0.1	0.1	0.09		
2556	ピット	6D9b	0.1	0.1	0.08		
2557	ピット	6D9b	0.2	0.1	0.19		
2558	ピット	6D9b	0.2	0.2	0.18	土師器	
2559	ピット	6D9b	0.1	0.1	0.2		
2560	ピット	6D9b	0.1	0.1	0.09		
2561	ピット	6D9b	0.1	0.1	0.15		
2562	ピット	6D9b	0.3	0.3	0.04		
2563	ピット	6D10b	0.1	0.1	0.08		
2564	ピット	6D9b	0.5	0.1以上	0.1		
2565	ピット	6D9b	0.4	0.2以上	0.05	発生	
2566	ピット	6D9b	0.4	0.4	0.09	発生	
2567	ピット	6D9b	0.5	0.3	0.13	発生	
2568	ピット	6D9b	0.3	0.2	0.08		
2569	ピット	6D10b	0.1	0.1	0.09		
2570	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.07		
2571	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.06		
2572	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.23	発生	柱痕あり
2573	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.08		
2574	ピット	6D9b	0.8	0.2以上	0.08		
2575	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.28		

表3 2016-1調査A区 遺構一覧表（3）

遺構番号	種別	グリッド	規模(m)			遺物	備考
			長さ	幅	深さ		
2576	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.2	弥生	
2577	ピット	6D10b	0.3	0.3	0.24	土師器・瓦器	
2578	ピット	6D10b	0.3	0.3	0.24	土師器・瓦器	
2579	ピット	7D1b	0.2	0.2	0.29	土師器	
2580	ピット	7D1b	0.3	0.3	0.22	土師器	
2581	ピット	6D10b	0.3	0.1以上	0.13		
2582	ピット	6D8b	0.2	0.2	0.21		
2583	ピット	6D8b	0.2	0.1	0.22		
2584	ピット	6D10b	0.5	0.2以上	0.29		柱痕あり
2585	ピット	7D2b	0.3	0.3	0.07		
2586	ピット	7D2b	0.3	0.2	0.12		
2587	ピット	7D2b	0.4	0.3	0.21		
2588	ピット	7D2b	0.3	0.2	0.1		
2589	ピット	7D2b	0.3	0.2	0.15		
2590	ピット	7D2b	0.2以上	0.2	0.13		
2591	ピット	7D2b	0.3	0.3	0.14		
2592	ピット	7D2b	0.3	0.2	0.1		
2593	ピット	7D2b	0.3	0.1以上	0.07		
2594	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.15		
2595	ピット	6D10b	0.3	0.2	0.28		柱痕あり
2596	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.19		
2597	ピット	7D1b	0.2	0.2	0.22	弥生	
2598	ピット	6D10b	0.2	0.2	0.14		
2599	ピット	6D9b	0.2	0.2	0.17		
2600	ピット	6D10b	0.1	0.1	0.05		
2601	ピット	7D2b	0.12	0.1	0.12		2621井戸
2602	ピット	7D2b	0.12	0.1	0.12		2621井戸
2603	土坑	6D8b	1.2以上	0.8	0.12		
2604	土坑	6D9b	1.9	0.6以上	0.14	弥生・須恵器	
2605	土坑	6D10b	1.3	1.1	0.46	弥生	
2606	土坑	6D10b	1.1	1.1	0.52	弥生	
2607	土坑	6D9b	1.5	0.9以上	0.12	弥生	
2608	溝	6D8b	1.9	0.2	0.03	弥生	
2609	溝	6D8b	0.6以上	0.2	0.04	弥生	
2610	溝	6D7b	9.5以上	1.6	0.16	弥生・石器・土師器	
2611	溝	6D8b	2.62以上	—	0.43	弥生	土坑状変形
2612	溝	6D8b	4.0以上	0.8	0.16	弥生・石器・土師器・須恵器	
2613	溝	6D7b	4.0以上	0.9	0.1	弥生・土師器・須恵器	
2614	溝	6D9b	4.7以上	0.3	0.11	弥生・土師器・須恵器	
2615	溝	6D9b	2.0	0.4	0.12	弥生	
2616	溝	6D10b	5.2	0.9	0.23	弥生	
2617	溝	6D10b	3.7以上	0.3	0.1	弥生	
2618	溝	6D10b	10.0以上	0.9	0.31	弥生・石器・土師器・須恵器	
2619	溝	6D10b	5.3以上	1.8	0.14	弥生・石器	
2620	溝	7D1b	4.3以上	0.8	0.1	弥生・石器	
2621	井戸	7D2b	1.8	1.5以上	1.7	土師器・須恵器・黒色土器 漆器・木製品	
2622	落ち込み	6D1b・ 7D1b	5.0以上	4.5以上	0.2	弥生	
2623	竪穴建物	6D7b	3.5	3.5	0.2	弥生	
2624	竪穴建物	6D7b	3.0	1.8以上	0.2	弥生・土師器・須恵器	
2625	竪穴建物	6D7b	2.5以上	1.6以上	0.2	弥生・土師器・須恵器	
2626	竪穴建物	6D8b	2.2以上	2.2以上	0.1	弥生・土師器・須恵器	
2627	竪穴建物	6D8b	5.2以上	4.6以上	0.1	弥生・土師器・須恵器	
2628	竪穴建物	6D7b	2.7以上	2.0以上	0.2	弥生・土師器・須恵器	
2634	不明土坑	6D10b	2.2	1.2	0.78		
2635	不明土坑	6D10b	3.4以上	0.8	0.34		

## 第13節 2016-1 調査（B・C・D区）

### （1）はじめに

前節で報告した2016-1調査（A区）と同一原因の調査であり、調査に至る経緯等は前節に譲る。

なお、前節でも記したが、A・B・D区に囲まれている敷地の中央部については既存建物によって破壊されていると判断されたため、調査対象からは除外している。

A区は独立した調査区であるため節を分けて報告したが、B・C・D区は一区画を3分割して調査したものであるため、本節で一括して報告する（図5）。調査はC区→B区→D区の順に実施した。

### （2）基本層序（図95～97）

C区北壁（図95）およびB・C・D区西壁（図96・97）を図示した。基本層序は大別6層に分けられる。ただし、B区は西側が1980-2調査（第3節）と重複しており、壁面の大部分は既に攢乱された状態であった。そのため、層序の確認ができたのはごく一部に留まる。

第0層 現代の造成盛土および攢乱である。層厚はC区西側で1.1m、東側で1.8mを測る。この違いは、前節でも記した通り、本来周辺の微地形が西から東に下る地形であり、これを平坦にするために東側の盛土量が多かったことに起因する。

第1層 近現代の耕作土層である。削平を受けている部分が多く遺存状態は良くない。C区東側において、0.4m程度の西から東へ落ちる段差を確認しており、耕作地が段状に造成されていたと考えられる。層厚は最も厚い部分で0.2mを測る。

第2層 第1層以前の耕作土と考えられる土層である。地点により2層に細分することができる。層厚は0.1～0.25mを測る。

第3層 当層も耕作土の可能性が考えられる。地点により2層に細分することができる。層厚は0.1～0.25mを測る。

第4層 弥生時代中期の遺物を多く含む遺物包含層である。わずかながら、古墳時代後期や中世の遺物も含む。層厚0.25～0.5mを測る。当層の下面において遺構の検出を行った。

第5層 いわゆるベース層である。調査区西側では、T.P.+23.2m、東側ではT.P.+22.3mの高さで当層を検出しており、東西約70mの間で0.9mの標高差が認められる。

### （3）遺構（巻頭図版1・2、PL 24～34）

B・C・D区は調査区が広大な範囲に及ぶため、全体図（図98）と調査区を分割、拡大した図面を掲載した（図100～122）。また各遺構に付与した番号は、全て拡大図に記載した。ただし、遺構の数が膨大であるため、紙幅の都合上、個別遺構の法量や出土遺物の種別を記した表は割愛した。以下では、出土遺物を掲載した遺構および特徴的な遺構について報告する。なお、本文中に記載した遺構規模については、全体的な記録の統一を図るために発掘調査終盤で記録した平面測量図（図99～122）を基礎資料とした。発掘調査期間はB・C・D区で7か月に及び、その間数度の台風や猛雨に見舞われた。中河原遺跡の遺構面を形成する第5層は、水を多く含むと容易に流れ出す細砂～粗砂を多く含む土壤であり、遺構面が水没するたびに遺構の肩が崩落することがしばしばあった。発掘調査終盤での記録を基礎資料としたため、遺構検出当時の遺構規模より大きく記載しているものもある。遺構検出から比較的短期間で記録した遺構断面図との差が大きく確認できるものについては、各遺構の項でその都度記す。また、「7C1a」や「6C9c」といった表記は第Ⅲ章（図4）に記した地区割に基づく呼称である。



図 95 2016-1 調査 C 区北壁土層断面図

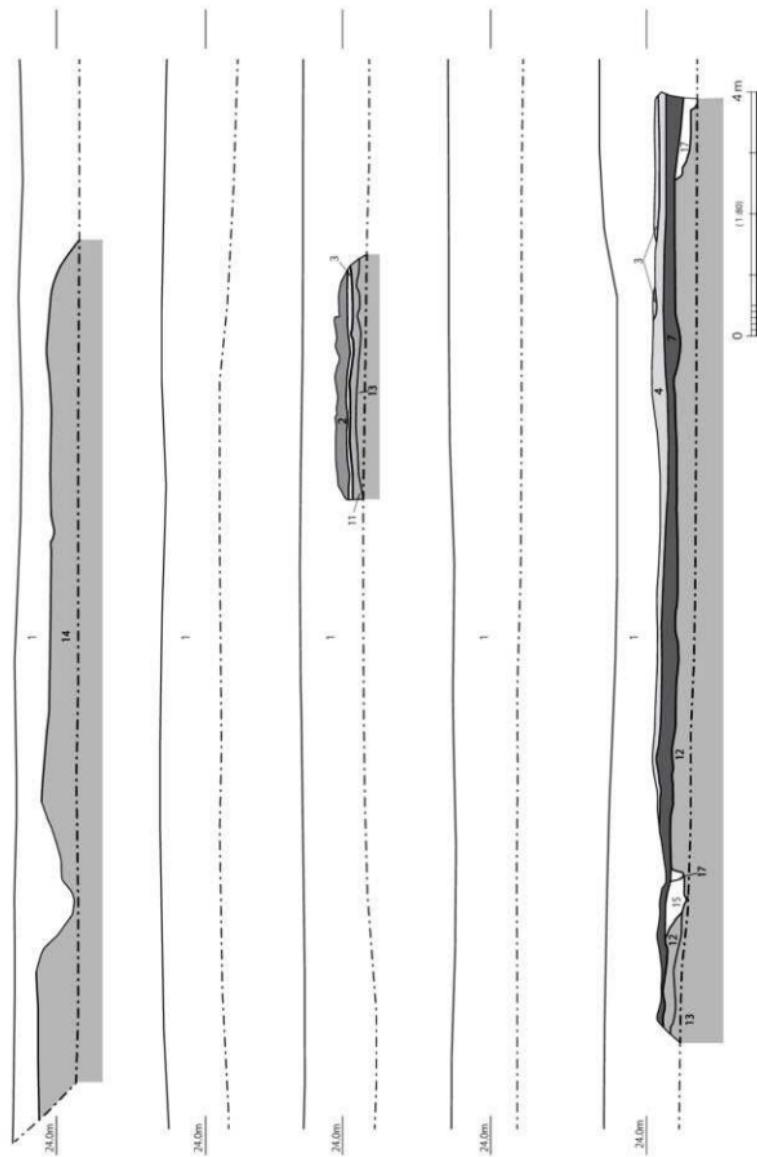


図 96 2016-1調査 B・C・D区西壁土層断面図（1）

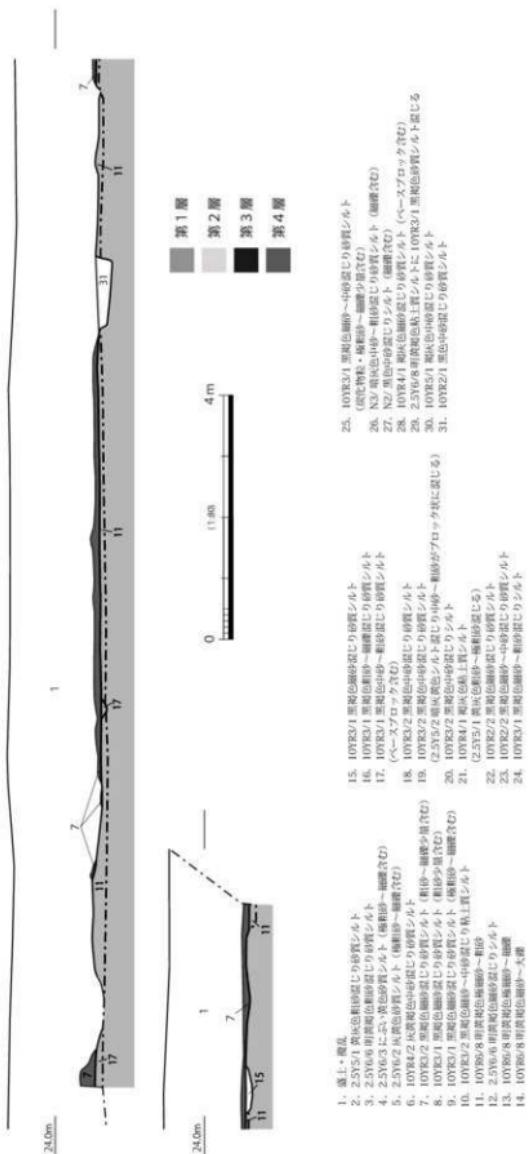


図 97 2016-1 調査 B・C・D 区西壁土層断面図 (2)



図 98 2016-1 調査 B・C・D区平面図

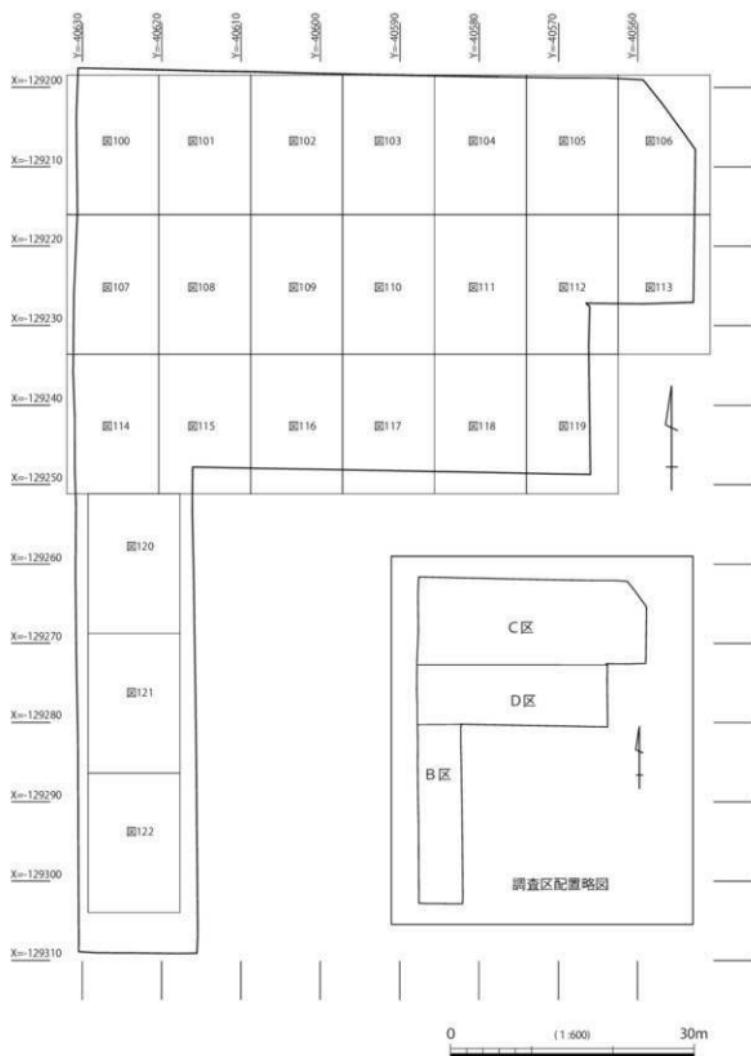


図 99 2016-1 調査 B・C・D 区平面図郭割図

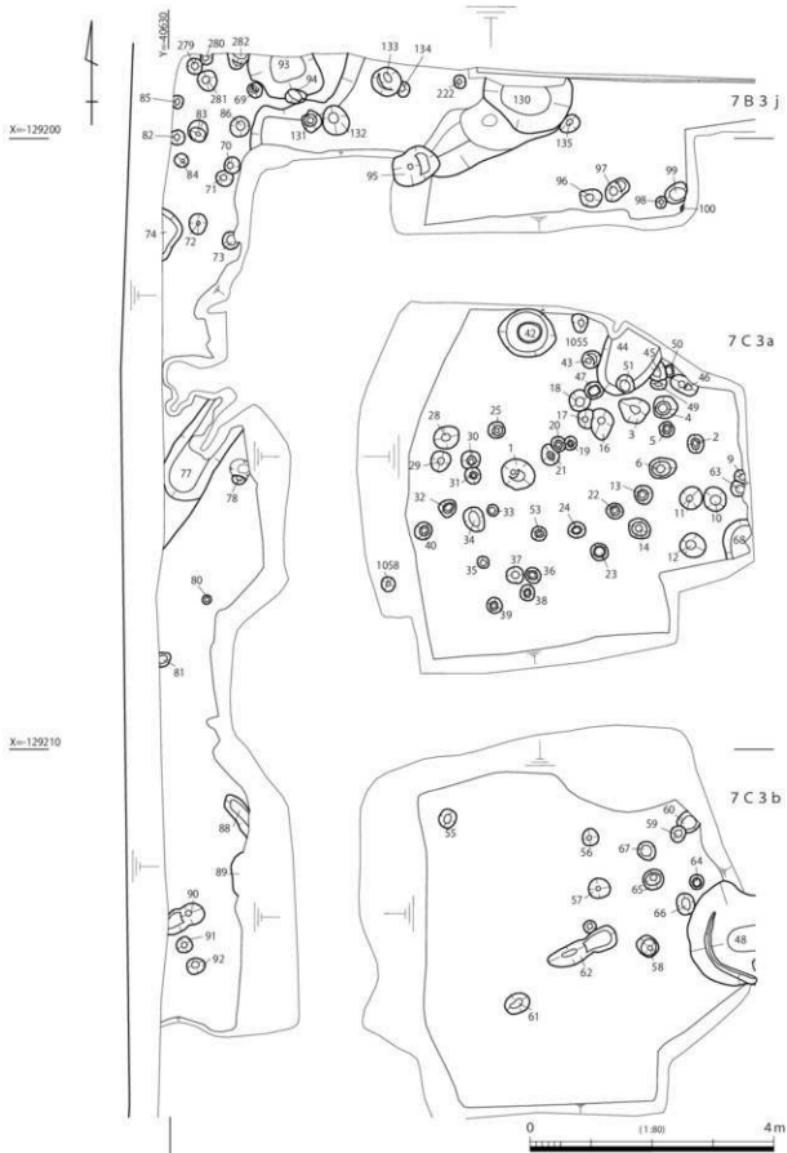
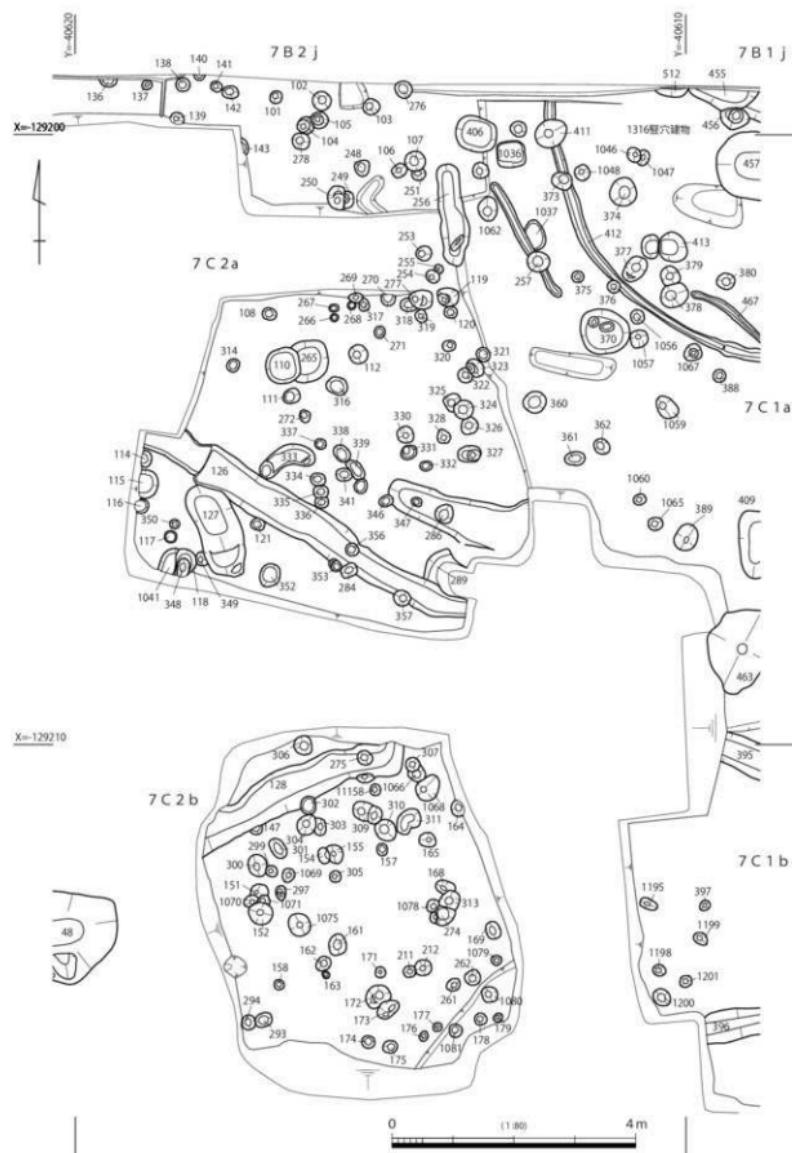


図 100 2016-1 調査 B・C・D 区平面図 (1)



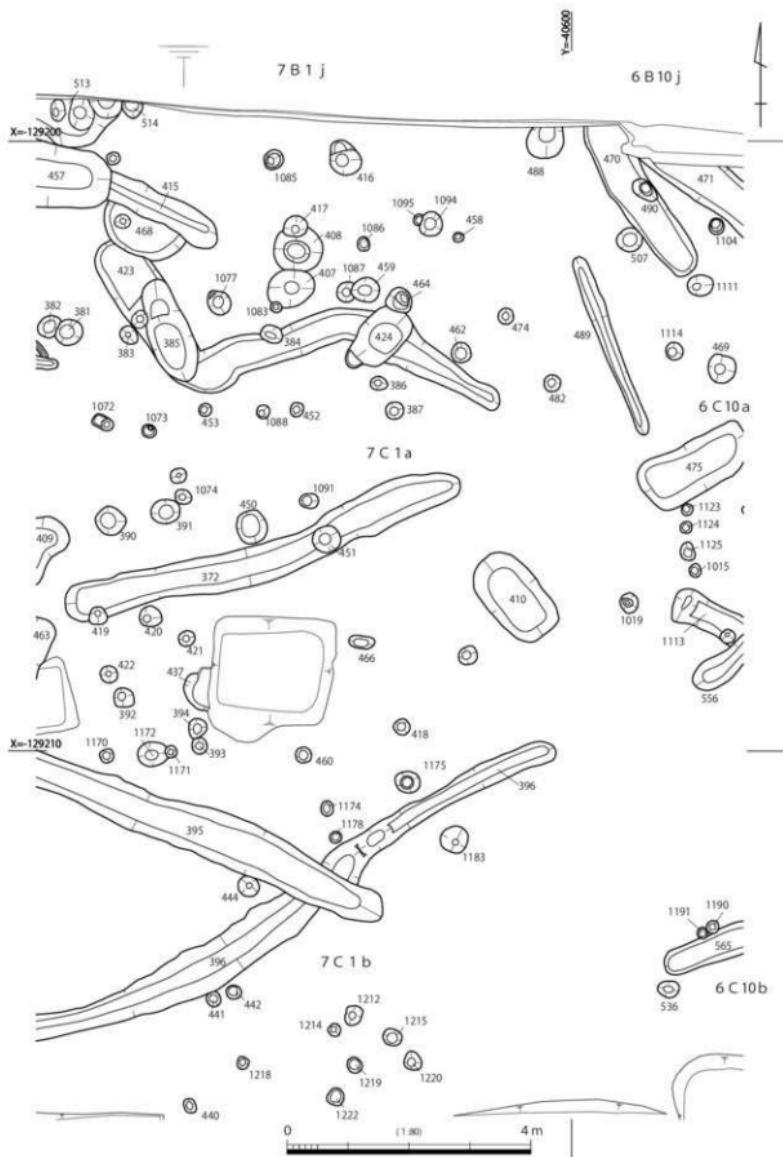


図 102 2016-1調査 B・C・D区平面図(3)

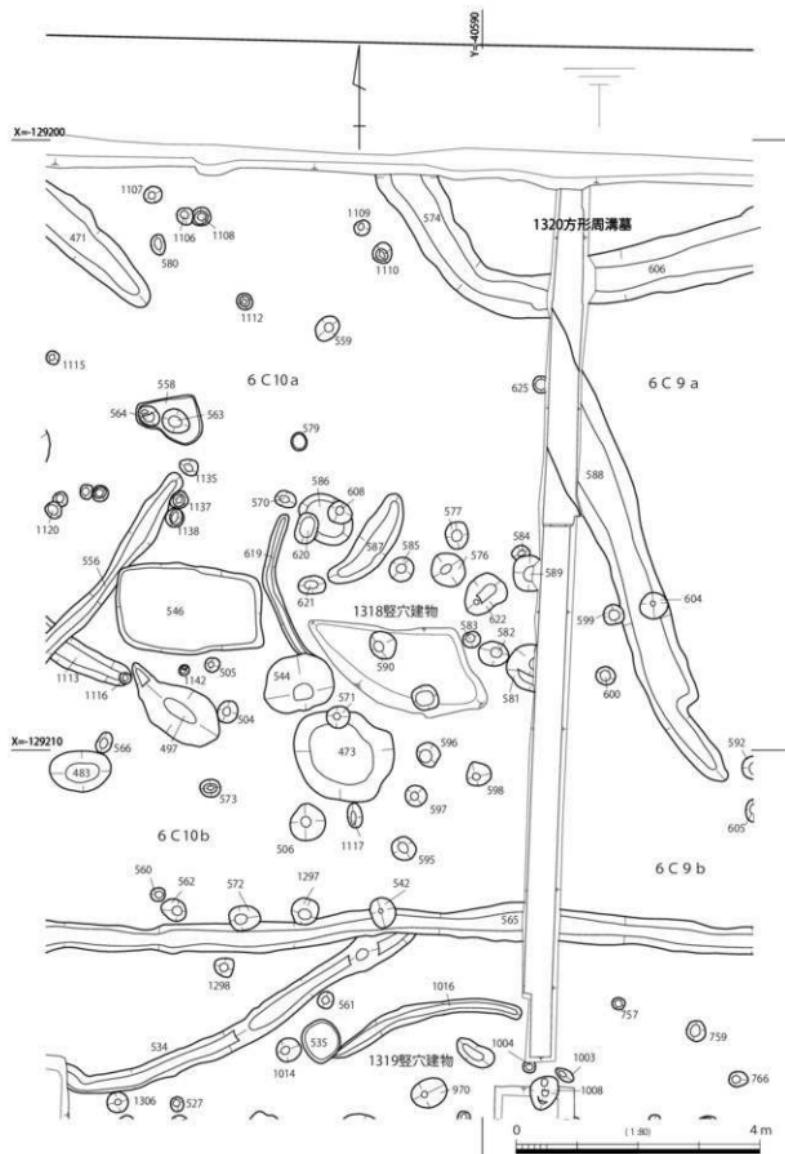


図 103 2016-1 調査 B+C+D 区平面図 (4)

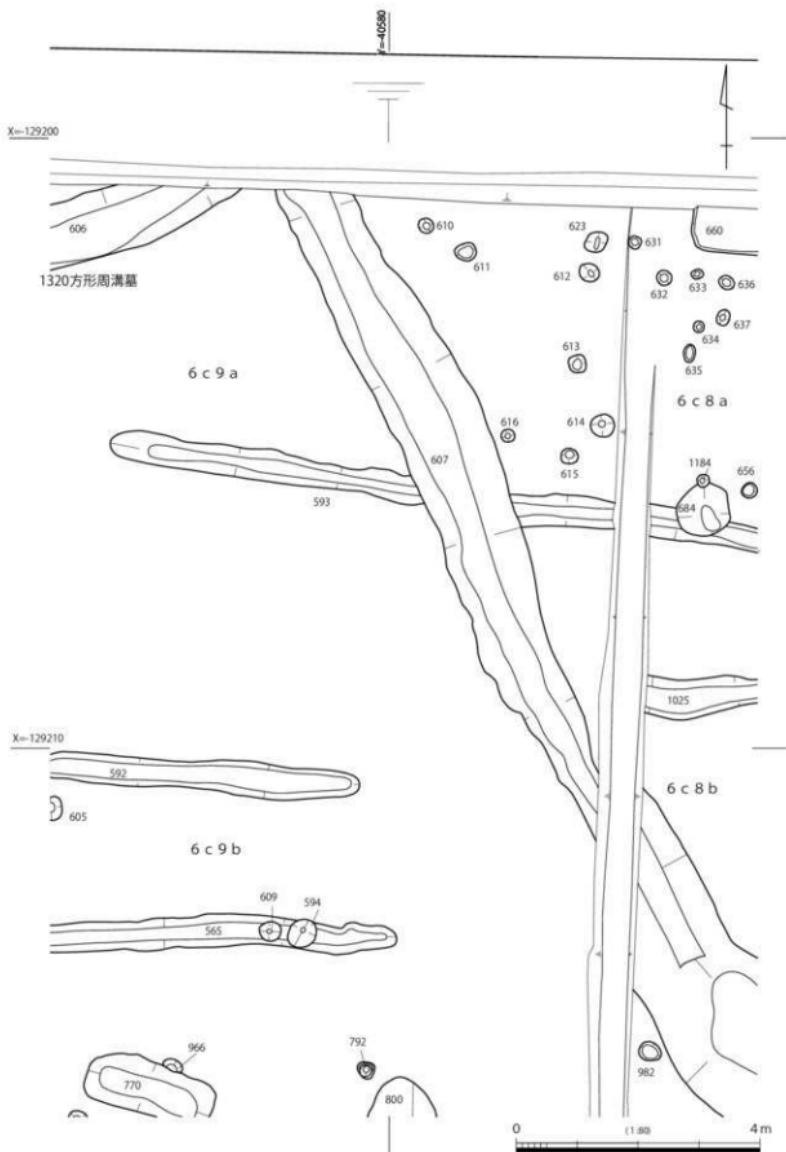


図104 2016-1調査 B・C・D区平面図(5)

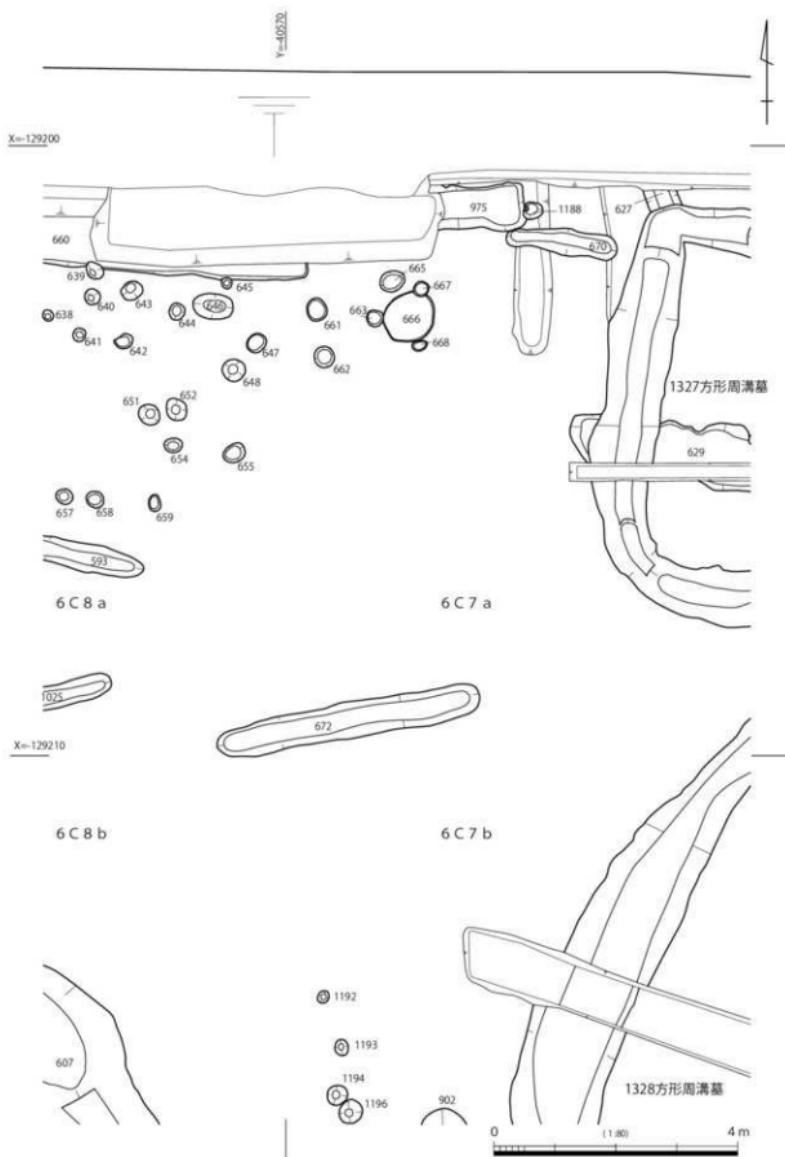


図105 2016-1調査 B・C・D区平面図 (6)

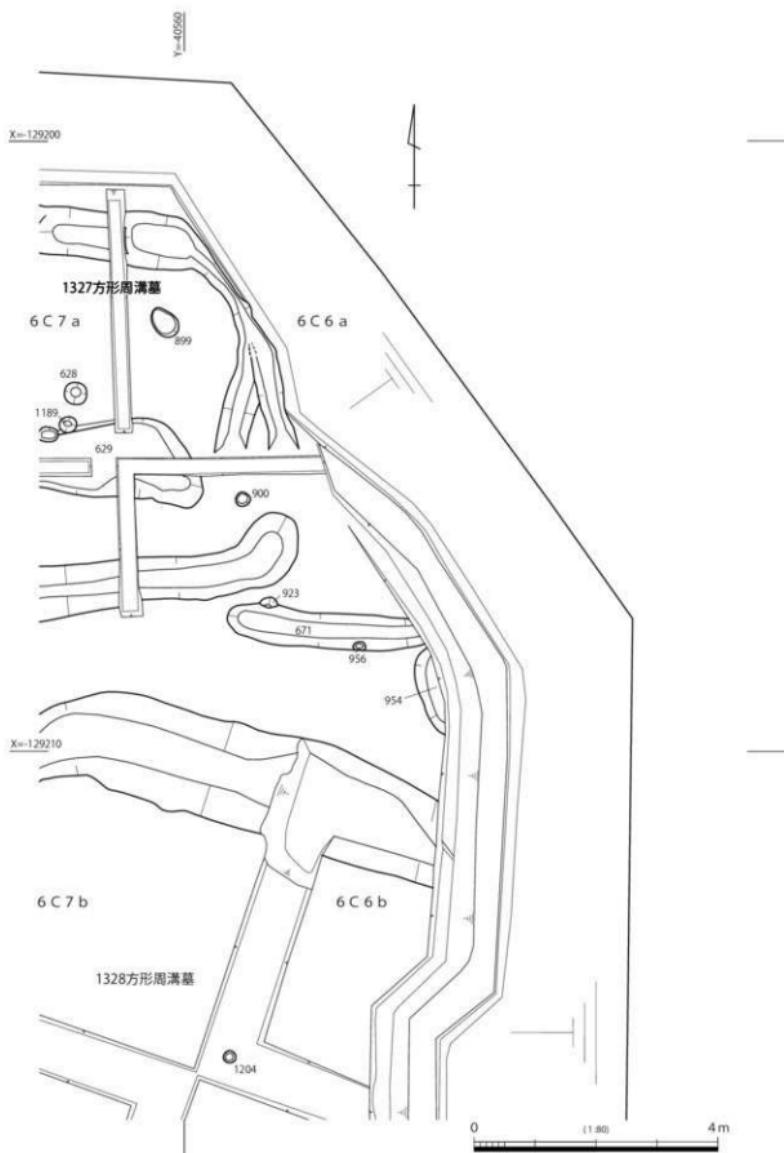


図 106 2016-1 調査 B・C・D 区平面図 (7)



図107 2016-1調査 B・C・D区平面図 (8)

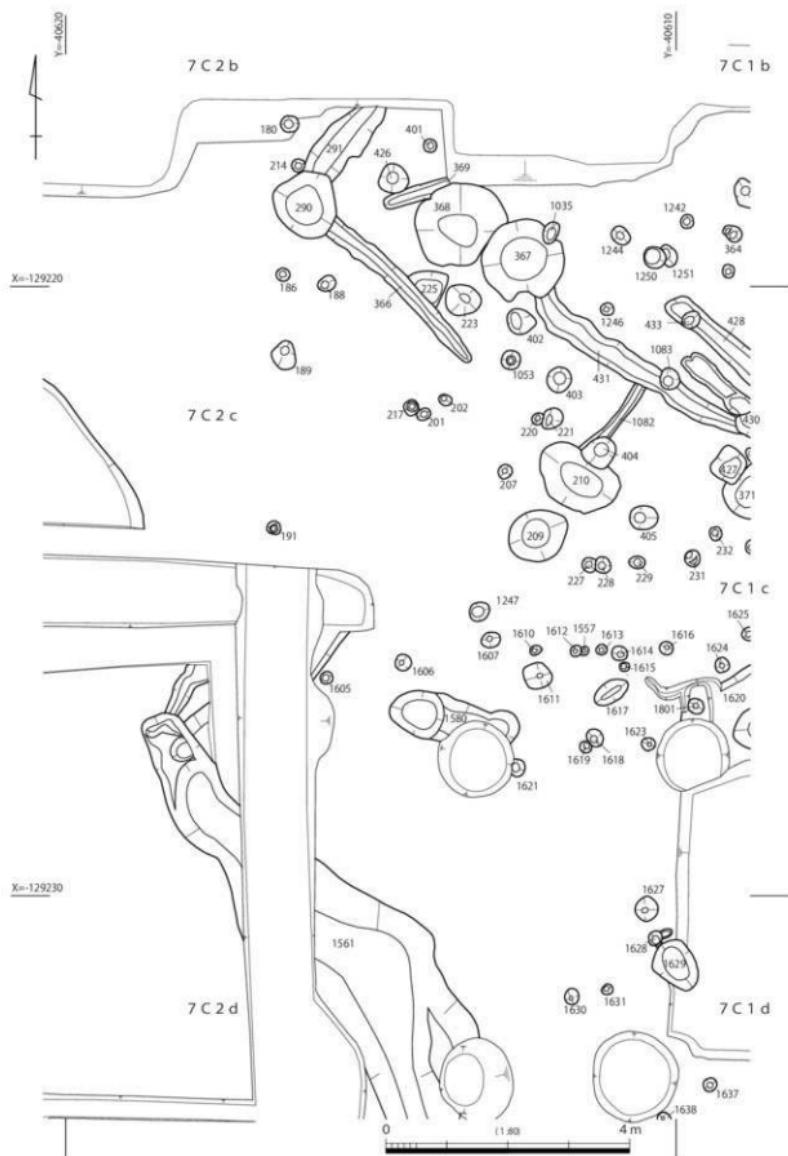


図 108 2016-1調査 B・C・D区平面図 (9)

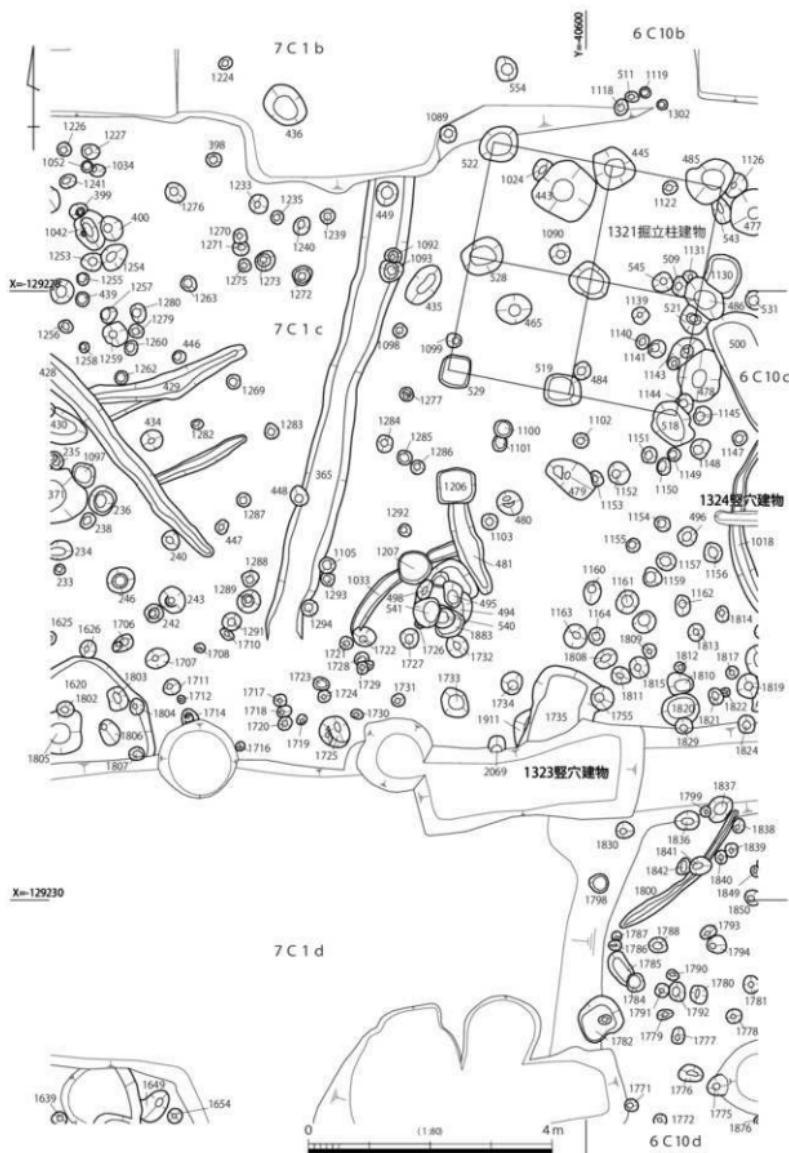


図109 2016-1調査 B・C・D区平面図 (10)

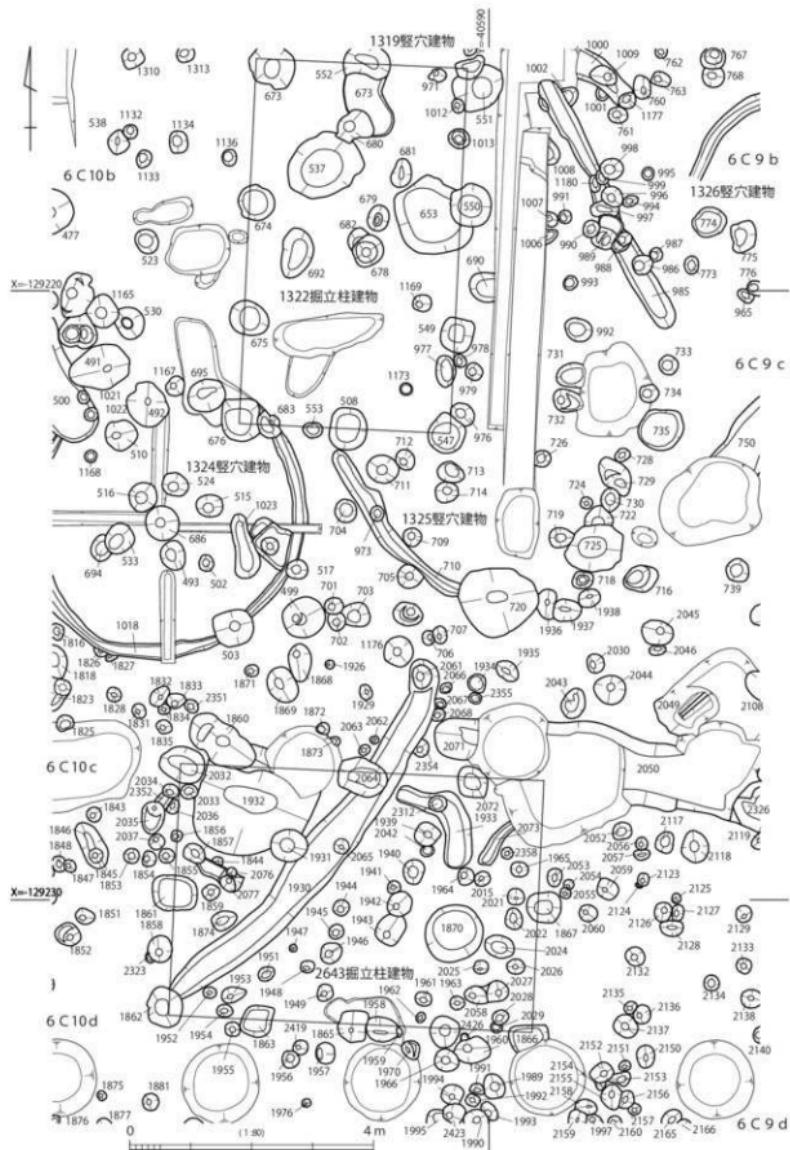


図 110 2016-1 調査 B・C・D区平面図 (11)

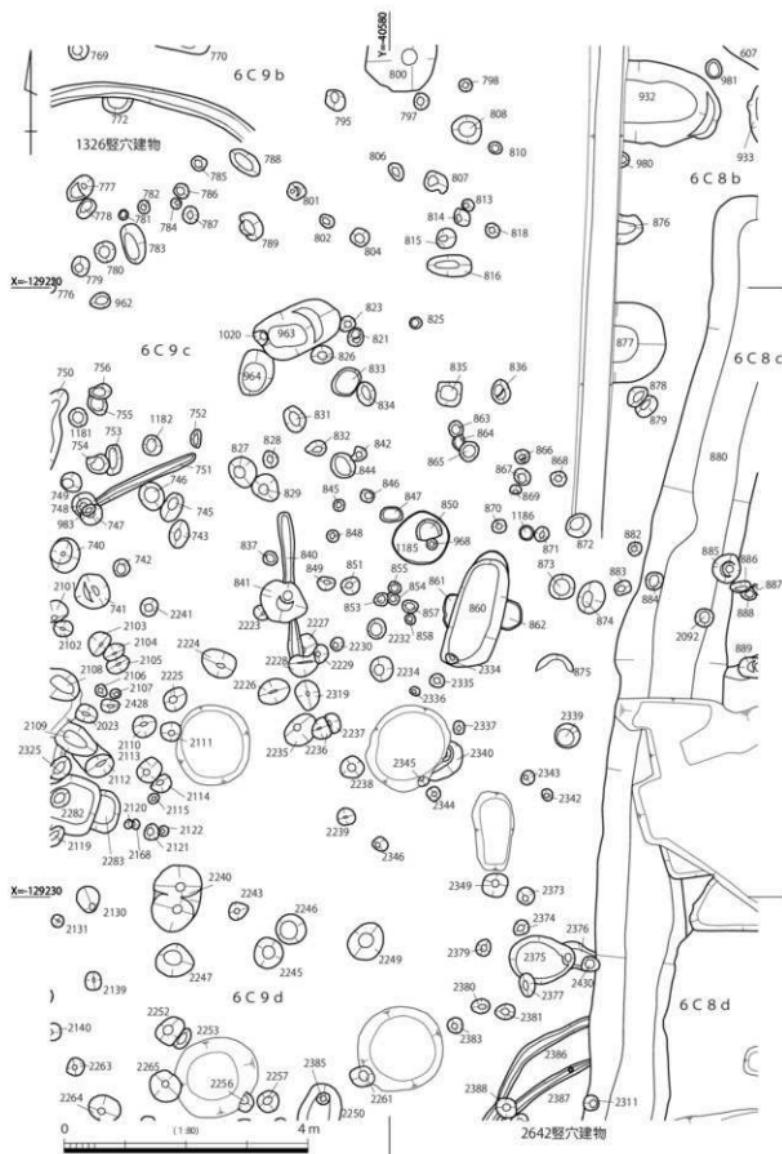


図 111 2016-1 調査 B・C・D 区平面図 (12)

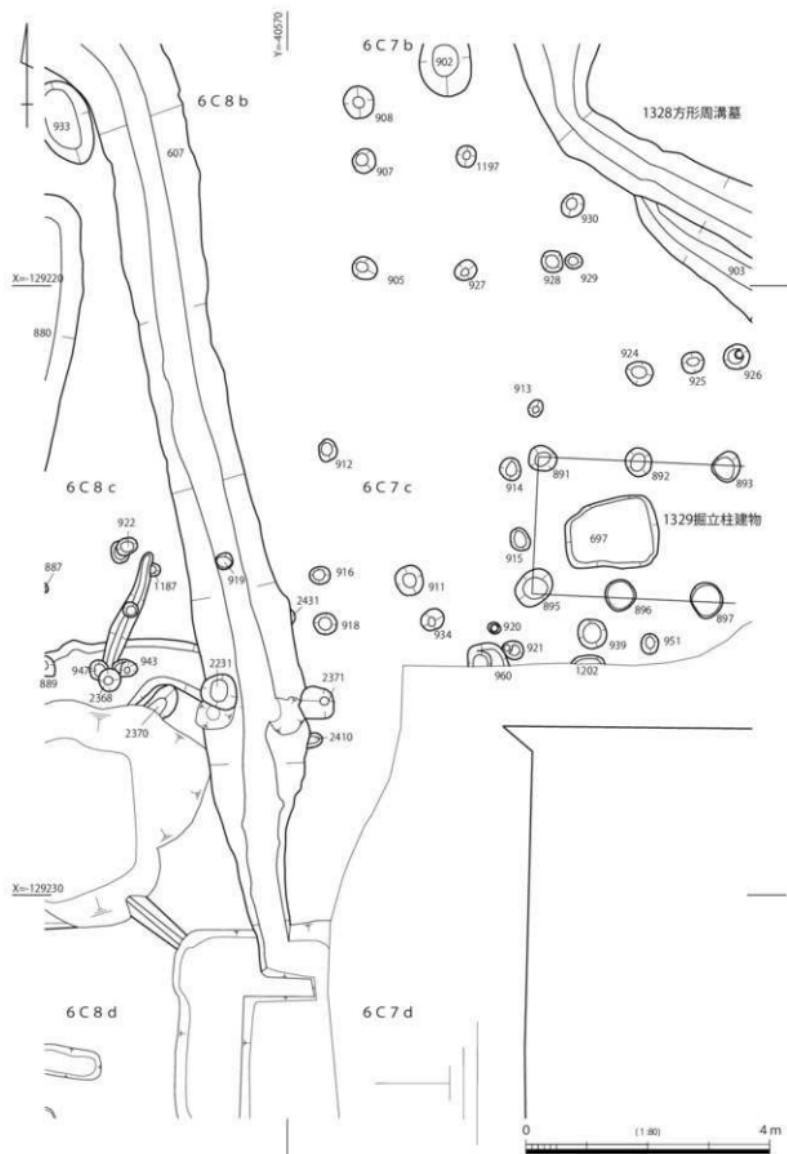


図 112 2016-1 調査 B・C・D 区平面図 (13)

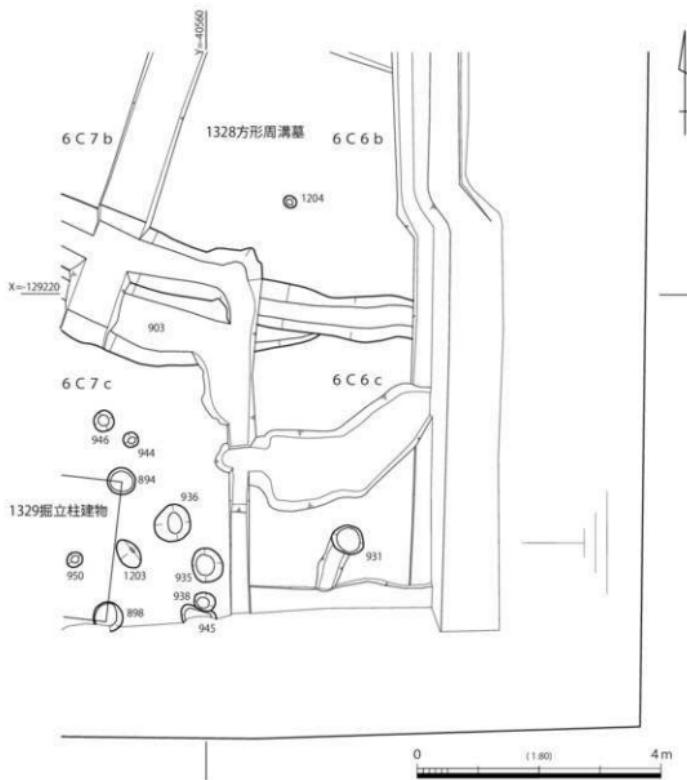


図 113 2016-1 調査 B・C・D 区平面図 (14)

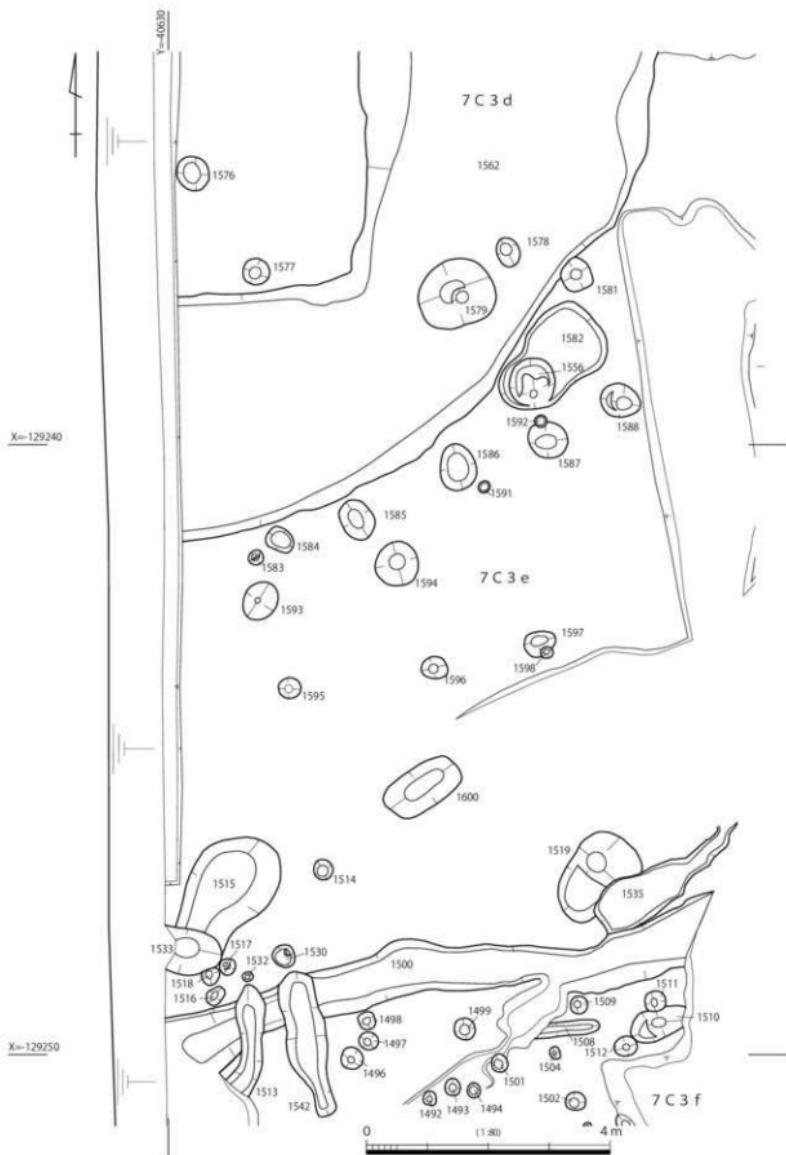


図 114 2016-1調査 B・C・D区平面図 (15)

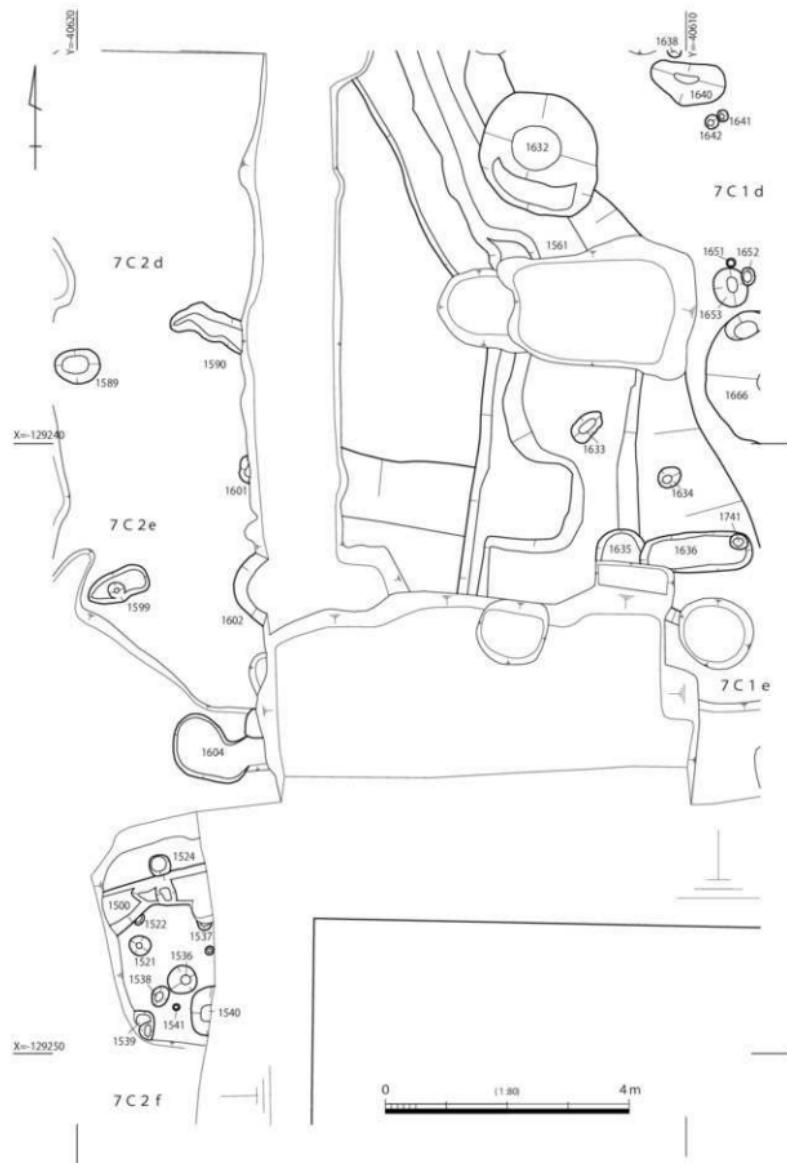


図 115 2016-1 調査 B・C・D区平面図 (16)

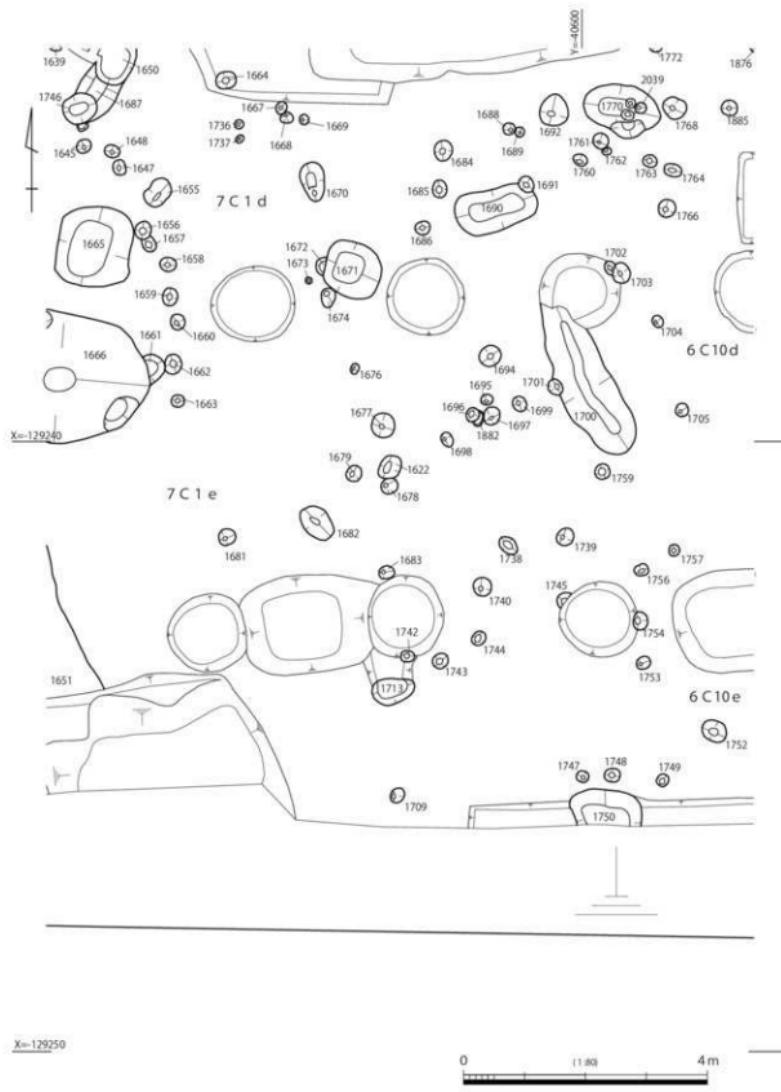


図 116 2016-1 調査 B・C・D 区平面図 (17)

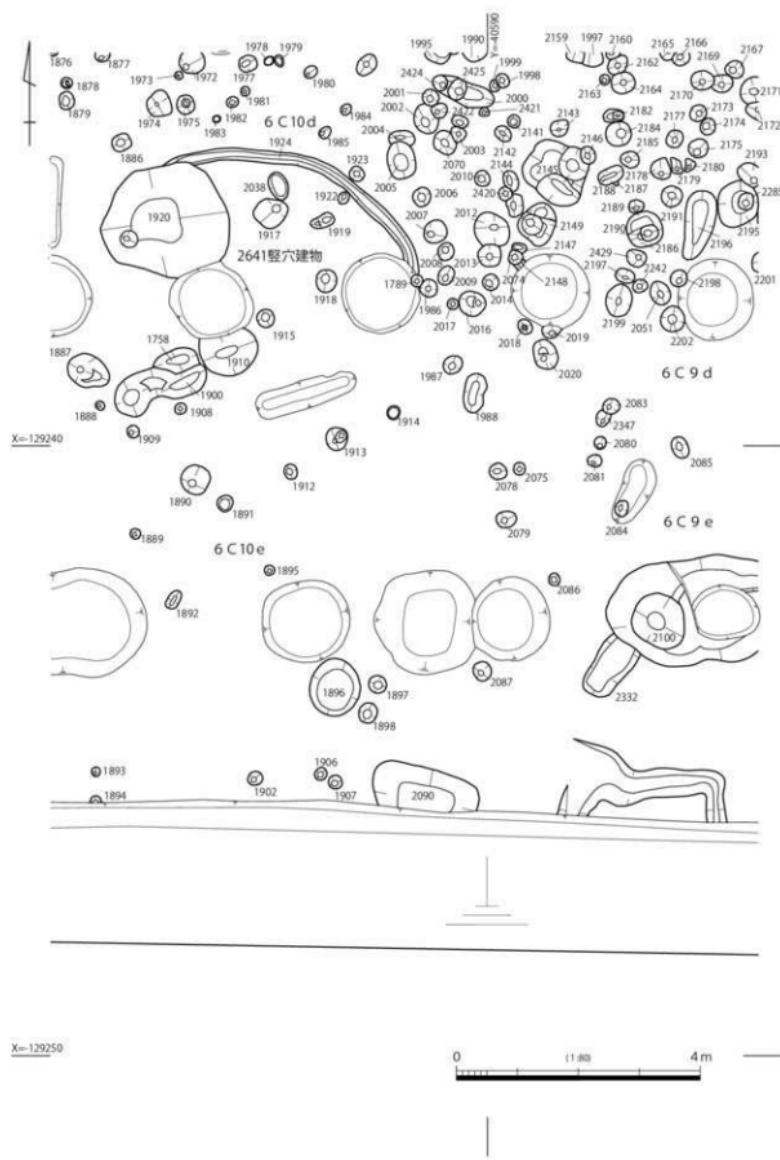


図 117 2016-1 調査 B・C・D区平面図 (18)

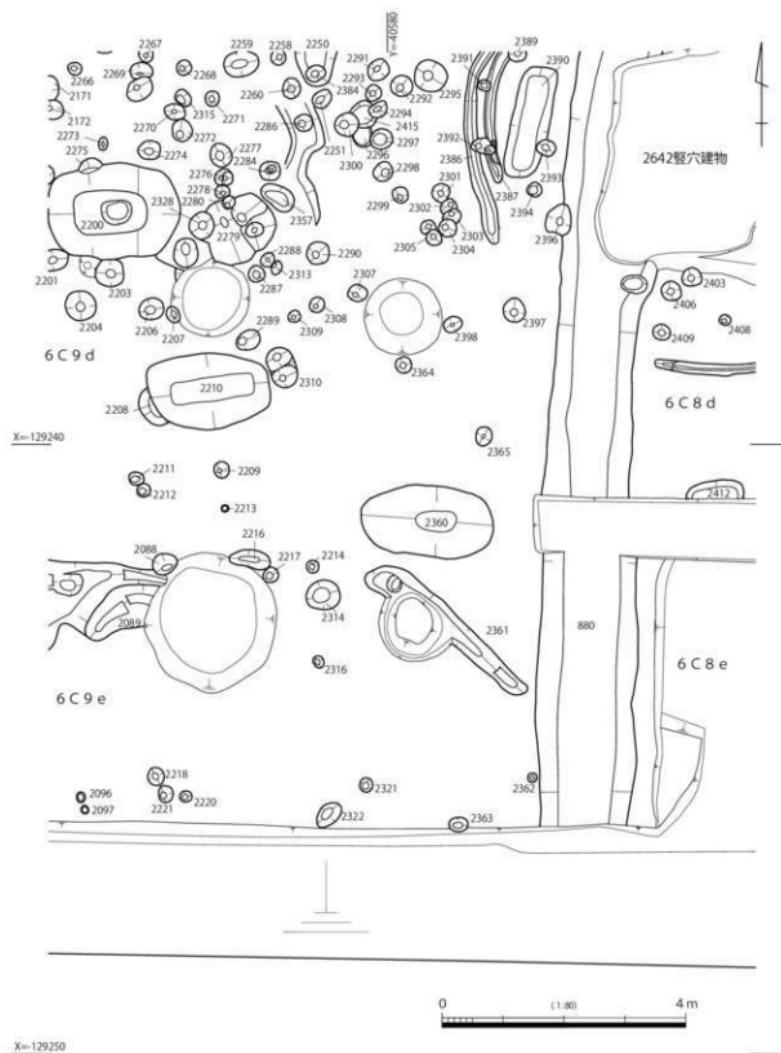


図 118 2016-1 調査 B・C・D 区平面図 (19)

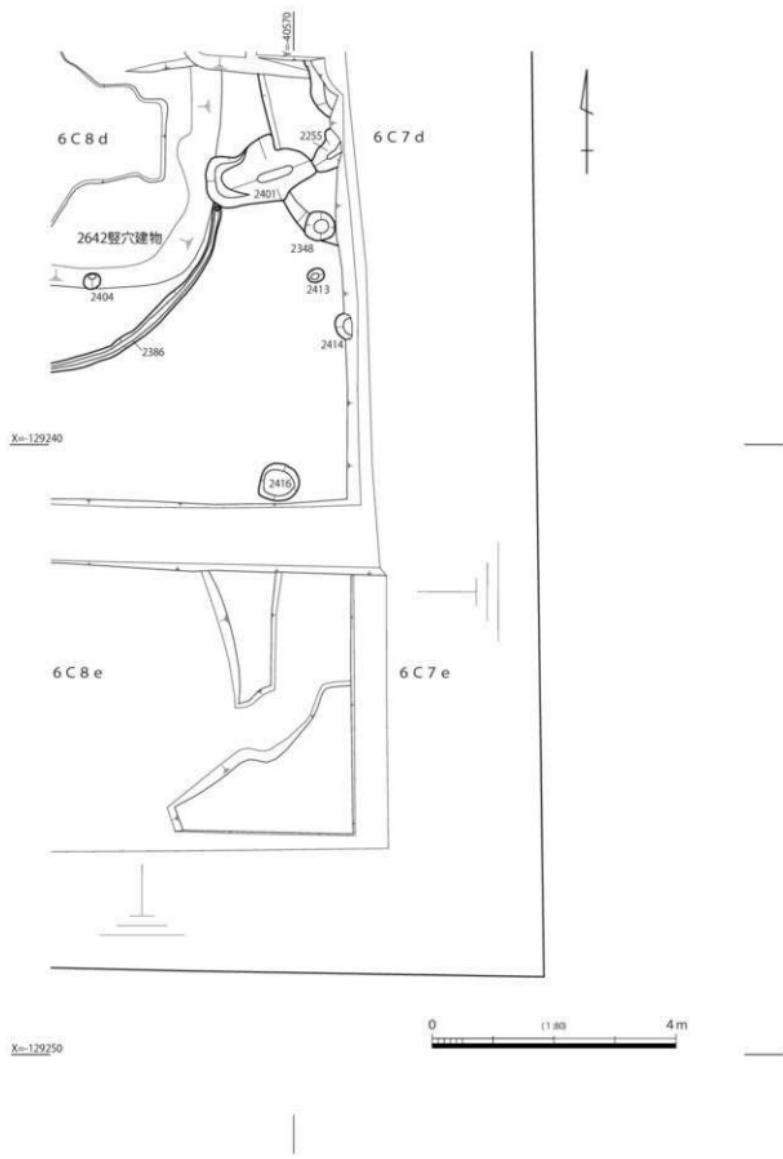


図 119 2016-1 調査 B・C・D 区平面図 (20)

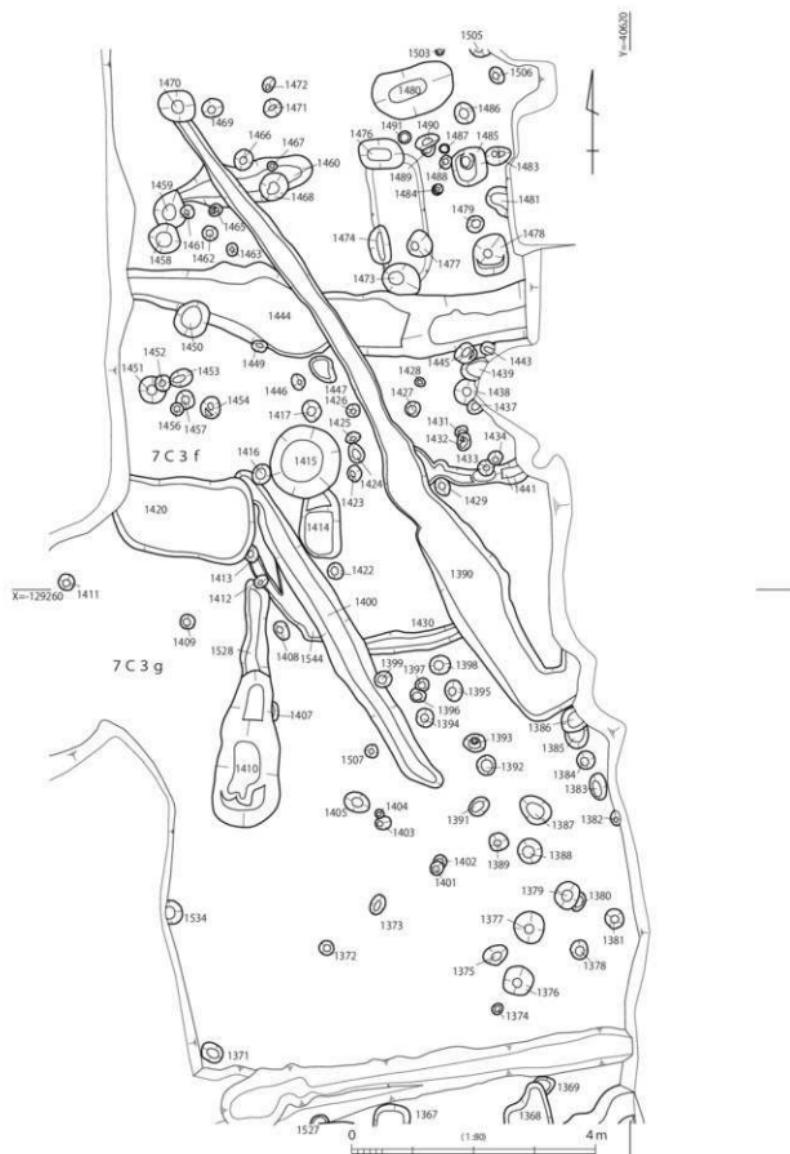


図 120 2016-1 調査 B・C・D区平面図 (21)

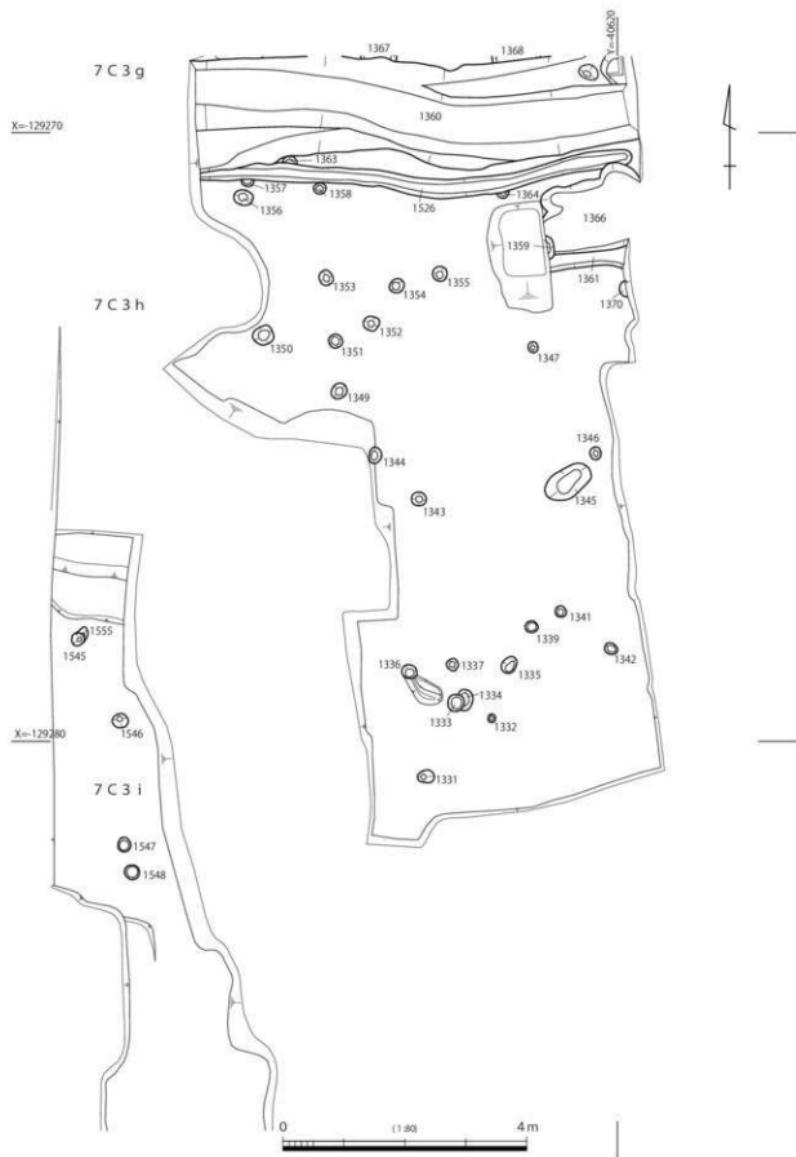


図 121 2016-1 調査 B+C+D 区平面図 (22)

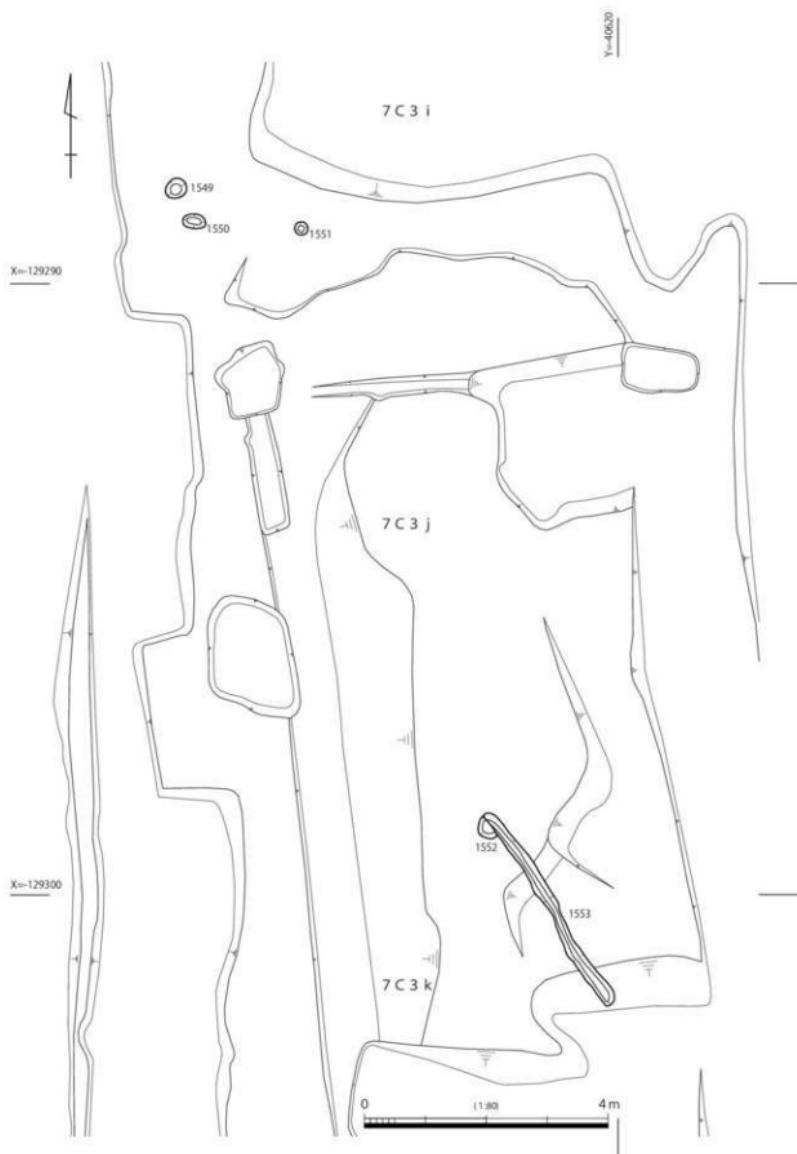


図 122 2016-1 調査 B・C・D区 平面図 (23)

### 弥生時代の遺構

ピット・土坑・溝・竪穴建物など多数の遺構を検出した。その多くは弥生時代中期の遺構であるが、出土遺物の年代によってある程度は、前葉・中葉・後葉に分けることが可能である。以下ではその時期区分に応じて記述する。

#### 弥生時代中期前葉

##### 土坑

210土坑（図108・123） 7C2c区で検出した土坑である。長径1.4m、短径1.0m、深さ0.35mを測る。平面形状は楕円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

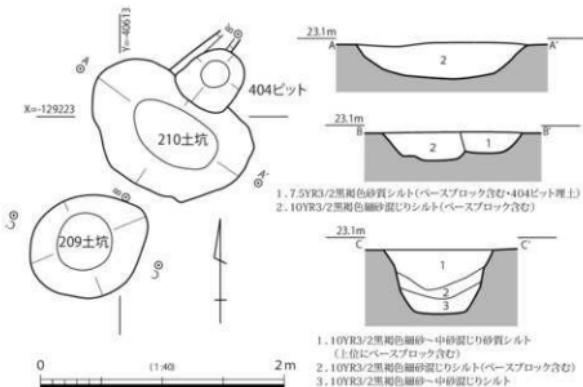


図 123 2016-1 調査 C 区 209・210 土坑平面・断面図

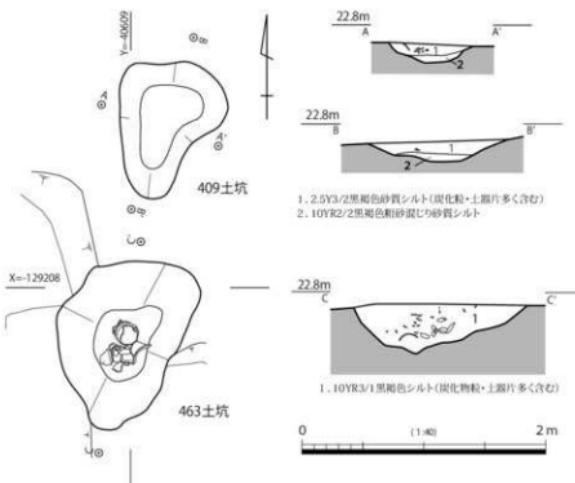


図 124 2016-1 調査 C 区 409・463 土坑遺物出土状況・平面・断面図

290土坑（図108・125） 7C2b区で検出した土坑である。長径1.0m、短径0.8m、深さ0.4mを測る。溝366・291を切る。この2条の溝は別番号を付与したが、同一遺構の可能性も考えられる。平面形状は楕円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

368土坑（図108・125） 7C2b区で検出した土坑である。長径1.4m、短径1.4m、深さ0.5mを測る。367土坑に切られる。平面形状は円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

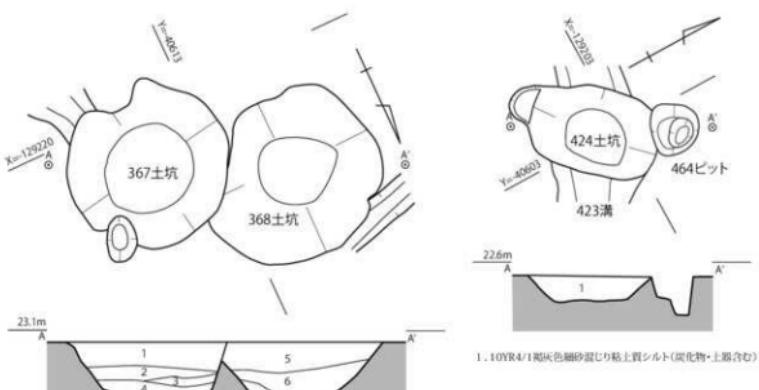
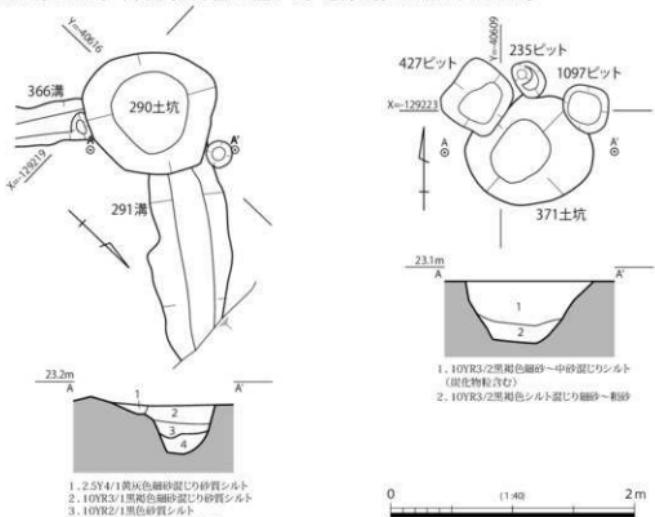


図125 2016-1調査 C区 290・367・368・371・424 土坑平面・断面図

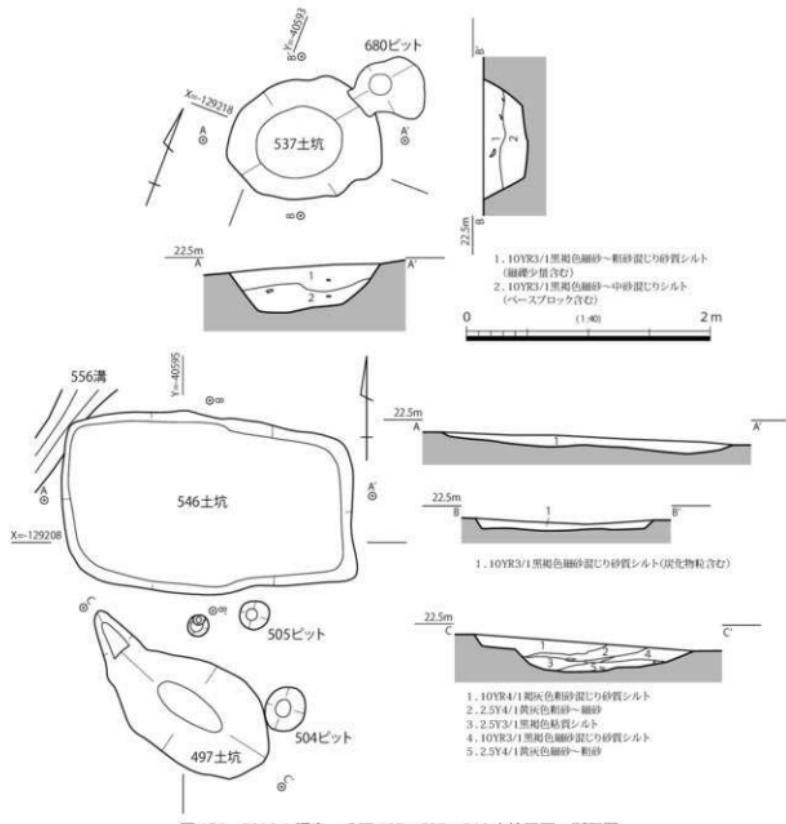


図126 2016-1調査 C区 497・537・546 土坑平面・断面図

371土坑（図108・109・125） 7C1c区で検出した土坑である。長径1.2m、短径1.0m、深さ0.5mを測る。235・427・1097ピットに切られる。平面形状は円形を呈する。埋土上位層はやや淘汰が悪く、炭化物粒を含む。遺物は弥生土器が出土した。

463土坑（図101・102・124・PL.29-2） 7C1a区で検出した土坑である。長径1.4m、短径1.0m、深さ0.4mを測る。平面形状は不定形な楕円形を呈する。断面形状についても底場が一定せず、不整形である。埋土中位において多くの弥生土器がまとまって出土した。

537土坑（図110・126） 6C10b区で検出した土坑である。長径1.2m、短径1.0m、深さ0.5mを測る。680ピットに切られる。平面形状は楕円形を呈する。遺物は弥生土器・石器が出土した。

546土坑（図103・126） 6C10a区で検出した土坑である。長径2.4m、短径1.4m、深さ0.1mを測る。566溝を切る。平面規模は隅丸長方形を呈する。平面規模の割に深さが著しく浅く、底面は概ね平らかである。遺物は弥生土器・石器が出土した。

932土坑（図111・127） 6C8b区で検出した土坑である。長径1.6m以上、短径1.3m、深さ0.5mを測

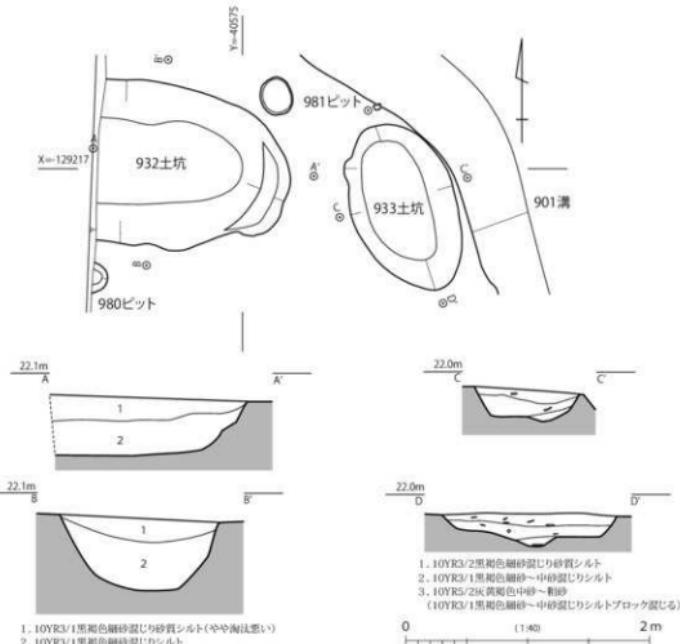


図 127 2016-1 調査 C区 932・933 土坑平面・断面図

る。平面形状は楕円形を呈する。遺物は弥生土器・石器が出土した。

963土坑（図111・128・PL27-1） 6C9c区で検出した土坑である。長径1.2m、短径0.8m、深さ0.45mを測る。西端部を1020ピットに切られる。964土坑に近接するものの切り合い関係は不明である。平面形状は楕円形を呈する。断面形状は、長軸において西側はほぼ垂直に落とされるが、東側はややなだらかに2段落ちを呈する。短軸については、両側とも直角に近い角度で落ちる。底は遺構西半部に偏り概ね平らかである。遺物は埋土上位層から弥生土器がまとまって出土し、埋土下位層から石器が出土した。

964土坑（図111・128・PL27-1） 6C9c区で検出した土坑である。長径0.8m、短径0.6m、深さ0.3mを測る。963土坑に近接する。平面形状は楕円形を呈する。断面形状は短軸では直角に近い角度で落ちるが、長軸ではややなだらかに落ちる。遺構の北半部に偏ってわずかな底面を持つ。遺物は遺構埋土上位層から弥生土器がまとまって出土した。

#### 溝

372溝（図102） 7C1a区で検出した南西—北東方向に延びる溝である。419・451ピットに切られる。長さ6.8m、幅最大0.7m、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色細砂混じりシルトの単層であり、遺物は弥生土器・石器が出土した。

396溝（図101・102） 7C1b区で検出した南西—北東方向に延びる溝である。395溝に切られ、南西部は擾乱に切られる。検出長10.6m、最大幅0.9m、深さ0.3mを測る。埋土は下から黒褐色細砂混じり

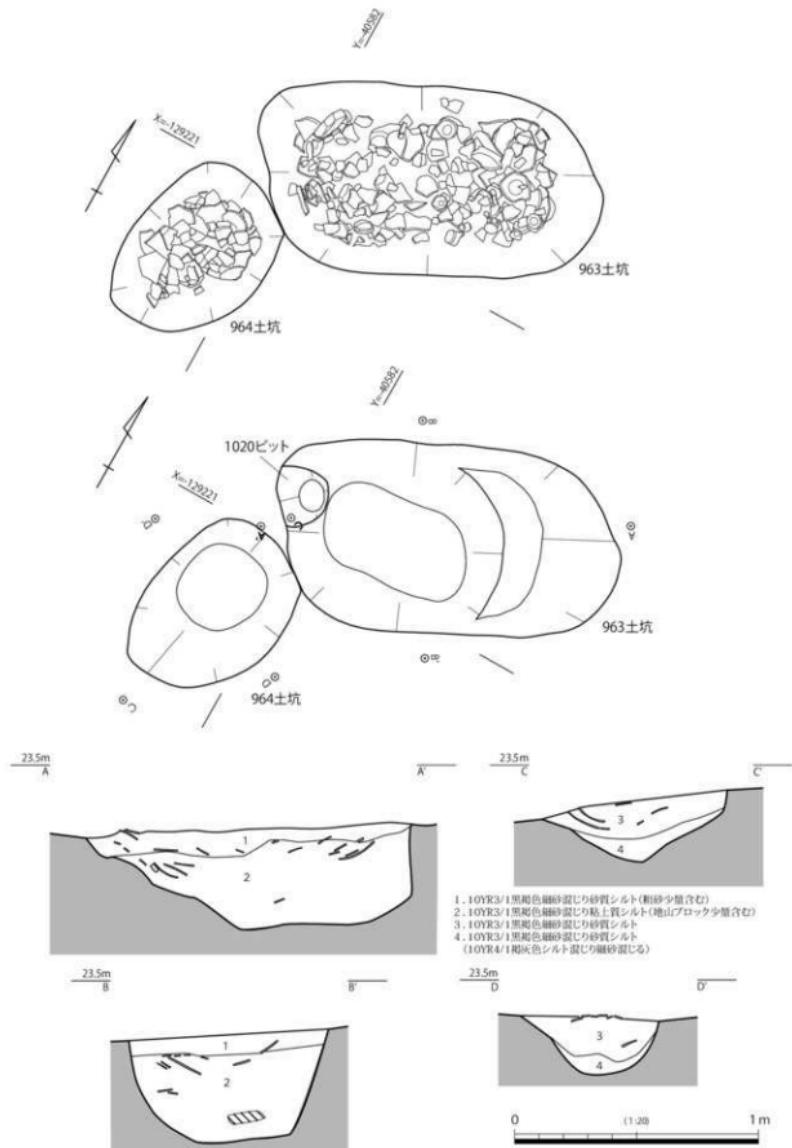


図 128 2016-1 調査 C 区 963・964 土坑遺物出土状況・平面・断面図

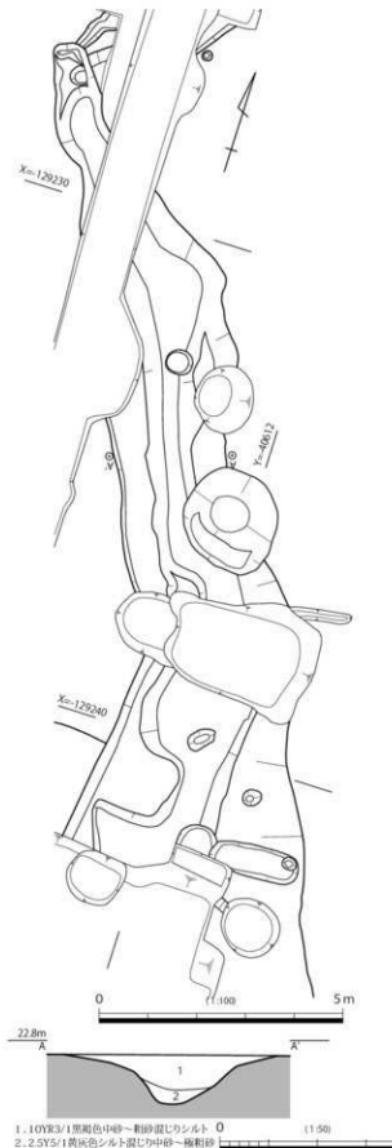


図 129 2016-1 調査 D区 1561 溝平面・断面図

シルト、黒褐色細砂混じり砂質シルトの2層が堆積する。遺物は弥生土器・石器が出土した。

1561溝（図108・115・129） 7C1d・1e・2c・2d・2e区で検出した南北方向に延びる溝である。本来はさらに北西方向に延びていた可能性がある。1632土坑をはじめとする多数の遺構に切られる。検出長20.0m、幅2.5m、深さ0.15～0.50mを測る。一部で一帯に広がる灰黄褐色細砂混じり砂質シルトの古土壤を切る。遺物は弥生土器・石器が出土した。

1562溝（図107・114・130・131） 7C3c・3d区に位置する溝である。調査区西端に位置するため全容は不明である。検出した範囲の平面形状はおむね「コ」の字状を呈する。溝の外側は丸みをもって緩やかに曲がるのに対して、内側は鋭い角度で曲がり、調査区西壁と溝に囲まれた部分は長方形を呈する。掘方は、A-A'断面については上部が大きく攢乱されており不明な部分が多いが、B-B'断面においては、溝の中心より外側に最深部をもち、西肩はやや緩やかに上がるのに対し、東肩は最深部より角度をもって立ち上がる。C-C'断面についても、B-B'断面ほど顕著ではないが、同様に溝の中心より外側に最深部をもつ。D-D'断面においては浅い皿状を呈する。掘方最深部の標高は、A-A'断面では22.78m、B-B'断面では22.37m、C-C'断面では22.81m、D-D'断面では23.43mを測り、溝の最深部は東、北に大きく下り、比高は最大で1.06mである。検出面についても、図96・97に示すように1562溝の南辺と北辺では、検出面である第4層下面の標高が大きく異なっており、約0.6mの比高が認められる。また、1562溝の東西についても同様に、0.5m程度の比高が認められる。これらのこととは、概ね旧地形を反映したものと推測され、1562溝付近を境に旧地形が北東に下っていたものと想定される。

遺物は、弥生土器・石器が出土した。溝全体において遺物を確認しているが、南端部に土器片の集中が認められた。

1562溝はその平面形状から方形周溝墓の周



図 130 2016-1 調査 C・D 区 1562 溝平面図

溝とも想定されるが、墳丘盛土や埋葬施設の存在を示す遺構・遺物は確認できず、その明証は得られなかった。

#### ピット

1452ピット（図120） 7C3f区で検出したピットである。直径0.2m、深さ0.2mを測る。平面形状は円形を呈する。埋土は黒色中砂混じり砂質シルトの単層である。遺物は弥生土器が出土した。

1746ピット（図116） 7C1d区で検出したピットである。長径0.4m、短径0.3m、深さ0.3mを測る。1687土坑を切る。平面形状は楕円形を呈する。埋土は黒褐色細～中砂混じり砂質シルトの単層である。遺物は弥生土器が出土した。

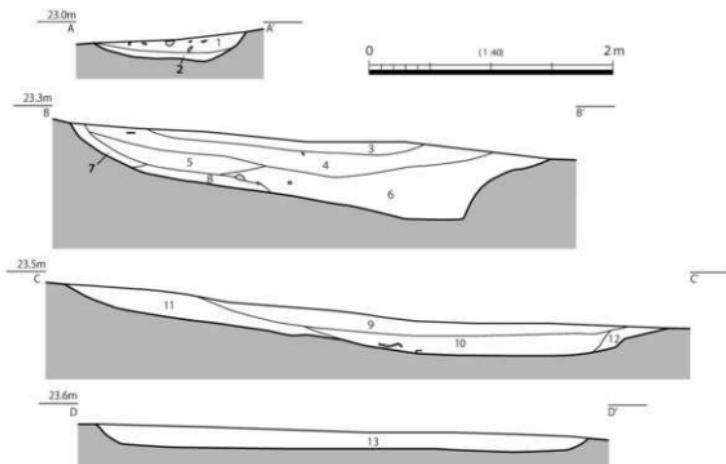
2020ピット（図117） 6C9d区で検出したピットである。直径0.5m、短径0.4m、深さ0.3mを測る。平面形状は楕円形を呈する。埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトの単層である。遺物は弥生土器が出土した。

2230ピット（図111） 6C9e区で検出したピットである。直径0.2m、深さ0.1mを測る。平面形状は円形を呈する。埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトの単層である。遺物は弥生土器が出土した。

#### 方形周溝墓

1327方形周溝墓（図105・106・132） 6C6a・7a区にまたがって検出した方形周溝墓である。630溝が周溝となる。調査区の北東端に位置し、周溝の北東角は調査区外となる。

一辺は周溝外側で6.2m、内側で4.8mを測る。深さは西側においては0.3m、南側においては0.4m、北側においては0.5mを測る。周溝は東側で一部途切れしており、この部分は陸橋に当たる可能性がある。また、東側周溝は、この部分で2条に分かれるよう見えるが、南側周溝の方向性から、周溝としては東に位置する溝が相当すると考えられる。墳丘盛



1. 10YR3/1 黒褐色細砂混じり砂質シルト(φ 2~10cm大の礫含む)
2. 10YR4/1 周灰色中砂混じりシルト(地山ブロック含む)
3. 5Y4/1 黒色シルト(鉄分沈着)
4. 2.5Y5/1 黄灰色細砂混じりシルト
5. 2.5Y4/1 黄灰色中砂混じり砂質シルト
6. 2.5Y3/1 黒褐色中砂～粗砂混じり粘土質シルト
7. 2.5Y4/1 黄灰色中砂～粗砂混じり砂質シルト(地山ブロック含む)
8. 2.5Y5/1 黄灰色細砂混じり砂質シルト(地山ブロック多く含む)
9. 10BC2/1 青黑色シルト混じり粘土～粗砂混じり鉄分沈着
10. 10YR3/1 黒褐色細砂混じりシルト
11. 10YR4/1 周灰色中砂混じり砂質シルト
12. 10YR4/1 周灰色中砂混じり砂質シルト(φ 2cm)混じり砂質シルト
13. 10YR3/1 黒褐色細砂混じり細砂(φ 3cm)混じり砂質シルト

図131 2016-1調査 C・D区 1562 溝断面図

土や埋葬施設は確認できなかった。また、周溝の内側で検出した遺構と方形周溝墓との関係は不明である。ただし、1327方形周溝墓中央部を東西に延びる629溝は周溝に切られる。

なお1327方形周溝墓の南東部には671溝、北西部に627溝が位置する。これらの溝が方形周溝墓の一部であれば、周溝を共有して群を形成している可能性も考えられる。ただし、それぞれ一部の検出にとどまっており、他に周溝を共有する方形周溝墓は検出されていないため、積極的に周溝と判断することは控えた。630溝からは弥生土器が出土し、特に南側と西側の上位層において土器片がまとまって出土した(PL.27-2・PL.28)。

**1328方形周溝墓(図105・106・112・113・133)** 6C6b・7b区にまたがって検出した方形周溝墓である。700溝が周溝となる。東側周溝は調査区外に位置する。方形周溝墓の平面規模については、東西は南側周溝外側において10.0m以上、内側においては9.0m以上、南北は西側周溝外側において9.5m、内側において7.0mを測り、やや東西に長い形状である。墳丘盛土や埋葬施設は確認できなかった。

また、周溝の内側でピット2基を検出したが、方形周溝墓との関係は明確ではない。700溝の埋土上位より多くの弥生土器片がまとまって出土した。

なお1328方形周溝墓の南側には、わずかに弧を描く903溝が存在する。700溝に切られるが、700溝の北側では検出することはできなかった。埋土下位には細かなベースブロックを含む。903溝からも弥生土器が出土した。

#### 竪穴建物

**1316竪穴建物(図101・102・134)** 7B1j・2j、7C1a・2a区にまたがって検出した竪穴建物である。北側は調査区外に延びる。弧を描く溝(412溝)を周壁溝と考え、これを基に竪穴建物とした。推定される竪穴建物の直径は約7.0mを測る。412溝は幅0.2m、深さ0.15mを測る。床面まで削平を受けてお

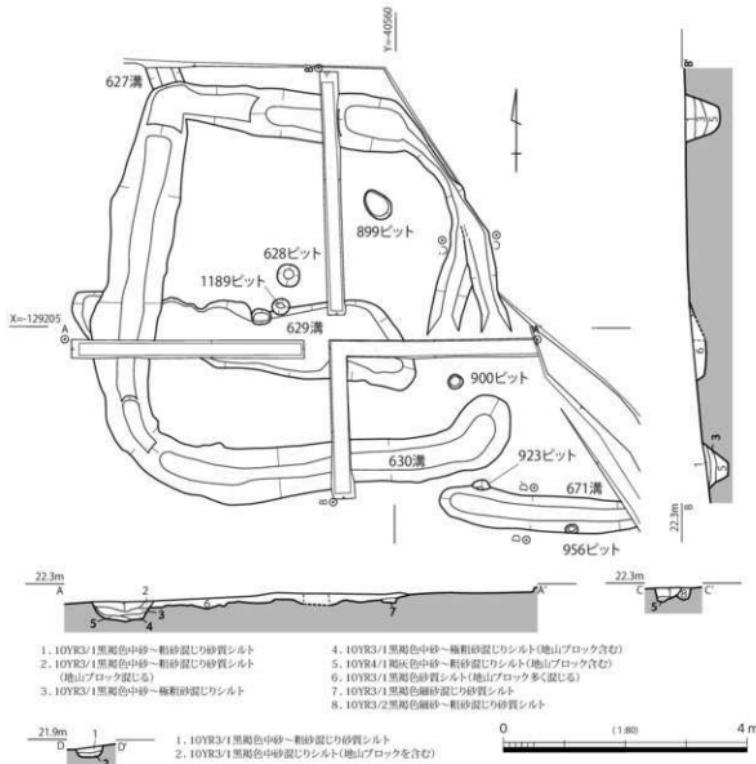


図 132 2016-1 調査 C区 1327 方形周溝墓平面・断面図

り、遺構埋土にも大きな差異は認められなかったことから、溝の内側で検出した複数の遺構のいずれが竪穴建物に伴うものは判断し得なかった。図187では便宜的に周壁溝内で検出した遺構から出土した遺物を集めて掲載した。図187で示す遺物に中期前葉の様相を示すものを一定数認めたためここに掲載したが、後述する他の竪穴建物出土遺物は中期後葉の様相を示すため、1316竪穴建物についても中期後葉に帰属する可能性を大いに残す。

385 土坑は、竪穴建物推定範囲の南東部に位置し、長楕円形を呈する土坑である。断面形状は逆台形を呈する。423 溝を切る。長径 1.8 m、短径 0.6 m、深さ 0.25 m を測る。遺物は弥生土器が出土した。

415 溝は、西側を 457 土坑に切られる東西方向に延びる溝である。検出長 1.8 m、幅 0.5 m、深さ 0.25 m を測る。

423 溝は、竪穴建物推定範囲の南東部に位置する溝である。検出長 9.0 m、幅 0.5 m、深さ 0.1 m を測る。385 土坑に切られる。同様に切られる同規模の溝が 385 土坑の東から竪穴建物推定範囲外へ延びて検出された。423 溝とこの溝は連続している可能性がある。遺物は弥生土器が出土した。

457 土坑は、竪穴建物推定範囲のほぼ中央に位置し、平面形状が隅丸長方形を呈する土坑である。

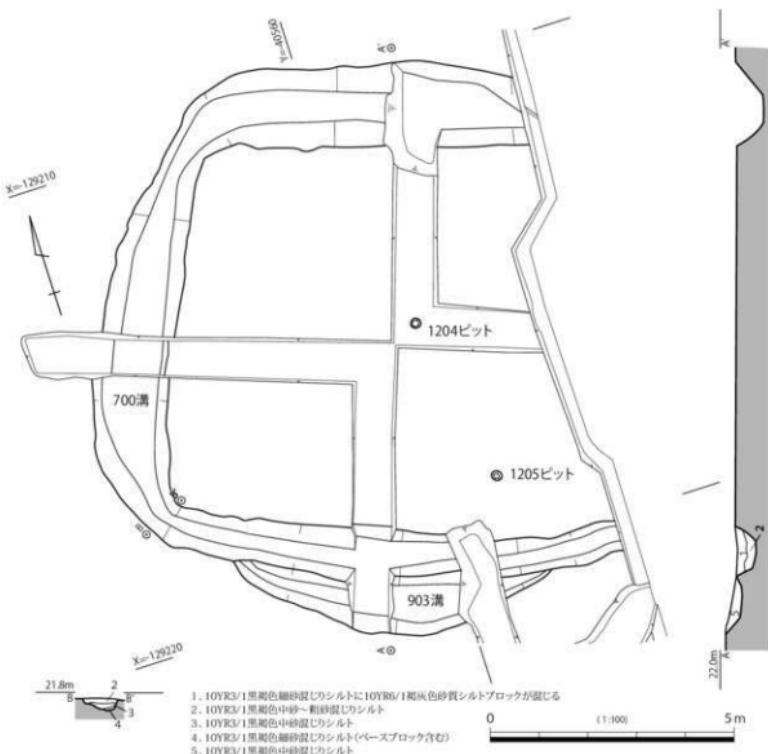


図133 2016-1調査 C区1328方形周溝墓・903溝平面・断面図

長径2.0m、短径1.2m、深さ0.35mを測る。遺物は弥生土器が多数出土した(PL29-1)。

468土坑は、415溝と423溝に切られる土坑である。直径1.4m、深さ0.1mを測る。平面形状は検出範囲において、半円形を呈する。遺物は弥生土器が多数出土した。

弥生時代中期中葉～後葉 出土遺物の様相から、弥生時代中期中葉～後葉にかけての時期に比定される遺構である。

#### 土坑

424土坑(図102・125) 7C1a区で検出した土坑である。長径1.3m、短径0.7m、深さ0.25mを測る。464ピットに切られ、423溝を切る。平面形状は長楕円形を呈する。埋土は褐灰色細砂混じり粘土質シルトの単層である。埋土中に炭化物粒を含む。遺物は弥生土器・石器が出土した。

877土坑(図111・136) 6C8c区で検出した土坑である。直径1.2m、深さ0.4mを測る。平面形状は円形を呈する。埋土最下位にベースブロックを含む。遺物は弥生土器・石器が出土し、特に埋土上位層と下位層の層理面付近に集中していた(PL29-3)。

1666土坑(図115・116・135) 7C1d区で検出した土坑である。長径2.6m、短径2.2m、深さ0.75mを測る。1661ピットを切る。平面形状は楕円形を呈する。断面形状はすり鉢状を呈する。遺構底面の

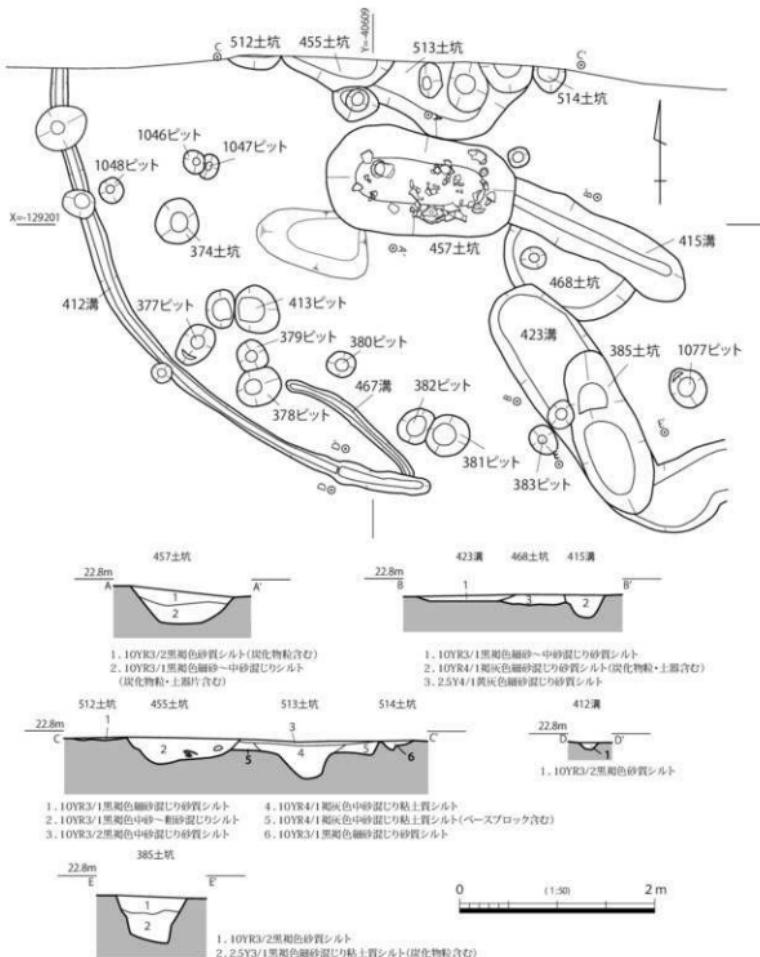


図 134 2016-1 調査 C 区 1316 穫穴建物範囲内遺構平面・断面図

北西および南東の対向する位置にそれぞれピットが認められるが、1666土坑に伴うものかどうかは不明である。遺物は弥生土器が出土した。

**1700土坑（図116・136）** 7C1d区で検出した土坑である。長径2.7m、短径0.8m、深さ0.4mを測る。1701ピットに切られ、さらに北側は搅乱に切られる。平面形状は長楕円形の細長い形を呈する。掘方は短軸については、直角に近い角度で掘り込まれ、底面は狭小である。長軸についても、底面は一定しない。遺物は弥生土器が出土した。

**2332土坑（図117・137）** 6C9e区で検出した土坑である。長径1.0m以上、短径0.7m、深さ0.1mを

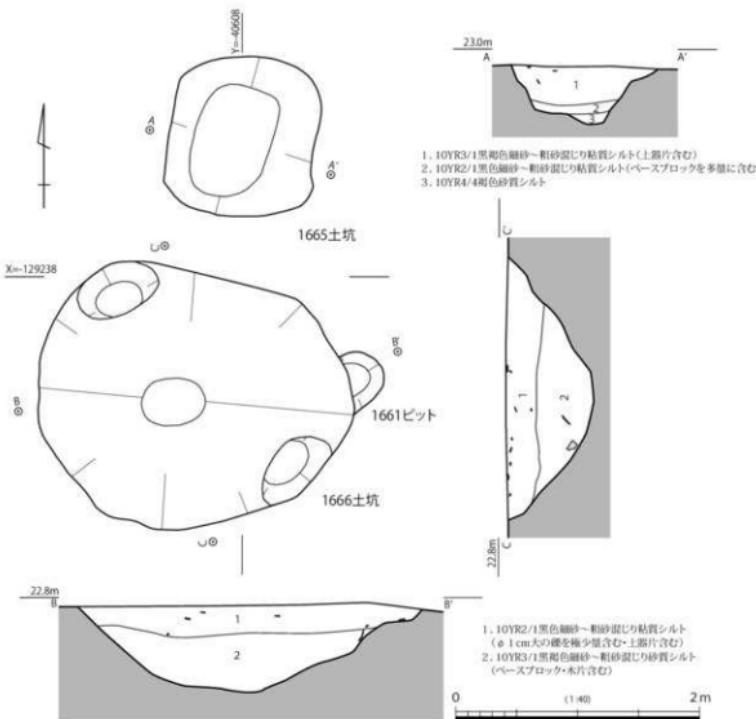


図135 2016-1調査 D区 1665・1666 土坑平面・断面図

測る。北側を2100土坑に切られる。平面形状は長方形を呈する。遺物は弥生土器が出土し、南東隅では高杯の杯部(図189-1029)が出土した。

**2360土坑(図118・137)** 6C8e区で検出した土坑である。長径2.2m、短径1.2m、深さ0.3mを測る。平面形状は長楕円形を呈する。埋土下位層は淘汰がやや良く、細かい黄褐色砂質シルトのベースブロックを含むのに対し、上位層は淘汰が悪く、大きな単位の灰白色砂質シルトブロックを含む。遺物は弥生土器が出土した。

#### 溝

**593溝(図104・105)** 6C8a・9a区にまたがって検出した東西方向に延びる溝である。検出長12.6m、幅0.4m、深さ0.15mを測る。607溝・684土坑に切られる。埋土は下位から黒褐色細砂混じり粘土質シルト、黒褐色細砂混じりシルトが順に堆積する。遺物は弥生土器が出土した。

**弥生時代中期後葉** 出土遺物の様相から、弥生時代中期後葉に比定される遺構である。

#### 土坑

**48土坑(図100・101・138)** 7C3b区で検出した土坑である。長径2.2m、短径1.4m、深さ0.85mを測る。東半部の上位は攪乱を受ける。検出時の平面形状は歪な楕円形を呈するが、本来は円形を呈して

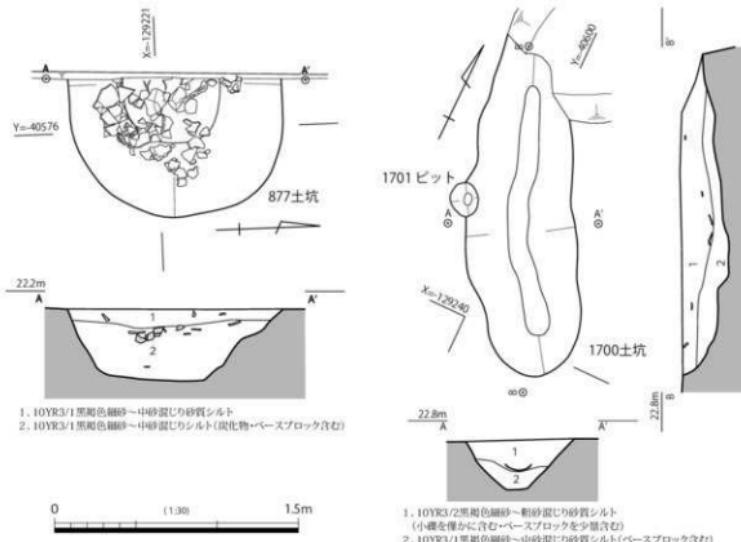


図136 2016-1調査 C区 877土坑、D区 1700土坑平面・断面図

いたと思われる。断面形状は凸形を呈している。遺物は埋土上位層から弥生土器が多く出土した。

127土坑（図101・139） 7C2a区で検出した土坑である。長径1.6m、短径0.8m、深さ0.35mを測る。平面形状は長楕円形を呈する。掘方の断面は、長軸方向は南側に小段を持ちつつ、傾斜を保ちながら掘削されているが、短軸方向では直角に近い角度で掘削され、底は平坦に仕上げられる。遺物は弥生土器が出土した。

770土坑（図104・111・138） 6C9b区で検出した土坑である。長径2.1m、短径1.0m、深さ0.3mを測る。966ピットを切る。平面形状は長方形を呈する。埋土は細砂～中砂混じりのシルト層が互層状に堆積し、中間層に細かいブロック土とともに炭化物が多く認められた。遺物は弥生土器が出土した。

1410土坑（図120） 7C3g区で検出した土坑である。長径2.4m、短径1.0m、深さ0.45mを測る。1528溝、1407ピットを切る。平面形状は長楕円形を呈する。埋土は下から黒色中砂混じりシルト、黒褐色中砂混じり砂質シルト、黒褐色粗砂～細砂混じり砂質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土した。

1415土坑（図120・146） 7C3f区で検出した土坑である。直径1.2m、深さ0.35mを測る。1414土坑を切る。平面形状は円形を呈する。掘方は直角に近い角度で掘削され、底はほぼ平坦に仕上げられる。遺物は弥生土器が出土した。

1629土坑（図108・138） 7C2d区で検出した土坑である。長径0.8m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。平面形状は楕円形を呈する。東側は攪乱に切られる。埋土は3層が堆積する。遺物は弥生土器が出土した。

1632土坑（図115・140） 7C2d区で検出した土坑である。直径1.75m、深さ0.85mを測る。1561溝を切る。平面形状は円形を呈する。埋土は上位層（1・2）と下位層（3・4）に大別できる。上位層は淘汰が悪く、比較的大きなブロック土や土器片が多く含まれ、下位層はベース由来と考えられる細か

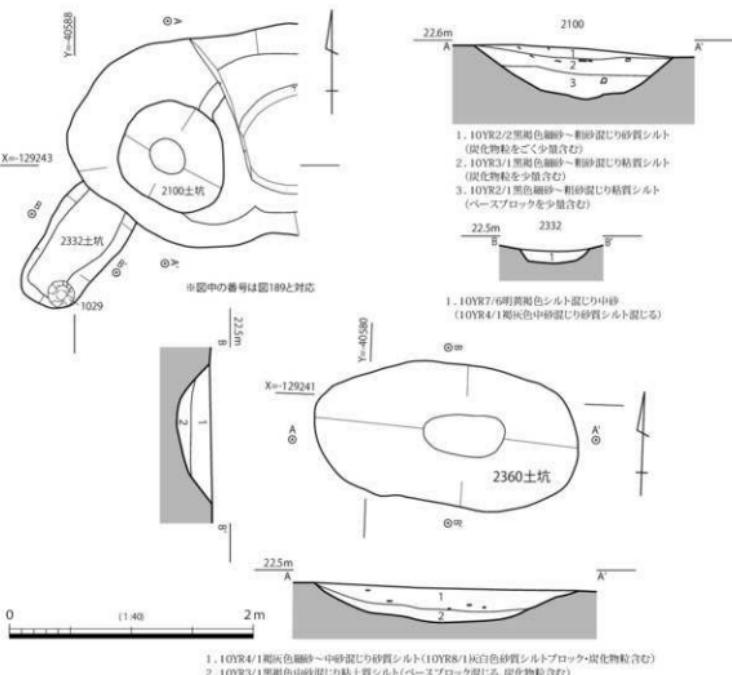


図137 2016-1調査 D区 2100・2332・2360 土坑平面・断面図

なブロック土が認められた。下位層は一定程度の時間をかけて自然に堆積し、上位層は埋没過程において人為が介在したと考えられる。遺物は上位層から多量の弥生土器・石器が出土しており、5棟の建物が描かれた土器片(図196-1097)が意匠不明の線刻絵画を肩部にもった広口壺(図194-1085)に貼り付くように出土した(巻頭図版2-2、PL.30)。

**1665土坑(図116・135)** 7C1d区で検出した土坑である。長径1.3m、短径1.2m、深さ0.45mを測る。平面形状は隅丸方形を呈する。掘形の断面形状は概ね逆台形状を呈するが、東肩は上位に変化点をもって外側に開く。埋土は3層に分層でき、下位2層はベースブロックを多く含み非常に淘汰が悪かった。遺物は弥生土器が出土した。

**1920土坑(図117・139)** 6C10d区で検出した土坑である。長径1.3m、短径1.2m、深さ0.45mを測る。平面形状は楕円形を呈する。2641竪穴建物の周壁溝(1924溝)を切る。埋土には、いずれもベースブロックを含むが、とりわけ3層は比較的大きな単位のベースブロックを多く含む。最下位の4層のみやや淘汰が良いが、その他は淘汰が悪い。1920土坑底面の西端でピット1基を検出した。断面図上では、1920土坑埋土がピット埋土を切っているよう表記しているが、5層の層相が3層と近似していることから、ピットが後に掘削された可能性もあり、先後関係については明確ではない。遺物は弥生土器が出土した。

**2100土坑(図117・137)** 6C9e区で検出した土坑である。直径0.8m、深さ0.4mを測る。平面形状は

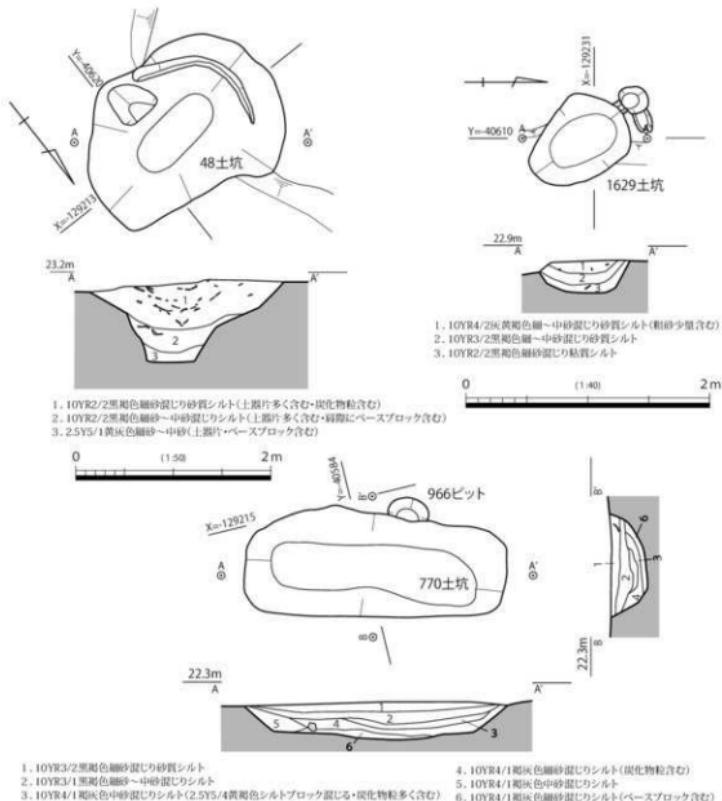


図 138 2016-1調査 C区48・770土坑、D区1629土坑平面・断面図

円形を呈する。断面形状は浅いすり鉢状を呈し、埋土は3層に分けられる。東側は攪乱に切られる。遺物は弥生土器が出土した。

2210土坑（図118・141） 6C9d区で検出した土坑である。長径2.0m、短径1.3m、深さ0.85mを測る。2208ピットを切る。平面形状は隅丸長方形を呈する。断面形状は上部が浅い皿状、下部が深い箱型を呈する。埋土は4層に分けられ、ベースブロックの有無や層相から概ね上下2層に大別できる。上層（1・2）はベースブロックを多く含み、下層（3・4）は粘性の強い粘質シルト～極細砂を基調とする。2210土坑底面より高杯形のミニチュア土器（図198-1105）が出土し、その他、弥生土器・石器が出土した。

溝

287・288溝 7C2b・2d・3b区付近の機械掘削時に多量の弥生土器が出土し、概ね南北方向の2条の溝と認識したことから、2つの遺構番号を付与して掘削を進めたが、攪乱が多く、遺構面の認定が困難であったため、結果的に遺構を平面的に確認することができなかった。遺物は弥生土器・石器が多量に

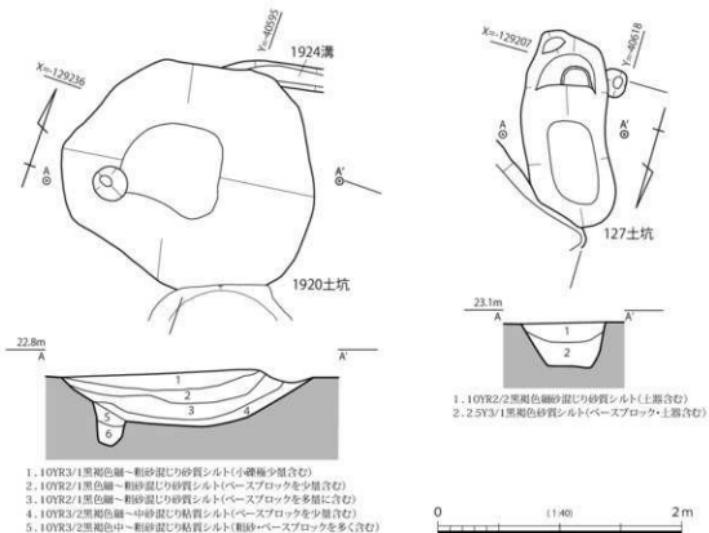


図139 2016-1調査 C区127土坑、D区1920土坑平面・断面図

出土し、図200～203に遺物のみを掲載した。ただし、掘削の都合上、包含層をも含めて取り上げを行ったため、287溝・288溝の帰属時期については明確にし得ない。その検出位置から、いずれかの溝が1561溝の延長に当たる可能性がある。

607溝（図104・105・111・112・119・142） 6C9a・8b・8c区にまたがって検出した溝である。調査区東部を北西～南東方向に延びる。調査時には、C区では607溝・901溝、D区では2378溝とした。本報告においては、当該遺構を「607溝」と統一して記述する。

北側は調査区外に延びる。南側は攪乱の影響が著しく不明瞭であるが、調査区外へ延びていると想定できる。検出長32.0m、幅1.4m、深さ0.35～0.95mを測る。B-B'断面では大きく溝幅が北東～南西方向に広がり、深度も深くなっているが、その他は概ね南側がやや深くなる。掘方の断面形状は北側が下端をやや広くもつ橢形の断面であるのに対し、南側はすり鉢状の断面を呈する。埋土下位には、粗砂を主体としたラミナのある層準が認められることから堆積の過程に一定の流速を想定しても良いかもしれません。B-B'断面で捉えた様相は、流水による局所的な抉れを成因とする可能性も想定される。遺物は弥生土器・石器が出土した。溝の北側を中心に、中期前葉の所産と考えられる弥生土器が多く認められるが、溝の南側では、細片のため図示することはできなかったが、凹線文を施すなど中期後葉の特徴を有する土器も一定程度出土した。このことから、溝の埋没は弥生時代中期後葉以降と考えられる。

880溝（図111・112・118・142） 6C8b・8c・8e区にまたがって検出した溝である。調査区東部を南北方向に延びる。調査時にはC区では880溝、D区では2400溝とした。本報告においては、当該遺構を「880溝」と統一して記述する。

南側は調査区外に延びる。検出長28.0m、幅1.4m、深さ0.35mを測る。平面形状は極めて直線的である。断面形状は比較的幅の広い底面を確保する扁平な逆台形状であり、溝の底面レベルは北に向かって下がっている。埋土は下位にベースブロックを含みラミナをもつ層準が認められる。この層準は、近

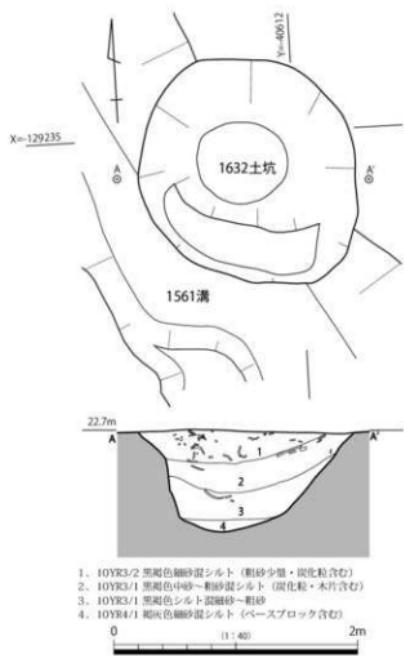


図 140 2016-1 調査 D 区 1632 土坑平面・断面図

7C9 a・10a区にまたがって検出した方形周溝墓である。調査時に574溝・606溝とした溝が、検出範囲において「L」字状を呈することから、方形周溝墓として捉えた。北側は調査区外に位置し、全容は不明である。西辺2.6mと南辺8.0m分を検出しており、一辺8.0m以上の規模を想定できる。溝幅は約1.0mを測る。断面形状は南辺のほぼ中央を境にやや異なる。西辺及び南辺西部は、検出面からの深さ約0.4mを測り、底に一定の面を持つ逆台形状を呈する。一方、南辺東部は検出面からの深さ約0.6mを測り、下位は西部と同様の形状を呈するが、上位はラッパ状に大きく開く。検出面の標高に大きな差異は認められない。遺物は西辺の検出面付近と南辺上層より弥生土器片がまとまって出土した。なお、墳丘盛土や埋葬施設は確認できなかった。

#### 土器棺墓

406土器棺墓（図101・145、巻頭図版2-1、PL.31） 7C2a区で検出した土器棺墓である。長径0.7m、短径0.6m、深さ0.4mを測る。平面形状は楕円形を呈する。棺身として広口壺（図209-1289）、棺蓋として脚柱部の中程から下位が欠損した高杯（図209-1288）を転用している。棺身を東、棺蓋を西に配置し、掘方底面付近に棺身の口縁部をやや上向きにしたほぼ横位の状態で出土した。壺の口縁部に高杯の口縁部を被せ、高杯の欠損部以外は、ほぼ密着する状態であったため、出土時でも棺内は約半分が空洞であった。また、壺の体部下半には直径3.0cm程度の円形の打ち欠きが認められ、この部分を下にしていた。棺身内部下半には、小窓から極粗砂を局所的に含むしまりの良い粘質シルト、口縁部付近には、口縁に沿うように下からN5/灰色粘質シルト、10YR3/3暗褐色粘質シルト（鉄分沈着が認められる）、2.5Y3/2黒褐色細砂混じり砂質シルトの薄層3層が順に堆積していた。口縁部付近の堆積土は壺

接する607溝の下位層と比較すると薄く、細粒の堆積物を主体としていることから、607溝とは堆積の過程が異なる可能性がある。遺物は弥生土器・石器が出土した。また、2624 穴穴建物を切る。

この2条の溝は、双方が食い違うように掘削されている。これらの溝の先後関係や、同時期性については判然としないものの、溝の東側は遺構密度が低くなる傾向が認められることから、何らかの区画を目的として掘削された可能性も考えられる。

1444溝（図120・143） 7C3f区で検出した東西方向の溝である。東西とも調査区外へ延びる。検出長6.6m、幅1.0m、深さ0.4mを測る。検出した平面形状は、溝幅が一定せずに歪な形状を呈しており、底場の幅が一定しない。上位は大きく削平を受けていると想定される。底場のレベルは概ね西から東へ下っている。断面観察では、積極的に流水を示す痕跡は確認できなかつた。1390溝に切られる。遺物は上層より多量の弥生土器・石器が出土した。

#### 方形周溝墓

1320方形周溝墓（図103・104・144、PL.34-1)

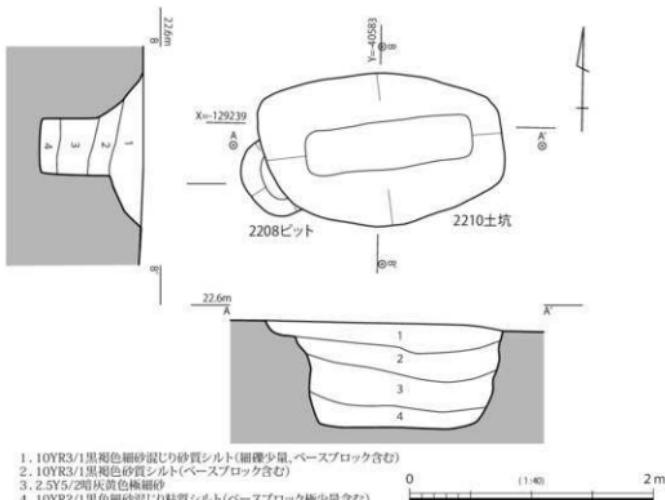


図141 2016-1調査 D区 2210土坑平面・断面図

内部堆積土の上位に位置する。棺内部より骨等の特筆すべき遺物は認められなかった。

**1036土器棺墓 (図101・145, PL.32-1)** 7C2a区で検出した土器棺墓である。406土器棺墓の断ち割り調査を実施した際に、棺蓋の一部を検出したことから、その存在を確認したものである。このような検出縁と度重なる降雨により、出土状況の平面図作成段階で崩落してしまい、記録を作成することができなかった。1036土器棺墓の規模は一辺0.4m、深さ0.3mを測り、平面形状は隅丸方形が想定される。棺身として広口壺 (図209-1291)、棺蓋として壺ないし甕の底部 (図209-1290) を転用している。棺身を東、棺蓋を西に配置し、ほぼ横位の状態で出土した。先述した406土器棺墓では、出土時に棺蓋と棺身は密着していたが、1036土器棺墓は、棺身の口縁部に上から被せる位置で出土した。棺内部より骨等の特筆すべき遺物は認められなかった。

**1414土器棺墓 (図120・146・PL.32-2)** 7C3f区で検出した土器棺墓である。長径1.2m、短径0.7m、深さ0.25mを測る。北側を1415土坑に切られる。平面形状は南北に長軸を持つ楕円形を呈する。断面形状は、南側は鋭い角度で落ちるが、北側は段をもって緩やかな傾斜を保つ。土器棺は掘方の南側に棺身を南、棺蓋を北に配置し、横位の状態で出土した。棺身 (図199-1110)・棺蓋とともに甕を用いている。検出時点で既に上部が削平されており、棺蓋・棺身ともに破損が著しい状態であった。周囲に周溝や他の埋葬施設は検出されなかった。

#### 竪穴建物

本報告においては、弧を描く溝を周壁溝として捉え、これを合計9棟の竪穴建物として認識した。全体的に残存状態が非常に悪く、床面まで削平が及んでいる。周壁溝とした溝も全周するものはほとんど認められない。そのため、周壁溝の内側で検出した多数のピット・土坑についても、いずれが当該竪穴建物に伴うものか不明とせざるを得ない。これらのピット・土坑には、ごく浅いものも認められるが、検出面より0.3m以上の深さを有するものも一定数確認できる。各竪穴建物の平面・断面図 (図147～155) では、周壁溝と想定する溝と向後の検討に資るために検出面より深さが概ね0.3mを超える

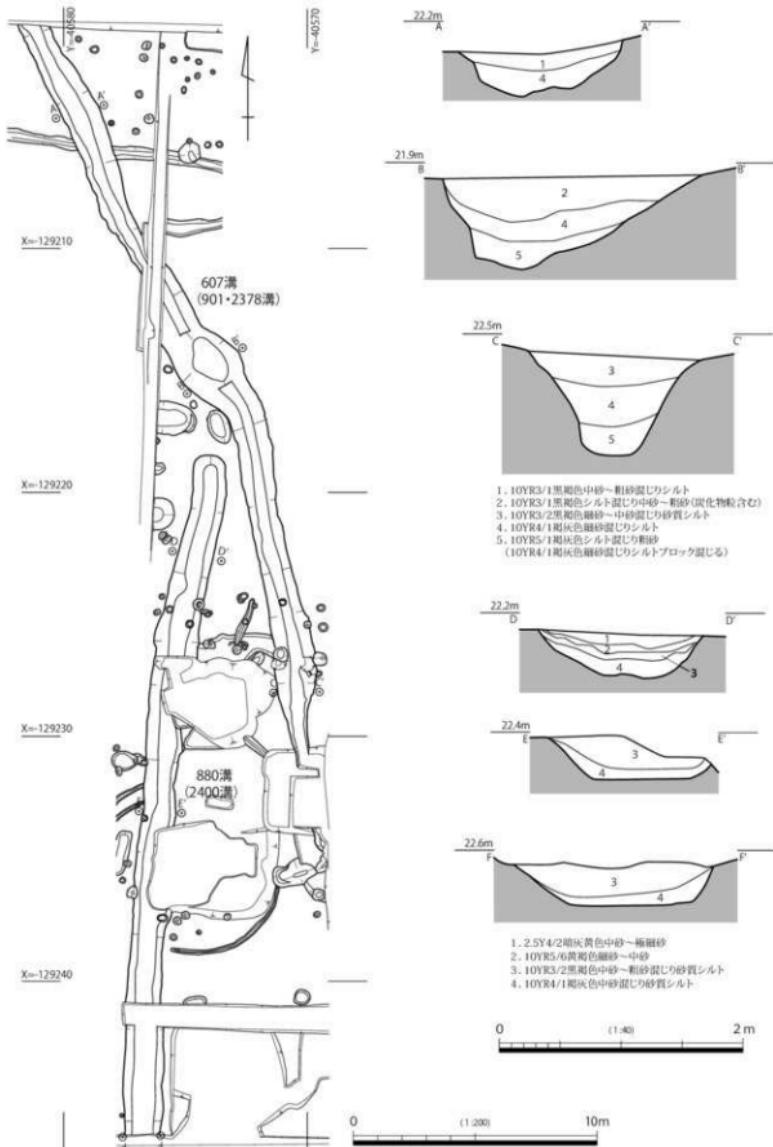


図 142 2016-1 調査 C・D 区 607・880 溝平面・断面図

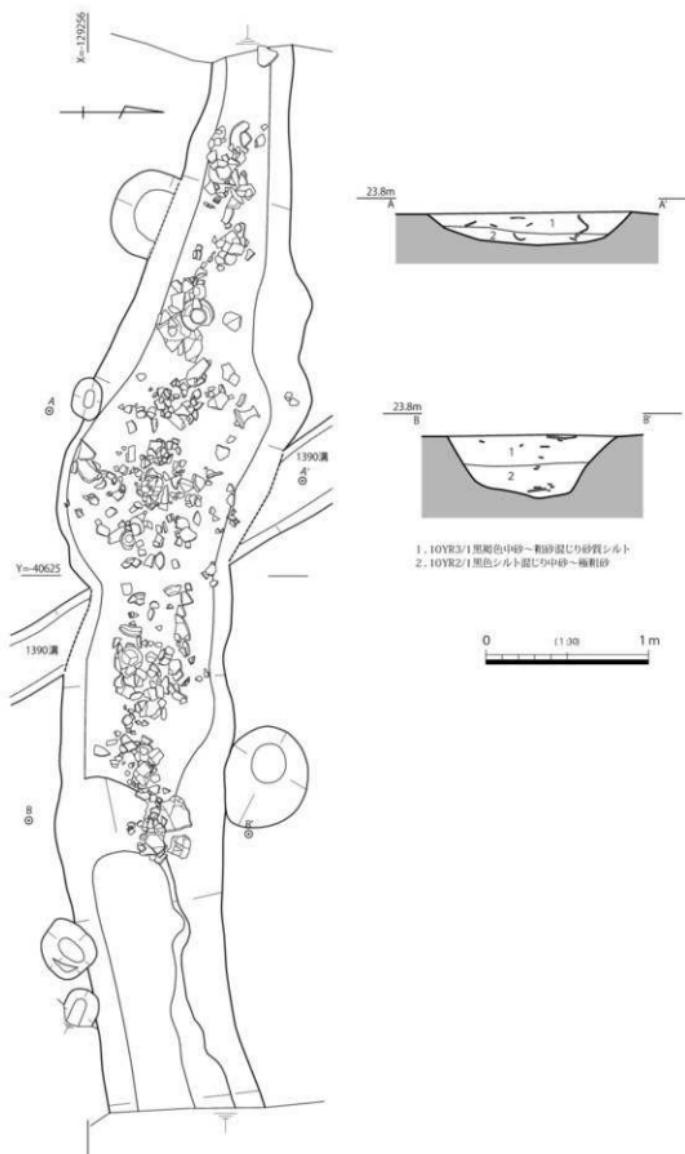


図 143 2016-1 調査 B 区 1444 溝平面・断面図

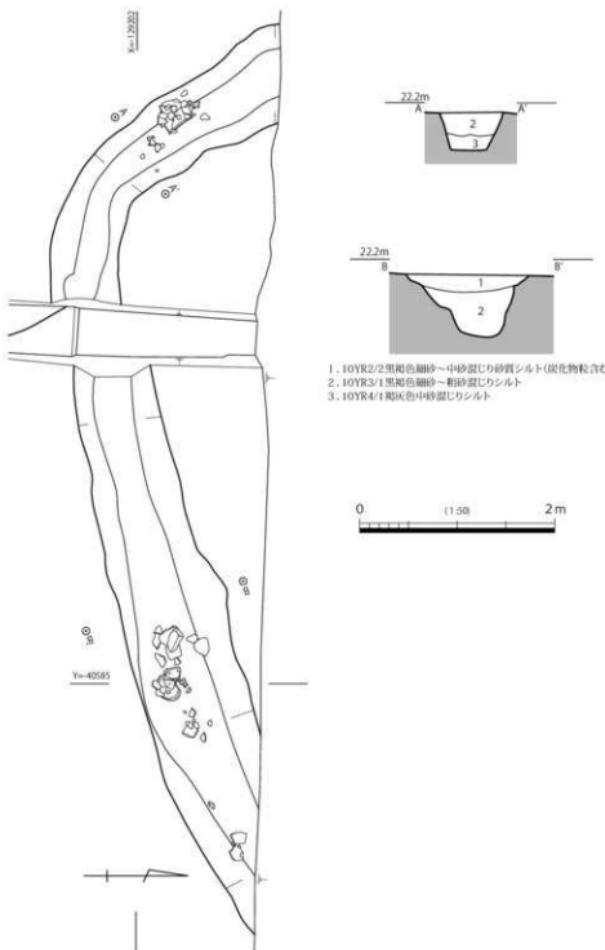


図 144 2016-1 調査 C 区 1320 方形周溝墓平面・断面図

ピット及び土坑の断面を図示した。なお、後述する掘立柱建物を構成する柱穴については除外した。

周壁溝からは遺物が出土していないため、各竪穴建物の帰属時期を確定するには至らなかった。平面形状が概ね円形を呈することから、弥生時代中期と想定した。

**1318竪穴建物（図103・147）** 6C 9 a・10a区にまたがって検出した。周壁溝とした619溝は西側のみ残存する。この溝を基に復元すると、直径約5.0mの円形と考えられる。周壁溝内において、弥生土器が出土した遺構もあるが、図示し得るものは認められなかった。

**1319竪穴建物（図103・110・148）** 6C 9 b・10b区にまたがって検出した。周壁溝とした1016溝は

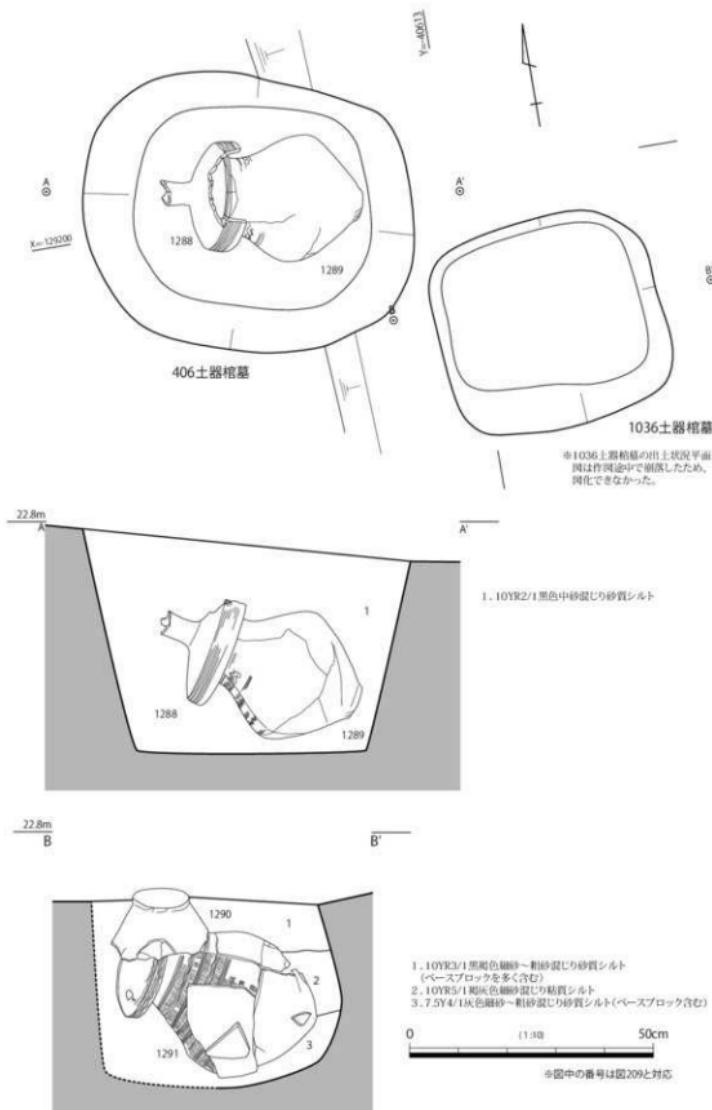


図145 2016-1調査 C区 406・1036 土器棺墓遺物出土状況・平面・断面図

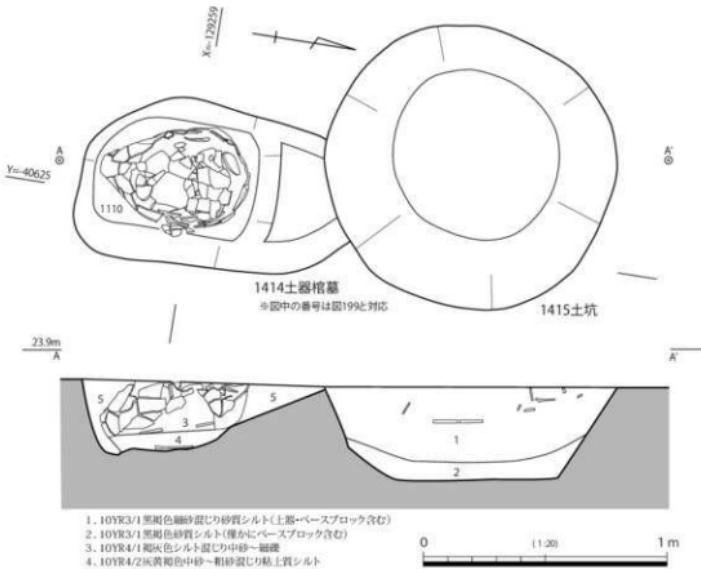


図146 2016-1調査 B区1414土器棺墓、1415土坑遺物出土状況・平面・断面図

北側の一部のみ残存する。この溝を基に復元すると、直径約5.0mの円形と考えられる。周壁溝の内側において、弥生土器が出土した遺構もあるが、図示し得るものは認められなかった。

1323竪穴建物（図109・149） 7C1c・1d、6C10c・10d区にまたがって検出した。周壁溝とした1033溝は北西側のみ残存する。また1800溝が南東側の周壁溝に相当する可能性がある。双方の間は7.1mを測るため、この場合、直径7m程度の円形と考えられる。ただし、1800溝については、約5m東に位置する1930溝と指向する方位が近似しており、むしろ1930溝との関係で理解すべきかもしれない。ここでは可能性を指摘するに留める。西部は攪乱を受けている。

1735土坑は竪穴建物推定範囲のほぼ中央に位置する土坑である。南側は攪乱を受ける。残存する範囲では、長辺1.4m以上、短辺1.1m、深さ0.3mを測る。おそらく長方形形状を呈すると思われる。周壁溝内において弥生土器・石器が出土した遺構もあるが、図示し得るものは認められなかった。

1324竪穴建物（図109・110・150） 6C10c区で検出した。周壁溝とした1018溝は北側を除いて円形に巡る。直径4.8~4.9mを測る。周壁溝は幅0.3m、深さ0.05~0.1mを測る。周壁溝の内側で複数の遺構を検出したが、明確に主柱穴と判断することはできなかった。ただし、686ピットはほぼ中央に位置することから、竪穴建物と関連する遺構の可能性がある。直径0.5m、深さ0.3mを測る。平面形状は円形を呈する。図149ではその他に、ある程度の深さが認められるピットの断面を図示した。周壁溝内において、弥生土器が出土した遺構もあるが、図示し得るものは認められなかった（PL.33-1）。

1325竪穴建物（図110・151・152） 6C9c・10c区で検出した。周壁溝とした710溝は南西側のみ検出した。幅0.3m、深さ0.1mを測る。この溝を基に復元すると、直径約5.0mの円形と考えられる。周壁溝内の遺構から出土した遺物で図化し得たものを図210に図示した。

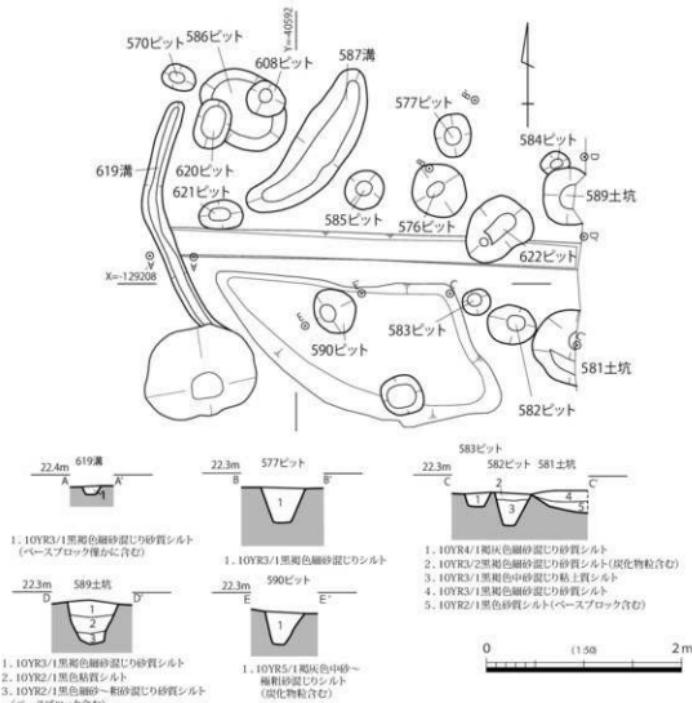
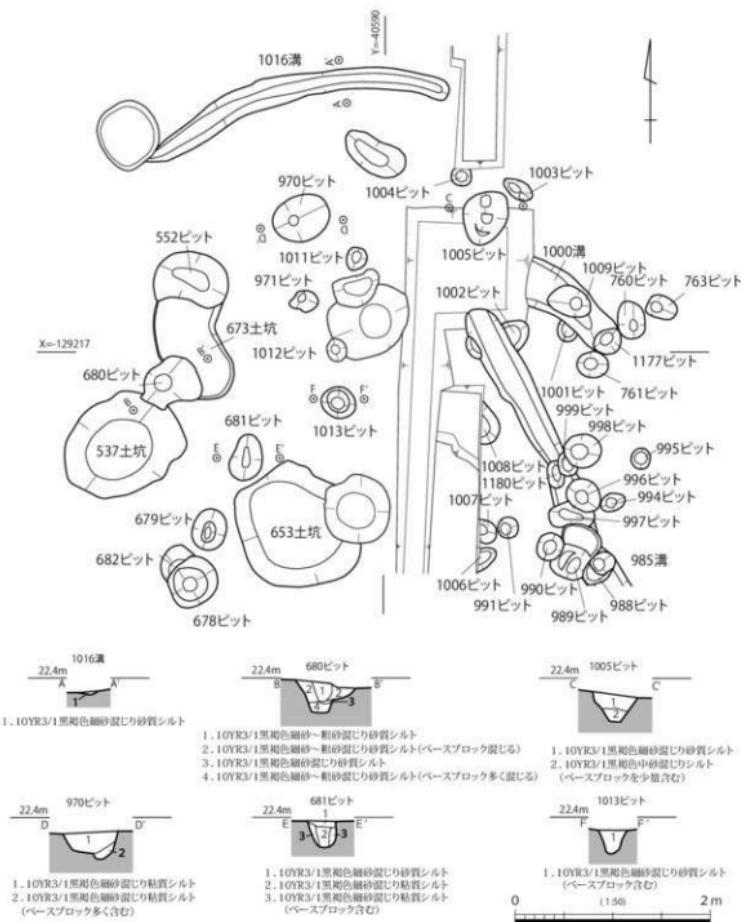


図147 2016-1調査 C区1318竪穴建物範囲内遺構平面・断面図

1326竪穴建物（図110・111・153） 6C9b区で検出した。周壁溝とした771溝は北側のみを検出した。幅0.25m、深さ0.05mを測る。この溝を基に復元すると、直径約5.0mの円形と考えられる。周壁溝内において弥生土器が出土した遺構もあるが、図示し得るものは認められなかった。

2641竪穴建物（図117・154） 6C10d区で検出した。周壁溝とした1924溝は東側のみを検出した。幅0.2m、深さ0.05mを測る。この溝を基に復元すると、直径約5.0mの円形と考えられる。周壁溝内において弥生土器が出土した遺構もあるが、図示し得るものは認められなかった。

2642竪穴建物（図111・112・118・119・155） 6C8d区で検出した。北西側と南東側に2386溝が巡る。北西側では2386溝の内側にほぼ並行して2387溝が円弧を描く。2386溝は幅0.2m、深さ0.08m、2387溝は幅0.2m、深さ0.08mを測る。直径約7.5mの円形と想定できる。2387溝の存在は、建て替えを示す可能性がある。中央部に擾乱を受けていることと、880溝が南北に縦断していることから、周壁溝内側の遺構残存状況は良くない。損壊を免れた部分で複数のピット・土坑を検出したが、いずれが当該竪穴建物を構成する柱穴等に相当するのか不明と言わざるを得ない。2390土坑は、西端で検出した土坑である。長さ1.9m、幅0.6m、深さ0.15mを測る。平面形状は長方形を呈する。断面形状は長軸、短軸方向ともやや緩やかな角度で落ちる。埋土は、土坑中央北寄り上位に黒褐色細砂混じり砂質シルトが堆積し、その周囲にベースブロックを多く含む褐灰色砂質シルトが堆積する。2393ピットに切られ



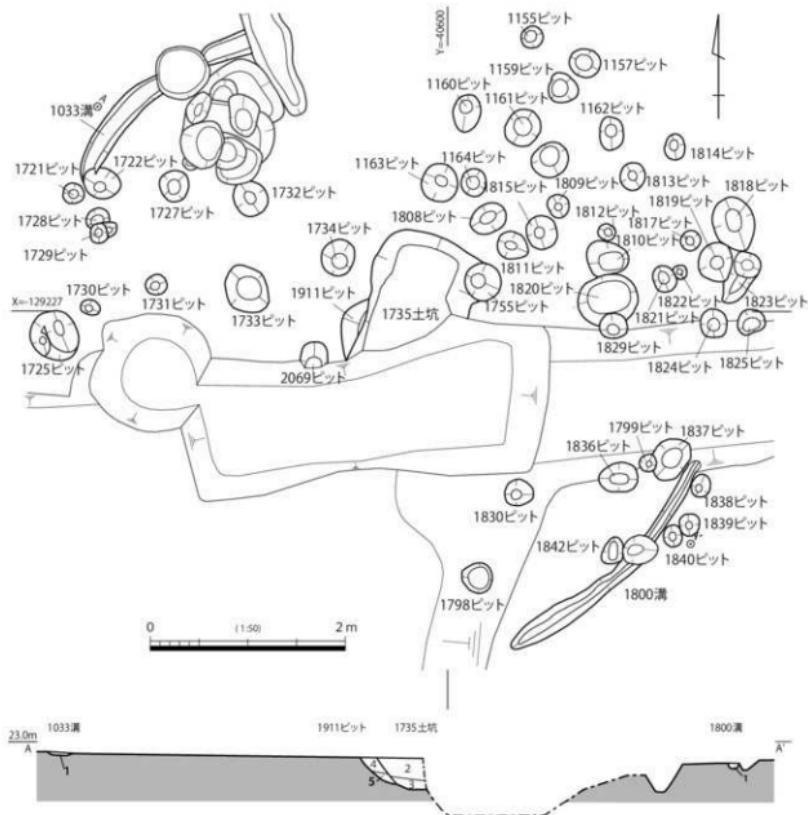


図 149 2016-1 調査 C・D 区 1323 穫穴建物範囲内遺構平面・断面図

形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

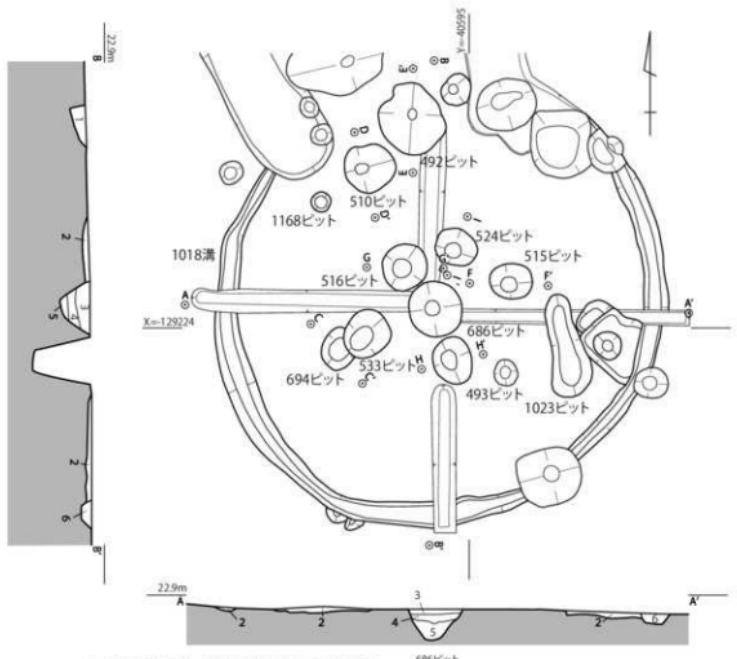
174 ピット（図 101）7C2b 区で検出したピットである。直径 0.2 m、深さ 0.17 m を測る。平面形状は円形を呈する。遺物は弥生土器・石器が出土した。

188 ピット（図 108）7C2c 区で検出したピットである。長径 0.3 m、短径 0.2 m、深さ 0.27 m を測る。平面形状は梢円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

229 ピット（図 108）7C2c 区で検出したピットである。長径 0.2 m、短径 0.15 m、深さ 0.2 m を測る。平面形状は梢円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

364 ピット（図 108）7C1b 区で検出したピットである。長径 0.3 m、短径 0.2 m、深さ 0.2 m を測る。平面形状は梢円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

382 ピット（図 102）7C1a 区で検出したピットである。長径 0.45 m、短径 0.3 m、深さ 0.2 m を測る。



1. 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂混じり砂質シルト(小埋少基認)
2. 地山に10YR3/1黒褐色土+グローブ状に覆じる
3. 10YR3/2黒褐色細砂混じり砂質シルト
4. 10YR2/1黒褐色細砂混じり粘質シルト
5. 7.5YR3/1黒褐色中砂～粗砂混じり砂質シルト
6. 10YR3/1黒褐色細砂混じり砂質シルト(ベースブロックを多く含む)

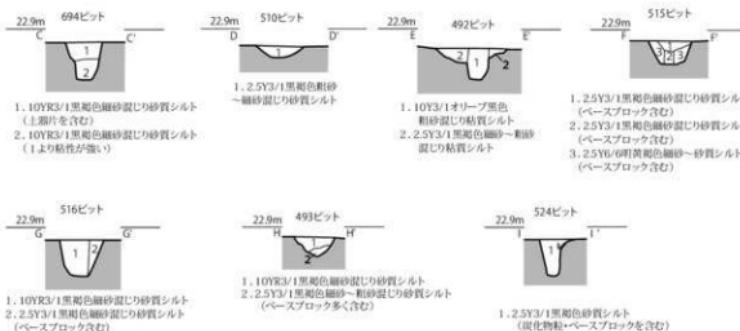


図 150 2016-1 調査 C 区 1324 穫穴建物範囲内遺構平面・断面図

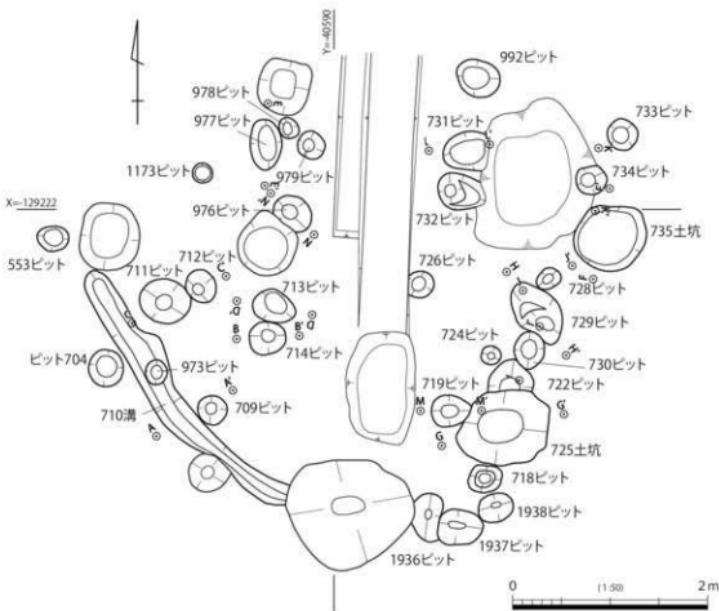


図 151 2016-1 調査 C 区 1325 穫穴建物範囲内遺構平面図

平面形状は楕円形を呈する。東端を 381 ピットに切られる。遺物は弥生土器・石器が出土した。

420 ピット（図 102）7C1a 区で検出したピットである。長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.33 m を測る。

平面形状は円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

422 ピット（図 102）7C1a 区で検出したピットである。直径 0.2 m、深さ 0.12 m を測る。平面形状は円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

478 ピット（図 109）6C10c 区で検出したピットである。長径 0.9 m、短径 0.7 m、深さ 0.2 m を測る。平面形状は楕円形を呈する。埋土は下から黒褐色粗砂～細砂混じり砂質シルト、黒褐色細砂混じり砂質シルトの 2 層が順に堆積する。下位層は比較的淘汰が良く、細かなベースブロックを含む。一方、上位層は淘汰がやや悪くしまりが良い。調査時は、周囲の掘立柱建物の柱穴等に規模等が近似していたため、柱穴と考えていたが、上記の層相から柱穴とは認めがたい。遺物は弥生土器が出土した。

491 ピット（図 110）6C10c 区で検出したピットである。長径 1.0 m、短径 0.7 m、深さ 0.3 m を測る。平面形状は不定形な楕円形を呈する。ただし遺構断面図作成時点では東西軸の長径約 0.5 m を測る。埋土は下から 10YR3/2 黒褐色細砂混じり砂質シルト、10YR3/1 黑褐色粗砂～細砂混じり砂質シルトが堆積する。下位層は比較的淘汰が良く、細かなベースブロックを含むのに対し、上位層は土器片や炭化物を含み淘汰が悪い。上述した 478 ピットと同様に柱穴とは想定しがたい。遺物は弥生土器が出土した。

512 ピット（図 101）7B2j 区で検出したピットである。調査区北端で検出したため、大半は調査区外に位置する。検出長 0.6 m、検出幅 0.2 m、深さ 0.1 m を測る。455 土坑を切る。埋土は黒褐色細砂混じり粘質シルトの単層である。遺物は弥生土器が出土した。

## 第IV章 調査の成果



図 152 2016-1調査 C区1325 穫穴建物範囲内遺構断面図

527 ピット（図 103） 6C10b 区で検出したピットである。直径 0.2 m、深さ 0.15 m を測る。平面形状は円形を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

759 ピット（図 103） 6C9b 区で検出したピットである。直径 0.3m、深さ 0.22m を測る。平面形状は円形を呈する。断面形状は鋭い角度で落ちる逆円錐台形状を呈する。埋土は下から褐灰色粘土質シルト、黒褐色細砂～中砂混じり砂質シルトの 2 層が順に堆積する。いずれも淘汰がやや悪い。遺物は弥生土器が出土した。

816 ピット（図 111） 6C8b 区で検出したピットである。直径 0.8 m、深さ 0.3 m を測る。平面形状は楕円形を呈する。断面形状は、西側は鋭い角度で落ちるのに対し、東側の落ちは緩く、底場は不定形である。埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトの単層である。遺物は弥生土器が出土した。

907 ピット（図 112） 6C7b 区で検出したピットである。直径 0.4 m、深さ 0.15 m を測る。平面形状は円形を呈する。断面形状は鋭い角度で落ち、底に平面をつくる逆円錐台形状を呈する。埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトの単層であるが、下位がやや暗色を呈し粘性を帯びる。遺物は弥生土器・石器が出土した。

990 ピット（図 110） 6C9b 区検出したピットである。直径 0.3 m、深さ 0.15 m を測る。平面形状は

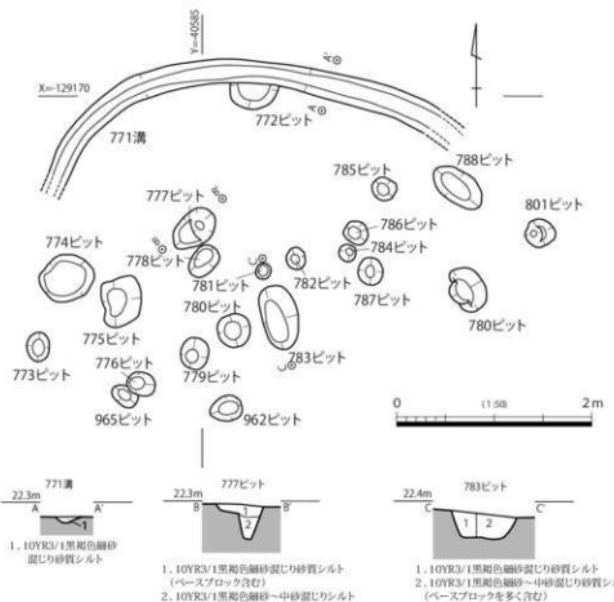


図153 2016-1調査 C区 1326 穴穴建物範囲内遺構平面・断面図

円形を呈する。断面形状は南よりに最深部をもつ歪な椀状を呈す。埋土は黒褐色細砂～中砂混じり砂質シルトの単層である。遺物は弥生土器が出土した。

中期の小時期不明遺構 遺物の様相から弥生時代中期に属すると考えられるが、細かな時期の判断ができない遺構である。

溝

126溝（図101） 7C2a区で検出した北西～南東方向に延びる溝である。両側ともに擾乱を受ける。検出長6.0m、幅0.6m、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトの単層である。淘汰がやや悪く大きなベースブロックを下位に含む。溝の底場は最高位が北西端の標高22.92m、最低位が南東端の22.78mであり概ね北西から南東へ下っている。擾乱を挟んだ南東に395溝が位置することから、本来は連続する溝であった可能性がある。395溝の底場についても、最高位が北西端の標高22.69m、最低位が南東端の22.48mである。底場の標高についても連続すると考えて支障はない。その場合、検出長は18.0mとなる。なお、395溝の埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトであり、やや色調は異なるが、ベースブロックを含む点は共通する。遺物は弥生土器が出土した。

128溝（図101） 7C2b区で検出した北東～南西方向に延びる溝である。両側ともに擾乱を受ける。検出長3.6m、幅0.6m、深さ0.3mを測る。埋土は2層に分けたが、基本となるのは黒褐色細砂～中砂混じり砂質シルトで、下位層には炭化物粒を含む。遺物は弥生土器が出土した。

256溝（図101） 7C2a区で検出した南北方向に延びる溝である。検出長1.6m、幅0.4m、深さ0.13mを測る。遺物は弥生土器が出土した。

428溝（図108・109） 7C1c区で検出した北西～南東方向に延びる溝である。433ピット、1113溝に

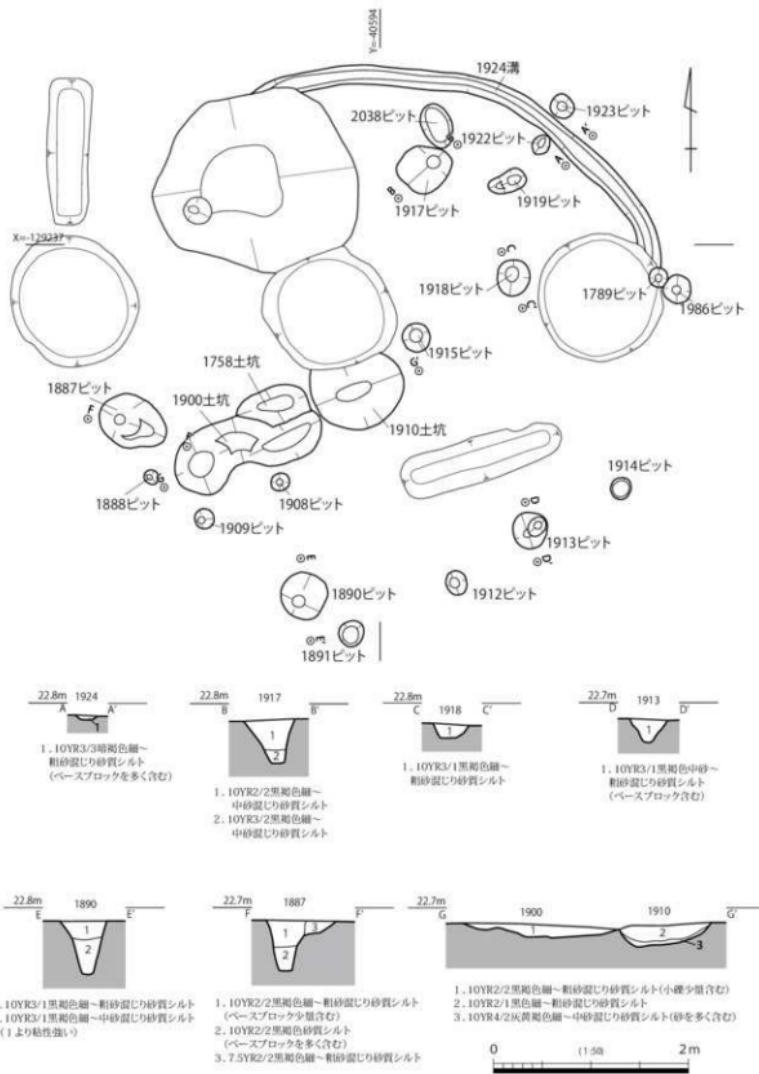


図 154 2016-1 調査 D区 2641 竪穴建物範囲内造構平面・断面図

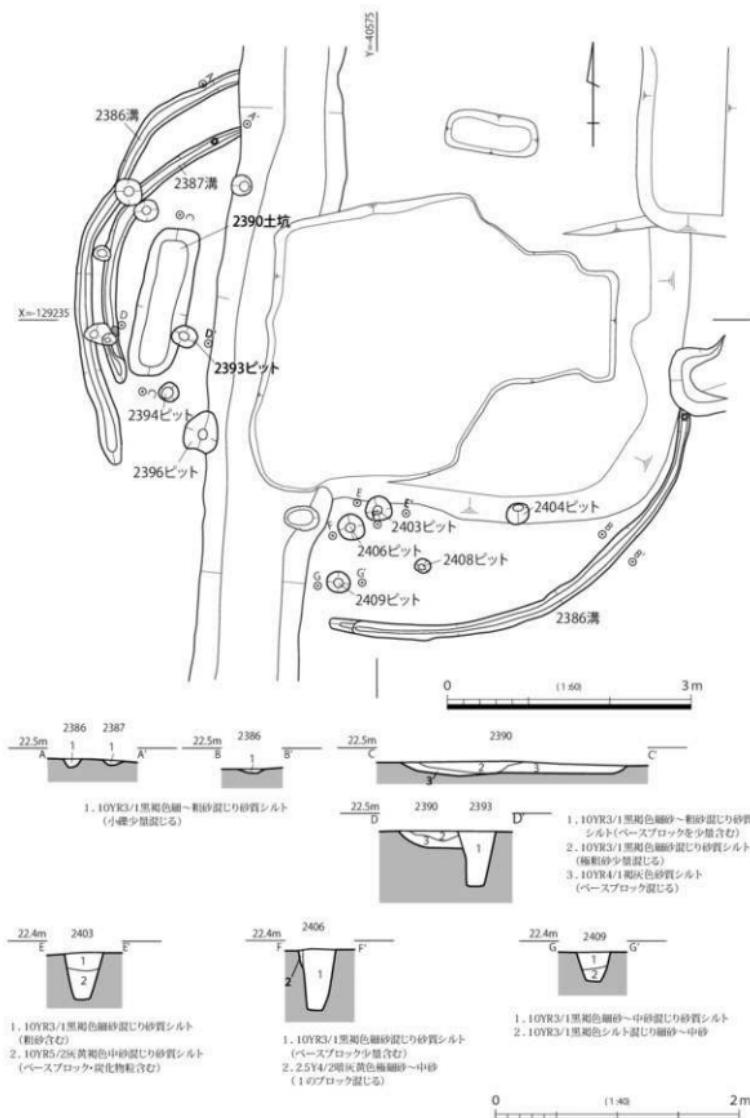


図155 2016-1調査 D区 2642 積穴建物範囲内遺構平面・断面図

切られる。検出長5.7m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトの単層である。断面形状は皿状を呈する。底場の標高は北西端で22.96m、中央部で22.85m、南東端で22.92mを測り、明確な勾配は認められない。

470溝（図102・156） 6C10a区で検出した北西—南東方向に延びる溝である。調査区北端に位置し、北側は調査区外に延びる。検出長2.8m、幅0.6m、深さ0.15mを測る。底場の標高は北西端で22.41m、中央部で22.29mを測る。遺物は弥生土器・石器が出土した。

471溝（図102・103・156） 6C10a区で検出した北西—南東方向に延びる溝である。調査区北端に位置し、北側は調査区外に延びる。検出長3.8m、幅0.6m、深さ0.3mを測る。断面形状は、全体的には浅い椀状を呈するが、底場は凸凹があり不定形である。底場の標高は北西端で22.30m、南東端で22.08mを測り、北西から南東へ下る傾向にあると考えられる。遺物は弥生土器・石器が出土した。

470溝と471溝は調査区外で切り合っていると思われるが、調査区内では確認できない。

534溝（図103） 6C10b区で検出した南西—北東方向に延びる溝である。南西側は擾乱を受け、北東側は565溝に切られる。検出長6.0m、幅0.6m、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色細砂～粗砂混じり砂質シルトの単層である。下位にわずかにラミナが認められる。底場の標高は南西端で22.60m、中央部で22.30m、北東端で22.20mを測り、南西から北東へ下る傾向にあると考えられる。遺物は弥生土器・石器が出土した。

556溝（図102・103） 6C10a区で検出した南西—北東方向に延びる溝である。546土坑、1113溝に切られる。検出長4.6m、幅0.4m、深さ0.05mを測る。埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトの単層であり、細かいベースブロックを含む。遺物は弥生土器が出土した。

660溝（図104・105） 6C8a区で検出した東西方向の溝である。調査区北端に位置し、北側は調査区外にあり、全容は不明である。検出長5.4m、検出幅0.8m、深さ0.1mを測る。断面形状は、北側は緩く落ちる一方、南側は直角に近い角度で落ち、歪な皿状を呈する。埋土は黒褐色細砂混じり砂質シルトの単層であり、大きな単位のベースブロックを含む。遺物は弥生土器が出土した。

985溝（図110・157） 6C9b区で検出した南北方向に延びる溝である。北側は擾乱を受け、中央部は多数のピットに切られる。検出長4.6m、幅0.4m、深さ0.15mを測る。断面形状は椀状を呈し、埋土下位には細かいベースブロックを多く含む。遺物は弥生土器・石器が出土した。

1390溝（図120） 7C3f・3g区で検出した北西—南東方向に延びる溝である。南端で東に屈曲する。北端を1470土坑に切られ、1444溝を切る。検出長11.8m、幅北部は0.3m、南部は0.9m、深さ0.05m～0.1mを測る。埋土は褐灰色細砂混じり砂質シルトの単層であり、ベースブロックを含む。遺物は弥生土器・石器が出土した。

1500溝（図114・115・158） 7C3eで検出した東西方向に延びる溝である。東西とも調査区外へ延びる。検出範囲においても、擾乱や他の遺構に切られる。検出長12.0m、幅1.0m、深さ0.1～0.4mを測る。堀方の形状については、上部は大きく外側に開くが、下位は鋭い角度で落ち、底は0.15m～0.3mの平坦面を持つ。埋土下位に土器片やベースに含まれるφ5cm大の礫を多く含む。遺物は弥生土器が出土した。

1526溝（図120・121・167） 7C3h区で検出した東西方向に延びる溝である。東西とも調査区外に延びる。1360溝に切られる。検出長7.0m、幅0.3m、深さ0.05～0.15mを測る。遺物は弥生土器が出土した。

2050溝（図110） 6C9c区で検出した東西方向に延びる溝である。西側に擾乱を受ける。検出長2.2m、幅1.2m、深さ0.15mを測る。埋土は、下から黒褐色細砂～中砂混じり砂質シルト、黒褐色細砂混じり砂質シルトが順に堆積する。遺物は弥生土器が出土した。

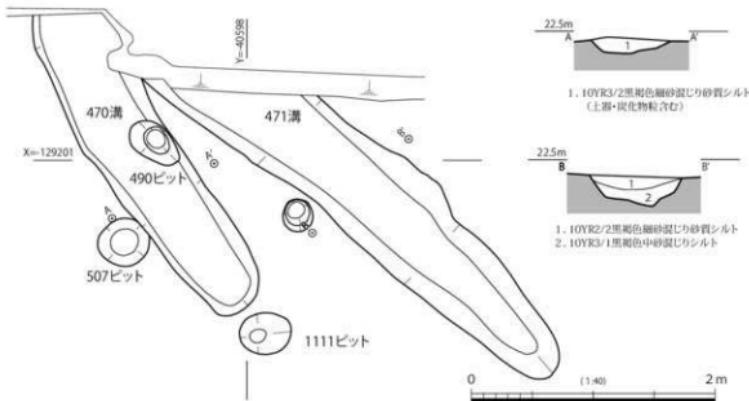


図 156 2016-1調査 C区 470・471溝平面・断面図

## 土坑

44土坑（図100） 7C3a区で検出した土坑である。北部は擾乱を受ける。長径1.0m以上、短径0.9m、深さ0.2mを測る。平面形状は梢円形を呈する。埋土は、黒褐色極粗砂混じり砂質シルトの単層であり、下位にはベースブロックを多く含む。遺物は弥生土器が出土した。

209土坑（図108・123） 7C2c区で検出した土坑である。長径1.0m、短径0.8m、深さ0.5mを測る。平面形状は梢円形を呈する。埋土にはいずれもベースブロックが含まれ、とりわけ中間層は細かなベースブロックを多く含む。上位層は淘汰がやや悪く、上位に比較的大きなベースブロックを不均一に含む。遺物は弥生土器が出土した。

409土坑（図101・102・124） 7C1a区で検出した土坑である。長径1.4m、短径1.2m、深さ0.45mを測る。平面形状は歪な梢円形を呈する。埋土上位層は炭化物粒や遺物を多く含み、淘汰がやや悪い。遺物は弥生土器が多く出土した。

410土坑（図102・159） 7C1a区で検出した土坑である。長径1.6m、短径0.9m、深さ0.2mを測る。平面形状は圓丸長方形を呈する。断面形状は、長軸の北西肩・短軸は、鋭い角度で落ち一定の底面をつくるが、長軸の南東肩のみやや傾斜が緩く中心に向かって落ちる。埋土は上位層、下位層ともに淘汰が悪く、とりわけ上位層は局所的に暗色を呈し粘性を帯びる。遺物は弥生土器・石器

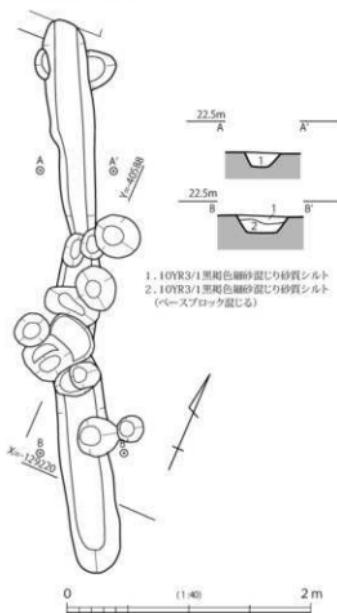


図 157 2016-1調査 D区 985溝平面・断面図

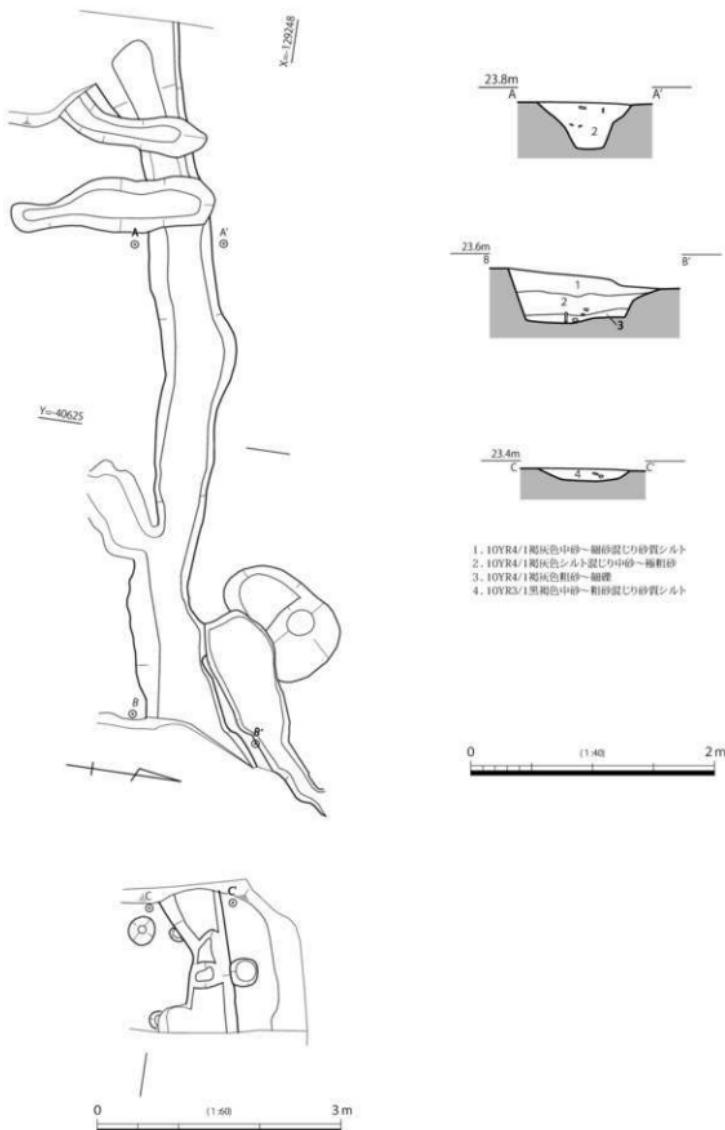


図158 2016-1調査 B区1500溝平面・断面図

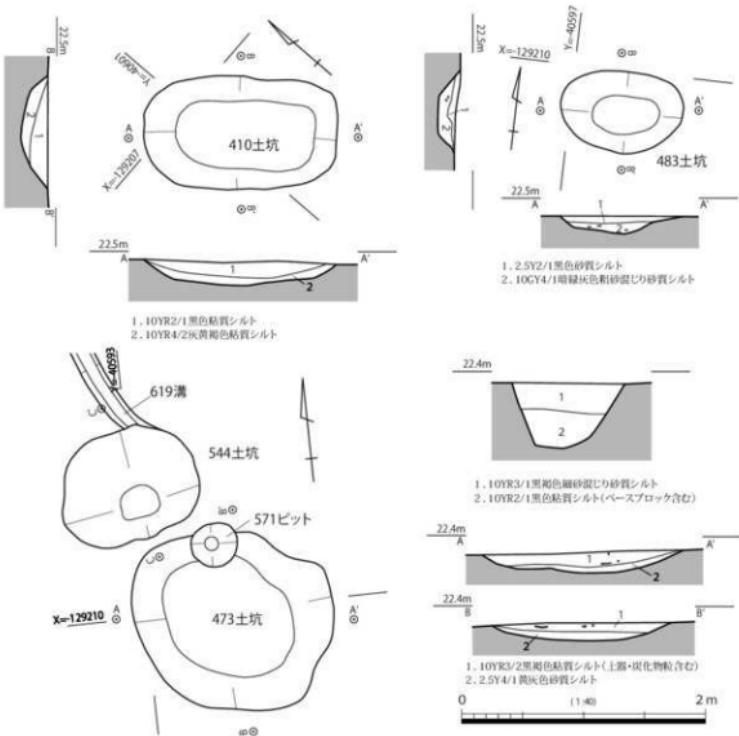


図159 2016-1調査 C区 410・473・483・544土坑平面・断面図

が出土した。

473土坑（図103・159） 6C10a・10b区で検出した土坑である。長径1.6m、短径1.4m、深さ0.15mを測る。571ピットに切られる。平面形状は楕円形を呈する。埋土上位層は土器片や炭化物を多く含み、淘汰が悪い。遺物は弥生土器が出土した。

483土坑（図103・159） 6C10b区で検出した土坑である。長径1.0m、短径0.6m、深さ0.15mを測る。571ピットに切られる。平面形状は楕円形を呈する。断面形状は、長軸西肩及び短軸については、鋭い角度で落ちるが、長軸の東肩のみ傾斜が緩い。埋土上位層、下位層ともに局所的に暗色を呈し粘性を帯びる。遺物は弥生土器・石器が出土した。

500土坑（図109・110） 6C10c区で検出した土坑である。長径2.6m、短径0.8m、深さ0.15mを測る。1324竪穴建物の周壁溝である1018溝を切り、1321掘立柱建物の柱穴である486ピットに切られる。平面形状は隅丸長方形を呈する。埋土下位にベースブロックを含む。遺物は弥生土器が出土した。

544土坑（図103・159） 6C10al区で検出した土坑である。長径1.2m、短径0.8m、深さ0.5mを測る。619溝を切る。平面形状は楕円形を呈する。埋土上位層、下位層ともに淘汰が悪く、とりわけ下位層には大きな単位のベースブロックが不均一に含まれる。遺物は弥生土器が出土した。

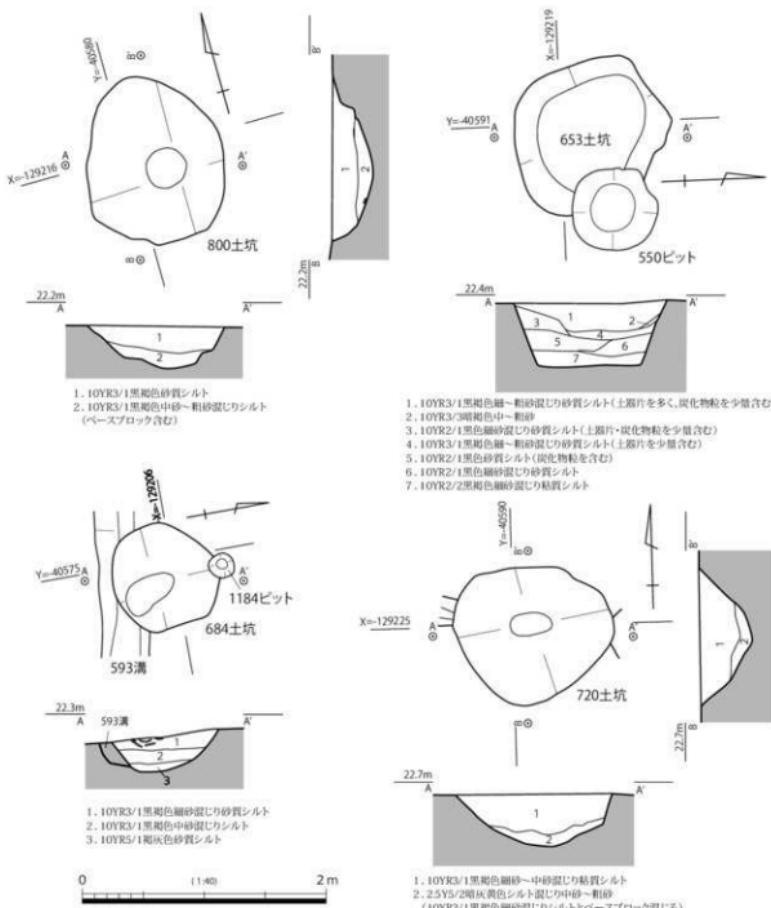


図 160 2016-1 調査 C区 653・684・720・800 土坑平面・断面図

**653土坑（図110・160）** 6C10b区で検出した土坑である。長径1.4m、短径1.0m、深さ0.5mを測る。550ピットに切られる。平面形状は楕円形を呈する。断面形状は逆台形状を呈し、底に円形の水平面をつくる。埋土にはベースブロックを多く含み、とりわけ上位層（1～4層）は淘汰が悪く、土器片や炭化物粒を多く含む。遺物は弥生土器が出土した。

**684土坑（図104・160）** 6C8a区で検出した土坑である。直径0.8m、深さ0.3mを測る。1184ピットに切られ、593溝を切る。平面形状は円形を呈する。埋土は下から褐灰色砂質シルト、黒褐色中砂混じりシルト、黒褐色細砂混じり砂質シルトの順に堆積する。遺物は弥生土器が出土した。

**720土坑（図110・160）** 6C9c区で検出した土坑である。長径1.2m、短径1.0m、深さ0.45mを測る。

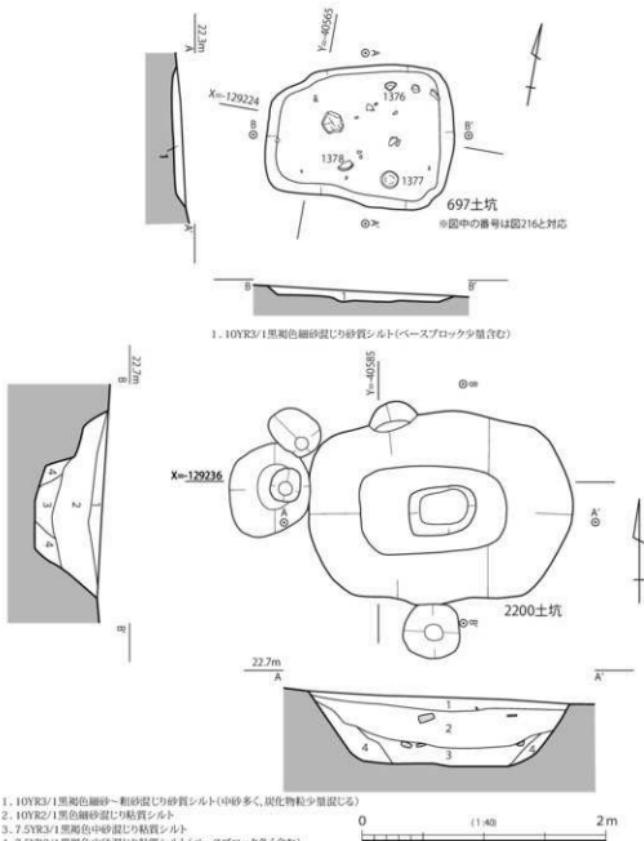


図 161 2016-1 調査 C 区 697 土坑、D 区 2200 土坑平面・断面図

1936ピット及び1325竪穴建物の周壁溝である710溝を切る。平面形状は楕円形を呈する。断面形状は概ね中心に最深部を持つすり鉢状を呈する。遺物は弥生土器が出土した。

800土坑（図104・111・160） 6C8b区で検出した土坑である。長径1.6m、短径1.2m、深さ0.25mを測る。平面形状は楕円形を呈する。遺物は下位層より弥生土器が出土した。

933土坑（図111・112・127） 6C8b区で検出した土坑である。長径1.4m、短径0.8m、深さ0.25mを測る。平面形状は長楕円形を呈する。断面形状は不均整で、中心からやや南により最深部を持つ。遺物は弥生土器・石器が出土した。

#### 古墳時代の遺構

#### 土坑

497土坑（図103） 6C10a区で検出した土坑である。長径1.8m、短径0.8m、深さ0.25mを測る。平面

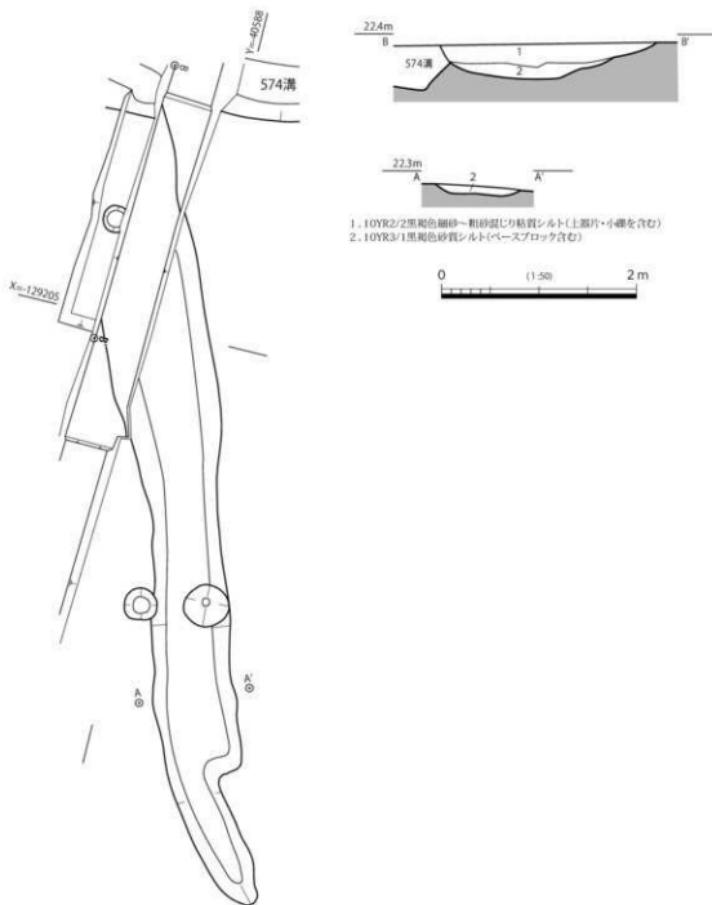


図162 2016-1調査 C区 588溝平面・断面図

形状は歪な楕円形を呈する。遺物は弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

**697土坑（図112・161、PL.34-2）** 6C7c区で検出した土坑である。長径1.6m、短径1.2m、深さ0.1mを測る。平面形状は隅丸長方形を呈する。底場はやや西よりにわずかな段をもつが、概ね平らな面をなす。深さが著しく浅いことから、上位は大きく削平を受けていると考えられる。遺物は底面よりやや浮いて土師器・須恵器が多く出土した。

**2200土坑（図118・161）** 6C9d区で検出した土坑である。長径1.6m、短径1.2m、深さ0.55mを測る。平面形状は歪な楕円形を呈する。断面形状は扁平な逆台形状あるいは2段掘りの形状を呈する。遺物は土師器・須恵器が出土した。

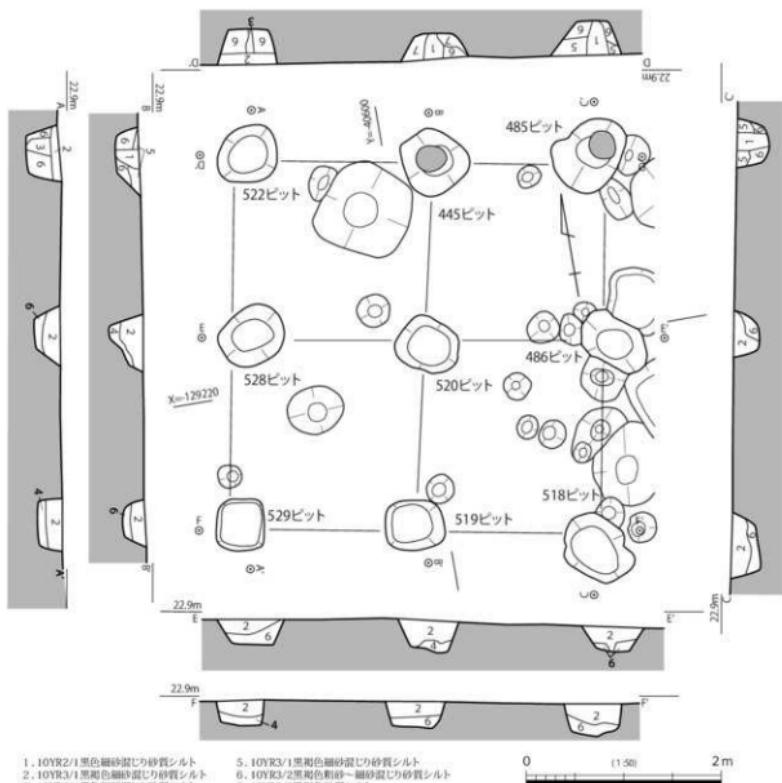


図 163 2016-1調査 C区 1321 掘立柱建物平面・断面図

588溝（図103・162） 6C9a区で検出した北西—南東方向に延びる溝である。包含層中から切り込む遺構であったことを土層観察用のアゼで確認した。したがって、遺構検出面で捉えた平面形は最下部の形状と考えられる。北西部は当該アゼの部分で途切れているが、さらに北西に延びていたと考えられる。検出長8.2m、幅1.0m、深さ0.1～0.25mを測る。遺物は弥生土器・石器・須恵器が出土した。

#### 掘立柱建物

掘立柱建物は4棟を検出した。図215に示した遺物は、いずれも弥生時代中期所産のものと考えられるが、図示し得なかった遺物に古墳時代後期所産とみられる須恵器片等が一定程度認められるため、古墳時代後期以降として報告する。

1321掘立柱建物（図109・163） 7C1b・1c、6C10b・10cl区にまたがって検出した。2間×2間の総柱建物である。建物の主軸はN-17°-Eをとる。445・485ピットにおいて柱痕を確認した。柱穴の芯々距離は1.8mを測る。遺物は各ピットから弥生土器・土師器・須恵器が出土した。図示できなかつたが、古墳時代後期の杯蓋とみられる須恵器片が485・486・518ピットより出土した。また、522

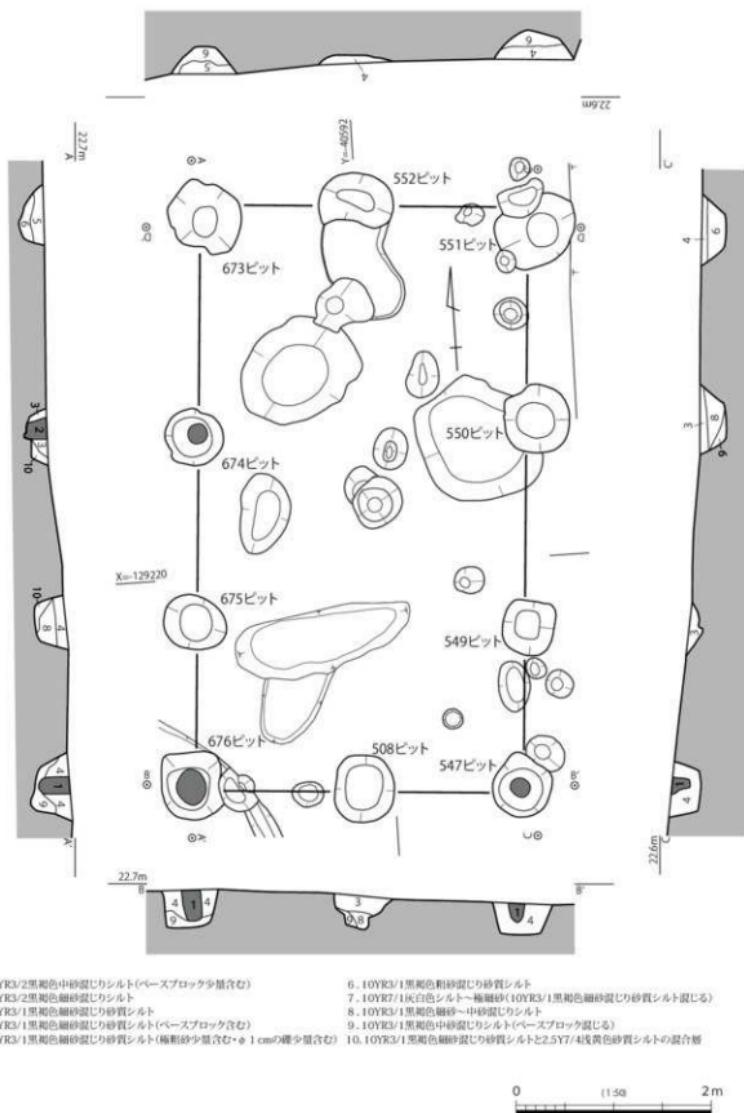


図 164 2016-1 調査 C区 1322 据立柱建物平面・断面図

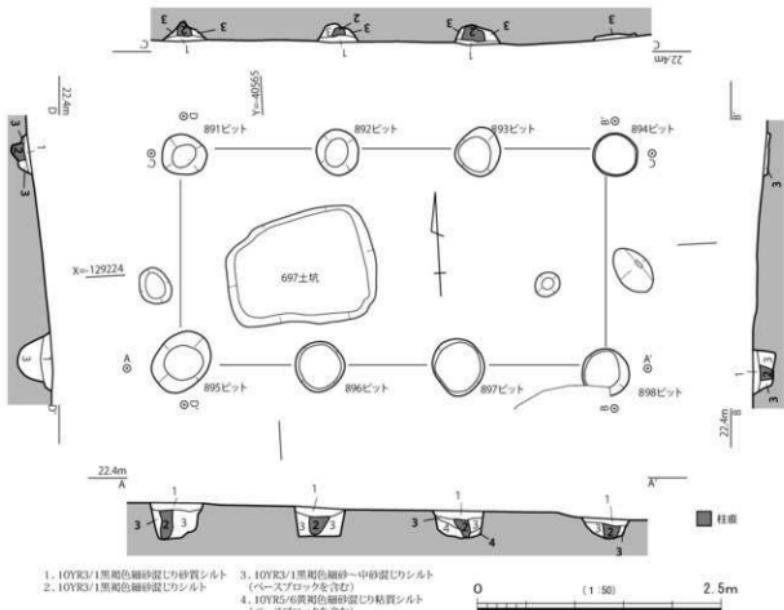


図165 2016-1調査 C区1329掘立柱建物平面・断面図

ピット出土遺物には土師器の細片が認められた。よって1321掘立柱建物は、少なくとも古墳時代後期以降に帰属すると考えられる。

1322掘立柱建物（図110・164、PL.33-2） 6C10b・10c区にまたがって検出した。2間×3間の側柱建物である。建物の主軸はN-15°-Eをとる。547・674・676ピットで柱痕を確認している。柱穴の芯々距離は1.7mを測る。遺物は各ピットから弥生土器・須恵器が出土した。図示できなかつたが、古墳時代後期所産とみられる須恵器片が550・674ピットから出土した。よって1322掘立柱建物は、少なくとも古墳時代後期以降に帰属すると考えられる。

1329掘立柱建物（図112・113・165） 6C7c区で検出した。1間×3間の側柱建物である。建物の主軸はN-88°-Wをとる。891・892・893・896・897・898ピットで柱痕を確認した。柱穴の芯々距離は南北2.2~2.3m、東西1.5mを測る。遺物は各ピットからわずかに弥生土器のみが出土し、土師器・須恵器等は認められなかった。中央に位置する697土坑からは土師器・須恵器が出土したが、1329掘立柱建物との関係は不明である。

2643掘立柱建物（図110・166） 6C9c・9d・10c・10d区で検出した。2間×4間の側柱建物である。北東隅は攪乱を受けており、柱穴は確認できなかつた。建物の主軸はN-91°-Wをとる。1862・1863・1865・1866・1867ピットで柱痕を確認した。柱穴の芯々距離は南北1.9~2.0m、東西1.5mを測る。図示できなかつたが、古墳時代後期所産とみられる須恵器片が1861・1862・1867・2032ピットより出土した。よって2643掘立柱建物は少なくとも古墳時代後期以降に帰属すると考えられる。この他、各ピットから弥生土器・石器が出土した。

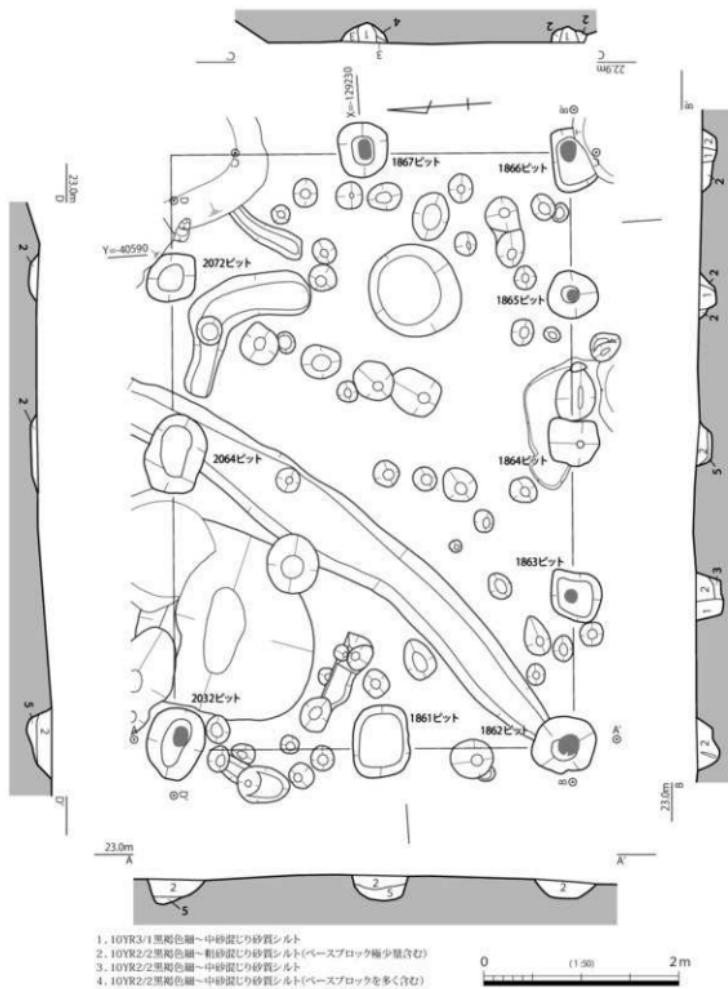


図 166 2016-1 調査 D 区 2643 捜立柱建物平面・断面図

## 中世の遺構

A区では井戸や掘立柱建物などを検出したが、B～D区においては、顕著な遺構は1360溝程度である。1360溝も瓦器や白磁が出土しているため中世としているが、いずれも小片であるため上層からの混入の可能性も否定はできない。

1360溝（図121・167） 7C3g区で検出した東西方向に延びる溝である。東西ともに調査区外に延び

る。1526溝を切る。検出長7.2m、幅1.4m、深さ0.2~0.35mを測る。B-B'断面においては、北側にテラス状の段が認められ、西側延長上に位置する1978-1調査(C区)（第2節）で検出した南側の溝（図7）と同一の溝である可能性が考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・磁器・石器が出土した。

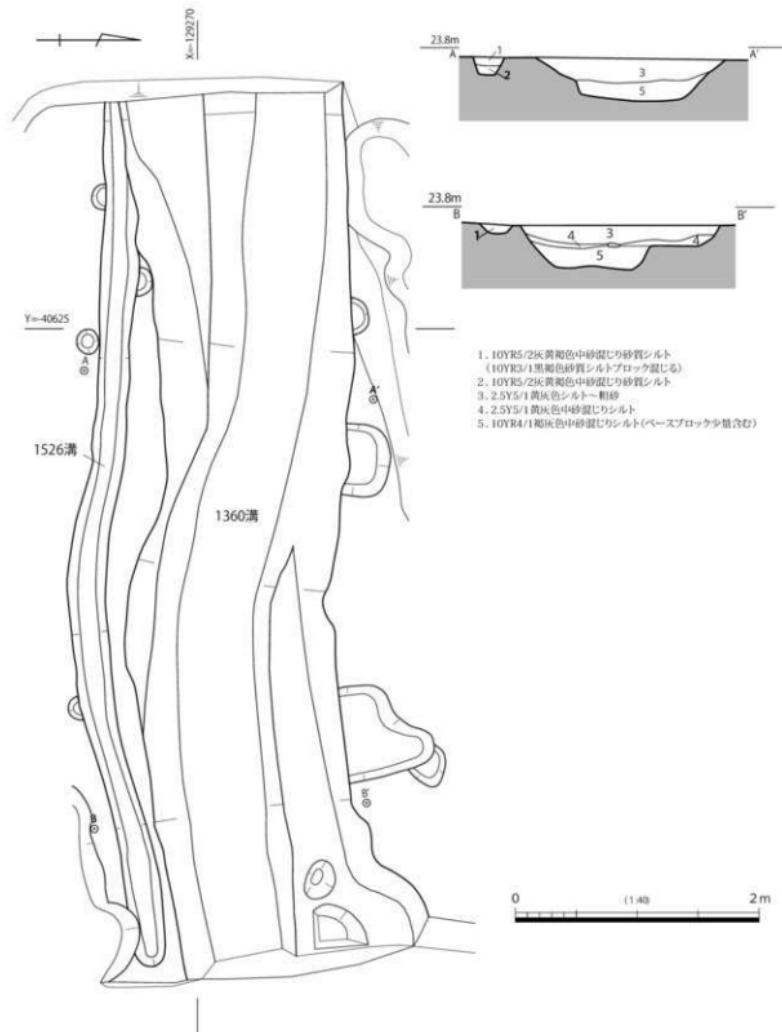


図 167 2016-1調査 B区 1360・1526溝平面・断面図

#### (4) 出土遺物（図 168～227、PL.83～131）

2016-1 調査B～D区の出土遺物は、そのほとんどが弥生時代中期の遺物である。それに加えて少量の古墳時代の遺物が認められる。ただし、包含層中からではあるが、A区 2621 井戸の時期に相当する9世紀後半～10世紀初頭頃の縁釉陶器が出土していることから、この時期にも何らかの活動の場となっていたことは窺える。

##### 弥生時代の遺物

463土坑出土遺物（図168-756～765） 756・757は広口壺である。口縁部形態は共にFである。756は口縁部内面に突起を4方向に貼り付ける。頸部に沈線2条を施す。758・759は甕である。口縁部形態は共にEである。759は外面および内面上部にハケを施す。760～762は底部である。いずれも外面にハケを施し、底面に木葉痕が認められる。760・762は平底を呈する。762は細身の体部をもつ。761は底面の中央部が窪む。763・764は高杯である。763は中実の脚柱部をもつ。裾端部形態はAであるが、上方に屈曲する。外面にミガキ、内面にハケを施す。764の裾端部形態はCである。内外面にハケを施す。

765はサヌカイトの剥片である。長さ5.6cm、幅5.5cm、厚さ1.1cmを測り、重量27gを量る。

963土坑出土遺物（図169・170-766～792） 766～769は広口壺である。口縁部形態は766・769がF、767・768がCである。767・768はともに端面下端をヘラによって刻目文を施す。766は外面にハケ、ミガキを施す。767は内面にハケ、768は内外面にハケを施す。770は水差である。直立する口縁部をもつ。外面に櫛描直線文を施す。771～777・780～789は底部である。780・783・784・788・789は底面中央が窪む。784は底面中央に円孔（直径0.8cm）を穿つ。772・785は外面にハケ後ミガキ、775は外面にミガキ、776・777・780・782～784・786・788・789は外面にハケを施す。平底を呈するものが大半を占める。772・775～777・780・782・784は底面に木葉痕が認められる。778・779は甕である。口縁部形態は778がD、779はEである。778は内外面にハケ、779は外面上にハケ、内面にハケ後ミガキを施す。790は高杯である。椀状の脚部をもつ。口縁端部は外方へ広がり、端部は面を成す。端部下端に刻み目、内外面にミガキを施す。

791・792は石製品である。共に石材は砂岩である。791は砥石である。外面に煤が付着する箇所が認められる。残存長3.7cm、幅6.7cm、厚さ4.7cmを測り、重量90gを量る。石材は792は台石である。扁平な礫である。残存長14.1cm、幅11.6cm、厚さ4.7cmを測り、重量1.2kgを量る。

964土坑出土遺物（図171-793～797） 793・794は広口壺である。793の口縁部形態はCである。口縁部のやや内側に円孔（直径0.4cm）を2個穿つ。端面下端に刻目、内面にハケを施す。794は外面に櫛描直線文、内面にハケを施す。795・796は甕である。口縁部形態は共にEである。共に内外面にハケを施す。797は底部である。平底を呈し、外面にハケを施す。

1561溝出土遺物（図172-798・799） 798は磨製石器の大型船刃石斧である。基部は欠損する。刃部は平滑であるが、残存する上部は凸凹が目立つ。断面形状は楕円形を呈する。残存長6.0cm、幅6.9cm、厚さ4.5cmを測り、重量550gを量る。石材は砂岩である。799は石皿である。残存長6.95cm、幅12.8cm、厚さ2.1cmを測り、重量219gを量る。石材は砂岩である。

1562溝出土遺物（図173～175-800～820） 800は甕蓋である。つまみは断面台形状を呈し、「ハ」字状に広がる。内外面にハケを施す。端部の内外面に煤が付着する。801はミニチュア土器甕である。口縁部と底部は接合しないが、ほぼ全体が残存する。口縁部は短く外方へ開く。底部は平底を呈する。外面にハケを施す。802～811は広口壺である。802は頸部～底部が残存する。頸部に櫛描直線文を6単位、外面にミガキを施す。底部は平底を呈する。口縁部形態は803～805・807・809・811がF、806・808・810がCである。803は口縁部と底部が接合しないが、ほぼ全体の形狀が窺える。底部は

平底を呈し、外面にハケを施す。804は外面に櫛描直線文、櫛描波状文、櫛描簾状文を施す。外面にハケ、内面にミガキを施す。805は外面にミガキ、内面にハケを施す。806は外面にハケ、ミガキ、内面にハケを施す。807は外面に櫛描直線文、内面にハケを施す。808は端面下端に押圧による刻目文、外面に櫛描直線文、内面にハケを施す。810は端面下端に押圧による刻目文、端面に沈線、外面および口縁部内面に櫛描波状文、内面にハケを施す。811は外面に櫛描波状文、内面にハケを施す。812~817は甕である。口縁部形態は812~814がE、815~817がDである。812は外面、813~815・817は内外面にハケを施す。816は口縁端面に櫛描波状文、外面にハケ、内面に工具によるナデを施す。

818は不明石製品である。扁平な碟で、残存長14.9cm、幅10.6cm、厚さ4.1cmを測り、重量796gを量る。石材は砂岩である。819・820は磨製石器である。819は大型蛤刃石斧である。刃部が残存する。残存長7.0cm、幅7.2cm、厚さ5.3cmを測り、重量332gを量る。断面形状は梢円形を呈する。石材は花崗閃緑岩である。820は石包丁である。紐孔は一部残存する。残存長6.0cm、幅3.9cm、厚さ0.8cmを測り、重量39gを量る。平面形状は直線刃半月形ないし長方形を呈する。石材は粘板岩である。

1452ピット出土遺物（図176-824） 822は打製石鎌である。下端の一部が欠損する。長さ2.5cm、幅1.9cm、厚さ0.3cmを測り、重量1gを量る。刃部は長三角形を呈し、基部は平基式ないし四基式である。石材はサヌカイトである。

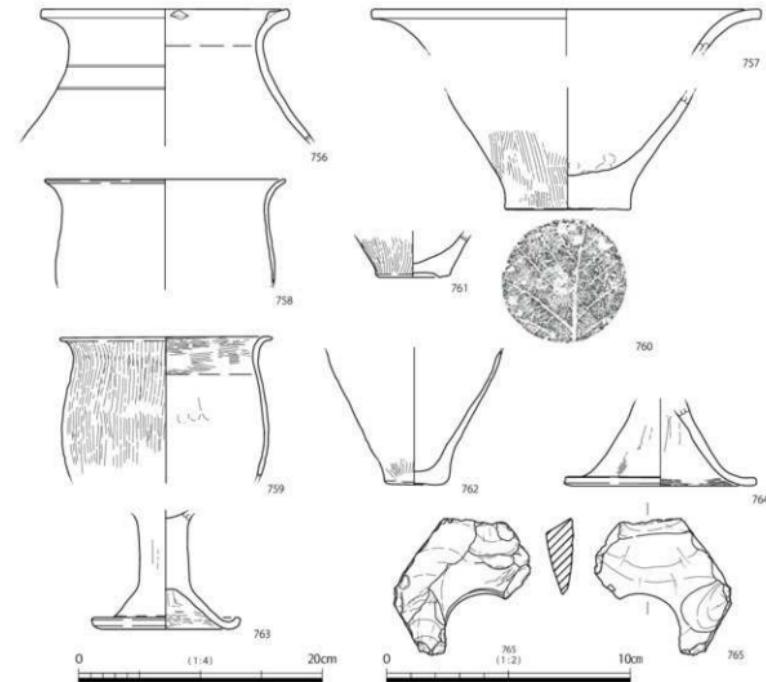


図 168 2016-1 調査 C区 463 土坑出土遺物実測図

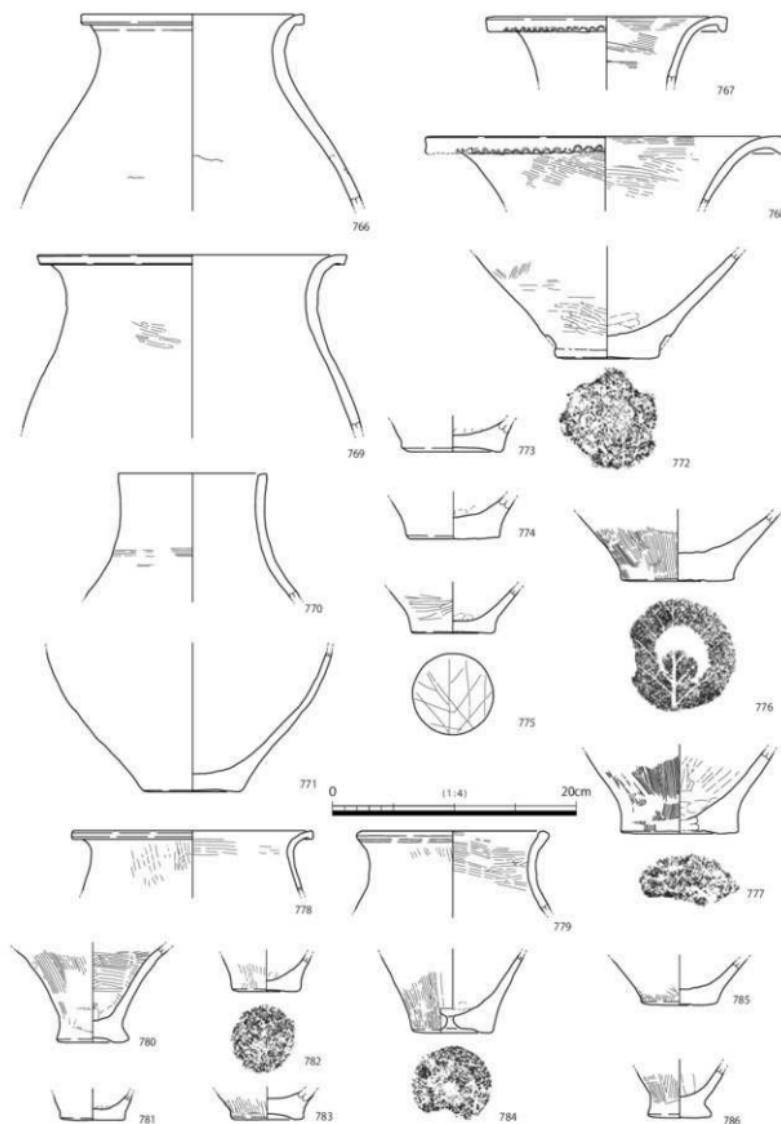


図 169 2016-1 調査 C区 963 土坑出土遺物実測図 (1)

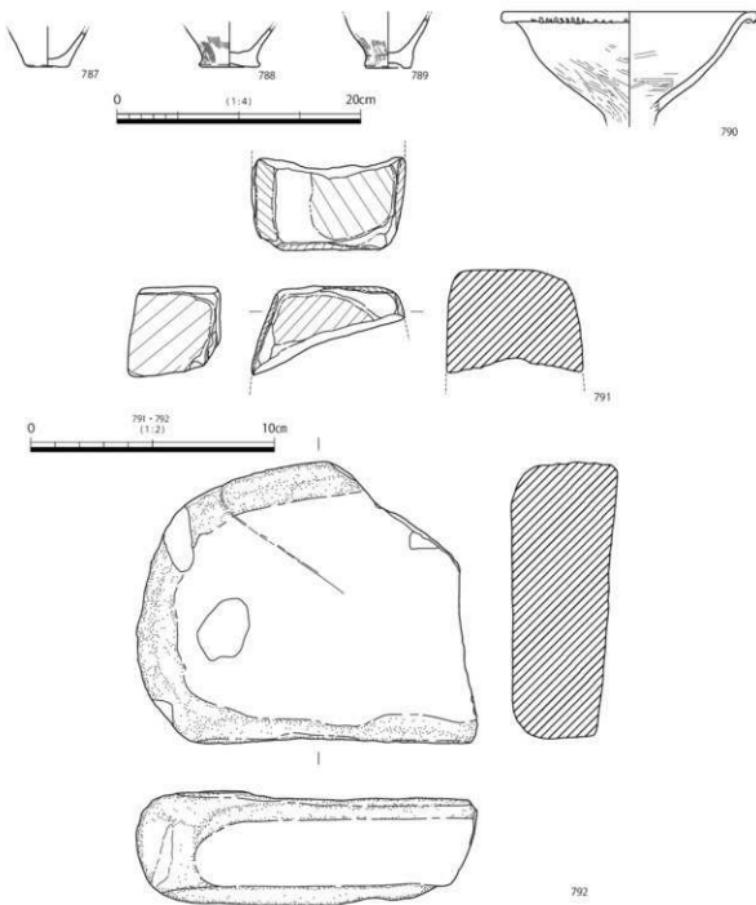


図170 2016-1調査 C区963土坑出土遺物実測図(2)

1746ピット出土遺物(図176-821) 821は広口壺である。口縁部形態はCである。端面下端に押圧による刻目文、外面にハケを施す。

2020ピット出土遺物(図176-823) 823は打製石鎌で、基部は欠損する。残存長3.35cm、残存幅1.6cm、厚さ0.45cmを測り、重量3gを量る。刃部は長三角形を呈する。石材はサヌカイトである。

2230ピット出土遺物(図176-822) 822は鉢である。口縁部形態はAである。外面にハケを施す。

932土坑出土遺物(図176-825~831) 825は広口壺である。口縁部形態はDである。外面にハケ・ミガキ、内面にハケを施す。826・827は蓋である。826はつまみの中央部が窪む。外面にハケを施す。

827は扁平なつまみ部分のみが残存する。828~831は底部である。いずれも平底を呈し、外面にハケを施し、底面に木葉痕が認められる。

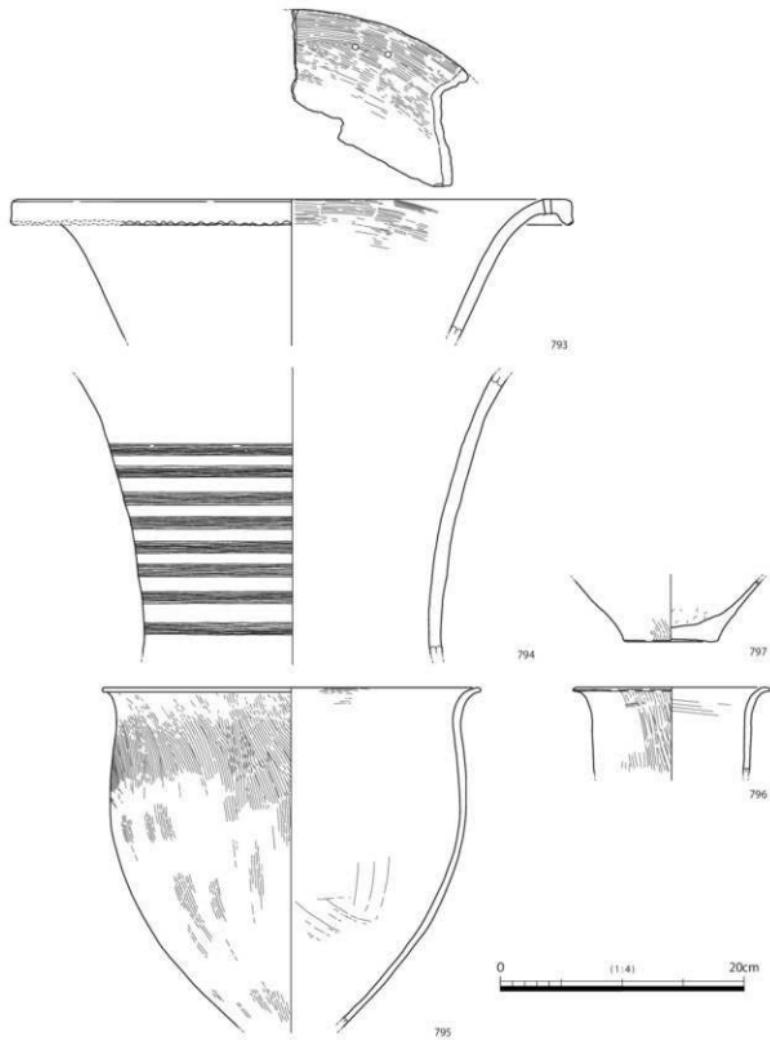


図 171 2016-1 調査 C区 964 土坑出土遺物実測図

210土坑出土遺物（図177-832～835） 832・833は広口壺である。共に口縁部形態はCであり、下端に押圧による刻目文を施す。832は内外面にハケを施す。833は口縁部内面に櫛描扇形文を施す。834・835は底部である。共に外面にハケを施し、底面に木葉痕が認められる。834は底面中央に円孔（直径1.0cm）を穿つ。

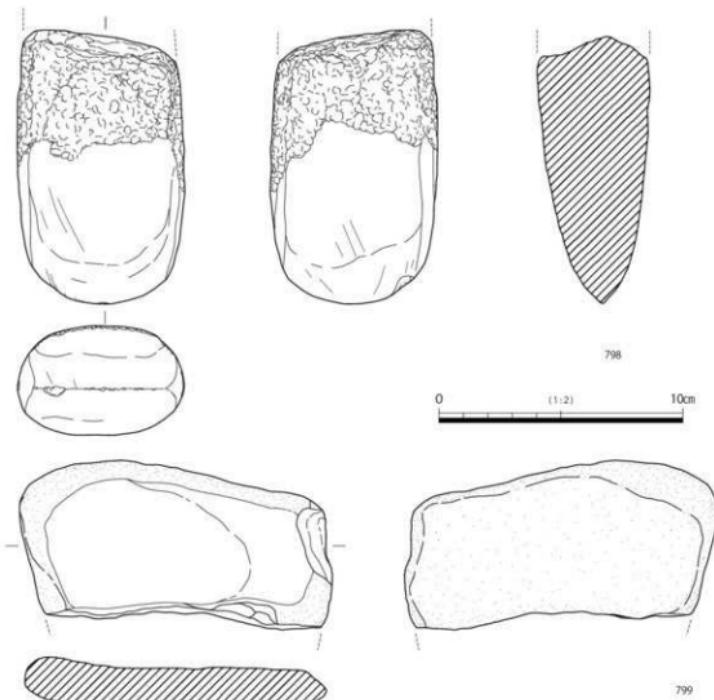


図172 2016-1調査 D区 1561溝出土遺物実測図

290土坑出土遺物（図177-836・837） 836は甌である。口縁部形態はDである。外面に櫛描直線文・櫛描波状文を施す。837は鉢である。口縁部形態はBである。口縁部下に断面三角形状の突帯1条をもつ。

368土坑出土遺物（図177-838～840） 838・839は甌である。共に口縁部形態はAである。838は内外面、839は外面にハケを施す。838は外面に煤が付着する。840は口縁部形態がAの鉢である。

371土坑出土遺物（図177-841～845） 841は広口壺である。口縁部形態はCである。端面に凹線2条を施す。口縁部の内側に直径0.1cmの極細い円孔を穿つ。842は鉢である。口縁部形態はAである。843は底部である。平底を呈する。底面に木葉痕が認められる。844・845は高杯である。844は杯底部から脚柱部が残存する。外面にミガキを施し、脚柱部内面にシボリ痕が認められる。杯部との接合は円盤充填法である。845は口縁部である。口縁部形態はA 2であるが、垂下部分は欠損する。杯部と口縁部の境に突帯1条が巡る。

537土坑出土遺物（図178-846～853） 846・847は甌である。共に口縁部形態はEであり、内面にハケを施す。848～852は底部である。いずれも平底を呈し、底面に木葉痕が認められる。848は内外面、849～851は外面にハケを施す。

853は磨製大型蛤刃石斧である。刃部は欠損する。全面に敲打痕が認められる。残存長10.8cm、幅

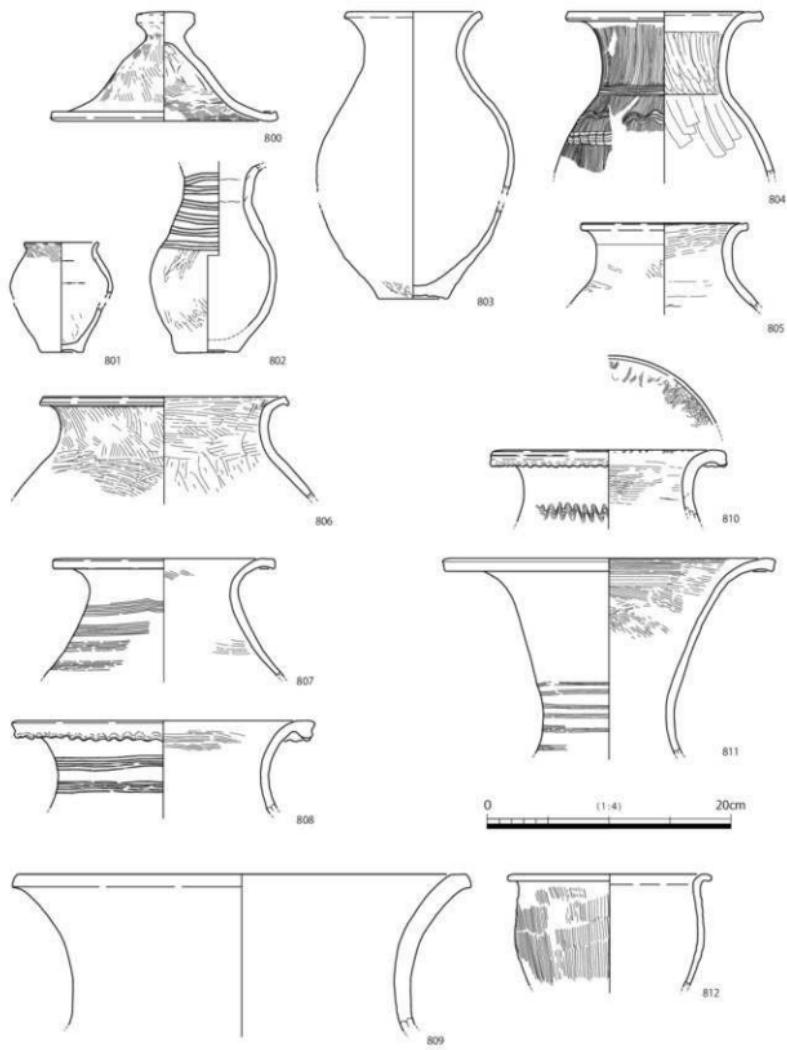


図173 2016-1調査 D区1562溝出土遺物実測図(1)

6.0cm、厚さ3.9cmを測り、重量458gを量る。断面形状は楕円形を呈する。石材は砂岩である。  
546土坑出土遺物(図178-854・855) 854は広口壺である。頸部片で、外面に断面三角形状を呈する  
突帯2条が巡る。天地逆の可能性もある。855は高杯である。脚裾部形態はAである。端部外面に円形  
の刺突文が巡る。

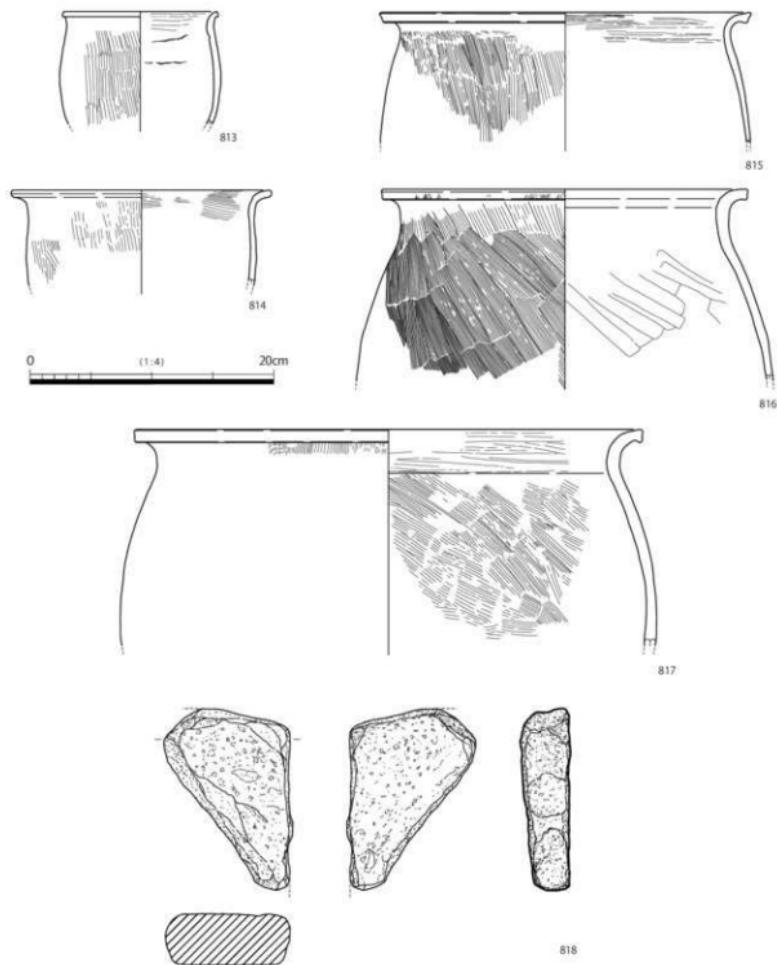


図 174 2016-1 調査 D 区 1562 溝出土遺物実測図（2）

372溝出土遺物（図179-856～863） 856～858は広口壺である。856・857の口縁部形態はCである。856は端面下端に押圧による刻目文、外面にミガキ、口縁部内面に櫛描波状文を施す。857は内面にハケを施す。858は頸部である。口縁部は欠損する。外面にミガキを施す。頸部に断面三角形状で、頂部に刻み目を施す突帯1条が巡り、突帯の上下に櫛描簾状文を施す。内面に櫛描波状文を施し、円形浮文を貼り付ける。859～862は底部である。いずれも平底を呈する。859は外面にハケを施す。859・860は底面に木葉痕が認められる。

863は磨製石剣である。刃部が残存する。残存長7.6cm、幅5.1cm、厚さ0.4cmを測り、重量18

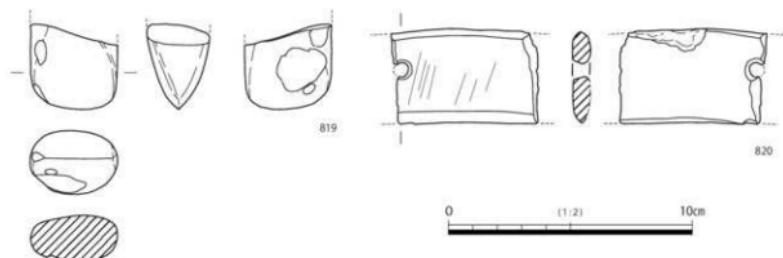


図 175 2016-1 調査 D区 1562 溝出土遺物実測図 (3)

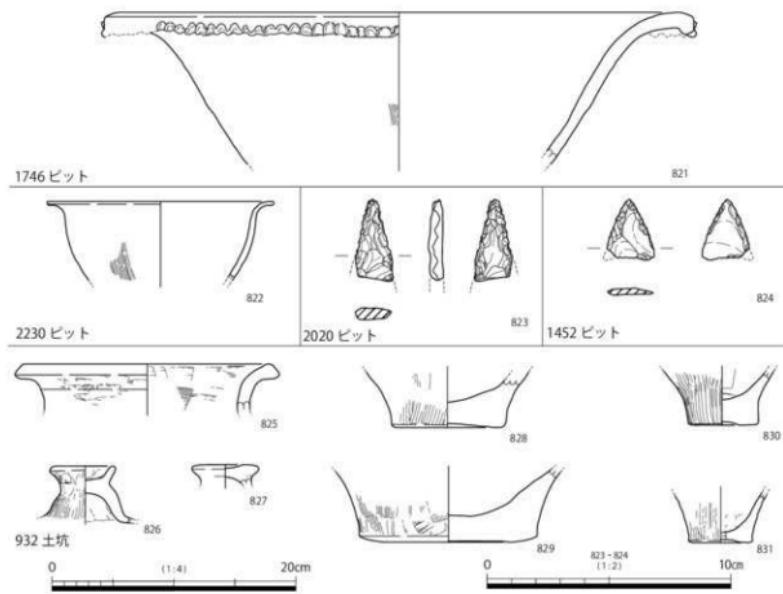


図 176 2016-1 調査 B・D区ピット出土遺物実測図

$g$  を量る。極めて扁平で厚さが薄いため、刃部は形成されているが、実用ではない可能性もある。両面とも擦痕が認められる。石材は粘板岩である。

396溝出土遺物 (図180-864~871) 864・865は甕である。共に口縁部形態はDである。864は端面に刻目文、外面にハケを施す。866~870は底部である。869のみ底部中央が窪み、866~868・870は平底を呈する。866・867は外面にミガキ、869は外面にハケを施す。870は底面に木葉痕が認められる。

871は打製石槍である。刃部が残存する。残存長 6.1cm、幅 3.9cm、厚さ 1.8cm を測り、重量 28  $g$  を量る。刃部は三角形状を呈する。石材はサヌカイトである。

1327方形周溝墓出土遺物 (図181・182-872~918) 872~877は広口壺である。口縁部形態は872・

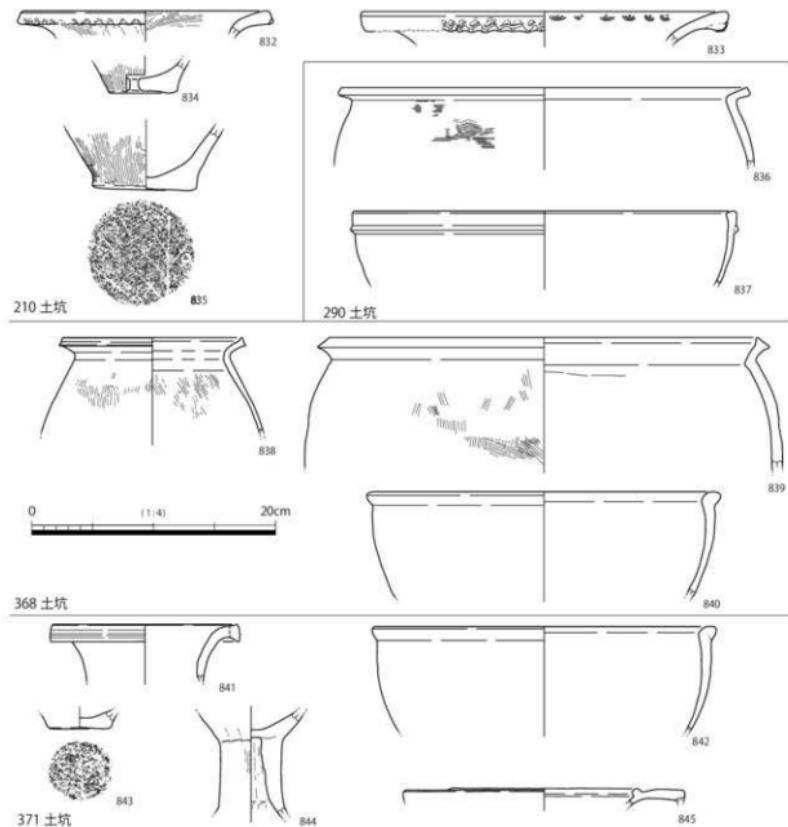


図177 2016-1調査 C区210・290・368・371土坑出土遺物実測図

873・877がF、874～876がCである。872・875・876は端面に櫛描波状文、873・874は端面下端に刻目文を施す。878は細頸壺である。口縁部は内彎する。外面に櫛描波状文、櫛描直線文を施し、内面に指頭圧痕が認められる。879・880は無頸壺である。それぞれ口縁部直下に円孔2個を穿つ(879は直径0.3cm、880は直径0.2cm)。880は外面に櫛描直線文を施す。881は壺ないし鉢である。鉢であれば、口縁部形態はBである。外面に断面三角形状の突堤2条をもつ。882～895、906～917は底部である。いずれも平底ないしは中央部がごくわずかに窪む形状を呈する。882・887・890・914は外面にミガキ、883・906・910～913・915～917は外面にハケ、893は内外面にハケ、894は外面にハケ後ミガキを施す。882・883・885・888・890～895・906・912～916は底面に木葉痕が認められる。896～905は甕である。口縁部形態は896・897・899・900・903・905がD、898・901・902・904がEである。896は内面にハケ、897・899は外表面にハケ、900は外表面にハケ、内面にケズリ、901・902・904・905は外表面にハケ、903は外表面にハケ、内面にハケ・ミガキを施す。

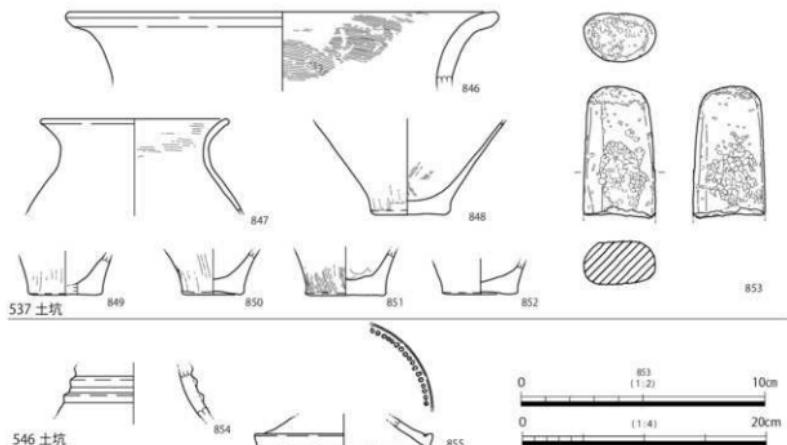


図 178 2016-1 調査 C区 537・546 土坑出土遺物実測図

918は石鏃である。長さ 2.5cm、幅 1.6cm、厚さ 0.5cm を測り、重量 2 g を量る。刃部は長三角形を呈し、基部は四基式ないし平基式である。石材はサヌカイトである。

1328方形周溝墓出土遺物（図183～186・919～993） 919～937は広口壺である。口縁部形態は、919・920・922・923・925・926・933・934・937がF、921・924・927～932・935がCである。919は端面下端に刻み目、外面に櫛描直線文、内面にハケを施し、口縁内面に突起をもつ。920は外面に櫛描波状文を施す。921は外面にハケを施す。922は外面に櫛描直線文を施す。925・934は内面にハケを施す。926は端面下端に刻み目、外面に櫛描直線文、内面にハケを施す。928・930は端面下端に刻み目、櫛描直線文、内面に928はミガキ、930はハケを施す。929は端面に櫛描波状文、内外面にハケを施す。931は内外面にハケを施す。933は端面下端が押圧により波状を呈する。935は端面に凹線・櫛描波状文、体部外面に櫛描直線文・ハケ、口縁部内面に櫛描波状文を施す。936は端面下端が押圧により波状を呈し、内面にミガキを施す。938は体部片である。外面に斜格子文、櫛描直線文を施し、円形浮文を貼り付ける。939～941は無頸壺である。939は内傾する口縁部をもち、口縁部直下に円孔（直径0.5cm）を一対穿つ。外面に櫛描波状文を施す。940は口縁端部が外方へ屈曲し、円孔（直径0.5cm）を穿つ。941は外面口縁部直下に凹線1条、外面にハケ、内面にユビナデを施す。942～953・970～988・993は底部である。948・949・971・976・978・982・984は底面中央が一段窪む。その他は平底を呈する。980・985は底部が高台状に突出する。944は中央部の粘土が剥離している。942は外面にミガキ・ハケ、944・948・951・970～975・977・978・980～983・985・986・988は外面にハケ、946・950・952は外面にミガキを施す。973は底面ではなく、外面に円孔（直径1.0cm）を穿つ。943・948・950・951・953・971～973・975・977～982・984・986～988は底面に木葉痕が認められる。954～969は甕である。口縁部形態は954～961・963～966・969がD、962・967・968がEである。954は端面下端に刻み目、956・961は櫛描波状文を施す。954～957・960～966は内外面にハケ、967は外面にハケ・ミガキ、内面にハケ、968は外面にハケ、内面にハケ・ミガキ、969は内面にハケを施す。959は外面にハケを施し、内面に指頭圧痕が認められる。989は鉢である。口縁部形態はAである。内外面にハケを施す。990～992は高杯である。990の裾端

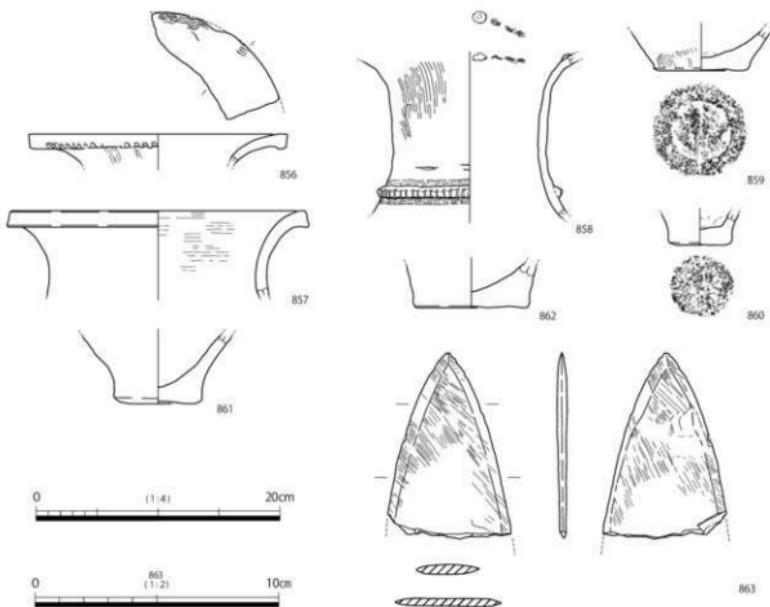


図179 2016-1調査 C区372溝出土遺物実測図

部形態はDである。外面にミガキ、内面にハケを施す。991の裾端部形態はCである。内面にハケを施す。992は蓋である。外面にミガキ、内面にハケを施す。

903溝出土遺物（図186-994） 994は底部である。平底を呈する。底面に木葉痕が認められる。

1316 竪穴建物範囲内遺構出土遺物（図187-995～1013）

竪穴建物に伴う遺構か否か厳密には判断できないが、周壁溝の内側に位置する遺構からの出土遺物を本項で一括して報告するものである。

457土坑出土遺物（図187-995～1004） 995は広口壺である。口縁部形態はFである。996は甌である。口縁部形態はEである。内外面にハケを施す。997～1003は底部である。997・1000・1001は底部中央がわずかに窪む。その他は平底を呈する。998は底部が突出し、外面に指頭圧痕が認められる。1003は底部中央の粘土が剥離している。997・1003は外面にミガキ・ハケ、999・1000は外面にハケ、1001・1002は外面にミガキを施す。999・1000は底面に木葉痕が認められる。

1004はサヌカイトの片である。長さ1.8cm、幅3.2cm、厚さ0.25cmを測り、重量1gを量る。

385土坑出土遺物（図187-1005～1008） 1005・1006は広口壺である。口縁部形態は1005がA1、1006がBである。1005は内面に櫛描刺突文を不規則に施す。端面に凹線1条を施し、円形浮文を貼り付ける。1006は端面に円形浮文を貼り付ける。内面に櫛描波状文、櫛描列点文を施す。1007は甌である。口縁部形態はAである。1008は平底を呈する底部である。

423溝出土遺物（図187-1009） 1009は突出して平底を呈する底部で、底面に木葉痕が認められる。

415溝出土遺物（図187-1010～1012） 1010～1012は甌である。口縁部形態はDである。1012は細身であり、口縁部の外方への屈曲もわずかである。外面にハケを施す。

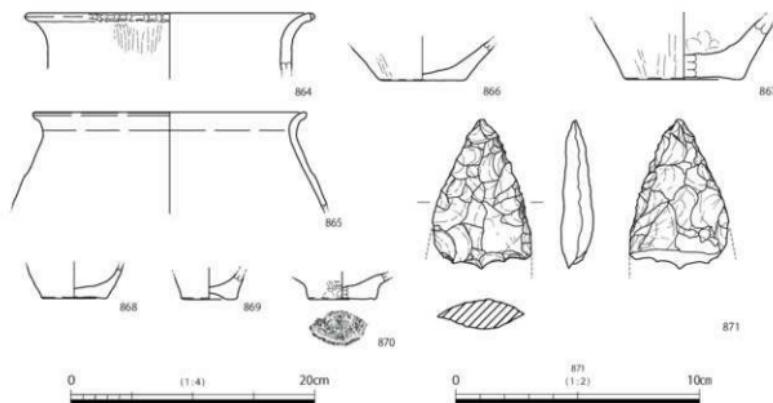


図180 2016-1調査 C区396溝出土遺物実測図

468土坑出土遺物（図187-1013） 1013はミニチュア土器である。丸底で口縁部が内彎する無頸壺形を呈する。口縁部直下に焼成前の円孔（直径0.3cm）を二個穿つ。

424土坑出土遺物（図188-1014～1018） 1014は甕である。口縁部形態はEである。外面にハケを施す。1015は突出し、中央部が窪む底部である。外面にミガキを施す。1016・1017は高杯である。1016は杯部である。水平に延びる口縁部は欠損する。杯部と口縁部境に突帯が巡る。1017は脚柱部である。外面に直線文を施す。内面にシボリ痕が認められる。杯部との接合は円盤充填法を施す。

1018は磨石である。円形の礫である。長さ6.6cm、幅6.4cm、厚さ3.3cmを測り、重量201gを量る。石材は不明である。

877土坑出土遺物（図188-1019～1023） 1019は広口壺である。口縁部形態はFである。内外面にミガキを施す。1020・1021は甕である。共に口縁部形態はDである。1020は内外面にハケ、1021は外面にハケを施す。1022・1023は底部である。共に平底を呈し、外面にハケを施す。1023は底面に木葉痕が認められる。

1666土坑出土遺物（図188-1024～1027） 1024は壺である。頸部～体部が残存する。外面に櫛描直線文・櫛描波状文・櫛描簾状文、内面にハケを施す。1025は高杯である。脚柱部形態はAである。裾部に円形透かし孔（直径0.5cm）を穿つ。1026は甕である。口縁部形態はAである。外面にタタキ後ハケを施す。

1027は磨製石包丁である。紐孔は一部が残存する。残存長5.0cm、幅3.4cm、厚さ0.5cmを測り、重量13gを量る。平面形状は直線刃半月形を呈する。石材は粘板岩である。

1700土坑出土遺物（図188-1028） 1028は甕である。口縁部形態はEで、底部は平底を呈する。

2332土坑出土遺物（図189-1029） 1029は高杯である。口縁部は図6に図示した例とは異なるが、A2の範疇に収まるか。端面に四線3条を施し、棒状浮文を3条一組として貼り付ける。

2360土坑出土遺物（図189-1030） 1030は甕である。口縁部形態はDである。端面に櫛描波状文、内外面にハケを施す。

593溝出土遺物（図189-1031～1035） 1031～1033は甕である。口縁部形態は1031・1032がD、1033がEである。1031は外面にミガキ、1032は内面にハケ、1033は内外面にハケを施す。1034・1035は底部である。共に平底を呈し、底面に木葉痕が認められる。1034は外面にハケ・ミガキ、内面

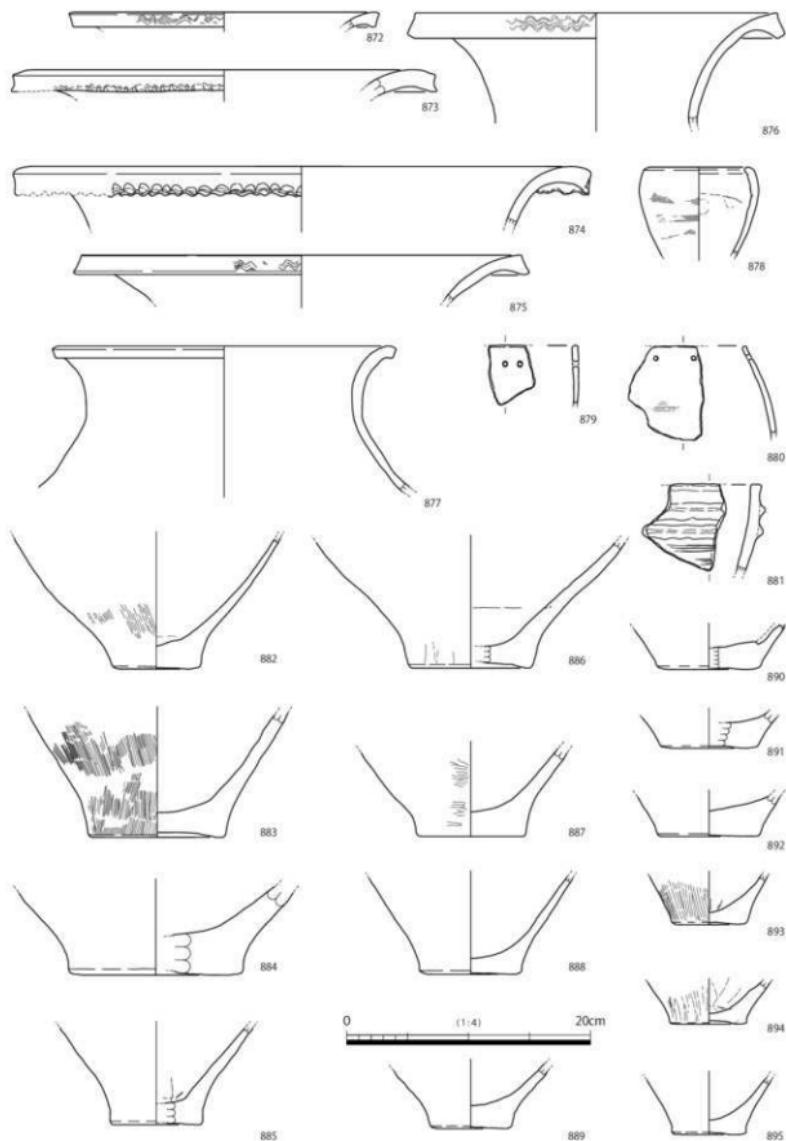


図181 2016-1調査 C区1327方形周溝墓出土遺物実測図(1)

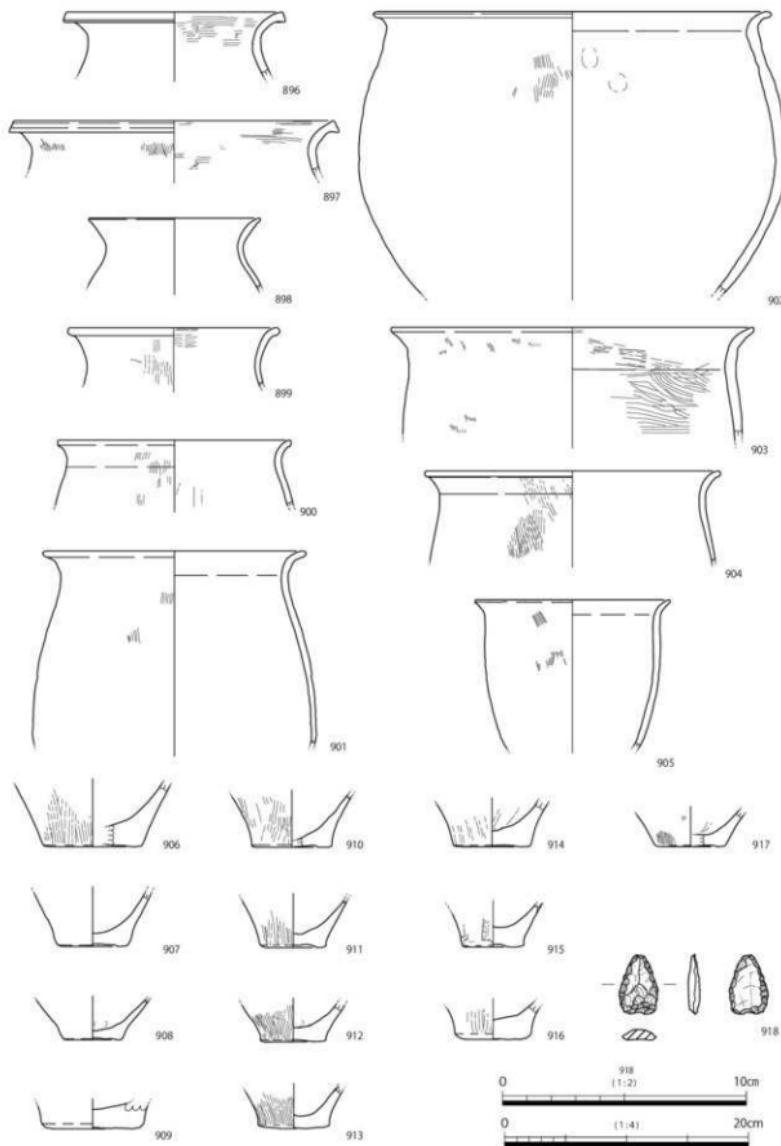


図 182 2016-1 調査 C 区 1327 方形周溝墓出土遺物実測図 (2)

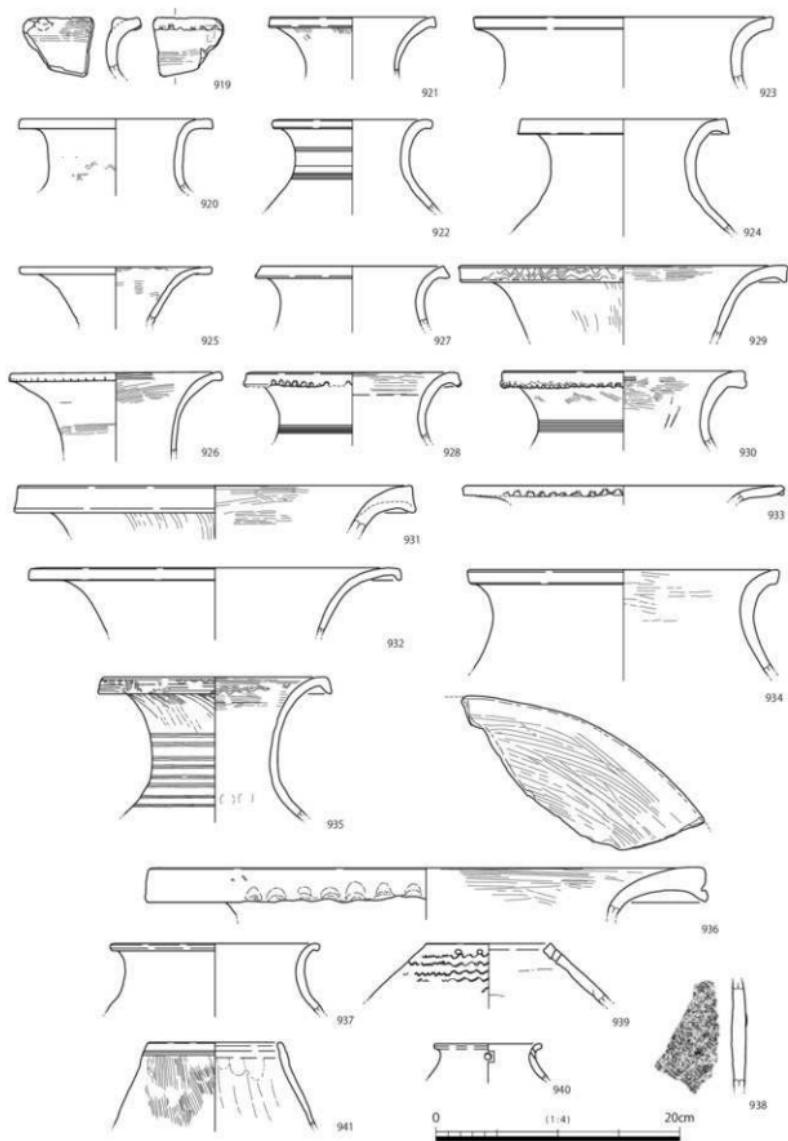


図 183 2016-1 調査 C 区 1328 方形周溝墓出土遺物実測図 (1)

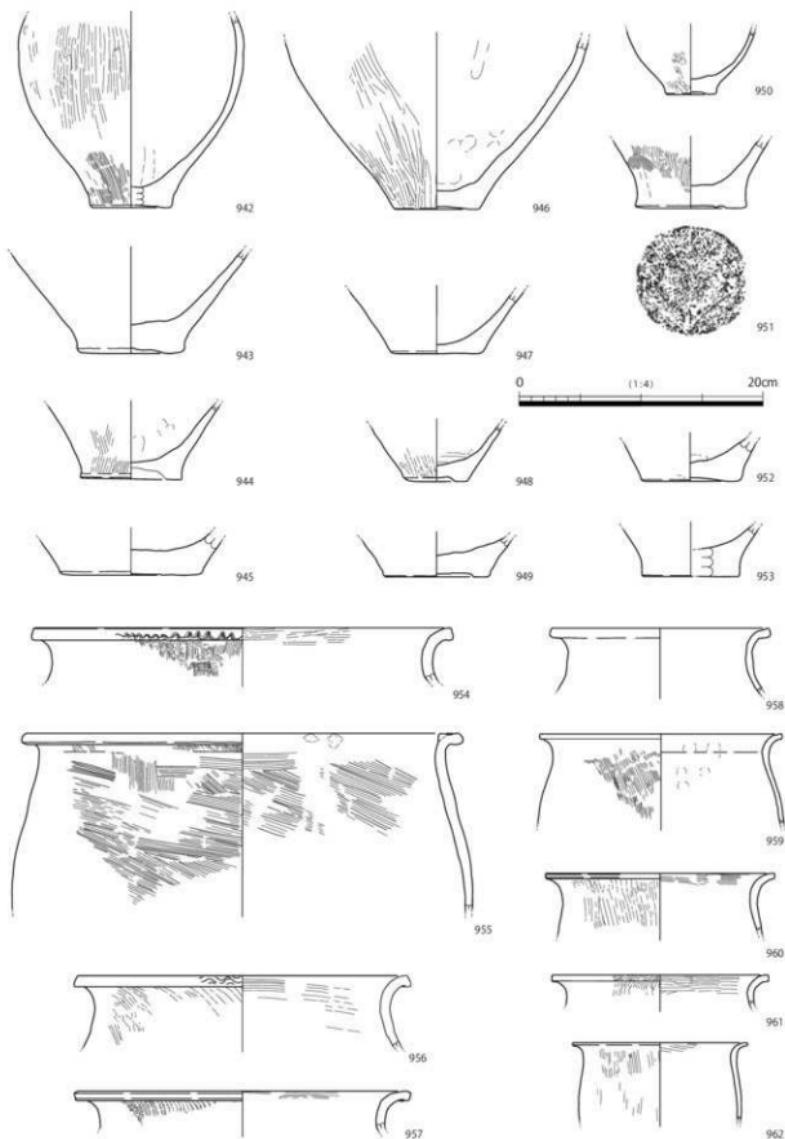


図 184 2016-1 調査 C 区 1328 方形周溝墓出土遺物実測図 (2)

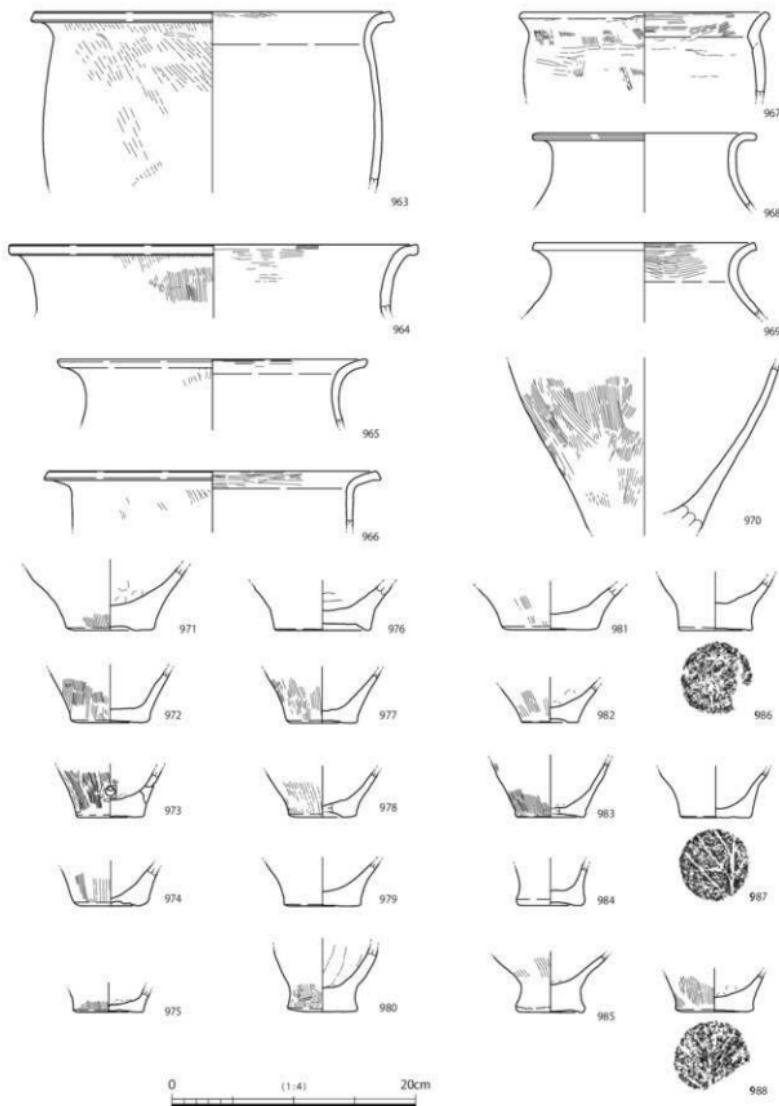


図 185 2016-1 調査 C 区 1328 方形周溝墓出土遺物実測図 (3)

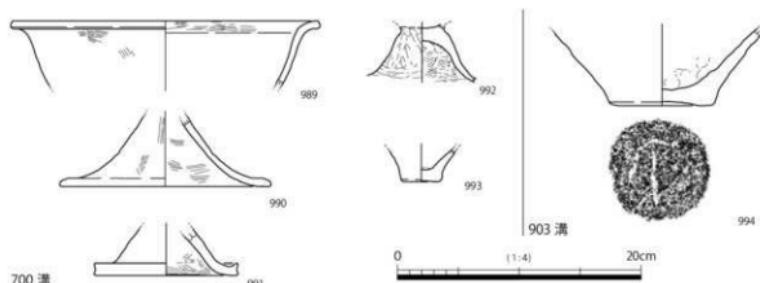


図186 2016-1調査 C区1328方形周溝墓・903溝出土遺物実測図

にハケを施す。1035は外面にタタキ・ハケを施す。

48土坑出土遺物（図190・191-1036～1061） 1036～1039・1042・1043は広口壺である。口縁部形態は、1036・1037・1039がB、1038がA1である。1036・1037は端面に凹線4条を施し、円形浮文を貼り付ける。円形浮文は1036では剥離して痕跡のみが残る。口縁部内面には1036で2列、1037で1列の櫛描列点文を施す。調整および色調が似ていることから、同一個体の可能性も考えられる。1038は端面に凹線4条、口縁部内面に櫛描列点文を施す。1042・1043は頸部である。共に頸部にヘラ圧痕突帯が巡る。1042は内面に指頭圧痕が認められ、1043は内面にハケを施す。1040・1041は壺である。1040の口縁部形態はA1である。端面に凹線7条を施し、中央に竹管文を伴う円形浮文を貼り付ける。器台の口縁部である可能性も考えられる。1041は体部である。外面に櫛描波状文、櫛描直線文を施す。1044～1048・1051～1054は底部である。1046・1047・1052・1054は中央部がわずかに窪むが、その他は平底を呈する。1044は外面にミガキ、内面に工具によるナデを施す。1046・1053は内外面にハケ、1047は外面にハケを施す。1054は底面に木葉痕が認められる。1049・1050は甕である。1049の口縁部形態はCである。頸部にヘラ圧痕突帯が巡る。1050の口縁部形態はAである。外面にタタキ後ハケ、内面にハケを施す。1055は蓋である。頂部が窪むつまみ部分である。外面にハケを施す。1056～1060は高杯である。1056～1059は杯部と脚柱部の接合に円盤充填法を用いる。ただし、1059は円盤が剥離している。1056・1057は脚柱部外面に直線文を施す。1056～1059は内面にシボリ痕が認められる。1058・1060の裾端部形態はDである。共に外面にミガキを施す。1061は器台である。外面に凹線15条を施し、内面に指頭圧痕が認められる。

127土坑出土遺物（図192-1062～1066） 1062・1063は広口壺である。口縁部形態は1062がB、1063がCである。1063は口縁部内面に櫛描列点文を2列、端面に凹線4条を施し、凹線上に竹管文を伴う円形浮文を貼り付ける。1064は水差である。口縁部は直立し、外面に凹線5条を施す。1065は甕である。口縁部形態はAである。外面にハケを施す。1066は高杯である。皿状を呈する杯部で、口縁部形態はBである。

770土坑（図192-1067～1070） 1067は広口壺である。口縁部形態はFである。外面にハケ・櫛描直線文、内面にミガキを施す。1068は甕である。口縁部形態はEである。外面にハケを施す。1069・1070は底部である。共に中央がわずかに窪む平底を呈する。1069は外面に工具によるナデ、1070は外面にハケを施す。

1629土坑出土遺物（図192-1071） 1071は高杯である。脚裾部形態はAである。外面にミガキ・直線文を施す。外面に煤が付着する。

1665土坑出土遺物（図192-1072） 1072は甕である。口縁部形態はDである。端面に凹線1条、外面

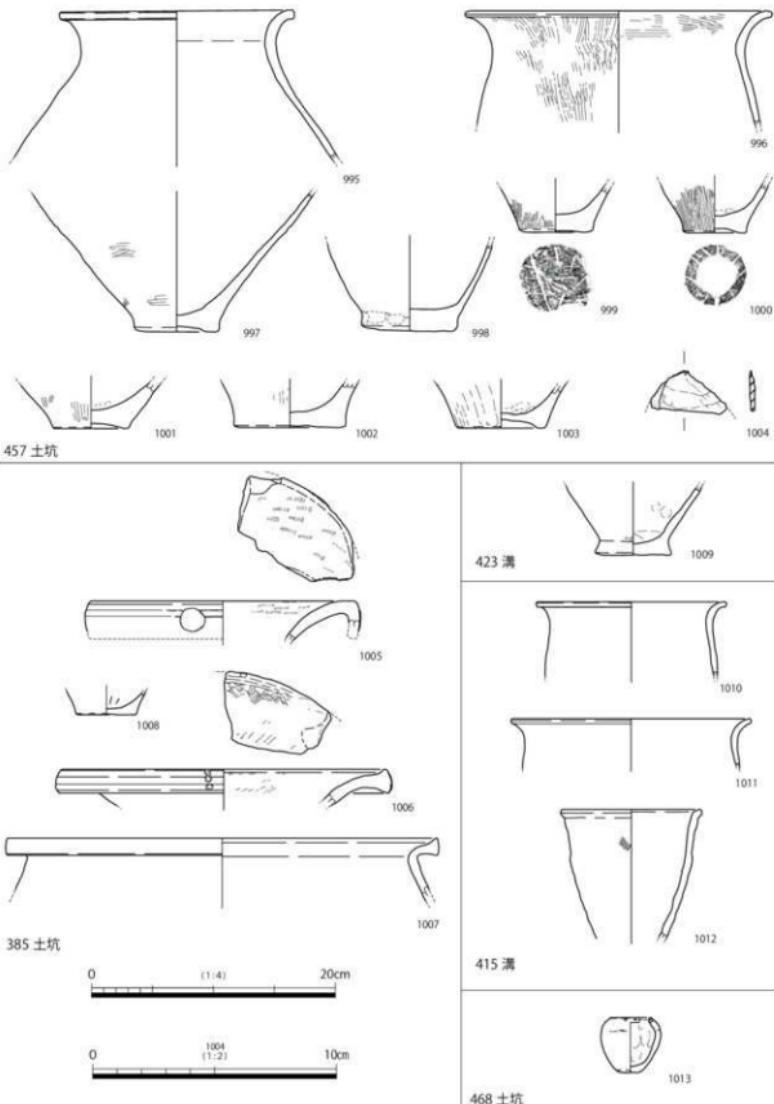


図 187 2016-1 調査 C 区 1316 竪穴建物範囲内遺構出土遺物実測図

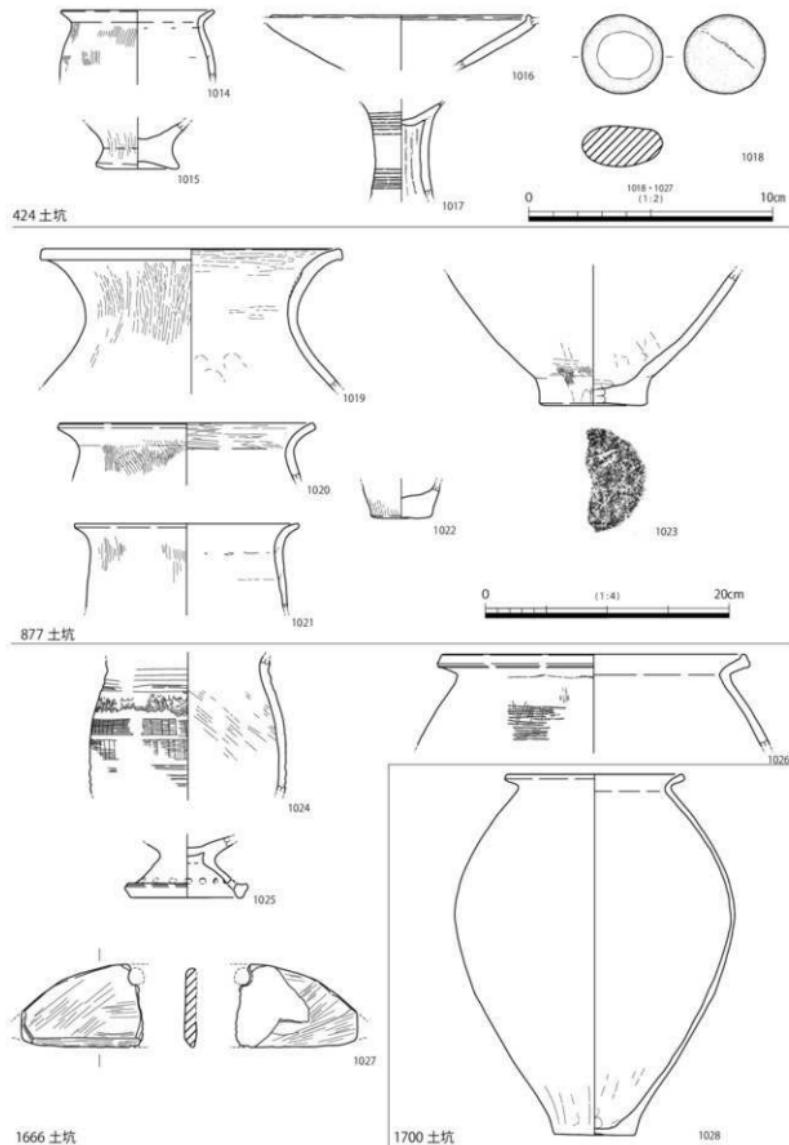


図 188 2016-1 調査 C 区 424・877 土坑、D 区 1666・1700 土坑出土遺物実測図

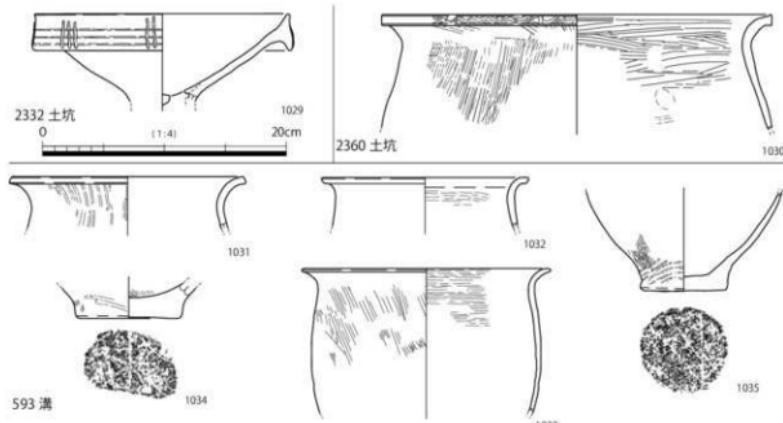


図189 2016-1調査 C区593溝、D区2332・2360土坑出土遺物実測図

にハケを施す。外面に煤が付着する。

1920土坑出土遺物（図192-1073） 1073は広口壺である。口縁部形態はCである。外面にハケを施す。端面に煤が付着する。

2100土坑出土遺物（図192-1074・1075） 1074・1075は広口壺である。1074の口縁部形態はA 2である。端面に円形浮文を2個一組で貼り付ける。1075の口縁部形態はBである。端面に凹線3条を施す。

1632土坑出土遺物（図193～197-1076～1100） 1076～1085・1087・1097は広口壺である。口縁部形態は、1076・1077・1080・1082がB、1078・1079・1081がC、1083・1084・1085がE 1、1087がE 2である。1076は端面に凹線3条、外面にハケ・櫛描廉状文・櫛描直線文、口縁部内面に櫛描列点文、内面にハケを施す。1077は端面に凹線4条・ヘラ压痕、外面にハケ、口縁部内面に櫛描波状文を施す。1078は端面に櫛描波状文、外面に櫛描直線文・櫛描波状文、口縁部内面に櫛描列点文を施す。1079は外面に櫛描直線文・櫛描波状文、口縁部内面に櫛描列点文を施す。1080は端面に凹線4条、外面に櫛描直線文、口縁部内面に櫛描列点文を施す。1081は外面にハケを施す。1082は端面に凹線3条、外面にハケ、外下半にミガキを施す。外面の櫛描直線文と櫛描波状文は交互に5列ずつ施す。また、口縁部内面に櫛描列点文、内面にハケを施す。底部は平底を呈する。1083・1084は頸部にヘラ压痕突帯が巡る。外面にハケを施す。1085は端面に凹線4条を施し、端面下端に突帯を巡らせる。また、頸部にヘラ压痕が巡る。内面にハケを施す。また、外面頸部下に直線と斜格子で構成された線刻が認められる。磨滅および器表面の剥離のため、詳細は不明であるが、後述する絵画土器（図196-1097）の状況から判断して、建物の屋根を描いてる可能性がある。1087は端面に凹線4条を施す。頸部に刻目文を施す。1086は壺である。体部中位に最大径を有する。頸部はほぼ垂直に立ち上がる。外面に櫛描列点文、内面に板ナデを施す。底部は平底を呈する。体部最大径以下のほぼ全体に煤が濃く付着する。1097は絵画の描かれた壺体部である。出土したのは体部片のみであるが、残存部に頸部と考えられる屈曲が認められることから、壺と判断した。さらに土器絵画は壺の肩部に描かれことが多いことからも、広口壺の可能性が高いと判断した。頸部近くの外面に粗いハケを施す。

現時点で確認できる線刻はすべて建物と考えられるもので、5棟を確認できる。記述の都合上、図

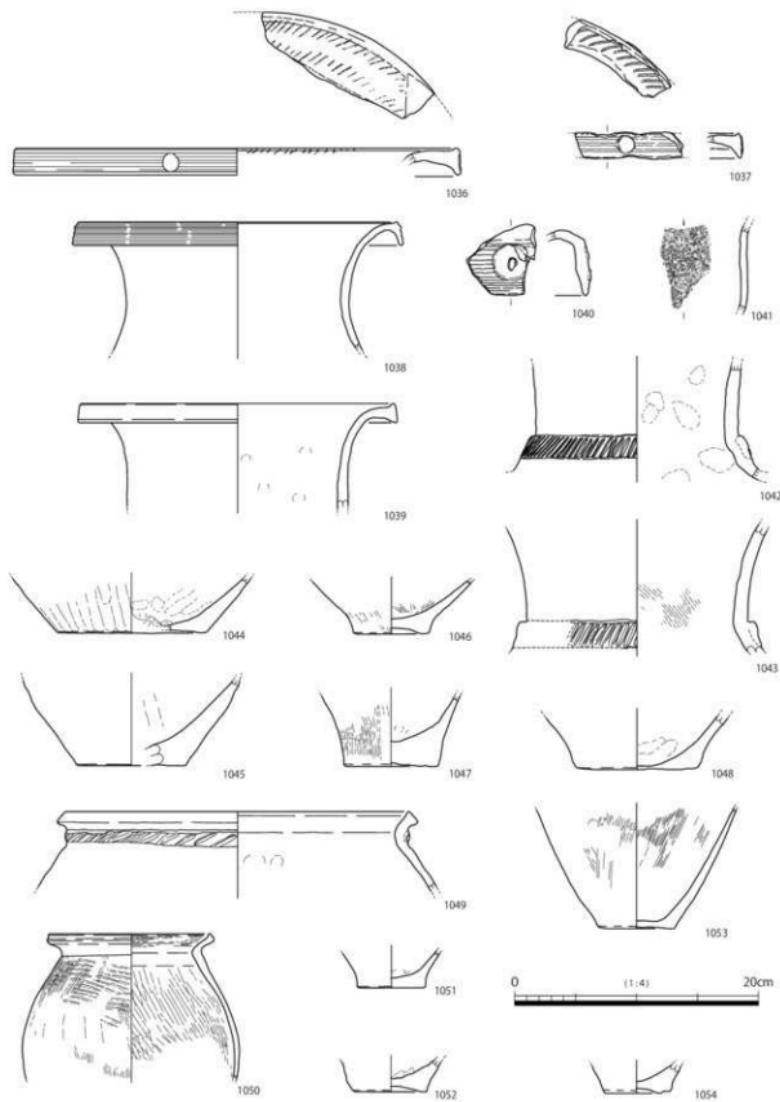


図190 2016-1調査 C区48土坑出土遺物実測図(1)

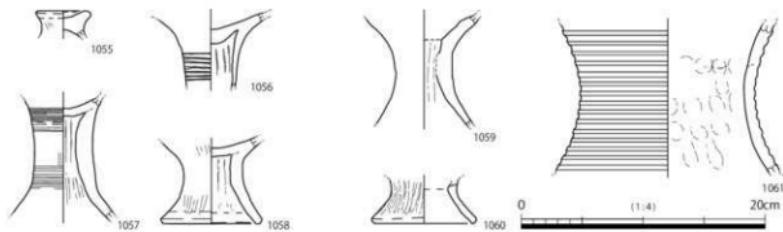
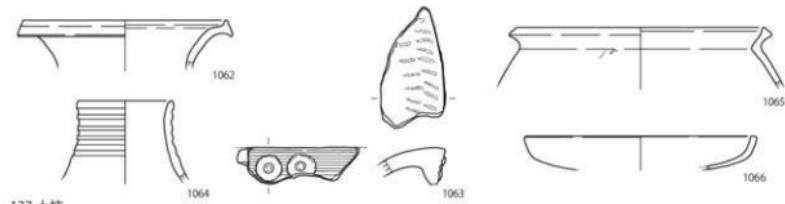
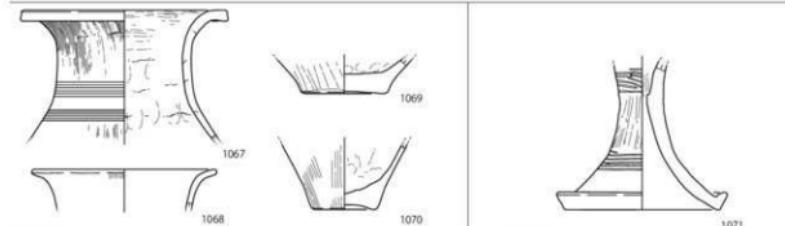


図 191 2016-1 調査 C 区 48 土坑出土遺物実測図 (2)



127 土坑



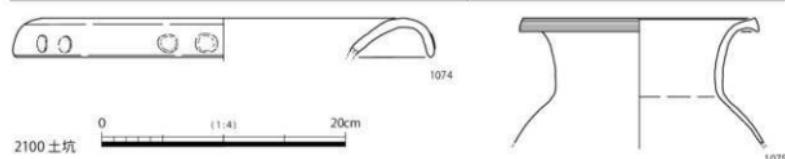
770 土坑

1629 土坑



1665 土坑

1920 土坑



2100 土坑

図 192 2016-1 調査 C・D 区土坑出土遺物実測図

196 に示すように建物 1 ~ 5 と仮称する。このうち建物 3 が建物 2 の上部に描かれる以外は、横方向に展開している。横方向に展開する 4 棟は互いに近接して描かれている。

5 棟の建物はそれぞれに大小や特徴的差異はあるが、いずれも基本的には同様の構造である。屋根は斜格子で充填し、上辺が長い逆台形を呈し、屋根の下に柱と考えられる二重線が 2 ~ 3 本描かれている。

切妻造の高床建物と考えられる。建物4・5では器表面の剥落のため確認できないが、基本的に5棟とも棟の両端に「V」字状に2本の直線が描かれている。これは千木状の棟先飾りを表現している可能性がある。

建物1は、最も大きく描かれており、棟が大きく反っている。柱は2本確認できるが、本来は他の建物と同様3本であった可能性がある。非常に浅い線ではあるが柱の中ほどと下端に柱をつなぐ横線が確認できる。また、斜格子で充填される屋根部分の上位と下位に平行に直線が一本確認できる。

建物2は、建物1の右側に描かれているものである。上に建物3が描かれている。棟は大きく反らず真っすぐである。妻側が二重線で表現され、内側の線まで斜格子が充填される。建物の左側に一本の線が描かれているが、棟の端に接していることから、独立棟持柱と考えられる。右側については確認できない。また、独立棟持柱を含めて、柱表現の下端に横線が一本確認できる。

建物3は、最も小さく描かれる。3本の柱の中点をつなぐように横線を描く。中央の柱の屋根下から左側の柱の下端に向かって斜めの直線を描く。この線刻は梯子を表現している可能性がある。

建物4は、屋根の中央から左側については、器表面の剥落のため確認できないが、他の建物と同様の構造および表現であったと推定される。建物1と同様に棟は大きく反っている。また、向かって右側の妻側から二本の直線の内側に短い直線を列状に施す。この線刻は梯子と考えられる。ただし、屋根の下端ではなく、中ほどにかかっているような表現である。

建物5は、建物中央部を描く土器片が欠損するため、該当箇所の様相は不明である。おそらく他の建物と同様の構造、表現であったと想定される。右側の柱には二本線の間にもう一本斜めの線が確認できる。描き損じたのか、何らかの意味を有するのかは不明である。

1088・1089は甕である。口縁部形態は共にDである。1088は外面にタタキ後ハケ、内面にハケを施す。外面に煤が付着する。1089は外面にタタキを施す。口縁部外面に煤が付着する。1090～1092は器台である。1090は外面に凹線10条を施す。上部に円孔（復元径2.4cm）を穿つ。1091の裾端部形態はCである。外面に凹線9条を施す。上部に円孔（復元径4.0cm）を穿つ。1092は断面形状が「く」字状を呈し、受け部と台部の間は中空である。裾端部形態はCである。1093～1095は高杯である。1093は杯部から脚柱部が残存する。水平に延びる口縁部は欠損する。杯部と口縁部の境に突帯1条を巡らせる。杯部と脚柱部との接合は円盤充填法を用いる。外面および杯部にミガキを施す。脚柱部内面にシボリ痕が認められる。1094・1095は脚柱部である。1094は外面に上から8条・9条・8条の櫛描直線文を施す。1095は外面に凹線4条、裾部内面にケズリを施す。脚柱部内面にシボリ痕が認められる。1096は台付土器の台部である。台部は「ハ」字状を呈する。外面にミガキを施す。

1098・1099は磨製石器である。1098は石包丁である。紐孔は一部が残存する。両面に擦痕が認められる。残存長7.0cm、幅3.1cm、厚さ0.7cmを測り、重量20gを量る。平面形状は細長い形状を呈するが、直線刃半月形もしくは長方形を呈すると思われる。石材は粘板岩である。1099は太型蛤刃石斧である。基部が残存する。基部に敲打痕が認められる。残存長5.2cm、幅3.7cm、厚さ2.6cmを測り、重量74gを量る。断面形状は楕円形を呈する。石材は砂岩である。

1100は打製石錐である。残存長4.0cm、幅1.3cm、厚さ0.6cmを測り、重量3gを量る。頭部と錐部の境は明瞭で、錐部が細長く延びる。錐部の先端は欠損している。

2210土坑出土遺物（図198-1101～1108） 1101は広口壺である。頸部に櫛描波状文・櫛描直線文・ハケを施す。1102・1103は甕である。1102の口縁部形態はDである。外面にハケを施す。1103の口縁部形態はAである。内外面にハケを施す。1104は多孔土器である。外面にハケを施す。底部は平底を呈し、底部および体部全体に穿孔を施す。内面に付着物は認められない〔角南1999〕。485ピット出土の1365（図215）も同様の形態と考えられる。1105は高杯形のミニチュア土器である。杯底部以

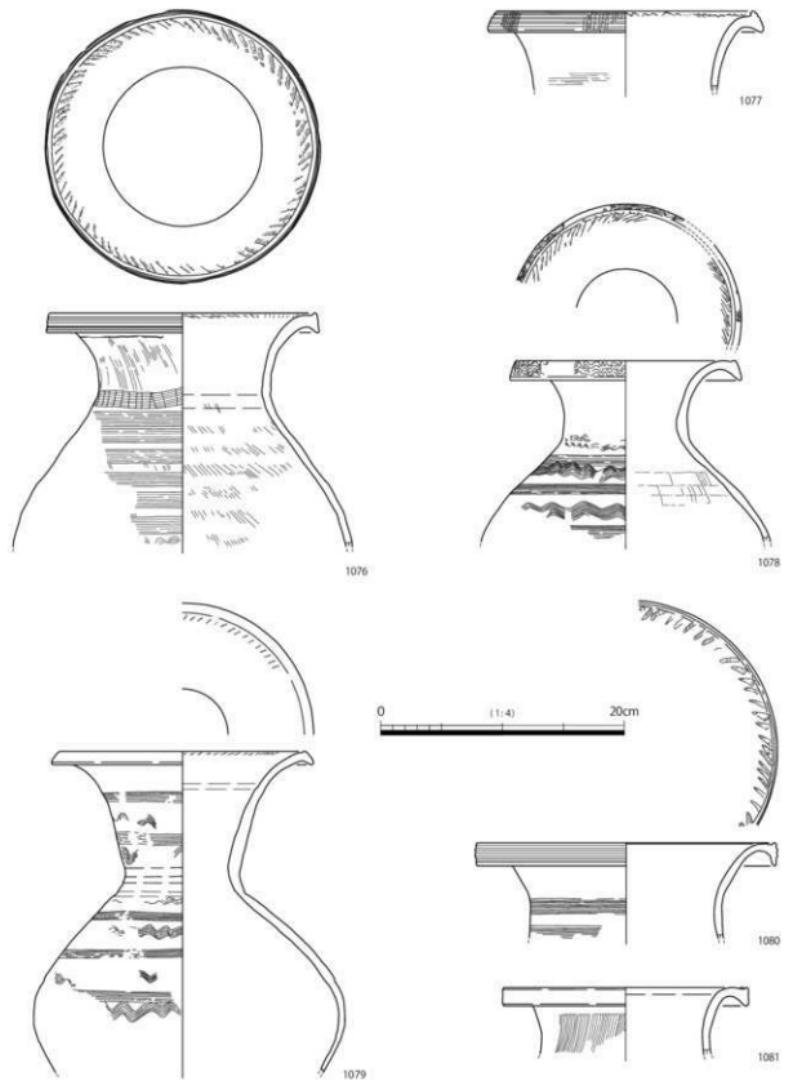


図193 2016-1調査 D区1632土坑出土遺物実測図(1)

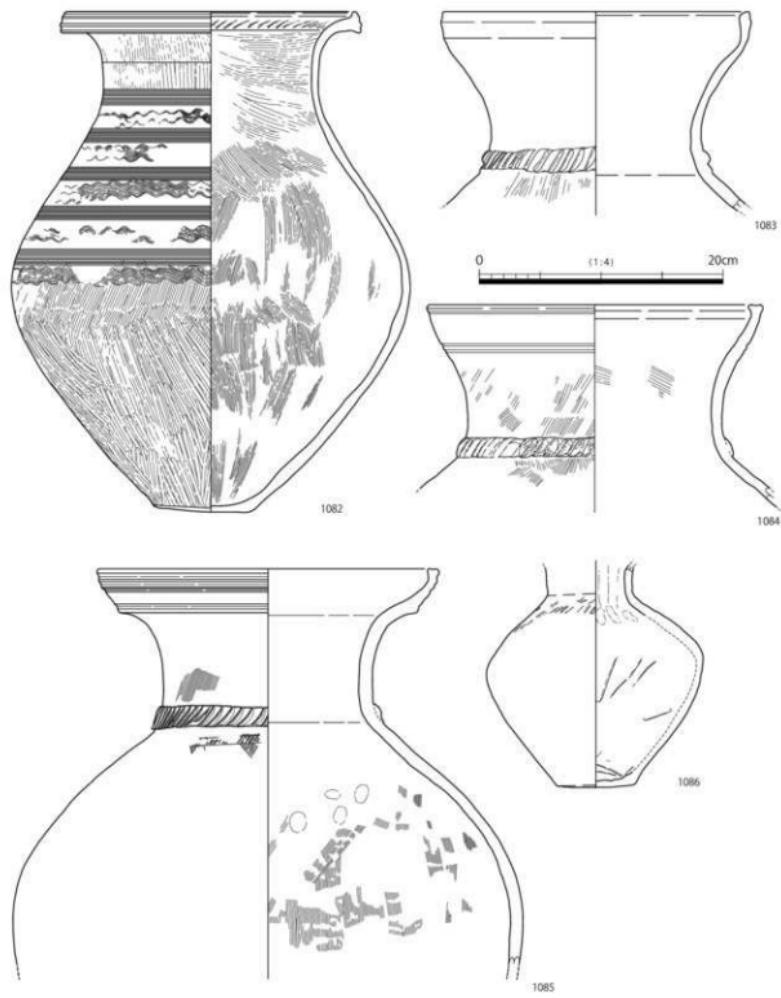


図 194 2016-1 調査 D区 1632 土坑出土遺物実測図（2）

下が残存する。杯部内面に板ナデを施す。1106・1107は高杯である。1106は杯体部から口縁部が残存する。口縁部形態はA 1である。杯部と口縁部の境に突帯を巡らせる。外面にミガキを施す。1107は杯底部から裾部である。脚裾部形態はCである。外面にミガキ・板ナデ、杯部内面にミガキを施す。円盤充填法により杯部と脚柱部を接合する。

1108は石斧である。残存長 5.5cm、幅 6.2cm、厚さ 2.5cm を測り、重量 147 g を量る。石材は砂岩か。

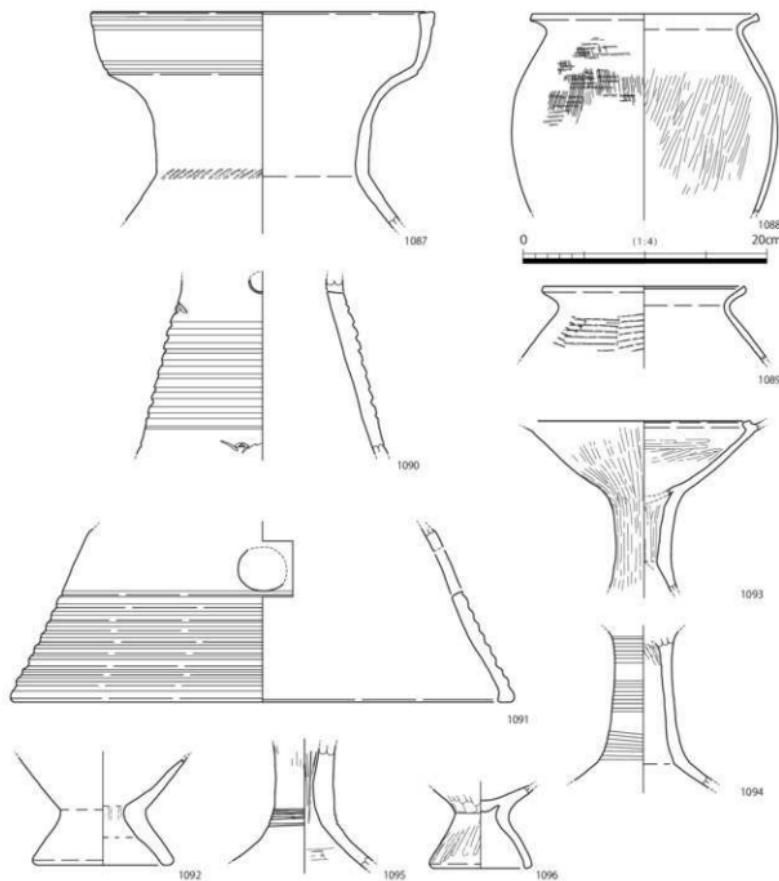


図 195 2016-1 調査 D 区 1632 土坑出土遺物実測図 (3)

1410土坑出土遺物（図199-1109） 1109は広口壺である。口縁部形態はBで、外面には櫛描直線文・櫛描波状文を交互に、口縁部内面に櫛描波状文を施す。

1414土器棺墓出土遺物（図199-1110） 1110は甕である。口縁部形態はCである。底部は平底を呈する。外面にタタキ、内面にハケを施す。棺身として使用された。

1415土坑出土遺物（図199-1111） 1111は鉢である。口縁部形態はCである。外面に櫛描波状文・櫛描直線文、内面にハケを施す。

287溝出土遺物（図200～202-1112～1118） 1112～1118は広口壺である。口縁部形態は1117・1118がA1、1113・1116がC、1112・1114・1115がFである。1114・1115は口縁部下に円孔（1114は直径0.3cm、1115は直径0.2cm）を穿つ。1116は端面下端に刻目文を施す。1117は端面上に凹線4条を施し、円形浮文を貼り付ける。1118は端面上に凹線7条を施し、竹管文5個を十字状に配し

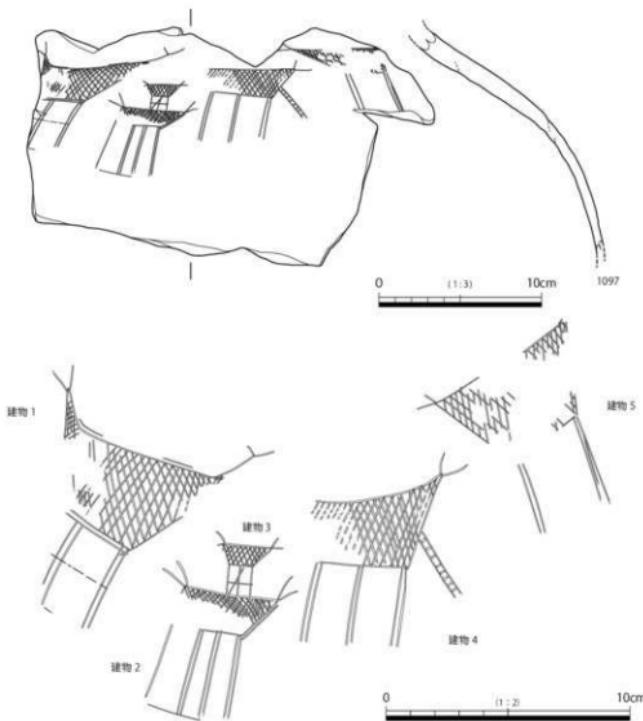


図196 2016-1調査 D区1632土坑出土遺物実測図(4)

た円形浮文を貼り付ける。口縁部内面には櫛描刺突文を施す。1119～1122は壺の頸部片である。いずれも頸部にヘラ压痕突帯をもつ。1123～1140・1144～1172は底部である。1123・1124・1129・1130・1133・1137・1152・1154・1157・1158・1163・1165・1169・1170は底部中央がわずかに窪む。1149は底部が突出し、外面に指頭圧痕が認められる。1166・1167・1170・1171は底部が外側に広がる。それ以外は平底を呈する。1124・1129・1133・1147・1148・1152～1155・1163・1165・1169・1172は外面にハケ、1125は外面にハケ・ケズリ、1131・1137・1167は外面にミガキ、1144は内外面にハケ、1166は内面にハケを施す。1128・1130・1132・1133・1136・1144・1147・1149・1152～1154・1156・1160は底面に木葉痕が認められる。1168は底面に円孔（直径1.5cm）を穿つ。1141～1143は甕である。口縁部形態はいずれもDである。1143は頸部から口縁部にかけて緩やかに広がる。内面にハケを施す。1173・1174・1179～1182は高杯である。1173・1174は共に脚柱部で、内面にシボリ痕が認められる。また、杯部と脚柱部の接合は円盤充填法を用いるが、1174は円盤が剥離する。1173は外面にミガキ、1174は外面にハケを施し、円形透かし孔を穿つ。壺端部形態は1180がA、1181がB、1179・1182がCである。1179は外面にハケを施し、内面にシボリ痕が認められる。円形透かし孔を4方向に穿つ。1181は外面にハケを施す。1175は台付鉢の台部である。外面にミガキ、ハケを施し、円形透かし孔を穿つ。1176～1178は鉢である。

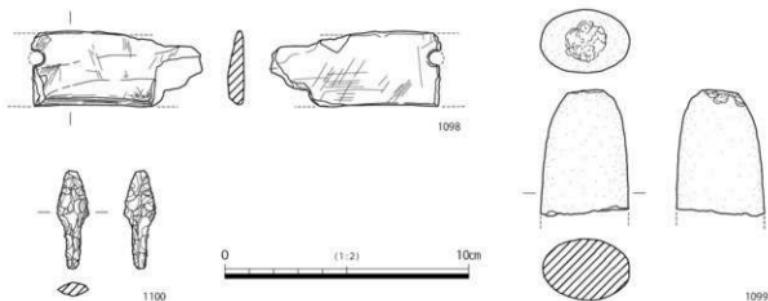


図197 2016-1調査 D区1632土坑出土遺物実測図(5)

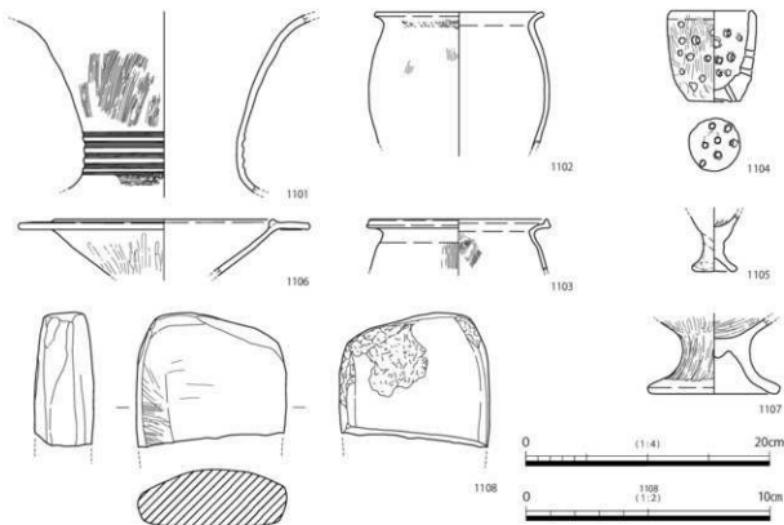


図198 2016-1調査 D区2210土坑出土遺物実測図

1176・1177の口縁部形態はBである。1176は口縁部下に突帯2条が巡る。1177は外面に凹線4条を施す。1178の口縁部形態はAである。外面にハケを施す。

1183はサヌカイトの石核である。一部に自然面が残る。長さ5.5cm、幅5.2cm、厚さ0.9cmを測り、重量46gを量る。

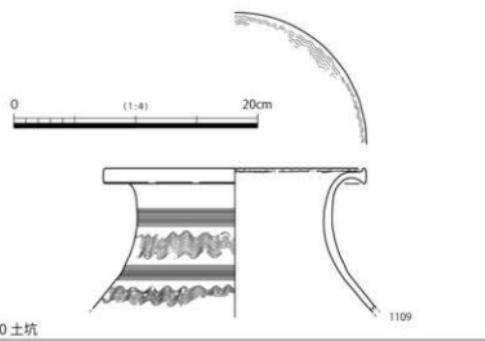
1184は不明土製品である。遺物の天地も不明である。外面に涙形の孔が上下二段に並ぶ。孔は貫通しているものも一部存在する。平坦ではなく、彎曲している。

288溝出土遺物(図203-1185~1205) 1185~1187は広口壺である。口縁部形態は1185がB、1186がA1、1187がFである。1185は端面に凹線を施す。1186は端面に刺突を施した後、凹線4条を施し、棒状浮文を貼り付けるが、磨滅のため凹線間に詰まった部分のみが残存し、円形浮文のように見える。1187は端面を指で押圧することにより、波状を呈する。1188は壺体部である。外面にハケ、櫛描

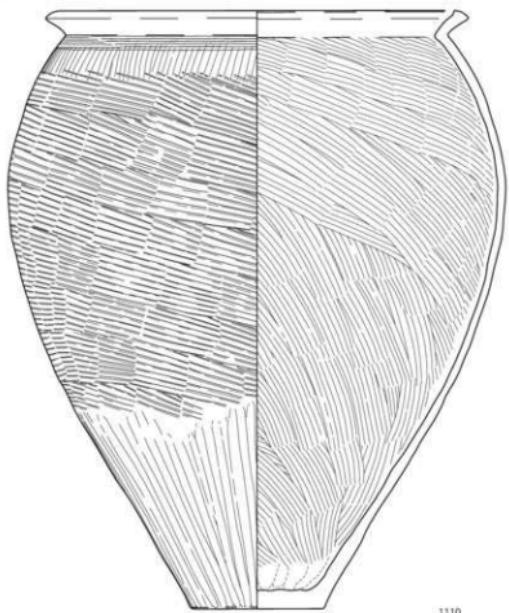
直線文を施す。1189は無頸壺である。口縁部は内傾し、端部上端は面を成す。口縁部下に円孔（直径0.8cm）二個を穿つ。1190～1203は底部である。1191・1193・1194・1196・1198・1199・1201・1202は底面がわずかに窪む。その他は平底を呈する。1196～1198・1200は外面にハケを施す。1190・1196・1197・1200は底面に木葉痕が認められる。1203は底面に円孔（直径1.0cm）を穿つ。1204・1205は高杯である。1204は中空の脚柱部で、内面にシボリ痕が認められる。1205の裾端部形態はBである。

607溝出土遺物（図204-1206～1220）1206・1208・1209は広口壺である。口縁部形態は1206・1208がF、1209がBである。1206は端面下端に押圧による刻目文を施す。1208は口縁部下に突起が認められる。1209は端面下端に刻目文を施す。1207は壺の肩部である。外面にハケ・ミガキ、内面にハケを施す。1210は甕である。口縁部形態はEである。1211～1219は底部である。1211・1212・1213・1215・1217・1218は底面がわずかに窪む。それ以外は平底を呈する。1211は外面にハケ・ミガキ、1212・1214～1216・1218は外面にハケ、1219は外面にミガキを施す。1211～1214・1216・1219は底面に木葉痕が認められる。

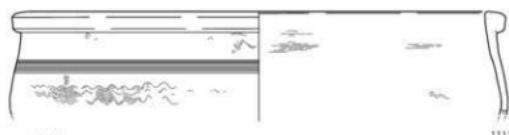
1220は磨製石包丁である。両面ともに擦痕が認められる。一方、紐孔は貫通していないが1箇所に



1410 土坑



1414 土器棺墓



1415 土坑

図199 2016-1調査 B区 1410・1415 土坑、1414 土器棺墓

出土遺物実測図

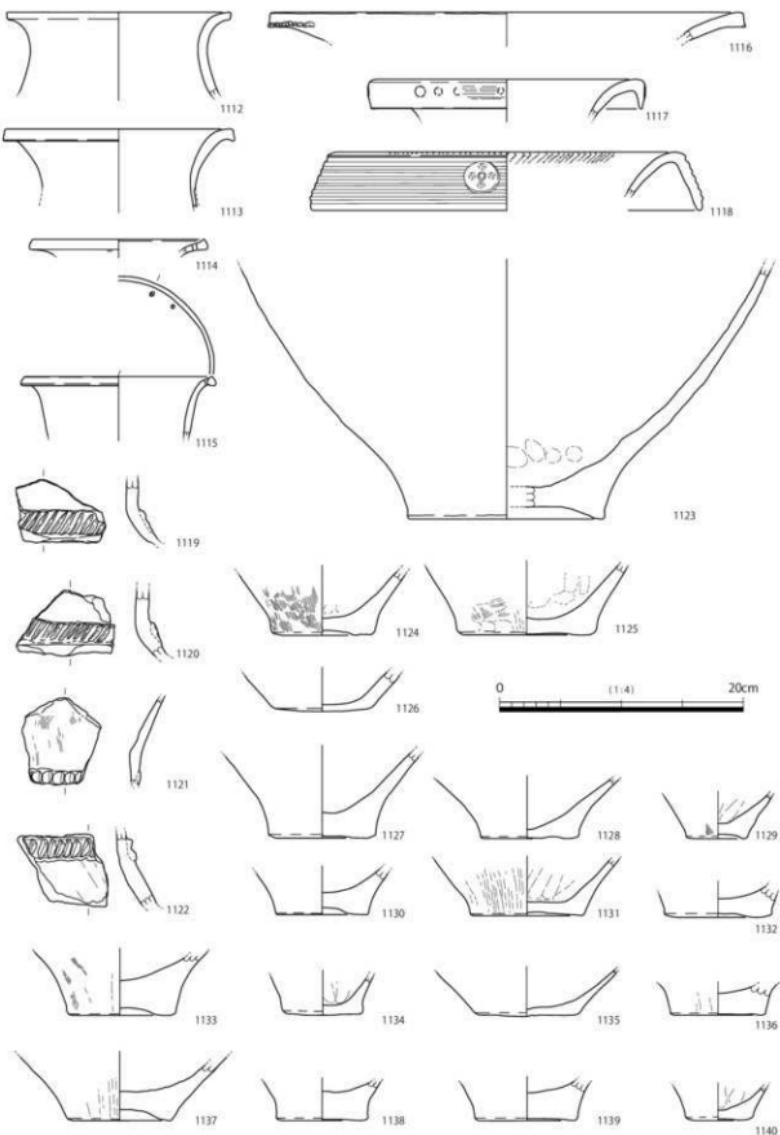


図 200 2016-1 調査 C区 287 溝出土遺物実測図 (1)

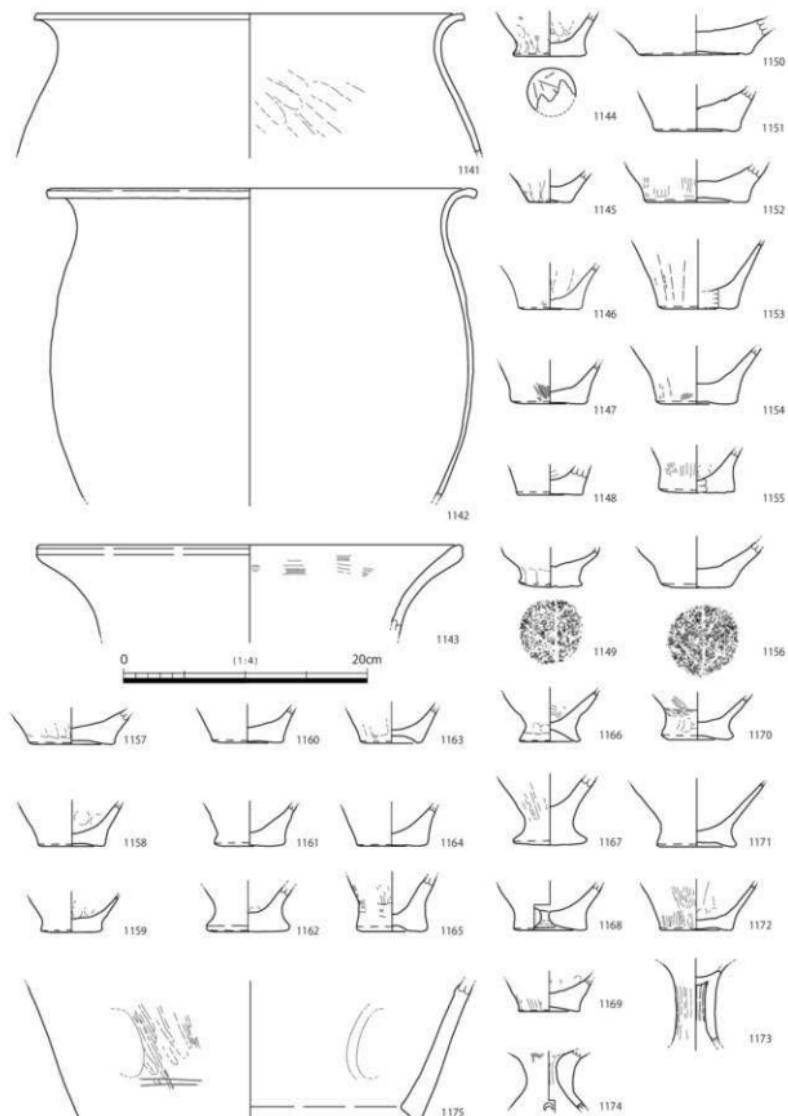


図 201 2016-1 調査 C 区 287 溝出土遺物実測図 (2)

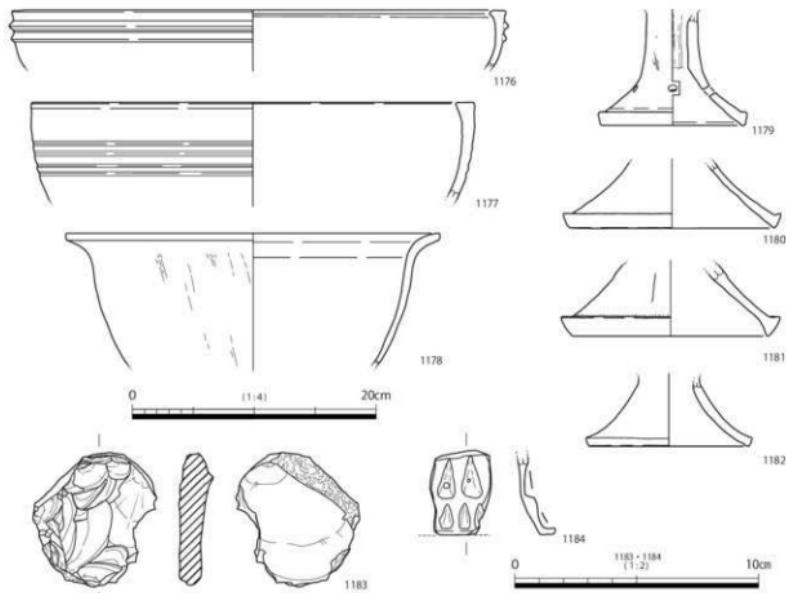


図202 2016-1調査 C区287溝出土遺物実測図(3)

窪みが認められる。未製品であろうか。長さ12.6cm、幅5.1cm、厚さ0.6cmを測り、重量67gを量る。平面形状は直線刃半月形を呈する。石材は粘板岩である。

880溝出土遺物(図205-1221~1236) 1221~1223は広口壺である。1221・1222の口縁部形態はFである。1221は内外面にミガキ、1222は外面に櫛描直線文、内面にハケを施す。1223は口縁部が欠損する。外面にハケ・櫛描直線文・櫛描扇形文、内面にミガキ・ハケを施す。1224は無頭壺である。口縁部は内彎し、端部は丸く收める。1225~1232は底部である。1227~1231は底面がわずかに窪む。1225・1228~1230は外面にハケ、1226は外面にミガキを施す。1225・1228・1229は底面に木葉痕が認められる。1233~1235は高杯である。裾端部形態は1235がA、1233がBである。1233は杯部と脚部の境に断面三角形状の突帯をもつ。脚部内面にシボリ痕が認められる。1234は「ハ」字状の高台をもつ。1235は端面に凹線3条を施し、内面にシボリ痕が認められる。

1236は台石である。長さ38.2cm、幅12.3cm、厚さ15.0cmを測り、重量8kgを量る。石材は砂岩である。

1444溝出土遺物(図206-1237~1248) 1237は細頸壺である。外面口縁部下に断面三角形状の突帯2条が巡る。外面に極浅い線刻を施す。1238は壺である。頸部外面に断面三角形状の突帯4条が巡る。最下段の突帯の下に凹線3条・櫛描波状文を施す。1239~1242は広口壺である。口縁部形態は1239がA1、1240・1241がBである。1239は端面に凹線3条を施し、円形浮文を貼り付け、頸部にヘラ圧痕突帯が巡る。口縁部内面に櫛描扇形文を施す。1240は端面に凹線3条、外面にハケを施す。1242は口縁部が欠損する。頸部にヘラ圧痕突帯が巡る。1243は甕である。口縁部形態はAである。内面にハケを施す。1244~1246は高杯である。1244の口縁部形態はBである。口縁部外面に凹線6条

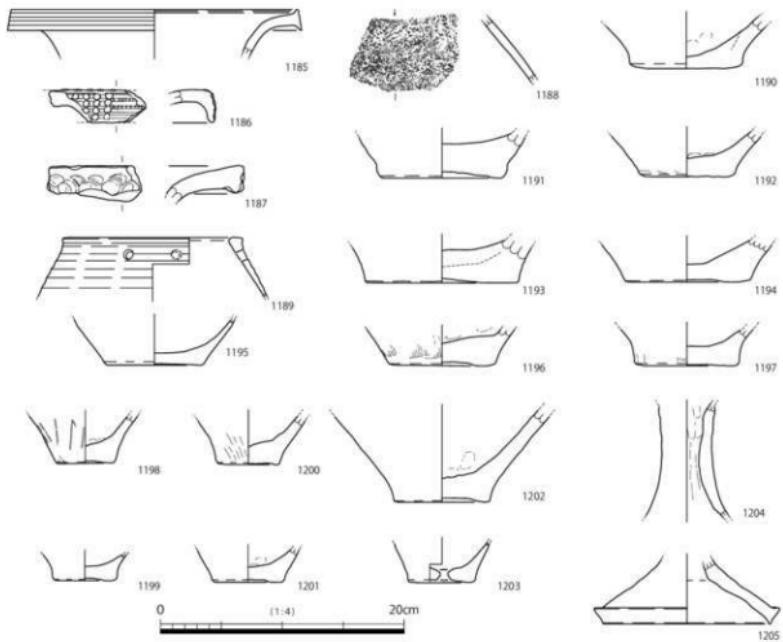


図203 2016-1調査 C区288溝出土遺物実測図

を施す。1245・1246の裾端部形態はAである。1245は杯部と脚部の接合に円盤充填法を用いる。

1247は打製石鏃である。刃部の先端部が残存する。残存長2.2cm、幅1.8cm、厚さ0.5cmを測り、重量2gを量る。刃部はおそらく直角三角形を呈すると思われる。石材はサヌカイトである。

1248は磨製石包丁である。両面に擦痕が認められる。細孔2個（直径1.4～1.6cm）を穿つ。長さ13.1cm、幅4.6cm、厚さ0.8cmを測り、重量69gを量る。石材は緑泥片岩である。

1320方形周溝墓出土遺物（図207・208-1249～1287） 1249～1255は広口壺である。口縁部形態は1249・1252・1253がC、1250がB、1251がA Iである。1249は口縁部の内側に円孔（直径0.4cm）を穿つ。1250は端面に凹線3条を施す。1251は端面に凹線3条、口縁内面に櫛描列点文を施す。1254は頸部に指頭圧痕痕帯が巡り、内外面にハケを施す。1255は頸部に突帯3条が巡る。1256・1257は壺体部である。1256は櫛描直線文・櫛描波状文を交互に施す。下半に煤が付着する。1257は櫛描波状文・凹線3条を施す。1259は無頭壺である。口縁部は丸く收める。外面に櫛描波状文を施す。1258・1272・1273は甕である。1258は外面にハケ・櫛描列点文を施す。外面に煤が付着する。1272・1273の口縁部形態はともにAである。1273は内外面にハケを施す。また口縁下に煤が付着する。1260～1271は底部である。いずれも平底を呈する。1261・1264～1266・1268・1270は外面にハケ、1267は内外面にハケ、1271は外面にミガキ、内面にハケを施す。1261・1264・1266・1270は底面に木葉痕が認められる。1268は外面に煤が付着する。1274～1282は高杯である。1274は口縁部が杯底部から屈曲して直立する口縁部をもつ。内外面にミガキを施す。1275の口縁部形態はA 2である。外面にミガキ、内面にハケ・ミガキを施す。口縁部と杯部の境に突帯が巡る。

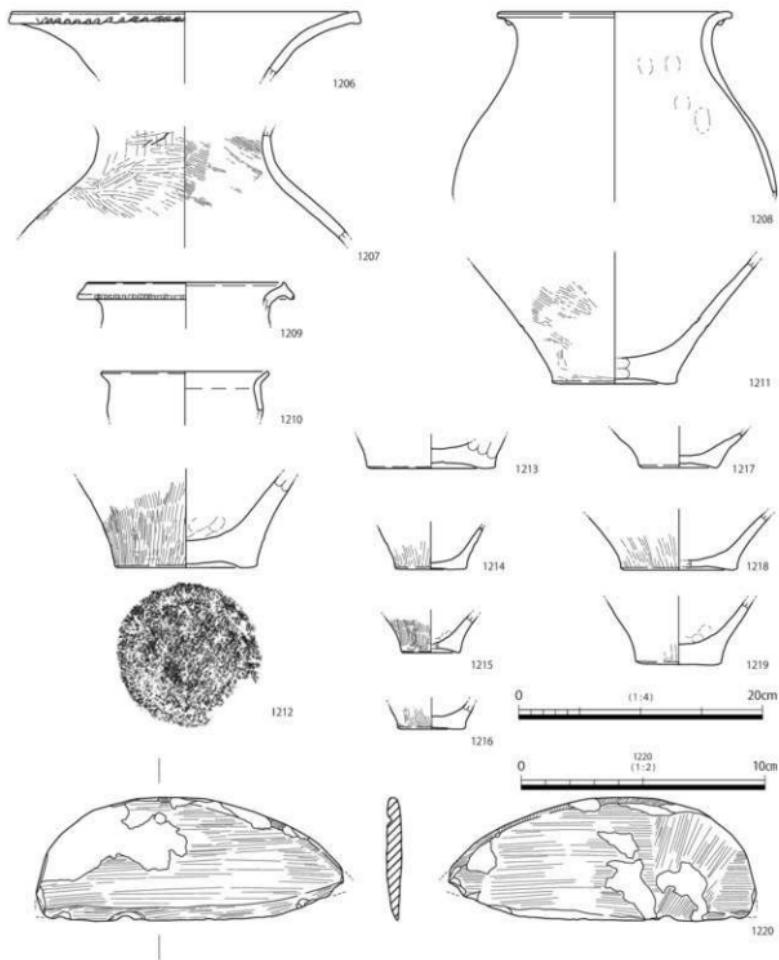


図204 2016-1調査 C・D区 607溝出土遺物実測図

1276は楕状の杯部をもつ。外面にハケ・ケズリを施し、脚柱部内面にシボリ痕が認められる。1277は内外面にケズリを施す。脚柱部内面にシボリ痕が認められる。1278の口縁部形態はBである。杯部外面にミガキ・凹線1条、脚柱部外面にミガキ・凹線（上側は6条、下側は5条）を施す。脚柱部内面にシボリ痕が認められる。1279の裾端部形態はBである。脚柱部外面に上から、沈線6条、刺突文、沈線17条、「×」状に交差する刺突文、沈線1条を施し、裾部外面にミガキ、円形透かし孔を挟んで沈線4条ずつ、裾部内面にケズリを施す。脚柱部内面にシボリ痕が認められる。円形透かし孔は4方向に穿つ。1280・1281の裾端部形態はAである。共に円形透かし孔を穿つ。1282の裾端部形態はCである。

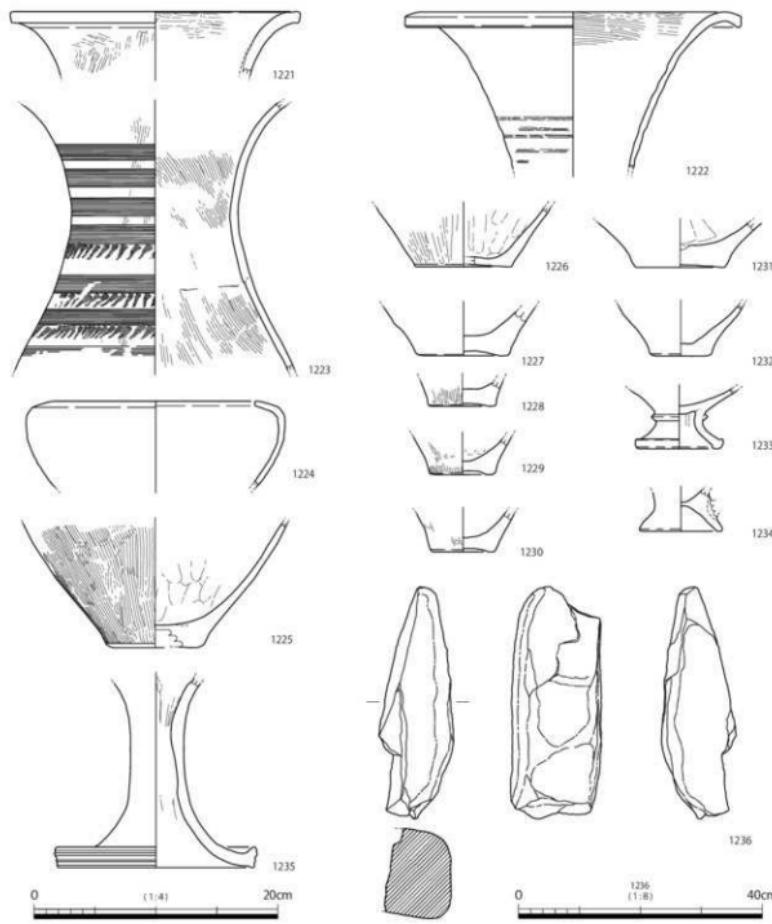


図 205 2016-1 調査 C・D 区 880 溝出土遺物実測図

ある。杯部と脚部の境に凹線 3 条、脚部内面にケズリを施す。また、シボリ痕が認められる。1283は鉢である。1283は楕形を呈し、口縁部形態は B であり、端部を丸く收める。体部下半は粘土接合部分で剥離する。外面に櫛描列点文・凹線 3 条を施す。1284は器台である。外面に凹線 3 条を施す。鉢の口縁部となる可能性もある。1285は把手である。断面が扁平な四角形状を呈する。水差の把手であろう。1286は平底の底部である。底径が 2.1cm と非常に小さいので、ミニチュア土器の底部となる可能性もある。

1287 はサヌカイトの剥片である。長さ 4.3cm、幅 1.85cm、厚さ 0.45cm を測り、重量 3 g を量る。  
406 土器棺墓出土遺物（図 209-1288・1289） 1288 は高杯である。土器棺の蓋として用いられていた

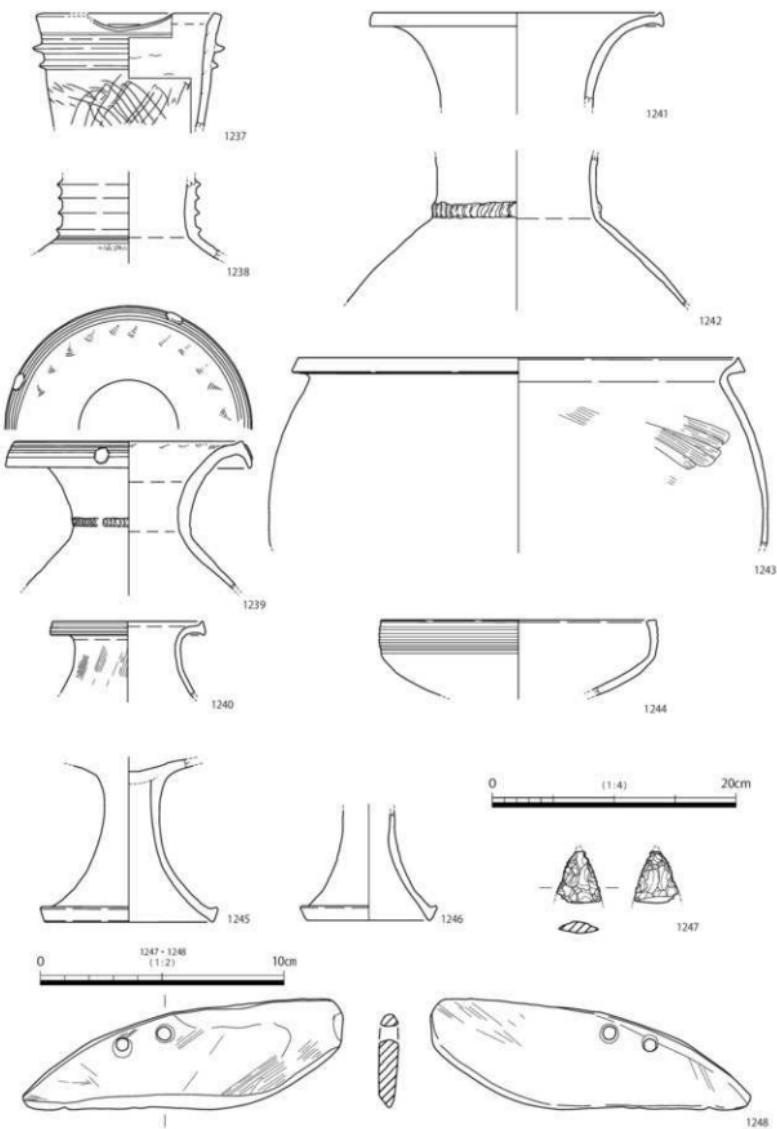


図206 2016-1調査 B区1444溝出土遺物実測図

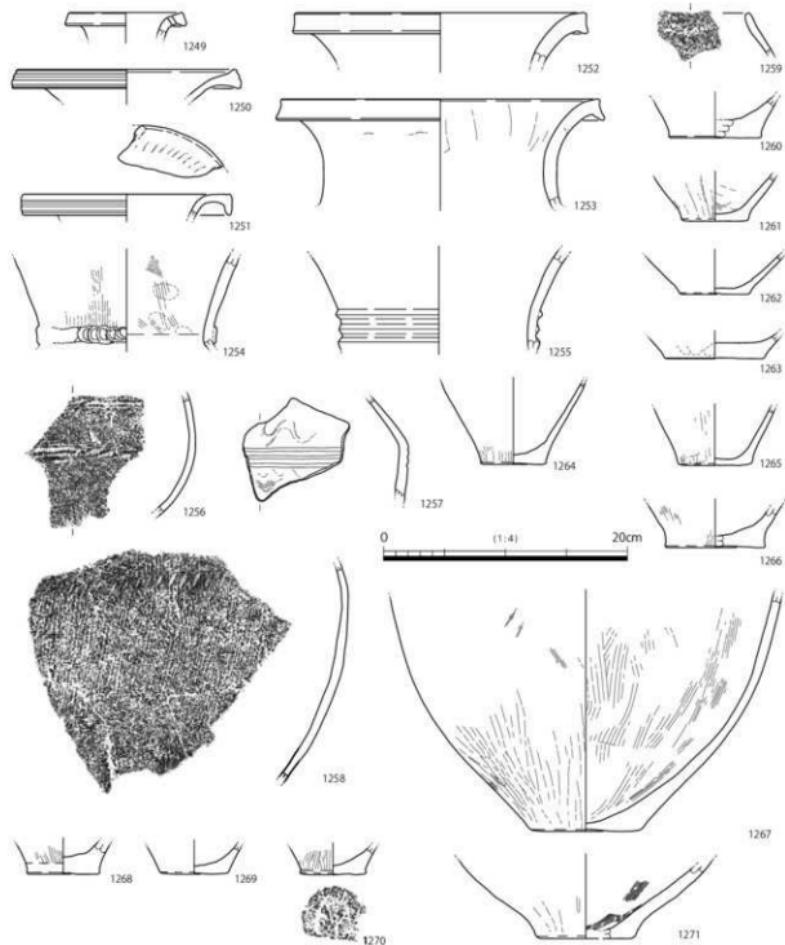


図 207 2016-1 調査 C 区 1320 方形周溝墓出土遺物実測図 (1)

ものである。口縁部形態は B である。内外面にミガキ、外面に凹線 8 条を施す。円盤充填法によって杯部と脚柱部を接合する。1289は広口壺である。土器棺の身として用いられていたものである。口縁部形態は B である。端面に凹線 3 条を施す。外面に櫛描直線文・櫛描波状文を交互に施し、体部下半にミガキ、内面にハケを施す。底部は平底を呈する。体部下半に打ち欠きによる穿孔が認められる。

1036土器棺墓出土遺物(図209-1290・1291) 1290は底部である。土器棺の蓋として用いられていたものである。平底を呈する。外面にハケ・ミガキ、内面にハケを施す。1291は広口壺である。土器棺の身として用いられていたものである。口縁部形態は B である。端面および口縁部内面に櫛描波状

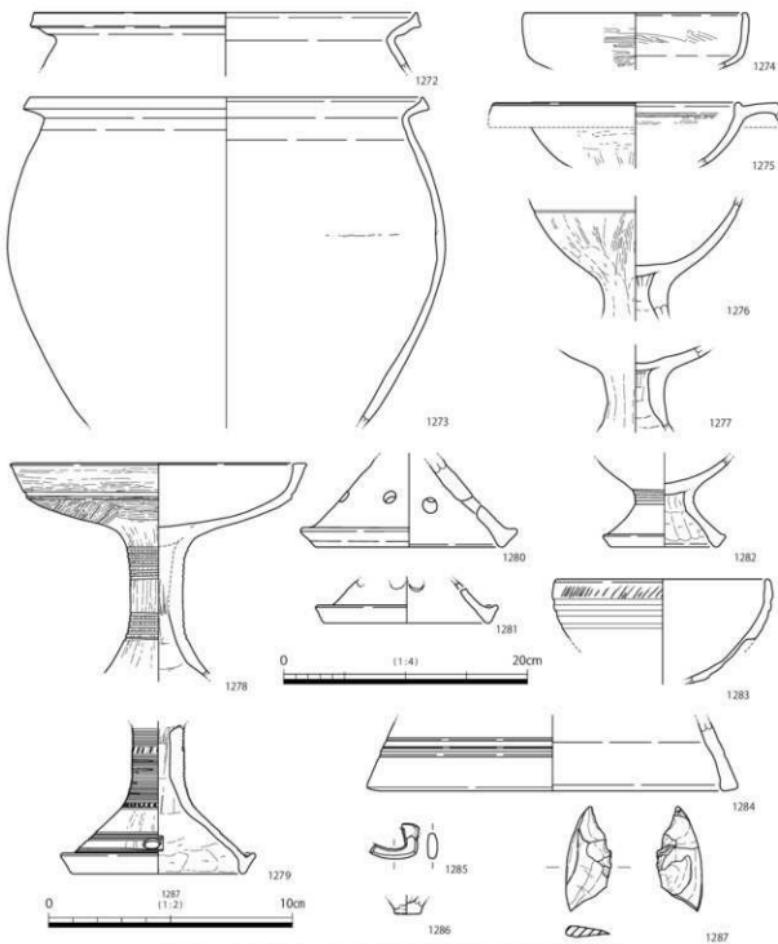


図208 2016-1調査 C区1320方形周溝墓出土遺物実測図(2)

文、外面にハケ後、櫛描直線文・櫛描波状文を交互に施し、体部下半にミガキ、内面にハケを施す。底部は平底を呈する。

#### 1325 穫穴建物範囲内遺構出土遺物(図210-1292~1297)

1325 穫穴建物に伴う遺構とは断定できないが、周壁溝の内側で検出した遺構からの出土遺物を集成し、本項で一括して報告する。

729ピット出土遺物(図210-1292・1293) 1292・1293は広口壺である。1292の口縁部形態はA.1である。端面に刺突文・凹線3条を施し、円形浮文を貼り付ける。口縁部内面に櫛描波状文を施す。1293は頸部片である。頸部に断面三角形状の突帯2条が巡る。

- 714ピット出土遺物（図210-1294） 1294は底面が平底を呈する底部である。内外面にハケを施す。
- 735土坑出土遺物（図210-1295） 1295は底面が平底を呈する底部である。外面にハケを施す。
- 725土坑出土遺物（図210-1296・1297） 1296・1297は広口壺である。口縁部形態は共にA Iである。1296は端面に凹線6条を施し、円形浮文を貼り付ける。頸部外面にミガキ・櫛描波状文・櫛描直線文、口縁部内面に櫛描列点文・ミガキを施す。1297は端面に凹線3条を施し、円形浮文を貼り付ける。頸部外面にハケ、口縁部内面に櫛描扇形文・ハケを施す。外面に煤が付着する。
- 990ピット出土遺物（図211-1298） 1298は広口壺である。口縁部形態はCである。
- 112ピット出土遺物（図211-1299） 1299は鉢である。口縁部形態はCである。端面に凹線3条、内外面にミガキを施す。
- 188ピット出土遺物（図211-1300） 1300は広口壺である。口縁部形態はHである。端面に櫛描列点文・凹線1条を施し、円形浮文を貼り付ける。
- 491ピット出土遺物（図211-1301） 1301は甕である。口縁部形態はAである。
- 118ピット出土遺物（図211-1302） 1302は広口壺である。口縁部形態はCである。頸部にヘラ圧痕突帯が巡る。
- 478ピット出土遺物（図211-1303） 1303は無頸壺である。口縁端部は内彎する。外面に凹線3条を施す。口縁部下に円孔（直径0.4cm）を穿つ。
- 9ピット出土遺物（図211-1304） 1304は壺である。底部は平底を呈する。体部中程に最大径をもつ。内外面にヘラナデを施す。
- 229ピット出土遺物（図211-1305） 1305は高台状を呈する底部である。内外面にハケを施す。
- 364ピット出土遺物（図211-1306） 1306は平底を呈する底部である。
- 420ピット出土遺物（図211-1308） 1308は平底を呈する底部である。
- 422ピット出土遺物（図211-1307） 1307は平底を呈する底部である。
- 527ピット出土遺物（図211-1309） 1309は平底を呈する底部である。
- 816ピット出土遺物（図211-1310・1311） 1310・1311は高杯である。1310は杯底部である。外面にミガキ・ヘラ描直線文、内面にミガキを施す。杯底部と脚柱部の接合は円盤充填法を施す。1311は脚裾部である。裾端部形態はDである。円形透かし孔（直径0.7cm）を2段穿つ。一部裏側まで貫通していないものもある。
- 512ピット出土遺物（図211-1312・1313） 1312・1313は共に平底を呈する底部である。
- 759ピット出土遺物（図211-1314） 1314は壺体部である。内外面にハケ、外面に斜格子文を施す。
- 174ピット出土遺物（図211-1315） 1315はサヌカイトの剥片である。一部に原石の自然面が残存する。長さ3.9cm、幅4.5cm、厚さ1.05cmを測り、重量27gを量る。
- 352ピット出土遺物（図211-1316） 1316はサヌカイトの剥片である。長さ6.2cm、幅6.1cm、厚さ1.4cmを測り、重量31gを量る。
- 907ピット出土遺物（図211-1317） 1317はサヌカイトの剥片である。長さ6.3cm、幅2.6cm、厚さ0.8cmを測り、重量8gを量る。
- 128溝出土遺物（図212-1318～1325） 1318は甕である。口縁部形態はBである。1319・1320は高杯である。1319の裾端部形態はCである。外面にハケ・ミガキ、内面にヘラケズリを施す。脚柱部は中実である。1320は中空の脚柱部である。内面にシボリ痕が認められる。1321～1325は平底を呈する底部である。1321は外面にハケ、1322は内外面にハケ、1324は外面にミガキを施す。1321～1323・1325は底面に木葉痕が認められる。
- 126溝出土遺物（図212-1326・1327） 1326は広口壺である。口縁端部は欠損している。1327は平底

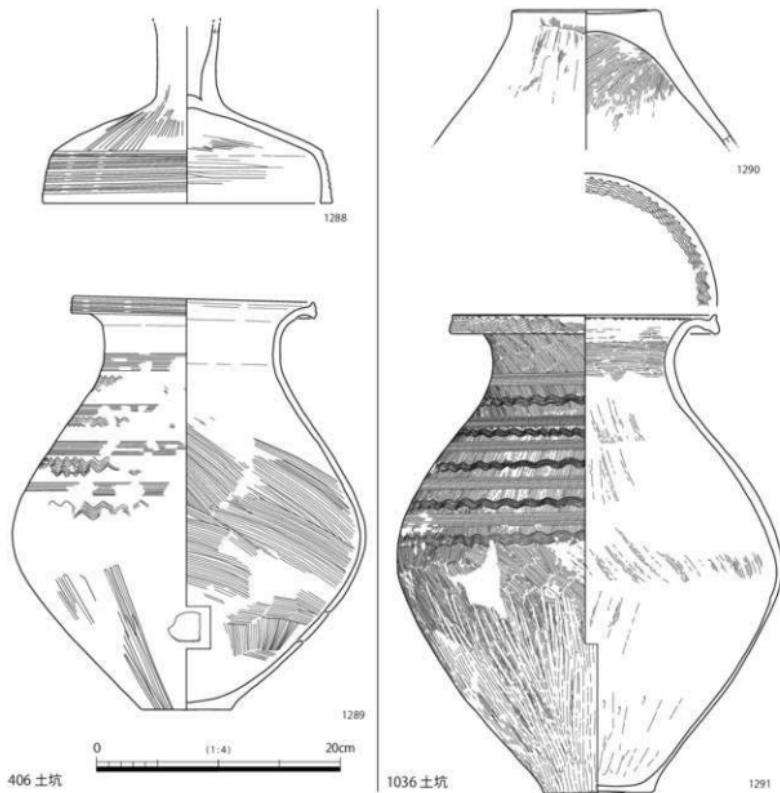


図209 2016-1調査 C区406・1036土器棺墓出土遺物実測図

を呈する底部である。外面にハケを施す。

470溝出土遺物（図212-1328～1330） 1328は壺である。口縁部形態はCである。1329は平底を呈する底部である。

1330は二次加工のある剥片である。縦長の剥片に刃部を形成する。長さ6.0cm、幅2.45cm、厚さ1.2cmを測り、重量11gを量る。石材はサヌカイトである。

471溝出土遺物（図212-1331～1334） 1331・1332は平底を呈する底部である。

1333は打製石鎌である。長さ4.55cm、幅1.25cm、厚さ0.45cmを測り、重量2gを量る。非常に細長い形態であるが、刃部は長三角形を呈し、基部は凸基式である。石材はサヌカイトである。

1334は不明石製品である。四角形を3つ積み上げたような形状で、全体としては四角錐状を呈する。長さ6.6cm、幅5.1cm、厚さ5.0cmを測り、重量160gを量る。栓のように用いたものであろうか。石材は砂岩である。

534溝出土遺物（図212-1335～1337） 1335は広口壺である。口縁部形態はA1である。端面および

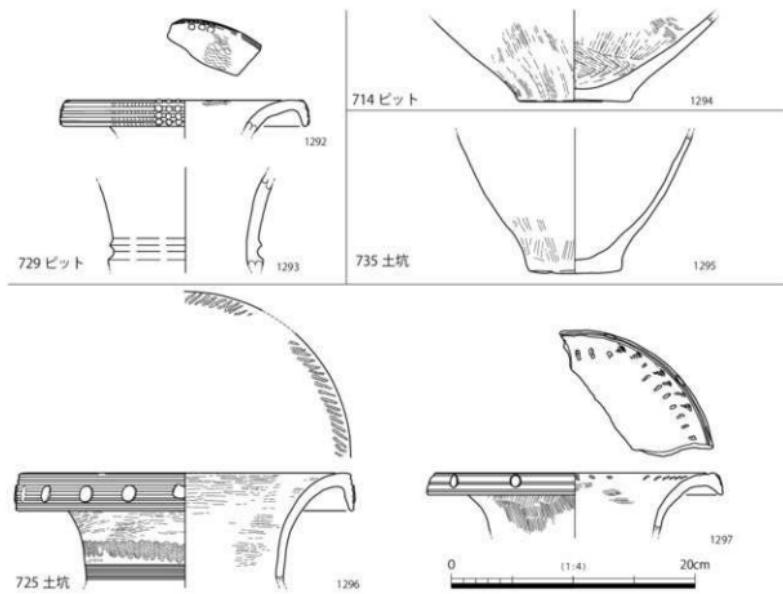


図210 2016-1調査 C区1325竪穴建物範囲内遺構出土遺物実測図

口縁部内面に櫛描波状文を施し、それぞれ波状文の上に円形浮文を貼り付ける。1336は平底を呈する底部である。

1337はサヌカイトの剥片である。一部に原石の自然面が残る。長さ3.85cm、幅4.1cm、厚さ0.75cmを測り、重量11gを量る。

428溝出土遺物（図212-1338） 1338は壺ないし器台である。外面に凹線6条・刺突文を施す。

256溝出土遺物（図212-1339） 1339は平底を呈する底部である。

556溝出土遺物（図212-1340） 1340は平底を呈する底部である。外面に工具痕、底面に木葉痕が認められる。

44土坑出土遺物（図213-1341） 1341は底部である。体部が内湾しながら立ち上がる。底部は平底を呈する。内面中央が窪んでいるのは粘土が剥離しているためである。

209土坑出土遺物（図213-1342・1343） 1342は高杯である。杯部と脚柱部の接合は円盤充填法を用いる。外面にミガキを施し、内面にシボリ痕が認められる。

1343はサヌカイトの剥片である。長さ3.85cm、幅4.1cm、厚さ0.75cmを測り、重量18gを量る。

409土坑出土遺物（図213-1344） 1344は平底を呈する底部である。外面にヘラナデを施す。

410土坑出土遺物（図213-1345～1347） 1345は平底を呈する底部である。外面にハケを施す。1346は高杯である。裾端部形態はCである。

1347は砥石である。残存状況はかなり悪いが、2面に使用痕が認められる。本来は四角形状を呈していたと考えられる。残存長5.2cm、残存幅2.9cm、残存厚さ6.2cmを測り、重量21gを量る。石材は砂岩である。

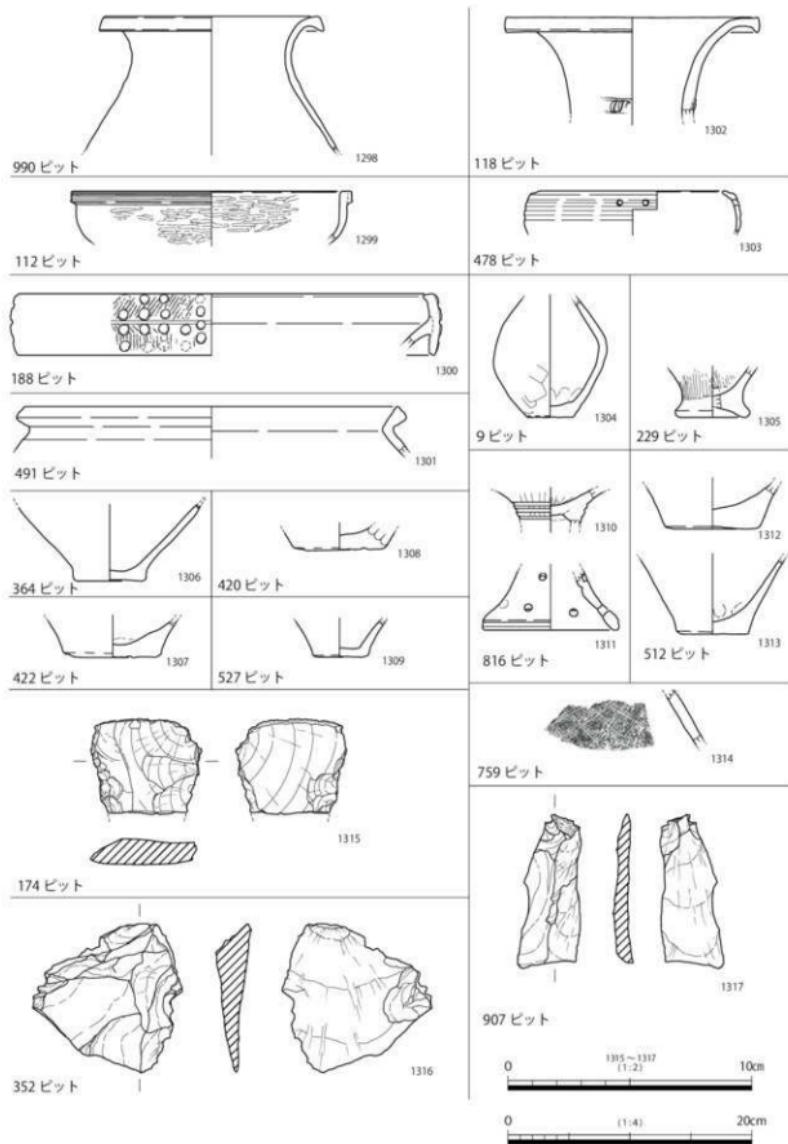


図 211 2016-1 調査 C区ピット出土遺物実測図

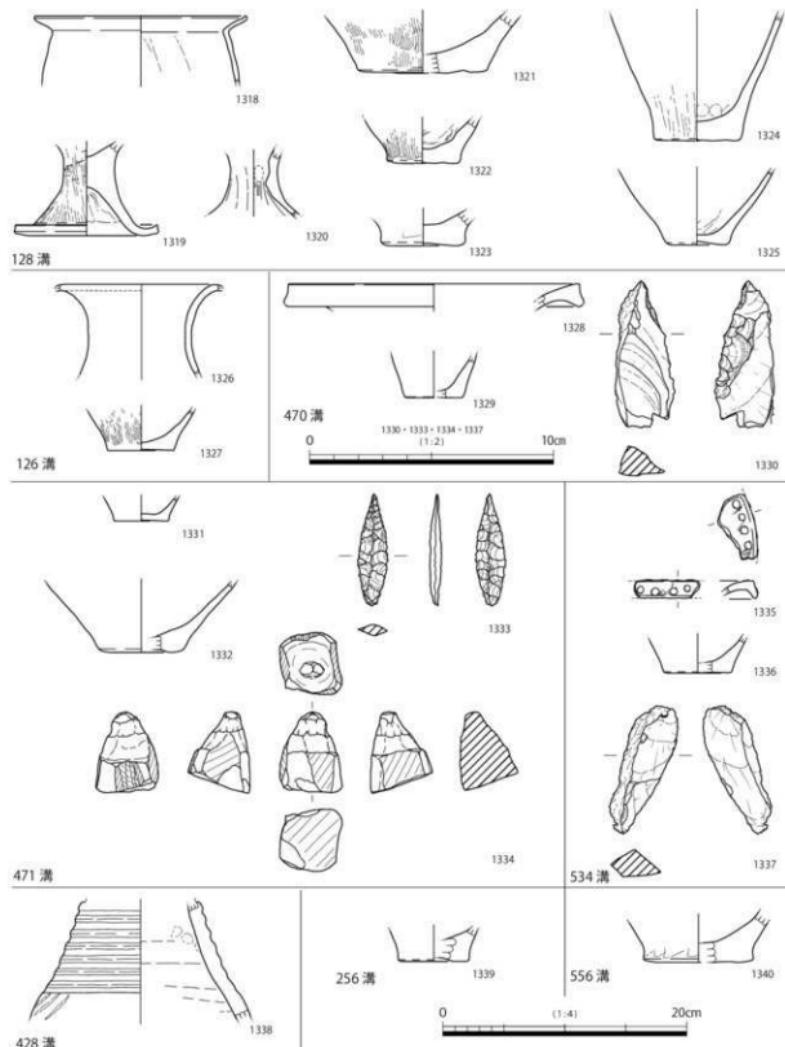


図 212 2016-1 調査 C 区溝出土遺物実測図

473土坑出土遺物（図213-1348～1350） 1348～1350は底部である。1348・1350は底部中央がわざかに窪む。1349は平底を呈する。1348は外面にハケ・ミガキ、1350は外面にハケを施す。1348は底面に木葉痕が認められる。

544土坑出土遺物（図213-1351・1352） 1351・1352は底部である。1351は平底を呈し、1352は底

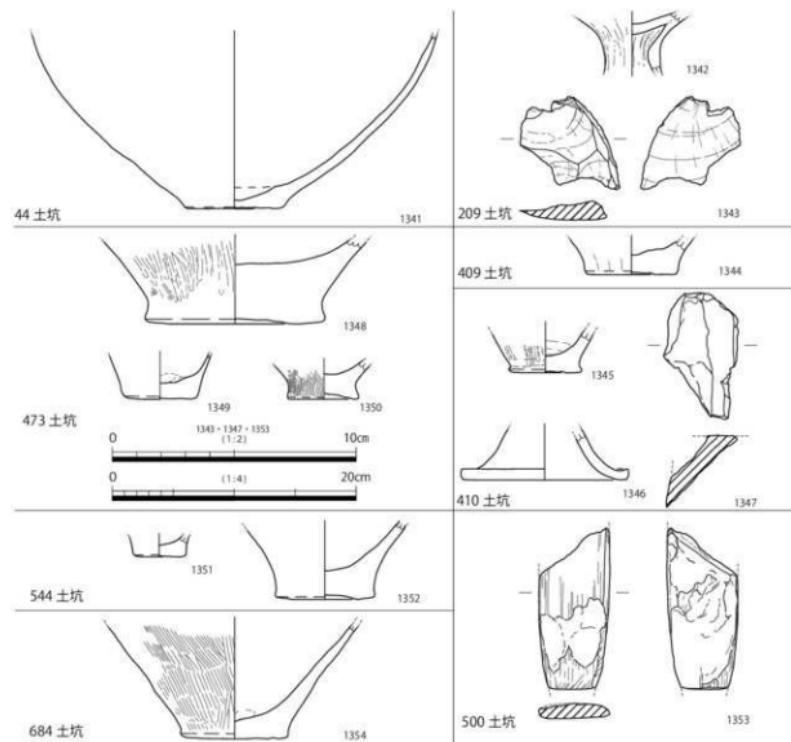


図213 2016-1調査 C区土坑出土遺物実測図

部中央がわずかに窪む。

500土坑出土遺物（図213-1353） 1353は磨製石剣である。基部は無茎と判断される。鎌は認められない。残存長6.65cm、幅2.9cm、厚さ0.6cmを測り、重量16gを量る。石材は粘板岩である。

684土坑出土遺物（図213-1354） 1354は平底を呈する底部である。外面にハケを施す。底面に木葉痕が認められる。

933土坑出土遺物（図214-1355～1357） 1355は広口壺である。口縁部形態はFである。端面及び外面に櫛描波状文を施す。1356は平底を呈する底部である。

1357はサヌカイトの片である。長さ4.5cm、幅3.0cm、厚さ0.85cmを測り、重量6gを量る。

800土坑出土遺物（図214-1358・1359） 1358は甕である。口縁部形態はEである。外面にハケを施す。1359は平底を呈する底部である。外面にハケを施す。

2050溝出土遺物（図214-1360・1361） 1360は広口壺である。口縁部形態はFである。1361は甕である。口縁部形態はDである。外面にハケを施す。

660溝出土遺物（図214-1362） 1362は壺体部である。外面に櫛描波状文・斜格子文を施す。

1390溝出土遺物（図214-1363） 1363は打製石錐である。残存長2.25cm、幅1.6cm、厚さ0.4cmを測

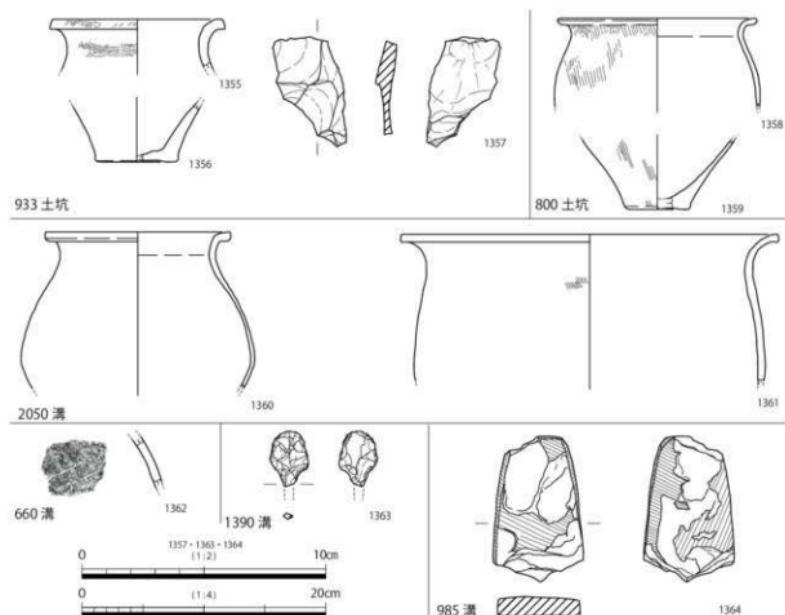


図 214 2016-1 調査 C 区土坑・溝、D 区溝出土遺物実測図

り、重量 2 g を量る。頭部と錐部の境が明瞭で、錐部が細長いものである。ただし、錐部は欠損する。石材はサヌカイトである。

985 溝出土遺物（図214-1364） 1364は磨製石器の扁平片刃石斧である。基部が残存する。表面および裏面は剥離している部分が多く認められる。側面は極めて平滑である。残存長 6.0cm、残存幅 3.75cm、厚さ 0.85cm を測り、重量 28 g を量る。石材は粘板岩である。

#### 古墳時代の遺構

1321 堀立柱建物（485 ピット）出土遺物（図215-1365） 1365は多孔土器である。底部の残存状況は悪いが、平底を呈すると思われる。また、残存状況の影響で底部の状態は不明であるが、体部には多数の穿孔を穿つ。内面に付着物は認められない。おそらく 2210 土坑出土の 1102（図196）と同様の形態であると考えられる。

1243 堀立柱建物（1862 ピット）出土遺物（図215-1366） 1366は鉢である。口縁部形態は B である。外面口縁部下に四線 8 条を施す。

1322 堀立柱建物（547 ピット）出土遺物（図215-1367） 1367は磨製石鎌である。長さ 4.45cm、幅 2.2cm、厚さ 0.35cm を測り、重量 3 g を量る。刃部は長三角形を呈し、基部は凹基式である。石材は片岩か。

2200 土坑出土遺物（図216-1368～1370） 1368は土師器壺である。底部は丸底である。内外面にミガキを施す。1369は須恵器杯身である。受け部は短く水平に延び、たちあがりは内傾して延びる。TK 43 型式であろう。1370は須恵器蓋である。球形の体部をもつ。体部に円孔（直径 1.4cm）を穿ち、

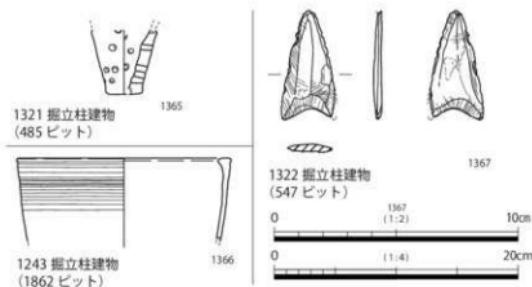


図215 2016-1調査 C・D区掘立柱建物出土遺物実測図

円孔の上下に沈線（上側2条、下側1条）、沈線の間に刺突文を施す。頸部にカキメ、底部に回転ヘラケズリを施す。

588溝出土遺物（図216-1371～1375） 1371は弥生土器底部である。平底を呈する。1372は須恵器杯蓋である。天井部と口縁部の境でわずかに屈曲する。1373は須恵器縹である。口縁部は肥厚して丸く収める。外面にタタキ・カキメを施し、内面に同心円当て具痕が認められる。頸部に「ハ」字形のヘラによる線刻が認められる。

1374はサヌカイトの剥片である。長さ8.35cm、幅5.55cm、厚さ0.85cmを測り、重量54gを量る。1375は打製石鎌である。長さ4.9cm、幅2.1cm、厚さ0.85cmを測り、重量6gを量る。刃部は長三角形を呈し、基部は凸基式である。石材はサヌカイトである。

697土坑出土遺物（図216-1376～1378） 1376は須恵器杯蓋である。天井部からなだらかに口縁部が延びる。口縁部は内傾して面をなす。1377・1378は杯身である。共に受け部はやや斜め上方に伸び、たちあがりは内傾して伸びる。1378は残存状況が悪いが、底面に線刻が認められる。1376～1378はTK10型式MT85号窯段階～TK43型式であろう。

#### 中世の遺構

1360溝出土遺物（図216-1379・1380） 1379は白磁碗である。体部片のため時期は不明である。

1380は打製石槍である。切っ先部分が残存する。残存長3.5cm、幅2.3cm、厚さ0.9cmを測り、重量8gを量る。石材はサヌカイトである。

包含層出土遺物（図217～227-1381～1569） 包含層出土遺物の内、弥生時代の遺物については図示した量が多いことから、B～D区に分けて図示している。

一方、古墳時代の遺物については量が限られているため、一括して図示した。古代の遺物については、須恵器蓋（図227-1568）と綠釉陶器（図227-1569）各1点ずつの図示に留まった。また中世の遺物は小片であったため、図示することができなかった。

B区包含層出土遺物（図217～219-1381～1419） 1381は広口壺である。口縁部形態はCである。端面上端に刺突文、下端に押圧による刻目文、頸部に櫛描直線文を施す。1382は細頸壺である。口縁部は内巻し端部は面を成す。外面に凹線（上下6条ずつ）、櫛描列点文を施し、口縁部直下に円形浮文を貼り付ける。1383～1394は広口壺である。口縁部形態は1389・1390がA1、1388がA2、1391～1394がB、1383・1387がC、1384がD、1386がE1、1385がFである。1383は端面下端に刻目文を施す。1384・1386は頸部に指頭圧痕突帯を巡らす。1385は端面下端に刻目文、外面に櫛描直線文、内面にハケを施す。1387は端面に凹線3条を施し、円形浮文を貼り付ける。1388は端面に凹線5

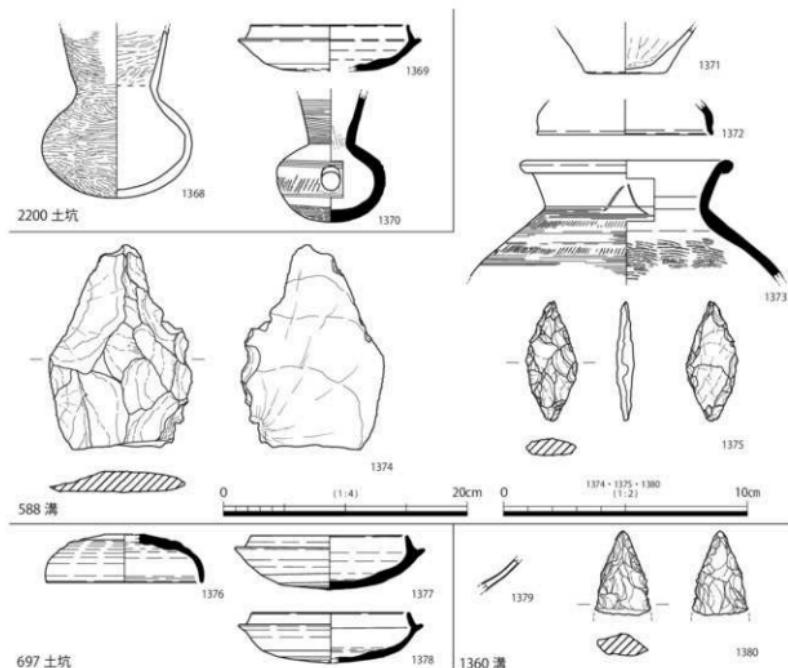


図 216 2016-1 調査 B区1360溝、C区588溝・697土坑、D区2200土坑出土遺物実測図

条を施し、縦方向に粒の小さな円形浮文5個を一組とする列を8列並べる。口縁部内面に櫛描扇形文を施す。1389は端面に凹線3条を施し、円形浮文を貼り付ける。頸部に凹線4条、口縁部内面に櫛描列点文を施す。1390は端面に凹線6条を施し、円形浮文を貼り付ける。頸部に凹線2条を施す。1391は端面に凹線3条、頸部に櫛描波状文、口縁部内面に櫛描列点文を施す。1393は端面に凹線3条を施す。1395～1400は甕である。口縁部形態は1395がA、1396がB、1397～1400がDである。1396は頸部にヘラ压痕突帯が巡る。1398は体部外表面および口縁部内面にハケ、1399は外面上にハケ・板ナデを施す。1401～1407は高杯である。1401は杯部と脚柱部の境に凹線を施す。杯部と脚柱部との接合部は円盤充填法を用いるが、円盤は剥落している。脚柱部内面にシボリ痕が認められる。1402は「ハ」字状を呈する脚裾部をもつ。裾端部形態はDである。外面上にハケを施す。端部に煤が付着する。1403は中実の脚柱部をもつ。裾端部形態はDである。1404の裾端部形態はCである。縦方向に円孔（直径0.4cm）を4つ列状に並べたものが3列残存する。1405の裾端部形態はCである。外面上に凹線を施す。円孔（直径1.1cm）を上下2列に穿つ。1406は杯部と脚柱部の接合部は円盤充填法を施す。1407の裾端部形態はCである。脚柱部は中空であるが、上下とも粘土で塞いでいる。1408～1410は水差である。いずれも把手部分である。

1411～1413は打製石器である。石材はいずれもサヌカイトである。1411・1412は石鎌である。1411は残存長3.45cm、幅1.65cm、厚さ0.45cmを測り、重量2gを量る。基部を欠くが、比較的細

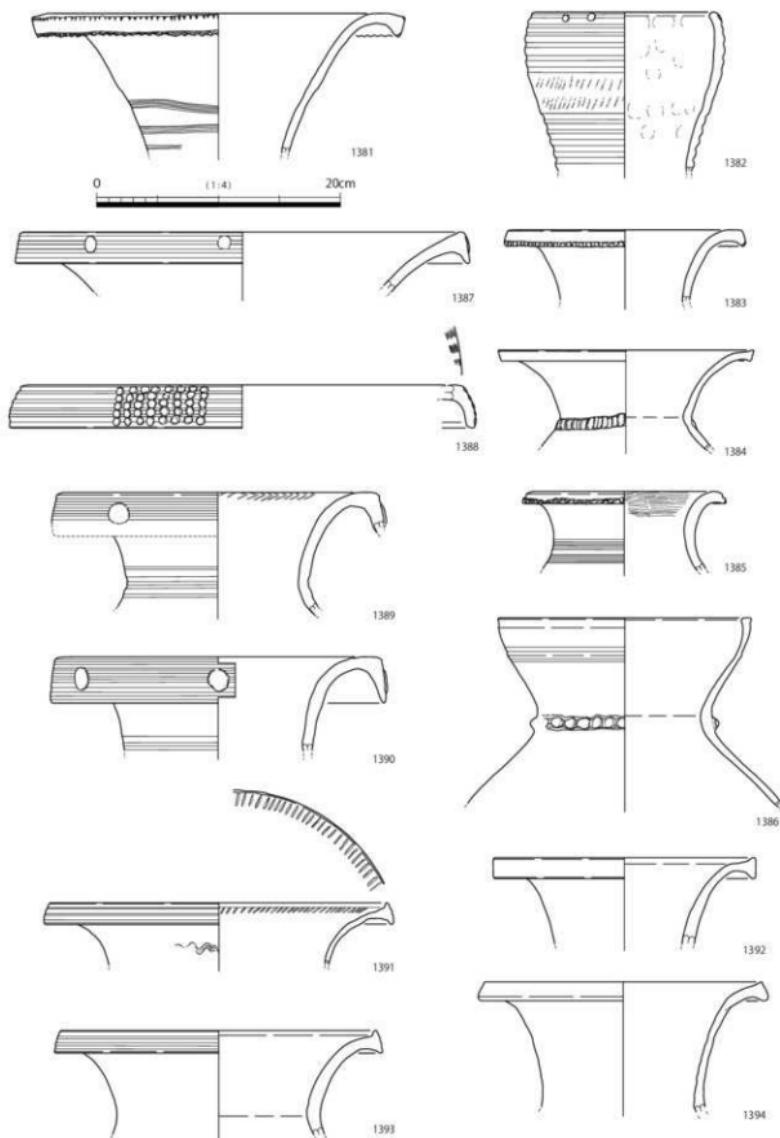


図 217 2016-1 調査 B 区包含層出土遺物実測図 (1)

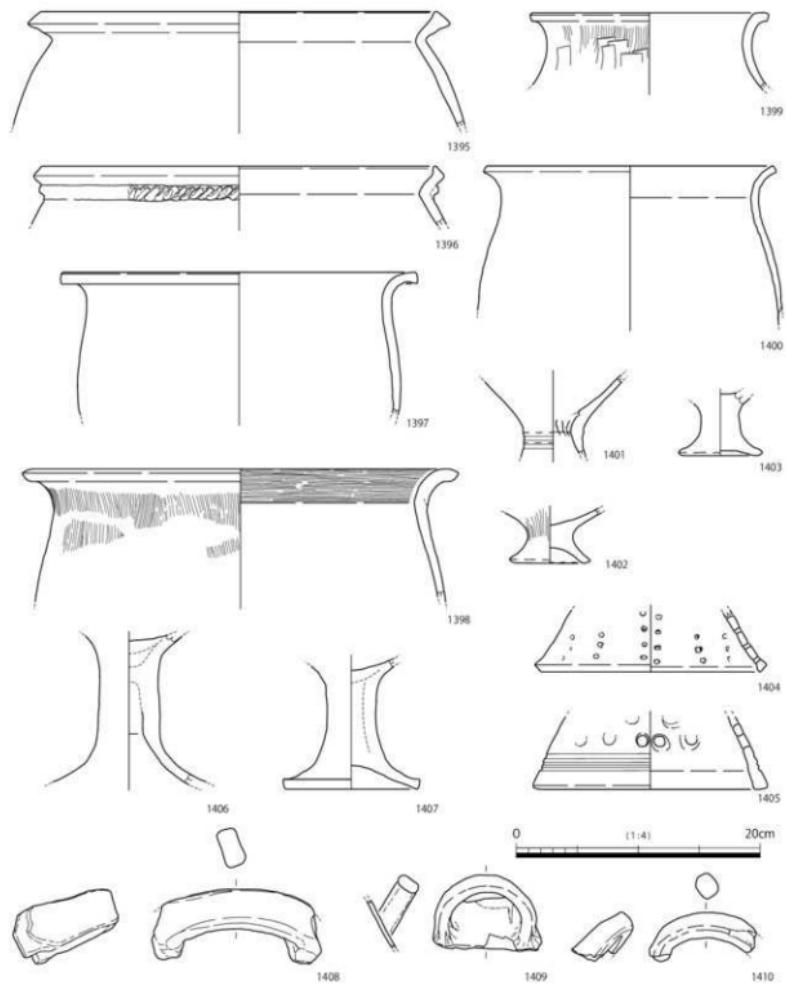


図 218 2016-1 調査 B 区包含層出土遺物実測図（2）

長い形態を呈する。刃部は長三角形を呈する。1412は刃部の先端のみ残存する。刃部の形態はおそらく長三角形を呈する。残存長 1.95cm、幅 1.9cm、厚さ 0.5cm を測り、重量 1 g を量る。1413は剥片である。長さ 2.7cm、幅 5.15cm、厚さ 0.8cm を測り、重量 17 g を量る。比較的厚く、断面形状は四角形を呈する。

1414～1418は磨製石器である。1414は太型蛤刀石斧である。周囲に敲打痕が認められる。残存長 5.1cm、幅 6.1cm、厚さ 4.2cm を測り、重量 190 g を量る。刃部のみ残存する。断面形状は楕円形

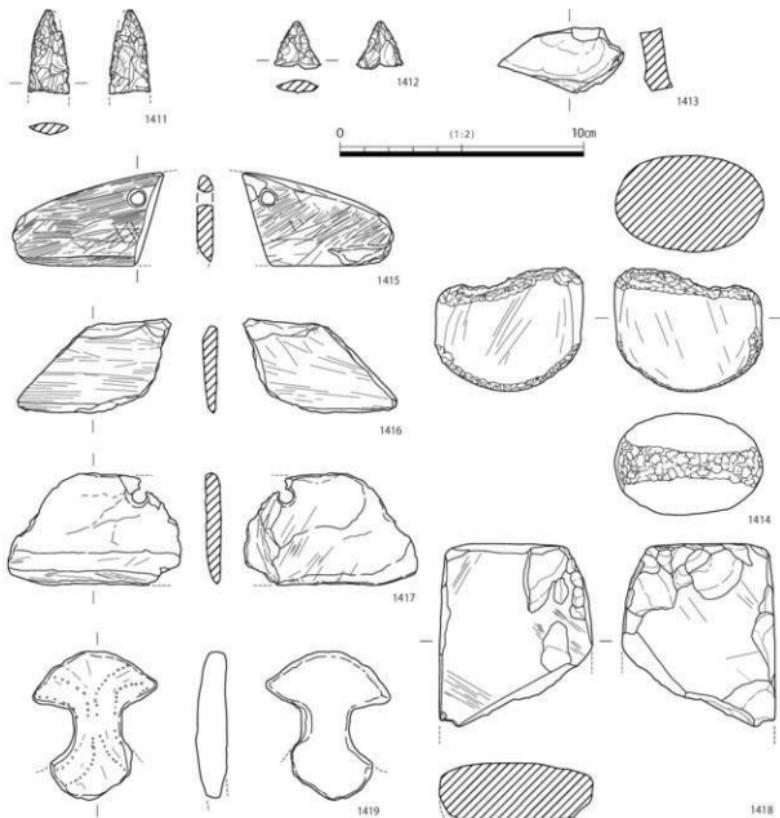


図219 2016-1調査 B区包含層出土遺物実測図(3)

を呈する。石材は花崗閃綠岩である。1415～1417は石包丁である。1415は両面に擦痕が認められる。紐孔が1か所残存する。残存長6.2cm、幅3.85cm、厚さ0.65cmを測り、重量20gを量る。平面形態は直線刃半月形を呈する。石材は粘板岩である。1416は両面に擦痕が認められる。紐孔は認められない。残存長6.3cm、幅3.85cm、厚さ0.6cmを測り、重量17gを量る。平面形状は不明だが、おそらく直線刃半月形を呈すると思われる。1417は裏面に擦痕が認められる。紐孔が1か所残存する。残存長7.1cm、幅4.6cm、厚さ0.65cmを測り、重量29gを量る。平面形状は直線刃半月形を呈する。1416・1417の石材は緑泥片岩である。1418は扁平片刃石斧である。残存長7.5cm、残存幅6.3cm、厚さ2.4cmを測り、重量213gを量る。基部の破片で刃部は欠損する。石材は砂岩である。

1419は分銅形土製品である。片面にくびれに沿うように、端部と中央部に二重の刺突文を施す。長さ6.1cm、幅5.1cm、厚さ1.3cmを測る。先端部の断面形態は丸みを帯びた方形である。

C区包含層出土遺物(図220～223-1420～1522) 1420～1424は広口壺である。口縁部形態は1420～1423がC、1424がFである。1420～1423は端面下端に刻目文を施す。1422は内外面にハケを施

す。1425～1427は壺である。1425は頸部に断面三角形状の突帯3条および最下段の突帯下に櫛描直線文を施す。1426は外面に竹管文を施す。1427は外面に櫛描直線文・斜格子文を施し、円形浮文を貼り付ける。1428は頸部にヘラ压痕突帯が巡る。1429～1448・1457～1485は底部である。1448・1459・1462～1469・1472～1474・1478～1480は底部中央がわずかに窪み、その他は平底を呈する。1435・1436・1439・1457～1460・1462・1464・1465・1473・1474・1478・1480・1481は外面にハケ、1444・1482～1484は外面にミガキ、1429は内面にミガキ、1476は内面にハケを施す。1476・1483は底面に円孔（共に直径1.2cm）を穿つ。1430・1436・1437・1458・1459・1462・1465・1468・1473・1474・1476・1480・1481・1484は底面に木葉痕が認められる。1457は体部から底部にかけて残存する。外面にハケを施す。底面は中央がわずかに窪み、木葉痕が認められる。1449～1456は甕である。口縁部形態は1449～1453がD、1454～1456がEである。1451・1453は内外面にハケ、1456は外面にハケ、1452は内面にハケを施す。1486・1487は鉢である。1486の口縁部形態はCである。外面に棒状浮文4列一組で貼り付ける。1487の口縁部形態はBである。外面に凹線1条を施す。1488～1491・1497～1518は高杯である。1488～1491はいずれも口縁部形態はBである。1488は外面に凹線7条、内外面にミガキを施す。1489は杯部外面に凹線1条、杯部内面にハケを施し、脚柱部内面にシボリ痕が認められる。また杯底部に円盤充填法の痕跡が認められる。1490は外面に凹線2条を施す。1491は外面に凹線3条を施し、棒状浮文を貼り付ける。1497の口縁部形態はA1である。口縁部と杯部の境に突帯が巡る。1498・1499は杯部と脚部との接合に円盤充填法を用いる。1499～1502・1504～1506は内面にシボリ痕が認められる。1500は円盤が剥離する。1501・1502は中空の脚柱部である。1501は外面に櫛描直線文を施す。1503は中実の脚柱部である。1504は外面にミガキを施す。1505の脚部形態はDである。1506の裾端部形態はAである。1507の裾端部形態はCである。杯底部が窪む。外面にミガキ、内面にハケ・ケズリを施す。1508の裾端部形態はCである。外面に沈線を施す。1509～1512・1515～1517の裾端部形態はAである。1513の裾端部形態はCである。裾端部は外反する。1518の裾端部形態はBである。1510・1514・1515・1518は円形透かし孔を穿つ。1492～1495は蓋である。1493はつまみ部分が外方へ開く。1496は水差の把手部分である。断面形状は梢円形を呈する。

1519は匙形土製品である。柄部は欠損し、体部が円形皿状を呈する。大野薦氏の分類によれば、I類に相当する。茨木市内ではこれまでに東奈良遺跡で2点〔東奈良遺跡調査会 1981・大野 1989〕、郡遺跡で1点〔茨木市教育委員会 1978〕が報告されている。時期は東奈良遺跡の1点が弥生時代前期、もう1点は弥生時代中期～後期、郡遺跡は弥生時代～古墳時代とされている。1519は包含層出土ではあるが、他の土器の年代から判断して、弥生時代中期と考えられよう。

1520は磨製石剣である。残存長12.7cm、幅3.5cm、厚さ0.7cmを測り、重量43gを量る。石材は粘板岩である。切っ先および基部は欠損する。両面に錫が認められる。西口陽一氏の分類では鉄剣形石剣ないし銅剣形石剣と分類されているものに相当しよう〔西口 1989〕。

1521は打製石錐である。長さ4.9cm、幅1.9cm、厚さ0.9cmを測り、重量6gを量る。石材はサヌカイトである。頭部と錐部との境はわずかに認められる。全体的に細長い形状を呈する。1522はサヌカイトの剥片である。長さ3.1cm、幅2.0cm、厚さ0.3cmを測り、重量3gを量る。

D区包含層出土遺物（図224～226-1523～1549） 1523は細頸壺である。口縁部は内彎し、端部は丸く收める。外面に凹線（上側が6条、下側が1条）、櫛描列点文を施し、口縁部直下に円形浮文を貼り付ける。1524～1530は広口壺である。口縁部形態は1524・1525・1530がA1、1529がB、1526・1527・1528がCである。1524は端面に凹線3条を施し、円形浮文を貼り付ける。口縁部内面に櫛描列点文を施す。1525は端面に凹線4条を施し、円形浮文を貼り付ける。1526は端面に櫛描波状

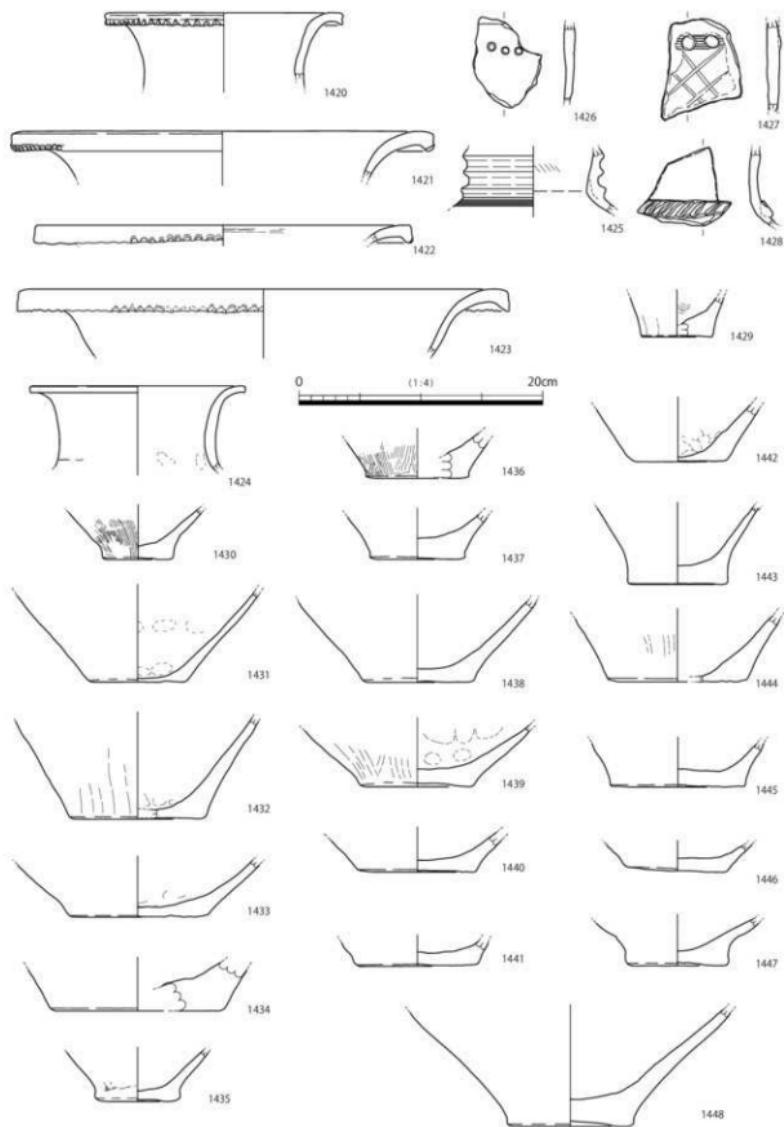


図 220 2016-1 調査 C 区包含層出土遺物実測図 (1)

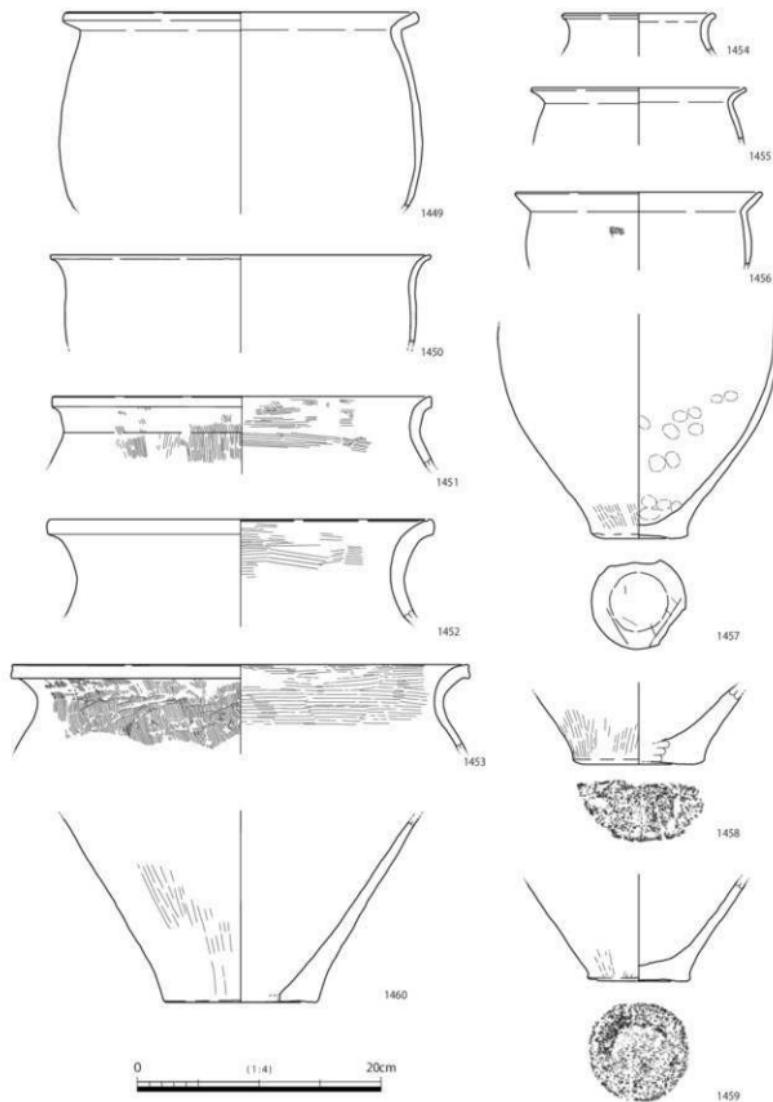


図 221 2016-1 調査 C 区包含層出土遺物実測図 (2)

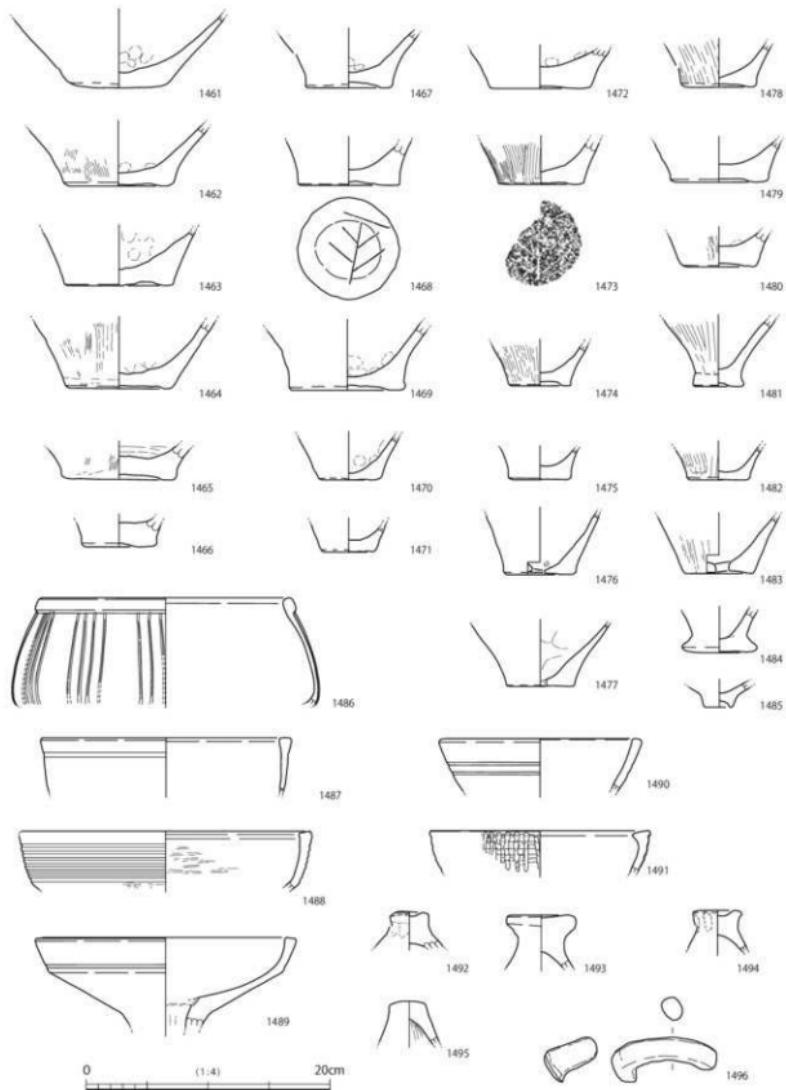


図 222 2016-1 調査 C 区包含層出土遺物実測図 (3)

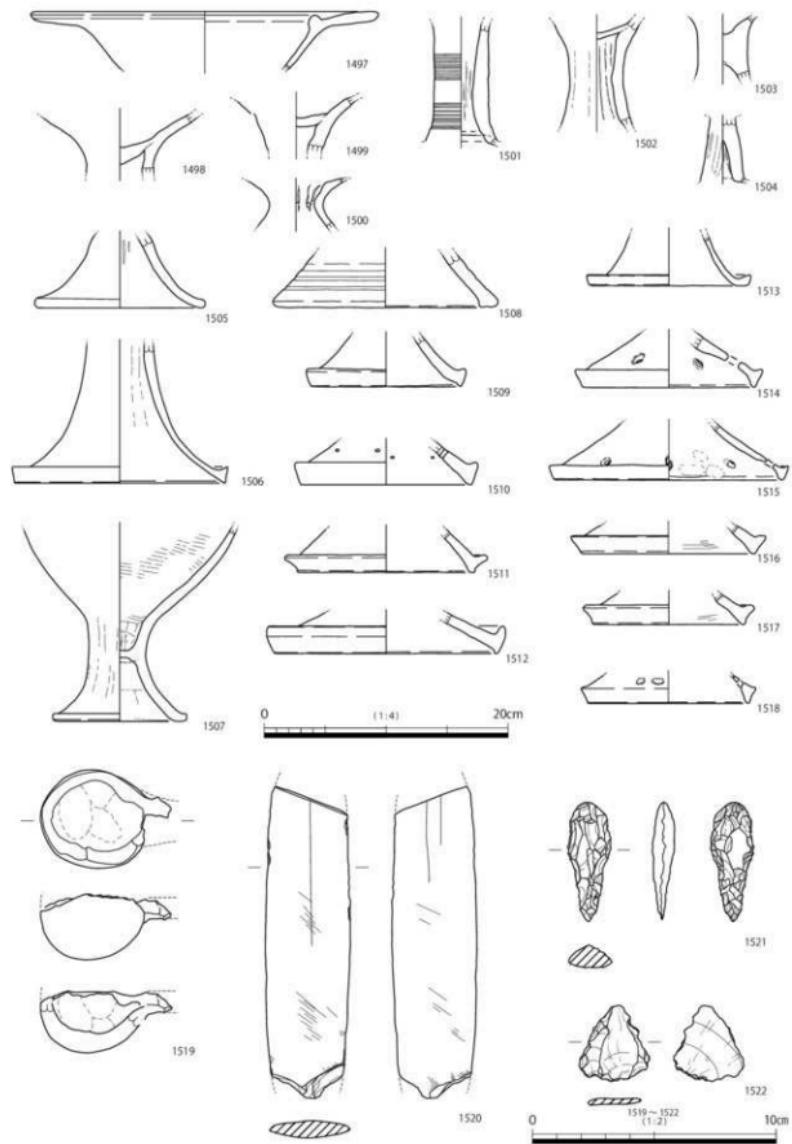


図 223 2016-1 調査 C 区包含層出土遺物実測図 (4)

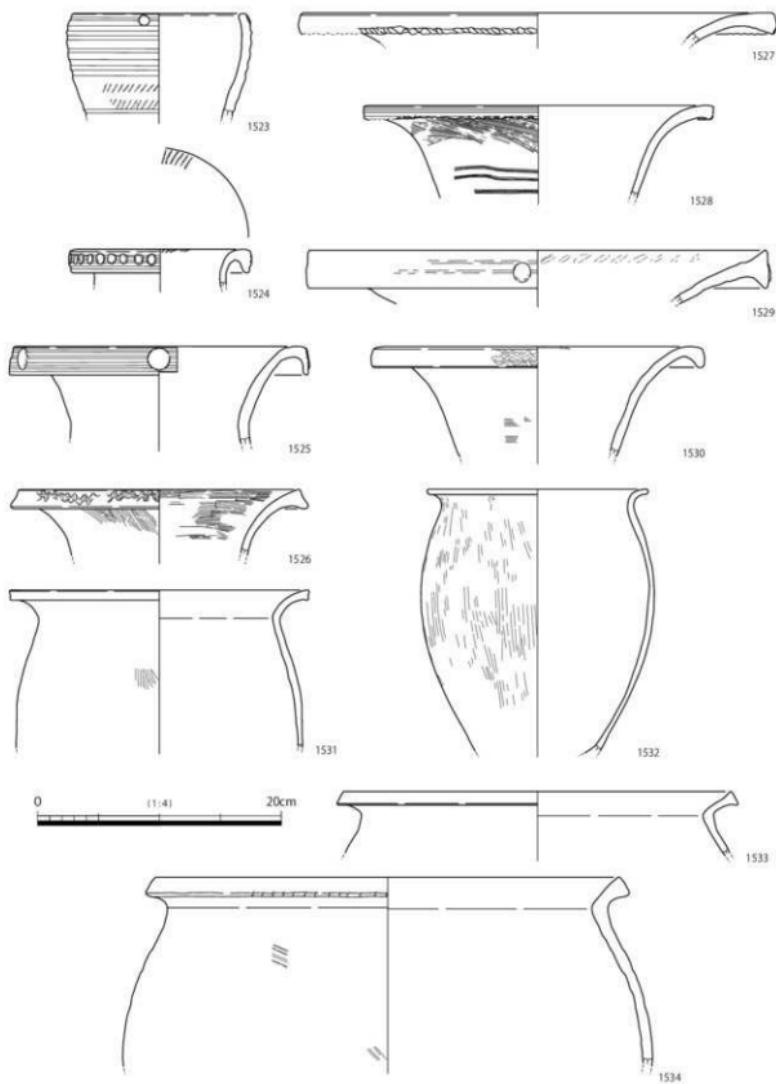


図224 2016-1調査 D区包含層出土遺物実測図(1)

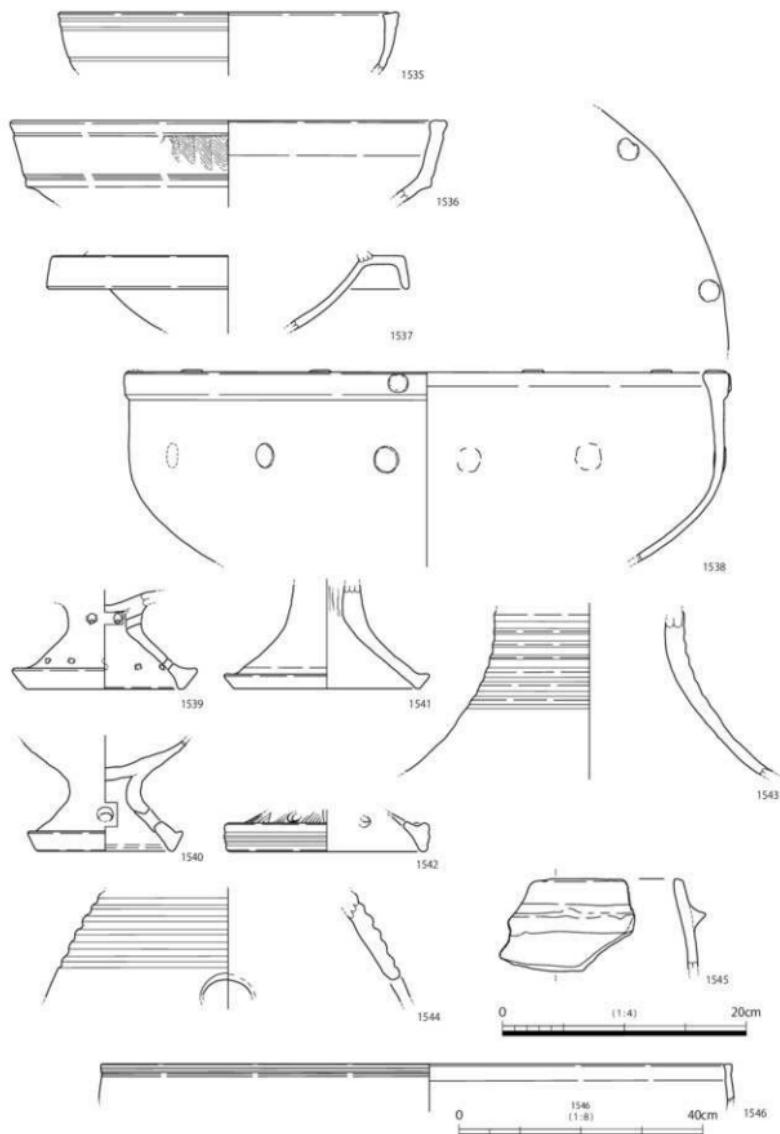


図 225 2016-1 調査 D 区包含層出土遺物実測図 (2)

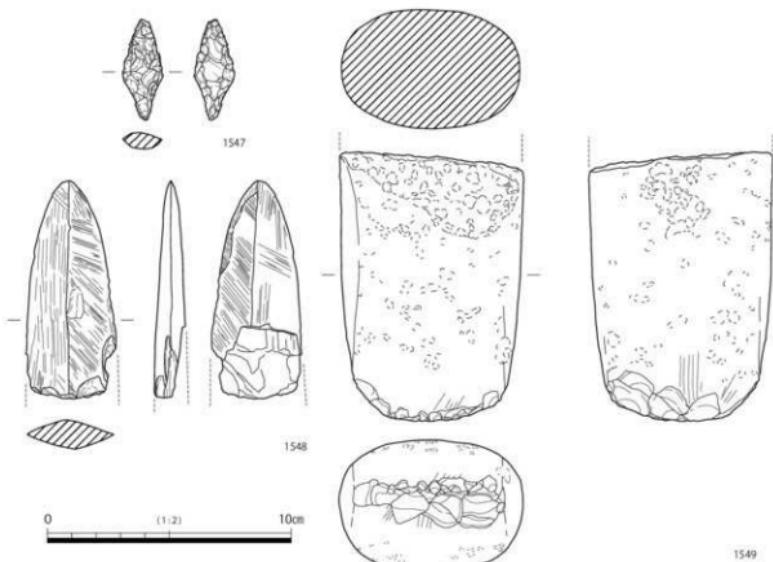


図226 2016-1調査 D区包含層出土遺物実測図(3)

文、内外面にハケを施す。1527は端面下端に刻目文を施す。1528は端面に凹線、端面下端に刻目文、頸部にヘラ描直線文・ハケを施す。1529は端面に凹線2条を施し、円形浮文を貼り付ける。口縁部内面にも文様の痕跡（列点文か）が認められるが、磨滅が著しく不明である。1530は端面に櫛描直線文、頸部に櫛描直線文を施す。1531～1534は甕である。口縁部形態は1531がD、1532がE、1533・1534がAである。1531・1532は外面にハケを施す。1534は端面下端に刻目文、体部外面にハケを施す。1535～1537・1539～1542は高杯である。口縁部形態は、1535・1536がB、1537がA 2である。1535は外面に凹線3条を施す。1536は外面に凹線2条、櫛描波状文を施し、口縁部と杯底部の境に突帯が巡る。1537は口縁部と杯部境の突帯は欠損する。裾端部形態は、1539・1542がB、1540・1541がAである。1539は脚部と杯部の境および脚裾部下部に円形透かし孔を穿つ。1542は円形透かし孔を穿ち、外面に鋸歯文を施す。1540は円形透かし孔を穿つ。1541は内面にシボリ痕が認められる。1538・1545・1546は鉢である。口縁部形態は1545・1546がB、1538がCである。1538は端面の外面および上面、体部に円形浮文を貼り付ける。1545は口縁端部のやや下がった位置に断面三角形状の突帯を貼り付ける。1546は口径75.2cmと非常に大形に口径復元がなされている。外面に凹線を施す。1543・1544は器台である。1543は外面に凹線7条を施す。1544は外面に凹線6条を施し、円形透かし孔を穿つ。

1547は打製石鎌である。長さ4.15cm、幅1.65cm、厚さ0.65cmを測り、重量4gを量る。石材はサヌカイトである。刃部は長三角形、基部は凸基式である。先端部は欠損している。

1548は磨製石剣である。残存長9.9cm、幅3.2cm、厚さ1.3cmを測り、重量42gを量る。切っ先部分が残存する。両面に鎬が認められる。鉄剣形石剣ないし銅剣形石剣であろう〔西口1989〕。石材は粘板岩である。1549は大型蛤刃石斧である。刃部に欠けが認められる。基部は欠損する。残存長

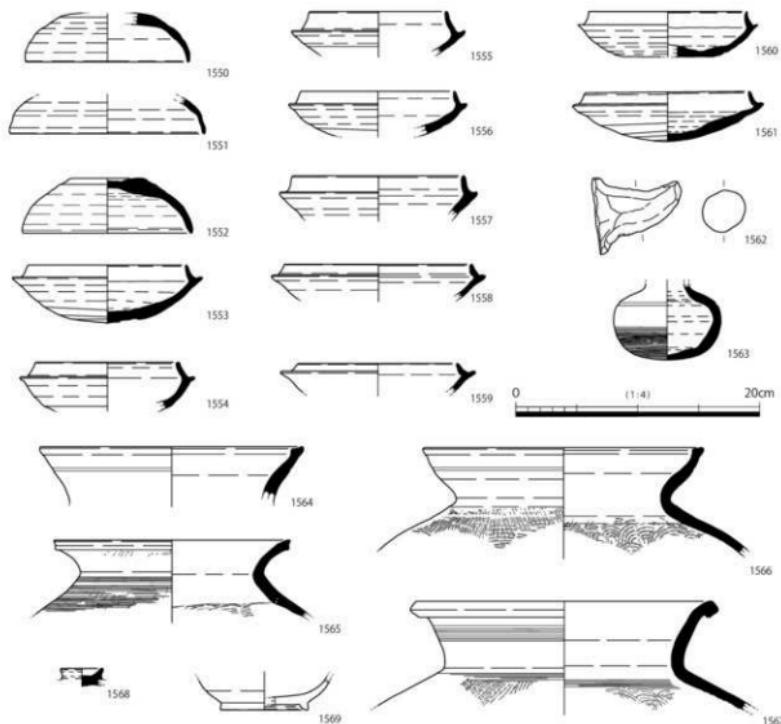


図 227 2016-1 調査 B~D 区包含層出土遺物実測図

11.0cm、幅 7.55cm、厚さ 4.0cm を測り、重量 711 g を量る。断面形状は梢円形を呈する。石材は砂岩である。

古墳時代以降の包含層出土遺物（図227-1550～1569） 1550～1561・1563～1567は須恵器である。T K 43～209型式頃である。

1550～1552は杯蓋である。1550は天井部から口縁部までなだらかに延びる。1552は天井部の中央が窪む。1553～1561は杯身である。いずれも受部は水平から斜め上方に延びる。たちあがりは内傾し、端部は尖り気味のものと丸く收めるものとが認められる。1563は甌である。扁平な球状の体部をもつ。肩部に沈線一条、体部下半にカキメを施す。1564～1567は甌である。いずれも内面に同心円状當て具痕が認められる。1564は口縁部内面に断面三角形状の突帯が巡る。1565は口縁部を下方に拡張し、面を成す。外面にタタキ、体部にカキメを施す。1566は口縁端部の上端が面を成す。端面は凹線状に窪む。頸部外面に沈線一条、体部外面にタタキを施す。1567は口縁端部が下方に肥厚し、断面は方形を呈する。体部外面にタタキ、頸部外面及び体部外面にカキメを施す。

1562は土師器把手である。断面形状は円形を呈する。体部との接合面で剥離する。

1568は須恵器蓋である。円形を呈するつまみ部分である。7世紀後半～8世紀初頭である。

1569は綠釉陶器碗である。断面三角形状の貼り付け高台をもつ。釉薬は高台外面までと内面にかかる。

る。9世紀後半～10世紀初頭頃であろう。

### (5) 小結

2016-1(B・C・D区)調査において、多くの遺構・遺物を確認した。本報告において図示した遺物は一部にとどまるが、コンテナパッド(P-27)約150箱の遺物が出土した。そのうちの多くが弥生時代中期のものであった。調査区全体から、中期前葉から中期後葉までの遺構・遺物が確認されたが、弥生時代中期中葉の位置づけは難しいものの、調査区内において特定の位置や時期の偏りは認めがたい。

中期前葉の遺構として、土坑やピットなども多く認められたが、特筆されるのは1327・1328方形周溝墓と1561・1562溝である。1327・1328方形周溝墓はC区東端に隣り合うように検出された。これら北及び東は調査区外であったため、その範囲は明確にしえず、2基のみでの推測となってしまうが、C区東端から北及び東が弥生時代中期前葉の集落における墓域として捉えられる可能性がある。1978-1調査(第2節)において、方形周溝墓の可能性をもつ遺構が検出されていることはこの想定を補強する。

一方、D区西部において「コ」の字状を呈する1562溝が認められた。1562溝は①溝に囲まれる範囲が方形を呈すると想定できること、②溝と溝に囲まれる範囲の規模、③溝の立地環境などの点が注目される。

1562溝は、内側に墳丘盛土や埋葬施設などは確認できなかったが、①の観点より方形周溝墓の周溝である可能性が想定される。次に②の観点について検討すると、検出面における溝幅が4mを超え、溝の内側の方形部分は約15.8mを計測する。先に触れた1327・1328方形周溝墓の規模は、周溝内側でそれぞれ4.8m、9.0mを測る。また、中河原遺跡から約1km離れた位置にある郡遺跡・倍賀遺跡の方形周溝墓群を見ると、確認された164基のうち中期前半に位置づけられるもの(「遺物の時期」に「Ⅱ」もしくは「中期前半」とあるもの。計47基。)の墳丘規模は最大のもので13.1mを測り、一辺15mを超えない(茨木市教育委員会・大阪府文化財センター2018)。このように、同地域、同時代の方形周溝墓と比較すると、1562溝に囲まれる範囲はやや大きい。次に③の観点について見てみると、先述のように当該期の墓域がC区北東部に想定されるのであれば、1562溝の立地はそれからやや離れる。また、報文中でも触れたとおり、1562溝を境に北東に旧地形が下っていたと考えられ、地形の変化点に立地していたと考えられる。この点については、1561溝もセットで考え得る。1561溝は等高線に平行に北西→南東方向を指向し、C区で確認した287溝もしくは288溝に接続していたと考えられ、全長はC区に及んでいたと想定される。1562溝と1561溝の同時期性や先後関係については明らかにしえなかつたが、少なくとも出土土器様式から見ると、いずれも中期前葉に位置づけ得る。同時期性が認められると仮定するならば、ちょうど低位段丘の先端に1562溝、それに近接して地形の落ちたところに1561溝が位置し、両溝が一体的に機能していた可能性も想定される。いずれにしても、1562溝や1561溝の立地は、標高差と溝によって集落内の土地利用の区別を物理的に、視覚的に明確にしたと思われる。このように、1562溝の性格については、不明な部分が多いながらも、上記のように当該期の集落内においてやや特異な様相を示すことから、方形周溝墓の可能性を一案としつつも柔軟に検討してゆく必要があろう。今後の検討課題としたい。

中期後葉には、土坑やピットなども多く確認されたが、方形周溝墓1基、土器棺墓3基などの墓や、等高線に平行する全長30mを超える溝が特筆される。また、絵画土器など特徴的な遺物も出土した。

1320方形周溝墓はC区中央の北端で検出した。2007-1調査(第10節)および後述する2017-1調査(第14節)において、方形周溝墓の可能性をもつ遺構を検出していることから、C区の中央北側に中期後半の墓域があったと推測される。また、1320方形周溝墓は607溝に西接する。607溝は等高線に概ね平行に延びる全長30mを超える溝である。流水の痕跡は認められるが、規模やその方向から

導排水のみをその機能と限定することはやや躊躇される。報文中にも触れたが、607溝の西側は当該期の遺構密度が低いことからも、何らかの区画機能を想定させる。やや方向は異なるが、南に位置する880溝とセットになる可能性もある。しかしながら同時期については不明とせざるを得ない。

C区において確認した406土器棺墓と1036土器棺墓は近接して検出した。いずれも広口壺を棺身とし横位に埋葬され、関連する遺構であると考えられる。ただし、棺として使用された土器は、1036土器棺は中期後葉に特徴的な凹線文を採用せず、406土器棺は身、蓋とともに凹線文を多用し、土器様式においては前後が認められる。C区の北端に位置することから、1320方形周溝墓や、2017-1調査（A区）において検出した土器棺墓を合わせて考えると、中期後葉においてC区の北端から北側に一定のまとまりを想定することが可能かもしれない。詳細な時期の特定は難しいが竪穴建物が検出されており、弥生時代にはC区中央からD区にかけてが居住域であったと推測される。2007-1調査で検出したSD1と607溝との関係や、C区中央北端で検出した1316竪穴建物などの時期に問題を残すが、概ね607溝の西側においてC区北側が墓域、C区中央からD区が居住域と捉えることができるのではないだろうか。

一方、B区において確認した1414土器棺墓は周囲に類似の遺構は認められず単独で認められた。当該期の埋葬について、必ずしもC区の北側にまとまるものではないことが知られる。また、1414土器棺墓の南は、当該期の遺構は1410土坑が挙げられる程度であり、その他の遺構が中期後葉に相当する可能性や1980-2調査（第3節）の成果を踏まえても、北側と比較すると遺構密度が低い。1414土器棺墓の立地は中期後葉において集落周縁部に当たる可能性も考えられる。

1632土坑からは、切妻造りの高床建物が5棟描かれた壺の肩部片が出土した。また、それに張り付くように出土した壺にも意匠不明ではあるが絵画と思われる線刻が認められた。複数の絵画土器がほぼ同時に廃棄されたことが窺われる。この他、詳細な時期は不明ながらも、分銅形土製品や匙形土製品、磨製石剣などが出土し、集落における祭祀を想起させる。

古墳時代以降については、C区南部からD区にかけて掘立柱建物が4棟認められた。いずれも正方位からやや振って建てられており、一定程度の制約が認められる。ただし、包含層を含めても古墳時代後期以降の遺物の出土は少なく、その実態は不明な部分が多い。

## 第14節 2017-1調査

### （1）はじめに

今回の調査は、2016-1調査の原因となった倉庫建設計画のうち、追って計画された防火水槽の設置に伴うものである。調査地は2016-1調査と同じ敷地内となる。2017年6月27・29日に確認調査を実施した結果、4箇所計画された防火水槽設置計画地の内、2箇所で遺構・遺物を確認した。これをA区・B区と呼称し、調査を実施した。

A区とB区は敷地の南北端にそれぞれ位置する（図5）。A区は2007-1調査の西側、2016-1調査（C区）の北側に位置する。B区は2016-1調査（A区）の南側に位置する。A区は東西18m、南北5.2m、調査面積53.9m<sup>2</sup>であり、B区は東西16m、南北1.6m、調査面積25.6m<sup>2</sup>である。

A区は2016-1調査に並行して調査を実施した。B区については、攪乱を受けた範囲が大きく、設定しうる調査区が狭小であったため、確認調査を実施した2017年6月29日中に終了した。

### （2）層序（図228・232）

A・B区とも基本層序は大別5層を確認した。A区の西端で、2016-1調査と同様に耕作地造成に伴う段差を検出している。

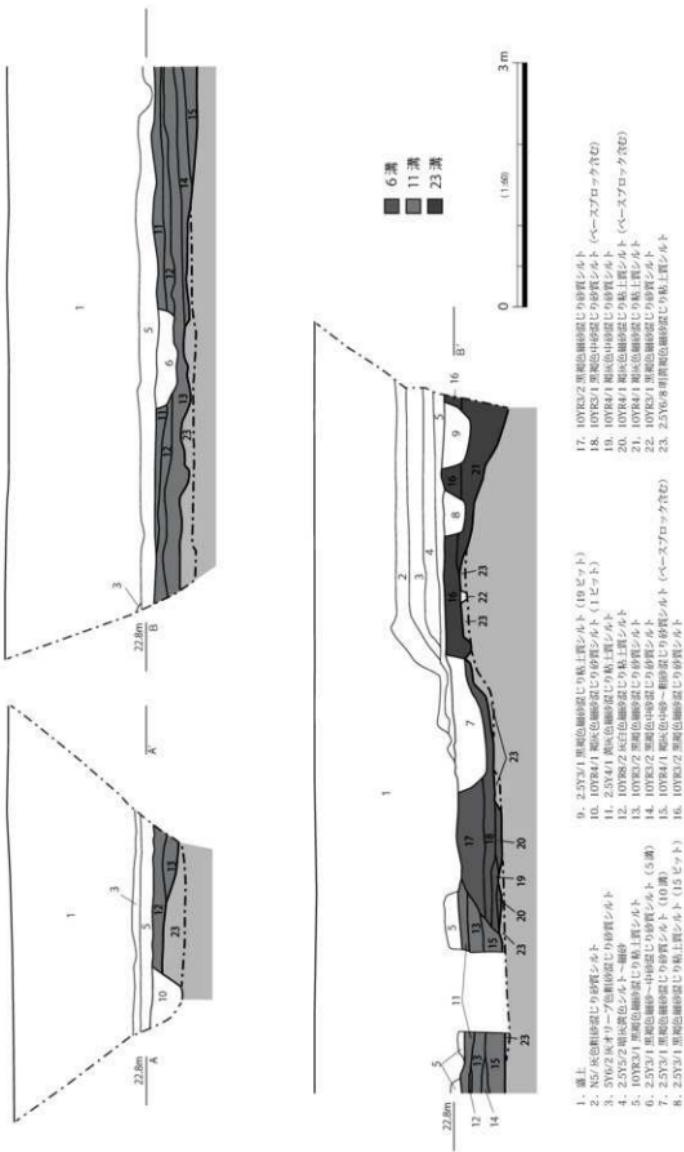


図228 2017-1調査 A区土層断面図

- 0層 造成に伴う盛土（A区・層厚1.0～1.6m、B区・層厚0.9m）  
 1層 耕作土（A区・層厚0.2m、B区・層厚0.2m）  
 2層 灰オリーブ粗砂混じり砂質シルト（整地土、A区では西側でのみ検出・層厚0.2m、B区・層厚0.1m）

- 3層 暗灰黄色シルト～細砂（A区の西側でのみ検出・層厚0.15m）

- 4層 黒褐色細砂混じり粘土質シルト（弥生時代の遺物包含層・下面で遺構面を検出、A区・層厚0.2m、Y=40590  
 B区・層厚0.2m）

- 5層 明黄褐色細砂混じり粘土質シルト（ベース層）

### （3）遺構（図229・232、PL.35～37）

A区において確認した遺構は30基を数え、その内訳はピット21基、溝5条、土坑3基、土器棺墓1基である。このうち、溝は調査区内のほぼすべてを占めており、複雑に切り合っている。以下では、特徴的な遺構および、出土遺物を掲載した遺構について報告する。

5溝（図228・229） 調査区東部で検出した南北方向の溝である。南北ともに調査区外へ延びる。6溝・11溝を切る。検出長1.8m、幅1.0m、深さ0.25mを測る。遺物は弥生土器・須恵器が出土した。

6溝（図228・229） 調査区北部で検出した東西方向に延びる溝である。東は5溝に切られ、かつ調査区外に延び、西は後述の10溝に切られるため、延長は不明である。また、溝の北肩は調査区外に広がり、南肩は11溝に切られるため、幅についても不明である。検出長10.4m、検出幅1.8m、深さ0.55mを測る。遺物は弥生土器が出土した。

10溝（図228～230、PL.36） 調査区西部で検出した南北方向の溝である。ただし、北側はわずかに西に曲がる。南北ともに調査区外へ延びる。6溝・23溝を切る。検出長2.0m、幅1.1m、深さ0.35mを測る。遺物は弥生土器が出土した。上位層は破片がまとまって出土し、下位層では完形に近い状態の土器が出土した。これらの遺物出土状況から、方形周溝墓の周溝の一部となる可能性も考えられる。

11溝（図228・229） 調査区南東部で検出した東西方向の溝である。北肩の一部を検出したに留まり、幅は不明である。5溝に切られ、6溝を切る。検出長約7.0m、検出幅1.5m、深さ0.45mを測る。

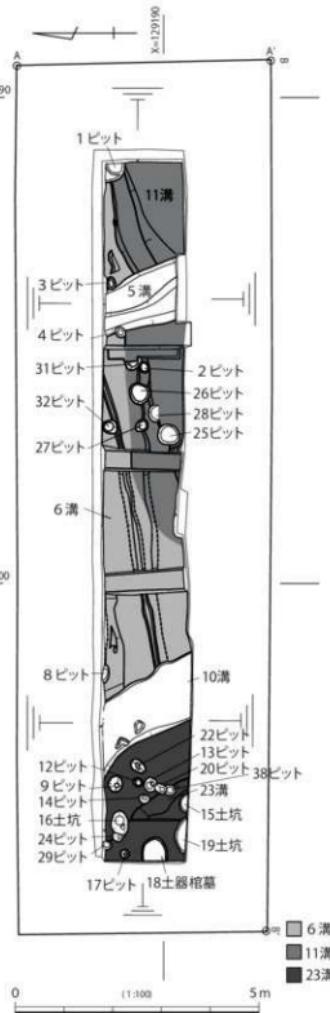


図229 2017-1調査 A区平面図



図 230 2017-1 調査 A 区溝遺物出土状況図

ただし、5溝を境にやや方向が変化する。南壁断面において、5溝を隔てて11溝の埋土に明瞭な変化は認められなかっただため、本報告においては、連続する遺構とする。遺物は弥生土器が出土した。

**23溝（図228・229）** 調査区西端で検出した南北方向の溝である。10溝や18土坑など多くの遺構に切られ、全容は不明であるが、調査区南壁断面において西に落ちることが確認でき、南北に設定した土層観察用アゼでは南に落ちていることから、概ね北東—南西方向の溝と想定できる。このように想定した場合、6溝と走向方向が近似しており、別番号を付したが、6溝と23溝が同一である可能性が残る。検出長2.2m、検出幅1.5m、深さ0.8mを測る。遺物は出土していない。

**18土器棺墓（図229・231）** 調査区西部で検出した土器棺墓である。長径0.63m、短径0.51m、深さ0.28mを測る。広口壺を棺身、壺もしくは甌の底部を棺蓋とする。棺身を西、棺蓋を東に配置し、棺身の口縁部をやや上に向けて、ほぼ横位で出土した。棺内部には小碟～極粗砂を局所的に含むしまりの良い暗灰色粘質シルトが堆積していた。棺内部から骨等の特筆すべき遺物は認められなかった（PL.37-1）。

B区は調査区西部が大きく攪乱を受け、遺存した東部についても遺構の密度はやや低い（図232）。確認した遺構は12基を数える。内訳はピット9基、土坑4基である。いずれの遺構も深さ0.1～0.15m程度である。遺物は弥生土器・土師器・須恵器が出土したが、図示可能な遺物はなかった（PL.37-2）。

#### （4）遺物（図233～238）

図示し得た弥生土器はいずれも弥生時代中期中葉～後半の遺物である。

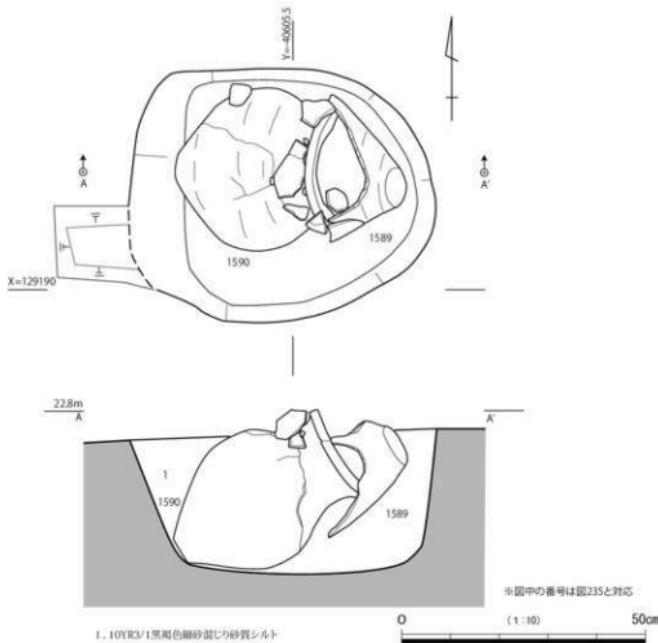


図231 2017-1調査 A区 18土器棺墓出土状況・平面・断面図

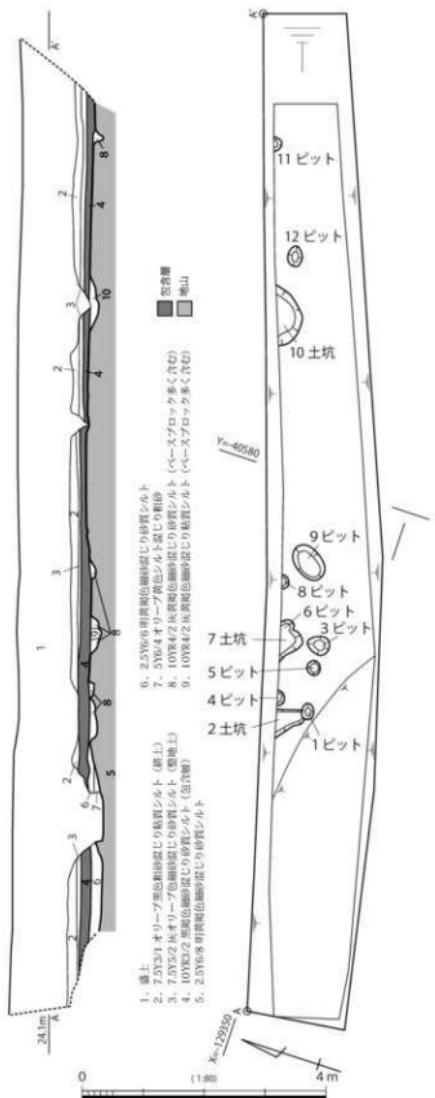


図 232 2017-1 調査 B 区平面・土層断面図

5 溝出土遺物 (図233-1570) 1570は高杯である。裾端部形態はBである。内面にシボリ痕が認められる。

6 溝出土遺物 (図233-1571～1574) 1571は甕蓋である。円柱状のつまみを持ち、口縁部は「ハ」字状に開く。口縁端部は丸く收める。円孔（直径0.5cm）を二個穿つ。1572は広口壺である。口縁部形態はBである。端面に凹線3条を施し、円形浮文を貼り付ける。体部外面に櫛描波文状、口縁部内面に櫛描列点文を施す。1573は甕である。口縁部形態はAである。端面下端に刻目文を施す。1574は底部である。底面中央はわずかに窪む。内面に板ナデを施す。

10 溝出土遺物 (図234-1579～1588) 1579は甕である。口縁部形態はAである。1580～1582は高杯である。1580は口縁部を欠損する。杯部と口縁部との境に突帶1条が巡る。杯部は深い鉢形を呈する。杯部と脚柱部との境にヘラ描直線文8条、外面上にミガキを施す。脚柱部は中空である。内面にシボリ痕が認められる。裾端部形態はBである。透かし孔は4方向に穿つが、ヘラで刺したような歪なものである。1581の裾端部形態はAである。外面上にヘラナデを施し、内面上にシボリ痕が認められる。杯底部に円盤充填法を用いる。1582は小形の杯部をもつ。口縁端部は面を成す。杯部と脚柱部の境に直線文を施す。外面上にミガキを施し、内面上にシボリ痕が認められる。杯底部に円盤充填法を用いる。

1583・1584は広口壺である。共に広口壺に把手が付いた形態を呈する。1583の口縁部形態はDである。口縁部内面に円孔を穿つ。把手は断面形が扁平な四角形状を呈する。1584の口縁部形態はGである。内面上にハケを施す。把手は断面形が扁平な四角形状、底部は平底を呈する。1585～1587は器台である。1585は裾端部が面を成す。外面上に凹線（円形透かし孔の上方は20条、下方は8条）、内面上にハケを施す。円形透かし孔（直径3.2cm）を穿つ。1586は口縁端部が下方

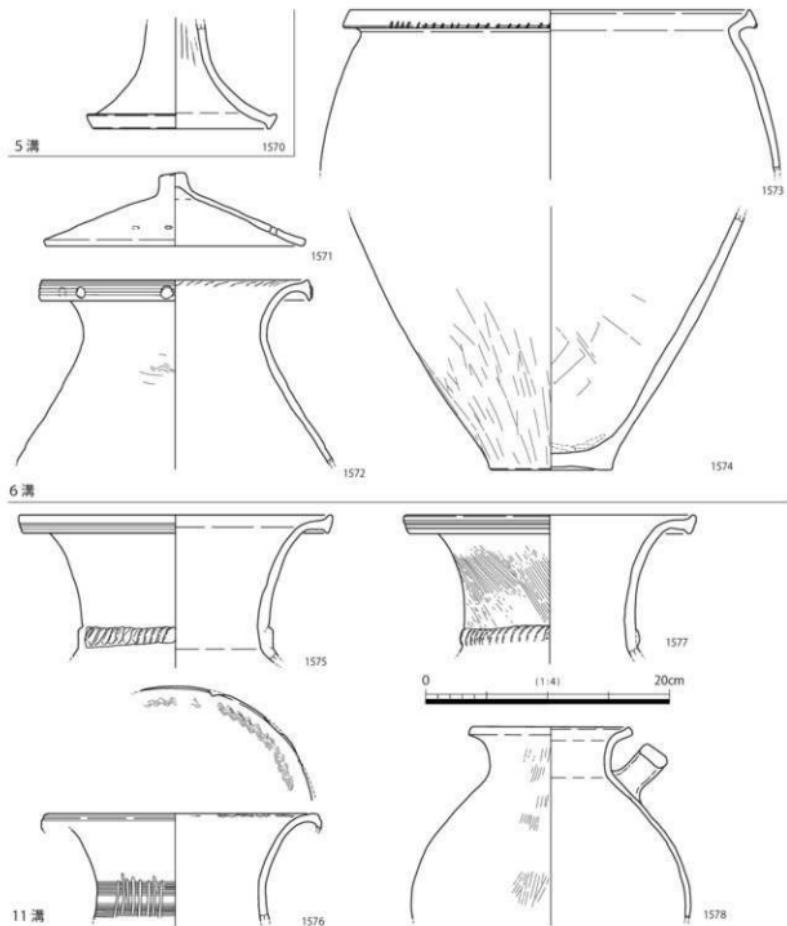


図233 2017-1調査 A区6・11溝出土遺物実測図

に拡張し、面を成す。裾端部形態はDである。外面に凹線3条・ミガキ、内面にヘラナデを施し、脚柱部内面にシボリ痕が認められる。1587は鼓のような形態を呈する。口縁部は下方に拡張し面を成す。裾端部形態はDである。

1588は打製石鎌である。刃部は長三角形、基部は凸基式だが、基部の下端は欠損する。残存長3.75cm、幅1.35cm、厚さ0.55cmを測り、重量2gを量る。石材はサヌカイトである。

11溝出土遺物（図233-1575～1578） 1575～1578は広口壺である。口縁部形態は1575・1577がB、1576がA1である。1575・1577は共に端面に凹線2条を施し、頸部にヘラ压痕突帯が巡る。1577は外面にハケを施す。1576は端面に凹線1条、口縁部内面に櫛描波状文、頸部に櫛描直線文を施

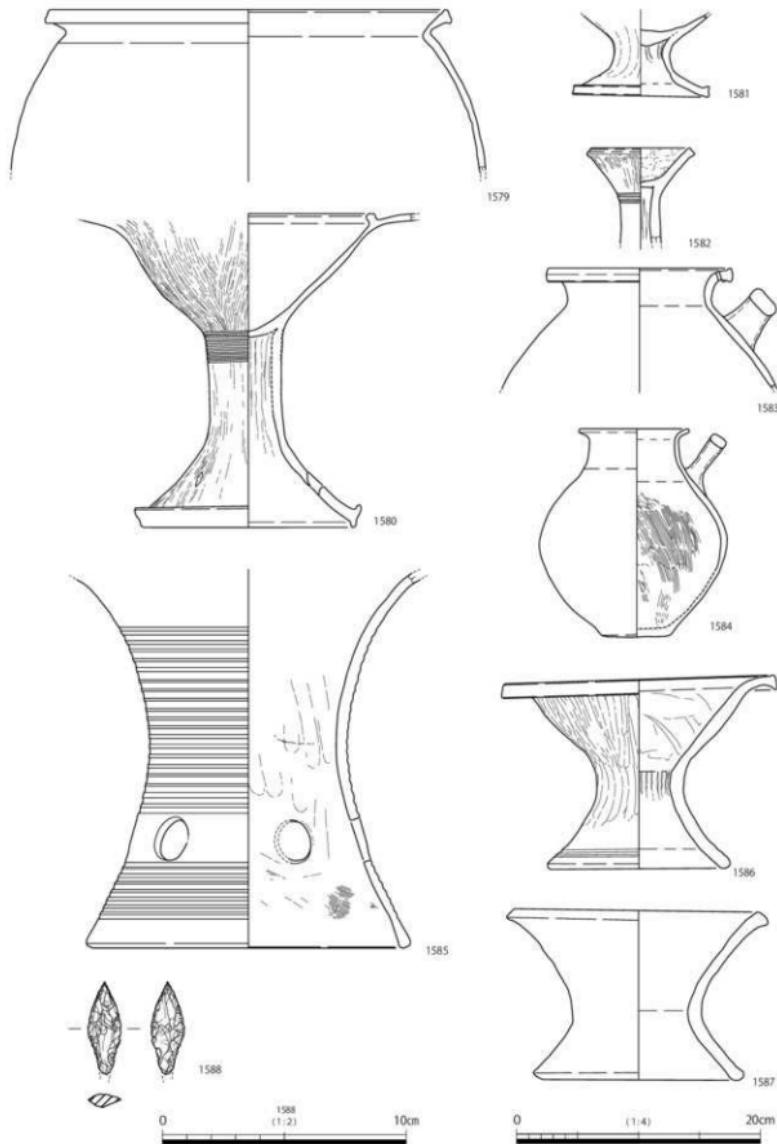


図234 2017-1調査 A区10溝出土遺物実測図

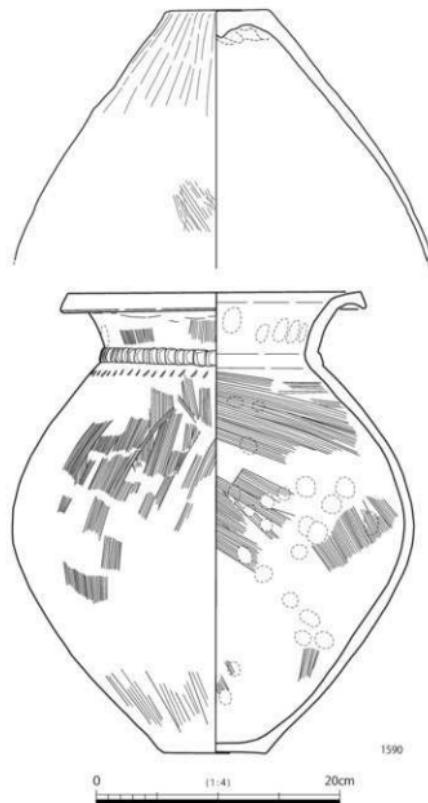


図235 2017-1調査 A区18土器棺墓出土遺物実測図

1596は端面に凹線5条を施し、円形浮文を貼り付ける。頸部に断面三角形状の突帯をもつ。口縁部内面に櫛描列点文を2列施す。1597～1602は甕である。口縁部形態は1597がE、1598～1600がC、1601・1602がAである。1598・1602は外面にハケ、1599は内外面にハケを施す。1600は端面に凹線3条、内外面にハケ、1601は端面に凹線2条を施す。1603・1604は水差である。1603は断面が扁平な四角形状を呈する把手である。わずかに残存する体部外面上にハケを施す。1604は脚台をもつ。体部は最大径が下部に位置する下膨れの器形である。外面に櫛描簾状文、櫛描波状文、ミガキを施す。脚台部にはヘラ描直線文9条を施す。脚台部内面にはシボリ痕が認められる。1605～1607は高杯である。1605の口縁部形態はBである。杯部は浅い鉢状を呈する。1606・1607の裾端部形態はBである。1606は外面にミガキを施す。円形透かし孔を穿つ。円盤充填法を用いる。1607は脚柱部にヘラ描直線文を施す。内面にシボリ痕が認められる。1608は器台である。口縁端部は面を成す。裾部は端部を丸く收める。外面に凹線4条を施す。

1609は須恵器甕である。口縁端部は下方に肥厚する。外面にタタキを施し、内面に同心円圧痕が認

す。更に櫛描直線文の上に縦方向のミガキを施す。1578は広口壺に把手が付いた形態を呈する。口縁端部形態はDである。把手は断面形態が扁平な四角形を呈する。外面にハケを施す。

**18土器棺墓出土遺物（図235-1589・1590）** 1589は底部である。土器棺の蓋として用いられていたものである。底部は平底を呈し、外面にハケを施す。胴部最大径を測る付近で打ち欠いている。1590は広口壺である。土器棺の身として用いられていたものである。口縁部形態はCである。頸部にヘラ圧痕突帯が巡る。突帯の下に刺突文を施す。体部内外面にハケを施す。底面は平底を呈する。

**包含層出土遺物（図236～238-1591～1614）** 弥生土器・須恵器・石器を図示した。

1591～1596は広口壺である。口縁部形態は1591がB、1592～1594がC、1595・1596がA Iである。1591は端面に凹線2条、体部外面上に櫛描波状文、口縁部内面に櫛描刺突文を施す。1592は頸部にヘラ圧痕突帯が巡る。内外面にハケを施す。1593は端面に凹線2条、頸部に沈線1条、口縁部内面に櫛描列点文を施す。1594は端面に凹線3条を施し、円形浮文を貼り付ける。口縁部内面に櫛描列点文を施す。1595は外面に櫛描直線文を施す。

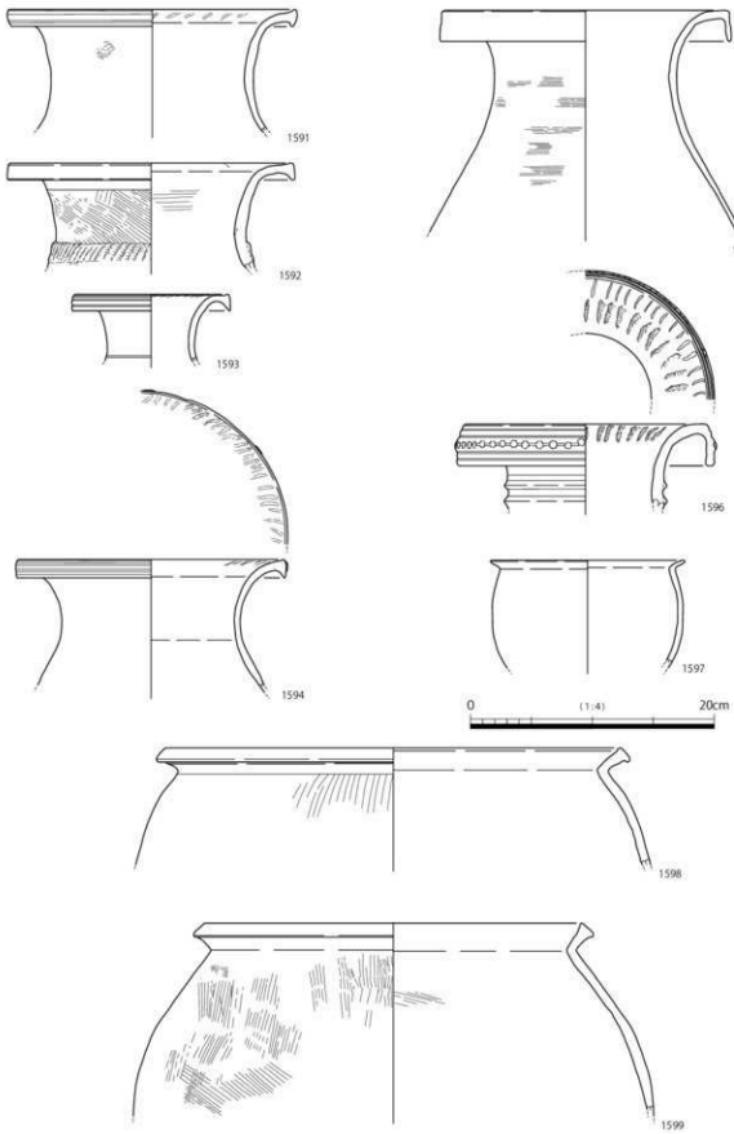


図 236 2017-1 調査 A 区包含層出土遺物実測図 (1)

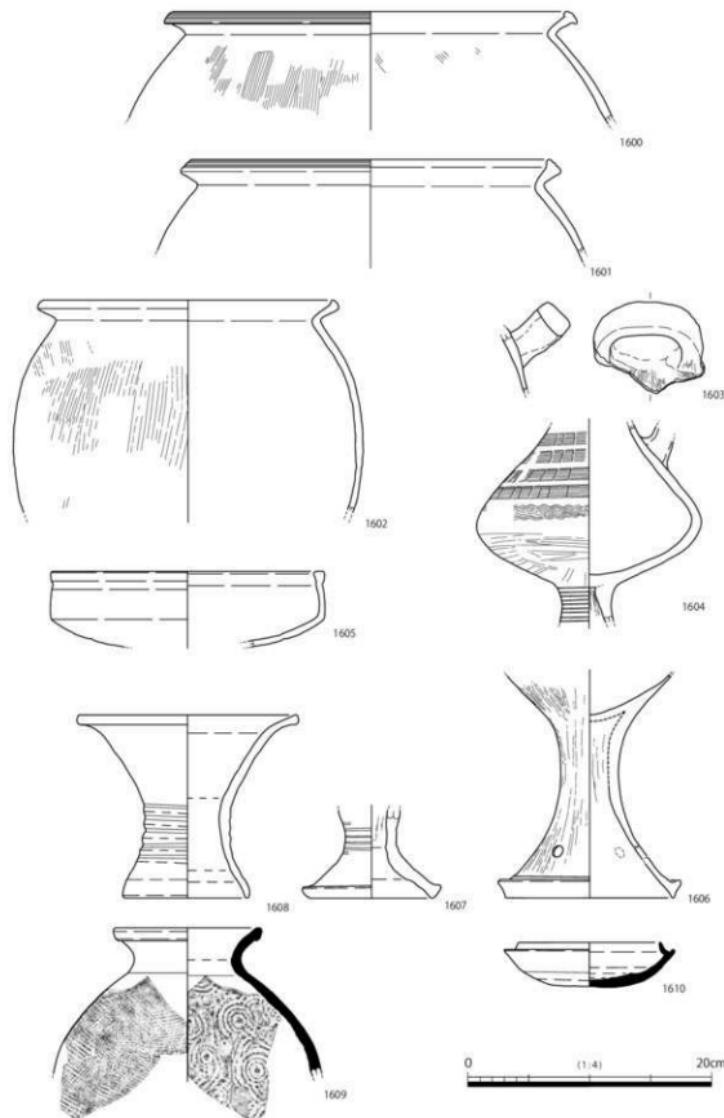


図 237 2017-1 調査 A 区包含層出土遺物実測図 (2)

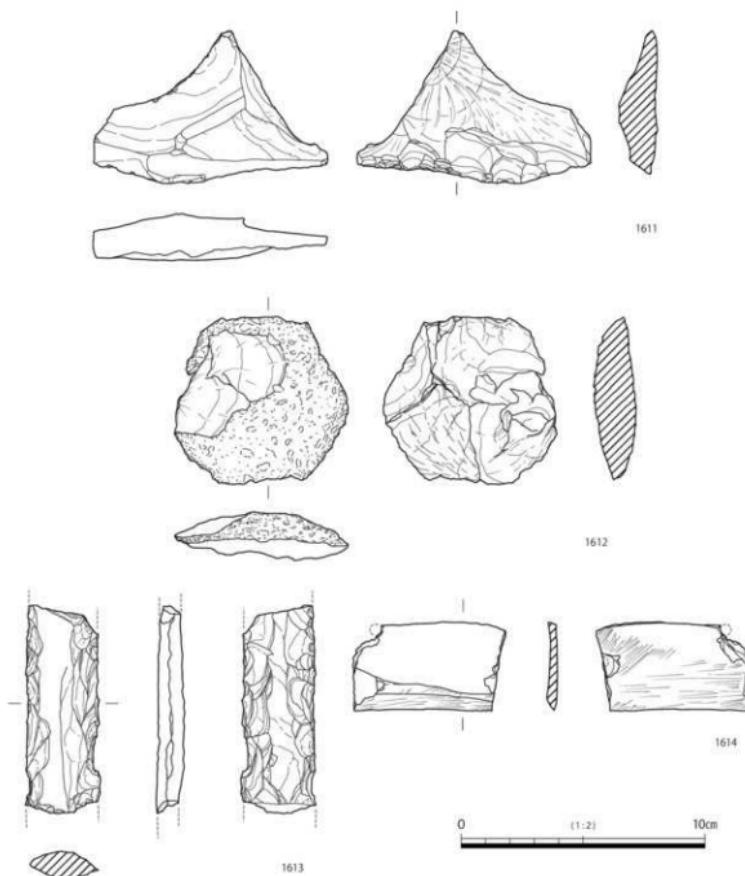


図238 2017-1調査 A区包含層出土遺物実測図（3）

められる。1610は須恵器杯身である。受け部は斜め上方に延び、たちあがりは内傾し端部は丸く收める。TK 43型式である。

1611は二次加工のある剥片である。長さ6.25cm、幅9.6cm、厚さ1.9cmを測り、重量73gを量る。石材はサヌカイトである。1612はサヌカイトの石核である。母岩の表面を打ち欠いたものと思われる。長さ6.9cm、幅7.15cm、厚さ2.0cmを測り、重量79gを量る。1613は打製石槍である。切っ先と基部を欠く。両側に刃部を形成している。残存長9.5cm、幅4.15cm、厚さ1.2cmを測り、重量40gを量る。石材はサヌカイトである。

1614は磨製石包丁である。平面形態は両端を欠くので、確実ではないが、直線刃半月形を呈すると思われる。残存長6.25cm、幅3.65cm、厚さ0.45cmを測り、重量18gを量る。石材は粘板岩である。

## (5) 小結

2017-1調査は、小規模な調査ながら、多くの遺構・遺物を確認することができた。A区においては、調査区内全体を溝が複数切り合っており、溝が埋没した後、18土器棺墓などの土坑が掘削されたとみられる。出土した遺物には、古墳時代以降のものも含まれるが、多くは弥生時代中期後葉の遺物であった。

10溝は、最下層において完形に近い土器が確認されたことから、墓の周溝である可能性がある。確認した土器はいずれも中期後葉の土器であり、溝の帰属時期も中期後葉に位置づけられる。この溝に切られる6溝には中期中葉から後葉の土器が認められる。また、6溝を切る11溝についても中期後葉の土器が出土する。従って中期後葉のなかで6溝が埋没し、その後に順次10溝、11溝が掘削されたと推測される。その中で、中期中葉から後葉に18土器棺が埋葬された。10溝と18土器棺墓が同時期に並存したならば、10溝の内側に18土器棺墓がつくられたことになる。しかし、出土土器の様式からは10溝出土土器の方がやや新しい様相が認められるため、両者並存の可能性は少ないと思われる。

5溝は、須恵器片が混じり古墳時代以降に埋没したものと考えられる。検出位置やその指向する方位から2016-1調査C区において検出した588溝と連続する可能性がある。

## 第V章 総括

### 第1節 中河原遺跡の各時代

#### (1) はじめに

前章で報告したとおり、これまでの中河原遺跡の発掘調査において、縄文時代から中世に至る遺構・遺物を確認した。以下、時代ごとにその成果を総括したい。

#### (2) 各時代の推移

##### 縄文時代後期

2001-1調査において後期前葉頃の土器1点を確認した。また、1980-2調査において縄文時代所産の可能性がある石棒の頭部が出土している。僅かながら、縄文時代の遺物が出土したことにより、周辺にこの時期の遺構などが存在する可能性がある。

##### 弥生時代中期前葉（図239）

1978-1調査、2016-1調査において、方形周溝墓の一部である可能性をもつ溝を検出した。いずれも2016-1調査（C区）東端に近接しており、当該期の墓域を想定することができる。この他、2016-1調査（A区）においても、その可能性を示す溝を検出しが、C区北東に想定した墓域からはやや離れる。ただし、A区の東部で検出されており、既存建物に損壊されていたため調査できなかった範囲を挟んで、当該地東側一帯が墓域であった可能性も残る。

2016-1調査（C区・D区）においては、地形が大きく下る位置に「コ」の字状の溝（1562溝）と、地形が下った位置に等高線に平行する大規模な溝（1561溝）が検出された。これらの遺構が同時並存したと仮定して大胆に憶測する事が許されるならば、高低差と大規模な溝によって、低い土地と物理的かつ視覚的に隔絶した土地は、当該期の集落において重要な位置を占めていたとも想像される。1562溝はその形状から方形周溝墓の可能性も考えられるが、集落内において特異な様相を示すことから、断定するには躊躇を覚える。その西側がどのような土地利用をされていたかによって、その評価は大きく左右される。今後の調査の進展を俟って改めて検討したい。

##### 弥生時代中期後葉（図239）

2007-1調査、2016-1調査（C区）、2017-1調査（A区）において、方形周溝墓の一部である可能性をもつ溝を検出した。いずれも2016-1調査（C区）中央北側に近接しており、当該期の墓域を想定することができる。また、2016-1調査（C区）、2017-1調査（A区）において、土器棺墓を検出した。これについても、上に想定した墓域に含まれると考えられる。ただし、2016-1調査（B区）において検出した土器棺墓は、想定した墓域からは南に離れており、必ずしも上に想定した墓域に埋葬されるものではなかったと考えられる。ただし、この位置も居住域の周縁部と想定される。なお、国道171号線の東側において実施した1990-1調査において確認した方形周溝墓状遺構も上の想定地から離れるが、そもそも方形周溝墓とするには問題が残る。

一方、2016-1調査（C・D区）に堅穴建物跡が複数認められた。これらの詳細な時期は明確にできないが、中期前葉から後葉の土器などを廃棄した土坑等が検出されたことなどからも、2016-1調査（C・D区）中央に弥生時代における居住・生活域が想定される。

2016-1調査（D区）において検出した1632土坑から、絵画土器が2点出土した。そのうち、1点には切妻造りの高床建物が5棟描かれていた。この土器絵画については、節を改めて検討する。

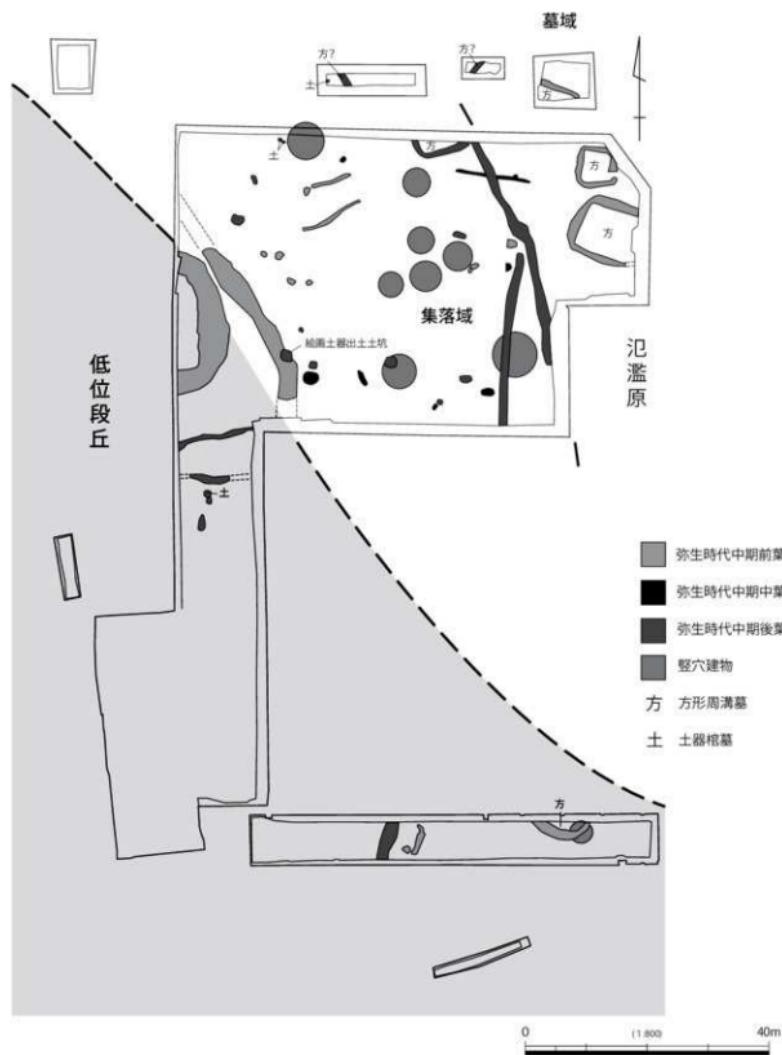


図 239 弥生時代時期別遺構配置図

### 古墳時代前期

1978-1 調査において、古墳時代前期の遺物が認められた。また、1980-2 調査において出土した皮袋形土製品は弥生時代末～古墳時代初頭に比定される。皮袋形土製品は類例が少なく、かつ本例は体部に絵画が描かれていることも注目される。このように、遺物は確認できたが、明確な遺構の検出には至らなかった。

### 古墳時代後期・飛鳥時代

2016-1 調査において、古墳時代後期から飛鳥時代の竪穴建物、掘立柱建物、土坑等を確認した。特に 2016-1 調査（A 区）は、当該期の居住域として考えられる。また、1992-1 調査において飛鳥時代の土坑を確認した。これらのことから、当該期の居住域が中河原遺跡の南西に広がる千里丘陵裾から現在の国道 171 号線のあたりまで及んでいたと想定される。さらに中河原遺跡の北端部において実施した 1985-1 調査においても、古墳時代後期の遺物が一定程度出土した。遺構の性格等不明な部分が多く、上に想定した居住域からやや離れるが、何らかの生活範囲としては認められるであろう。

また、注目できる遺物として、1978-1 調査、1985-1 調査において、数点の小片ではあるが埴輪が出土した。周辺に埴輪をもつ古墳が存在した可能性がある。

### 奈良時代・平安時代

中河原遺跡西端の 1997-1 調査において 8 世紀初頭の掘立柱建物や土坑等を確認した。周辺の人々は、飛鳥時代に引き続き奈良時代においても千里丘陵裾の土地を占めていたと想定される。一方、現在の茨木川流路が近迫する 1990-1 調査においても、8 世紀の遺構・遺物を僅かに確認した。茨木川に近接する低地においても、当該期の営為の範囲としては認められるであろう。

平安時代前期の遺構は、2016-1 調査（A 区）において 9～10 世紀の井戸を確認するのみで、散発的な様相を呈する。遺物についてもわずかである。また、1978-1 調査において 11～12 世紀の井戸を確認した。平安時代を通じて散発的に遺構・遺物が確認され、何らかの営為は確認できるものの、中河原遺跡の平安時代については未だ不明な点が多く、今後の課題である。

### 中世

2016-1 調査（A 区）において、12～13 世紀の掘立柱建物を検出した。正方位を指向する外周に庇や縁が取りつく建物である可能性があり、注目される。ただし、調査区に制限があり、周間に同時期の関連する建物等を確認することはできなかった。

また、千里丘陵裾部の 1992-3 調査において、耕作に関連すると考えられる溝を確認した。耕作面積を拡大するために、斜面地を造成して耕作地とすることが大規模に行われ始めていたのではないだろうか。

当該期の特徴的な遺物として、1 点はあるが、1980-2 調査において、滑石製石鍋が出土した。近畿地方の石鍋出土遺跡は「物資の集積（港湾）遺跡、官人層の居宅、莊園中核遺跡、寺院関係遺跡など主要幹線沿いの遺跡に集中して」いるとされる〔松尾 2017〕。この時期の中河原遺跡の性格を考える上で重要であろう。

### （3）まとめ

以上のように、中河原遺跡のこれまでの発掘調査によって、弥生時代中期を中心複数時期の遺構・遺物を確認した。千里丘陵裾部から、茨木川流路に向かって緩やかに下っていく地形上に位置しており、その立地が各時代の土地利用に好条件をもたらしたのではないだろうか。さらに、少なくとも奈良時代以降には、幹線道路が遺跡内及び近辺を通過したと考えられ、中距離・遠距離交通においても優位な土地であったであろう。今後の発掘調査によって、隣接する郡遺跡や郡山遺跡を含めて、奈良時代以降についても資料が増加すると思われる。

## 第2節 中河原遺跡出土の弥生土器絵画

### (1) はじめに

本書第IV章第13節において報告したように、2016-1調査（D区）の1632土坑から弥生時代中期後葉の2点の絵画土器が出土した（以下、5棟の建物表現を「中河原絵画A」、意匠不明の線刻を「中河原絵画B」という）。中河原絵画Aは極めて稀有な資料であることから、本節において改めて整理したい（註1）。

### (2) 茨木市内における弥生時代絵画

茨木市内において、土器・土製品に描かれた絵画は意匠不明のものを含め、これまでに32点が報告されている。そのほとんどが東奈良遺跡出土であり、26点に上る〔大阪府文化財調査研究センター1998、茨木市2014、正岡2019・2022、高村2020〕。銅鐸が描かれたものや、刺突列点による人物表現、シカ、建物、舟、竜など多様な画題が認められる。この他、郡遺跡・倍賀遺跡において出土した銅鐸形土製品にシカが描かれたものがある〔茨木市教育委員会・大阪府文化財センター2018〕。また、やや時代は下るが、溝呬遺跡より弥生時代後期から古墳時代前期に位置づけられる人面を含む線刻土器が計5点出土している〔大阪府文化財調査研究センター2000、茨木市2014〕。これに1980-2調査（第IV章第3節）で出土した皮袋形土製品に認められた線刻と、中河原絵画A・Bの2点が加わる。総数で35点である。

古墳時代に下る皮袋形土製品と溝呬遺跡出土のものを除くと、茨木川右岸に点在する弥生時代中期の遺跡より出土していると見ることができる（註2）。東奈良遺跡は鋳造関連遺物とともに環濠をもつ大規模集落として知られる。郡遺跡・倍賀遺跡についても多くの方形周溝墓と集落域が確認されており、それとともに鋳造関連遺物も出土する大規模な集落である。茨木市内の遺跡については、大規模とみなしうる集落から絵画をもつ土器や土製品が出土していることが確認できる。

### (3) 中河原絵画Aの特徴

#### 1 明らかに建物の表現と評価できる線刻が5棟分確認できること。

5棟すべてに屋根、棟先飾り、柱の表現が認められ、建物表現であるということについて、推測を差し挟む余地が少ないと見ることは資料として極めて重要な点である（註3）。また、建物4は梯子がかかり、高床であることを明白に示す。建物4以外についても、屋根、棟先飾り、柱の表現等が共通することから同様の高床建物である蓋然性が極めて高い。

5棟以上の建物が表現される土器絵画は、中河原絵画Aのほか福岡県大木遺跡出土例、奈良県中曾司遺跡例が知られる。大木遺跡出土例は抽象化の進んだ建物が8棟表現される。高床建物と平屋建物など複数種の異なる構造の建物が描かれたと想定されている〔筑前町史編さん委員会2016〕。中曾司遺跡出土例は切妻建物、寄棟建物や不鮮明な竪穴建物など、複数種の異なる構造の建物が描かれているという点で同様である〔奈良県立橿原考古学研究所2003〕。5棟以上の建物表現であっても、中河原絵画Aと同様に扱うには注意を要する。

#### 2 出土状況が明らかであること。

絵画土器は洗浄中に発見されることが多く、出土状況が明らかなものは少ない〔橋本1987〕。中河原遺跡出土絵画土器は報文のとおり（第IV章第13節）、1632土坑より弥生時代中期後葉に帰属する土器とともに、中河原絵画Aが描かれた土器片が、中河原絵画Bが描かれた壺に張り付くように出土したことが明らかである（巻頭図版2-2）。この事実は複数の絵画土器が同時期に廃棄されたことを示唆する。ただし、同時期に廃棄されたと考えられるものは壺、甕、高杯、器台、石器などと多様であり、廃棄において特別の選別等は認められない。

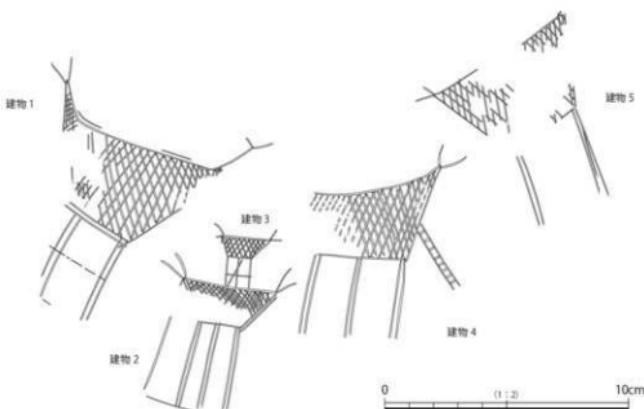


図 240 中河原絵画 A 展開図

3 線刻が多く、線刻方法や手順、道具を推測することなどが可能であること。

屋根部分を充填する斜格子は、まず先に右上から左下へシャープで深い線が刻まれ、後に左上から右下に浅い線が刻まれている。描き手の利き手や手順、工具などを検討する材料になろう。また、建物4や5は、線刻自体がやや太くなり線刻内部に凸線が見えている。線刻道具の先端部分が消耗により割れていると思われる。この痕跡から線刻道具は先端が消耗によって削れる素材であり、草木などの繊維質の素材の先端を鋭利にしたものと推測できる。

4 建物表現に具象性が読み取れること。

村田幸子氏は、棟の両端に認められる「V」字形の線刻について、これまで出土した建物の土器絵画で他にこのような例はないとして、東奈良遺跡で出土した刺突で表現した人物絵画と合わせて、弥生時代中期後葉の摂津等における具象性の高まりや描画方法の多様化を指摘された〔村田 2022〕。

#### (4) 描かれた高床建物の評価

弥生時代の絵画表現については、これまでに多くの研究が蓄積されている〔橋本 2006〕。本項では、向後の議論の土台となるべく、弥生時代における建物絵画について、先行研究の所説を整理したい（註4）。

##### 島田貞彦氏の所説〔島田 1924〕

古く島田氏は、伝讚岐銅鐸に描かれた建物について、高床であることに着目し、描出されたものは一般住宅ではなく「倉庫の建築」であるとした。

##### 桐原健氏の所説〔桐原 1965〕

桐原氏は、1965年当時に報告されていた5例の弥生時代の建物絵画について検討され、高床建物であること、柱間3間の建物であることなどを指摘した。その上で、これらの特徴と発掘調査によって検出された遺構などを比較検討され、2本並列の柱穴を持つ規模が比較的小さく鼠返しのつくA類と、4本並列（八本柱）の規模が比較的大きいB類とに分類し、A類を倉庫、B類及び描かれた高床建物を「倉庫ならざる高床家屋」と想定した。この「倉庫ならざる高床家屋」については、「南洋諸島々民の絵画中最大の比重を占めているものが彼らの集会所である」ことを指摘し、「集会所説」を提唱した。

##### 金閥恕氏の所説〔金閥 2017〕

金閥氏は、弥生時代における建物表現の意味について、1985年当時に知られた24例の土器・銅鐸

に表された家屋の図形を検討された。描かれた建物は、圧倒的に高床切妻建物が多いことや、2棟を一場面に描くものがあることなどを指摘されるとともに、その来源である朝鮮半島の例に考察が及ぶ。稻作文化複合の一要素として、高床建物とともに「鬼神」を祀る祖靈崇拜が朝鮮半島、北九州へ渡来したと考えられ、「魏書」東夷伝などの史資料から、「鬼神」を祀る祭儀として、双倉風、あるいは2棟の高床建物に男女一対の木彫りの農耕神像を納め祀る一場面を想像された。

辰巳和弘氏の所説（辰巳 1990）

辰巳氏は、古墳時代における「タカドノ祭儀」の具体像（①春先に行われる国見、②秋における鹿鳴聴聞、③ウケヒ寝による神託の授受、④夢あわせ（夢占い）、⑤新嘗、⑥首長権（王権）継承）を史料より抽出し、その淵源が弥生時代の絵画に見られるとする。すなわち、弥生時代に民間にひらく実修されていた農耕儀礼が、地域首長権の拡大伸長に伴い、古墳時代に首長祭儀として昇華され、より政治的性格が付加されることにより、大王によるタカドノ祭儀が成立したとされる。

春成秀爾氏の所説（春成 1991）

春成氏は、土器や銅鐸に描かれた建物や家を象った土製品の事例35例を収集し、建物a～建物dに分類した。建物aは切妻高床の建物で収穫した稲穀を収納する高床倉庫とし、鹿と組み合う例が多く、建物aと鹿は関連が深く、対の関係にあったと推定される。建物bは寄棟の丈の高い建物であり、鶴と対応すると考えられ、鶴を祀る祠であると想像される。建物cは寄棟または入母屋の平地式の建物であり、特別の装飾をもたず、複数棟描いていることから住居とされながらも、古墳時代の例などから祭儀用の建物であった可能性を指摘される。建物dは切妻で高い屋根にやや低い立壁をもつ建物とする。また、銅鐸と土器における図像の出現頻度や象徴性を検討され、鶴は春から初夏の稲の象徴、高床建物は秋の稲の象徴として描かれたとし、このような象徴体系が背景として存在すれば、一つを描いただけでその効果は表れる信じられてきたとされる。

### （5）先行研究と中河原絵画A

ここで以上にまとめた先行研究を、中河原絵画Aに引き付けて考えたい。

表現された建物絵画を「倉庫的建築」とする島田氏の指摘を基礎に、桐原氏はパラオ諸島の絵画を例に挙げ集会所説をとられた。中河原絵画Aに描かれた建物を集会所とすると、5棟の集会所が同じ画角に納まることになり不自然さを感じるが、この南洋の事例は大変示唆に富む。後に金閔氏も指摘しているように、それらは島民にとって重要で神聖なものであったのである（金閔 2017）。

金閔氏の主眼は、一場面に2棟描かれた建物の解釈にあったと思われる。それを中心に見据え、朝鮮半島における2棟の高床建物を必要とする農耕祭儀の風景を想定され、それが稻作文化とともに日本列島に渡来し、祠堂としての2棟の高床建物や祭儀の場面が描かれたと考えられた。1985年以降に、建物3棟以上描かれた絵画土器が出土し、金閔氏の解釈では理解できない事例が認められることになるが、複数の建物が描かれた意味を追求する視点は、中河原絵画Aを考えるとき大変参考になると思われる。

辰巳氏の弥生絵画についての視点は、古墳時代の祭儀との共通項の抽出であり、それから復元できる弥生時代における農耕儀礼の具体像であったと思われる。史料に見られる「タカドノ祭儀」は、実修する者がタカドノに登り、祭儀を行う。辰巳氏が明らかにした「タカドノ祭儀」はすでに複数棟を必要としないであろう。

春成氏の所説を参考にすると、中河原絵画Aは建物aすなわち秋の稲の象徴を描いたと考えられる。秋の稲の象徴を5棟描くことにどのような意味があったのかなど、やはり問題が残る。

以上のように、中河原絵画Aの解釈について、先行研究に照らした結果、ほぼ同構造の切妻高床建物が5棟描かれていることが解釈を困難にしていると思われる。これを、棟持柱や梯子の有無、屋根の

形状、大きさなどの詳細な点を有意な差とみなし、5棟の建物間に機能差を考えるべきなのか、はたまた佐原真氏や藤田三郎氏が指摘した「群鹿」などのように〔佐原 1980、藤田 1998〕、同構造の図像が連續し描かれたと見るべきなのか、本書においてこれらの問題を解決することは難しい。これらの問題を念頭に、今後の資料の増加を俟ちたい。

#### (6) おわりに

これまでの検討とは別の視角から、実際に集落内に中河原絵画Aに描かれたような高床建物が立ち並ぶエリアがあったとする見解がある〔大阪府立弥生文化博物館 2018〕。これまでの発掘調査において、それに相当すると考えられる遺構は検出できていない。実存する建物を描写したものかどうかという問題については今後の課題とせざるを得ないが、描く対象や員数の決定は、弥生時代の人々にとって重要ななものであり、一定の象徴体系を背景にしたものと考えられるであろう。従来の解釈は、一つの土器片に1棟から3棟程度の建物表現事例（註5）から、その神聖性や重要性が強調されてきたきらいがある。ほぼ同形の高床建物が5棟分描かれている中河原絵画Aはその評価を幾つか相対化し得ると考えられる。少なくともこの意味で、中河原絵画Aは弥生時代絵画の解釈に新たな材料を提示したと思われる。

#### 註

- 1 中河原絵画Aについては図196及び図240、中河原絵画Bについては図194に掲載した。また、特に中河原絵画Aにおいて描かれた建物は、同図に付した「建物1」等と呼称する。参照されたい。
- 2 このほか弥生時代中期に属する代表的な遺跡として、安威川左岸に目垣遺跡などが知られるが、絵画土器は現在のところ確認されていない〔茨木市教育委員会 1999〕。
- 3 中河原絵画Aの建物2・3を合わせて重層建築の表現である可能性を指摘するものもある〔大阪府立弥生文化博物館 2018〕。本書では建物2の棟を表現した横方向の線刻と、建物3の柱を表現した縱方向の線刻が完全につながっていないこと〔高村・川村 2019〕や、弥生時代の絵画表現において切妻建物の重層建築が認められないことを重視し、別個の建物表現として扱う。
- 4 描かれた高床建物をとりあげた専論による議論等を背景に、近年の展示図録等では稻穀などを貯蔵する特別で重要な倉庫とし、農耕儀礼や祭祀との関係で説明されることが一般的に認められる〔大阪府立弥生文化博物館 2006・岩戸 2008・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 2017〕。
- 5 また、やや趣の異なる研究として、安藤広道氏の研究が挙げられる。安藤氏は建物を「自然」に対峙、超克する存在としての人間を象徴するものとして捉え、絵画の背景にある「構造」を考究された〔安藤 2006〕。中河原絵画Aは土器片いっぱいに高床建物が5棟描かれているが、現状において建物と組み合うシカなど、ほかの対象は認められない。しかし、絵画土器出土時には、現在把握できる以上に線刻があるようにも見える〔高村・川村 2019〕。出土以後の「整理」中に、微細な部分で情報が失われた可能性も残す。そのため、中河原絵画Aは、対峙する「自然」が確認できるわけではないが、安藤氏が想定した「構造」が背景にあったと考えることについて否定する材料はない。
- 6 養久山・前地遺跡出土例は、断片ながら人物やシカ4頭とともに3棟の建物が描かれ、絵画全体が想定できる貴重な例である〔龍野市教育委員会 1995〕。当該報告書の復元案では人物の左にシカ2頭を挟んで切妻建物と寄棟建物、右に寄棟建物を配置し、農耕儀礼の場面を描いたと評価される。また、人物左の切妻建物は来年の豊穣を託された種穀を保管する倉庫、寄棟の建物は豊穫を祈る儀礼空間を提供する神殿、人物右の寄棟建物は人物の居室あるいは首長の居宅の表現と想像される。祭祀が異なる機能を持った複数の建物によって構成されるという見解は注目されるが、中河原絵画Aは、5棟すべてが切妻建物であり大きな構造差や機能差を見出すことは難しい。この想像のように、穀倉、神殿、シャーマンや首長の居宅等を必要とする祭祀が存在したとしても、中河原絵画Aはそれ以上に建物が描かれ、やはり解釈に支障をきたす。

## 参考文献

### 第Ⅰ章

高村勇士 2018 「茨木市中河原遺跡の調査－中期の集落－」『近畿弥生の会 第21回集会 滋賀場所（夏場所）資料集』  
近畿弥生の会

高村勇士 2019 「中河原遺跡」『歴史発掘おおさか 2017-2018－大阪府発掘調査最新情報－』大阪府立近つ飛鳥博物館

高村勇士・川村和子 2019 「中河原遺跡出土の絵画土器」『茨木市立文化財資料館 館報』第4号 茨木市立文化財資料館

### 第Ⅱ章

足利健亮 1985 「第五章 第一節 摂津を東西に貫いた計画山陽道の復元」『日本古代地理研究』大明堂

泉 拓良 1999 「大阪の遺跡からみた縄文時代」『大阪を撮る～遺跡でたどる大阪の歴史～』 大阪都市協会

茨木市 2012 「新修 茨木市史」第一巻 通史Ⅰ

茨木市 2014 「新修 茨木市史」第七巻 資料編 考古

茨木市 2016 「新修 茨木市史」第二巻 通史Ⅱ

茨木市 2016 「新修 茨木市史」第三巻 通史Ⅲ

茨木市教育委員会 1982 「耳原遺跡発掘調査概報」

茨木市教育委員会 1992 「平成3年度発掘調査概報」

茨木市教育委員会 2000 「平成11年度発掘調査概報」

茨木市教育委員会 2002 「平成13年度発掘調査概報」

茨木市教育委員会 2003 「東奈良」

茨木市教育委員会 2005 「郡遺跡発掘調査概要報告書」

茨木市教育委員会 2010 「平成20年度発掘調査概報」

茨木市教育委員会 2015 「太田遺跡発掘調査概報」

茨木市教育委員会 2015 「中条小学校遺跡発掘調査報告書」

茨木市教育委員会 2016 「国史跡 郡山宿本陣－椿の本陣－」

茨木市教育委員会・大阪府文化財センター 2018 「郡遺跡・倍賀遺跡」

茨木市教育委員会 2020 「下穂積遺跡」

茨木市教育委員会・大阪府文化財センター 2020 「太田遺跡・太田庵寺跡 太田遺跡・太田城跡」

茨木市教育委員会 2022 「宿久庄遺跡」

大阪府教育委員会 1976 「東奈良遺跡発掘調査概要」

大阪府教育委員会 1996 「新庄遺跡」

大阪府教育委員会 2003 「福井遺跡」

大阪府教育委員会 2006 「福井遺跡Ⅱ」

大阪府教育委員会 2009 「福井遺跡Ⅲ」

大阪府文化財調査研究センター 1998 「玉櫛遺跡」

大阪府文化財センター 2003 「玉櫛遺跡Ⅱ」

大阪府文化財センター 2005 「福井遺跡」

大阪府文化財センター 2008 「玉櫛遺跡Ⅲ」

大阪府文化財センター 2014 「千提寺南遺跡」

大野 薫 1997 「生駒西麓域の縄文集落」『河内古文化研究論集』柏原古文化研究会編 和泉書院

岡田 賢 2018 「西福井遺跡の発掘調査について－府立福井高等学校建設に伴う発掘調査の概要－」『茨木市立文化財資

- 料館 館報』第3号 茨木市立文化財資料館
- 木庭元晴 2012「第一章 基盤地質」「新修 茨木市史」第一巻 通史Ⅰ 茨木市
- 木村健明 2017「中条小学校遺跡(CJS12-1)調査出土遺物(補道)」「茨木市立文化財資料館 館報」第2号 茨木市立文化財資料館
- 木村健明 2019「茨木市域における縄文時代の様相—安威古墳群出土縄文土器の紹介をかねて—」「茨木市立文化財資料館 館報」第4号 茨木市立文化財資料館
- 京都大学大学院文学研究科考古学研究室 2007『紫金山古墳の研究—埴丘・副葬品の調査—』
- 清水邦彦 2017「弥生時代鍛造技術と工人集団—近畿地域出土送風管の検討を中心に—」「日本考古学』第44号 日本考古学協会
- 高村勇士 2020「島下郡殖村駅家を考えるために—畿内の駅家と35足の駅馬—」「茨木市立文化財資料館 館報」第5号 茨木市立文化財資料館
- 高村勇士 2021「島下郡殖村駅を考える1—研究史の整理—」「茨木市立文化財資料館 館報」第6号 茨木市立文化財資料館
- 辻本充彦 1977「三島地方採集の石器」「大阪文化誌」第3巻第2号 大阪文化財センター
- 豊田裕章 2007「茨木城・城下町の復元案と廃城の経過」「よみがえる茨木城」清文堂出版
- 中西裕樹 2015『大阪府中世城館事典』戎光祥出版
- 中西裕樹 2019『戦国摂津の下克上 高山右近と中川清秀』戎光祥出版
- 奈良国立博物館 2001『仏舍利と宝珠—积迦を慕う心—』
- 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館 1989『仏舍利埋納』
- 馬部隆弘 2016「第一節 織豊期の茨木」「新修 茨木市史」第二巻 通史Ⅱ 茨木市
- 藤岡謙二郎 1960「小字名と地形の検討からする「延喜式」の諸駅及び交通路の歴史地理学的研究」「都市と交通路の歴史地理学的研究」大明堂
- 森田克行 1989「三島地方の縄文土器」「高槻市文化財年報 昭和61・62年度」高槻市教育委員会

#### 第IV章

##### 遺構

- 石野博信 1990「第1章 古代日本の住居」「日本原始・古代住居の研究」吉川弘文館(初出:1975「考古学からみた古代日本の住居」『家』社会思想社)
- 鐘方正樹 2003『井戸の考古学』同成社
- 弥生時代の遺物
- 茨木市教育委員会 1978「茨木市都遺跡発掘調査概報—上穂積・畠田地区—」
- 大阪府立弥生文化博物館 2020「弥生農耕—田んぼとはたけ—」
- 大野 薫 1989「匙形土製品小考」「大阪文化財論集」大阪文化財センター
- 角南聰一郎 1993「『祭祀土製品』小考」「大阪文化財研究」第5号 大阪文化財センター
- 角南聰一郎 1994「分銅形土製品考—文様表現と断面形態を中心として—」「文化財論集」文化財学論集刊行会
- 角南聰一郎 1999「弥生時代多孔土器初論」「滋賀考古」第21号 滋賀考古学研究会
- 滋賀県立安土城考古博物館「弥生の『祈り人』～よみがえる農耕祭祀～」
- 清水真一 1992「分銅形土製品に寄せて」「みづほ」第6号 大和弥生文化の会
- 園原悠斗 2021「近畿地域における弥生時代打製石器の研究」「日本考古学」第52号 日本考古学協会
- 西口陽一 1989「近畿・磨製石剣の研究」「大阪文化財論集」大阪文化財センター
- 東奈良遺跡調査会 1979「東奈良 発掘調査概報!」

東奈良遺跡調査会 1981『東奈良 発掘調査概報 II』

平井 勝 1991『弥生時代の石器』ニュー・サイエンス社

間壁賀子 2009「古代出雲と医薬」への覚書—クナヒコナの羽根・篇闇・小形多孔土器—』『考古学の視点 生活意識の考古学』間壁賀子喜寿記念論文集（初出：1998『神女大史学』15号 神戸女子大学）

森田克行 1990『摂津地域』『弥生土器の様式と編年』近畿編II 木耳社

#### 古墳時代の遺物

青柳泰介 1995『家形埴輪の製作技術について』『日本の美術 348 家形埴輪』至文堂

大阪府文化財センター 2007『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅶ』

清水琢哉 2015『鳥形土製品・革袋形土器とその類例』『みずは別冊2 弥生研究の交差点』大和弥生文化の会

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

辻 美紀 1999『古墳時代中・後期の土器に関する一考察』『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室・大阪大学考古学友の会

#### 古代の遺物

古代の土器研究会 1992『古代の土器 I 都城の土器集成』

古代の土器研究会 1996『古代の土器 4 煮炊具(近畿編)』

奈良文化財研究所・歴史土器研究会 2019『飛鳥時代の土器編年再考』

#### 中世の遺物

岩井宏美 1978『曲物の用途』『大阪市立博物館 研究紀要』第10冊 大阪市立博物館

上田秀夫 1982『14～16世紀の青磁碗の分類について』『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

小森俊寛 2005『京から出土する土器の編年研究—日本律令の土器様式の成立と展開、7～19世紀』京都編集工房

太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』

中世土器研究会 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

中世土器研究会事務局 2015『東播系須恵器の分類と編年』『中世土器の基礎研究』26 日本中世土器研究会

西村 歩 1994『曲物の細部技法—縫じ方を中心として—』『文化財学論集』文化財学論集刊行会

乗岡 実 2000『備前焼描跡の編年について』『第3回中世備前焼研究会資料』中世備前焼研究会

松尾秀昭 2017『石鍋が語る中世 ホゲット石鍋製作遺跡』新泉社

山田清朝 1989『火打金について』『中尾城跡』兵庫県教育委員会

## 第V章

安藤広道 2006『弥生時代「絵画」の構造』『原始絵画の研究 論考編』六一書房

茨木市教育委員会 1999『平成9・10年度発掘調査事業報告 付. 目垣遺跡(第97-1次・第98-1次)発掘調査略報』

岩戸晶子 2008『表現された建築—先史・古代の例を中心に—』『特別陳列 建築を表現する—弥生時代から平安時代まで—』奈良国立博物館

大阪府文化財調査研究センター 1998『東奈良遺跡』

大阪府文化財調査研究センター 2000『溝町遺跡(その1・2)』

大阪府立弥生文化博物館 2006『弥生画帖—弥生人が描いた世界—』

大阪府立弥生文化博物館 2018『弥生のマツリを探る 祈りのイメージと祭場』

金閑 慣 2017『弥生土器絵画における家屋の表現』『考古学と精神文化』雄山閣出版(初出:1985『弥生土器絵画における家屋の表現』『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集 国立歴史民俗博物館)

桐原 健 1965『弥生時代の家屋絵画が意味するもの』『考古学研究』第11卷第4号 考古学研究会

佐原 真 1980『弥生時代の絵画』『考古学雑誌』第66卷1号 日本考古学会

- 島田貞彦 1924 「銅鐸に描かれたる家形と人物図様について」『考古学雑誌』第 14 卷第 8 号 日本考古学会
- 高村勇士 2020 「東奈良遺跡」『歴史発掘おおさか 2019 —大阪府発掘調査最新情報—』大阪府立近つ飛鳥博物館
- 龍野市教育委員会 1995 「養久山・前地遺跡」
- 辰巳和弘 1990 「高殿と古代王権祭儀」『高殿の古代化—豪族の居館と王権祭儀』白水社
- 筑前町史編さん委員会 2016 『筑前町史』上巻 築前町
- 奈良県立橿原考古学研究所 2003 『奈良県の弥生土器集成』本文編
- 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 2017 『新作発見！ 弥生絵画一人・動物・風景一』
- 橋本裕行 1987 「弥生土器の絵」『季刊考古学』第 19 号 雄山閣出版
- 橋本裕行 2006 「弥生絵画研究のあゆみと展望」『弥生画帖—弥生人が描いた世界—』大阪府立弥生文化博物館
- 春成秀爾 1991 「描かれた建物」『弥生時代の掘立柱建物 本編』第 29 回研究集会実行委員会
- 藤田三郎 1998 「弥生時代の絵画・記号」『考古学による日本歴史 12 芸術・学芸とあそび』雄山閣出版
- 正岡大実 2019 「[参考資料] 東奈良遺跡出土の新出絵画土器」『都遺跡・信賀遺跡発掘調査成果シンポジウム「みえてきた弥生の風景」レジュメ』茨木市教育委員会
- 正岡大実 2022 「東奈良遺跡出土人物表現のある円盤土製品について」『茨木市立文化財資料館 館報』第 7 号 茨木市立文化財資料館
- 村田幸子 2022 「弥生時代土器絵画の多様性について」『大阪文化財研究』第 55 号 大阪府文化財センター

表4 遺物観察表(1)

測定次数	測定番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考	
1978-1	1	A区溝1	土師器	皿	口径: (8.7) 器高: 1.5	1/8	外・断・内: 10YR7/4にぶい 黄相 内: 2.5Y7/3灰黄	φ1mm以下のチャート、長石、金雲母、 カリ雲母含む	外面: ナデ 内面: 磨滅のため不明		
	2	A区溝1	黒色土器	碗	器高: △1.5 底径: (5.4)	高台部 1/3	外・断: 5YR7/6灰 内: 10YR7/2灰白 内: 2.5Y4/1黄赤	φ0.5mm以下のチャート、長石、 カリ雲母含む	外・内面: 磨滅のため 不明	A類	
	3	A区溝1	瓦器	碗	器高: △1.5 底径: (6.0)	高台部 1/4	外・断: 2.5Y8/1灰白 内: 2.5Y7/1灰白	φ0.5mm以下のチャート、 長石、カリ雲母含む	外・内面: 磨滅のため 不明		
	4	38	A区溝1	劔生土器	縦彫泡	口径: 6.05 器高: △7.73	瓶部 2/3	外・断・内: 10YR8/4 灰黄相	φ1.5mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: 磨損状況 内面: ユビオサエ、 ナデ	
	5	溝1	劔生土器	壺	器高: △4.0	—	外・断: 10YR7/4にぶい 黄相 内: 10YR5/2灰黄	φ1.5mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: 磨損状況 内面: ハケ、ナデ 内面: ハケ		
	6	38	A区溝1	劔生土器	広口壺	口径: (13.7) 器高: △12.3	口縁部 1/4	外・断: 2.5Y7/2灰黄 内: 2.5Y6/2灰黄	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	7	38	A区溝1	劔生土器	水差	器高: △18.0	体部 1/6	外・断: 7.5YR8/4にぶい 黄相 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ハケ 内面: ハケ、ユビオサエ 内面: 板付	
	8	38	A区溝1	劔生土器	底部	器高: △11.5 底径: 6.0	底部 完形	外: 10YR7/3灰・石英・黄相 内: 2.5Y7/3浅黄	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外・内面: 磨滅のため 不明	底面: 木葉
	9	—	A区溝1	劔生土器	底部	器高: △2.8 底径: (5.6)	底部 完形	外・断: 内: 10YR8/3 浅黄相	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	10	—	A区溝1	劔生土器	底部	器高: △2.45 底径: (4.6)	底部 完形	外・内: 10YR6/2灰黄相 内: 2.5Y3/1黒褐	φ3mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ナデ 内面: 板付	
	11	—	A区溝1	劔生土器	底部	器高: △4.1 底径: (5.2)	底部 1/2	外: 10YR7/3にぶい黄相 内: 2.5Y6/1灰黄	φ1.5mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ハケ、ナデ 内面: 磨滅のため不明	底面 (φ0.4cm)
	12	—	A区溝1	劔生土器	底部	器高: △8.1 底径: (5.4)	底部 1/2	外・断・内: 2.5Y8/3 灰黄	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	13	—	A区溝1	劔生土器	壺	口径: 12.2 器高: △4.5	口縁部 1/8	外・断・内: 10YR7/3 にぶい黄相	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ヨコナデ、ヘラ 内面: ハケ	
	14	—	A区溝1	劔生土器	甕	口径: (17.0) 器高: △6.4	口縁部 1/10	外・断・内: 10YR8/3 浅黄相	φ6mm以下のチャート、 長石、カリ雲母含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	15	39	A区溝1	劔生土器	甕	口径: 23.6 器高: △4.8 底径: 7.0	2/3	外・断・内: 10YR7/3 にぶい黄相	φ2.5mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、楓葉ペラミガキ 内面: ハケ	底面: 木葉
	16	38	A区溝1	劔生土器	高杯	器高: △6.2	脚柱部 完形	外・断・内: 7.5YR7/4 にぶい相	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ハケ後ミガキ 内面: ハケ	
	17	38	A区溝1	打製石器	二次加工のあ る剥片	長さ: 2.8 幅: (3.0) 厚さ: 0.5	—	—	サヌカイト	—	重量: 3.7g
	18	38	A区溝1	磨製石器	石臼	長さ: △5.3 幅: △5.0 厚さ: 0.6	2/3	外・断・内: 7.5YR7/3 にぶい相	粘板岩	—	重量: 17.8g
	19	38	A区溝1	石製品	砾石	長さ: 7.45 幅: 6.0 厚さ: 4.4	—	—	砂岩	—	重量: 281.0g
	20	41	D区 井戸1	土師器	皿	口径: 12.2 器高: 1.9	2/3	外・断・内: 7.5YR7/3 にぶい相	φ1mm以下のチャート、 長石、カリ雲母、 金雲母含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、ナデ	
	21	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径: (14.2) 器高: 2.4	2/3	外・断・内: 5YR7/6相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、内面: ヨコナデ、ナデ	
	22	—	D区 井戸1	土師器	皿	口径: (13.8) 器高: 2.0	1/4	外・断・内: 7.5YR6/4 にぶい相	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外・内面: ヨコナデ、 ナデ	
	23	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径: 13.7 器高: 3.0	2/3	外・断・内: 5YR7/6相	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、ナデ	
	24	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径: (14.2) 器高: 2.8	2/3	外・断: 5YR6/6相 内: 5.5YR7/4 にぶい相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英含む	外・内面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ	
	25	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径: 13.3 器高: 3.0	2/3	外・断・内: 7.5YR7/4 にぶい相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、ナデ	
	26	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径: 15.2 器高: 2.8	完形	外・断・内: 7.5YR8/3 灰黄相	φ1.5mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ナデ、ユビオサエ 内面: ナデ	
	27	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径: 12.9 器高: 2.9	完形	外: 10YR7/4にぶい黄相 内: 7.5YR7/3 にぶい相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英、カリ雲母含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、ナデ	
	28	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径: (13.0) 器高: 3.25	1/6	外・断・内: 7.5YR8/3 灰黄相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、ナデ	
	29	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径: 13.1 器高: 3.5	1/3	外・断・内: 7.5YR8/3 灰黄相	φ0.5mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、ナデ	

表4 遺物観察表(2)

測定次数	測定番号	出土地	器種	器形	法線(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考	
	30	-	D区 井戸1	土師器	皿	口径:(13.8) 高さ:2.0	ほぼ 完形	外・断・内:7.5YR7/4 内:ぶい相	φ1.5mm以下のチャーポト、長石、金雲母、 クサリ鐵、青白	外・内面:ヨコナデ、 チテ	
	31	-	D区 井戸1	土師器	皿	口径:(11.2) 高さ:1.5	2/3	外・断・内:7.5YR8/4 内:黄褐色	φ1mm以下のチャーポト、長石、ク サリ鐵、青白	外・内面:ヨコナデ、 チテ	
	32	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径:9.6 高さ:1.8	1/4	外・断・内:7.5YR8/4 内:10YR8/3浅黄褐	φ1mm以下のチャーポト、長石、クサリ 鐵、金雲母含む	外・内面:ヨコナデ、 チテ	
	33	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径:10.0 高さ:1.7	ほぼ 灰白	外・断・内:10YR8/2 内:黄褐色	φ1mm以下のチャーポト、長石、石英、ク サリ鐵、金雲母含む	外・内面:ヨコナデ、 チテ	
	34	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径:9.8 高さ:1.6	3/4	外・断・内:10YR8/3 内:浅黄褐	φ1mm以下のチャーポト、長石、クサリ 鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:チテ	
	35	39	D区 井戸1	土師器	皿	口径:9.5 高さ:1.8	ほぼ 完形	外・断・内:2.5Y7/2 内:灰黄	φ0.5mm以下のチャーポト、長石、ク サリ鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ、 チテ	
	36	39	D区 井戸1	黒色 土器	碗	口径:(15.1) 高さ:4.3	2/3	外・断・内:10YR8/2 内:灰白	φ2mm以下のチャーポト、長石、クサリ 鐵、金雲母含む	外・内面:ヨコナデ、 チテ、ユビキサエ	A類
	37	-	D区 井戸1	黒色 土器	碗	口径:(15.0) 高さ:5.1 底径:(7.2)	1/8	外:10YR7/4内:灰黄 内:5Y3/1オーリーブ黑	φ1.5mm以下のチャーポト、長石、クサリ 鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ、 チテ内面:ヘラミガキ	
	38	40	D区 井戸1	瓦器	皿	口径:9.6 高さ:2.0	完形	外・内:N2/黑 内:灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 チテ、ユビキサエ 内面:ヘラミガキ、 ジザゲラ模写	
	39	-	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:(13.8) 高さ:4.2 底径:(4.0)	1/2	外・内:2.5Y5/1灰黄 内:2.5Y6/1灰黄	φ0.5mm以下の砂粒 干含む	外面:ヨコナデ、 チテ内面:ヘラミガキ	和泉日I~ II-2
	40	40	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:15.3 高さ:5.8 底径:4.8	ほぼ 完形	外・内:N4/灰 内:N8/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 チテ内面:ヘラミガキ	和泉日I~ II-2
	41	-	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:(15.8) 高さ:5.3 底径:(7.0)	1/4	外・内:N3/暗灰	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 チテ内面:ヘラミガキ、平行線引文	和泉日I~ II-2
1978 -1	42	41	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:(15.2) 高さ:5.4	口縁部 1/4	外・内:N4/灰 内:N8/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヘラミガキ	和泉日I~ II-2
	43	41	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:4.7 底径:5.2	体部 2/3	外:N4/灰 内:2.5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヘラミガキ、 櫛状紋	和泉日I~ II-2
	44	40	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:15.3 高さ:5.8 底径:5.0	完形	外・内:N4/灰 内:2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヘラミガキ、 櫛状紋	和泉日I~ II-2
	45	40	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:(15.4) 高さ:5.5 底径:(5.2)	3/4	外・内:N4/灰 内:2.5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒 干含む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヘラミガキ、 不定方向引文	和泉日I~ II-2
	46	41	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:(15.9) 高さ:5.8 底径:5.0	2/3	外・内:N3/暗灰 内:N8/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヘラミガキ、 不定方向引文	和泉日I~ II-2
	47	40	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:15.0 高さ:5.3 底径:4.4	3/4	外・内:5Y4/1灰 内:5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒 干含む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヘラミガキ	和泉日I~ II-2
	48	40	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:15.2 高さ:4.7 底径:4.8	3/4	外・断・内:2.5Y7/1 灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヘラミガキ、 平行線引文	和泉日I~ II-2
	49	-	D区 井戸1	瓦器	碗	口径:(13.0) 高さ:3.5 底径:(3.6)	1/4	外・断・内:10YR8/1 灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヨコナデ、ヘラ ミガキ、平行線引文	和泉日I~ II-1
	50	40	D区 井戸1	瓦質 土器	三足 釜	口径:20.3 高さ:30.0	1/2	外・内:N4/灰 内:10YR8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒 干含む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:チテ	
	51	-	D区 ピット1	甕生 土器	甕	口径:(6.2) <td>-</td> <td>外・断・内:10YR8/3 内:浅黄褐</td> <td>φ2mm以下のチャーポ ト、長石、クサリ鐵、 金雲母含む</td> <td>外面:圧痕帯 内面:磨滅のため不明</td> <td></td>	-	外・断・内:10YR8/3 内:浅黄褐	φ2mm以下のチャーポ ト、長石、クサリ鐵、 金雲母含む	外面:圧痕帯 内面:磨滅のため不明	
	52	-	D区 ピット1	土師器	皿	口径:(9.1) 高さ:1.5	1/6	外:5YR8/3灰褐 内:10YR8/3灰褐 内:7.5YR7/4灰・土相	φ1.5mm以下のチャーポ ト、長石、クサリ 鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:磨滅のため不明	
	53	-	D区 ピット1	土師器	皿	口径:(14.6) 高さ:2.4	1/4	外・断・内:10YR7/3 内:灰・土相	φ1mm以下のチャーポ ト、長石、石英、ク サリ鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ナ デ内面:ヨコナデ	
	54	-	D区 ピット1	瓦器	皿	口径:(8.3) 高さ:1.7	1/3	外: N4/灰 内: 5Y7/1灰白 内: N5/灰	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:圧痕帯 内面:ヨコナデ、ヘラ ミガキ、平行線引文	

表4 遺物観察表(3)

測定 次数	測定 番号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 查	備考
	55	- D区 ピット1	瓦器	高台付 盤	口径: (8.8) 底径: (3.8)	1/4	外・内: N4/灰 斯: 5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ ナデ、ユビオサズ 内面: ナデラミガ 土平置粘合	
	56	- D区 ピット1	瓦器	楕	器高: △1.7 底径: (4.4)	底部 1/4	外・内: N5/灰 斯: 5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面: ナデ 内面: ナデ後平行線状 粘合	
	57	- D区 ピット1	瓦器	楕	器高: △1.2 底径: (5.0)	底部 1/4	外・内: N4/灰 斯: N8/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外・内面: ナデ	
	58	40 A区 包含層	帶生 土器	無頭直 口器	口径: (9.5) 底径: (7.75)	口縫部 1/3	外・斯・内: 7.5YR7/6相 接	φ2.5mm以下のチャート、 長石、石英、ク シリ織合む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	59	- A区 包含層	帶生 土器	高杯	器高: △2.6 底径: (12.3)	縫部 1/10	外・斯・内: 10YR8/3- 浅黄褐	φ0.5mm以下の砂粒若 干含む	外面: 粒状1条、磨滅 のため不明 内面: 磨滅のため不明	
	60	- A区 包含層	須恵器	杯形	口径: (4.5) 器高: △3.7	口縫部 1/10	外・斯・内: 2.5Y6/1 黄灰	φ0.5mm以下の砂粒若 干含む	外・内面: 回転ナデ MT 15	
	61	- A区 包含層	須恵器	杯形	口径: (13.9) 器高: △4.7	口縫部 1/3	外・斯・内: 2.5Y6/1 黄灰	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面: 回転ヘラケズ リ、回転ナデ 内面: 回転ナデ、ナデ	T K 43
1978 -1	62	41 B区 包含層	帶生 土器	広口直 口器	口径: (20.8) 器高: △2.6	口縫部 1/12	外・斯・内: 2.5Y4/1 黄灰	φ2.5mm以下のチャー ト、長石、石英、金 雲母織合む	外面: 刻文、ヨコナ デ 内面: ナコナデ	
	63	41 B区 包含層	帶生 土器	広口直 口器	口径: (27.5) 器高: △3.5	口縫部 1/12	外・斯・内: 10YR8/3/浅黄褐 斯: 10YR7/4/5- 浅黄褐	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: 四輪、ヨコナデ 内面: 摺擦点文、 ヨコナデ	
	64	40 B区 包含層	帶生 土器	広口直 口器	口径: (28.0) 器高: △4.5	口縫部 1/8	外・斯・内: 10YR8/3 浅黄褐	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合、金雲母含む	外面: ヨコナデ、 ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	65	41 B区 包含層	帶生 土器	壺	器高: △6.3	縫部 1/4	外: 7.5YR6/2灰褐 内: 10YR8/3/5- 浅黄褐	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: 四輪、ヨコナデ 内面: ナデ	
	66	41 B区 包含層	帶生 土器	壺	器高: △6.3	-	外: 7.5YR7/4/5- 浅黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: 变貌文、 内面: ハラケズリ	
	67	41 B区 包含層	帶生 土器	壺	器高: △2.4	-	外・内: 7.5YR8/3/浅黄褐 斯: 2.5Y6/1黄灰	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: 四輪、 内面: 磨滅のため不明	
	68	41 B区 包含層	帶生 土器	壺	器高: △4.2	-	外: 10YR7/3C/5- 浅黄褐 斯: 10YR6/2灰褐 内: 7.5YR7/4C/5- 浅黄褐	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: 四輪、棒状浮空 内面: 磨滅のため不明	
	69	41 B区 包含層	帶生 土器	高杯	器高: △4.0	-	外・斯・内: 10YR8/2 灰白	φ0.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: 磁力向の直線 文、刻文 内面: ハラケズリ、 シボリ痕	
	70	- B区 包含層	帶生 土器	底盤	器高: △5.7 底盤: (5.4)	底盤 完全	外: 10YR7/6灰褐 内: 7.5YR7/4 底盤: (5.4)	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	
	71	41 B区 包含層	帶生 土器	壺	口径: (3.6) 底盤: (2.8)	口縫部 1/8	外・斯・内: 10YR7/3 底盤: (3.6)	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、ハケ 土	
	72	41 B区 包含層	帶生 土器	壺	口径: (2.4) 器高: △6.3)	口縫部 1/12	外・斯・内: 10YR6/4/ 底盤: (2.4)	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	73	41 B区 包含層	帶生 土器	跡	口径: (24.5) 器高: △4.0	口縫部 1/20	外: 7.5YR7/4/ 底盤: (2.4)	φ2mm以下のチャー ト、長石、ク シリ織合、金雲母含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	74	42 B区 包含層	磨製 石器	石刀丁	長さ: (3.9) 幅: (0.2) 厚さ: (0.6)	-	-	粘板岩	-	重量: 11.2 g
	75	42 B区 包含層	磨製 石器	石械	長さ: (5.8) 幅: (0.4) 厚さ: (2.3)	-	-	サヌカイト	-	重量: 64.7 g
	76	- B区 包含層	須恵器	杯形	口径: (11.6) 器高: △4.3	1/4	外: 2.5Y6/1黄灰 斯: N7/灰白	φ2mm以下の砂粒含む	外面: 回転ナデ、ナデ	T K 43
	77	- B区 包含層	須恵器	杯形	口径: (12.7) 器高: △2.3	1/16	外・内: 10YR7/1灰 斯: 2.5Y7/3灰黄	φ1.5mm以下の砂粒含 む	外面: 回転ナデ、回転 ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	T K 10~43
	78	- B区 包含層	須恵器	杯形	口径: (13.7) 器高: △2.7	1/16	外・内: 10YR6/1灰 斯: 10YR7/1灰白	φ1.5mm以下の砂粒含 む	外・内面: 回転ナデ	T K 209
	79	- B区 包含層	須恵器	高杯	器高: △6.2	脚部 突形	外・内: 2.5Y6/1黄灰 斯: 7.5YR6/1灰灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面: ハラケズリ 内面: ハラケズリ、脚部 内面上部にシボリ痕	
	80	42 B区 包含層	埴輪	門面	器高: △4.0	-	外: 7.5YR7/4/5- 浅黄褐 内: 10YR7/4/5- 浅黄褐	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク シリ織合む	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ、ナ デ	
	81	- C区 包含層	土師器	皿	口径: (8.5) 器高: 1.4	1/6	外・斯・内: 10YR8/3 浅黄褐	φ0.5mm以下のチャー ト、長石、金雲母含 む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	82	- C区 包含層	土師器	皿	口径: (9.2) 器高: 1.4	1/6	外・斯・内: 2.5Y8/3 浅黄褐	φ0.5mm以下のチャー ト、長石、金雲母含 む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: 磨滅のため不明	

表4 遺物観察表(4)

調査 次数	博物館 登録番号	回収 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	83	-	C区 包含層	土師器	皿	口径:(9.1) 盤高:1.5	1/6	外・断・内:10YR8/3 浅黄	φ1mm以下のチャート、長石、クサリ礫、金芸母含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:磨滅のため不明	
	84	-	C区 包含層	土師器	皿	口径:(8.8) 盤高:1.8	1/4	外・断・内:10YR7/3 にぶい黄褐	φ1.5mm以下のチャート、長石、クサリ礫、金芸母含む	外・内面:ヨコナデ、 ナデ	
	85	-	C区 包含層	土師器	皿	口径:(9.4) 盤高:1.6	1/4	外・断・内:2.5Y7/4 浅黄	φ1mm以下のチャート、長石、クサリ礫、金芸母含む	外・内面ヨコナデ、 ナデ	
	86	-	C区 包含層	瓦器	皿	口径:(9.1) 盤高:1.6	1/4	外・内:N5/灰 断・5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒若千含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデ	
	87	-	C区 包含層	瓦器	桶	口径:(14.6) 盤高:△4.4	1/6	外・内:2.5Y7/2灰黄 断:10YR8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒若千含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデヘラミガキ 和泉田-2~3	
	88	-	C区 包含層	瓦器	桶	口径:(15.2) 盤高:4.4 底径:4.8	1/4	外・内:2.5Y7/2灰黄、 N4/灰 断:2.5Y7/2灰黄	φ2mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデ後ヘラミガキ 和泉田-2~3	
	89	-	C区 包含層	瓦器	桶	口径:(14.0) 盤高:4.0 底径:3.4	1/8	外・内:10YR7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒若千含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデヘラミガキ、ジグザグ状 和泉田-2~3	
	90	-	C区 包含層	瓦器	桶	口径:(15.0) 盤高:3.9 底径:4.6	1/8	外:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y7/2灰黄	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデヘラミガキ、平行線状 和泉田-2~3	
	91	-	C区 包含層	瓦器	桶	盤高:△3.2 底径:4.2	1/4	外・内:N4/灰 断:2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデヘラミガキ、平行線状 和泉田-2~3	
	92	-	C区 包含層	瓦器	桶	盤高:△2.2 底径:4.6	1/4	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ3mm程の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデヘラミガキ、平行線状 和泉田-2~3	
	93	-	C区 包含層	瓦器	桶	盤高:△1.4 底径:5.0	1/4	外・内:N5/灰 断:5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデ後平行線状 和泉田-2~3	
	94	-	C区 包含層	瓦器	桶	盤高:△1.5 底径:5.0	1/4	外・内:2.5Y7/1灰白 断:2.5Y7/2灰黄	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデ後平行線状 和泉田-2~3	
1978 -1	95	42	C区 包含層	土師器	罐	口径:(30.0) 盤高:△8.3	1/20	外:10YR8/3灰黄 断:2.5Y4/1灰白 内:10YR7/2にぶい黄褐	φ1mm以下のチャート、長石、クサリ礫含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ナデ後平行線状 和泉田-2~3	
	96	42	C区 包含層	白磁	碗	口径:△3.6 盤高:△4.0	1/6	外・内:7.5Y8/1灰白 断:5Y8/1灰白	白	男・内面:施釉、回転 ナデ	白磁碗V類
	97	42	C区 包含層	白磁	碗	口径:△3.6 盤高:△5.8	1/2	外・断・内:5Y7/1灰白	白	外・内面:施釉	白磁碗V類
	98	42	C区 包含層	白磁	皿	口径:(9.4) 盤高:3.1 底径:4.2	1/4	外・内:5Y7/2灰白 断:2.5Y8/2灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外・内面:施釉、回転 ナデ	白磁皿類
	99	42	C区 包含層	青磁	碗	盤高:△4.8	1/10	外・内:2.5G6/Y1 オリーフ 内:10YR7/1灰白	白	外面:施釉 内面:墨緑、花文	青磁碗I類
	100	40	C区 包含層	弥生 土器	繩織油	口径:(9.0) 盤高:△9.7	1/3	外・断・内:10YR8/4 浅黄	φ3mm以下のチャート、長石、クサリ礫含む	外面:彌描直線文、ヨ ナデ	
	101	-	C区 包含層	弥生 土器	繩織油	口径:(12.8) 盤高:△9.2	1/3	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ礫含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	102	-	C区 包含層	弥生 土器	底部	盤高:△6.3 底径:9.0	1/4	9.5・断・内:2.5Y8/2 灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ礫含む	外・内面:ナデ	
	103	-	C区 包含層	弥生 土器	底部	盤高:△4.7 底径:9.0	1/4	外・断・内:2.5Y7/2 灰黄	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ礫含む	外:ハケ、ナデ 内面:ナデ	
	104	-	C区 包含層	弥生 土器	甕	口径:(29.0) 盤高:△5.4	1/8	外:10YR8/4灰黄 断・内:10YR8/2灰白	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ礫含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ナデ	
	105	43	C区 包含層	磨製 石器	石臼丁	大きさ:(5.0) 底径:△3.5 厚さ:0.8	-	-	粘板岩	-	重量: 18.2g
	106	43	C区 包含層	磨製 石器	石臼丁	大きさ:(2.9) 底径:△4.5 厚さ:0.4	-	-	粘板岩	-	重量:5.8g
	107	43	C区 包含層	鉄製品	火打金	大きさ:6.5 底径:△3.1 厚さ:0.7	-	-	-	-	
	108	-	不明	弥生 土器	広口壺	口径:(19.5) 盤高:△6.5	1/3	外:7.5Y6/3にぶい黄 内:10YR7/3にぶい黄	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ礫含む	外面:ヨコナデ、ヘラ ケズ3条、列 内面:列点文	
	109	-	不明	弥生 土器	底部	盤高:△10.1 底径:8.0	2/3	外:10YR7/3にぶい黄 内:2.5Y8/2灰白	φ2.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ礫含む	外面:ハケ 内面:ナデ、ヘラケズ 口	底面:木葉 箱

表4 遺物観察表(5)

年度	番号	出土地	器種	器形	量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考	
1978 -1	110	-	不明	甕生土器	鉢	器高:△4.1	-	外:2.5Y7/2灰黄 内:2.5Y7/3浅黄	φ1mm以下のチャート、長石、石英、クサリ鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ 内面:漬滅のため不明	
	111	-	不明	甕生土器	高杯	器高:△6.6 底径:△9.0	開口部 1/8	男・内:7.5YR7/4 外:5YR7/3灰黄	φ1.5mm以下のチャート、長石、石英、クサリ鐵含む	外面:四線 内面:ヨコナデ、ナデ	
	112	-	不明	甕生土器	高杯	器高:△5.2 底径:△10.5	開口部 1/8	男・内:10YR6/3 外:5YR6/2灰黄	φ2mm以下のチャート、長石、石英、クサリ鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ、タタ 内面:ハグナ、ケズリ 内面:ヨコナデ、ナデ	円筒透かし H.(φ0.8cm) 内面:焼付
	113	40	不明	土師器	甕	口径:△15.9 器高:△5.3	口縁部 1/8	男:2.5Y5/2灰黄 内:2.5Y6/2灰黄	φ2mm以下のチャート、長石、石英、クサリ鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ、タタ 内面:ハグナ、ケズリ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	114	-	不明	須恵器	杯身	口径:△14.2 器高:△2.8	口縁部 1/8	外・内:2.5Y6/1 灰黄	φ2mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、回転 内面:ヨコナデ	T K43
	115	-	不明	土師器	甕	口径:△7.4 器高:△1.0	1/4	男・内:10YR5/3 内:5YR5/2灰黄	φ0.5mm以下のチャート、長石、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ユビオサエ、ナデ	
	116	-	不明	土師器	甕	口径:△8.3 器高:△1.3	1/2	男・内:2.5Y6/3にぶい 黄	φ0.5mm以下のチャート、長石含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	117	-	不明	土師器	甕	口径:△8.3 器高:△1.4	1/2	外・内:10YR5/2灰黄	φ0.5mm以下のチャート、長石含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	118	-	不明	土師器	甕	口径:△8.75 器高:△1.6	1/8	外・内:10YR5/3にぶい 黄	φ0.5mm以下のチャート、長石含む	外・内面:ヨコナデ、ナデ	
	119	-	不明	土師器	甕	口径:△8.9 器高:△1.3	1/8	男・断・内:10YR6/4 にぶい黄	φ0.5mm以下のチャート、長石、金雲母含む	外・内面:ヨコナデ、ナデ	
	120	-	不明	瓦器	椀	口径:△12.1 器高:△3.5 底径:△4.4	1/3	外・内:N4/灰 断:10YR8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒若干含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ後へラ ガキ、シザグifik	和泉Ⅲ-3 文
	121	-	不明	青磁	碗	口径:△15.6 器高:△4.8	1/8	男・内:10Y6/2 オリーブ灰	精緻	外面:雷文帯、蓮瓣、 施釉 内面:施釉	C-2類
1980 -2	122	43	井戸I	須恵器	鉢F	器高:△2.4 底径:△8.0	底部 2/3	外・内:2.5Y7/1灰白 断:2.5Y8/1灰白	φ2mm以下の長石、石英含む	外・内面:回転ナデ 底部:穿孔 (φ0.2cm)	
	123	-	井戸I	土師器	甕	口径:△14.0 器高:△5.5	1/4	男・断:7.5YR8/3浅黄 内:10YR8/3灰黄	φ1mm以下のチャート、長石、クサリ鐵含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ後へラ ガキ、シザグifik	
	124	-	井戸I	瓦器	椀	器高:△2.0 底径:△4.8	底部 1/4	男:5Y8/1灰白 内:N4/灰 内:N4/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、ユビ オサエ 内面:△ミガキ、平 行線状文	和泉Ⅱ-2
	125	43	井戸I	瓦器	椀	口径:△15.2 器高:△4.6	口縁部 3/3	男:5Y6/1灰 内:5Y8/1灰白 内:5Y5/1灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ後へラ ミガキ 内面:ナデ後へラミガ キ	和泉Ⅱ-2
	126	-	井戸I	瓦器	椀	口径:△13.0 器高:△3.1	口縁部 1/4	男・断:5YR7/3にぶい 内:10YR8/1灰白	φ1mm以下のチャート、長石、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ユビオサエ	和泉Ⅱ-2
	127	43	井戸I	瓦器	椀	口径:△14.6 器高:△6.2 底径:△4.0	1/4	男:N4/灰 内:N5/灰 内:2.5Y8/1灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ユビオサエ 内面:△ミガキ、ジザグifik	和泉Ⅱ-2
	128	43	井戸I	瓦器	椀	器高:△1.4 底径:△4.0	底部 完形	外・内:N5/灰 内:N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ヨビオサエ 内面:△ミガキ、不 定方向文	和泉Ⅱ-2
	129	43	井戸I	灰釉陶器	碗	口径:△14.6 器高:△2.3	口縁部 2/3	男・内:7.5Y7/1灰白 内:N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:施釉	
	130	43	井戸I	須恵器	鉢	器高:△2.4	-	外・内:10YR6/1灰 断:10YR5/1灰白	φ4mm以下のチャート、長石、石英、クサリ鐵含む	外・内面:ヨコナデ	東膳系
	131	43	井戸I	土師器	台付皿	器高:△2.2 底径:△4.6	脚部 2/3	男・断・内:7.5YR8/4 浅黄	φ1mm以下のチャート、長石、クサリ鐵、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ナデ	
	132	44	井戸II	埴輪	円筒埴輪	器高:△3.3	-	外・断・内:7.5YR8/3 浅黄	φ1mm以下のチャート、長石、石英、クサリ鐵含む	外面:ヨコナデ 内面:ナデ後ハケ	
	133	44	井戸II	瓦器	椀	口径:△5.2 器高:△3.9	口縁部 1/8	男・内:N4/灰 内:N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、ユビ オサエ後へラミガキ 内面:ヨコナデ、ナデ 内面:△ミガキ	和泉Ⅱ-2
	134	44	井戸II	瓦器	椀	器高:△1.3 底径:△4.8	底部 2/3	男・内:N5/灰 内:N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ユビオサエ 内面:△ミガキ	和泉Ⅱ-2
	135	44	井戸II	瓦器	椀	口径:△5.6 器高:△4.0	口縁部 1/10	外:N5/灰 内:N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ナデ後へラミガ キ、沈	和泉Ⅱ-2
	136	44	井戸II	土師器	甕	口径:△8.8 器高:△1.4	1/8	男・内:5YR7/4にぶい 内:7.5YR7/3にぶい	φ1mm以下のチャート、長石、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ユビオサエ 内面:ヘラミガキ、沈	

表4 遺物觀察表（6）

発見 次数	博物館 登録 番号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	137 44	井戸2	須恵器	鉢	口径:(28.7) 底高:(3.9)	口縁部 1/20	外:灰 内:2.5Y7/1 灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	東播系
	138 -	井戸3	弥生 土器	甕	口径:(33.2) 底高:(3.8)	口縁部 1/10	外:灰 内:7.5Y7/3灰 断:10YR6/1灰白	φ1mm以下のチャート、石英含む	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	139 -	井戸3	弥生 土器	底部	底高:(△2.1) 底径:(7.4)	底部 1/3	外:10YR8/3浅黄 内:2.5Y6/1黄灰 N4灰	φ3mm以下のチャート、長石、石英含む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉 盤
	140 45	井戸3	磨製 石器	石棒	長さ:(5.3) 幅:(5.1)	-	-	砂岩	-	重量:217g
	141 44	落ち込み 1	瓦器	甕	口径:(△1.9) 底径:(4.2)	底部 1/20	外:N6灰 内:N8灰白 N5灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ナデ、ユビオサ 内面:平行線状暗文	
	142 44	落ち込み 1	白磁	甕	口径:(13.7) 底高:(△2.4)	口縁部 1/10	外:7.5Y7/1灰白 断:NR灰白 内:10Y7/1灰白	精良	外・内面:施釉	白磁陶片類
	143 44	落ち込み 1	石製品	石網	底高:(△3.7) 底径:(14.8)	底部 1/10	-	滑石	-	
	144 -	包含層	土師器	甕	口径:(8.5) 底高:(1.6)	1/3	外:7.5Y8/3浅黄 内:10Y8/2灰白	φ1mm以下のチャート、石英、金雲母含む	外・内面:ヨコナデ、 ナデ	
1980 -2	145 -	包含層	土師器	甕	口径:(13.2) 底高:(2.6)	1/4	外・内:10YR8/2灰白 断:7.5YR8/2灰白	φ1mm以下のチャート、長石、石英含む	外・内面:ユビオサエ 後ナデ	
	146 -	包含層	土師器	甕	口径:(15.6) 底高:(△3.6)	1/3	外:10YR8/3 内:10YR8/3浅黄 断:NR灰白	φ1mm以下のチャート、石英、クサリ 礁、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ユビ オサエ 内面:ナデ	
	147 45	包含層	白磁	甕	口径:(15.0) 底高:(1.6)	口縁部 1/6	外・内:7.5Y7/1 灰白	精良	外・内面:施釉	白磁陶片類
	148 -	包含層	弥生 土器	甕	口径:(14.8) 底高:(△6.0)	口縁部 1/4	外・内:10YR8/2 灰白	φ3mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ礁含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	149 45	包含層	弥生 土器	甕	口径:(20.8) 底高:(△5.6)	口縁部 1/6	外:7.5YR8/4浅黄 断:10YR8/3浅黄 断:NR灰白	φ1mm以下のチャート、 石英、クサリ礁 含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ	
	150 -	包含層	弥生 土器	底部	底高:(△6.8) 底径:(6.0)	底部 完形	外:内:5Y6/1灰白 断:2.5Y8/3灰黄	φ3mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ礁含む	外・内面:ナデ	
	151 45	包含層	弥生 土器	底部	底高:(△2.9) 底径:(9.0)	底部 完形	外:10YR8/2灰白 断:10YR8/3浅黄 断:NR灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ礁含む	外面:ハケ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 盤
	152 -	包含層	弥生 土器	底部	底高:(△3.7) 底径:(8.7)	底部 1/3	外:10YR8/3浅黄 断:内:10YR8/2灰白	φ3mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ礁含む	外面:ハケ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 盤
	153 45	包含層	弥生 土器	甕	底高:(△11.4) 底径:(4.8)	体部 2/3	外:7.5YR8/3浅黄 断:10YR6/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ1mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ礁含む	外面:ナデ 内面:ナデ後ユビオサ エ	
	154 -	包含層	弥生 土器	底部	底高:(△2.5) 底径:(5.0)	底部 完形	外:10YR6/1灰白 断:内:10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ礁含む	外面:ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ、工具痕	
	155 45	包含層	弥生 土器	底部	底高:(△2.9) 底径:(6.0)	底部 完形	外・内:10YR8/2 灰白	φ3mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ礁含む	外面:ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 盤
	156 45	包含層	石製品	不明(禮 器)	長さ:8.75 幅:5.5 厚さ:2.7	-	-	-	-	重量: 110.2g
	157 45	包含層	土製品 土器類	皮袋形 土器	長さ:(6.4) 底径:(9.9)	-	外:2.5Y8/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英含む	ナデ、ユビオサエ、 繩刻(魚?)	
1985 -1	158 46	包含層	弥生 土器	甕	口径:(16.8) 底高:(△6.6)	口縁部 1/7	外・内:10YR5/2灰黃 内:10YR4/2灰黃	φ1mm以下の粗砂を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	159 46	包含層	弥生 土器	底部	底高:(△2.9) 底径:(3.4)	底部 完形	外・内:10YR8/2灰白 内:10YR7/4に似る黄 断:NR灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明 底面:穿孔 (Φ0.8cm)	
	160 46	包含層	弥生 土器	底部	底高:(△3.0) 底径:(5.0)	底部 完形	外:7.5YR7/3に似る黄 内:2.5YR8/3浅黄 断:NR灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:ナデ	
	161 -	包含層	弥生 土器	底部	底高:(△3.8) 底径:(3.6)	底部 完形	外:7.5YR7/2灰黃 内:2.5YR8/2灰黃 断:10YR7/2に似る黄 断:NR灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面:タクナ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	162 46	包含層	土師器	高杯	底高:(△6.0)	脚柱部 1/6	外・内:10YR8/2灰白 内:7.5YR8/3浅黄 断:5YR6/4灰白	φ1mm以下の粗砂を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	163 46	包含層	土師器	ミニニア ニア	口径:(△3.0) 底高:(7.8) 底径:(3.8)	1/3	外:2.5Y6/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:ユビオサ エ、ナデ	
	164 46	包含層	須恵器	杯身	口径:(13.5) 底高:(3.2)	1/4	外:2.5Y6/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ4mm以下の礫を含む	外・内面:回転ナデ、 ハラタヌメ、ナデ	T.K43~ 209
	165 46	包含層	須恵器	杯身	口径:(14.6) 底高:(△3.0)	口縁部 1/6	外:N6灰 内:N8灰白 内:N7灰白	φ1mm以下の粗砂を含 む	外・内面:回転ナデ	T.K43~ 209

表4 遺物観察表(7)

測定次元	標印番号	出土地	器種	器形	量 (cm)	残存	色調	胎土	調査	備考	
	166	-	包含層	須恵器	杯身	口径: (12.0) 器高: △2.8	口縁部 1/12	外・断・内: N6/灰	φ1mm以下の白色粒を含む	外面: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	T K43~209
	167	-	包含層	須恵器	杯身	口径: (14.1) 器高: △2.8	口縁部 1/6	外・内: N7/灰白 断: N8/灰白	φ1mm以下の白色粒を含む	外・内面: 回転ナデ	T K43~209
	168	-	包含層	須恵器	杯身	口径: (11.0) 器高: △3.2	口縁部 1/6	外: N8/灰白 断: 7.5YR7.3/3にぶい粉 内: 5Y8.1灰白	φ2mm以下の白色粒を含む	外・内面: 回転ナデ	T K43~209
	169	46	包含層	須恵器	杯身	口径: (10.7) 器高: △3.2	1/4	外・内: 2.5Y8.1灰白 断: 10YR8.3/3浅黄褐	φ1mm以下の粗砂を含む	外面: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	T K43~209
	170	46	包含層	須恵器	甕	口径: (22.6) 器高: △7.3	口縁部 1/4	外・断・内: 5Y8/1灰白	φ2mm以下の粗砂を含む	外面: 回転ナデ、タタキ後ハゲ 内面: 回転ナデ、同心円当て付痕	
	171	47	包含層	須恵器	提攤	器高: △3.0	-	外: 2.5Y5/1灰黄 断: 7.5YR7.2/0灰褐 内: N6/灰	φ1mm以下の粗砂を含む	外面: ナデ 内面: 同心円当て付痕	
	172	47	包含層	須恵器	提攤	器高: △2.3	-	外: 5Y6/1灰 断: N8/灰白	φ1mm以下の粗砂を含む	外面: ナデ 内面: 回転ナデ	
	173	46	包含層	須恵器	鉢	口径: (26.4) 器高: △6.6	口縁部 1/6	外・断・内: N7/灰白	φ1mm以下の粗砂を含む	外面: 回転ナデ、タタキ後回転ナデ、カキメ	
1985-1	174	47	包含層	須恵器	罐	口径: (11.0) 器高: △6.0	口縁部 1/6	外: N5/灰 断: N8/灰白 内: 2.5Y8/1黄灰	φ1mm以下の粗砂を含む	外面: 回転ナデ、沈線 内面: 回転ナデ	
	175	45	包含層	須恵器	杯蓋	口径: 9.8 器高: △3.6	ほぼ完形	外: N7/灰白 内: 10YR7.1/灰白	φ2mm以下の粗砂を含む	外面: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	
	176	47	包含層	須恵器	高杯	器高: △3.8	杯底部 完形	外・内: 5Y7/1灰白 断: N8/灰白	φ1mm以下の粗砂を含む	外・内面: 回転ナデ	
	177	47	包含層	須恵器	高杯	器高: △3.9	脚柱部 完形	外: N6/灰 断: N7/灰白	φ1mm以下の白色粒を含む	外面: 回転ナデ 内面: ナデ、回転ナデ	
	178	47	包含層	須恵器	高杯	器高: △4.8 底径: 3.6	脚柱部 1/3	外: 2.5Y8/1灰白 断: N8/灰白 内: N7/灰白	φ1mm以下の白色粒を含む	外面: 回転ナデ 内面: ナデ、回転ナデ	
	179	47	包含層	埴輪	不明	器高: △9.3	-	外: 7.5YR8/4浅黄褐 断: 7.5YR7.6粉 内: 7.5YR8/6浅黄褐	φ2mm以下の粗砂を含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	180	47	包含層	埴輪	家形埴輪	長さ: (17.8) 底径: 10.7 厚さ: 2.6	-	外: 7.5YR7.6粉 内: 7.5YR8/3浅黄褐	φ6mm以下の礫を含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	181	47	包含層	埴輪	門型埴輪	器高: △8.3 底径: (13.2)	基底部 1/4	外: 7.5Y7/1灰白 断: 7.5Y7/1灰白 内: 7.5YR8/4浅黄褐	φ4mm以下の礫を含む	外・内面: ナデ 須恵焼成	
	182	-	包含層	青磁	甕	器高: △1.9	体部 1/2	外・内: 7.5YR5/2灰褐 断: 7.5YR8/3灰褐	密	外・内面: 施釉	
	183	48	第1面 S D 1	弥生 土器	底部	器高: △2.5 底径: (7.0)	底部 1/2	外・断・内: 2.5Y7/3 断: 7.5YR8/3	φ1mm以下のチャート、長石、石英含む	外面: ナデ 内面: ハケ	
	184	48	第1面 S D 1	瓦器	楕	器高: △4.2	-	外: N3/暗灰 断: N7/R6 内: N4/灰	φ0.5mm以下の砂粒若干含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: オサエ 和泉	
	185	48	第1面 S D 1	白磁	楕	器高: △2.3	-	外: N3/2.5Y7/2灰黄 断: 5Y8/1灰白	精良	内外面: 施釉	白磁焼成類 機銘: 27
	186	48	第1面 S D 1	白磁	楕	器高: △1.9 底径: (6.4)	底部 1/4	外・断・内: 5YR7/2 断: 10YR6/1灰褐	精良	外面: 回転ヘラケズリ 内面: 施釉	白磁焼成類 機銘: 27
	187	48	第1面 S D 1	須恵器	鉢	器高: △4.1 底径: (11.4)	底部 1/4	外・内: 10YR7/1灰白 断: 10YR7/1灰白	φ4mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ 底面: 新切り後ナデ 内面: ヨコナデ	東播系
	188	48	第1面 S X 1	瓦器	楕	器高: △1.2	-	外・内: N4/灰 断: 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ナデ後平行鋸状 昭和文	和泉畠
	189	48	第2面 S K 2	須恵器	杯A	口径: (13.9) 器高: △3.7 底径: (9.2)	1/3	外・内: 2.5Y7/1灰白 断: 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒若干含む	外面: 回転ナデ 内面: 深バッカ切り後ナデ ナデ	機銘: 28
	190	48	第2面 S D 5	弥生 土器	広口壺	口径: (26.7) 器高: △2.7	1/6	外・断・内: 2.5Y7/2 断: 7.5YR8/3	φ4mm以下のチャート、長石、石英、クサリ混含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ヨコナデ後鋸状 昭和文	穿孔(φ0.4cm)
	191	48	第2面 S D 5	弥生 土器	広口壺	口径: (16.0) 器高: △9.7	1/6	外・断・内: 2.5Y8/2 断: 7.5YR8/3	φ4mm以下のチャート、長石、石英、クサリ混含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ヨコナデ後鋸状 昭和文	
	192	48	第2面 S D 5	弥生 土器	甕	口径: (35.9) 器高: △5.0	1/6	外・内: 10YR8/3浅黄褐 断: 2.5Y3/1黒褐	φ2mm以下のチャート、長石、石英、クサリ混含む	外・内面: ヨコナデ、 ハケ	

表4 遺物觀察表(8)

発見 次数	博物館 登録 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	193 48	第2面 SD 5	弥生 土器	壺	高:△7.8	-	外・内:10YR7/2にぶ ト、長石、石英、ク サリ織合む	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ後縫付 突起5条、竹管文、刺 突孔	
	194 48	第2面 SK 7	弥生 土器	広口壺	口径:(13.9) 高:△6.1	口縁部 1/3	外:7.5YR7/4にぶ ト、内:7.5YR8/4浅黄 相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、凹縫 内曲:ヨココテ、ナ ダ、工具痕	
	195 49	第3面 SD 6	弥生 土器	広口壺	口径:(13.2) 高:△4.0	口縁部 1/6	外・断・内:10YR7/2 にぶ・直柄	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、ハケ 内曲:ヨココテ	穿孔 (φ0.2cm)
	196 49	第3面 SD 6	弥生 土器	広口壺	口径:(10.9) 高:△4.8	口縁部 1/4	外:2.5YR7/2灰黄 内:2.5Y6/2灰黄 相	φ0.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:刺突文、凹縫、 ヨコナデ、ハケ 内曲:彌縫突起文	概観: 5
	197 49	第3面 SD 6	弥生 土器	広口壺	口径:(24.9) 高:△4.6	口縁部 1/6	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、凹縫 内曲:彌縫突起文	
	198 49	第3面 SD 6	弥生 土器	広口壺	口径:(16.6) 高:△4.8	口縁部 1/8	外・内:7.5YR7/4 にぶ・直柄	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、ユビ オサエ、彌縫突起文、 彌縫突起状文 内曲:ヨコナデ	内面:環付 者 概観: 4
	199 49	第3面 SD 6	弥生 土器	広口壺	口径:(24.5) 高:△6.0	口縁部 1/6	外・断・内:10YR5/2 灰黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨココテ、 ハケ、凹縫 内曲:磨滅のため不明	概観: 2
	200 49	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	高:△8.1	-	外・断:10YR8/3浅黄 相 内:10YR7/3にぶ・直柄	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ハケ、彌縫直線 文、斜格子文、円形浮 文 内曲:ハケ	
	201 49	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	高:△8.0	-	外:2.5YR7/4にぶ・直 柄 内:10YR6/1灰褐 相 内:SKY7/6相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:彌縫直線文、 彌縫直流水文 内曲:ハケ	
	202 49	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	高:△12.3	-	外:10YR6/2灰黄相 内:2.5Y7/7灰黄	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:彌縫直線文、 斜格子文 内曲:ナデ	
	203 49	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	高:△12.5	-	外・断・内:10YR8/3 浅黄相	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:彌縫直線文、 斜格子文、斜格子文、 内曲:磨滅のため不明	
	204 49	第3面 SD 6	弥生 土器	無縫壺	口径:(11.0) 高:△3.8	口縁部 1/10	外:2.5Y7/3灰黄 内:2.5Y7/2灰黄	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ 内曲:ヨココテ、ナデ	頭部:穿孔 (φ0.6cm)
1990 -1	205 -	第3面 SD 6	弥生 土器	底部	高:△6.0 底径:△4.2	底部 完全	外・断・内:2.5Y3/1 黑相	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ナデ 内曲:磨滅のため不明	
	206 -	第3面 SD 6	弥生 土器	底部	高:△4.9 底径:△6.9	底部 完全	外・断:2.5Y8/2灰白 内:2.5Y4/2灰白	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:磨滅のため不明 内曲:ユビゼナ	
	207 50	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	口径:(29.9) 高:△5.5	口縁部 1/8	外・断・内:10YR8/3 浅黄相	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、平行 タタキ後ハケ	概観: 11
	208 50	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	口径:(27.0) 高:△7.5	口縁部 1/6	外・内:7.5YR7/4 にぶ・直柄	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外・内面:ヨコナデ	概観: 12
	209 50	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	口径:(32.8) 高:△6.9	口縁部 1/8	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外・内面:ヨコナデ、 ハケ	
	210 50	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	口径:(27.8) 高:△7.2	口縁部 1/8	外:10YR7/3にぶ・直 柄 内:10YR8/2にぶ・直 柄	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、刺突 突起5条、ハケ 内曲:ハケ	概観: 9
	211 50	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	口径:(27.1) 高:△7.1	口縁部 1/6	外・内:10YR6/2白 相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、ハケ 内曲:ナデ、ハケ	概観: 10
	212 50	第3面 SD 6	弥生 土器	壺	口径:(20.4) 高:△6.4	口縁部 1/6	外:5YR6/4ICにぶ・直 柄 内:10YR7/3浅黄相	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外・内面:ヨコナデ、 ハケ	
	213 50	第3面 SD 6	弥生 土器	鉢	高:△6.0	-	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨココテ、四 縫、斜格子文 内曲:ヨココテ、ナデ	
	214 50	第3面 SD 6	弥生 土器	鉢	高:△6.0	-	外・内:10YR8/3浅黄 相 内:10YR8/2灰白	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、彌縫 直線文、彌縫直線文、 凹縫文 内曲:ミカゲ	
	215 50	第3面 SD 6	弥生 土器	鉢	高:△5.8	-	外・断・内:10YR7/2 にぶ・直柄	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、ハケ	
	216 50	第3面 SD 6	弥生 土器	鉢	高:△6.8	-	外:10YR7/4にぶ・直 柄 内:10YR8/3浅黄相	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、凹 縫、彌縫直線文、斜 格子文 内曲:ヨコナデ、ナ ダ	
	217 50	第3面 SD 6	弥生 土器	鉢	高:△7.4	-	外:10YR8/2灰白 相 内:10YR8/1灰白	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、ナ ダ、彌縫直線文、彌縫 直線文 内曲:ヨコナデ、ハケ	
	218 50	第3面 SD 6	弥生 土器	鉢	高:△5.1	-	外:10YR8/2灰白 相 内:10YR8/3浅黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、ナ ダ、彌縫直線文、彌縫 直線文 内曲:ヨコナデ、ナデ	
	219 50	第3面 SD 6	弥生 土器	鉢	高:△4.8	-	外・内:10YR7/3にぶ ト、直柄	φ0.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、ケズ ム、刺突文、凹縫、ハ ケ 内曲:ハケ	概観: 13

表4 遺物観察表(9)

測定次元	堆積層番号	出土場所	器種	器 形	法量(cm)	残存	色 調	胎 土	調 整	備考
	220 50	第3面 S D 6	弥生土器	鉢	口径: (3.1) 6 器高: □6.8	口縁部 1/8	外: 10YR7/4に、ない、黄褐 内: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR6/4に、ない、相	φ1mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、直線 文後ミガホ 内面: ヨコナデ、ハケ	
	221 51	第3面 S D 6	弥生土器	広口壺	口径: (15.0) 器高: □8.5	口縁部 1/3	外: 7.5YR8/4浅黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 門限、判点文 内面: ヨコナデ、ナデ	把手付
	222 56	第3面 S D 6	弥生土器	高杯	器高: □8.55	杯底部 ~脚部 元部	外: 内: 10YR8/2灰黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ミガホ 内面: ミガホ、ケズリ	概報: 17
	223 56	第3面 S D 6	弥生土器	高杯	器高: □8.1 底径: (11.4)	脚柱部 2/3	外: 内: 10YR7/4に、ない、相 内: 10YR8/3浅黄褐	φ2mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 ハケ、四隅4条 内面: ハケ、ケズリ	概報: 18 円錐 (ø0.5cm) 底部削り
	224 -	第3面 S D 6	弥生土器	高杯	器高: □3.6 底径: (11.2)	脚部部 1/10	外: 5YR6/4に、ない、相 内: 10YR8/1灰褐色	φ5mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 ミガホ 内面: ヨコナデ、 ケズリ	
	225 51	第3面 S D 6	弥生土器	高杯	器高: □3.8 底径: (11.6)	脚部部 1/3	外: 内: 2.5YR6/4に、ない、相 内: 2.5YR6/1黄灰	φ3mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 内面: ケズリ	
	226 51	第3面 S D 6	打製石器	刮削器	長さ: 6.8 幅: 4.6 厚さ: 0.8	-	-	サヌカイト	-	重量: 54g 重録: 25
1990-1	227 51	第3面 S D 7	弥生土器	広口壺	口径: (26.9) 器高: □12.0	口縁部 1/6	外: 7.5YR7/3に、ない、相 内: 10YR8/4浅黄褐	φ2mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 ハケ、且直突部、 内面: ヨコナデ、 ミガホ	概報: 3
	228 51	第3面 S D 7	弥生土器	広口壺	器高: □1.8	-	外: 10YR6/4に、ない、相 内: 10YR6/1灰褐色 内: 10YR5/2灰褐色	φ3mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 ハケ、四隅4条 内面: ヨコナデ、櫛端 判点文	
	229 51	第3面 S D 7	弥生土器	広口壺	口径: (24.8) 器高: □6.9	口縁部 1/6	男: 5YR7/4に、ない、相 内: 5YR8/3浅黄褐 内: 7.5YR8/3浅黄褐	φ2mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 四隅、櫛端直線、ハケ 内面: ヨコナデ、櫛端 判点文	概報: 1
	230 51	第3面 S D 7	弥生土器	底盤	器高: □4.2 底径: 7.4	底盤 完全	男: 断: 2.5YR8/2灰白 内: 10YR8/2灰白	φ1.5mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ハケ 内面: ナデ	概報: 6 直錐
	231 51	第3面 S D 7	弥生土器	底盤	器高: □2.2 底径: 4.4	底盤 完全	男: 内: 10YR7/3に、ない、相 内: 10YR6/1褐色	φ1mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ナデ 内面: ミガホ 内面: ケズリ	
	232 51	第3面 S D 7	弥生土器	高杯	器高: □5.2 底径: (10.2)	脚部部 1/4	男: 5YR6/4に、ない、相 内: 2.5YR8/2灰赤	φ1mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、門限 内面: ナデ、ケズリ	
	233 51	第3面 S D 7	弥生土器	甕	口径: (22.0) 器高: □5.5	口縁部 1/6	外: 10YR2/1黒 内: 10YR8/2に、ない、相 内: 10YR8/3浅黄褐	φ2mm以下のチャート、長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 タスキ 内面: ヨコナデ、ナデ	概報: 15, 外: 内面: サルブ
	234 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	広口壺	口径: (14.8) 器高: □5.6	口縁部 1/6	男: 断: 10YR8/2 内: 10YR8/2灰白	φ1.5mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ、ハケ	
	235 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	広口壺	口径: (20.0) 器高: □4.0	口縁部 1/10	男: 断: 10YR8/3 内: 10YR8/3浅黄褐	φ0.5mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 ハケ、櫛端波状文 内面: ヨコナデ	
	236 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	広口壺	口径: (13.0) 器高: □5.6	口縁部 1/3	男: 断: 10YR8/2 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、四隅 櫛端波状文 内面: ヨコナデ	
	237 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	広口壺	口径: (14.6) 器高: □5.9	口縁部 1/4	男: 7.5YR7/6相 内: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR8/6浅黄褐	φ1.5mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 櫛端波状文 内面: 暫めのため不明	外: 塔付
	238 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	広口壺	器高: □6.9	脚部 1/8	男: 10YR7/4Cに、ない、黄褐 内: 10YR8/3浅黄褐	φ1mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 脚付 内面: 暫めのため不明	
	239 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	広口壺	器高: □3.8	-	男: 断: 10YR8/3 内: 10YR8/3浅黄褐	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ミガホ、工具 痕、圧痕空槽 内面: 暫めのため不明	
	240 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	甕	器高: □9.8	-	外: 7.5YR7/4に、ない、相 内: 10YR8/3浅黄褐	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、ナデ	
	241 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	甕	器高: □7.7	-	外: 2.5YR4/1黄褐 内: 2.5YT4/1黄褐 内: 2.5Y7/2灰黃	φ1mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 櫛端波状文 内面: ヨコナデ、ユビオサ エ	
	242 -	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	甕	器高: □6.6	-	男: 10YR7/3に、ない、黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ハケ、櫛端直線 文、櫛端波状文 内面: 暫めのため不明	
	243 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	無柄甕	口径: (14.6) 器高: □3.0	口縁部 1/6	外: 10YR7/3に、ない、黄褐 内: 10YR8/3浅黄褐	φ1mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、ナデ (ø0.4cm)	外: 塔付
	244 -	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	甕	口径: (19.0) 器高: □6.9	口縁部 1/6	外: 5に、ない、相 内: 10YR7/3に、ない、相 内: 10YR8/3浅黄褐	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 ハケ、朝日文 内面: ヨコナデ、ハケ	
	245 52	第3面 方形周溝 底状遺構	弥生土器	甕	口径: (29.3) 器高: □7.2	口縁部 1/12	外: 10YR7/3に、ない、相 内: 10YR8/3浅黄褐	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ混じる	外面: ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、ナデ	

表4 遺物觀察表(10)

測定次数	標印番号	回版番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	246	-	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	甕	口径: (28.5) 底高: △7.7	口縁部 1/10	外: 断: 2.5YR 8/2灰白 内: 10YR8/3浅黄褐	φ1mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外・内面: ヨコナデ、 ハケ後ナデ	
	247	-	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	底部	底高: △5.5 底径: 8.4	底部 2/3	外・断・内: 10YR8/2 灰白	φ2.5mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ハケヨミガキ 内面: ユビナデ、 ミガキ	外面保付
	248	-	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	底部	底高: △4.5 底径: 8.2	底部 2/3	外・断・内: 10YR7/2 灰白	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ハラミガキ 内面: 濃赤のため不明	
	249	-	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	底部	底高: △4.0 底径: 7.0	底部 2/3	外: 5YR7/4赤-5YR 内: 10YR7/3にぶい黄相	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: 濃赤のため不明 内面: ハラ	
	250	52	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	高杯	底高: △2.1	-	外: 5YR7/4赤-5YR 内: 10YR8/1灰白相	φ0.5mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 柳葉波状文、円滑浮 内面: 濃赤のため不明	
	251	52	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	高杯	底高: △5.0	-	外: 7.5YR6/4に△に 内: 10YR6/3浅黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 子テ、凹線 内面: ヨコナデ、ナデ	
	252	52	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	高杯	底高: △1.8	-	外: 7.5YR7/4に△に 内: 10YR8/2灰白相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 波状文、直線文、 内面: ケズリ	
	253	56	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	器台	底高: △9.4 底径: 12.4	脚柱部 2/3	外: 10YR7/2に△に 内: 10YR8/2灰白相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、ナデ	概観: 16 脚柱部: 穿孔(Φ0.5cm) 底部: 被焼
	254	56	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	水差	底高: △11.8 底径: 5.2	全体部	外: △に△: 10YR7/3 内: 10YR9/1灰白	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ナチュラル 柳葉波状文、ミカ ナテ、ケズリ	概観: 14
	255	52	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	鉢	底高: △4.5	-	外: 6に△に 内: 7.5YR7/3 に△に黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ナ 子テ、柳葉波状文 内面: ヨコナデ、ナデ	
	256	52	第3面 万形周溝 鉢状遺構	弥生土器	鉢	口径: (50.6) 底高: △11.3	口径部 1/8	外: △: 5YR7/6相 内: 10YR7/6相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 内面: 直線文、例点文 内面: ヨコナデ	
	257	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	口径: (37.8) 底高: △2.3	口縁部 1/6	外: 2.5YR/1灰黄 内: 2.5YR/2灰黄 内: 10YR6/2灰黄	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ハケ、削1文 内面: ハラ	概観: 21
1990-1	258	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	口径: (24.3) 底高: △4.4	口縁部 1/8	外: 10YR8/3浅黄相 内: 2.5YR/3浅黄	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ナ 子テ、柳葉波状文 内面: ヨコナデ	概観: 20
	259	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	口径: (24.1) 底高: △4.0	口縁部 1/8	外: △: 10YR8/4 内: 浅黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ハケ、削1文 内面: ヨコナデ	
	260	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	口径: (18.9) 底高: △7.1	口縁部 1/8	外・断・内: 10YR8/3 灰白相	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 四 脚柱部: 穿孔	
	261	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	口径: (18.4) 底高: △7.5	口縁部 1/6	外: 10YR7/2に△に 内: 10YR8/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、ナデ	
	262	-	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	口径: (18.6) 底高: △5.2	口縁部 1/6	外・断・内: 10YR7/3 に△に黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 内面: 濃赤のため不明	
	263	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	底高: △9.7	頭部 1/6	外: 10YR8/3浅黄相 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 四 脚柱部: 穿孔	
	264	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	底高: △11.4	頭部 1/8	外: 7.5YR7/4に△に 内: 2.5YR/1灰黄 内: 7.5YR7/5に△に黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 直線文、斜格文 内面: ヨコナデ、ナデ	
	265	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	口径: △4.7	頭部 1/6	外: 10YR8/3浅黄相 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: 庄庭尖突 内面: ヨコナデ、ユビ オサエ、扁尾文	
	266	53	第3面 S X 2	弥生土器	広口壺	底高: △6.7	頭部 1/6	外: 10YR7/2に△に 内: 10YR8/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、ナデ	
	267	53	第3面 S X 2	弥生土器	壺	底高: △7.6	-	外: 7.5YR8/4に△に 内: 10YR8/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ナデ、 柳葉波直線 文、柳葉波文、斜格 文	
	268	53	第3面 S X 2	弥生土器	壺	底高: △12.6	-	外: 7.5YR8/3に△に 内: 10YR8/3浅黄相 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ハラ、 柳葉波直線 文、柳葉波文、斜格 文	
	269	53	第3面 S X 2	弥生土器	壺	底高: △6.4	-	外: 10YR7/3に△に 内: 10YR7/2 に△に黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ハラ、 柳葉波直線 文、柳葉波文、斜格 文	
	270	53	第3面 S X 2	弥生土器	壺	口径: (4.2) 底高: △7.7	口縁部 1/6	外: 10YR6/3に△に 内: 10YR6/4 に△に黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ハケ 内面: ヨコナデ	外側保付
	271	-	第3面 S X 2	弥生土器	壺	口径: (12.3) 底高: △5.7	口縁部 1/6	外: 7.5YR7/3に△に 内: 10YR7/3に△に 黄相	φ0.5mm以下のチャー ト、長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ハケ 内面: ヨコナデ、 ナデ	外側保付

表4 遺物観察表(11)

測定 次元	種類 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	構造	備考
	272 53	第3面 S X 2	弥生 土器	甕	口径: (0.27) 高さ: △7.1	口縁部 1/12	外・断・内: 10YR7/2 にぶい黄相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英、ク サリ織合む	外面: ハケ後ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、ハケ 着	外面: 褐付 着
	273 53	第3面 S X 2	弥生 土器	甕	口径: (0.43) 器高: △8.1	口縁部 1/6	外・断: 10YR8/2灰白 内: 10YR7/4C灰・黄相	φ1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外・内面: ヨコナデ、 ハケ	
	274 -	第3面 S X 2	弥生 土器	底部	器高: △3.7 底径: △8.8	底部 完形	外・内: 2.5Y7/2灰黄 内: 2.5Y6/1黄灰	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ナデ、ユビナ デ、タマニ、内面: ナデ	内面: 褐付 着
	275 -	第3面 S X 2	弥生 土器	底部	器高: △6.0 底径: (0.6)	底部 1/6	外・内: 7.5YR7/4にぶい 内: 7.5YR8/3灰黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ナデ、ミガキ 内面: ナデ、阪ナデ	
	276 54	第3面 S X 2	弥生 土器	甕	口径: (2.34) 器高: △4.4	口縁部 1/8	外: 10YR6/3Cにぶい黄相 内: 10YR7/2Lにぶい黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ミガキ、四層 内面: ヨコナデ、 ミガキ	横幅: 22
	277 54	第3面 S X 2	弥生 土器	甕	器高: △4.8	-	外: 10YR2/1黒 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/3にぶい黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 横幅 内面: ヨコナデ、 内面: ハケ	
	278 54	第3面 S X 2	弥生 土器	甕	器高: △5.1	-	外: 10YR1/3Cにぶい黄相 内: 7.5YR8/3C灰白 内: 10YR7/3Cにぶい黄相	φ0.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: 四継、鄭孔施状 内面: ヨコナデ	
	279 54	第3面 S X 2	弥生 土器	甕	器高: △6.8	-	外: 7.5YR8/4灰黄相 内: 2.5Y5/1黄灰 内: 7.5YR8/3灰黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、四層 内面: ヨコナデ、ナデ	
	280 54	第3面 S X 2	弥生 土器	甕	器高: △4.9	-	外・断・内: 10YR6/2 灰黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ナ デ、四継 内面: ヨコナデ	
	281 54	第3面 S X 2	弥生 土器	高杯	口径: (20.1) 器高: △2.8	口縁部 1/4	外・内: 7.5YR7/4 にぶい黄 内: 7.5YR8/2灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、支 半、ナスカ 内面: ハケ	横幅: 23 外面: 褐付 着
	282 -	第3面 S X 2	弥生 土器	高杯	口径: (19.4) 器高: △2.7	口縁部 1/6	外・断・内: 10YR8/3 灰黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: 濃赤のため不明 内面: ヨコナデ	
	283 -	第3面 S X 2	弥生 土器	高杯	器高: △8.5	脚柱部 完形	外: 7.5YR7/4にぶい黄 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ミガキ、 内面: ナデ、ミガキ、 ナスカ、シリボリ報	円盤充填
1990 -1	284 -	第3面 S X 2	弥生 土器	高杯	器高: △7.5	脚柱部 1/4	外・内: 10YR7/3にぶい 黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ミガ キ、ナスカ 内面: ヨコナデ、ナ デ、ケズリ、シリボリ報	円盤充填
	285 54	第3面 S X 2	弥生 土器	高杯	器高: △10.1	脚柱部 1/4	外・断・内: 10YR7/3 にぶい黄相	φ4mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ミガ キ、ナスカ 内面: ヨコナデ、ナ デ、ケズリ、シリボリ報	端部褐付着
	286 54	第3面 S X 2	弥生 土器	高杯	器高: △2.5 底径: (10.0)	脚柱部 1/6	外: 5YR7/6灰 内: 5YR7/4Cにぶい黄 内: 2.5YR7/6相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、圓盤 内面: ケズリ	
	287 54	第3面 S X 2	直腹 石器	石臼	長さ: (5.2) 幅: 3.7 厚さ: 0.65	-	-	粘板岩	-	重量: 19.8g 横幅: 24
	288 -	4層	白磁	瓶	器高: (2.1)	-	外・断: 5Y7/1灰白 内: 5Y6/3オリーブ黄	精良	外面: 施釉	
	289 -	4層	青磁	瓶	器高: △2.2 底径: △0.6	-	外: 5Y7/1灰白 内: 5Y6/3オリーブ黄	精良	外面: 回輪ヘラケズ リ、青磁、御白 内面: ヨコナデ	横幅: 26 同安室1類
	290 54	6層	弥生 土器	広口壺	口径: (4.46) 器高: △4.7	口縁部 1/4	外・断: 10YR8/3灰黄相 内: 10YR5/1褐色	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 横幅 内面: ヨコナデ、横幅 点文	
	291 54	6層	弥生 土器	広口壺	口径: (2.32) 器高: △9.4	口縁部 1/4	外: 2.5Y7/3灰黄 内: 2.5Y7/4C灰黄 内: 2.5YR7/3Cにぶい黄	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、四継、圓盤 内面: ヨコナデ、ナデ	横幅: 19
	292 -	6層	弥生 土器	広口壺	口径: (2.59) 器高: △4.6	口縁部 1/4	外・内: 10YR7/3にぶい 黄相 内: 2.5Y5/1黄灰	φ5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ、ハ ケ	
	293 54	6層	弥生 土器	広口壺	口径: (2.78) 器高: △3.6	口縁部 1/8	外・内: 2.5Y7/2灰黄 内: 10YR5/1褐色	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、四 継、圓盤 内面: ヨコナデ、横幅 点文	
	294 54	6層	弥生 土器	広口壺	口径: (2.77)	-	外・断: 2.5Y5/1黄灰 内: 10YR7/2Cにぶい黄相 内: 2.5Y6/2灰黄	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、四 継、圓盤 内面: ヨコナデ、横幅 点文	
	295 54	6層	弥生 土器	壺	器高: △6.0	-	外・断: 2.5Y8/2灰白 内: 2.5Y8/3灰黄	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ナデ、 圓盤直線 内面: ヨコナデ	
	296 55	6層	弥生 土器	甕	口径: (2.48) 器高: △6.5	口縁部 1/6	外・断・内: 10YR8/2 灰白 内: 10YR7/3にぶい黄相	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハ ケ 内面: 濃赤のため不明 内面: ヨコナデ	横幅: 8 内面: 36.43
	297 55	6層	弥生 土器	甕	口径: (2.74) 器高: △6.7	口縁部 1/8	外・断: 10YR8/3灰黄相 内: 10YR7/3にぶい黄相	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハ ケ 内面: ヨコナデ	

表4 遺物觀察表(12)

測定 次数	標 識 番 号	回版 番 号	出土地	器種	器 形	法 量(cm)	残 存	色 調	胎 土	調 整	備 考
1990 -1	298	55	6層	陶生 土器	鉢	口径: (28.9) 底高: △6.2	口縁部 1/10	外: 10YR6/3にぶ・黄相 内: 10YR7/3に赤 黄相	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハ ゲ、庄庭奈帝 内面: ヨコナデ	外面保付着
	299	54	6層	陶生 土器	鉢	底高: △7.0	-	外: 10YR6/2灰黄相 内: 10YR5/1褐色 内: 2.5Y5/1灰黄	φ 1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ナ ダ、門線、櫛振波狀 内面: ヨコナデ、文 内面ヨコナデ、ハゲ	
	300	55	6層	陶生 土器	鉢	底高: △6.8	-	外・斯・内: 2.5Y7/2 灰黄	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、往 期、櫛振波狀、櫛振 波文	内面: ヨコナデ
	301	55	6層	陶生 土器	鉢	底高: △6.1	-	外・斯・内: 10YR7/3 にぶ・黄相	φ 1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、迷線 内面: ヨコナデ、ナダ	
	302	55	6層	陶生 土器	高杯	口径: (24.3) 底高: △3.8	口縁部 1/10	外・内: 2.5Y7/4灰黄 相: 10YR7/3にぶ・黄相	φ 1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ミ ガキ	
	303	55	6層	陶生 土器	把手付 高杯	口径: (17.7) 底高: △6.7	口縁部 1/4	外・斯・内: 10YR7/3 にぶ・黄相	φ 3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ナ ダ、門線	内面: ヨコナデ
	304	55	6層	陶生 土器	高杯	口径: △10.1	脚部 完形	外・内: 7.5YR6/8灰黄相 内: 2.5Y5/1灰黄	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: 沈線 内面: シボリ痕	透かし孔: 4万孔
	305	55	6層	陶生 土器	高杯	底高: △5.5	脚部 完形	外・斯・内: 10YR8/3 浅黄相	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: 沈線 内面: シボリ痕	
	306	55	6層	陶生 土器	高杯	底高: △2.9 底径: 9.6	脚部 1/6	外・斯・内: 2.5Y7/4 浅黄	φ 1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、門線 内面: ヨコナデ、禿光 文	
	307	55	6層	陶生 土器	器台	底高: △6.6 底径: (8.6)	脚部 1/3	外・斯・内: 2.5Y7/3 浅黄	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ 内面: シボリ痕	円形透かし 孔: 8万孔 (Φ 0.5cm)
	308	55	6層	陶生 土器	器台	底高: △5.6 底径: 8.2	脚部 完形	外・斯・内: 10YR8/3 浅黄相	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ナダ	
1992 -1	309	55	6層	陶生 土器	器台	底高: △5.0 底径: (10.2)	脚部 1/6	外・斯・内: 2.5Y7/3浅黄 内: 7.5YR7/4にぶ・相	φ 1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、沈線 内面: ハカズリ	沈孔 (Φ 0.5cm)
	310	55	6層	陶生 土器	脚部	底高: △2.7 底径: 5.4	底部 完形	外・斯: 10YR8/3灰黄相 内: 2.5Y5/1灰黄	φ 1.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ 内面: ナダ	
	311	55	6層	陶生 土器	器台	口径: (8.5) 底高: △4.7	口縁部 1/4	外・斯: 7.5YR7/4 内: 3.5Y5/1相	φ 1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: 脱文 内面: ナダ、シボリ痕	
	312	55	6層	石製品	砾石	長さ: (8.7) 幅: 6.3 厚さ: (5.3)	-	-	砂岩	-	重量: 373g
	313	57	S K 1	須恵器	杯 G 蓋	口径: (8.6) 底高: △2.2	1/8	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/1灰白	φ 1mm以下の白色粒を含む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面: 回転ナデ	
	314	57	S K 1	須恵器	杯 G 身	口径: (9.4) 底高: △3.4	2/3	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/3灰黄相	φ 1mm以下の粗砂を含む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面: 回転ナデ	
	315	57	S K 2	須恵器	杯 G 蓋	口径: (8.8) 底高: △3.1	1/4	外: N8/灰白 内: 2.5Y7/1灰白	φ 6mm以下の礫を含む	外面: 回転ナデ、回転 内面: 回転ナデ	
	316	56	S K 2	須恵器	杯 G 身	口径: 10.2 底高: 6.6	ほぼ完形	外: N5/灰 内: 10YR6/3にぶ・黄相	φ 1mm以下の粗砂を含む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面: 回転ナデ	
	317	56	S K 2	須恵器	平瓶	口径: 8.6 底高: 15.2	ほぼ完形	外: N7/灰白 内: 2.5Y7/2灰黄 内: N6/灰	φ 4mm以下の礫を含む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面: 回転ナデ	
	318	57	S K 2	土師器	杯 C	口径: 10.4 底高: 3.1	ほぼ完形	外・内: 7.5YR7/3 にぶ・相 内: 5YR5/6赤褐	φ 1mm以下の粗砂を含む	外面: ヨコナデ、放射 状裂文	
	319	56	S P 3	陶器	壺	底高: △13.5 底径: 13.6	底部 完形	外・内: NS/灰 内: 10R6/6赤褐	φ 4.5mm以下の礫を含む	外面: ナダ、ハケ 内面: ナダ、ナダ、ユカリサエ	
	320	57	S P 3	瓦質 土器	羽釜	口径: (31.6) 底高: △11.4	口縁部 1/4	外・内: NS/灰 内: 10YR8/1灰白	φ 2mm以下の粗砂を含む	外面: ナダ、ヨコナデ 内面: ナダ	押津 F
	321	57	S P 5	須恵器	鉢	口径: (29.6) 底高: △5.1	口縁部 1/6	外・斯・内: N7/灰白	φ 7mm以下の礫を含む	外面: 回転ナデ	東系
	322	57	S P 9	瓦器	桶	口径: (12.8) 底高: △5.1	口縁部 1/4	外: 2.5Y8/1灰白 内: 10YR8/1灰白	素	外面: ユビオサエ、ヨ コナデ 内面: ヨコナデ	和泉 IV
	323	58	4層	須恵器	杯 G 蓋	口径: (9.7) 底高: △2.6	口縁部 1/6	外: 10YR6/1灰白 内: 2.5Y7/2灰黄 内: 10YR6/2灰白	φ 3mm以下の礫を含む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面: 回転ナデ、ナダ	
	324	58	4層	須恵器	杯 H 身	口径: (10.0) 底高: 3.4	1/3	外: N7/灰白 内: N8/灰白	φ 1mm以下の粗砂を含 む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面: 回転ナデ	
	325	56	4層	須恵器	杯 G 身	口径: 9.0 底高: 4.2	ほぼ完形	外・斯・内: 2.5Y7/2 灰黄	φ 1mm以下の粗砂を含 む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面: 回転ナデ、ナダ	

表4 遺物観察表(13)

測定 次元	標 記 番 号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 整	備 考
1992-1	326	58	4層	須恵器	甕 器高:△3.0	—	外: 5/4/1灰 内: N7/6灰 内: N6/灰	密	外面: 回転ナデ、模様 波状文 内面: 回転ナデ	
	327	58	4層	須恵器	高杯 器高:△4.3	口径部 1/6	外・断・内: N7/灰白	φ1mm以下の粗砂を含む	外・内面: 回転ナデ	
	328	56	4層	須恵器	平瓶 器高:△12.5	体部 完形	外: N5/灰 内: 7.5YR8/1灰白 内: 7.5YR7/2灰白	φ2mm以下の粗砂を含む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズミ 内面: 回転ナデ	
	329	58	4層	土師器	甕 口径:△(2.0) 器高:△5.1	口縁部 1/4	外: 5YR7/6灰 内: 5YR8/1灰白 内: 7.5YR8/4灰白	φ4mm以下の礫を中量 含む	外・内面: 濃濁のため 不明	
	330	58	4層	土師器	杯 口径:△(2.8) 器高:△3.4	1/3	外: 内: 10YR8/6灰白 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の粗砂を含む	外・内面: 濃濁のため 不明	
	331	58	3層	瓦質 土器	羽筆 器高:△5.3	—	外: 10YR7/2灰 内: 2.5YR8/1灰白 内: 2.5YT7/1灰白	φ1mm以下の粗砂を含む	外面: ユビオサエ、 ヨコナデ 内面: ユビオサエ	
	332	58	3層	瓦質 土器	三足釜 器高:△9.5	—	外: N5/灰 内: 10YR8/1灰白 内: NR/6灰	φ3mm以下の礫を含む	外面: ユビナデ	
	333	58	3層	瓦質 土器	三足釜 口径:△(20.6) 器高:△3.0	口縁部 1/6	外・断・内: 5Y5/1灰	φ1mm以下の粗砂を含む	外面: ヨコナデ 内面: ユビオサエ、 ヨコナデ	
	334	58	S D I	打製 石器	剥片 長さ: 3.1 幅さ: 1.4	—	—	サヌカイト	—	重量: 10.3g
1992-2	335	58	S D I	打製 石器	石核 長さ: 7.7 幅さ: 4.2 厚さ: 1.8	—	—	サヌカイト	—	重量: 49.5g
	336	58	3層	勞生 土器	底部 器高:△2.8 底径:△6.4	底部 2/3	外: 7.5YR7/4にぶい相 内: 10YR6/4にぶい黄相 内: 10YR5/1灰相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ナデ、ハケ 内面: ナデ、ユビオサエ	
1992-3	337	—	2層	須恵器	杯B 器高:△1.3 底径:△(12.0)	底部 1/6	外: N6/灰 内: 2.5Y6/1黄灰	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面: 回転ナデ、 カキモ、回転ハラキリ 側面回転ナデ 内面: 回転ナデ、ナデ	
	338	—	2層	須恵器	鉢 器高:△3.4	—	外・断・内: N6/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ 束縛系	
1997-1	339	59	S D 18	勞生 土器	広口壺 口径:△(13.8) 器高:△4.1	口縁部 1/10	外: 7.5YR8/6灰白相 内: 7.5YR7/1灰白 内: 7.5YR7/2灰白	φ1mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨコナデ、四隅 内面: ヨコナデ	
	340	—	S D 18	勞生 土器	底部 器高:△7.0 底径:△6.6	底部 2/3	外・断: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/6黄相	φ2mm以下のチャート、 長石、金雲母含む	外面: ハミガキ 内面: ナデ	底面: 木葉
	341	—	S D 18	勞生 土器	底部 器高:△5.4 底径:△6.0	底部 完形	外・断: 10YR8/4灰白相 内: 10YR4/1灰相	φ0.6mm以下のチャート、 長石、石英、クサリ鐵 含む	外・内面: ナデ	底面: 木葉
	342	—	S D 18	勞生 土器	底部 器高:△4.2 底径:△6.0	底部 完形	外・断・内: △2.5Y8/4 黄相	φ2mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ナデ、ヘルミガ キ含む 内面: ナデ	
	343	—	S D 18	勞生 土器	底部 器高:△4.3 底径:△9.6	底部 完形	外・断: 10YR8/4灰白相 内: 10YR8/6黄相	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、クサリ鐵 含む	外面: ナデ 内面: 板ナデ	
	344	—	S D 18	勞生 土器	底部 器高:△5.5 底径:△7.6	底部 完形	外: 2.5Y7/4灰 内: 2.5Y6/4 内: ぶい黄	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、クサリ鐵 含む	外面: ユビオサエ、ミ ガキ、ナデ(後ケズリ) 内面: ナデ	
	345	—	S D 18	勞生 土器	底部 器高:△3.9 底径:△6.0	底盤 完形	外: 2.5Y7/2灰 内: 2.5Y3/1黑闇	φ2mm以下のチャート、 長石、石英含む	外・内面: ナデ	
	346	59	S D 18	甕	口径:△(2.4) 器高:△6.4	口縁部 1/10	外・断・内: 10YR8/1 灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英、クサリ鐵 含む	外面: ヨコナデ、四隅 内面: 濃濁のため不明	
	347	59	S D 18	勞生 土器	鉢 口径:△(5.4) 器高:△5.4	口縁部 1/10	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/1灰白	φ3mm以下のチャート、 石英含む	外・内面: ヨコナデ	
	348	59	S D 18	勞生 土器	高杯 器高:△7.1	脚柱部 1/3	外: 7.5YR6/2灰相 内: 7.5YR7/3にぶい相 内: 7.5YR5/1灰相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨガキ、蘇蘋 内面: ヨコナデ、ナデ	円盤充填
1997-2	349	59	S D 18	勞生 土器	高杯 器高:△3.1	脚柱部 1/10	外・断: 10YR8/2灰 内: 10YR7/2にぶい相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英、クサリ鐵 含む	外面: ヨコナデ、四隅 内面: ヨコナデ (φ0.7cm)	
	350	62	S D 18	土師器	甕 口径:△(15.4) 器高:△12.6	4/5	外・断: 2.5Y8/1灰白 内: 10YR7/3にぶい相	φ2mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ユビオサエ(後ナ デ)、ハケ	
1997-3	351	59	S D 18	石製品	不明 長さ: (1.08) (5.8) 厚さ: (2.2)	—	—	不明	—	重量: 152.0g
	352	59	S D 18	磨製 石器	大型 石斧 厚さ: (7.8) 厚さ: (0.9)	—	—	片岩	—	重量: 66.4g
1998-1	353	—	S D 7	勞生 土器	甕 器高:△8.6	口縁部 1/10	外・断・内: 10YR7/2 にぶい黄相	φ1mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ、板ナ デ	
	354	—	S D 3	勞生 土器	底部 器高:△2.5 底径:△7.2	底部 1/3	外・断: 2.5YR6/6灰相 内: 7.5YR6/1灰相	φ4mm以下のチャート、 長石、石英含む	外・内面: ナデ	
1998-2	355	—	S K 1	勞生 土器	底部 器高:△4.8 底径:△5.8	底部 完形	外: 7.5YR7/4にぶい相 内: 5/4/1灰	φ4mm以下のチャート、 長石、石英含む	外・内面: ナデ	

表4 遺物観察表(14)

調査 次数	博物館 登録 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色 調	胎 土	調 整	備考	
	356	-	S K 5	弥生 土器	底部	高さ:△2.8 底径:7.2	底部 完全	外:10YR8/3灰黄 内:10YR8/1灰白	φ2mm以下のチャート、長石、石英含む	外面:ナデ 内面:磨滅のため不明	
	357	59	S D 17	弥生 土器	甕	口径:△3.0 底径:△11.0	口縁部 1/4	外:10YR8/3灰黄 内:10YR7/4灰に少く黄 内:10YR8/1灰白	φ3mm以下のチャート、石英、クサリ織合せ	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	358	62	S D 17	弥生 土器	台付鉢	高さ:△6.5 底径:5.0	底部 完全	外:10YR8/2灰白 内:10YR8/3灰黄 内:7.5YR8/3灰黄	φ1mm以下のチャート、石英含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ、工具痕	
	359	60	S K 6	弥生 土器	広口壺	口径:△5.0 底径:△7.3	口縁部 1/6	外:10YR8/3灰黄 内:7.5YR8/3灰黄	φ4mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外・内面:磨滅のため不明	
	360	60	S K 6	弥生 土器	広口壺	口径:△24.2 底径:△14.3	口縁部 1/6	外:10YR8/3灰黄 内:10YR8/2灰白 内:SYR8/3灰	φ5mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外・内面:磨滅のため不明	
	361	60	S K 6	弥生 土器	甕	高さ:△8.0	-	外:10YR8/2灰白 内:2.5YR8/1灰白	φ2mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外面:ナデ、櫛描直線文 内面:磨滅のため不明	
	362	-	S K 6	弥生 土器	底部	高さ:△3.5 底径:5.6	2/3	外:断:2.5YR8/2灰白 内:2.5YR8/1灰白	φ3mm以下のチャート、石英、クサリ織合せ	外面:ナデ 内面:ユビオサエ	
	363	62	S K 6	弥生 土器	底部	高さ:△11.9 底径:7.0	底部 完全	外:7.5YR8/2灰黄 内:2.5YR8/3灰白 内:2.5YR8/1灰白	φ4mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外面:ナデ 内面:磨滅のため不明	
	364	-	S K 6	弥生 土器	底部	高さ:△3.8 底径:5.4	2/3	外:10YR7/4に少く黄 内:2.5YR8/2灰白	φ5mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外面:ヘラケアズ 内面:磨滅のため不明	
	365	62	S K 6	弥生 土器	高杯	高さ:△10.6 底径:△12.6	脚柱部 完全	外:2.5YR7/2灰黄 内:2.5YR8/1灰白 内:2.5YR8/2灰白	φ4mm以下のチャート、長石、石英含む	外面:ヨコナデ、 内面:ナデ、凹線文、ナデ、ハケ、工具痕	
	366	59	S K 6	打製 石器	石皿	長さ:△3.35 幅:△2.2 厚さ:△0.9	-	-	サヌカイト	-	重量:4.0g
	367	59	S P 95	弥生 土器	甕	口径:△9.6 底径:△8.6	3/4	外・断:内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下のチャート、長石、石英含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ(φ0.2cm)	
	368	59	S K 134	弥生 土器	底部	高さ:△3.7 底径:△9.5	底部 完全	外・断:内:10YR8/3 灰黄	φ3mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	底面:木葉 内面:ユビオサエ	
	369	59	S P 71	打製 石器	石核	長さ:△6.8 幅:△6.6 厚さ:△1.65	-	-	サヌカイト	-	重量:63.8g
1997 -1	370	-	S K 40	弥生 土器	底部	高さ:△2.3 底径:△5.2	1/4	外:10YR8/1灰白 内:10YR8/3灰黄 内:10YR6/2灰黄	φ1mm以下のチャート、長石、石英含む	外・内面:磨滅のため不明	
	371	60	S X 1	弥生 土器	広口壺	口径:△32.4 底径:△9.5	口縁部 1/8	9:7.5YR8/3灰黄 内:7.5YR8/2灰白 内:7.5YR8/2灰白	φ4mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外曲:凹線、頬丸、 内面:ヨコナデ、 内面:磨滅のため不明	
	372	60	S X 1	弥生 土器	広口壺	口径:△36.2 底径:△4.0	口縁部 1/10	外・断:内:2.5YR8/1 灰白	φ1mm以下のチャート、長石、石英、金雲母含む	外曲:ヨコナデ、 内面:ヘラ 内面:ハケ	
	373	60	S X 1	弥生 土器	広口壺	高さ:△10.3	瓶部 1/8	外・断:内:2.5YR8/3 灰黄	φ2mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外曲:ナデ、直痕突起 内面:磨滅のため不明	
	374	60	S X 1	弥生 土器	甕	口径:△46.2 底径:△5.2	口縁部 1/10	外・内:2.5YR8/1灰白 内:7.5YR7/1明闇灰	φ1mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外・内面:ヨコナデ	
	375	-	S X 1	弥生 土器	甕	口径:△19.8 底径:△6.5	口縁部 1/10	外:7.5YR8/2灰白 内:7.5YR8/1灰白 内:7.5YR7/1明闇灰	φ2mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外・内面:磨滅のため不明	
	376	-	S X 1	弥生 土器	底部	高さ:△4.4 底径:△9.2	底部 完全	外・断:内:2.5YR8/3 灰黄	φ4mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外・内面:ナデ	
	377	60	S X 1	弥生 土器	底部	高さ:△7.7 底径:△9.2	底部 完全	外:2.5Y7/3灰黄 内:2.5Y8/2灰白	φ3mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外面:ナデ、ハケ 内面:ナデ 底面:木葉	
	378	60	S X 1	打製 石器	片削	長さ:△3.5 幅:△2.2 厚さ:△0.65	-	-	サヌカイト	-	重量:4.1g
	379	-	S X 1	瓦器	縁	口径:△12.2 底径:△3.1	1/3	外:N6/灰 内:8N/灰白 内:6N/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ、和室IV	
	380	-	S K 4	弥生 土器	体一 底部	高さ:△19.6 底径:△6.0	体部 1/3	外:7.5YR7/6稍 内:10YR8/2灰白 内:7.5YR7/4に少く物	φ2mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外面:ヨガキ 内面:磨滅のため不明	
	381	-	S K 4	弥生 土器	底部	高さ:△3.3 底径:△7.2	3/4	外:2.5YR8/1灰白 内:10YR8/1灰白	φ2mm以下のチャート、長石、石英、クサリ織合せ	外・内面:ナデ 底面:十字状の刷痕	
	382	61	S K 4	土師器	杯ないし皿	口径:△21.2 底径:△2.7	口縁部 1/8	外:7.5YR8/3灰黄 内:7.5YR7/3に少く物 内:7.5YR8/3灰黄	φ2mm以下のチャート、石英、金雲母含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ、ヘラ 内面:ミカキ	
	383	61	S K 4	土師器	杯C	口径:△15.2 底径:△4.6	1/6	外・断:内:10YR8/1 灰白	φ2mm以下のチャート、長石、石英含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ハケナデ	
	384	61	S K 4	土師器	杯C	口径:△15.2 底径:△4.6	1/4	外・断:内:7.5YR8/4灰黄 内:5YR7/6灰	φ1mm以下のチャート、石英、長石含む	外面:ヨコナデ、ヘラ 内面:ヨコナデ、放射 内面:ヨコナデ、放射 内面:ヨコナデ	

表4 遺物観察表(15)

遺物 番号	地層 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考	
	385	61	S K 4	須恵器	杯ないし盃	口径:(14.2) 器高:2.0	1/3	外・内:N6/灰 断:5Y7/2灰白	φ2mm以下の長石含む	外・内面:回転ナデ	外面:自然 釉
	386	61	S K 4	須恵器	杯ないし盃	口径:18.3 器高:△1.2	1/2	外・斯・内:N7/灰白	φ1mm以下の石英含む	外面:回転ヘラケズ 内面:ナデ、回転ナデ	天井部:自 然釉
	387	61	S K 4	須恵器	杯	口径:16.4 器高:2.0	1/2	外・断:N7/灰白 内:2.5Y7/1灰白	φ2mm以下の石英含む	外面:回転ナデ、回転 ヘラケズ 内面:回転ナデ	天井部:自 然釉
	388	61	S K 4	須恵器	杯A	口径:(12.4) 器高:3.8	1/2	外・斯・内:2.5Y7/1 灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、回転 ヘラクリ	内面:回転ナデ
	389	-	S K 4	須恵器	杯A	口径:(11.0) 器高:3.2 底径:(8.6)	1/3	外・斯・内:N6/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、回転 ヘラクリ	内面:回転ナデ
	390	-	S K 4	須恵器	杯A	口径:(11.6) 器高:2.4 底径:(7.0)	1/3	外・内:N6/灰 断:N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、回転 ヘラケズ 内面:回転ナデ	外
	391	62	S K 4	須恵器	杯A	口径:12.4 器高:4.2 底径:7.2	1/2	外・内:N7/灰白 底:灰	φ0.5mm以下の長石含 む	外面:回転ナデ、回転 ヘラクリ	内面:回転ナデ
	392	-	S K 4	須恵器	杯A	口径:(10.0) 器高:3.5 底径:(6.6)	1/4	外・内・断:10YR7/1 灰白	φ1mm以下の砂粒含む φ2mm以下切り落ナデ	外面:回転ナデ、回転 ヘラクリ	内面:回転ナデ
	393	62	S K 4	須恵器	杯B	口径:(13.8) 器高:4.3 底径:8.4	2/3	外・5YRA/1灰白 断:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y6/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:回転ナデ、回転 ヘラクリ	内面:回転ナデ
	394	62	S K 4	須恵器	杯B	口径:12.4 器高:4.2 底径:(9.6)	1/2	外:N6/灰 内:N7/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:ナデ、回転ナデ 内面:回転ナデ、回転 ナデ後ナデ	外
	395	62	S K 4	須恵器	杯B	口径:17.1 器高:4.3 底径:12.2	1/2	外:5.7Y6/1灰 断:5Y7/1灰白 内:2.5Y6/2灰白	φ2mm以下の石英含む	外面:回転ナデ、回転 ヘラクリ後切削ナデ	内面:回転ナデ
	396	62	S K 4	須恵器	台付 盃	器高:△11.9 底部 完形	1/2	外:N6/灰 内:5Y7/1灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:ナデ、回転ナデ 内面:回転ナデ、 回転ヘラクリ後ナデ、 吹破、列文、 内面:ナデ、回転ナデ	透かし孔3 方向
1997 -1	397	61	S K 4	土師器	甕	口径:(10.2) 器高:△12.4	1/4	外・斯:2.5Y8/1 灰白	φ6mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ混含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ナデ、ハケ	外
	398	61	S K 4	土師器	甕	口径:(25.0) 器高:△7.6	1/6	外・斯:7.5YR8/4黄褐 内:5YR8/4淡黄	φ5mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:磨きのため削平	外
	399	-	S P100	弥生 土器	底部	器高:△3.4 底径:5.4	1/4	外・斯:7.5YR8/2白 内:10YR6/2灰黃	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ混含む	外・内面:磨滅のため 削平	外
	400	-	S K 34	弥生 土器	底部	器高:△2.8 底径:(5.0)	1/4	外:7.5YR7/4に△、相 對:7.5YR8/4灰黃	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英、金 雲母含む	外・内面:ナデ	外
	401	-	S K 79	須恵器	壺	器高:△2.2 底径:(10.0)	1/8	外:N7/灰白 内:N6/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外・内面:回転ナデ	外
	402	-	S P 64	須恵器	杯	器高:△2.7 底径:(12.0)	1/8	外・斯・内:N6/灰	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外・内面:回転ナデ	外
	403	-	S D 9	弥生 土器	底部	器高:△1.8 底径:5.4	1/4	外・斯・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、クサリ混 合む	外・内面:ナデ	外
	404	-	S D 10	弥生 土器	底部	器高:△1.6 底径:5.4	1/6	9内:10YR7/2に△ 外:10YR7/4に△、黃 褐	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外面:ナデ 内面:磨滅のため削平	外
	405	-	S D 10	弥生 土器	底部	器高:△2.5 底径:3.2	1/8	外・斯・内:10YR8/2 灰白	φ3mm以下の長石、石 英、クサリ混含む	外面:ナデ 内面:磨滅のため削平	外
	406	-	S D 10	須恵器	小壺	器高:△2.3 底径:6.0	1/3	外・内:N6/灰 内:N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含 む	外面:回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ	外
	407	-	S D 11	弥生 土器	壺	器高:△3.9	-	外・斯・内:10YR8/4 浅黃	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外面:ヨコナデ、 削文 内面:ヨコナデ、ナデ	外
	408	-	S D 11	弥生 土器	底部	器高:△3.4 底径:(5.8)	1/3	外:10YR6/2灰黃 内:10YR8/2灰白 内:10YR7/2△、黃	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外・内面:ナデ	底面:木葉 瓶
	409	-	S D 11	弥生 土器	高杯	器高:△3.3 底径:(15.4)	1/4	外:10YR8/3浅黃 内:10YR8/2灰白	φ1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ混含む	外面:ヨコナデ、 削文 内面:ヨコナデ、ナデ	外
	410	-	S D 74	石製品	砥石	長さ:(23.0) 幅:8.8 厚さ:8.4	-	-	砂岩	-	重量: 3013.1g
	411	63	包含層	弥生 土器	広口壺	口径部 器高:△4.5	1/6	外:10YR7/4に△、黃 褐 内:10YR8/3浅黃	φ4mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外面:ヨコナデ、ユビ オサエ 内面:ヨコナデ	外
	412	63	包含層	弥生 土器	広口壺	口径:△23.2 器高:△6.5	1/6	外:2YR8/4相 對:2.5YR8/1灰白 内:7.5YR8/3灰黃	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外面:ヨコナデ、門隠 内面:ヨコナデ	外
	413	-	包含層	弥生 土器	広口壺	口径:(20.0) 器高:△4.9	1/6	外:10YR7/2に△、黃 褐 内:10YR8/1灰白	φ2mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外・内面:ヨコナデ、 ハケ	外
	414	63	包含層	弥生 土器	広口壺	口径:(28.8) 器高:△4.9	1/6	外・斯・内:10YR8/1 灰白	φ3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ混含む	外・内面:磨滅のため 削平	外

表4 遺物観察表(16)

発見 次数	博物館 登録 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	415	63	包含層 弥生土器	広口壺	口径: (28.6) 底高: △2.9	口縫部 1/6	外: 内: 5YR6/8相 断: 10YR7/8黄褐	φ3mm以下のチャート、 長石、石英。クサリ織合む	外面: ヨコナデ、凹 継、円形浮文、輪日本 内面: 磨滅のため不明	
	416	63	包含層 弥生土器	広口壺	口径: (22.8) 底高: △2.8	口縫部 1/8	外: 2.5YR6/3C-5YR 断: 10YR7/4 にぶ・頬	φ1mm以下のチャート、 長石、石英。金 碧織合む	外面: 凹継、円形浮文 内面: 磨滅のため不明	
	417	63	包含層 弥生土器	壺	口径: (12.8) 底高: △4.8	口縫部 1/4	外: 黄褐 内: 10YR8/6	φ1mm以下のチャート、 長石、石英。金 碧織合む	外面: 刷文 内面: ヨコナデ	
	418	—	包含層 弥生土器	壺	底高: △4.1	—	外: 10YR8/3浅黄褐 断: 10YR5/1灰白 内: 10YR4/1灰灰	φ5mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: 凹継状文、輪日本 内面: ヨコナデ	
	419	63	包含層 弥生土器	広口壺	口径: (7.0) 底高: △3.2	口縫部 1/6	外: 2.5YR6/2灰白 断: 10YR8/3浅黄褐	φ2mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、凹 継、円形浮文、輪日本 内面: (φ0.3cm)	
	420	63	包含層 弥生土器	広口壺	口径: (22.0) 底高: △2.0	口縫部 1/6	外: 斜、内: 5YR8/2 灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨコナデ、凹 継、円形浮文	
	421	63	包含層 弥生土器	広口壺	口径: (23.0) 底高: △7.1	口縫部 1/6	外: 10YR8/2灰白 断: 10YR7/1灰白	φ4mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、凹 継、円形浮文	
	422	63	包含層 弥生土器	壺	口径: (3.6) 底高: △10.0	口縫部 1/10	外: 10YR8/3浅黄褐 断: 10YR6/1灰白 内: 10YR4/2灰白	φ4mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、凹 継、円形浮文	
	423	63	包含層 弥生土器	壺	口径: (3.6) 底高: △5.7	口縫部 1/10	外: 10YR6/2灰黄褐 断: 10YR3/1灰白 内: 10YR7/2にぶ・黄褐	φ6mm以下の長石。石 英含む	外面: ヨコナデ、凹 継、円形浮文	
	424	63	包含層 弥生土器	壺	口径: (3.8) 底高: △4.7	口縫部 1/10	外: 淡黄褐 内: 10YR8/4 灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ	
	425	63	包含層 弥生土器	壺	口径: (38.4) 底高: △7.6	口縫部 1/10	外: 内: 10YR8/2灰白 断: 10YR7/1灰白	φ1mm以下のチャート、 石英。金碧織合む	外面: ヨコナデ、凹 継、円形浮文	
	426	—	包含層 弥生土器	底部	底高: △5.1 底径: △5.2	底部 完全形	外: 斜、内: 2.5YR/3 淡黄	φ2mm以下のチャート、 長石、石英。クサリ織 合む	外面: ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	427	—	包含層 弥生土器	底部	底高: △4.3 底径: △5.6	底部 完全形	外: 斜、内: 10YR8/1 灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	428	—	包含層 弥生土器	底部	底高: △4.3 底径: △5.6	底部 完全形	外: 2.5YR7/2にぶ・相 断: 2.5YR7/2明灰白 内: 2.5YR5/2灰白	φ1mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	429	—	包含層 弥生土器	底部	底高: △5.6 底径: 10.0	底部 完全形	外: 10YR8/3浅黄褐 断: 10YR6/1灰白 内: 10YR8/4浅黄褐	φ2mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ナデ 内面: ナデ	
1997 -1	430	63	包含層 弥生土器	壺	口径: (29.0) 底高: △7.4	口縫部 1/10	外: 斜、内: 10YR8/1 灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ヨビオサエ、ハ ラ、ヨコナデ後ヨ ウ	
	431	63	包含層 弥生土器	壺	口径: (16.4) 底高: △10.2	口縫部 1/5	外: 斜: 10YR8/2灰白 内: 10YR6/6黄褐	φ4mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: ヨコナデ、 ハケ、ケズリ 内面: ハケ、ケズリ	
	432	—	包含層 弥生土器	底部	底高: △9.1 底径: (10.6)	底部 完全形	外: 2.5YR7/4にぶ・相 断: 2.5YR8/3浅黄褐	φ3mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ナデ 内面: ナデ	
	433	64	包含層 弥生土器	鉢	底高: △7.6	—	外: 10YR8/6黄褐 断: 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 凹継、輪日本、斜 継状文、輪日本 内面: ヨコナデ	
	434	64	包含層 弥生土器	鉢	口径: (37.6) 底高: △4.6	口縫部 1/12	外: 10YR8/4浅黄褐 断: 10YR8/2白	φ4mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 ハケ、ケズリ 内面: ハケ、ケズリ	外側に付着
	435	64	包含層 弥生土器	鉢	口径: (50.6) 底高: △5.0	口縫部 1/8	外: 2.5YR8/4浅黄褐 断: 5YR6/6相 内: 10YR8/4浅黄褐	φ3mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、 凹継、輪日本、斜 継状文、輪日本 内面: ユビオサエ	
	436	64	包含層 弥生土器	高杯	口径: (21.3) 底高: △3.8	口縫部 1/6	外: 5YR6/6相 断: 5YR6/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下のチャート、 長石、石英。金 碧織合む	外面: 四 継 内面: ヨコナデ	
	437	64	包含層 弥生土器	高杯	口径: (24.4) 底高: △3.1	口縫部 1/8	外: 2.5YR7/2相 断: 10YR8/4浅黄褐	φ1mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: 四 継 内面: 磨滅のため不明	
	438	64	包含層 弥生土器	高杯	底高: △11.2	脚柱部 完全形	外: 内: 10YR8/2灰白 断: 10YR8/3浅黄褐	φ3mm以下のチャート、 長石、石英含む	外面: 磨滅のため不明 内面: ナデ、シボリ直	
	439	64	包含層 弥生土器	高杯	底高: △10.0	脚柱部 完全形	外: 内: 10YR8/3浅黄褐 断: 10YR7/4にぶ・黄褐	φ3mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: 磨滅のため不明 内面: ナデ、シボリ直	円盤充填
	440	64	包含層 弥生土器	高杯	底高: △5.0 底径: (15.2)	脚部 1/6	外: 内: 10YR8/1灰白 断: 10YR7/1灰白	φ1mm以下の長石。石 英含む	外面: ヨコナデ、ヘ ラ、ケズリ 内面: ヨコナデ、ヘ ラ、ケズリ (φ0.5cm)	
	441	64	包含層 弥生土器	高杯	底高: △3.8 底径: (11.0)	脚部 1/10	外: 10YR7/4にぶ・黄褐 断: 10YR5/3にぶ・黄褐 内: 10YR7/3にぶ・黄褐	φ3mm以下のチャート、 長石、石英。ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ヘ ラ、ケズリ 内面: 磨滅のため不明	
	442	64	包含層 磨製石器	石盾	目さ: (6.2) 厚さ: 3.0 底径: 0.65	—	—	粘板岩	—	重量: 20.7 g
	443	64	包含層 打製石器	石盾	目さ: 3.7 厚さ: 1.7 底径: 0.95	—	—	サヌカイト	—	重量: 4.2g

表4 遺物観察表(17)

測定次数	種類	標号	回収番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	444	64	包含層	須恵器	蓋	口径:径(2) 器高:△2.8	口縁部 1/5	外・断・内:2.5Y6/3 内:5Y7/1灰白	φ2mm以下の石英含む	外面:回転ナデ、 リターンナデ、 内面:回転ナデ		
	445	64	包含層	須恵器	高杯	器高:△6.5 底径:△6.6	脚部 2/3	外:5Y5/1灰 内:5Y4/1灰 内:5Y7/1灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、沈眠 内面:回転ナデ、シボ リ痕	外面:自然 地盤、方角 段落かし丸	
	446	64	包含層	須恵器	高杯	器高:△4.7	脚部 1/3	外:10YR7/1灰白 内:10YR6/1灰灰	φ2mm以下の長石含む	外・内面:回転ナデ		
	447	62	包含層	須恵器	鉢	口径:(24.2) 器高:10.6	1/3	外・内:N7/灰白 断:NB8/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:回転ナデ、 内面:回転ナデ		
	448	65	包含層	土師器	杯A	口径:(16.4) 器高:△5.0	1/3	外・内:10YR7/2灰白 断:10YR8/6黄橙	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:ヨコナデ、ナ ホケナデ、ジボ リ痕文		
1997-1	449	65	包含層	須恵器	杯B	口径:(16.1) 器高:△3.7 底径:△11.6	1/3	外・断・内:10YR7/1 灰白	φ3mm以下の長石含む	外面:回転ナデ、回転 ヘラキリ痕含ナデ 内面:回転ナデ		
	450	65	包含層	須恵器	杯B	器高:△2.6 底径:△6.9	底部 1/6	外・内:5Y7/1灰白 内:5Y4/1灰	φ1mm以下の長石、石 英含む	外面:回転ナデ、 内面:後回転ヘラ キリ痕文		
	451	-	包含層	須恵器	杯B	器高:△1.6 底径:△9.6	底部 1/6	外・断:5Y8/2灰白 内:7.5Y7/1灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、 内面:ナホケナデ		
	452	65	包含層	瓦器	輪	口径:(20.4) 底径:△3.4	口縁部 1/20	外・内:2.5Y6/1黄灰 内:2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:ヨコナデ、 内面:沈綴、ヘラミガ キ半	標準III-1	
	453	65	包含層	瓦器	輪	器高:△1.7 底径:△6.6	底部 1/10	外・内:N4/灰 内:7.5Y7/1灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ 内面:ナホケナデ、ナデ		
	454	65	包含層	須恵器	鉢	器高:△5.4	-	外・断・内:N6/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ 内面:ナホケナデ、ナデ	束縛系	
	455	65	-	縄文 土器	深鉢	器高:△6.8	-	外・断:2.5Y4/1黄灰 内:2.5Y5/2陶灰	φ1mm以下の石英、長 石、チヤート、金青 母含む	外面:ヨコナデ、沈綴 文、ナホケナデ 内面:ナホケナデ	後期前葉	
	456	65	-	弥生 土器	広口盆	口径:(15.0) 器高:△2.0	口縁部 1/6	外:10YR6/2灰黄褐 内:2.5Y6/2灰	φ1mm以下の石英、長 石、チヤート含む	外面:ヨコナデ、斜格 子文		
	457	65	-	弥生 土器	壺	器高:△7.8	-	外・断・内:2.5Y6/2 灰黄	φ1mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ナホケ リ縫合		
	458	65	-	弥生 土器	壺	器高:△7.0	-	外:10YR5/2灰黄褐 内:NA/灰 内:10YR7/2Lc5-25y前	φ1mm以下の石英、長 石、チヤート含む	外面:ナホケ リ縫合		
	459	-	-	弥生 土器	底部	器高:△8.6 底径:△9.2	底部 1/3	外:内:10YR7/2Lc5-25y 内:2.5Y5/1灰黄	φ1.5mm以下の石英、 長石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ハゲ、ナデ 内面:ユコナデ		
	460	-	-	弥生 土器	底部	器高:△4.5 底径:△8.0	底部 完形	外・内:10YR7/2にぶい 黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ナホケ 内面:適識のため不明		
	461	-	-	弥生 土器	底部	器高:△3.3 底径:△4.8	底部 完形	外・内:7.5Y7/3Cc5-35y 内:2.5Y7/1灰白	φ1mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外・内面:ナホケ 内面:ナホケ		
	462	-	-	弥生 土器	底部	器高:△3.1 底径:△4.7	底部 完形	外:5YR7/3にぶい黄 内:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y7/1灰白	φ1mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ハゲ、ナデ 内面:適識のため不明		
	463	65	-	弥生 土器	甌	口径:(13.6) 器高:△7.4	口縁部 1/8	外・断・内:10YR6/2 灰黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ヨコナデ、 タキキ、ナホケ 内面:ヨコナデ、ハケ ナ、エコオサ		
	464	65	-	弥生 土器	甌	口径:(16.7) 器高:△4.9	口縁部 1/6	外・断・内:10YR7/3 にぶい黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ヨコナデ、 タキキ、ナホケ 内面:ヨコナデ、ナホ ケナ、エコオサ		
	465	66	-	弥生 土器	甌	器高:△12.1	-	外・内:10YR7/3にぶい 黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ヨコナデ、ナ ホケナ、ナホケ 内面:ヨコナデ、ハケ ナ		
	466	67	-	弥生 土器	甌	口径:(26.0) 器高:△36.4 底径:△9.4	ほぼ完形	外:2.5Y4/1黄灰 内:10YR8/1灰灰 内:10YR7/3Cc5-35y 内:2.5Y7/2灰	φ4mm程度の石英、長 石を中量含む	外面:ヨコナデ、ハ ケ、タキキ、ヘラケズ 内面:ヨコナデ、ハ ケナ、ナホケ		
	467	67	-	弥生 土器	甌	器高:△10.4 底径:△6.0	体部 1/2	外・断・内:10YR7/3 にぶい黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ナホケ、ハ ケ、ケタキ、ナホケ 内面:ナホケ、ナ ホケナ、ナホケ		
	468	67	-	弥生 土器	高杯	口径:(29.8) 器高:△9.1	杯部 2/3	外・断・内:10YR7/3 にぶい黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外・内面:ヨコナデ、 ミガキ		
	469	-	-	弥生 土器	高杯	器高:△7.6	脚柱部 1/3	外・内:10YR7/3Cc5-35y 内:10YR6/1灰灰	φ1mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ミガキ、ヨコナ デ、ナホケナ		
	470	66	-	弥生 土器	高杯	器高:△6.7 底径:△9.8	脚部 1/4	外・断・内:2.5Y7/3 灰灰	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ミガキ、ヨコナ デ、ナホケナ	円筒透かし丸 (φ12cm)	
	471	66	-	弥生 土器	甌	口径:(29.7) 器高:△4.5	口縁部 1/6	外:10YR7/3Cc5-35y 内:10YR7/2Cc5-35y 内:2.5Y7/2灰	φ1.5mm以下の石英、 長石、チヤート、クサ リ縫合む	外面:ヨコナデ、ナ ホケナ、ナホケ 内面:ヨコナデ、ハ ケ		

表4 遺物觀察表（18）

遺物 次第	種類 記号	形態 記号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
2001 -1	472	66	-	打削 石器	刮削	長さ: 4.25 幅: 2.25 厚さ: 0.5	-	-	サヌカイト	-	重量: 4 g
	473	66	-	弥生 土器	口縁部 底部	口径: [(19.8) 底高: △7.3	口縁部 1/8	外・内: 10YR7/2C-5v 灰白 断: 10YR7/1灰白	φ 1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面: ヨコナデ	辻2期
	474	66	-	土師器	壺	口径: [(19.1) 底高: △5.4	口縁部 1/10	外・内: 10YR7/3にぶい 黄	φ 2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ	辻2期
	475	67	-	土師器	小形 丸底壺	口径: 7.45 底高: 8.5	ほぼ 完形	外・内: 10YR7/3にぶい 黄	φ 2mm以下の石英、チ ート、クサリ織合む	外面: ヨコナデ、ナ デ、ハケメ後ナデ 内面: ヨコナデ、ナ デ、ハケメ後ナデ	辻2期
	476	67	-	土師器	壺	口径: 10.8 底高: 15.3	完形	外・内: 2.5Y7/3にぶい 黄	φ 1.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面: ヨコナデ、ナ デ、ハケメ後ナデ 内面: ヨコナデ、ユビ オサエ、ユビナ	辻2期
	477	-	-	須恵器	杯身	口径: [(12.4) 底高: △2.6	口縁部 1/10	外・内: N6/灰 灰黄	φ 0.5mm以下の砂粒合 む	外・内面: 回転ナデ	T K10
	478	-	-	土師器	壺	口径: [(8.3) 底高: 1.1	1/4	外・内: 2.5Y7/2 灰黄	φ 1mm以下の石、長 石、チャート含む	外・内面: ヨコナデ、 ナデ	
	479	66	-	土師器	壺	口径: [(9.0) 底高: △1.8	口縁部 1/4	外・内: 10YR7/2に ぶい黄	φ 1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面: ヨコナデ、 ユビオサエ後ナデ	
	480	66	-	瓦器	楕	底高: △3.8	-	外・内: N3/灰暗 N8/灰白	φ 0.5mm以下の砂粒合 む	外面: ミガニ 内面: 沈跡、ミガニ	梯壁Ⅱ-III
	481	66	-	陶器	擂鉢	口径: [(28.2) 底高: △7.5	口縁部 1/6	外・内: 2.5Y8/1灰黃 3YR6/3C-5v灰	φ 3mm以下の砂粒合む	外・内面: 回転ナデ	梯前 擂臼: 7名
	482	66	-	瓦	丸瓦	長さ: [(11.6) 幅: 8.6 厚さ: △1.6	-	凸・凹: N3/灰暗 2.5Y7/2灰黄	φ 2.5mm以下の砂粒合 む	外面: ナデ、ヨコナデ 内面: ハケ、ヨシ、ハラケ 入り	
	483	68	S P 1	弥生 土器	鉢	口径: [(18.0) 底高: △10.1	口縁部 1/6	外: 7.5YR7/4にぶい 黄	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外面: ナデ、ミガニ 内面: ヨコナデ	
	484	-	S P 3	弥生 土器	底部	底高: △4.0 底径: 6.0	底部 完形	外: 7.5YR8/3灰黃 10YR8/3灰黃	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ナデ、ユビオサ エ、ハケ 内面: ナデ	
	485	-	S D 7	弥生 土器	底部	底高: △3.1 底径: (6.2)	底部 1/3	外: 10YR6/2灰暗 10YR8/1灰暗	φ 5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ナ デ 内面: ユビナ	
	486	68	S D 7	石製品	砥石	長さ: 11.7 幅: 5.7 厚さ: 5.1	-	-	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英含む	-	重量: 509 g
	487	-	S D 1	須恵器	杯盤	底高: △3.1	天井部 1/3	外: N6/灰 断: 内: N7/灰白	φ 1mm以下の砂粒合む	外・内面に回転ナデ	
	488	-	S D 1	弥生 土器	底部	底高: △2.9 底径: 6.0	底部 完形	外: S5/5灰 断: 7.5YR7/4にぶい 精 3YR6/3C-5v灰	φ 1mm以下のチャー ト、石英含む	外面: ヨコナデ、ナ デ 内面: ナデ	
	489	67	S D 1	弥生 土器	不規 土製品	長さ: 6.6 幅: 6.2 厚さ: 4.4	-	外・内: 7.5YR7/3にぶい 精 7.5YR8/1灰白	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ 内面: ケズリ	
	490	67	S D 1	弥生 土器	肥手付 台付鉢	口径: 12.1 底高: 12.4 底径: 9.2	完形	外・内: 10YR8/3 灰黄	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、突 起 内面: ヨコナデ、ナ デ	三角形透孔 9個
2007 -1	491	68	包含層	弥生 土器	壺	口径: [(16.6) 底高: △5.0	口縁部 1/10	外: 7.5YR6/4灰白 7.5YR8/4灰白 内: 5YR7/6	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ	
	492	68	包含層	弥生 土器	壺	口径: [(11.6) 底高: △6.2	口縁部 1/4	外: 7.5YR7/4にぶい 精 7.5YR8/4灰白	φ 2mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	493	68	包含層	弥生 土器	壺	口径: [(12.5) 底高: △5.6	口縁部 1/8	外: 7.5YR8/4灰白 10YR8/4灰白 内: 7.5YR8/4灰白	φ 3mm以下のチャー ト、長石、石英含む	外面: ヨコナデ、突 起 内面: ヨコナデ	
	494	67	包含層	弥生 土器	壺	口径: [(32.5) 底高: △26.1	口縁部 1/10	外・内: 10YR8/4 灰白	φ 2.5mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ、ヘラ グスリ	
	495	-	包含層	弥生 土器	底部	底高: △7.0 底径: 7.8	底部 完形	外: 10YR8/2灰白 7.5YR8/2灰白 内: 7.5YR8/3灰白	φ 3mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、板ナ デ 内面: ユビオサエ	
	496	-	包含層	弥生 土器	底部	底高: △3.3 底径: 10.2	底部 完形	外: 2.5Y8/2灰白 10YR8/3灰白 内: 7.5YR8/4灰白	φ 4mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヘラグスリ後 ヨコナデ 内面: ユビナ	
	497	-	包含層	弥生 土器	底部	底高: △5.7 底径: 4.7	底部 完形	外: 5YR7/4C-5v 精 7.5YR8/5灰黄	φ 1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ナ デ 内面: ユビオサエ	
	498	-	包含層	弥生 土器	底部	底高: △1.5 底径: (5.6)	底部 完形	外・内: 2.5Y8/2 灰白	φ 1mm以下のチャー ト、長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ 内面: 工具痕	
	499	-	包含層	弥生 土器	底部	底高: △3.1 底径: (5.6)	底部 1/4	外: 2.5YR7/6 内: 7.5YR7/4にぶい 精	φ 2.5mm以下の石英、 長石、石英、ク サリ織合む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ、ナ デ	
	500	68	2606 土坑	弥生 土器	壺	口径: [(19.9) 底高: △7.7	口縁部 1/8	外・内: 10YR5/2灰白 10YR7/4にぶい 精	φ 3mm以下の石英、 長石、石英、ク サリ織合む	外面: 褐斑 内面: ハケ	
2016 -1	501	-	2607 土坑	弥生 土器	底部	底高: △6.0	底部 1/2	外・内: 10YR7/4にぶい 精 断: 10YR8/2灰白	φ 3.0mm以下の石英、 長石、石英、ク サリ織合む	外・内面: 磨滅のため 不明	

表4 遺物観察表(19)

測定次元	堆積層号	回収番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	502	-	2607 土坑	弥生 土器	底部	器高:△4.4 底径: 7.6	底部 窓形	外: 10YR7/2に似る黄 断・内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、ラサ リ織合む	外面: ハグ 内面: ナデ、ユビナデ	
	503	-	2611 溝	弥生 土器	底部	器高:△2.2 底径: 4.6	底部 窓形	外: 10YR5/1黄灰 断・内: 2.5Y5/1黄灰 内: 2.5Y8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	504	-	2611 溝	弥生 土器	底部	器高:△5.6 底径: 7.0	底部 窓形	外・断: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: 磨滅のため不明 内面: ナグ、ユビオサ 工	
	505	69	2623 壁穴建物	弥生 土器	把手	器高:△4.2	-	外: 10YR8/2灰白 断・内: 2.5Y5/1黄灰 内: 10YR8/3灰黄	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ	
	506	-	2623 壁穴建物	弥生 土器	底部	器高:△6.4 底径: 9.0	底部 窓形	外: 2.5Y5/1黄灰 内: 10YR7/4灰白 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石、ケシリ織合む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	507	68	2620 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△3.4 器高: 13.9	口縁部 1/16	外: 10YR7/3に似る黄 断・内: 10YR8/2灰白 内: 10YR6/2灰黄	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、朝日文、 ハケ 内面: ナデ、ハケ	
	508	68	2620 溝	弥生 土器	高杯	器高:△4.5	杯底部 1/4	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR6/2灰黄 内: 7.5YR8/3灰黄	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、四輪 内面: ナデ、シボリ痕	
	509	-	2620 溝	弥生 土器	底部	器高:△2.4 底径: 5.0	底部 窓形	外: 2.5Y4/1黄灰 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	510	68	2620 溝	弥生 土器	台付 縦縫目	器高:△20.9 底径: 9.0	1/2	外: 7.5YR8/3灰黄 断・内: 10YR8/2 内: 7.5YR6/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ハグ、ナデ、剥 離文、シボリ痕、ユビ オサエ、ナグ	
	511	-	2620 溝	弥生 土器	底部	器高:△5.3 底径: 10.4	底部 窓形	外: 10YR6/3に似る黄 断・内: 7.5YR8/3灰黄	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ミキニ、ナデ 内面: ナデ、ユビオサ 工	
2016 -1	512	69	2616 溝	弥生 土器	壺	器高:△4.9	-	外・断・内: 10YR8/2 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日 文、ハグ 内面: ハグ	
	513	-	2616 溝	弥生 土器	底部	器高:△1.9 底径: 5.0	底部 窓形	外・内: 10YR6/2灰黄 内: 5YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ハグ 内面: ナデ	底面: 木葉
	514	69	2616 溝	弥生 土器	壺	器高:△2.6	-	外: 7.5YR7/2灰黄 内: 7.5YR8/2灰白 内: 2.5Y8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: 朝日文 内面: 磨滅のため不明	
	515	-	2616 溝	弥生 土器	底部	器高:△6.5 底径: 8.6	底部 窓形	外: 10YR7/2に似る黄 断・内: 10YR8/2 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	516	69	2622 落ち込み	弥生 土器	甕	口径:△7.0 器高:△2.6	口縁部 1/16	外: 10YR7/2Lに似る黄 断・内: 2.5Y3/1黒 内: 10YR4/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハグ 内面: ヨコナデ、ナデ	
	517	-	2622 落ち込み	弥生 土器	底部	器高:△2.5 底径: (2.6)	底部 窓形	外・内: 10YR8/2灰白 内: 10YR7/4に似る黄 内: 7.5YR7/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	518	69	2622 落ち込み	弥生 土器	広口壺	口径:△4.4 器高:△4.2	口縁部 1/10	外: 10YR4/1剥離 断・内: 10YR8/2 内: 7.5YR8/3灰黄	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日 文、ハグ	
	519	69	2610 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△3.6 器高:△1.6	口縁部 1/6	外: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR8/3灰黄	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日 文、ハグ	
	520	69	2610 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△3.1 器高:△1.8	口縁部 1/6	外: 7.5YR7/2灰黄 断・内: 2.5Y8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、朝日文 内面: ハグ	
	521	69	2610 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△2.8 器高:△1.7	口縁部 1/8	外・断・内: 10YR8/2 内: 10YR7/4に似る黄 内: 7.5YR7/3灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、ラサ リ織合む	外面: ヨコナデ後藤 透状文、ハグ 内面: ハグ	
	522	72	2610 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△2.5 器高:△2.30	口縁部 1/3	外・断: 10YR7/3に似る 内: 10YR8/2 内: 2.5Y8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、ラサ リ織合む	外面: ヨコナデ、 透状文、ナグ 内面: ヨコナデ、 ハグ、ナデ	
	523	69	2610 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△6.3 器高:△5.7	口縁部 1/3	外・内: 10YR8/2灰白 内: 10YR5/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、 透状文、ナグ 内面: ヨコナデ、 ハグ、ナデ	
	524	72	2610 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△6.6 器高:△8.8	口縁部 窓形	外: 7.5YR8/2灰白 内: 7.5YR7/4に似る黄 内: 7.5YR8/3灰黄	φ4mm以下の石英、長 石、φ5mm程度の石粒 含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	525	69	2610 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△6.0 器高:△5.4	口縁部 1/6	外・断・内: 10YR8/2 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ヨコナデ、 ハグ	
	526	-	2610 溝	弥生 土器	底部	器高:△7.0 底径: 6.8	底部 窓形	外・内: 10YR8/1灰白 内: 7.5YR6/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石、ケシリ織合む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	527	70	2610 溝	弥生 土器	甕	口径:△13.6 器高:△6.1	口縁部 1/8	外: 5YR7/6網 内: 7.5YR8/3灰黄	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	528	70	2610 溝	弥生 土器	甕	口径:△29.2 器高:△9.7	口縁部 1/8	外・断・内: 10YR8/2 内: 10YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	529	70	2610 溝	弥生 土器	甕	口径:△20.0 器高:△8.3	口縁部 1/12	外: 10YR6/2灰黄 内: 10YR6/4に似る黄 内: 10YR5/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	530	70	2610 溝	弥生 土器	甕	口径:△24.8 器高:△5.5	口縁部 1/8	外: 10YR8/3灰黄 内: 10YR8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石、ケシリ織合む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	531	-	2610 溝	弥生 土器	底部	器高:△5.8 底径: 7.0	底部 窓形	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石、ケシリ織合む	底面: 木葉	

表4 遺物觀察表(20)

調査次数	博物館番号	回収番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色 調	胎 土	調 查	備考
	532	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△4.1 底径:6.0	底部 完全	外:5YR7/2褐色 内:5YR8/4浅黄褐色 内:7.5YR8/6	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉 底面
	533	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△3.8 底径:6.4	底部 完全	外:△:10YR8/2灰白 内:△:2.5YR8/6	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	534	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△2.8 底径:6.2	底部 完全	外:10YR7/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ハケ 内面:ナデ、ユビオサ 底面:木葉 底面	
	535	71	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△8.0 底径:8.4	底部 完全	外:△:10YR8/2灰白 内:△:10YR8/3浅黄褐色 内:△:10YR8/4浅黄褐色	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ難含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	536	71	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△6.25 底径:8.0	底部 完全	外:△:7.5YR8/4浅黄褐色 内:△:7.5YR8/5灰白	φ5mm以下の石英、長 石、クサリ難含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	537	70	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△4.6 底径:5.8	底部 完全	外:△:10YR8/1灰白 内:△:7.5YR8/3浅黄褐色 内:△:7.5YR8/4浅黄褐色	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ難含む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:穿孔 (φ1.2cm)
	538	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△4.3 底径:4.6	底部 1/3	外:△:5YR8/4-5-5-5相 内:△:5YR8/5-5-5相 内:△:5YR8/6-5-5相	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ハケ 内面:磨滅のため不明	底面:木葉 底面
	539	71	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△7.7 底径:8.4	底部 完全	外:△:10YR8/2灰白 内:△:10YR8/2灰白	φ2.5mm以下の石英、長 石、チヤート含む	外・内面:磨滅のため 武曲:木葉 不明	
2016 -1	540	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△5.7 底径:6.8	底部 1/3	外:△:10YR7/2に△:5-5相 内:△:7.5YR8/4浅黄褐色 内:△:2.5YR7/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉 底面
	541	71	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△4.8 底径:6.6	底部 完全	外:△:2.5YR6/2灰白 内:△:2.5YR7/3浅黄	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ難含む	外:ハケ 内面:ユビオサ 底面:木葉 底面	
	542	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△3.5 底径:6.0	底部 完全	外:△:5YR7/4-5-5相 内:△:5YR8/5-5-5相 内:△:5YR8/6-5-5相	φ3mm以下の石英、長 石、カサリ難含む	外:ハケ 内面:磨滅のため不明	底面:木葉 底面
	543	70	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△1.8 底径:7.6	底部 完全	外:△:1.5YR7/2に△:5-5相 内:△:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:磨滅のため不明	底面:木葉 底面
	544	70	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△3.8 底径:7.2	底部 完全	外:△:10YR8/2灰白 内:△:7.5YR7/3に△:5相 内:△:4灰	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ユビナデ、ユビ サエ	底面:木葉 底面
	545	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△2.6 底径:5.2	底部 完全	外:△:2.5YR7/3-5-5相 内:△:2.5YR7/3に△:5相	φ1mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ヘラナデ	底面:木葉 底面
	546	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△3.0 底径:6.4	底部 完全	外:△:10YR8/2灰白 内:△:7.5YR8/6-5-5相	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ難含む	外・内面:ハケ、ナデ	
	547	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△5.5 底径:4.8	底部 1/2	外:△:10YR7/3に△:5-5相 内:△:10YR8/4浅黄褐色 内:△:10YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ナデ、ユビオサ 底面:木葉 底面	
	548	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△3.4 底径:6.6	底部 完全	外:△:2.5YR7/2灰白 内:△:2.5YR6/1	φ2mm以下の石英、長 石、チヤート、クサ リ難含む	外:ハケ 内面:ナデ	
	549	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△2.4 底径:6.2	底部 2/3	外:△:7.5YR7/3に△:5-5相 内:△:7.5YR8/3黒褐色 内:△:7.5YR8/3黒褐色	φ2mm以下の石英、長 石含む	外:ミガキ 内面:ナデ	底面:木葉 底面
	550	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△3.0 底径:5.0	底部 完全	外:△:10YR8/3浅黄褐色 内:△:7.5YR7/4灰 内:△:10YR7/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉 底面
	551	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△3.1 底径:5.5	底部 2/3	外:△:2.5YR7/4淡赤褐色 内:△:4灰	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉 底面
	552	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△2.4 底径:5.8	底部 1/2	外:△:2.5YR8/2灰白 内:△:2.5YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:磨滅のため不明 内面:ナデ	
	553	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△2.4 底径:6.2	底部 完全	外:△:7.5YR7/2明褐色 内:△:10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:磨滅のため不明	
	554	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△2.1 底径:4.8	底部 完全	外:△:2.5YR8/1灰白 内:△:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ユビナデ	底面:木葉 底面
	555	-	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△2.3 底径:4.2	底部 完全	外:△:7.5YR8/2灰白 内:△:7.5YR8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石、カサリ難含む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉 底面
	556	70	2610 溝	弥生土器	底部	縦高:△4.3 底径:5.4	底部 完全	外:△:7.5YR7/2明褐色 内:△:10YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ難含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	557	71	2610 溝	弥生土器	高杯	口径:△(8.4) 底径:△5.2	口杯:△(8.4) 底径:△5.2	外:△:2.5YR7/1灰白 内:△:10YR8/2灰白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チヤート、ク サリ難含む	外:ヨコナデ、ナ 内面:ハケ	底面:木葉 底面
	558	-	2610 溝	弥生土器	高杯	縦高:△3.2 底径:10.2	底部 完全	外:△:10YR8/2灰白 内:△:5YR7/4△-5-4相	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	559	71	2610 溝	弥生土器	ミニ チヤート 土器	縦高:△5.8	完全	外:△:7.5YR8/1灰白 内:△:7.5YR7/2明褐色	φ2mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ナデ	
	560	71	2610 溝	打製石器	石器	幅:△3.3 厚さ:△2.2 厚さ:△0.4	-	-	-	サヌカイト	-
	561	71	2610 溝	打製石器	刮削片	幅:△4.2 厚さ:△4.7 厚さ:△0.8	-	-	サヌカイト	-	重量: 9 g
	562	73	2619 溝	弥生土器	山口杯	口径:△(23.8) 縦高:△2.0	口径部 1/6	外:△:10YR5/1灰白 内:△:7.5YR8/4浅黄褐色 内:△:7.5YR7/4に△:5相	φ2mm以下の石英、長 石含む	外:ナデ、沈線 内面:ナデ、突堤、 吉音文	

表4 遺物観察表(21)

調査次元	標印番号	回収番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	563	73	2619 潟	弥生土器	広口壺	口径: (22.0) 器高: △2.5	口縁部 外: 10YR7/3C・赤い黄褐 内: 7.5YR8/3淡黄褐	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、四線 内面: ナデ		
	564	-	2619 潟	弥生土器	広口壺	口径: (16.0) 器高: △2.3	口縁部 外: 10YR7/3C・赤い黄褐 内: 10YR7/2C・赤い黄褐	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: ナデ		
	565	73	2619 潟	弥生土器	壺	口径: (6.0) 器高: △3.2	口縁部 外: 10YR7/4C・赤白 内: 2.5YR7/1赤	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明		
	566	73	2619 潟	弥生土器	壺	口径: △4.5	-	φ1mm以下の砂粒含む	外面: ハケ、柳描直線文、ナデ、柳描波状文 内面: ナデ		
	567	-	2619 潟	弥生土器	壺	器高: △5.4	-	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: 肉子文 内面: ナデ		
	568	73	2619 潟	弥生土器	壺	器高: △7.7	-	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: 柳描直線文、ハケ 内面: ナデ、ハケ		
	569	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △7.1 底径: (12.2)	底部 外: 10YR7/2C・赤い黄褐 内: 7.5YR7/3C・赤い黄褐	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ		
2016-1	570	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △7.2 底径: 7.5	底部 外: 10YR6/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下の長石含む	外面: 磨滅のため不明 内面: ユビオサエ		
	571	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △2.2 底径: 6.2	底部 外: 2.5YR7/4C・赤い黄褐 内: 7.5YR7/4C・赤い黄褐	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ		
	572	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △3.3 底径: 6.2	底部 外・内: 10YR8/2 内: 白	φ2mm以下の石英、長 石、チート、クサ リ縫合む	外・内面: 磨滅のため 不明		
	573	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △2.9 底径: (11.0)	底部 外: 7.5YR7/3C・赤い黄褐 内: 7.5YR7/2明灰褐	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ハナデ、ナデ 内面: ナデ		
	574	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △3.4 底径: 8.6	底部 外: 7.5YR7/2明灰褐 内: 7.5YR8/3淡黄褐	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ハガキ。ナデ 内面: ハケ		
	575	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △3.3 底径: 8.0	底部 外: 7.5YR7/4C・赤い黄褐 内: 10YR8/3淡黄褐 内: N3/暗灰	φ2mm以下の石英、長 石、チート、クサ リ縫合む	外面: ハガキ。ナデ 内面: ナデ		
	576	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △3.2 底径: (10.2)	底部 外: 10YR7/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ		
	577	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △5.1 底径: (8.8)	底部 外: 10YR7/2C・赤い黄褐 内: 10YR8/2明灰褐	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	底面: 木葉 裏	
	578	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △3.0 底径: (10.0)	底部 外: 5YR8/4C・赤い黄褐 内: 10YR7/6灰白	φ2mm以下の石英、長 石、クリトロジム	外面: ハガキ 内面: ユビオサエ、ナ リ縫合む		
	579	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △2.3 底径: 8.2	底部 外・内: 10YR7/3 内: ぶい黄褐	φ1.5mm以下の石英、長 石、チート、クサ リ縫合む	外面: ナデ 内面: 磨滅のため不明		
	580	73	2619 潟	弥生土器	壺	口径: (16.0) 器高: △2.3	口縁部 外: 7.5YR7/4C・赤い黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ヨコナデ、 ナデ		
	581	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △2.7 底径: 3.8	底部 外: 10YR6/3C・赤い黄褐 内: 10YR7/3C・赤い黄褐	φ2.5mm以下の石英、長 石、チート、クサ リ縫合む	外面: ハガ 内面: ナデ	底面: 木葉 裏	
	582	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △2.25 底径: 8.0	底部 外: 10YR8/4C・赤い黄褐 内: 10YR7/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ		
	583	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △2.9 底径: 6.0	底部 外・内: 10YR8/2 内: 白	φ2.5mm以下の石英、長 石、チート、クサ リ縫合む	外面: ハガ、ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ		
	584	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △7.6 底径: 6.8	底部 外: 10YR8/2灰白 内: 2.5YR7/黄灰	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ユビオサエ、ナ デ		
	585	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △4.8 底径: 5.0	底部 外: 7.5YR8/3C・赤い黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	底面: 木葉 裏	
	586	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △5.5 底径: (0.84)	底部 外: 10YR6/2明灰褐 内: 10YR5/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ユビオサエ、ナ デ		
	587	-	2619 潟	弥生土器	底部	器高: △4.3 底径: (7.8)	底部 外: 10YR8/2灰白 内: 2.5YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ		
	588	73	2619 潟	磨製石器	石臼丁	大きさ: (10.0) 幅: 4.9 厚さ: 0.7	-	-	碌記片岩	-	重量: 48g
	589	73	2619 潟	打製石器	搔	大きさ: 6.4 幅: 4.9 厚さ: 1.2	-	-	サヌカイト	-	重量: 44g
	590	73	2605 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (16.7) 器高: △1.6	口縁部 外: 10YR7/1灰白 内: N3/暗灰	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	外面: 保付 看	
	591	73	2605 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (26.6) 器高: △2.1	口縁部 外: 2.5YR8/4灰白 内: 7.5YR8/4淡黄褐	φ1mm以下の砂粒含む	外面: 磨滅のため不明 内面: ハケ		
	592	73	2605 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (28.3) 器高: △4.6	口縁部 外: 内: 10YR7/2灰白 内: 2.5YR7/4淡黄褐	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ 内面: 磨滅のため不明		

表4 遺物觀察表 (22)

調査次数	探査番号	回収番号	出土土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	593	72	2605 土坑	弥生 土器	無頭遺	口径: 0.10m 高さ: △12.9	口縁部 1/3	外: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR7/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: 突唇、櫛模波状 文 内面: 板ナデ	
	594	-	2605 土坑	弥生 土器	底部	遺高: △15.9 底径: 8.2	底部 2/3	外: 2.5YR7/2灰黄 内: 10YR8/2灰黄	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガニ。ハケ。 内面: ナデ	
	595	-	2605 土坑	弥生 土器	底部	遺高: △8.4 底径: 8.8	底部 完形	外: 2.5YR6/2灰黄 内: 10YR8/3浅灰黄	φ6mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ユビオサ エ	
	596	73	2605 土坑	弥生 土器	蓋	つまみ紐: 7.2 遺高: △4.3	つまみ部 完形	外: 7.5YR8/3浅灰黄 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、ハケ 内面: ナデ	
	597	-	2605 土坑	弥生 土器	蓋	つまみ紐: 4.6 遺高: △2.9	つまみ部 完形	外: 2.5YR8/2灰白 内: 7.5YR7/1灰白 内: 10YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	598	-	2605 土坑	甕	口縁部	口径: △15.2 底径: △4.3	口縁部 1/8	外: 10YR7/2にぶい黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	599	73	2605 土坑	甕	口縁部	口径: △2.10 底径: △1.50	口縁部 1/10	外: 9.5W/2にぶい黄 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	600	73	2605 土坑	甕	甕	口径: △3.1 底径: △2.6	口縁部 1/8	外: N3暗灰 内: 10YR5/1灰褐	φ2.5mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ハケ	
	601	73	2605 土坑	甕	甕	口径: △16.8 底径: △7.1	口縁部 1/6	外: 10YR7/2にぶい黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ゴコナデ、ハケ 内面: ハケ、ナデ	
	602	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △6.2 底径: 6.4	底部 完形	外: 10YR7/2にぶい黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ 底面: 木葉 模様・焼古石	
	603	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △5.7 底径: 6.2	底部 完形	外: 10YR8/2灰白 内: 2.5YR8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	
	604	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △4.0 底径: 6.2	底部 完形	外: N4灰 内: 2.5YR1/1灰褐	φ5mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ 鉢底: 木葉	
	605	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △3.8 底径: 6.2	底部 完形	外: 10YR7/2にぶい黄褐 内: 10YR7/3にぶい黄褐 内: 10YR8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	606	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △4.8 底径: 6.4	底部 完形	外: 7.5YR8/3浅黄褐 内: 2.5YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	
	607	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △3.6 底径: 5.4	底部 1/3	外: 9.5YR8/3灰褐 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	608	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △5.0 底径: 5.0	底部 2/3	外・内: 2.5YR7/2灰白 内: 7.5YR7/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	609	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △3.0 底径: 6.4	底部 完形	外・内: 10YR8/3 内: 浅黄褐	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	
	610	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △1.8 底径: 6.6	底部 完形	外: 10YR7/2にぶい黄褐 内: 7.5YR8/4浅黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	611	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △3.5 底径: 4.2	底部 完形	外・内: 10YR7/3にぶい 黄褐 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、金 石、チャート、金茎 含む	外・内面: ハケ、ナデ	
	612	73	2605 土坑	甕	底部	遺高: △2.4 底径: 5.4	底部 2/3	外: 7.5YR7/2灰白 内: 7.5YR8/4灰白 内: 10YR7/2にぶい黄褐	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ 底面: 脊孔 (△1.0cm)	
	613	-	2605 土坑	甕	底部	遺高: △2.2 底径: 5.2	底部 完形	外: 10YR7/2にぶい黄褐 内: 7.5YR7/2にぶい黄 褐 内: N4灰	φ5mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	614	74	2624 壁穴建物	須恵器	杯皿	口径: (14.0) 底径: △12.3	口縁部 1/6	外・内: N7/灰白 内: N8/灰白	φ3mm以下の長石含む	外・内面: 回転ヘラケズ 内面: 回転ナデ	楓島 I
	615	74	2624 壁穴建物	須恵器	杯皿	口径: (11.2) 底径: △9.9	口縁部 1/12	外・内・新: N7/灰白	φ1mm以下の白色粒含む	外・内面: 回転ナデ	楓島 I
	616	74	2624・ 2625 壁穴建物	打刀部	石核	長さ: 5.3 幅: 7.5 厚さ: 2.2	-	-	サヌカイト	-	重量: 70g
	617	-	2624・ 2625 壁穴建物	須恵器	杯皿	口径: (11.8) 底径: △12.3	口縁部 1/10	外: 10YR7/1灰白 内: 5YR6/6灰白 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ	TK 43
	618	74	2624・ 2625 壁穴建物	須恵器	杯皿	口径: (14.5) 底径: △12.7	口縁部 1/8	外: N6/灰 内: N7/灰白	φ2mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ	TK 43
	619	74	2624・ 2625 壁穴建物	須恵器	杯皿	口径: (12.4) 底径: △13.8	口縁部 1/6	外: 2.5YR7/1黄 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ	TK 43
	620	74	2624・ 2625 壁穴建物	須恵器	杯皿	口径: (12.0) 底径: △13.4	口縁部 1/6	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/3浅灰黄 内: 10YR7/2にぶい黄褐	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ヘラケズ 内面: 回転ナデ	TK 43
	621	74	2624・ 2625 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (14.8) 底径: △14.2	口縁部 1/6	外: N7/灰白 内: N8/灰白	φ1mm以下の白色粒含 む	外・内面: 回転ヘラケズ 内面: 回転ナデ	TK 43
	622	74	2624・ 2625 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (12.4) 底径: △13.2	口縁部 1/6	外・内: N6/灰 内: N8/灰白	φ3mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ	TK 43
	623	74	2624・ 2625 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (11.2) 底径: △12.7	口縁部 1/6	外・新・内: N7/灰白	φ2mm以下の砂粒含 む	外・内面: 回転ナデ	TK 43

表4 遺物観察表(23)

測定次元	堆積層番号	回収番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	624	74	2624・2625 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (2.8) 器高: △3.3	口縁部 1/8	外: N6/灰 内: N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ、内面: 回転ナデ	T K43
	625	74	2624・2625 壁穴建物	須恵器	甕	口径: (12.4) 器高: △4.3	口縁部 1/8	外: 内: N7/灰白 内: 7.5Y7/1灰白	φ1mm以下の長石含む	外・内面: 回転ナデ	
	626	74	2624・2625 壁穴建物	須恵器	平瓶	口径: (6.8) 器高: △5.2	口縁部 1/8	外・内: N7/灰白	φ5mm以下の長石含む	外面: 回転ナデ、沈線 内面: 回転ナデ	
	627	74	2624・2625 壁穴建物	須恵器	高杯	器高: △2.2	杯底部 1/3	外: N5/灰 内: 5YR6/2灰褐 内: N6/灰	φ2mm以下の長石含む	外・内面: 回転ナデ	方孔透かし
	628	74	2624・2625 壁穴建物	須恵器	高杯	器高: △7.3	杯底部 充填	外: 5Y6/1灰 内: 5Y7/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: 回転ナデ、沈線 内面: 回転ナデ、ナデ	方孔透かし
	629	74	2624・2625 壁穴建物	土師器	把手	器高: △4.2	把手 完形	外: 7.5Y8/3黄褐 内: 7.5YR7/3にぶい相	φ1mm以下の石英、長 石、カシリ透含む	外面: ユビナデ	
	630	74	2624・2625 壁穴建物	土師器	把手	器高: △4.0	把手 完形	外: 内: 5YR8/6槽 内: 10YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石、カシリ透含む	外面: ユビナデ	
	631	75	2626 壁穴建物	土師器	把手	器高: △4.6	把手 完形	外・内: 10YR7/2 内: ふく灰褐	φ1mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面: ユビナデ、ハケ	
2016.1	632	75	2626 壁穴建物	須恵器	器台	器高: △9.3	体部 1/4	外: N7/灰白 内: N6/灰	φ2mm以下の長石含む	外面: カキメ、回転ナ デ 内面: 回転ナデ	方孔透かし
	633	75	2626・ 2627 壁穴建物	須恵器	平瓶	口径: (8.0) 器高: 3.8	1/3	外・内: 5Y7/1灰白 内: 5Y8/1灰白	φ3mm以下の長石含む	外面: 回転ハラケズ リ、回転ナデ、沈線 内面: 回転ナデ	T K209
	634	75	2626・ 2627 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (11.4) 器高: △3.1	口縁部 1/3	外: 5Y6/1灰 内: N7/灰白	φ0.5mm以下の白色粒 含む	外・内面: 回転ナデ	T K209
	635	75	2626・ 2627 壁穴建物	須恵器	杯身	器高: △3.7	底部 1/4	外: N5/灰 内: 7.5Y7/1灰褐 内: N8/灰白	φ0.5mm以下の白色粒 含む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ、内面: ナデ	T K209
	636	-	2626・ 2627 壁穴建物	弥生 土器	底部	器高: △2.8 底径: 5.6	底部 完形	外・内: 10YR8/1灰白 内: 2.5YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石、カシリ透含む 内: 磨滅のため 不明	外面: 磨滅ナデ、回転 ハラケズリ、内面: ナデ	
	637	75	2627・ 2628 壁穴建物	須恵器	平瓶	口径: (7.9) 器高: 3.8	1/3	外・内: N7/灰白 内: N6/灰	φ1mm以下の白色粒 含む	外面: 回転ハラケズ リ、回転ナデ 内面: ヨコナデ	T K209
	638	-	2627・ 2628 壁穴建物	弥生 土器	広口瓶	口径: (22.8) 器高: △2.6	口縁部 1/6	外・内: 10YR8/1灰白 内: 10YR5/1灰褐	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: 沈線 内面: ヨコナデ	
	639	75	2627・ 2628 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (8.3) 器高: 3.6	1/6	外・内: 2.5Y7/1灰白 内: N7/灰白	φ1mm以下の白色粒含 む	外面: 回転ナデ、回転 ハラケズリ、内面: ナデ	T K209
	640	-	2627・ 2628 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (13.1) 器高: △2.2	口縁部 1/12	外・内: 10R9/3赤 内: N6/灰	φ1mm以下の白色粒含 む	外・内面: 回転ナデ	T K209
	641	75	2627・ 2628 壁穴建物	須恵器	高杯	器高: △2.3	杯底部 1/3	外・内: N5/灰 内: 2.5YR6/1赤灰 内: 5Y6/1灰	φ5mm以下の長石含む	外面: 回転ナデ、カキ メ 内面: 回転ナデ、ナデ	方孔透かし
	642	75	2627・ 2628 壁穴建物	須恵器	高杯	器高: △2.5 底径: (10.0)	底部 1/3	外・内: N6/灰	φ0.5mm以下の白色粒 含む	外・内面: 回転ナデ	
	643	76	2628 壁穴建物	須恵器	平瓶	口径: (13.7) 器高: 4.6	1/3	外・内: N6/灰	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面: 回転ハラケズ リ、内面: ナデ	T K10
	644	76	2628 壁穴建物	須恵器	杯身	器高: △3.2	底部 1/12	外・内: N7/灰白	φ2mm以下の長石含む	外面: 回転ハラケズ リ、内面: ナデ	T K10
	645	76	2628 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (13.4) 器高: △3.5	口縁部 1/8	外・内: N6/灰 内: N7/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面: 回転ハラケズ リ、内面: ナデ	T K10
	646	76	2628 壁穴建物	須恵器	杯身	口径: (12.3) 器高: △3.9	口縁部 1/6	外・内: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y7/1灰白 内: 5Y4/灰	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面: 回転ハラケズ リ、内面: ナデ	T K10
	647	-	2618 溝	弥生 土器	底部	器高: △5.8 底径: (8.6)	底部 充填	外: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y7/1灰白 内: 5Y4/灰	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	648	-	2618 溝	弥生 土器	底部	器高: △4.2 底径: 3.6	底部 完形	外・内: 10YR8/2 灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	649	-	2618 溝	弥生 土器	底部	器高: △2.9 底径: 4.8	底部 完形	外: 7.5YR8/4灰褐 内: 10YR5/1灰白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、カシリ透 含む	外・内面: ナデ	
	650	-	2618 溝	弥生 土器	底部	器高: △2.5 底径: 5.4	底部 完形	外: 2.5Y8/2灰白 内: N4/灰	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	651	-	2618 溝	弥生 土器	底部	器高: △2.4 底径: 5.6	底部 1/2	外: 2.5Y8/2灰白 内: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y7/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ユビオサ ナデ	
	652	-	2618 溝	弥生 土器	底部	器高: △1.2 底径: (6.2)	底部 1/3	外: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y7/1灰白 内: N4/灰	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	
	653	-	2618 溝	弥生 土器	高杯	器高: △10.8	脚柱部 完形	外・内: 7.5YR7/4にぶい 相: 10YR8/3黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、カシリ透 含む	外面: 磨滅のため不明 内面: ケスリ	

表4 遺物觀察表(24)

調査次数	博物館番号	回収番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	654	76	2618 溝	須恵器	高杯	口径:(19.2) 高さ:△2.6	口縁部 1/10	外:・断: N6/灰 内: N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ	
	655	76	2618 溝	須恵器	高杯	口径:△4.3	杯底部 1/8	外:・断: N8/灰白 内: N8/灰白	φ3mm以下の砂粒含む	外面: 回転ナデ、カギ 内面: 回転ナデ	
	656	76	2618 溝	須恵器	高杯	口径:△3.6	杯底部 1/4	外:・断: 10YR7/1灰白 内: 10YR6/1灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ 方形透かし孔	
	657	76	2618 溝	須恵器	高杯	口径:△4.8	杯底部 1/3	外:・断: 10YR5/1灰白 内: 10YR6/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ、ナデ	方形透かし孔
	658	72	2618 溝	須恵器	高杯	口径:△3.3	脚柱部 2/3	外:・断: 2.5Y4/1灰黄 内: 2.5Y6/3C-4C 桟 N5/灰	φ5mm以下の石、砂粒 含む	外・内面: 回転ナデ 方形透かし孔	
	659	-	2612 溝	甕生器	底部	高さ:△3.4 直径: 8.0	底部 完全形	外:・断: 10YR8/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 柱、クサリ難含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
2016-1	660	77	2612 溝	須恵器	杯身	口径:(7.7) 高さ:△3.6	1/6	外・断: 2.5Y7/1灰白 内: N7/灰白	φ0.1mm以下の白色粒 含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	T K43
	661	77	2612 溝	須恵器	杯身	口径:(6.5) 高さ:△3.0	口縁部 1/6	外・断: N7/灰白	φ0.5mm以下の白色粒 含む	外・内面: 回転ナデ	T K43
	662	77	2612 溝	須恵器	杯身	口径:(5.4) 高さ:△3.9	口縁部 1/6	外・内: N8/灰白 断: 5Y8/1灰白	φ1mm以下の白色粒 含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	T K43
	663	77	2612 溝	須恵器	杯身	口径:(8.3) 高さ:△3.6	1/6	外・断: N7/灰白	φ1mm以下の白色粒 含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	T K43
	664	77	2612 溝	須恵器	杯身	口径:(5.8) 高さ:△2.7	口縁部 1/6	外・内: N6/灰赤 断: 10Y6/2灰赤	φ1mm以下の白色粒 含む	外・内面: 回転ナデ	T K43
	665	77	2612 溝	須恵器	杯身	口径:(12.2) 高さ:△2.8	口縁部 1/8	外:・断: 2.5Y5/1灰赤 内: 2.5Y7/1灰白	φ3mm以下の長石含む	外・内面: 回転ナデ	T K43
	666	77	2612 溝	須恵器	杯身	口径:△2.7	底部 1/4	外・断: N7/灰白	φ2mm以下の長石含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	T K43
	667	77	2613 溝	須恵器	杯身	口径:(10.6) 高さ:△2.7	口縁部 1/8	外・断: N6/灰 内: N7/灰白	φ0.5mm以下の白色粒 含む	外・内面: 回転ナデ	T K43
	668	77	2613 溝	須恵器	高杯	高さ:△5.0	脚柱部 1/4	外:・断: 10YR2/1灰白 内: 10YR7/1灰白	φ1mm以下の長石含む	外:・内面: 回転ナデ、沈線 有形透かし孔	
	669	77	2613 溝	須恵器	高杯	高さ:△3.9	脚柱部 完全形	外:・断: N7/灰白 内: N7/灰白	φ0.5mm以下の白色粒 含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	
	670	77	2614 溝	須恵器	杯身	口径:(11.0) 高さ:△3.2	1/3	外:・断: 2.5Y8/1灰白 内: N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	T K43 底面: ヘラ 記号
	671	-	2604 土坑	須恵器	杯身	口径:(8.8) 高さ:△2.9	口縁部 1/8	外・断: N7/灰白 内: N6/灰	φ0.5mm以下の白色粒 含む	外・内面: 回転ナデ	
	672	72	2439 ピット	須恵器	台付壺	高さ:△3.7	体部 完全形	外・内: N7/灰白 断: N5/灰	φ3mm以下の砂粒含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ、ナデ	右形透かし孔
	673	77	2514 ピット	須恵器	杯身	口径:(11.9) 高さ:△3.5	1/4	外・断: N7/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ、ナデ	T K43
	674	77	2494 ピット	打製石器	石磚	大きさ: 325 幅: 175 厚さ: 0.4	-	-	サヌカイト	-	重量: 2 g
	675	77	2494 ピット	須恵器	杯身	口径:(13.6) 高さ:△2.8	1/3	外・断: N7/灰白	φ2mm以下の砂粒含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	
	676	78	2476 ピット	土師器	把手	高さ:△5.4	把手 完全形	外・断: 5YR7/6櫛 内: N8/灰白	φ3mm以下の砂粒含む	外面: ナデ	
	677	78	2486 ピット	須恵器	杯蓋	口径: 11.4 高さ: 2.9	4/5	外: N5/灰 内: N8/灰白	φ4mm以下の砂粒含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	飛鳥 I
	678	78	2486 ピット	須恵器	杯身	口径:△8.3 高さ:△3.2	1/4	外・断: N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ	飛鳥 I
	679	-	2477 ピット	須恵器	杯身	口径:(15.0) 高さ:△2.8	口縁部 1/12	外・内: N7/灰白 断: 5YR6/2灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ	飛鳥 I
	680	-	2477 ピット	須恵器	杯身	口径:(14.7) 高さ:△2.7	口縁部 1/12	外・断: N5/灰 内: N6/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ	飛鳥 I
	681	78	2475 ピット	須恵器	高杯	口径:△3.0 直径: 8.9-6	脚柱部 1/4	外: N4/灰 内: N7/灰白 内: N5/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外:・内面: カキメ、回転ナ デ 内面: 回転ナデ	方形透かし孔
	682	78	2475 ピット	青銅鏡	石笠丁	長さ: (9.4) 幅: (3.7) 厚さ: 0.6	-	-	粘板岩	-	重量: 34 g
	683	72	2621 井戸	土師器	杯	口径: 14.5 高さ: 7.0 厚さ: 7.0	2/3	外・断: N7/灰白 内: 10YR8/3 浅黄斑	φ1mm以下の石英、長 柱、クサリ難含む	外:・内: ヨコナデ、ハケ 内: ヨコナデオサナ 内面: ヨコナデ、ナデ	
	684	72	2621 井戸	土師器	杯	口径: 16.0 高さ: 5.6 直径: 8.0	2/3	外・断: 10YR8/2 灰白	φ1mm以下の石英、長 柱、チャート、クサ リ難含む	外:・内: ヨコナデ、ケズ 内面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ	
	685	78	2621 井戸	土師器	杯	口径: (13.7) 高さ: 3.7 直径: 8.0	1/8	外: 10YR7/2に付いた黄 斑 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR5/2灰黄斑	φ1mm以下の石英、長 柱、チャート、クサ リ難含む	外・内面: ナデ	
	686	72	2621 井戸	須恵器	杯	口径: 12.9 高さ: 4.0 直径: 7.0	2/3	外・内: 2.5Y7/1灰白 断: 5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外:・内面: 回転ナデ、回転 ラバケズリ 内面: 回転ナデ、ナデ	

表4 遺物観察表(25)

測定 次元	測定 番号	回収 番号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 整	備 考	
	687	78	2621 井戸	須恵器	壺	口径: 7.5 器高: △6.1	口縁部 完形	外: 2.5Y5/1黄灰 内: NS/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含む	外・内面: 回転ナデ		
	688	78	2621 井戸	黒色 土器	楕	口径: (16.7) 器高: △4.2	口縁部 1/3	外: 断: 10YR7/3に5% 内: NS/灰灰	φ1.5mm以下の石英、 長石、チャート、ク リオライト含む	外・内面: ヘラミガキ A類		
	689	72	2621 井戸	土師器	台付 土器	器高: △7.7	底部 1/3	外・断: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/3浅黄灰	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ輝石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ハケ後ナデ、暗 文		
	690	78	2621 井戸	漆器	皿	口径: (15.6) 器高: △2.3	口縁部 1/10	外・内: 5Y2/2里 断: 5Y4/4時オリーブ	—	外・内面: 漆塗		
	691	72	2621 井戸	木製品	木札	長さ: 26.3 幅: 3.3 厚さ: 1.0	完形	—	—	—	墨書き認められず	
	692	79	2444 ピット	瓦器	皿	口径: (9.0) 器高: 2.0	1/3	外・内: NS/灰灰 内: NS/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ユビ オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ		
	693	79	2445 ピット	土師器	皿	口径: (10.1) 器高: △1.8	1/3	外: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR8/3浅黄灰 内: 10YR8/3浅黄灰	φ2mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ユビ オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ		
	694	79	2445 ピット	土師器	皿	口径: (10.6) 器高: △1.2	1/6	外: 7.5YR8/4浅黄灰 内: 7.5YR7/4に5%相 互に 内: 7.5YR8/3浅黄灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ユビ オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ		
	695	79	2445 ピット	土師器	皿	口径: (8.6) 器高: △1.9	1/3	外・断: 10YR8/2灰白 内: 5YR8/4浅黄灰 内: 5YR8/4浅黄灰	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面: ヨコナデ、 ナデ		
	696	79	2445 ピット	土師器	皿	口径: (10.2) 器高: △1.7	1/4	外: 10YR8/2灰白 内: 5YR8/4浅黄灰 内: 10YR8/3浅黄灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ		
	697	79	2445 ピット	土師器	皿	口径: (17.0) 器高: △2.3	1/6	外・内: 7.5YR8/4浅黄灰 内: 7.5YR8/3浅黄灰	φ2mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ユビ オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ		
	698	79	2445 ピット	土師器	皿	口径: 9.8 器高: △1.8	2/3	外・断・内: 10YR8/2 灰白	φ4mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ユビ オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ		
	699	79	2445 ピット	土師器	皿	口径: (15.4) 器高: △2.4	1/3	外・断・内: 10YR8/3浅黄灰 内: 7.5YR8/4浅黄灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ		
2016 -1	700	79	2578 ピット	瓦器	楕	口径: (15.5) 器高: △4.8	1/4	外・断: 10YR8/2灰白 内: N4/灰 底径: (4.8)	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面: ナデ、海賊文		
	701	79	2577 ピット	土師器	皿	口径: (9.9) 器高: △1.7	1/3	外: 10YR5/2灰黄灰 内: 10YR7/2に5%黄 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の砂粒含む	外・内面: ユビオサ エ、ナデ		
	702	79	2577 ピット	土師器	皿	口径: 9.7 器高: △1.8	1/3	はぼ 完形	外・断: 10YR8/2灰白 内: 10YR4/2灰黄灰 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ユビ オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ	
	703	79	2577 ピット	土師器	皿	口径: (9.9) 器高: △1.8 底径: 6.0	2/3	外: 7.5YR8/3浅黄灰 内: 7.5YR7/3に5%相 互に 内: 10YR3/2灰白	φ2mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ユビ オサエ 内面: ナデ		
	704	79	2577 ピット	瓦器	楕	口径: (14.8) 器高: △3.1 底径: (4.4)	1/20	外: 10YR8/1灰白 内: 10YR7/1灰白 内: N4/灰	φ2mm以下の砂粒含む	外面: ナデ、ユビオサ エ 内面: ミキ		
	705	80	包含層 弥生 土器	広口壺	皿	口径: (25.6) 器高: △1.9	口縁部 1/12	外: 10YR8/3浅黄灰 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR6/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、斜日 文 内面: ハケ		
	706	80	包含層 弥生 土器	広口壺	皿	口径: (23.7) 器高: △1.8	口縁部 1/12	外・内: 10YR7/2に5% 黄 内: 10YR6/1灰白	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、斜日文、 ハケ 内面: ハケ		
	707	80	包含層 弥生 土器	甕	甕	口径: (16.6) 器高: △3.1	口縁部 1/10	外: 7.5YR7/4に5%相 互に 内: 10YR6/4灰 内: 7.5YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、タキ 内面: ナデ		
	708	—	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: (6.6) 底径: 6.4	底部 完形	外・断: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y5/1黄灰	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ハビ 内面: ウビナデ	底面: 木葉 瓶	
	709	—	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: (6.6) 底径: 6.8	1/2	外: 7.5YR8/1灰白 内: 2.5Y5/1黄灰 内: 10YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	底面: 木葉 瓶	
	710	—	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: △5.8 底径: 9.4	底部 1/2	外・断: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y6/1黄灰	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 感識のため 削減	底面: 木葉 瓶	
	711	—	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: △3.6 底径: 7.2	底部 完形	外: 10YR6/1灰白 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR7/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: 感識のため不明		
	712	—	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: △3.7 底径: 6.6	底部 1/2	外: 5YR8/4淡褐 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	底面: 木葉 瓶	
	713	80	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: △4.4 底径: 5.6	底部 完形	外: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y8/1灰白 内: 7.5YR8/4浅黄灰	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ユビオサエ、ユ ビナデ		
	714	80	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: △3.9 底径: 6.0	底部 完形	外: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y8/1灰白 内: NS/灰	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: 感識のため不明 内面: ナデ、ユビオサ エ		
	715	—	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: △3.7 底径: 5.0	底部 1/2	外: 10YR7/1灰白 内: 2.5Y8/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: 感識のため不明		
	716	—	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: △2.8 底径: 5.4	底部	外・内: 10YR8/1灰白 内: 10YR6/1灰白	外・内面: ハケ後ナデ、 ナデ	外面: 感識のため不明		
	717	80	包含層 弥生 土器	底部	底部	口径: △3.4 底径: 3.2	底部 1/2	外: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y8/2灰白 内: 7.5YR7/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: 感識のため不明 内面: ナデ		

表4 遺物觀察表(26)

調査次数	博物館番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
718	80	包含層	弥生土器	高杯	高さ:△5.9	脚柱部 完形	外・内:10YR7/1灰白 断:10YR7/4にぶ・黄褐色	φ2mm以下の石英、長 石、クサリ練合む	外・内面:磨滅のため 不明	
719	80	包含層	打製石器	搔器	長さ:6.1 厚さ:1.1	—	—	—	サヌカイト	—
720	80	包含層	石製品	砥石	長さ:5.5 幅:3.7 厚さ:2.6	—	—	不明	—	重量:60g
721	80	包含層	打製石器	石椎	長さ:4.9 幅:1.8 厚さ:0.9	—	—	サヌカイト	—	重量:6g
722	—	包含層	須恵器	杯盤	口径:(15.0) 底径:(2.6)	口縁部 1/8	外・新・内:N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
723	—	包含層	須恵器	杯盤	口径:(13.4) 底径:(3.6)	口縁部 1/8	外・新・内:N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外:回転ヘラケズ 内:回転ナデ	
724	81	包含層	須恵器	杯盤	口径:(13.0) 底径:(3.9)	口縁部 1/4	外・新・内:N4/灰 断:内:N5/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
725	81	包含層	須恵器	杯盤	口径:(11.6) 底径:4.0	口縁部 1/4	外・新・内:N7/灰白 断:内:N6/灰白	φ2mm以下の長石含む	外:回転ヘラケズ 内:回転ナデ	
726	81	包含層	須恵器	杯盤	高さ:△2.4	天井部 完形	外:2.5YR7/1灰白 断:内:N7/灰白	φ2mm以下の砂粒含む	外:回転ヘラケズ 内:回転ナデ	
727	81	包含層	須恵器	杯身	口径:(10.3) 高さ:3.5	1/6	外:2.5YR7/1明赤灰 内:N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	外面:自然 縫
728	—	包含層	須恵器	杯身	口径:(12.0) 底径:(2.4)	口縁部 1/12	外・内:N7/灰白 断:内:3YR7/1明赤灰	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
729	—	包含層	須恵器	杯身	口径:(12.8) 底径:(2.4)	口縁部 1/8	外・新・内:7.5Y7/1 底白	φ1mm以下の白色粒含 む	外:回転ナデ、回転 ヘラケズ 内:回転ナデ	
730	81	包含層	須恵器	杯身	口径:(15.6) 底径:(2.8)	口縁部 1/8	外・内:N7/灰白 断:10YR6/1灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
731	—	包含層	須恵器	杯身	高さ:△2.7	受部 1/8	外:10YR6/1灰白 断:内:N6/灰 内:N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
732	81	包含層	須恵器	杯身	口径:(12.0) 底径:(2.2)	口縁部 1/8	外:N5/灰 断:N8/灰白 内:N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外:回転ナデ、回転 ヘラケズ 内:回転ナデ	
733	—	包含層	須恵器	杯身	高さ:△2.4	受部 1/8	外:9・内:N6/灰 断:N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
734	81	包含層	須恵器	壺	口径:(13.8) 底径:(2.8)	口縁部 1/4	外:10YR6/1灰白 断:10YR7/1灰白 内:10YR5/1灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外:回転ナデ、カキ 目 内:回転ナデ	
735	81	包含層	須恵器	壺	口径:(10.6) 底径:(2.7)	口縁部 1/12	外:N5/灰 断:N8/灰白 内:N4/灰	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外・内面:回転ナデ	外面:ヘラ 記号
736	—	包含層	須恵器	壺	高さ:△2.5	—	外・内:N7/灰白 断:N8/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
737	—	包含層	須恵器	壺	口径:(14.2) 底径:(2.2)	口縁部 1/12	外・内:N6/灰 断:N7/灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外・内面:回転ナデ	
738	81	包含層	須恵器	短縦壺	口径:(7.2) 底径:(4.3)	口縁部 1/4	外・新・内:N7/灰白	φ2mm以下の砂粒含む	外:回転ナデ、カキ 目 内:回転ナデ	
739	81	包含層	須恵器	短縦壺	高さ:△4.9	体部 1/4	外・新・内:N7/灰白	φ2mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
740	81	包含層	須恵器	高杯	高さ:△6.9	脚柱部 完形	外・内:7.5YR8/4灰黃 断:10YR6/3にぶ・黄白	φ1mm以下の砂粒含む	外:回転ナデ、洗練 度	
741	—	包含層	須恵器	高杯	高さ:△4.4 直径:(10.0)	脚柱部 1/8	外・内:N6/灰 内:5YR5/4灰	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	方形透かし 孔
742	81	包含層	須恵器	高杯	高さ:△4.2 直径:6.5	脚柱部 完形	外・新・内:N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外・内面:回転ナデ	
743	82	包含層	土師器	把手	高さ:△4.0	把手 完形	外:7.5YR7/4にぶ・黄 内:7.5YR8/4灰黃	φ1mm以下の砂粒含む	外:ユビオサエ、ナ 子	
744	82	包含層	土師器	把手	高さ:△4.4	把手 完形	外・内:7.5YR8/4灰黃 断:7.5YR8/2灰白	φ5mm以下の砂粒含む	外面:ナデ	
745	82	包含層	土師器	把手	高さ:△4.8	把手 完形	外・内:10YR8/2灰白 断:7.5YR8/3Cにぶ・黄	φ3mm以下の砂粒含む	外面:ナデ	
746	82	包含層	土師器	把手	高さ:△4.0	把手 完形	外:7.5YR8/4灰黃 断:10YR8/2灰白 内:7.5YR8/2灰白	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ	
747	82	包含層	土師器	把手	高さ:△3.4	把手 完形	外・内:10YR7/2にぶ・黄 青褐色 内:5YR7/4にぶ・相	φ0.5mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ練合む	外面:ユビナデ	
748	—	包含層	土師器	壺	口径:(14.8) 底径:2.7 直径:(10.0)	1/12	外・新・内:10YR8/3 底白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ練合む	外:ヨコナデ、ナ 子 内:ヨコナデ	
749	82	包含層	土師器	壺	口径:(9.6) 底径:1.6 直径:(5.0)	1/3	外・新・内:7.5YR7/4 底白	φ1mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ練合む	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ	
750	—	包含層	土師器	壺	口径:(9.0) 底径:1.8 直径:(7.2)	1/6	外・内:7.5YR8/4灰黃 断:10YR8/3灰黃	φ0.5mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ練合む	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ	
751	82	包含層	土師器	壺	口径:(9.0) 底径:1.8 直径:(7.2)	1/2	外・内:10YR7/3にぶ・黄 白	φ1mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ練合む	外:ヨコナデ、ナ 子	

表4 遺物観察表(27)

調査次数	種類	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
752	82	包含層	灰陶器	碗	縦高:△2.7 底径:7.6	底部 1/2	外・断・内:10YR8/1 灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転丸テ、回転 内面:回転丸テ、ナデ ナデ	
753	-	包含層	瓦器	碗	口径:(15.8) 縦高:△4.8	口縫部 1/2	外・内:N5/灰 断:10YR7/2灰にぶ・黄褐	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、 ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ ナデ	和泉II-2
754	82	包含層	瓦器	碗	口径:(14.5) 縦高:△4.4	口縫部 1/2	外:N5/灰 断:2.5Y7/1灰白 内:N6/灰	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ ナデ	和泉II-2
755	82	包含層	瓦器	碗	縦高:△3.4 底径:4.4	真舟形 1/2	外:N4/灰 断:88/灰白 内:N5/灰	φ0.5mm以下の砂粒含む	外面:ナデミガキ、 ヨコナデ、ユビオサエ 内面:焼成のため不明	和泉II-2
756	83	463 弥生土器	広口壺	口径:(20.0) 縦高:△10.8	口縫部 2/3	外:N5/灰 断:浅黄褐	φ0.5mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ナ デ 内面:深擦	和泉II-2	
757	-	463 弥生土器	広口壺	口径:(31.5) 縦高:△3.4	口縫部 1/8	外・内:2.5Y8/2灰白 断:2.5Y7/3灰赤	φ0.2mm以下の石英、長 石、チート、ラサ リ縫合含む	外・内面:焼成のため 不明		
758	-	463 弥生土器	壺	口径:(19.6) 縦高:△8.6	口縫部 1/10	外:9- 内:10YR8/2灰白 断:10YR8/2灰白 内:2.5Y7/3灰赤	φ0.4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:焼成のため 不明		
759	83	463 弥生土器	壺	口径:(17.4) 縦高:△11.5	口縫部 1/8	外・内:10YR5/1灰白 内:10YR4/1灰白	φ0.4mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ハケ、ナデ		
760	-	463 弥生土器	底部	縦高:(19.3) 底径:10.4	底部 定形	外:10YR8/4灰白 内:10YR8/4灰白 断:10YR8/4灰白	φ0.4mm以下の石英、長 石、8mm程度の融合 含む	外面:ハハ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 土	
761	-	463 弥生土器	底部	縦高:△3.5 底径:5.0	底部 定形	外・内:10YR7/3△-5△- 断:10YR8/2灰白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チート、ラサ リ縫合含む	外面:ハハ、ナデ 内面:ナデ	底面:木葉 土	
762	-	463 弥生土器	底部	縦高:△10.9 底径:(4.8)	底部 定形	外:2.5Y7/R/3にぶ・相 内:2.5Y8/R/3灰黄褐	φ0.4mm以下の石英、長 石、カサリ縫合含む	外面:ハハ、ナデ 内面:焼成のため不明	底面:木葉 土	
763	83	463 弥生土器	高杯	縦高:△9.6 底径:(10.4)	脚部 1/8	外・内:2.5Y8/2 内:10YR8/4灰白	φ0.2mm以下の石英、長 石、チート、ラサ リ縫合含む	外面:ミガキ、ヨコナ デ 内面:ハハ、ヨコナデ		
764	83	463 弥生土器	高杯	縦高:△6.8 底径:(14.8)	脚部 2/3	外:10YR8/3灰黄褐 内:10YR8/2灰白 断:10YR7/4灰白・黄褐	φ0.2mm以下の石英、長 石、チート、ラサ リ縫合含む	外面:ハハ、ヨコナデ 内面:ナデ、ユビオ サエ、ハハ		
765	84	463 打製石器	剥片	縦高:△5.6 厚さ:1.1	-	-	サメカイト	-	重量:27g	
766	83	963 弥生土器	広口壺	口径:(17.5) 縦高:△15.6	口縫部 2/3	外・内:5YR7/4 内:10YR8/3灰黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チート、ラサ リ縫合含む	外面:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ヨコナデ、ハケ		
767	84	963 弥生土器	広口壺	口径:(19.8) 縦高:△5.4	口縫部 1/8	外:10YR6/2灰白 内:10YR8/3灰黄褐	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、削目 内:ハハ		
768	84	963 弥生土器	広口壺	口径:(29.0) 縦高:△5.5	口縫部 1/8	外:5- 内:5YR7/4灰白	φ0.4mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、削目 内:ハハ		
769	84	963 弥生土器	広口壺	口径:(24.0) 縦高:△14.4	口縫部 1/6	外:2.5Y7/R/3にぶ・相 内:5YR8/4灰黄褐	φ0.3mm以下の石英、長 石、カサリ縫合含む	外面:ヨコナデ、ミガ キ 内面:ヨコナデ、ナデ		
770	84	963 弥生土器	水差	口径:(11.0) 底径:△10.1	口縫部 1/4	外:10YR7/1灰白 内:10YR8/2灰白 断:2.5Y8/R/3	φ0.4mm以下の石英、長 石、カサリ縫合含む	外面:ナデ、柳掛虫眼 内:ナデ		
771	85	963 弥生土器	底部	縦高:△11.4 底径:8.0	底部 定形	外:2.5Y8/1灰白 内:2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の石英、長 石、カサリ縫合含む	外・内面:焼成のため 不明		
772	85	963 弥生土器	底部	縦高:△8.6 底径:8.2	底部 定形	外:2.5Y8/6灰黄褐 内:5Y7/1灰白 内:N5/灰	φ0.3mm以下の石英、長 石、カサリ縫合含む	外面:ハハ後ミガキ 内面:ナデ	底面:木葉 土	
773	-	963 弥生土器	底部	縦高:△7.6 底径:7.6	底部 定形	外:10YR8/3灰黄褐 内:10YR8/2灰白	φ0.3mm以下の石英、長 石含む	外面:焼成のため不明 内面:ナデ、ユビオサ エ		
774	-	963 弥生土器	底部	縦高:△3.4 底径:7.5	底部 4/5	外:5YR8/3灰褐 内:7.5YR8/4灰黄褐 断:10YR5/1灰白	φ0.3mm以下の石英、長 石含む	外面:焼成のため不明 内面:ナデ、ユビオサ エ		
775	85	963 弥生土器	底部	縦高:△3.7 底径:6.8	底部 定形	外:10YR7/3にぶ・黄褐 内:10YR8/2灰白 断:10YR6/2灰白	φ0.3mm以下の石英、長 石、カサリ縫合含む	外面:ミガキ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 土	
776	85	963 弥生土器	底部	縦高:△5.4 底径:9.2	底部 定形	外:10YR6/2灰白 内:10YR4/1灰白 断:10YR5/1灰白	φ0.4mm以下の石英、長 石含む	外面:ハハ 内面:ナデ	底面:木葉 土	
777	-	963 弥生土器	底部	縦高:△6.8	底部 1/7	外:10YR6/2灰白 内:10YR4/1灰白 断:10YR5/1灰白	φ0.4mm以下の石英、長 石含む	外面:ハハ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 土	
778	85	963 弥生土器	壺	口径:(19.5) 縦高:△5.0	口縫部 1/4	外:10YR8/3灰黄褐 内:10YR8/2灰白 断:10YR8/2灰白	φ0.4mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ハハ、ナデ		
779	85	963 弥生土器	壺	口径:(14.8) 縦高:△6.6	口縫部 1/8	外:10YR7/2にぶ・黄褐 内:10YR6/2灰白 断:10YR6/2灰白	φ0.35mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ハハ後ミガキ 内		
780	-	963 弥生土器	底部	縦高:△7.8 底径:5.4	底部 定形	外:10YR4/2灰白 内:10YR6/2灰白 断:10YR5/2灰白	φ0.3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハハ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 土 外面:外側面	

表4 遺物觀察表 (28)

調査 次数	博物館 登録 番号	回収 番号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 整	備 考
	781	-	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△2.1 底径:△5.2	底部 完全形	外: 7.5YR7/3に似る相 内: 10YR6/3赤褐色 外: 10YR7/2灰褐色 内: N4灰	φ3mm以下の石英、長 柱、カクシリ離合む	外面: ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	
	782	85	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△2.9 底径:△5.0	底部 完全形	外: 10YR4/2灰褐色 内: 10YR7/2に似る相 内: N4灰	φ3mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケ 内面: ナデ	底面: 木葉 痕
	783	-	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△2.3 底径:△5.0	底部 完全形	外: 10YR5/1褐色 内: 10YR8/2灰褐色 内: 10YR7/2に似る相	φ4mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ユビオサ エ	
	784	85	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△6.4 底径:△6.4	底部 ほぼ完形	外: 10YR7/2に似る相 内: 10YR8/1褐色 内: 10YR7/2に似る相	φ4mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	底面: 木葉 痕、穿孔 (φ0.8cm)
	785	-	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△3.6 底径:△5.8	底部 完全形	外: 10YR7/2に似る相 内: 10YR8/3褐色 内: 10YR6/2灰褐色	φ4mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケミニガキ 内面: ナデ	底面: 木葉 痕
	786	-	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△4.3 底径:△5.2	底部 完全形	外: 2.5YR7/1褐色 内: 10YR8/3褐色	φ2mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	
	787	-	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△2.8 底径:△3.4	底部 完全形	外: 黄 内: 10YR7/2 内: 白	φ3.5mm以下の石英、長 柱離合む	外・内面: ナデ	
	788	-	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△3.2 底径:△2.3	底部 完全形	外: 10YR7/2に似る相 内: 10YR8/3褐色 内: 10YR7/2灰褐色	φ3mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケメ、ナデ 内面: ナデ	
	789	-	963 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△4.1 底径:△3.5	底部 完全形	外: 7.5YR6/2褐色 内: 10YR8/2灰褐色	φ2mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	底面: 木葉 痕
	790	83	963 土坑	弥生 土器	高杯	口径:△20.6 残高:△9.0	高杯 ほぼ完形	外: 10YR7/2に似る相 内: 10YR8/2灰褐色 内: 10YR5/2灰褐色	φ5mm以下の石英、長 柱離合む	外面: 刻印文、ミガキ 内面: ミガキ	
2016 -1	791	86	963 土坑	石製品	砥石	長さ:△3.7 幅:△6.7 厚さ:△4.7	-	-	砂岩	-	保付 重量: 90g
	792	86	963 土坑	石製品	台石	長さ:△14.1 幅:△11.6 厚さ:△4.7	-	-	砂岩	-	重頭: 1.2kg
	793	86	964 土坑	弥生 土器	広口壺	口径:△46.0 高さ:△11.4	口縫部 1/8	外: 2.5YR8/2灰白 内: 10YR6/1褐色 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ヨコナデ、刻印 文、ナデ 内面: ハケ	穿孔 (φ0.4cm)
	794	83	964 土坑	弥生 土器	広口壺	高さ:△23.0	口縫部 1/4	外: 10YR7/3に似る相 内: 10YR7/1灰白色 内: 10YR7/2に似る相	φ5mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ナデ、櫛描直線 文 内面: ナデ、ハケ	
	795	83	964 土坑	弥生 土器	壺	口径:△30.8 高さ:△27.9	口縫部 ほぼ完形	外: 黄 内: 10YR7/4 内: ぶら黄褐色	φ3mm以下の石英、長 柱、チャート、クサ リ離合む	外面: ハケ後ヨコナ デ、ナデ、ハケ 内面: ナデ	
	796	86	964 土坑	弥生 土器	壺	口径:△16.2 高さ:△7.0	口縫部 1/8	外: 内: 10YR5/2灰褐色 内: 10YR8/3灰褐色	φ4mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ナデ	
	797	86	964 土坑	弥生 土器	底部	高さ:△5.0 底径:△7.4	底部 完全形	外: 黄 内: 10YR8/3 内: 浅黄褐色	φ5mm以下の石英、長 柱、カクシリ離合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ユビオサ エ	
	798	90	1561 溝	磨製石器	大型始 月片石	長さ:△10.2 幅:△6.9 厚さ:△4.5	-	-	砂岩	-	
	799	90	1561 溝	磨製石器	石皿	長さ:△6.95 幅:△12.6 厚さ:△2.1	-	-	砂岩	-	
	800	88	1562 溝	弥生 土器	蓋	口径:△17.5 高さ:△8.9	口縫部 8/8	外: 内: 10YR8/3浅黄褐色 内: 10YR8/2灰白色	φ2mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ヨコナデ、ユビオサ エ 内面: ハケ、ヘラナデ	保付
	801	-	1562 溝	弥生 土器	ミニコ ニア蓋	口径:△6.0 高さ:△9.0	2/3	外: 黄 内: 10YR8/4浅黄褐色	φ2mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	
	802	87	1562 溝	弥生 土器	壺	高さ:△15.5	体部 完全形	外: 10YR8/2灰白色 内: 10YR8/2灰白色	φ4mm以下の石英、長 柱離合む	外面: 櫛描直線文 内面: ナデ	
	803	-	1562 溝	弥生 土器	壺	口径:△10.9 高さ:△23.5	ほぼ 完全形	外: 10YR8/3浅黄褐色 内: 5Y6/2灰褐色 内: 10YR7/1灰白色	φ5mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ナデ	
	804	87	1562 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△16.2 高さ:△13.6	口縫部 完全形	外: 内: 10YR7/3 内: ぶら黄褐色 内: 10YR7/4に似る相	φ3mm以下の石英、長 柱、チャート、クサ リ離合む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、ナデ 内面: ヨコナデ、ユ ビオサ エ、ヘラナデ	
	805	88	1562 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△13.6 高さ:△7.2	口縫部 1/2	外: 内: 10YR7/5 内: ぶら黄褐色 内: 10YR8/2灰白色	φ3mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、ミガキ 内面: ヨコナデ、ハ ケ	
	806	88	1562 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△19.8 高さ:△8.4	口縫部 1/2	外: 内: 10YR7/3 内: ぶら黄褐色 内: 10YR8/3浅黄褐色	φ1mm以下の石英、長 柱、チャート、クサ リ離合む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、ミガキ 内面: ハラナデ、ハ ケ	
	807	88	1562 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△16.6 高さ:△9.7	口縫部 1/4	外: 2.5YR8/2灰白 内: 10YR8/1灰白色 内: 10YR8/2灰白色	φ3mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ヨコナデ、ナ デ、櫛描直線文 内面: ナデ、ハケ	
	808	88	1562 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△24.8 高さ:△7.6	口縫部 1/4	外: 内: 10YR6/2灰白黃 内: 10YR8/2灰白色 内: 2.5YR8/1灰白色	φ3mm以下の石英、長 柱離合む	外面: ヨコナデ、刻印 文、櫛描直線文 内面: ハケ	
	809	88	1562 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△36.8 高さ:△6.0	口縫部 1/6	外: 内: 10YR8/3浅黄褐色 内: 10YR8/2灰白色 内: 2.5YR8/1灰白色	φ5mm以下の石英、長 柱、チャート、クサ リ離合む	外・内面: 慶誠のため 不明	
	810	88	1562 溝	弥生 土器	広口壺	口径:△17.4 高さ:△6.0	口縫部 1/6	外: 内: 10YR8/3 内: 浅黄褐色	φ2mm以下の石英、長 柱、チャート、クサ リ離合む	外面: ヨコナデ、刻印 文、沈綴、櫛描直線文 内面: ハケ、櫛描波状 文	

表4 遺物観察表(29)

測定 次元 番号	測定 番号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 整	備 考
	811 87	1562 滝	弔生 土器	広口壺	口径: (26.0) 器高: □16.1	颈部 尖形	外: 10YR8/4赤褐色 内: 10YR8/3赤褐色 内: 7.5YR8/3赤褐色	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ナデ、櫛描直線 文 内面: ハケ、ナデ	
	812 88	1562 滝	弔生 土器	壺	口径: (15.1) 器高: □9.2	口縁部 1/3	外: 10YR5/1灰褐色 内: 10YR5/2灰褐色	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ナデ	
	813 89	1562 滝	弔生 土器	壺	口径: (12.6) 器高: □9.2	口縁部 1/8	外・内: 10YR8/2灰褐色 内: 7.5YR7/2灰褐色	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ナデ	
	814 89	1562 滝	弔生 土器	壺	口径: (21.0) 器高: □7.7	口縁部 1/6	外・内: 2.5YR8/6/6 内: 10YR8/2灰褐色	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ナゲ、ヨコナ デ、ナデ	
	815 89	1562 滝	弔生 土器	壺	口径: (30.0) 器高: □10.8	口縁部 1/6	外・内: 5.7YR7/3 内: ふくね	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ナゲ、ヨコナ デ、ナデ	
	816 87	1562 滝	弔生 土器	壺	口径: (30.0) 器高: □15.7	口縁部 1/6	外・内: 5.7YR8/2灰褐色 内: 7.5YR6/1灰褐色	φ4mm以下の石英、長 石、クサリ繙、礫を 含む	外面: ヨコナデ、櫛描 直線状文 内面: ヨコナデ、ヘラ ナデ	
	817 89	1562 滝	弔生 土器	壺	口径: (41.2) 器高: □17.7	口縁部 1/6	外: 10YR8/3赤褐色 内: 10YR5/1灰褐色 内: 10YR8/2灰褐色	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ハケ、ヨコナデ 内面: ナゲ	
	818 89	1562 滝	石製品 石製品	不明 石製品	長さ: (14.9) 幅: (10.6) 厚さ: □4.1	—	—	砂岩	—	重量: 796 g
	819 89	1562 滝	磨製 石刀	太形船 月石刀	長さ: (7.0) 幅: □2.3	—	—	花崗閃緑岩	—	重量: 332 g
	820 89	1562 滝	磨製 石器	石刮丁	長さ: (6.0) 幅: (3.9) 厚さ: □0.8	—	—	粘板岩	—	重量: 39g
2016 -1	821 87	1746 ピット	弔生 土器	広口壺	口径: (46.0) 器高: □12.5	口縁部 1/6	外: 10YR7/2にふくね 内: 5YR4/1灰褐色 内: 7.5YR8/4灰褐色	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、刻札文 内面: ヨコナデ	
	822 -	2230 ピット	弔生 土器	鉢	口径: (18.6) 器高: □6.5	口縁部 1/4	外: 2.5YR8/6灰白 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面: ナゲ 内面: 磨滅のため不明	
	823 90	2020 ピット	打製 石器	石礫	長さ: (0.35) 幅: □0.35 厚さ: □0.45	—	—	サヌカイト	—	重量: 3 g
	824 90	1452 ピット	打製 石器	石礫	長さ: (2.5) 幅: □1.9 厚さ: □0.3	—	—	サヌカイト	—	重量: 1 g
	825 -	932 土坑	弔生 土器	広口壺	口径: (20.0) 器高: □3.8	口縁部 1/6	外・内: 10YR7/3にふくね 内: 5YR4/1灰褐色 内: 7.5YR8/1灰褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チート、クサ リ繙合む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、ミガキ、ナデ 内面: ナゲ、ヨコナデ	
	826 -	932 土坑	弔生 土器	蓋	器高: □4.7	頂部 尖形	外: 7.5YR7/4にふくね 内: N4灰褐色 内: 2.5YR7/2灰褐色	φ1.5mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ヨコナデ 内面: ハケ	
	827 -	932 土坑	弔生 土器	蓋	器高: □1.5	頂部 尖形	外: 5YR7/3にふくね 内: 2.5YR8/2灰白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	828 -	932 土坑	弔生 土器	底部	器高: □4.5 底径: (6.8)	底部 2/3	外: 10YR7/3Cにふくね 内: 10YR5/1灰褐色 内: 10YR8/2灰褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ハケ、ナデ 内面: 磨滅のため不明	底面: 木葉 底面: 木葉
	829 -	932 土坑	弔生 土器	底部	器高: □5.9 底径: (10.8)	底部 2/3	外・内: 10YR7/3 内: ふくね 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ハケ 内面: 磨滅のため不明	底面: 木葉 底面: 木葉
	830 -	932 土坑	弔生 土器	底部	器高: □4.4 底径: (6.8)	底部 2/3	外・内: 10YR7/3Cにふくね 内: 7.5YR7/3Cにふくね 内: 10YR8/2灰白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ナゲ、ナデ 内面: ナデ	底面: 木葉 底面: 木葉
	831 -	932 土坑	弔生 土器	底部	器高: □4.1 底径: (5.2)	底部 1/2	外: 5YR7/3にふくね 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ナゲ 内面: ナゲ、ユビオサ 内面: ナゲ	底面: 木葉 底面: 木葉
	832 91	210 土坑	弔生 土器	広口壺	口径: (20.0) 器高: □2.1	口縁部 1/8	外: 2.5YR7/3灰褐色 内: 2.5YR7/2灰褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ヨコナデ、刻目 内面: ナゲ	
	833 91	210 土坑	弔生 土器	広口壺	口径: (29.7) 器高: □2.6	口縁部 1/8	外・内: 2.5YR8/2 内: 白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ナゲ、ユビオサ 内面: 刻目文 内面: 極端扇形	
	834 91	210 土坑	弔生 土器	底部	器高: □2.6 底径: (5.0)	底部 尖形	外: 10YR7/2にふくね 内: 10YR8/3灰褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ナゲ 内面: ナゲ	底面: 木葉 底面: 木葉 (±1.0cm)
	835 91	210 土坑	弔生 土器	底部	器高: □5.2 底径: (8.0)	底部 尖形	外: 10YR8/3灰褐色 内: 10YR8/3灰褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ヨコナデ、櫛 描直線状文 内面: 極端扇形	
	836 -	290 土坑	弔生 土器	壺	口径: (33.2) 器高: □6.4	口縁部 1/8	外: 10YR8/4灰褐色 内: 10YR8/2灰褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: ヨコナデ、櫛 描直線状文 内面: ヨコナデ	
	837 -	290 土坑	弔生 土器	鉢	口径: (31.0) 器高: □6.0	口縁部 1/20	外: 7.5YR8/6灰褐色 内: 10YR8/4灰褐色 内: 7.5YR7/6灰褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チート、ク サリ繙合む	外面: 妻帯、ヨコナデ 内面: 磨滅のため不明	
	838 91	368 土坑	弔生 土器	壺	口径: (14.8) 器高: □7.8	口縁部 1/6	外: 5YR7/4にふくね 内: 10YR8/7灰褐色 内: 10YR8/6灰褐色	φ4mm以下の砂粒含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ後ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ	外面: 爪付 内面: 爪付
	839 91	368 土坑	弔生 土器	壺	口径: (37.0) 器高: □10.8	口縁部 1/6	外: 10YR5/2灰褐色 内: 10YR7/2にふくね 内: 10YR6/2灰褐色	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ内面: ヨコナデ、ナデ	
	840 91	368 土坑	弔生 土器	鉢	口径: (29.0) 器高: □8.6	口縁部 1/12	外・内: 10YR8/3灰褐色 内: 10YR5/2灰褐色	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外・内面: ヨコナデ	

表4 遺物觀察表 (30)

標本 次数	標 記 番 号	出 土 地	器 種	器 形	法 量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 査	備 考
	841	-	371 土坑	弔生 土器	広口壺 口径: (15.0) 縦高: △4.6	口縁部 1/10	外・内: 7.5YR7/3 にぶ・褐 断: 10YR6/2黄褐色	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、四線 内面: ヨコナデ	穿孔 (ø0.1cm)
	842	-	371 土坑	弔生 土器	鉢 口径: (28.2) 縦高: △8.6	口縁部 1/10	外: 7.5YR7/1明褐 内: 7.5YR7/2赤白 断: 10YR7/2赤・黄褐色	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	843	-	371 土坑	弔生 土器	底部 縦高: △5.5 底径: 5.0	底部 完形	外・内: 7.5YR6/3 にぶ・褐 内: 7.5YR7/4にぶ・褐	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 濃滅のため 不明	底面: 木葉 痕
	844	-	371 土坑	弔生 土器	高杯 縦高: △8.5	脚柱部 外: 7.5YR7/4にぶ・褐 断: 内: 10YR8/2白	φ2mm以下の石英、長 石含む	内面: ナデ、ミガキ 外面: ナデ、シボリ 痕、ユビナデ	円盤充填	
	845	-	371 土坑	弔生 土器	高杯 口径: (23.2) 縦高: △1.4	口縁部 1/8	外: 7.5YR8/3にぶ・褐 内: 7.5YR7/4にぶ・褐 断: 10YR8/2白	φ2mm以下の石英、長 石含む	内面: ヨビナデ後 ヨコナデ	
	846	-	357 土坑	弔生 土器	鉢 口径: (34.7) 縦高: △6.0	口縁部 1/3	外: 10YR8/3赤・黄褐色 内: 7.5YR7/4にぶ・褐	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ 内面: ハケ	
	847	-	357 土坑	弔生 土器	鉢 口径: (15.0) 縦高: △7.6	口縁部 1/6	外: 2.5YR8/2白 内: 2.5YR8/3黄	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合む	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ、ハケ	
	848	-	357 土坑	弔生 土器	底部 縦高: △7.5 底径: 6.0	底部 完形	外: 10YR8/4皮膚 内: 10YR8/3皮膚 断: 10YR9/1底	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ハケ	底面: 木葉 痕
	849	-	357 土坑	弔生 土器	底部 縦高: △3.3 底径: 5.8	底部 1/3	外: 10YR7/4にぶ・黄褐色 内: 10YR9/3にぶ・黄褐色	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合む	外面: ハケ 内面: 濃滅のため不 明	底面: 木葉 痕
	850	-	357 土坑	弔生 土器	底部 縦高: △3.5 底径: 4.8	底部 完形	外・内: 10YR7/3 にぶ・黄褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、金星 目、クサリ縫合む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	底面: 木葉 痕
	851	-	357 土坑	弔生 土器	底部 縦高: △3.6 底径: 6.4	底部 完形	外: 10YR6/4にぶ・黄褐色 内: 10YR6/3にぶ・黄褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面: ハケ 内面: ヨビナデ	底面: 木葉 痕
	852	-	357 土坑	弔生 土器	底部 縦高: △2.6 底径: 6.2	底部 完形	外・内: 10YR7/3 にぶ・黄褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合む	外・内面: 濃滅のため 不明	底面: 木葉 痕
	853	84	357 土坑	磨製 石器	大型始 輪	大きさ: (10.8) 縦高: 6.0 厚さ: 3.9	-	砂岩	-	重量: 458 g
2016 -1	854	-	346 土坑	広口壺	縦高: △4.1	頸部 1/4	外・内: 7.5YR7/3 にぶ・褐 断: 7.5YR8/4皮膚	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、突窓 内面: ナデ	
	855	-	346 土坑	弔生 土器	高杯 縦高: △2.6 底径: 7.8	頸部 1/6	外・内: 7.5YR7/3 にぶ・褐 内: 7.5YR8/4皮膚	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、刺突 内面: ナデ、ヨコナデ	
	856	92	372 溝	弔生 土器	広口壺 口径: (19.8) 縦高: △2.3	口縁部 1/6	外: 7.5YR8/1皮膚 内: 10YR6/2黄褐色	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、刺目 内面: ミガキ	
	857	92	372 溝	弔生 土器	広口壺 口径: (24.0) 縦高: △7.0	口縁部 1/8	外・内: 10YR8/2皮膚 内: 10YR8/1皮膚	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨビナデ	
	858	92	372 溝	弔生 土器	広口壺 縦高: △13.4	頸部 1/4	外: 10YR7/2にぶ・黄褐色 内: 10YR6/1皮膚	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ、櫛縫 突窓、刺突、削り 痕、擦損状 内面: ドラム	
	859	92	372 溝	弔生 土器	底部 縦高: △3.3 底径: 7.4	底部 完形	外: 5YR1/1灰白 内: 2.5YR8/2白	φ2.0mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ 内面: ナデ、ユビオサ 痕	底面: 木葉 痕
	860	-	372 溝	弔生 土器	底部 縦高: △2.5 底径: 4.0	底部 完形	外: 2.5YR6/1黄褐色 内: 10YR7/2にぶ・黄褐色 断: 10YR8/2黄褐色	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ヨビオサエ	底面: 木葉 痕
	861	-	372 溝	弔生 土器	底部 縦高: △3.6 底径: 6.2	底部 完形	外: 2.5YR4/1黄褐色 内: 2.5YR8/2白	φ6mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	862	-	372 溝	弔生 土器	底部 縦高: △3.6 底径: 9.2	底部 ほぼ完形	外: 10YR8/1灰白 内: 2.5YR8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	863	92	372 溝	磨製 石器	石剣 大きさ: (7.6) 縦高: 5.1 厚さ: 0.4	-	-	粘板岩	-	重量: 18 g
	864	92	396 溝	弔生 土器	鉢 口径: (23.8) 縦高: △4.7	口縁部 1/8	外: 10YR8/3皮膚 内: 2.5YR8/1灰白	φ10mm以下の礁、砂 内面: ミガキ	外面: ヨコナデ、刺目 内面: ミガキ	
	865	92	396 溝	弔生 土器	鉢 口径: (22.4) 縦高: △5.0	口縁部 1/10	外: 10YR8/3皮膚 内: 10YR8/2皮膚	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 濃滅のため 不明	
	866	-	396 溝	弔生 土器	底部 縦高: △3.2 底径: 4.2	底部 完形	外: 7.5YR5/3にぶ・褐 内: 2.5YR5/1皮膚 断: 10YR7/3にぶ・黄褐色	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ、ナデ 内面: ナデ	
	867	-	396 溝	弔生 土器	底部 縦高: △5.0 底径: (9.6)	底部 1/2	外: 7.5YR7/2にぶ・黄褐色 内: 10YR6/2皮膚	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ、ナデ 内面: ヨビオサエ	
	868	-	396 溝	弔生 土器	底部 縦高: △2.6 底径: 5.2	底部 完形	外: 7.5YR8/3皮膚 内: 5YR1/灰白	φ2.5mm以下の石英、 長石含む	外・内面: ナデ	
	869	-	396 溝	弔生 土器	底部 縦高: △2.1 底径: (5.6)	底部 1/2	外: 10YR7/3にぶ・黄褐色 内: 2.5YR7/1皮膚 断: 10YR8/2皮膚	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 濃滅のため 不明	
	870	-	396 溝	弔生 土器	底部 縦高: △2.1 底径: (5.6)	底部 1/4	外: 10YR7/3にぶ・黄褐色 内: 2.5YR7/1皮膚 断: 10YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ユビオサ 内面: ナデ	底面: 木葉 痕

表4 遺物觀察表(31)

順次 番号	博団 番号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 査	備考
	871 92	396 潟	打製石器	石槌	長さ: (6.1) 幅: 3.9 厚さ: 1.8	—	—	サヌカイト	—	重量: 28g
	872 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	広口壺	口径: (25.4) 器高: △1.3	口縁部 1/8	外: 2.5YR8/1赤白 内: 5YR7/2灰褐色 底: 2.5YR7/4灰褐色	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ナ 内面: 磨滅のため不明	
	873 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	広口壺	口径: (34.9) 器高: △2.1	口縁部 1/6	外: 10YR8/3灰黄褐色 内: 10YR8/2赤白 底: 7.5YR8/3灰黃褐色	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、削口 文、ナデ 内面: ナデ	
	874 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	広口壺	口径: (47.0) 器高: △4.3	口縁部 1/6	外・断・内: 10YR8/2 底: 4	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ疊含む	外面: ヨコナデ、削口 文、ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	875 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	広口壺	口径: (36.2) 器高: △3.7	口縁部 1/8	外・断: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR7/3にぶる白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、擦損 文、ナデ 内面: ナデ	
	876 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	広口壺	口径: (29.5) 器高: △9.1	口縁部 1/8	外: 10YR8/2灰黄褐色 内: 10YR8/3灰黃褐色 底: 7.5YR8/4灰褐色	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、擦損 波状文、ナデ 内面: ナデ	
	877 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	広口壺	口径: (28.2) 器高: △11.9	口縁部 1/8	外・内: 10YR8/3灰黄褐色 底: 2.5YR8/2赤白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため不 明	
	878 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	彎頭壺	口径: (36.2) 器高: △7.3	口縁部 1/4	外・断・内: 2.5YR8/2 底: 4	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ疊含む	外面: ナデ、擦損波状 文、擦損直線文 内面: ナデ、ユビオサ エ	
	879 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	無縁壺	器高: △5.0	—	外・断・内: 10YR8/2 底: 4	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ疊含む	外・内面: 磨滅のため 不明	穿孔 (φ0.3cm)
	880 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	無縁壺	器高: △7.6	—	外: 10YR8/3灰黄褐色 内: 2.5YR8/2赤白	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ疊含む	外面: 擦損直線文 内面: 磨滅のため不 明	穿孔 (φ0.2cm)
2016 -1	881 93	1327 方形圓溝墓	劔生土器	齒ない し鉢	器高: △7.1	—	外・断・内: 10YR8/2 底: 4	φ4.5mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ナ デ、直線、擦損直線文 内面: 磨滅のため不 明	
	882 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △10.7 底径: 6.2	底部 底径: 6.2	外: 10YR8/1灰白 内: 10YR8/2灰白 底: 10YR7/2にぶる黄褐色	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ナ デ、直線、擦損直線文 内面: 磨滅のため不 明	
	883 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △10.1 底径: 10.8	底部 底径: 10.8	外: 10YR8/1灰白 内: 10YR8/2灰白 底: 10YR7/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ハガ、ナデ 内面: ナデ	底面: 木葉 底面: 木葉
	884 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △7.3 底径: (8.8)	底部 1/3	外・断・内: 10YR8/3 底: 4	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、ユビオサ エ 内面: ナデ	
	885 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △8.0 底径: (7.4)	底部 1/3	外・内: 10YR8/2灰黄褐色 底: 2.5YR8/2赤白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	底面: 木葉
	886 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △10.3 底径: (9.6)	底部 1/3	外: 7.5YR7/2灰白 内: 2.5YR6/1灰白 底: 2.5YR7/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	887 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △7.2 底径: 8.6	底部 1/3	外・断・内: 10YR8/2 底: 4	φ7mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ナ デ 内面: ナデ	
	888 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △7.9 底径: 7.9	底部 1/3	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/3灰黃褐色	φ3.5mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	底面: 木葉
	889 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △5.3 底径: 6.2	底部 1/3	外: 10YR8/1灰白 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	890 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △3.7 底径: (7.8)	底部 1/2	外: 10YR7/4にぶる黄褐色 内: 2.5YR8/3灰黃褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ疊含む	外面: ヨコナデ、ナ デ、直線 内面: 磨滅のため不 明	底面: 木葉 底面: 木葉
	891 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △3.0 底径: (7.6)	底部 1/2	外・断・内: 2.5YR7/2 底: 4	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ疊含む	外・内面: 磨滅のため 不明	底面: 木葉
	892 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △4.3 底径: 8.2	底部 2/3	外: 2.5YR8/2赤白 内: 2.5YR6/1灰白 底: 2.5YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石、カサリ疊含む	外・内面: 磨滅のため不 明	底面: 木葉
	893 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △4.0 底径: 5.6	底部 1/2	外: 10YR6/3にぶる黄褐色 内: 10YR8/2灰黃褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ疊含む	外・内面: ハケ	底面: 木葉
	894 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △3.5 底径: 6.2	底部 底径: 6.2	外: 10YR7/3にぶる黄褐色 内: 10YR8/2灰黃褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ疊含む	外面: ハケ後ミガキ、 ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	底面: 木葉
	895 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底部	器高: △4.6 底径: 5.8	底部 底径: 5.8	外: 7.5YR8/2灰黃褐色 内: 10YR8/2灰黃褐色 底: 10YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	底面: 木葉
	896 94	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底	口径: (17.7) 器高: △5.3	口縁部 1/1	外: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR8/2灰黃褐色 底: 2.5YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ナ デ 内面: ナデ	
	897 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底	口径: (26.2) 器高: △4.5	口縁部 1/8	外: 7.5YR7/2灰黃褐色 内: 10YR8/2灰白 底: 7.5YR7/3にぶる白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ハケ	
	898 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底	口径: (13.9) 器高: △5.9	口縁部 1/10	外: 10YR7/3にぶる黄褐色 内: 2.5YR6/2灰白 底: 2.5YR7/1灰白	φ1mm以下の石英、長 石、チャート含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	899 —	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底	口径: (17.0) 器高: △4.8	口縁部 1/8	外: 10YR8/2灰黃褐色 内: 10YR7/3にぶる黄褐色 底: 2.5YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ハケ、ナデ、 アズメ	
	900 94	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底	口径: (19.2) 器高: △5.4	口縁部 1/8	外: 10YR8/4にぶる黄褐色 内: 10YR7/3にぶる黄褐色 底: 10YR8/1灰白	φ3.5mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ハケ、ナデ	
	901 94	1327 方形圓溝墓	劔生土器	底	口径: (21.0) 器高: △5.8	口縁部 1/4	外: 7.5YR8/4にぶる黄褐色 内: 10YR8/3灰黃褐色	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、 ハケ 内面: ナデ	

表4 遺物観察表 (32)

遺物 大類	遺物 番号	出土地	器種	基形	法線 (cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	902 87	1327 方形周溝盤	弥生 土器	甕	口径: (32.6) 腹高: △2.31	口縫部 1/4	外: 7.5YR8/4(浅黄褐) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、ハケ 内面: ナデ	
	903 94	1327 方形周溝盤	弥生 土器	甕	口径: (29.6) 腹高: △3.9	口縫部 1/8	外: 10YR7/2に至る(黄) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ハケ、ミガキ	
	904 94	1327 方形周溝盤	弥生 土器	甕	口径: (24.0) 腹高: △7.6	口縫部 1/10	外: 10YR8/2(浅黄褐) 内: 2.5YR8/2(灰白)	φ1.5mm以下の長石、 チャート、金雲母、 クサリ融含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ、ハケ 表面: 磨滅のため不明	
	905 94	1327 方形周溝盤	弥生 土器	甕	口径: (15.8) 腹高: △12.2	口縫部 1/8	外: 10YR7/2に至る(黄) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、ハケ 内面: ナデ	
	906 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	甕	口径: △5.2 底径: (8.0)	底部 1/3	外: 7.5YR7/2(灰白) 内: 2.5YR6/1(灰黄)	φ2mm以下の石英、長 石含む チャート、クサリ 融含む	外面: ハケ 内面: 磨滅のため不明	底面: 木葉 模様
	907 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △4.4 底径: 5.2	底部 2/3	外: 7.5YR7/2(灰白) 内: 10YR7/2 に至る(黄)	φ3mm以下の石英、長 石、クサリ融含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	908 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △3.3 底径: 4.6	底部 完全	外: 7.5YR7/2(灰白) 内: 10YR8/2(浅黄褐)	φ3mm以下の石英、長 石、クサリ融含む	外・内面: ナデ	
	909 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △2.1 底径: 2.1	底部 完全	外: 10YR7/1(灰白) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
	910 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △4.3 底径: (6.4)	底部 1/2	外: 7.5YR4/2(灰白) 内: 10YR8/2(灰白)	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	911 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △3.9 底径: 4.8	底部 完全	外: 10YR7/3に至る(黄) 内: 10YR8/2(灰白)	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ユビオサ エ、ユビナデ 内面: ナデ	
	912 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △3.1 底径: 5.1	底部 完全	外: 10YR6/3に至る(黄) 内: 10YR8/2(灰白)	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ユビオサエ、 ナデ	底面: 木葉 模様
	913 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △3.4 底径: 6.0	底部 2/3	外: 10YR7/3に至る(黄) 内: 2.5YR1(黄)	φ2mm以下の石英、長 石含む チャート、クサリ 融含む	外面: ハケ、ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	914 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △3.7 底径: 6.2	底部 完全	外: 10YR6/2(灰黄褐) 内: 10YR8/2(灰白)	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ、ナデ 内面: ユビナデ	底面: 木葉 模様
	915 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △3.6 底径: 4.8	底部 完全	外: 10YR6/3に至る(黄) 内: 10YR8/2(灰白)	φ1mm以下の石英、長 石含む チャート、クサリ 融含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	底面: 木葉 模様
2016 -1	916 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △3.0 底径: 5.2	底部 2/3	外: 内: 10YR7/3 に至る(黄) 内: 10YR8/2(浅黄褐)	φ2mm以下の石英、長 石含む チャート含む	外面: ハケ 内面: 磨滅のため不明	底面: 木葉 模様
	917 -	1327 方形周溝盤	弥生 土器	底部	口径: △3.0 底径: (4.6)	底部 1/2	外: 10YR7/3に至る(黄) 内: 10YR8/3(浅黄褐)	φ2mm以下の石英、長 石含む チャート、金雲母、 クサリ融含む	外面: ハケ、ナデ 内面: 磨滅のため不明	
	918 93	1327 方形周溝盤 打削面	石器	基盤	長さ: 2.5 幅さ: 0.5	-	-	サスカイト	-	重量: 2.8
	919 94	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: △4.9	-	外: 10YR6/2(灰黄褐) 内: 7.5YR7/2(灰白)	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日 文、ナデ、ユビオサ エ、櫛端直線文 内面: ヨコナデ、ハ ケ、ナデ、起泡	
	920 94	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (15.4) 腹高: △5.9	口縫部 1/6	外・内: 5YR8/4(淡 黄) 内: 7.5YR7/1(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: 櫛端波文 内面: 磨滅のため不明	
	921 94	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (13.4) 腹高: △4.7	口縫部 1/4	外: 7.5YR8/3(浅黄 褐) 内: 10YR8/2(浅黄褐)	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ、ハケ 内面: 磨滅のため不明	
	922 94	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (13.4) 腹高: △7.4	口縫部 1/3	外: 7.5YR8/4(淡黄 褐) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、櫛端 直線文 内面: ナデ	
	923 94	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (24.2) 腹高: △3.5	口縫部 1/4	外: 2.5YR5/1(灰 黄) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	924 94	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (16.8) 腹高: △9.2	口縫部 1/3	外: 7.5YR7/3に至る(黄) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ 内面: 磨滅のため不明	
	925 94	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (15.8) 腹高: △4.6	口縫部 1/6	外: 2.5YR8/1(灰 白) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ナデ	
	926 87	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (17.5) 腹高: △6.8	口縫部 完全	外: 10YR8/2(灰白) 内: 10YR8/1(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石、クサリ融含む	外面: ヨコナデ 内面: 櫛端直線文 内面: ハケ	
	927 95	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (15.9) 腹高: △5.1	口縫部 1/4	外: 10YR8/2(浅黄 褐) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	
	928 95	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (17.4) 腹高: △5.5	口縫部 1/8	外: 10YR8/2(灰 白) 内: 10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日 文、ナデ、櫛端直線文 内面: ヨコナデ、ナデ	
	929 95	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (27.0) 腹高: △5.8	口縫部 1/6	外: 7.5YR7/2(灰 白) 内: 10YR8/2(灰白)	φ6mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、櫛端 波文、ハケ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ	
	930 95	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (19.6) 腹高: △6.1	口縫部 1/3	外・内: 10YR7/2 に至る(黄) 内: 2.5Y5/1(灰 黄)	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日 文、ナデ、櫛端直線文 内面: ヨコナデ、ハケ	
	931 95	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (32.0) 腹高: △5.2	口縫部 1/10	外: 10YR8/2(灰白) 内: 2.5Y8/1(灰白) 内: 10YR8/1(灰白)	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ヨコナデ 内面: ハケ	
	932 95	1328 方形周溝盤	弥生 土器	広口壺	口径: (30.3) 腹高: △5.2	口縫部 1/6	外・内: 10YR8/2 に至る(灰白)	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: 磨滅のため 不明	

表4 遺物観察表(33)

遺物 番号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	現 存	色 調	胎 土	調 整	備考
933 95	1328 方形周溝型	甕生土器	広口壺	口径: (25.4) 器高: △1.2	口縫部 1/6	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日 文、ナデ 内面: ナデ	
934 95	1328 方形周溝型	甕生土器	広口壺	口径: (25.3) 器高: △2.8.5	口縫部 1/3	外: 10YR8/2灰黄橙 内: 2.5YR7/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ナデ 内面: ハケ	
935 95	1328 方形周溝型	甕生土器	広口壺	口径: (18.2) 器高: △1.1.6	口縫部 1/6	外・断・内: 10YR8/2 灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: 四線、櫛描波状 文、ハケ、櫛描直線文 内面: ヨコナデ、櫛描 波状文、ナデ、ユビオ サエ	
936 95	1328 方形周溝型	甕生土器	広口壺	口径: (45.0) 器高: △3.9	口縫部 1/6	外: 2.5YR1/灰白 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日文、ナデ 内面: ハケ	
937 95	1328 方形周溝型	甕生土器	広口壺	口径: (17.2) 器高: △2.5.6	口縫部 1/6	外: 7.5YR7/2灰 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ 内面: 潜滅のため不明	
938 96	1328 方形周溝型	甕生土器	壺	器高: △3.3	—	外: 7.5YR8/2灰白 内: 5Y5/1灰 内: 5YR8/2灰白	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、櫛描 波状文、円形浮文 内面: ナデ	
939 96	1328 方形周溝型	甕生土器	無縫壺	口径: (10.4) 器高: △4.9	口縫部 1/3	外: 10YR8/3灰黄橙 内: 10YR6/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、櫛描 波状文 内面: ヨコナデ、ナデ (φ0.5cm)	
940 95	1328 方形周溝型	甕生土器	無縫壺	口径: (8.3) 器高: △3.0	口縫部 1/3	外: 10YR7/2灰 内: 10YR7/2灰黄 内: 10YR8/2灰白	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ナデ (φ0.5cm)	
941 96	1328 方形周溝型	甕生土器	無縫壺	器高: △6.8 底径: 10.8	脚部 1/6	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR5/1灰 内: 7.5YR8/3灰黄橙	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、四線 内面: ヨコナデ、ユビ オサエ、エコナデ	
942 97	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △15.5 底径: 6.4	—	外: 10YR7/2 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ、ハケ 内面: ナデ	
943 97	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △8.3 底径: 8.0	底部 完形	外・断・内: 2.5YR8/2 灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: 潜滅のため不明 内面: ナデ	底面: 木葉 裏
944 —	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △6.1 底径: 8.2	底部 完形	外: 10YR7/2に△灰 内: 2.5YR8/1灰 内: 7.5YR7/2灰 内: 7.5YR7/2灰	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ 内面: ナデ、ユビオサ エ	
945 —	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △3.4 底径: (11.0)	底部 完形	外: 10YR8/2灰 内: 2.5YR8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ 内面: ナデ、潜滅のため 不明	
946 —	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △13.8 底径: (7.0)	底部 1/3	外: 2.5Y5/1灰 内: 2.5Y6/1灰 内: 2.5Y8/1灰	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ、ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	
2016 —1	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △5.1 底径: (7.2)	底部 1/3	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/2灰 内: 7.5YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面: ナデ	
948 —	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △4.6 底径: 4.8	底部 完形	外: 7.5YR8/3灰黄 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ 内面: ナデ	底面: 木葉 裏
949 97	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △3.2 底径: 6.5	底部 完形	外・断・内: 10YR8/2 灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ 内面: ナデ	
950 —	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △4.4.3 底径: 4.2	底部 完形	外: 2.5Y4/1灰 内: 2.5Y5/1灰 内: 10YR8/3灰黄	φ3.5mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ 内面: ナデ、ユビオサ エ	底面: 木葉 裏
951 97	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △5.5 底径: 9.0	底部 完形	外: 10YR6/1灰 内: 10YR8/2灰白 内: 7.5Y7/3に△灰	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	底面: 木葉 裏
952 —	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △3.3 底径: 8.0	底部 完形	外: 10YR6/1灰 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ミガキ、ナデ 内面: ナデ、ユビオサ エ	
953 —	1328 方形周溝型	甕生土器	底部	器高: △4.1 底径: (7.8)	底部 1/3	外・断: 10YR8/2灰白 内: 5Y7/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: 潜滅のため不明 内面: ナデ	底面: 木葉 裏
954 96	1328 方形周溝型	甕	口径	(34.0) 器高: △4.3	口縫部 1/6	外: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、朝日 文、ナデ 内面: ハケ	
955 96	1328 方形周溝型	甕生土器	甕	口径: (35.6) 器高: △14.5	口縫部 1/6	外: 7.5YR7/1灰 内: 2.5Y8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、ナデ、実紀状文	
956 96	1328 方形周溝型	甕生土器	甕	口径: (27.0) 器高: △5.8	口縫部 1/6	外: 10YR7/1灰白 内: 2.5Y8/1灰白 内: 10YR5/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面: 櫛描波状文、ヨ コナデ、ハケ 内面: ハケ、ナデ	
957 96	1328 方形周溝型	甕生土器	甕	口径: (27.0) 器高: △3.3	口縫部 1/6	外: 10YR4/2灰 内: 10YR7/2灰 内: 10YR8/2灰 内: 7.5YR7/2灰	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、ナデ、クシリ融合む 内面: ハケ	
958 96	1328 方形周溝型	甕生土器	甕	口径: (17.8) 器高: △5.4	口縫部 1/6	外: 10YR7/2に△灰 内: 10YR8/2灰 内: 7.5YR7/2灰	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、ナデ、ユビオサ エ	
959 96	1328 方形周溝型	甕生土器	甕	口径: (19.8) 器高: △5.7.4	口縫部 1/6	外: 10YR8/3灰 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、ナデ、ユビオサ エ	
960 96	1328 方形周溝型	甕生土器	甕	口径: (18.7) 器高: △5.0	口縫部 1/6	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ 内面: ハケ	
961 96	1328 方形周溝型	甕生土器	甕	口径: (17.6) 器高: △3.1	口縫部 1/6	外: 7.5YR8/2灰 内: 2.5Y5/1灰 内: 10YR8/1灰白	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面: 櫛描波状文、ハ ケ 内面: ヨコナデ、ハ ケ	
962 96	1328 方形周溝型	甕生土器	甕	口径: (14.4) 器高: △6.4	口縫部 1/6	外: 10YR7/2に△灰 内: 2.5Y5/1灰 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ 内面: ハケ、ナデ	

表4 遺物觀察表(34)

調査次数	検出回数	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考	
	963	1328 方形周溝器	弥生土器	甕	口径: [29.0] 底径: [14.3]	口縁部 1/6	外・断: 10YR8/3浅黄褐 内: 7.5YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、 長石、カオリナイト含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ、ハ ケ、ナデ		
	964	1328 方形周溝器	弥生土器	甕	口径: [35.6]	口縁部 1/8	外: 10YR7/3赤褐色 内: 10YR8/1灰白	φ3.5mm以下の石英、 長石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ハ		
	965	1328 方形周溝器	弥生土器	甕	口径: [25.2] 底径: [5.4]	口縁部 1/6	外・内: 10YR6/2灰黃褐色 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、 長石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ハ		
	966	1328 方形周溝器	弥生土器	甕	口径: [26.9] 底径: [4.6]	口縁部 1/6	外・断: 10YR8/3浅黄褐色 内: 10YR8/2灰白	φ3.5mm以下の石英、 長石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ハ、ナデ		
	967	1328 方形周溝器	弥生土器	甕	口径: [20.0] 底径: [6.8]	口縁部 1/6	外: 7.5YR7/2灰褐色 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ヨコナデ、ハケ、 ミガキ 内面: ハ、ナデ		
	968	1328 方形周溝器	弥生土器	甕	口径: [18.0] 底径: [6.2]	口縁部 1/6	外: 10YR3/1灰褐色 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ミガキ、ハケ		
	969	1328 方形周溝器	弥生土器	甕	口径: [26.0]	口縁部 1/4	外・断: 10YR8/3灰褐色 内: 10YR7/2に赤褐色	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ハ、ナデ		
	970	—	1328 方形周溝器	底盤	器高: [13.4]	外体: 5YR7/6暗 内・断: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、 長石、カオリナイト含む	外面: ハケ 内面: ナデ			
	971	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △5.2 底径: 6.8	外: 5YR8/3暗褐色 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、 長石含む	外面: ハ 内面: ナデ、ユビオサ 底面: 木葉			
	972	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △4.2 底径: 5.5	外: 5YR7/3赤褐色 内: 7.5YR5/1褐色 内: 7.5YR7/3に赤褐色	φ2mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ 内面: ナデ	底面: 木葉	
	973	98	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △3.8 底径: 5.4	底盤 完形	外: 2.5Y7/2灰黃褐色 内: 10YR8/3浅黄褐色	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ 内面: ナデ	底面: 木葉 底体: 穿孔 (約1.0cm)
	974	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △3.3 底径: 5.0	底盤 完形	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR7/2 内・断: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ、ナデ 内面: ナデ	
	975	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △1.9 底径: 5.4	底盤 完形	外: 10YR8/2灰黃褐色 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR7/3に赤褐色	φ2mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ 内面: ユビオサ 底面: 木葉	
	976	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △3.6 底径: (7.0)	底盤 完形	外: 5YR6/3L5赤褐色 内: 10YR8/2灰黃褐色 内: 7.5YR4/1褐色	φ3.5mm以下の石英、 長石含む	外・内面: ナデ	
	977	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △4.1 底径: 5.4	底盤 完形	外: 2.5Y7/2灰黃褐色 内: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ 内面: ナデ	底面: 木葉
	978	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △3.7 底径: (5.0)	底盤 完形	外: 10YR7/2に赤褐色 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ 内面: ナデ	底面: 木葉
	979	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △3.5 底径: (6.2)	底盤 完形	外: 2.5Y6/1前 内: 2.5Y8/1赤褐色 内: 10YR8/3浅黄褐色	φ3mm以下の石英、 長石含む	外・内面: 腐滅のため 不明	底面: 木葉
2016 —	980	98	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △5.3 底径: 5.8	底盤 完形	外・内: 2.5Y5W8/4赤褐色 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、 長石含む	外面: ハ 内面: ユビオサ 底面: 木葉	
	981	98	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △4.5 底径: (7.4)	底盤 完形	外・内: 10YR8/2灰白 内: 7.5YB8/3赤褐色	φ4mm以下の石英、 長石含む	外面: ハ 内面: ナデ	底面: 木葉
	982	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △3.3 底径: 4.6	底盤 完形	外・内: 2.5Y5/1灰褐色 内: 10YR8/1褐色	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ、ユビオサ 内面: ナデ	底面: 木葉
	983	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △4.5 底径: (5.6)	底盤 完形	外: 10YR8/2灰黃褐色 内: 10YR6/2灰黃褐色	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ 内面: ナデ	
	984	—	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △4.4 底径: 5.4	底盤 完形	外・内: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y8/1灰白	φ2mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ、ナデ、ユ ビオサ 内面: ナデ、ユビオサ 底面: 木葉	
	985	98	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △4.7 底径: 5.4	底盤 完形	外・内: 10YR8/2灰白 内: 2.5Y8/1灰白	φ2mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ、ナデ、ユ ビオサ 内面: ナデ、ユビオサ 底面: 木葉	
	986	98	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △4.2 底径: 5.8	底盤 完形	外: 10YR8/1褐色 内: 10YR8/1褐色 内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、 長石含む	外面: ハケ 内面: ナデ	底面: 木葉
	987	98	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △3.7 底径: 4.8	底盤 完形	外: 10YR8/1灰褐色 内: 2.5Y8/1灰白	φ3mm以下の石英、 長石含む	外・内面: ナデ	底面: 木葉
	988	98	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △3.2 底径: 5.5	底盤 4/5	外・断: 10YR8/2灰白 内: N5灰	φ4mm以下の石英、 長石、カオリナイト含む	外面: ハケ 内面: ナデ、ユビオサ 底面: 木葉	
	989	98	1328 方形周溝器	弥生土器	鉢	口径: [25.0] 底径: [5.3]	口縁部 1/8	外: 10YR6/1褐色 内: 2.5Y8/1灰白 内: 10YR7/2に赤褐色	φ1mm以下の石英、 長石含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ハケ、ナデ	
	990	98	1328 方形周溝器	弥生土器	高杯	器高: △5.8 底径: (17.2)	底盤 1/4	外: 7.5YB8/3赤褐色 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: ミガキ、ヨコナ 内面: ハ	
	991	98	1328 方形周溝器	弥生土器	高杯	器高: △3.8 底径: (11.8)	底盤 1/12	外: 2.5YR7/2灰褐色 内: 10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、 長石含む	外: ナデ、ミガキ、ヨコナ 内: ハ	
	992	98	1328 方形周溝器	弥生土器	高杯	器高: △4.7	脚柱部 完形	外: 2.5YR7/3赤褐色 内: N4灰	φ2mm以下の石英、 長石含む	外・内面: ナデ	
	993	98	1328 方形周溝器	弥生土器	底盤	器高: △2.7 底径: 3.2	底盤 完形	外: 10YR8/1褐色 内: 7.5YB6/1褐色 内: 17.5YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、 長石含む	外面: 腐滅のため不明 内面: ナデ、ユビオサ 底面: 木葉	
	994	98	903	弥生土器	底盤	器高: △6.3 底径: 7.2	底盤 完形	外: 7.5YR7/3赤褐色 内: 10YR8/1灰白	φ4mm以下の石英、 長石含む	外・内面: ナデ	

表4 遺物観察表(35)

遺物 番号	博物 館番 号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 算	備 考	
995	87	457 土坑	甕生 土器	広口壺	口径:119.0 腹高:12.4	口縁部 内:10YR8/8灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明			
996	99	457 土坑	甕生 土器	甕	口径:119.0 腹高:△9.4	口縁部 内:1/4	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ハケ			
997	-	457 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△11.4 底径:6.6	底部 内:10YR8/2灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ミガキ、ハケ、 子テ 内面:ナデ			
998	-	457 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△7.1 底径:7.6	底部 内:10YR8/2灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ナデ、ユビオサ エ			
999	99	457 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△3.8 底径:5.2	底部 内:10YR8/2灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉 痕		
1000	99	457 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△4.1 底径:5.0	底部 内:10YR8/2灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 痕		
1001	-	457 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△3.7 底径:6.0	底部 内:10YR8/2灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ミガキ、ナデ 内面:ナデ			
1002	-	457 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△3.7 底径:(8.8)	底部 内:10YR8/2灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ミガキ、ヨコナ デ、ハケ			
1003	-	457 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△3.6 底径:5.0	底部 内:10YR8/2灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ミガキ 内面:ナデ、ユビオサ エ			
1004	99	457 土坑	打製 石器	剥片	長さ:1.8 幅:3.2 厚さ:0.25	-	-	サメカイト	-	重量: 1 g	
1005	99	385 土坑	甕生 土器	広口壺	口径:(21.8) 腹高:△3.3	口縁部 1/8	外:2.5YR8/1灰白 内:10YR8/1灰白	外面:四線、ヨコナ デ、円形斜文、ハケ 内面:ヨコナデ、彌掛 斜文文、ナデ			
1006	99	385 土坑	甕生 土器	広口壺	口径:(26.4) 腹高:△2.4	口縁部 1/10	外:2.5YR8/1灰白 内:5YR7/4灰白、樹 皮:7.5YR8/4灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、四形 斜文 内面:ヨコナデ、彌掛 斜文文		
1007	99	385 土坑	甕生 土器	甕	口径:(35.2) 腹高:△5.5	口縁部 内:△5mm	外:10YR8/2 内:5YR7/4灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ヨコナデ		
1008	-	385 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△1.9 底径:6.5	底部 内:10YR8/2灰白	外:1mm以下の砂粒含む	外面:ナデ 内面:ヘラナデ			
1009	-	423 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△5.6 底径:6.0	底部 内:10YR8/2灰白	外:5mm以下の石英、長 石含む	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 痕		
1010	100	415 溝	甕生 土器	甕	口径:(15.6) 腹高:△6.1	口縁部 1/8	外:10YR8/2灰白 内:10YR8/3灰白	外:2mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ナデ		
1011	100	415 溝	甕生 土器	甕	口径:(19.0) 腹高:△4.1	口縁部 1/8	外:10YR8/3灰白 内:10YR8/2灰白	外:4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明		
1012	100	415 溝	甕生 土器	甕	口径:(11.6) 腹高:△10.1	口縁部 1/2	外:10YR5/1灰白 内:5YR7/6樹皮 内:5YR6/4灰白	外:7mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ		
1013	99	468 土坑	甕生 土器	ミニ 二子 土器	口径:3.1 腹高:4.5	定形 内:△5mm	外:7.5YR7/4 内:5YR8/3灰白	外:1mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ 内面:ナデ (0.3cm)		
1014	-	424 土坑	甕生 土器	甕	口径:10.6 腹高:5.6	口縁部 1/7	外:10YR5/1灰白 内:5YR7/6樹皮 内:5YR6/4灰白	外:2mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ		
1015	-	424 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△3.7 底径:6.6	底部 内:10YR8/4灰白 内:10YR8/3灰白 内:7.5YR8/3灰白	外:2mm以下の石英、長 石含む	外面:ミガキ、ナデ 内面:エコオサエ			
1016	-	424 土坑	甕生 土器	高杯	腹高:△4.4	杯部 内:10YR8/4灰白 内:10YR8/3灰白 内:7.5YR8/2灰白	外:3mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明			
1017	-	424 土坑	甕生 土器	高杯	腹高:△7.5	脚柱部 内:10YR8/4灰白 内:7.5YR8/3灰白	外:2mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、直線文 内面:ナデ、シボリ痕	円盤支填		
1018	84	424 土坑	打製 石器	磨石	長さ: 6.6 幅: 6.4 厚さ: 3.3	-	-	不明	-	重量: 201 g	
1019	87	877 土坑	甕生 土器	広口壺	口径:(24.1) 腹高:△11.5	口縁部 1/3	外:10YR7/4に△5mm 内:10YR8/3灰白	外:2mm以下の石英、長 石含む 内:ヨコナデ、ミガキ ナデ、ナデ、ユビオサエ	外面:ヨコナデ、ミガ キナデ 内面:ヨコナデ、ミガ キナデ、ナデ、ユビオサエ		
1020	-	877 土坑	甕生 土器	甕	口径:(20.0) 腹高:△4.7	口縁部 1/4	外:10YR7/3に△5mm 内:10YR8/2灰白	外:2mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ナデ、ナデ		
1021	-	877 土坑	甕生 土器	甕	口径:(18.4) 腹高:△6.9	口縁部 1/4	外:2.5YR8/1灰白 内:10YR8/2灰白	外:3.5mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ		
1022	-	877 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△2.7 底径:5.0	底部 内:10YR8/2灰白 内:10YR8/3灰白	外:4mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ			
1023	-	877 土坑	甕生 土器	底部	腹高:△10.9 底径:8.8	底部 内:10YR8/2灰白	外:4.5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ後ミガキ 内面:ナデ	底面:木葉 痕		
1024	100	1666 土坑	甕生 土器	甕	腹高:△11.2	体部 1/3	外:7.5YR8/2灰白 内:7.5YR7/3 内:△5mm	外:3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、彌掛直線 文、彌掛枝文、彌掛 斜文 内面:ナデ、ハケ		

2016  
-1

表4 遺物觀察表 (36)

測定次元	測定番号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	地土	調整	備考
	1025 100	1666 土坑	弥生土器	高杯	器高: △5.0 底径: (9.0)	脚部 1/2	外・内: 7.5YR7/4 内: 7.5YR8/3(赤黄相)	φ4mm以下の石英、クサリ隕を含む	外面部: ヨコナデ、円形 内部: ナデ 上面: ナデ 下面: ハケ	円形透かし 孔(Φ0.5cm)
	1026 -	1666 土坑	弥生土器	壺	口径: (24.6) 器高: △7.6	口縁部 1/8	外・断: 10YR7/2 内: 7.5YR6/2(赤)	φ1.5mm以下の石英、 長石を含む	外面部: ヨコナデ、タタ キ、ハケ 内部: ヨコナデ	
	1027 90	1666 土坑	磨製石器	石臼丁	長さ: (5.0) 幅: 3.4 厚さ: 0.5	-	-	粘板岩	-	重量: 13g
	1028 101	1700 土坑	弥生土器	壺	口径: (14.4) 器高: 29.6 底径: 6.8	1/2	外: 5YR7/4に似る相 内: 7.5YR8/4(赤黄相)	φ5mm以下の石英、長 石、クサリ隕を含む	外面部: ナデ 内部: ユビオサ 上面: ナデ	
	1029 -	2332 土坑	弥生土器	高杯	口径: (21.0) 器高: △7.3	深部 完形	男: 2.5YR6/6 内: 10YR8/3(赤黄相) 内: 10R9/6(赤)	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面部: 四隅、棒状突 起 上面: ナデ	
	1030 100	2360 土坑	弥生土器	壺	口径: (15.8) 器高: △9.4	口縁部 1/6	外: 10YR7/2に似る相 内: 10YR8/3(赤黄相)	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面部: ハケ、櫛織波状 上面: ヒビオサエ、ハ ケ	
	1031 -	593 潟	弥生土器	壺	口径: (19.0) 器高: △4.3	口縁部 1/6	外・内: 10YR8/3(赤黄相) 内: 10YR5/1(赤白)	φ3mm以下の石英、長 石、クサリ隕を含む	外面部: ヨコナデ、ミガ キ 内部: 壓滅のため不明	
	1032 -	593 潟	弥生土器	壺	口径: (16.8) 器高: △4.2	口縁部 1/6	外・断: 2.5YR7/4(赤黄相) 内: 2.5YR7/6(赤)	φ4mm以下の石英、長 石、クサリ隕を含む	外面部: ヨコナデ 内部: ヨコナデ、ハケ	
	1033 102	593 潟	弥生土器	壺	口径: (20.4) 器高: △11.9	口縁部 1/6	外: 2.5YR6/1(赤白) 内: 10YR8/2(赤白) 内: 10YR5/2(赤白)	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面部: ヨコナデ、ハケ 内部: ハケ	
	1034 -	593 潟	弥生土器	底部	器高: △2.4 底径: (8.2)	底部 1/2	外: 7.5YR7/2(赤白) 内: 10YR7/2に似る相 内: 10YR7/2に似る相	φ4mm以下の石英、長 石、クサリ隕を含む	外面部: ハケ、ミガキ 内部: ハケ	底面: 本葉 根
	1035 102	593 潟	弥生土器	底部	器高: △8.1 底径: 完形	底部 1/6	外・断: 10YR8/2(赤白) 内: 2.5YR7/2(赤白)	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ隕を含む	外面部: タタキ、ハケ、 ナデ 内部: 壓滅のため不明	底面: 木葉 根
	1036 102	48 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (36.0) 器高: △2.2	口縁部 1/6	外・内: 2.5YR/1(赤黄 相: 10YR8/2(赤)	φ2mm以下の砂粒を含む	外面部: 四隅、四形浮文 上面: ヨコナデ、ナデ 内部: 櫛織列点文	
	1037 102	48 土坑	弥生土器	広口壺	器高: △5.1	-	外・断・内: 2.5YR/2 赤白	φ1mm以下の石英を含む	外面部: ヨコナデ、円形 上面: ヨコナデ、ハケ 内部: 三ヨコナデ、櫛織 列点文	
	1038 102	48 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (26.0) 器高: △10.5	口縁部 1/3	外・断・内: 10YR8/2 赤白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面部: 四隅、ナデ 上面: ナデ、櫛織列点 文	
2016 -1	1039 102	48 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (25.0) 器高: △8.6	口縁部 1/3	外・断・内: 2.5YR/1 赤白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面部: ヨコナデ、ナデ 上面: ナデ、ユビオサ エ	
	1040 102	48 土坑	弥生土器	壺	器高: △5.4	-	外・断・内: 7.5YR8/2 赤白	φ2.5mm以下の石英、 長石を含む	外面部: ナデ、四線、 円形浮文 上面: ヨコナデ、ナ デ、ヨコナデ	
	1041 103	48 土坑	弥生土器	壺	器高: △7.0	-	外・断: 10YR8/1(灰白 内: 2.5YR/1(灰白)	φ1mm以下の長石、ク サリ隕を含む	外面部: 櫛織波状文、櫛 織列点文 上面: ヨコナデ 内部: ナデ、ユビオサ エ	
	1042 103	48 土坑	弥生土器	広口壺	器高: △9.4	脚部 1/6	外・内: 7.5YR7/4 内: 5.5YR7/4(赤白) 内: 7.5YR7/2(赤白)	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面部: 庄庭山形 上面: ナデ、ユビオサ エ	
	1043 103	48 土坑	弥生土器	広口壺	器高: △10.3	脚部 1/6	男: 7.5YR7/4に似る相 内: 10YR7/4(赤白) 内: 5.5YR7/4(赤白)	φ1.5mm以下の石英、 長石、チャート、ク サリ隕を含む	外面部: 庄庭突 上形 上面: ナデ、ユビオサ エ	
	1044 -	48 土坑	弥生土器	底部	器高: △4.5 底径: (7.2)	底部 1/3	外・内: 10YR8/2(赤白) 内: 7.5YR7/2に似る相 内: 7.5YR7/2(赤白)	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面部: タカキ、ナデ 上面: ナデ、ユビオサ エ、ヘ ラナデ	
	1045 -	48 土坑	弥生土器	底部	器高: △7.0 底径: (8.8)	底部 1/3	外: 7.5YR7/3に似る相 内: 7.5YR7/4 内: 5.5YR7/4(赤白)	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外・内面部: ナデ	
	1046 -	48 土坑	弥生土器	底部	器高: △4.4 底径: (6.0)	底部 完形	外: 10YR8/1(赤白) 内: 10YR8/2(赤白) 内: 10YR7/2に似る相 内: 7.5YR7/2(赤白)	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面部: ハケ、ナデ 上面: ナデ	
	1047 103	48 土坑	弥生土器	底部	器高: △5.8 底径: 7.6	底部 完形	外: 2.5YR/4(赤白) 内: 5.5YR7/6 内: 7.5YR7/3に似る相 内: 7.5YR7/3(赤白)	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面部: ナデ、ナデ 上面: ナデ、ユビオサ エ	
	1048 -	48 土坑	弥生土器	底部	器高: △4.4 底径: (10.0)	底部 1/3	外: 7.5YR7/3に似る相 内: 7.5YR7/4 内: 10YR7/2(赤白)	φ2mm以下の石英、長 石、チャートを含む	外面部: 壓滅のため不明 上面: ナデ、ユビオサ エ	
	1049 103	48 土坑	弥生土器	壺	口径: (28.0) 器高: △6.5	口縁部 1/3	外: N4/灰 内: N3/褐灰 内: 2.5YR/1灰白	φ7mm以下の石英、長 石を含む	外面部: ヨコナデ、庄庭 突上形、ナデ 上面: ヨコナデ、ナ デ、ユビオサエ	
	1050 101	48 土坑	弥生土器	壺	口径: (13.1) 器高: △11.9	口縁部 1/3	外: 10YR7/4に似る相 内: 10YR7/3に似る相 内: 2.5YR/1(黒褐)	φ2mm以下の石英、長 石、チャートを含む	外面部: ヨコナデ、タタ キ、ハケ 上面: ナデ、ナデ、ユビオサ エ	
	1051 -	48 土坑	弥生土器	底部	器高: △3.1 底径: 5.6	底部 完形	外: 10YR6/3に似る相 内: 10YR6/2(赤白) 内: 7.5YR8/2(赤白)	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面部: ナデ、ナ デ、ユビオサエ	
	1052 -	48 土坑	弥生土器	底部	器高: △2.7 底径: 5.8	底部 完形	外: 7.5YR8/4(赤白) 内: 7.5YR8/1(赤白) 内: 7.5YR8/2(赤白)	φ2mm以下の石英、長 石、クサリ隕を含む	外面部: 壓滅のため不明 上面: ナデ、ユビオサ エ	
	1053 -	48 土坑	弥生土器	底部	器高: △9.9 底径: 6.0	底部 完形	外: 10YR6/2に似る相 内: 10YR7/4に似る相 内: 10YR4/1(赤白)	φ4.5mm以下の石英、 長石を含む	外・内面部: ナデ	

表4 遺物観察表(37)

遺物次数	博物館番号	出土地	器種	断面	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
1054	-	48 土坑	甕生土器	底部	甕高:△2.3 底径:5.4 2/3	外:10Y8R/3黄褐 内:10Y8R/2灰白 脚部 内:2.5Y8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ 内面:ナデ	底面:木葉 痕	
1055	103	48 土坑	甕	蓋	甕高:△2.1	つまみ部 内:2.5Y8/1灰白	外:10Y8R/2灰白 内:10Y8R/1灰白	φ3.5mm以下の石英、長 石含む	外:ナデ 内面:ナデ	
1056	103	48 土坑	高杯	甕高	△6.1	脚柱部 底	外:10Y8R/2灰白 内:2.5Y8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外:ナデ 内面:ナデ	円盤充填
1057	103	48 土坑	高杯	甕高	△9.8	脚柱部 底	外:10Y8R/1灰白 内:2.5Y7/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外:ナデ 内面:ナデ	円盤充填
1058	103	48 土坑	甕生土器	高杯	甕高:△7.1 底径:7.6 2/3	脚柱部 内:2.5Y7/2灰白 内:2.5Y7/1灰白	外:7.5YR8/3黄褐 内:7.5YR7/3にぶい 黄	φ4mm以下の石英、長 石含む	外:ナデ 内面:ナデ ヨコナ 子	円盤充填
1059	103	48 土坑	甕生土器	高杯	甕高:△9.1	脚柱部 底	外:7.5YR7/2灰白 内:10Y8R/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外:感誠のため不明 内面:ナデ	
1060	103	48 土坑	甕生土器	高杯	甕高:△3.6 底径:(8.0) 1/3	甕部	外:9.5YR7/8灰 内:5YR7/6灰	φ3mm以下の石英、長 石、チャート含む	外:ミガキ、ナデ 内面:ナデ	
1061	103	48 土坑	甕生土器	器台	甕高:△12.0	体部 1/6	外:12.5YR6/6 内:5YR7/4にぶい 内:5YR7/6灰	φ8mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合含む	外:ヨコナデ、四線 文、ナデ 内面:ナデ、ヒビオサ 王	
1062	104	127 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(6.6) 底径:(3.7)	口縫部 内:10Y8R/1灰白	外:10Y8R/2にぶい 内:2.5Y4/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石、カシリ縫合含む	外・内面:ヨコナデ	
1063	104	127 土坑	甕生土器	広口壺	甕高:△3.0	-	外:10Y8R/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合含む	外:四線、円形浮文 内面:櫛刷列点文	
1064	104	127 土坑	甕生土器	水差	口径:(7.6) 底径:△6.5	口縫部 内:10Y8R/1灰白	外:10Y8R/1灰白 内:10Y8R/2灰黃褐	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合含む	外:四線 内面:感誠のため不明	
1065	104	127 土坑	甕	甕	口径:(20.2) 底径:△4.8	口縫部 内:5YR8/1灰白	外:10Y8R/3にぶい 内:10Y8R/3灰白	φ3.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合含む	外:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ヨコナデ	
1066	104	127 土坑	甕生土器	高杯	口径:(18.5) 底径:△2.8	口縫部 内:5YR8/1灰白	外:10Y8R/3にぶい 内:10Y8R/3灰白	φ3.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合含む	外・内面:感誠のため 不明	
1067	101	770 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(16.5) 底径:(10.6)	口縫部 内:10Y8R/2 灰白	外:10Y8R/2にぶい 内:10Y8R/2灰白	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ縫合含む	外:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ミガキ、ナデ ヒビオサ王	
1068	-	770 土坑	甕	甕	口径:(14.8) 底径:△3.1	口縫部 内:10Y8R/2 灰白	外:10Y8R/2灰白 内:7.5YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ヨコナデ、ナデ	
1069	-	770 土坑	甕生土器	底部	甕高:△2.8 底径:7.0 1/3	甕部 内:2.5Y7/1灰白	外:10Y8R/3にぶい 内:2.5Y8/2灰白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート含む	外:ナデ、ヒビオサ 王	
1070	-	770 土坑	甕生土器	底部	甕高:△5.3 底径:(5.2) 1/2	甕部 内:10Y8R/2灰白 10Y8R/4灰白	外:10Y8R/3にぶい 内:10Y8R/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:ヘラハケ 内面:ナデ	
1071	100	1629 土坑	甕生土器	高杯	甕高:△12.2 底径:△7.6	脚柱部 内:N3/暗緑	外:10Y8R/2にぶい 内:10Y8R/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石、カシリ縫を含む	外:ヨコナデ、ナ デ 内面:感誠のため不明	
1072	-	1665 土坑	甕	甕	口径:(33.0) 底径:△6.7	口縫部 内:10Y8R/2 灰白	外:7.5YR8/4灰白 内:10Y8R/3灰白	φ6mm以下の石英、長 石、縫を含む	外:四線、ハ ケ 内面:感誠のため不明	
1073	100	1920 土坑	広口壺	甕	口径:(18.0) 底径:△8.2	口縫部 内:10Y8R/2 灰白	外:7.5YR7/3にぶい 内:2.5Y8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石、カシリ縫を含む	外:ナデ 内面:感誠のため不明	
1074	-	2100 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(29.8) 底径:△10.4	口縫部 内:10Y8R/2 灰白	外:10Y8R/3にぶい 内:2.5Y8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石、カシリ縫を含む	外:円形浮文 内面:感誠のため不明	
1075	-	2100 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(18.8) 底径:△10.4	口縫部 内:10Y8R/2 灰白	外:5YR8/3灰 内:2.5Y8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:四線 内面:感誠のため不明	
1076	101	1632 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(21.0) 底径:△19.2	口縫部 内:10Y8R/2 灰白	外:10Y8R/1灰白 内:10Y8R/2灰白	φ4mm以下の辰石、ク サリ縫を含む	外:ヨコナデ、四 線文、ナデ 内面:ヨコナデ、櫛刷列 点文、ナデ	
1077	104	1632 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(21.0) 底径:△6.5	口縫部 内:10Y8R/2 灰白	外・内:10Y8R/2 灰白	φ4mm以下の辰石、長 石、カシリ縫を含む	外:ヘラハケ、ハ ケ 内面:ヨコナデ、櫛刷 列点文	
1078	101	1632 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(18.0) 底径:△14.8	脚柱部 内:5YR8/1 灰白	外・内:7.5YR7/3 にぶい	φ3mm以下の石英、長 石、カシリ縫を含む	外:ヨコナデ、櫛刷 列点文、ヨコナデ、櫛刷 列点文、ナデ	
1079	105	1632 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(20.0) 底径:△26.4	脚柱部 内:5YR8/1 灰白	外:7.5YR8/4灰白 内:7.5YR8/3灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外:ヨコナデ、四 線文、ナデ 内面:ヨコナデ、櫛刷 列点文	
1080	104	1632 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(24.4) 底径:△7.8	口縫部 内:5YR8/1 灰白	外:7.5YR7/3にぶい 内:10Y8R/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ヨコナデ、ナ デ 内面:ヨコナデ、櫛刷 列点文	
1081	104	1632 土坑	甕生土器	広口壺	口径:(20.0) 底径:△5.5	口縫部 内:5YR8/1 灰白	外:7.5YR7/3にぶい 内:10Y8R/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ヨコナデ、ナ デ 内面:ヨコナデ、櫛刷 列点文	
1082	105	1632 土坑	甕生土器	広口壺	口径:23.4 底径:40.1 7.6	脚柱部 内:5YR8/1 灰白	外・内:10Y8R/3 にぶい	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、カシリ 縫を含む	外:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ヨコナデ、ナ デ 内面:ヨコナデ、櫛刷 列点文、ハケ	

2016  
-1

表4 遺物觀察表 (38)

測量次数	井回 井番号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色 調	胎 土	調査	備考
	1083 101	1632 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (25.0) 最高: △16.3	口縁部 1/3	外: 7.5YR6/3に赤い褐 斯・内: 10YR8/2灰白	φ2mm以下の長石、ク サリ繩を含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、庄穂奈帶 内部: 褐風のため不明	
	1084 104	1632 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (27.2) 最高: △16.6	口縁部 1/4	外: 7.5YR7/3に5.1 斯・内: 10YR8/2灰白 内: 10YR6/3灰褐	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、庄穂奈帶 内部: ヨコナデ、ハケ	
	1085 105	1632 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (28.0) 最高: △34.4	口縁部 1/3	外: 7.5YR7/3に5.1 斯・内: 2.5YR/1灰白 内: 2.5YR/7灰褐	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ繩を含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、庄穂奈帶 内部: 四輪、ハケ、庄 穂奈帶 内部: ハケ、ユビオサ エ	胎体外面: 絵画
	1086 101	1632 土坑	弥生土器	壺	器高: △18.3 底径: 6.2	体部 完形	外: 7.5YR7/3に5.1 斯・内: 7.5YR7/3灰白 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、庄穂奈帶 内部: ユビオサエ、ハ ネ	外面: 保付 看
	1087 105	1632 土坑	弥生土器	広口壺	口径: (27.9) 最高: △17.8	口縁部 1/3	外: 2.5YR5/4に赤い赤 斯・内: 2.5YR/4灰赤 内: 7SR7/6褐	φ6mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、朝 日文 内部: 褐風のため不明	
	1088 106	1632 土坑	弥生土器	壺	口径: (18.4) 最高: △16.4	口縁部 1/8	外: 7.5YR7/3に5.1 斯・内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石、クサリ繩を含む	外面: ヨコナデ、タ カホセツ 内部: ハケ	
	1089 106	1632 土坑	弥生土器	壺	口径: (16.4) 最高: △6.3	口縁部 1/8	外: 7.5YR8/4浅黄 斯・内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、タ カホセツ 内部: ヨコナデ	口縁部外 面: 煙付者
	1090 106	1632 土坑	弥生土器	壺	器高: △14.5	体部 1/8	外・内: 5YR7/4に赤い 内: 5YR7/4灰白	φ3mm以下の長石、ク サリ繩を含む	外面: ナデ、四輪 内部: ナデ	四輪透かし 孔(φ2.4cm)
	1091 105	1632 土坑	弥生土器	壺	器高: △14.2 底径: (41.0)	脚部 1/6	外: 5YR8/4浅黄 斯・内: 7.5YR8/3灰赤 内: 2.5YR7/4灰赤	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ナデ、四輪 内部: ナデ	四輪透かし 孔(φ4.0cm)
	1092 106	1632 土坑	弥生土器	壺	器高: △8.8 底径: (11.0)	脚部 1/3	外: 7.5YR8/3浅黄 斯・内: 2.5YR1灰赤 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ナデ 内部: ヨコナデ	
	1093 106	1632 土坑	弥生土器	高杯	器高: △14.0	脚柱部 完形	外・内: 7.5YR7/4 内: 5YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ミガ キ 内部: ヨコナデ、ミガ キ、シボリ痕	円盤充填
	1094 106	1632 土坑	弥生土器	高杯	器高: △13.2	脚柱部 1/4	外: 10YR8/4浅黄 斯・内: 7.5YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ナデ、柳摺直線 文 内部: ナデ	
	1095 106	1632 土坑	弥生土器	高杯	器高: △10.2	脚柱部 2/3	外・内: 7.5YR7/4 内: 5YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石、黒雲母、クサリ 繩を含む	外面: ミガキ、四輪 内部: 板ナデ、シボリ 痕	
	1096 106	1632 土坑	弥生土器	台付 土器	器高: △6.8 底径: 7.8	台付 完形	外・内: 2.5YR6/6相 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ナデ、ヨコナ デ、ミガキ 内部: ナデ	
2016 -1	1097 -3	1632 土坑	弥生土器	壺	器高: 17.0	-	外・内: 10YR8/3灰黄 内: 10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チャートを含む	外面: ハケ 内部: ナデ	外面: 絵画
	1098 107	1632 土坑	磨製石器	石包丁	長さ: (7.0) 幅: 3.1 厚さ: 0.7	-	-	粘板岩	-	重量: 20 g
	1099 107	1632 土坑	磨製石器	大型始 刃石斧	長さ: (5.2) 幅: 3.7 厚さ: 2.6	-	-	-	-	重量: 74 g
	1100 107	1632 土坑	打削石器	石椎	長さ: (4.0) 幅: 1.3 厚さ: 0.6	-	-	-	-	重量: 3 g
	1101 107	2210 土坑	弥生土器	広口壺	器高: △14.6	脚部 1/3	外: 10YR8/3に赤い黄 内: 2.5YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ハケ、柳摺直線 文 内部: 褐風のため不明	
	1102 107	2210 土坑	弥生土器	壺	口径: (13.6) 最高: △11.3	口縁部 1/4	外: 10YR8/2灰白 内: 2.5YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ 内部: 褐風のため不明	
	1103 -	2210 土坑	弥生土器	壺	器高: (14.4) 底径: △4.2	口縁部 1/8	外: 10YR8/3黒鐵 内: 10YR8/3に赤い黄 内: 2.5YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内部: ヨコナデ、 ハケ	
	1104 109	2210 土坑	弥生土器	多孔土器	口径: (8.6) 最高: 7.5 底径: (3.0)	1/2	外・内: 7.5YR7/4 内: 5YR8/3灰白	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ユビ オサエ、ナデ、ハケ 内部: ヨコナデ	穿孔多数
	1105 109	2210 土坑	弥生土器	ミニア 土器	器高: △4.8 底径: 3.4	脚部 完形	外・内: 7.5YR8/3灰白	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面: ユビオサエ、ナ デ、ナデ、ユビオサ エ、ナデ	
	1106 107	2210 土坑	弥生土器	高杯	口径: (18.0) 最高: △4.6	口縁部 1/10	外: 2.5YR7/2灰 内: 2.5YR8/3灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ナ デ、ミガキ 内部: ヨコナデ、ナデ	
	1107 107	2210 土坑	弥生土器	高杯	器高: △6.2	脚部 2/3	外・内: 10YR7/3 内: 5YR8/3灰白	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面: ナデ、板ナ デ、ミコナデ 内部: ミガキ、ヨコナ デ、ナデ	円盤充填
	1108 109	2210 土坑	磨製石器	石斧	長さ: (5.5) 幅: 6.2 厚さ: 2.5	-	-	砂岩	-	重量: 147 g
	1109 -	1410 土坑	弥生土器	広口壺	口径: 21.2 最高: △11.8	口縁部 2/3	外・内: 10YR8/4 内: 5YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石、クサリ繩を含む	外面: ヨコナデ、ハ ケ、庄穂奈帶 内部: ヨコナデ、ユビ オサエ	
	1110 108	1414 土坑	弥生土器	壺	口径: (32.4) 最高: 49.1 底径: (11.0)	1/3	外・内: 7.5YR8/3 内: 5YR8/3 内: 5YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石、クサリ繩を含む	外面: ヨコナデ、タ カホセツ 内部: ヨコナデ、ハ ケ、ユビオサエ	

表4 遺物観察表(39)

測定次元	堆積層番号	出土場所	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	1111	-	1415 土坑 旁生 土器	鉢	口径:(37.5) 底高:△8.5	口縁部 1/3	外・内:7.5YR7/6橙 外:10YR8/3浅黄褐	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外:ヨコナデ、ハ ナデ、薄強波状文、繩摺 内:ナデ、ナゲ	
	1112	109	287 溝 旁生 土器	広口壺	口径:(18.2) 底高:△6.9	口縁部 1/4	外:2.5YR7/2灰白 内:2.5YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外:ヨコナデ 内:磨滅のため不明	
	1113	109	287 溝 旁生 土器	広口壺	口径:(18.4) 底高:△6.4	口縁部 1/6	外:10YR8/4浅黄褐 内:10YR8/2灰白	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1114	110	287 溝 旁生 土器	広口壺	口径:(13.4) 底高:△1.3	口縁部 1/6	外・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外・内面:ヨコナデ (φ0.3cm)	
	1115	109	287 溝 旁生 土器	広口壺	口径:(15.3) 底高:△4.9	口縁部 1/7	外:7.5YR8/3浅黄褐 内:10YR8/3浅黄褐	φ4mm以下の石英、長 石台合む	外・内面:ナデ (φ0.2cm)	
	1116	109	287 溝 旁生 土器	広口壺	口径:(38.0) 底高:△2.3	口縁部 1/10	外:5YR7/1灰白 内:5YR7/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外面:ヨコナデ、斜目 文、ナデ 内面:ナデ	
	1117	109	287 溝 旁生 土器	広口壺	口径:(22.8) 底高:△3.1	口縁部 1/6	外:10YR8/2灰白 10YR5/1灰白 内:10YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石台合む	外前:四線、ナデ。円 内:四線文 内面:ナデ	
	1118	109	287 溝 旁生 土器	広口壺	口径:(27.8) 底高:△4.8	口縁部 1/7	外:10YR8/2浅黄褐 10YR8/2灰白 内:7.5YR8/4浅黄褐	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外前:四線、円形浮文 内面:繩摺列点文	
	1119	110	287 溝 旁生 土器	壺	底高:△5.2	-	外:7.5YR8/6浅黄褐 7.5YR6/2灰白 内:7.5YR7/3にぶい相	φ6mm以下の石英、長 石台合む	外面:ナデ、庄庭突帯 内面:ナデ	
	1120	110	287 溝 旁生 土器	壺	底高:△5.3	-	外:7.5YR8/6浅黄褐 7.5YR6/2灰白 内:7.5YR7/3にぶい相	φ5mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外前:ナデ 内面:ナデ、庄庭突帯	
	1121	110	287 溝 旁生 土器	壺	底高:△7.0	-	外:7.5YR7/4灰白 内:10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外前:ナデ、庄庭突帯 内面:磨滅のため不明	
	1122	110	287 溝 旁生 土器	壺	底高:△5.8	-	外・内:10YR8/3 浅黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外面:ナデ、庄庭突帯 内面:磨滅のため不明	
	1123	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△20.4 底径:(16.0)	底部 1/4	外・内:7.5YR8/3 浅黄褐	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外面:ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1124	110	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△5.2 底径:△8.2	底部 完全	外:10YR8/1灰白 7.5YR8/3浅黄褐 内:N3灰白	φ5mm以下の石英、長 石台合む	外面:ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
2016 -1	1125	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△5.8 底径:△10.6	底部 2/3	外:10YR7/2 にぶい黄褐	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外前:ナデ 内面:ナデ、ミガキ、 ナデ、ユビオサ エ	
	1126	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△3.2 底径:△7.8	底部 1/3	外・内:10YR8/2 灰白	φ4mm以下の石英、長 石台合む	外・内面:ナデ	
	1127	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△7.0 底径:△8.0	底部 1/3	外・内:10YR8/2 灰白	φ4mm以下の石英、長 石台合む	外・内面:ナデ	
	1128	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△4.9 底径:△8.0	底部 完全	外・内:10YR8/2 灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉 裏
	1129	110	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△3.6 底径:△4.6	底部 完全	外・内:2.5YR7/2灰白 2.5YR3/1墨褐	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外面:ナデ、ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1130	110	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△3.7 底径:△7.6	底部 完全	外:7.5YR8/2灰白 内:2.5YR8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石台合む	外・内面:ナデ	底面:木葉 裏
	1131	111	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△4.6 底径:△9.4	底部 完全	外・内:10YR8/2灰白 10YR7/4にぶい黄褐	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外面:ミガキ 内面:ユビオサエ	
	1132	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△2.6 底径:△9.0	底部 完全	外・内:10YR8/3 浅黄褐	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉 裏
	1133	110	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△5.2 底径:△6.6	底部 完全	外・内:10YR8/2灰白 7.5YR8/3浅黄褐	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外面:ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1134	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△3.2 底径:△6.2	底部 完全	外:10YR8/29白 7.5YR8/3浅黄褐 内:10YR7/3にぶい黄褐	φ1.5mm以下の石英、長 石台合む	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1135	111	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△3.8 底径:△8.4	底部 完全	外:7.5YR8/3浅黄褐 7.5YR8/2灰白 内:7.5YR8/4浅黄褐	φ4mm以下の石英、長 石台合む	外・内面:ナデ	
	1136	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△5.2 底径:△7.6	底部 2/3	外:10YR8/2灰白 2.5YR1/1墨灰 内:2.5YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外面:ナデ 内面:磨滅のため不明	底面:木葉 裏
	1137	110	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△5.2 底径:△8.4	底部 完全	外:2.5YR8/1灰白 2.5YR8/1墨灰 内:2.5YR8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石台合む	外面:ミガキ、ナデ 内面:ナデ	
	1138	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△3.1 底径:△7.2	底部 2/3	外・内:2.5YR8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1139	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△3.2 底径:△8.0	底部 完全	外・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1140	-	287 溝 旁生 土器	底部	底高:△2.7 底径:△5.0	底部 完全	外・内:10YR8/4 浅黄褐	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ織合む	外面:磨滅のため不明 内面:ユビオサエ	

表4 遺物觀察表(40)

測定次数	標印番号	測定番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	1141	111	287 潟	弥生土器	甕	口径:△4.7 底高:△11.5	口縁部 1/6	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:ヨコナデ、 ナデ	
	1142	108	287 潟	弥生土器	甕	口径:△32.0 底高:△25.3	口縁部 1/3	外・断・内:2.5YR8/2 灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:ナデ	
	1143	111	287 潟	弥生土器	甕	口径:△35.0 底高:△7.4	口縁部 1/6	外:2.5YR8/2灰白 内:10YR5/1褐色 内:7.5YR7/4C灰白、4中	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ナデ、ハケ	
	1144	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.3 底径:△5.6	底部 2/3	外:10YR7/2にぶい黄 内:10YR8/2にぶい黄 内:10YR5/2灰黃褐	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ナデ、ユ ビオサエ 内面:ユビオサエ、ハ ケ	底面:木葉 痕
	1145	110	287 潟	弥生土器	底部	器高:△2.4 底径:△3.4	底部 完形	外:10YR6/2灰黃褐 内:2.5YR8/2灰白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ユビナデ、ナデ 内面:ナデ	
	1146	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.5 底径:△4.8	底部 完形	外:10YR8/2灰黃褐 内:10YR6/2灰黃褐	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外・内面:ナデ	
	1147	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.2 底径:△5.8	底部 完形	外:内・△:2.5YR8/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉 痕
	1148	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△2.1 底径:△5.2	底部 完形	外:10YR7/2にぶい黄 内:△:10YR6/2灰黃褐	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:磨滅のため不明	
	1149	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.1 底径:△5.2	底部 完形	外:2.5YR7/1灰白 内:10YR8/1灰白 内:2.5YR7/1赤系	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	底面:木葉 痕
	1150	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.0 底径:△9.2	底部 完形	外:2.5YR8/1灰白 内:7.5YR8/1灰白 内:10YR7/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1151	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.5 底径:△6.6	底部 1/2	外・断・内:2.5YR8/2 灰白	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ナデ、ユビオサ エ 内面:磨滅のため不明	
	1152	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.0 底径:△8.2	底部 完形	外:7.5YR8/2灰黃褐 内:10YR6/1褐色 内:2.5YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ 内面:ナデ	
	1153	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△5.4 底径:△6.2	底部 1/2	外:10YR8/2灰黃褐 内:10YR6/1褐色 内:2.5YR7/1灰白	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉 痕
2016 -1	1154	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△4.6 底径:△6.2	底部 完形	外:10YR8/3灰黃褐 内:10YR5/1褐色 内:10YR7/3にぶい黄 内:2.5YR7/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:磨滅のため不明	底面:木葉 痕
	1155	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.4 底径:△6.2	底部 2/3	外:2.5YR8/1灰白 内:2.5YR8/2灰白 内:2.5YR8/3にぶい黄 内:2.5YR8/4灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1156	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.8 底径:△5.4	底部 完形	外:内・△:2.5YR8/1灰白 内:N5灰	φ5mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	底面:木葉 痕
	1157	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△2.8 底径:△6.8	底部 完形	外:2.5YR8/1灰黃褐 内:2.5YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1158	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.4 底径:△5.2	底部 完形	外・断・内:2.5YR8/1 灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1159	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.0 底径:△5.0	底部 完形	外:10YR8/2灰白 内:2.5YR8/1灰白 内:2.5YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1160	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△2.9 底径:△5.6	底部 完形	外:10YR8/2灰白 内:2.5YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉 痕
	1161	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.3 底径:△5.8	底部 完形	外:10YR8/3にぶい黄 内:△:10YR7/3 内:△:2.5YR8/1	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外・内面:ナデ	
	1162	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.6 底径:△6.4	底部 完形	外・断・内:2.5YR8/1 灰白	φ3mm以下の石英、長 石、砂粒含む	外・内面:ナデ	
	1163	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.1 底径:△5.8	底部 完形	外:10YR7/3にぶい黄 内:△:10YR7/2 内:△:2.5YR8/1	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ	
	1164	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.3 底径:△5.6	底部 2/3	外:10YR8/3灰黃褐 内:△:10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1165	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△4.4 底径:△5.4	底部 完形	外:△:2.5YR7/2灰黃褐 内:△:10YR5/1褐色	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ	
	1166	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△4.2 底径:△4.8	底部 完形	外:△:4/4 内:2.5YR8/1灰白 内:△:2.5YR7/3△:5中	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ 内面:ハケ	
	1167	110	287 潟	弥生土器	底部	器高:△5.5 底径:△6.0	底部 完形	外:2.5YR8/1灰白 内:2.5YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ミガキ、ナデ 内面:ナデ	
	1168	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.7 底径:△6.0	底部 完形	外:10YR7/3にぶい黄 内:5YR6/4△:5中 内:△:10YR4/1褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ナデ、ケズリ 内面:ナデ	底面:穿孔 (ø1.5cm)
	1169	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△2.9 底径:△5.4	底部 完形	外:△:2.5YR7/2灰黃褐 内:△:2.5YR7/3△:5中 内:△:10YR7/3△:5中	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:ハケ	
	1170	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.5 底径:△5.0	底部 完形	外:△:2.5YR8/1灰白 内:△:10YR8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ミガキ 内面:ナデ	
	1171	111	287 潟	弥生土器	底部	器高:△5.2 底径:△6.4	底部 完形	外:△:2.5YR8/2灰白 内:△:2.5YR8/3灰白	φ6mm以下の石英、長 石、チャート含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1172	-	287 潟	弥生土器	底部	器高:△3.8 底径:△6.0	底部 完形	外:△:2.5YR7/2明灰 内:△:2.5YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	

表4 遺物観察表(41)

測定次元	標印番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	1173 112	287 潟	弥生土器	高杯	器高:△6.3	脚柱部 完全	外・断・内:2.5YR6/8稍 白	φ3mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面:ミガキ 内面:ナデ、シボリ痕	円盤左填
	1174 112	287 潟	弥生土器	高杯	器高:△4.8	脚柱部 完全	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ1.5mm以下の石英、 長石、チャート、ク サリ織合む	外面:ハケ 内面:シボリ痕、ナデ	円盤左填 円形透かし孔
	1175 112	287 潟	弥生土器	台付鉢	器高:△11.3 底径:27.5	台部 1/10	外・内:2.5Y7/2灰黄 断・2.5Y7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ミガキ、 ナゲ	円形透かし孔
	1176 112	287 潟	弥生土器	鉢	口径:(37.4) 底径:(4.7)	口縁部 1/10	外・内:10YR8/2灰白 断・10YR6/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ヨコナデ、突 崩、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	1177 112	287 潟	弥生土器	鉢	口径:(36.3) 底径:△8.0	口縁部 1/12	外・内:2.5Y7/2灰白 断・2.5Y8/2灰白	φ2mm以下の砂岩含む	外面:ナデ、四線 内面:ナデ	
	1178 112	287 潟	弥生土器	鉢	口径:(30.5) 底径:△10.8	口縁部 1/3	外・内:2.5Y7/2灰白 断・2.5Y8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	1179 112	287 潟	弥生土器	高杯	器高:△9.2 底径:11.2	脚柱部 2/3	外・内:10YR8/4 浅黄褐色	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、金 星、クサリ織合む	外面:ハケ、ヨコナデ 内面:シボリ痕、ナデ	円形透かし孔
	1180 -	287 潟	弥生土器	高杯	器高:△5.7 底径:(16.8)	脚柱部 1/6	外・内:2.5Y8/2灰白 断・内:2.5Y8/3灰白	φ6mm以下の石英、長 石、チャート含む	外・内面:ナデ	
	1181 112	287 潟	弥生土器	高杯	器高:△5.8 底径:(16.6)	脚柱部 1/4	外・内:7.5YR8/4淡黄褐 断・N5灰	φ1mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面:ナデ、ハケ、ヨ コナデ 内面:ナデ	
	1182 112	287 潟	弥生土器	高杯	器高:△5.6 底径:(12.0)	脚柱部 1/6	外:10YR7/1灰白 断:10YR8/2灰白 内:10YR6/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1183 110	287 潟	打製石器	刮削器	長さ:△5.5 幅:△2.2 厚さ:△0.9	-	-	サヌカイト	-	重量:46g
	1184 110	287 潟	土製品	不明	長さ:(△5) 幅:(△2) 厚さ:(△0.5)	-	外・内:2.5YR7/1 明赤	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:刺突文? 内面:磨滅のため不明	
	1185 113	288 潟	弥生土器	広口壺	口径:(23.6) 底径:△3.8	口縁部 1/6	外:10YR7/1灰白 内:7.5YR8/4淡黄褐 内:2.5Y7/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:凹盤 内面:磨滅のため不明	
	1186 113	288 潟	弥生土器	広口壺	器高:△2.7	-	外・内:10YR8/3淡黄褐 内:N3灰褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:門刺、刺突文, 横状浮文 内面:ユビオサエ	
	1187 113	288 潟	弥生土器	広口壺	器高:△2.9	-	外:2.5Y8/1灰白 内:2.5Y8/2灰白 内:10YR7/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:押仄、ヨコナデ 内面:ヨコナデ	
2016 -1	1188 113	288 潟	弥生土器	壺	器高:△5.2	-	外・内:10YR8/3淡黄褐 内:N3灰褐色	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、櫛彫直線 内面:ヨコナデ	
	1189 113	288 潟	弥生土器	無頭壺	口径:(13.0) 底径:△4.8	口縁部 1/7	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ヨコナデ 内面:磨滅のため不明	穿孔 (φ0.8cm)
	1190 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△4.3 底径:9.0	底部 1/2	外・内:10YR8/2灰白 内:7.5YR8/4灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ 内面:ユビオサエ	底面:木葉 面
	1191 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.7 底径:10.0	底部 2/3	外:7.5YR8/4淡黄褐 内:5Y5/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1192 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.7 底径:7.2	底部 完全形	外:2.5Y8/1灰白 内:10YR8/2灰白 内:2.5Y6/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ	
	1193 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.5 底径:7.4	底部 1/4	外・断・内:2.5Y8/1 灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1194 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.5 底径:7.5	底部 完全形	外・断・内:2.5Y8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ナデ 内面:磨滅のため不明	
	1195 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.7 底径:7.8	底部 1/2	外・断:10YR8/2灰白 内:10YR7/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	男・内面:ナデ	
	1196 113	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.0 底径:8.6	底部 完全形	外・断:10YR8/2灰白 内:10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:ユビオサエ	底面:木葉 面
	1197 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.0 底径:8.4	底部 完全形	外・断:10YR8/2灰白 内:2.5Y8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ	底面:木葉 面
	1198 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.9 底径:4.6	底部 完全形	外:2.5Y8/4淡黄褐 内:10YR8/3淡黄褐 内:10YR7/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ハケ 内面:ユビオサエ	
	1199 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△2.2 底径:4.6	底部 完全形	外:2.5YR7/4淡黄褐 内:2.5YR7/3淡黄褐 内:2.5YR8/2灰白	φ6mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1200 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△4.0 底径:4.8	底部 2/3	外:7.5YR8/3淡黄褐 内:10YR8/1灰白	φ7mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ 内面:ユビオサエ	底面:木葉 面
	1201 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△2.2 底径:5.6	底部 2/3	外・断:7.5YR8/4淡黄褐 内:10YR5/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ	
	1202 -	288 潟	弥生土器	底部	器高:△7.5 底径:7.0	1/2	外:7.5YR8/4淡黄褐 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ	
	1203 113	288 潟	弥生土器	底部	器高:△3.3 底径:5.4	底部 完全形	外:2.5Y8/1灰白 内:10YR8/2灰白 内:10YR8/3灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ 内面:ナデ	穿孔 (φ1.0cm)
	1204 113	288 潟	弥生土器	高杯	器高:△9.3	脚柱部 完全形	外:10YR7/2灰白 内:10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:磨滅のため不明 内面:ユビオサエ、シ ボリ痕、ナデ	

表4 遺物觀察表(42)

測量次数	博団 博団 番号	測量 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	1205	113	288溝	弥生 土器	高杯	器高:△5.3 底径:(13.8)	口縁部 1/3	外:10YR5/1褐色 内:5YR1/灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ヨコナデ 内面:ナデ	
	1206	113	607溝	弥生 土器	広口壺	器高:△5.4	口縁部 1/10	外:10YR8/3浅黄褐 内:10YR8/2灰白	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、朝日 内面:ナデ	
	1207	113	607溝	弥生 土器	壺	器高:△9.2	腹部 1/3	外:10YR9/2灰黃褐 内:10YR8/1褐色 内:7.5YR7/4C-5I-4V	φ1mm以下の長石、長 石含む	外面:ハケ、ミガキ 内面:ハケ	
	1208	113	607溝	弥生 土器	広口壺	器高:△18.0 底径:△15.1	口縁部 1/6	外:10YR8/2灰白 内:10YR8/3浅黄褐	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ 内面:ユビオサエ	
	1209	114	607溝	弥生 土器	広口壺	器高:△6.2 底径:△3.4	口縁部 1/6	外:7.5YR8/3浅黄褐 内:7.5YR5/1褐色	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、朝日 内面:ヨコナデ	
	1210	114	607溝	弥生 土器	壺	器高:△13.6 底径:△3.7	口縁部 1/8	外:10YR8/1褐色 内:10YR8/2灰白 内:7.5YR5/2灰褐	φ4mm以下の石英、長 石、カサリ隕含む	外・内面:ヨコナデ、 ナデ	
	1211	-	607溝	弥生 土器	底部	器高:△10.3 底径:(10.2)	底部 1/3	外:10YR7/7に似る、黃褐 内:10YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ミガキ、 ナデ、ユビオナデ 内面:ナデ	底面:木葉 根
	1212	114	607溝	弥生 土器	底部	器高:△7.4 底径:△1.2	底部 1/2	外:5YR6/1灰 内:10YR7/6に似る、黃褐	φ3.5mm以下の石英、 長石含む	外面:ハケ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1213	-	607溝	弥生 土器	底部	器高:△2.4 底径:(10.4)	底部 1/2	外:10YR8/2灰白 内:10YR8/2灰白 内:2.5YR8/2灰白	φ3.5mm以下の石英、 長石含む	外面:磨滅のため不明	底面:木葉 根
	1214	-	607溝	弥生 土器	底部	器高:△3.5 底径:(5.8)	底部 1/3	外:5Y4/1灰 内:10YR7/2に似る、黃 白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ	底面:木葉 根
	1215	-	607溝	弥生 土器	底部	器高:△3.0 底径:(4.8)	底部 1/3	外:2.5Y/1灰黃 内:10YR8/2灰白 内:2.5Y/2灰黃	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ユビオナデ	
	1216	-	607溝	弥生 土器	底部	器高:△2.1 底径:△5.4	底部 完形	外・内:10YR7/2に似る、 灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉 根
	1217	-	607溝	弥生 土器	底部	器高:△3.0 底径:△6.4	底部 完形	外:2.5Y/4/1灰 内:10YR8/2灰白 内:7.5YR8/2灰白	φ1mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
2016-1	1218	-	607溝	弥生 土器	底部	器高:△4.6 底径:(9.4)	底部 1/2	外:10YR7/3に似る、黃褐 内:2.5YR/2灰白 内:N5灰	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:磨滅のため不明	
	1219	-	607溝	弥生 土器	底部	器高:△5.2 底径:(6.8)	底部 1/2	外:7.5YR7/3に似る 内:10YR8/3浅黄褐 内:N5灰	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ミガキ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 根
	1220	114	607溝	磨製 石器	石臼丁	器高:△12.6 底径:△5.5 厚さ:△0.6	-	-	粘板岩	-	重量:67g
	1221	114	880溝	弥生 土器	広口壺	器高:△2.3 底径:△5.2	口縁部 1/10	外・内:10YR7/3 に似る、黃褐 内:10YR8/2浅黄褐	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ヨコナデ、 ミガキ	
	1222	114	880溝	弥生 土器	広口壺	器高:△2.7 底径:△12.9	口縁部 1/4	外:10YR8/3浅黄褐 内:2.5YR/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、櫛端 直線文、内面:ハケ	
	1223	108	880溝	弥生 土器	広口壺	器高:△21.8	腹部 1/3	外:7.5YR7/3に似る、 内:2.5YR8/2灰白 内:7.5YR7/4C-5I-4V	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、櫛端直 線文、内面:ミガキ、ハ ケ	
	1224	114	880溝	弥生 土器	無縁壺	器高:△16.0 底径:△7.0	口縁部 1/8	外:10YR8/1褐色 内:10YR8/3浅黄褐 内:10YR8/1褐色	φ1mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1225	-	880溝	弥生 土器	底部	器高:△10.3 底径:(7.2)	底部 1/3	外・内:10YR7/2 に似る、黃褐 内:10YR8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ユビオサエ、ナ デ	底面:木葉 根
	1226	-	880溝	弥生 土器	底部	器高:△4.8 底径:(8.0)	底部 1/3	外・内:10YR8/1褐色 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ミガキ、ナデ 内面:ユビオナデ	
	1227	-	880溝	弥生 土器	底部	器高:△3.9 底径:△7.4	底部 完形	外:10YR8/2灰白 内:2.5Y/7/1灰白 内:10YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1228	-	880溝	弥生 土器	底部	器高:△2.0 底径:△5.4	底部 完形	外:2.5Y/7/1灰白 内:2.5YR7/4C-5I-4V	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ	底面:木葉 根
	1229	-	880溝	弥生 土器	底部	器高:△3.1 底径:△5.2	底部 完形	外:7.5YR7/3に似る、 内:2.5YR8/3浅黄褐 内:10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	底面:木葉 根
	1230	-	880溝	弥生 土器	底部	器高:△3.2 底径:△5.0	底部 完形	外:2.5YR8/3浅黄褐 内:2.5YR8/2灰白 内:10YR8/1褐色	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ隕含む	外・内面:ハケ、ナデ、ユ ビオサエ、ナデ	
	1231	-	880溝	弥生 土器	底部	器高:△3.7 底径:△7.4	底部 2/3	外:10YR8/3浅黄褐 内:2.5Y/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ隕含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1232	-	880溝	弥生 土器	底部	器高:△4.2 底径:(4.8)	底部 1/2	外:10YR8/3浅黄褐 内:10YR8/2灰白 内:2.5Y/7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1233	114	880溝	弥生 土器	高杯	器高:△4.9 底径:△6.8	腹部 完形	外・内:10YR8/3浅黄褐 内:5Y/1灰	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ヨコナデ 内面:ナデ、ボリ 根、ヨコナデ	
	1234	114	880溝	弥生 土器	高杯	器高:△3.4 底径:△6.6	腹部 完形	外・内:10YR8/2灰白 内:2.5Y/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ	

表4 遺物観察表(43)

調査次数	地番	面番号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残存	色 調	胎 土	調 整	備考
1235	108	880溝	弥生土器	高杯	腰高:△15.1 底径:△6.0	脚部 2/3	外:10YR7/3に△5.4 内:10YR8/3灰黄	φ7mm以下の石英、長 石、粗砂を含む	外面:ヨコナデ、凹線 内面:シリヤリ痕		
1236	108	880溝	石製品	台石	長さ:38.2 幅:12.3 厚さ:△15.0	—	—	砂岩	—	重量: 8kg	
1237	116	1444溝	弥生土器	織目壺	口径:△14.0 腰高:△9.4	口縁部 2/3	外・断・内:10YR8/3 浅黄	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、ナ ラ・波状、凹線 内面:ヨコナデ	縦割	
1238	115	1444溝	弥生土器	壺	腰高:△6.7	頭部 1/4	外:5YR7/6相 内:7.5YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、突 堤、凹線、織目壺 内面:碧誠のため不明		
1239	116	1444溝	弥生土器	広口壺	口径:△18.6 腰高:△12.6	口縁部 2/3	外:5YR8/3相 内:5YR4/4灰灰 5YR7/4△5.4相	φ1mm以下の粗砂を含 む	外面:ヨコナデ、円形 溝文、突堤、ナラ・波 状、縦割		
1240	115	1444溝	弥生土器	広口壺	口径:△12.2 腰高:△6.3	口縁部 1/2	外:10YR5/2灰灰相 内:10YR8/2△5.4相 7.5YR6/3△5.4相	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、凹 線、ハケ		
1241	115	1444溝	弥生土器	広口壺	口径:△23.5 腰高:△7.8	口縁部 1/2	外・断・内:2.5YR8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外・内面:碧誠のため 不明		
1242	—	1444溝	弥生土器	壺	腰高:△12.4	頭部 1/4	外:7.5YR8/4灰黄 内:7.5YR8/3灰黄	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:广泛空窓 内面:碧誠のため不明		
1243	115	1444溝	弥生土器	壺	口径:△6.0 腰高:△5.6	口縁部 1/6	外:5YR6/1灰いし相 内:5YR5/1灰灰 5YR4/4相	φ4mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:碧誠のため不明 内面:ハバ		
1244	115	1444溝	弥生土器	高杯	口径:△22.4 腰高:△6.2	杯部 2/3	外:5YR8/4相 内:7.5YR8/1△灰白	φ2mm以下の長石、ク サリ繩を含む	外面:凹線 内面:碧誠のため不明		
1245	116	1444溝	弥生土器	高杯	腰高:△13.3 底径:△13.6	脚部 元形	外:2.5YR8/2△灰 内:2.5YR8/1灰灰 7.5YR8/2△灰	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:碧誠のため 不明 円盤充填		
1246	115	1444溝	弥生土器	高杯	腰高:△9.0 底径:△10.0	脚部 1/3	外:5YR8/4淡相 内:5YR8/2△相 5YR8/3相	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外・内面:碧誠のため 不明		
1247	115	1444溝	打製石器	石歯	長さ:△2.2 幅:△1.8 厚さ:△0.5	—	—	サヌカイト	—	重量: 2 g	
1248	115	1444溝	磨製石器	石刮削器	長さ:△1.3 幅:△0.8 厚さ:△0.8	—	—	綠泥片岩	—	重量: 69 g	
1249	117	1320方形網溝	弥生土器	広口壺	口径:△9.2 腰高:△2.0	口縁部 2/3	外:10YR6/2灰黄 内:△5.4黄	φ1mm以下の石英、長 石、金雲母、カサリ 繩を含む	外・内面:ヨコナデ (φ0.4cm)		
1250	117	1320方形網溝	弥生土器	広口壺	口径:△17.6 腰高:△2.5	口縁部 1/6	外・断・内:10YR8/2 灰白 内:7.5YR7/4△5.4相	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ヨコナデ、凹 線、突堤、ナラ・波 状		
1251	117	1320方形網溝	弥生土器	広口壺	口径:△16.8 腰高:△2.0	口縁部 1/6	外:10YR6/2灰黄 内:10YR8/3△灰黄 10YR7/4△5.4相	φ3mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ヨコナデ、ナ ダ 内面:ヨコナデ、縦割 別立点文、ナダ		
1252	117	1320方形網溝	弥生土器	広口壺	口径:△24.0 腰高:△4.0	口縁部 1/8	外:10YR6/2灰黄 内:7.5YR8/3△灰黄 10YR4/1△灰	φ3mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ヨコナデ、ナ ダ 内面:碧誠のため不明		
1253	117	1320方形網溝	弥生土器	広口壺	口径:△25.8 腰高:△4.8	口縁部 1/3	外・断・内:10YR7/3 △5.4黄	φ3mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	内・外面:ヨコナデ ナダ		
1254	117	1320方形網溝	弥生土器	広口壺	腰高:△7.4	頭部 1/8	外:10YR6/2灰黄 内:7.5YR8/2△5.4相 5YR7/4△5.4相	φ3mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ハケ、直面突 堤、ナダ 内面:ヨビオサエ、ナ ダ		
1255	117	1320方形網溝	弥生土器	広口壺	腰高:△8.1	頭部 1/6	外:10YR6/2灰黄 内:7.5YR7/4△5.4相 10YR5/2灰黄	φ4mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ナダ、突 堤 内面:ナダ		
1256	117	1320方形網溝	弥生土器	壺	腰高:△9.9	外・内:10YR7/3 △5.4黄 10YR8/3△灰黄	φ1mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ハケ、ミガキ、 縦割直面文、縦割洗 状文、ヨビオサエ、ナ ダ	外面:蝶貝		
1257	117	1320方形網溝	弥生土器	壺	腰高:△8.4	—	外:10YR7/3に△5.4 黄 内:10YR8/3△灰黄	φ2mm以下の石英、長 石、チャートを含む	外面:縦割洗状文、凹 線		
1258	117	1320方形網溝	弥生土器	壺	腰高:△17.7	—	外:△2.5YR7/3相 内:△2.5YR7/2灰黄	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ハケ、縦割直 面文、ケズリ 内面:ハバ	外面:蝶貝	
1259	117	1320方形網溝	弥生土器	無柄壺	腰高:△3.4	底部 2/3	外・内:10YR7/2 △5.4黄 10YR8/3△灰黄	φ0.5mm以下の石英、長 石、チャートを含む	外面:ヨコナデ、縦割 洗状文、凹線		
1260	—	1320方形網溝	弥生土器	底部	腰高:△3.3 底径:△7.6	底部 2/3	外:△2.5YR7/2△5.4 黄 内:10YR8/3△灰黄	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、カサ リ繩を含む	外・内面:碧誠のため 不明		
1261	—	1320方形網溝	弥生土器	底部	腰高:△3.8 底径:△5.6	底部 1/7	外:△2.5YR7/4△5.4 黄 内:△2.5YR7/4△5.4 黄	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、カサ リ繩を含む	外面:ハバ 内面:ナダ	底面:木葉	
1262	—	1320方形網溝	弥生土器	底部	腰高:△3.2 底径:△5.0	底部 1/2	外:△2.5YR7/3△5.4 黄 内:10YR5/2△灰黄 10YR6/2△灰黄	φ3mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ハケ 内面:ナダ	底面:木葉	
1263	—	1320方形網溝	弥生土器	底部	腰高:△2.0 底径:△8.0	底部 2/3	外:△2.5YR7/4△5.4 黄 内:△2.5YR7/4△5.4 黄	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、カサ リ繩を含む	外面:ナダ 内面:碧誠のため不明		
1264	—	1320方形網溝	弥生土器	底部	腰高:△7.0 底径:△5.0	底部 1/3	外:△2.5YR7/3△5.4 黄 内:△5灰	φ4mm以下の石英、長 石、カサリ繩を含む	外面:ハケ 内面:ナダ	底面:木葉	

表4 遺物觀察表(44)

年度 次元	番号 出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	1265 - 万原周溝墓	弥生土器	底部	器高:△4.7 底径:6.0	外:10YR6/3に似る、黄褐色 内:10YR8/3浅黄褐色	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ハケ、ナデ 内面:磨滅のため不明		
	1266 - 万原周溝墓	弥生土器	底部	器高:△3.4 底径:△8.2	底部 1/4	外:7.5YR6/3に似る、褐 色 内:10YR6/4褐色	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:本葉 痕
	1267 116 万原周溝墓	弥生土器	底部	器高:△19.4 底径:△9.0	底部 1/4	外・内:10YR7/4 に似る、黄褐色 内:10YR8/3浅黄褐色	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ハケ、ミガキ、 ナデ 内面:ハケ	
	1268 - 万原周溝墓	弥生土器	底部	器高:△2.6 底径:6.0	2/3	外・断:10YR8/2灰白 内:10YR8/3浅黄褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ハケ、ヨコナ デ、ナデ 内面:ナデ	外面:保付 君
	1269 - 万原周溝墓	弥生土器	底部	器高:△2.4 底径:△5.4	底部 1/4	外:10YR6/5灰褐色 内:7.5YR7/3に似る、褐 色 内:10YR7/3に似る、黃 褐色	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外・内面:ナデ	
	1270 - 万原周溝墓	弥生土器	底部	器高:△2.2 底径:5.4	底部 2/3	外・内:10YR5/1褐色 内:7.5YR8/2褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:本葉 痕
	1271 - 万原周溝墓	弥生土器	底部	器高:△6.3 底径:△7.0	底部 1/3	外:7.5YR6/3に似る、褐 色 内:10YR7/2に似る、黃 褐色 内:10YR4/4褐色	φ2mm以下の石英、長 石、金雲母、クザ リ融合む	外面:ミガキ、ナデ 内面:ハケ	
	1272 - 万原周溝墓	弥生土器	裏	口径:△1.4 器高:△4.7	口縫部 1/10	外:10YR6/2灰褐色 内:7.5YR8/3灰黃褐色	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ヨコナデ 内面:磨滅のため不明	
	1273 116 万原周溝墓	弥生土器	裏	口径:△32.1 器高:△26.7	口縫部 1/4	外:7.5YR6/4灰褐色 内:7.5YR7/4 に似る、褐色	φ1.5mm以下の石英、 長石、チャート、ク ザリ融合む	外面:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ヨコナデ、ナ デ、ハケ	外面:保付 君
	1274 119 万原周溝墓	弥生土器	高杯	口径:△18.2 器高:△4.5	口縫部 1/6	外:N3/褐色 内:10YR8/3浅前縫 内:7.5YR7/2灰褐色	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ミガキ	
	1275 119 万原周溝墓	弥生土器	高杯	口径:△16.0 器高:△5.2	口縫部 1/6	外:7.5YR6/4に似る、褐 色 内:10YR8/3灰褐色 内:10YR7/4に似る、黃褐色	φ4mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面:ヨコナデ、ミ ガキ、ヨコナ デ、ハケ	
	1276 - 万原周溝墓	弥生土器	高杯	器高:△9.5	杯部 1/3	外・断:内:10YR8/2 灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ナデ、シリ リ重	
	1277 - 万原周溝墓	弥生土器	高杯	器高:△6.7	脚柱部 完全	外・内:10YR8/3灰黃褐色 内:10YR5/1褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ケズリ 内面:ナデ、シリ リ重、ケズリ	
2016 -1	1278 116 万原周溝墓	弥生土器	高杯	口径:△23.0 器高:△17.5	脚柱部 1/2	外・内:7.5YR7/4 に似る、褐色 内:10YR8/3灰黃褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ミガキ、四線、 刻文、洗模、シボリ 重、ヨコナデ	円形透かし 孔
	1279 116 万原周溝墓	弥生土器	高杯	器高:△12.2 底径:△9.0	脚柱部 1/3	外:10YR7/4に似る、黃褐色 内:10YR7/4に似る、黃褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面:ヨコナデ、ハ ケ 内面:ナデ、シリ リ重	円形透かし 孔
	1280 116 万原周溝墓	弥生土器	高杯	器高:△7.2 底径:△15.4	脚柱部 完全	外:7.5YR8/6浅黃褐色 内:7.5YR8/4灰黃褐色 内:10YR8/2褐色	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ 内面:ナデ	円形透かし 孔
	1281 - 万原周溝墓	弥生土器	高杯	器高:△3.4 底径:△12.4	脚柱部 1/2	外:10YR7/4灰白 内:10YR7/4灰白 内:10YR7/6褐色	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明	円形透かし 孔
	1282 116 万原周溝墓	弥生土器	高杯	器高:△7.3 底径:△8.6	脚柱部 完全	外・断:内:2.5Y7/2 灰褐色 内:7.5YR7/6褐色	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ヨコナデ、四線、 刻文、シボリ重、ケズ リ、ヨコナデ	
	1283 119 万原周溝墓	弥生土器	鉢	口径:△17.0 器高:△8.5	口縫部 2/3	外・断:内:10YR8/1 灰白	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ヨコナデ、四線、 刻文、シボリ重、ケズ リ、ヨコナデ	
	1284 119 万原周溝墓	弥生土器	器台	器高:△5.7 底径:△23.4	脚柱部 1/8	外:2.5Y7/2灰黃褐色 内:10YR7/1灰白 内:10YR1/1灰褐色	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、四線 内面:ナデ	
	1285 - 万原周溝墓	弥生土器	把手	器高:△2.4	-	外・断:内:10YR8/2 灰白	φ1mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面:ナデ	
	1286 - 万原周溝墓	弥生土器	底部	器高:△1.2 底径:△2.1	底部 完全	外・内:10YR7/3 に似る、黃褐色 内:10YR8/3灰黃褐色	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外・内面:ナデ	
	1287 119 万原周溝墓	打製石器	剥片	長さ:△4.3 幅:△1.85 厚さ:△0.45	-	-	サヌカイト	-	重量:3 g
	1288 118 406 土器相模	弥生土器	高杯	口径:△22.0 器高:△14.5	脚柱部 完全	外・断:2.5Y8/2灰白 内:7.5YR7/6褐色	φ2mm以下の石英含む 長石、チャート含む	外面:ナデ、ヨコナ デ、四線、ミガキ、 ナデ 内面:ミガキ、ナデ	円盤充填
	1289 118 406 土器相模	弥生土器	広口壺	口径:△19.6 器高:△33.9	ぼぼ完形	外:10YR7/4に似る、黃褐色 内:2.5Y7/2灰黃褐色 内:2.5Y6/1褐色	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:橢彫波状文、 橢彫直文、ミガキ、ナ デ 内面:ハケ	焼成後穿孔
	1290 118 1036 土器相模	弥生土器	底部	器高:△11.1 底径:△12.0	底部 完全	外:10YR8/3浅黃褐色 内:7.5YR7/6褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ハケ、ミガキ、 ナデ 内面:ハケ	
	1291 118 1036 土器相模	弥生土器	広口壺	口径:△21.5 器高:△39.3	ぼぼ完形	外・断:内:10YR7/3 に似る、黃褐色	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クザ リ融合む	外面:ヨコナデ、 橢彫直文、橢彫斜 文、ハケ、ミガキ、ナ デ 内面:ヨコナデ、橢彫 波状文、ハケ、ユビナ デ	
	1292 119 729 ピット	弥生土器	広口壺	口径:△19.7 器高:△2.6	脚柱部 1/6	外:7.5YR7/3に似る、褐 色 内:10YR8/2灰白 内:7.5YR7/4に似る、褐 色	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:椭文、四線、 刻文、洗模、ヨコナ デ、四線 内面:ナデ	
	1293 - 729 ピット	弥生土器	広口壺	口径:△7.3	脚柱部 1/4	外・断:10YR8/2灰白 内:10YR8/3浅黃褐色	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ナデ 内面:ナデ	

表4 遺物観察表(45)

測定次元	堆積層番号	出土場所	器種	器形	法度(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	1294 119	714 ピット	甕生土器	底部	底高:△0.7.2 底径:△0.2	底部 完全	外:SYR7/6相 内:SYR8/2灰黄相 内:7.5VR8/3灰黄相	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:ハケ	
	1295 -	735 土坑	甕生土器	底部	底高:△11.3 底径:△7.4	底部 完全	外:7.5VR8/4灰黄相 内:2.5VR8/1灰白 内:SYR8/1灰白	φ4mm以下の石英、長 石、クサリ織合む	外面:ハケ 内面:ナデ	
	1296 118	725 土坑	甕生土器	広口壺	口径:△25.9 底高:△8.9	口縁部 ほぼ完形	外:10YR7/2に△5.1、黄相 内:10YR8/3灰黄相	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ヨコナデ、門 限文、ミガキ、柳描波状 内面:ヨコナデ、柳描 波状文、柳描列点文、 ナデ	
	1297 119	725 土坑	甕生土器	広口壺	口径:△(23.0) 底高:△4.8	口縁部 1/6	外:10YR6/2灰黄相 内:10YR8/3灰黄相 内:10YR7/2に△5.1、黄相	φ3mm以下の石英、長 石、クサリ織合む	外面:ヨコナデ、門 限文、ハケ、円形浮文、 内面:ヨコナデ、柳描 波状文、柳描列点文、 ハケ	外面:深付 着
	1298 120	990 ピット	甕生土器	広口壺	口径:△(17.4) 底高:△1.0	口縁部 1/6	外:7.5VR8/4灰黄相 内:10YR8/2灰白	φ7mm以下の石英、長 石、織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1299 120	112 ピット	甕生土器	鉢	口径:△(23.0) 底高:△4.2	口縁部 1/10	外:5.5VR7/4に△5.1、青 内:10YR1/7.1灰 内:7.5VR7/4に△5.1、青	φ1mm以下の石英、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、門 限文、ミガキ 内面:ミガキ	
2016-1	1300 120	188 ピット	甕生土器	広口壺	口径:△(36.0) 底高:△5.1	口縁部 1/14	外・内:10YR5/3 内:△5.1、黄相	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ヨコナデ、門 限文、1回線、ナデ、 円形浮文 内面:ヨコナデ、ユビ オサエ	
	1301 -	491 ピット	甕生土器	鉢	口径:△(30.5) 底高:△3.9	口縁部 1/16	外・内:7.5YR7/4 内:△5.1	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1302 120	118 ピット	甕生土器	広口壺	口径:△(20.6) 底高:△7.9	口縁部 1/6	外:10YR5/2灰黄相 内:10YR7/3に△5.1、黄相 内:10YR7/2に△5.1、黄相	φ2mm以下の石英、長 石、クサリ織合む	外面:ヨコナデ、ナ デ、压痕交差 内面:ナデ	穿孔(Φ0.4cm)
	1303 -	478 ピット	甕生土器	無縁鉢	口径:△(15.0) 底高:△3.3	口縁部 1/12	外・内:2.5YR8/2 内:△4.8	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ヨコナデ、門 限文、磨滅のため不明	
	1304 118	9 ピット	甕生土器	底部	底高:△0.7 底径:△4.0	底部 完全	外・内:7.5YR8/4灰黄相 内:7.5YR7/4に△5.1、相	φ5mm以下の長石含む	外面:ヘラチデ、ナ デ、ユビオサエ	
	1305 -	229 ピット	甕生土器	底部	底高:△3.9 底径:△5.4	底部 1/2	外・内:10YR8/3 内:△4.8	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ヨコナ デ 内面:ハケ	
	1306 -	364 ピット	甕生土器	底部	底高:△6.2 底径:△5.8	底部 1/3	外:7.5YR7/4 内:△4.8	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1307 -	422 ピット	甕生土器	底部	底高:△2.9 底径:△7.8	底部 完全	外:10YR8/3灰黄相 内:△2.5YR7/4灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ユビオサ エ 内面:ナデ	
	1308 -	420 ピット	甕生土器	底部	底高:△1.9 底径:△7.5	底部 2/3	外:10YR8/3灰黄相 内:△2.5YR7/4灰白 内:10YR7/2△5.1、黄相	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ	
	1309 -	527 ピット	甕生土器	底部	底高:△3.0 底径:△4.4	底部 2/3	外:10YR8/3に△5.1、黄相 内:10YR8/3灰黄相 内:△2.5YR7/2灰	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1310 -	816 ピット	甕生土器	高杯	底高:△2.8	脚柱部 上端完形	外:外:10YR8/3灰黄相 内:7.5YR7/4に△5.1、相	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ミガキ、ヘラチ デ、直線文 内面:ミガキ	円形透かし孔
	1311 -	816 ピット	甕生土器	高杯	底高:△4.8 底径:△11.0	底部 1/8	外:2.5YR6/6相 内:2.5YR7/6相	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ 内面:ナデ	
	1312 -	512 ピット	甕生土器	底部	底高:△3.6 底径:△7.2	底部 2/3	外:10YR8/3灰黄相 内:7.5YR8/4灰黄相	φ4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1313 -	512 ピット	甕生土器	底部	底高:△6.1 底径:△5.6	底部 完全	外:10YR7/2K白 内:△4.8	φ6mm以下の石英、長 石含む	外面:磨滅のため不明 ナデ、ユビオサエ	
	1314 -	759 ピット	甕生土器	壺	底高:△4.4	-	外:内:10YR7/3 内:△5.1、相	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、斜格子文 内面:ハケ	
	1315 120	174 ピット	打製石器	刮削器	長さ:△3.9 幅:△4.5 厚さ:△1.05	-	-	サヌカイト	-	重量:27g
	1316 120	352 ピット	打製石器	刮削器	長さ:△6.2 幅:△6.1 厚さ:△1.4	-	-	サヌカイト	-	重量:31g
	1317 120	907 ピット	打製石器	刮削器	長さ:△6.3 幅:△5.8 厚さ:△0.8	-	-	サヌカイト	-	重量:8g
	-	128 滝	甕生土器	鉢	口径:△2.9 底高:△5.5	口縁部 1/8	外:7.5YR7/0相 内:10YR8/2灰黄相	φ1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:ヨコナデ、 ナデ	
	1318 -	128 滝	甕生土器	高杯	底高:△7.5 底径:△11.8	脚部 ほぼ完形	外:10YR6/4に△5.1、黄相 内:10YR6/3に△5.1、相	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ミガキ、 ヨコナデ、ナデ 内面:ハケケズリ、ヨ コナデ	
	1319 118	128 滝	甕生土器	高杯	底高:△5.5	脚部 2/3	外:10YR8/1灰白 内:7.5YR8/4灰黄相 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ 内面:ヒビオサエ、シ テリ痕	
	1320 -	128 滝	甕生土器	高杯	底高:△5.5	脚柱部 2/3	外:2.5YR7/0灰白 内:10YR5/2灰黄相	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ 内面:磨滅のため不明	底面:木葉
	1321 -	128 滝	甕生土器	底部	底高:△4.8 底径:△10.4	底部 1/4	外:2.5YR7/0灰白 内:10YR5/2灰黄相	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ 内面:磨滅のため不明	

表4 遺物觀察表(46)

測定次数	標印番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色 国	胎 土	調 算	備 考	
	1322	-	128溝	弥生土器	底部	器高:△3.5 底径:6.0	底部 はびき形	外:10YR8/3浅黄 断:内:10YR8/2灰白	約1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:ハケ	底面:木葉 痕
	1323	-	128溝	弥生土器	底部	器高:△2.9 底径:6.4	底部 完形	外・断:内:10YR8/2 灰白	約4mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉 痕
	1324	-	128溝	弥生土器	底部	器高:△10.3 底径:7.0	底部 完形	外:10YR7/4にぶい 黄褐色 内:2.5Y5/1黄灰	約2.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ミガキ 内面:ユビオサエ	
	1325	-	128溝	弥生土器	底部	器高:△6.1 底径:4.6	底部 完形	外・断:内:10YR8/2 灰白	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ、ユビオサエ	底面:木葉 痕
	1326	-	126溝	弥生土器	広口壺	口径:△11.8 器高:△7.4	口縁部 2/3	外・断:内:2.5Y8/2 灰白	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1327	-	126溝	弥生土器	底部	器高:△3.3 底径:5.4	底部 完形	外:10YR8/3浅黄 断:内:2.5Y7/1黄	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ヨコナ 子、ナデ	
	1328	-	470溝	弥生土器	広口壺	口径:△23.7 器高:△5.21	口縁部 1/6	外・内:1.75Y8/7/4 にぶい橙 内:10YR8/4浅黄	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1329	-	470溝	弥生土器	底部	器高:△3.5 底径:4.8	底部 1/3	外:5YR6/6稍 断:5.7Y7/4にぶい橙 内:10YR8/3にぶい黄褐色	約1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1330	120	470溝	打製石器	-	器高:△6.0 底径:2.45 厚さ:1.2	-	-	サヌカイト	-	重量:11g
2016-1	1331	-	471溝	弥生土器	底部	器高:△1.9 底径:4.4	底部 1/3	外・内:10YR5/3 にぶい黄褐色 断:△2.5Y4/1黄灰	約1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ナデ 内面:磨滅のため不明	
	1332	-	471溝	弥生土器	底部	器高:△5.7 底径:△(6.2)	底部 1/3	外:10YR8/3浅黄 断:内:10YR8/2灰白	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1333	121	471溝	打製石器	石礫	長さ:△4.55 幅:△1.75 厚さ:△0.45	-	-	サヌカイト	-	重量:2g
	1334	121	471溝	石製品	不明 石製品	長さ:△6.6 幅:△5.1 厚さ:△5.0	-	-	砂岩	-	重量:160g
	1335	-	534溝	弥生土器	広口壺	器高:△1.5	-	外:7.5YR7/4中相 断:10YR8/2灰白 内:10YR8/3浅黄	約1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:ヨコナデ 擦損状況、円形浮文	
	1336	-	534溝	弥生土器	底部	器高:△3.0 底径:△(5.6)	底部 1/3	外:5YR6/6稍 断:内:10YR6/3 にぶい黄褐色	約0.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1337	120	534溝	打製石器	片削	長さ:△5.2 幅:△2.8 厚さ:△1.1	-	-	サヌカイト	-	
	1338	-	428溝	弥生土器	直しない 直台	器高:△9.6	細部 1/6	外:10YR8/2灰白 断:10YR4/4浅黄 内:10YR8/1灰灰	約4mm以下の石英、長 石、石	外面:四線、斜交文 内面:ナデ、ユビオサエ	
	1339	-	256溝	弥生土器	底部	器高:△2.7 底径:△(5.6)	底部 1/3	外・断:内:10YR8/2 灰白	約1mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ナデ 内面:磨滅のため不明	
	1340	-	556溝	弥生土器	底部	器高:△4.1 底径:△(9.2)	底部 1/3	外:10YR8/4浅黄 断:内:10YR8/2灰黃 内:△10YR8/2灰黃	約1.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:ナデ	底面:木葉 痕
	1341	-	44土坑	弥生土器	底部	器高:△14.2 底径:△8.0	底部 完形	外・断:2.5YR6/5稍 内:△10YR8/4浅黄	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1342	-	209土坑	弥生土器	高杯	器高:△4.8	杯底部 完形	外・断:10YR8/3浅黄 内:7.5YR8/4浅黄	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ミガキ 内面:ナデ、シボリ痕	円盤充填
	1343	84	209土坑	打製石器	片削	長さ:△3.85 幅:△4.1 厚さ:△0.75	-	-	サヌカイト	-	重量:11g
	1344	-	409土坑	弥生土器	底部	器高:△2.9 底径:△(7.4)	底部 1/4	外:10YR7/4にぶい 黄褐色 △5YR7/3にぶい 黄褐色 内:10YR7/1灰白	約2mm以下の石英、長 石、石	外面:ハラナデ、ナデ 内面:ナデ	
	1345	-	410土坑	弥生土器	底部	器高:△3.5 底径:△5.8	底部 2/3	外:7.5YR7/4にぶい 黄褐色 △10YR8/2灰白 内:△10YR8/2灰白	約5mm以下の石英、長 石、石	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ	
	1346	-	410土坑	弥生土器	高杯	器高:△4.1 底径:△(12.2)	底部 1/4	外:7.5YR7/4にぶい 黄褐色 △10YR8/2灰白 内:△5YR7/4にぶい 黄褐色	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1347	-	410土坑	磨製石器	砥石	長さ:△(5.2) 幅:△(2.9) 厚さ:△(6.2)	-	-	砂岩	-	重量:21g
	1348	-	473土坑	弥生土器	底部	器高:△6.9 底径:△(14.8)	底部 1/2	外:10YR8/3浅黄 断:内:2.5Y8/2灰白	約2.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:磨滅のため不明	
	1349	-	473土坑	弥生土器	底部	器高:△3.7 底径:△5.8	底部 完形	外:10YR7/4にぶい 黄褐色 △10YR8/2灰白 内:△10YR8/2灰白	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:ユビオサエ	
	1350	-	473土坑	弥生土器	底部	器高:△3.2 底径:△4.2	底部 完形	外:2.5YR7/4にぶい 黄褐色 △10YR8/2灰白 内:△10YR8/2灰白	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハケ、ナデ 内面:ナデ	
	1351	-	544土坑	弥生土器	底部	器高:△1.6 底径:△4.2	底部 完形	外・断:10YR7/3 にぶい黄褐色 内:△4/4灰	約2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:ナデ	

表4 遺物観察表(47)

遺物次元	堆積層番号	回収番号	出土場所	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考	
	1352	-	544 土坑	旁生 土器	底部	高さ:△6.3 底径:(8.2)	底部 1/2	外・断:10YR8/4(黄褐色) 内:2.5Y5/1(黄灰)	φ2.5mm以下の石英、長石、チャート、クサリ織合む	外・内面:磨滅のため不明		
	1353	84	500 土坑	磨製 石器	石剣	長さ:△6.55 幅:△2.9 厚さ:0.6	-	-	粘板岩	-	重量:16g	
	1354	-	684 土坑	旁生 土器	底部	高さ:△9.3 底径:△8.6	底部 1/6	外:10YR8/2(灰白) 断:2.5Y8/2(灰白)	φ3mm以下の石英、長石、クサリ織合む	外面:ハケ 内面:ナデ、ユビオサ 底面:木葉		
	1355	-	933 土坑	旁生 土器	広口壺	口径:△13.9 高さ:△4.1	口径部 1/6	外:7.5YR8/3(黄褐色) 内:10YR8/2(灰白)	φ2mm以下の石英、長石含む	外面:織目波状、ヨコナデ、ナデ 内面:ナデ		
	1356	-	933 土坑	旁生 土器	底部	高さ:△4.9 底径:△6.6	底部 1/3	外・断:10YR8/3(黄褐色) 内:10YR6/2(黄褐色)	φ4mm以下の石英、長石含む	外・内面:ナデ		
	1357	120	打製 石器	剥片	長さ:△4.5 幅:△3.0 厚さ:0.85	-	-	サヌカイト	-	重量:6g		
	1358	-	800 土坑	旁生 土器	口縁部	口径:△16.0 高さ:△7.2	口縁部 1/3	外:10YR7/3(灰) 内:10YR8/2(灰白)	φ3mm以下の石英、長石含む	外面:ナデ、ハケ 内面:ナデ		
	1359	-	800 土坑	旁生 土器	底部	高さ:△5.7 底径:△3.4	底部 1/6	外:10YR5/2(灰褐色) 断:10YR8/2(灰白) 内:10YR6/2(灰褐色)	φ3.5mm以下の石英、長石含む	外面:ハケ 内面:ナデ 底面:木葉		
	1360	118	2050 旁生 土器	広口壺	口径:△15.2 高さ:△6.8 ほぼ完形	外・断:10YR8/2(灰白) 内:10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長石含む	外・内面:磨滅のため不明				
	1361	-	2050 旁生 土器	壺	口径:△30.8 高さ:△12.3	口径部 1/6	外:10YR8/2(灰白) 内:10YR8/2(灰白)	φ4mm以下の石英、長石含む	外面:ハケ 内面:磨滅のため不明			
	1362	-	660 溝	旁生 土器	底部	高さ:△4.4	-	外・断:10YR4/4(褐灰) 内:10YR5/2(灰褐色)	φ2mm以下の石英、長石含む	外面:織目波状、織目格子文 内面:ナデ		
	1363	90	1390 溝	打製 石器	石磚	長さ:△2.25 幅:△1.6 厚さ:0.4	-	-	サヌカイト	-	重量:2g	
	1364	90	985 溝	磨製 石器	柱状片 刃石斧	長さ:△6.0 (0.85) 幅:△3.75	-	-	粘板岩	-	重量:28g	
2016.1	1365	121	485 ビット	旁生 土器	多孔 底盤	高さ:△5.3 底径:△3.0	底部 1/3	外・断:10YR7/3 内:10YR6/2(灰褐色)	φ1mm以下の石英、長石、チャート、クサリ織合む	外・内面:ナデ 穿孔11個 残存		
	1366	121	1862 ビット	旁生 土器	鉢	口径:△17.4 高さ:△6.8	口径部 1/6	外・断:10YR8/3 内:10YR8/2(灰褐色)	φ3mm以下の石英、長石、クサリ織合む	外面:凹縫 内面:磨滅のため不明		
	1367	121	547 ビット	磨製 石器	石磚	長さ:△4.45 幅:△2.2 厚さ:0.35	-	-	片岩?	-	重量:3g	
	1368	122	2200 土坑	土師器	壺	高さ:△13.9	底部 完形	外:7.5YR4/1(灰褐色) 断:7.5YR7/2(灰褐色) 内:10YR4/1(灰)	φ2mm以下の粗砂を含む	外面:ミガリナ、ナデ 内面:ミガリナ、ナデ		
	1369	-	2200 土坑	須恵器	杯身	口径:△12.7 高さ:△3.8	1/8	外:NBG/6 内:7N/灰白	φ2mm以下の粗砂を含む	外面:回転ナデ、回転 内面:回転ナデ、ナデ	T K 43	
	1370	122	2200 土坑	須恵器	縦	高さ:△10.4	体部 完形	外・内:N5/灰 断:N6/灰	φ1mm以下の粗砂を含む	外面:ナデ 内面:ナデ、織目 縦縫 外面:回転ナデ、タタキ 内面:ナデ、織目 縦縫 外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	円孔 (φ1.4cm)	
	1371	-	588 溝	旁生 土器	底部	高さ:△3.8 底径:△6.4	底部 1/6	外:5Y7/1(灰) 断:7.5YR8/3(黄褐色) 内:2.5Y8/3(灰褐色)	φ5mm以下の石英、長石含む	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ、ユビオサ ナ		
	1372	-	588 溝	須恵器	杯蓋	口径:△14.4 高さ:△2.6	口径部 1/6	外:5Y5/1(灰) 断:5Y5/1(灰) 内:2.5Y8/1(灰褐色)	φ1mm以下の白色粗砂含む	外・内面:回転ナデ		
	1373	122	588 溝	須恵器	縦	口径:△16.5 高さ:△9.8	口径部 1/3	外:10YR7/2(灰) 断:2.5Y8/1(灰白) 内:N6/灰	φ3mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、タタキ 内面:ナデ、織目 縦縫 外面:回転ナデ、同心 円型 内面:回転ナデ	記号	
	1374	121	588 溝	打製 石器	剥片	長さ:△8.35 幅:△5.55 厚さ:0.85	-	-	サヌカイト	-	重量:54g	
	1375	121	588 溝	打製 石器	石磚	長さ:△4.9 幅:△2.1 厚さ:0.75	-	-	サヌカイト	-	重量:6g	
	1376	-	697 土坑	須恵器	杯蓋	口径:△4.0	口径部 1/4	外:NA/灰 断:7.5YR7/1(明灰) 内:6N/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ヘラケズ 内面:回転ナデ	T K 10~43	
	1377	122	697 土坑	須恵器	杯身	口径:△4.5 高さ:△4.5	完形	外・断:N7/灰 内:2.5Y7/1(灰)	φ3mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、回転 ヘラケズ 内面:回転ナデ	T K 10~43	
	1378	122	697 土坑	須恵器	杯身	口径:△4.2 高さ:△4.2	口径部 1/2	外・断・内:N7/灰白 内:2.5Y8/1(灰白)	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、回転 ヘラケズ 内面:回転ナデ	T K 10~43 底面:織目	
	1379	-	1360 溝	白磁	縦	高さ:△	-	外・内:5Y8/1(灰白) 内:2.5Y8/1(灰白)	密	外・内面:施釉		
	1380	90	1360 溝	打製 石器	石磚	長さ:△3.5 幅:△2.3 厚さ:0.9	-	-	サヌカイト	-	重量:8g	
	1381	122	包含層	旁生 土器	広口壺	口径:△27.1 高さ:△15.5	口径部 1/4	外:7.5YR7/4(灰) 断:2.5Y8/2(灰白) 内:10YR8/2(灰)	φ2mm以下の石英、長石含む	外面:ヨコナデ、斜口 内面:ナデ、織目直線文 内面:ヨコナデ、ナデ		

表4 遺物観察表(48)

測定次数	博物館番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色 調	胎 土	調査	備考	
	1382	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(14.8) 腹高:△13.1	口縁部 1/6	外・断:10YR8/2灰白 内:7.5YR8/3浅黄褐	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線、櫛描印文 内面:ユビオサエ、ナ カシテ	
	1383	122	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(17.6) 腹高:△5.9	口縁部 2/3	外:10YR8/3灰黄褐 断:10YR8/2灰白 内:2.5YR/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面:削付文 内面:磨滅のため不明	
	1384	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(20.9) 腹高:△8.2	口縁部 1/8	外:10YR8/3灰黄褐 断:10YR8/2灰白	φ3mm以下の粗砂を含 む	外面:ヨコナデ、庄痕 内面:ヨコナデ	
	1385	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(15.0) 腹高:△6.5	口縁部 1/8	外・断:10YR8/2 内:10YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、削付文 内面:ヨコナデ、ツブリテ	
	1386	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(20.6) 腹高:△15.5	口縁部 1/4	外・内:10YR8/2灰白 断:5YR8/4灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面:庄痕夷帶 内面:磨滅のため不明	
	1387	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(35.8) 腹高:△4.9	口縁部 1/6	外:10YR8/3灰黄褐 断:10YR8/2灰白 内:7.5YR7/3 灰白	φ6mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線、円形浮文 内面:磨滅のため不明	
	1388	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(36.0) 腹高:△3.5	口縁部 1/8	外・内:10YR8/2灰白 断:10YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線、円形浮文 内面:ナデ、櫛描印文	
	1389	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(25.0) 腹高:△10.1	口縁部 1/8	外・内:2.5YR/2灰白 断:NA/灰	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、四 線、円形浮文 内面:櫛描印文	
	1390	122	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(24.0) 腹高:△7.8	口縁部 1/2	外・断:10YR8/2 内:10YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線、円形浮文 内面:磨滅のため不明	
	1391	124	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(27.0) 腹高:△5.1	口縁部 1/8	外・内:7.5YR8/4灰黄褐 断:5YR/6灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、四 線、櫛描印文 内面:櫛描印文	
	1392	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(21.4) 腹高:△7.1	口縁部 1/6	外:10YR8/2灰黄褐 断:2.5YR8/6灰 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1393	123	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(25.7) 腹高:△8.6	口縁部 1/6	外・内:7.5YR8/3灰黄褐 断:10YR8/4灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線、ナデ 内面:ナデ	
	1394	124	包含層	弥生土器	広口壺	口径:(22.7) 腹高:△10.7	口縁部 1/4	外:5YR8/3灰白 内:7.5YR8/2灰黄褐	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1395	124	包含層	弥生土器	壺	口径:(32.4) 腹高:△9.1	口縁部 1/6	外:10YR8/3灰白 内:7.5YR7/2灰白	φ3mm以下の粗砂を含 む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1396	124	包含層	弥生土器	壺	口径:(32.9) 腹高:△9.1	口縁部 1/10	外・内:7.5YR8/3灰黄褐 断:10YR8/3灰白	φ3.5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ナデ、庄痕夷帶 内面:ナデ	
2016 -1	1397	124	包含層	弥生土器	壺	口径:(29.2) 腹高:△11.7	口縁部 1/12	外:7.5YR8/3灰黄褐 内:10YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1398	124	包含層	弥生土器	壺	口径:(34.0) 腹高:△10.9	口縁部 1/6	外:2.5YR/7灰白 内:2.5YR/8灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ハケ、ナデ	
	1399	124	包含層	弥生土器	壺	口径:(19.0) 腹高:△6.3	口縁部 1/4	外:10YR8/2灰白 内:10YR7/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ハケ、ヨコナ 内面:ナデ	
	1400	124	包含層	弥生土器	壺	口径:(23.4) 腹高:△13.0	口縁部 1/8	外・内:10YR8/3灰黄褐 断:10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1401	125	包含層	弥生土器	高杯	高杯:△5.7	杯底部 1/3	外:10YR7/1灰白 内:10YR8/2灰白 内:7.5YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面:ナデ、四線 内面:ナデ	
	1402	125	包含層	弥生土器	高杯	器高:△4.5 底径:6.0	脚部 1/3	外:10YR8/2灰黄褐 断:10YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外面:ハケ 内面:磨滅のため不明	
	1403	125	包含層	弥生土器	高杯	器高:△5.2 底径:6.4	脚部 1/3	外:2.5YR5/4赤系 断:10YR8/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1404	125	包含層	弥生土器	高杯	器高:△5.1 底径:17.6	脚部 1/4	外:7.5YR8/1灰白 内:2.5YR/5灰白 内:2.5YR/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:ナデ 内孔:φ0.4cm	
	1405	125	包含層	弥生土器	高杯	器高:△6.0 底径:△13.6	脚部 1/4	外・内:2.5YR/1灰白 断:2.5YR7/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ナデ、四線 内面:ナデ	
	1406	125	包含層	弥生土器	高杯	器高:△12.2	脚柱部 完形	外・内:7.5YR8/4灰白 断:7.5YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ハケ 内面:ナデ	
	1407	125	包含層	弥生土器	高杯	器高:△10.7 底径:10.8	脚柱部 完形	外:10YR8/3灰黄褐 内:10YR8/2灰白 内:10YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:ナデ	
	1408	-	包含層	弥生土器	水差	器高:△6.1	把手 1/2	外・内:10YR8/4 内:10YR8/3灰白 内:2.5YR/4灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:ナデ	
	1409	-	包含層	弥生土器	水差	器高:△6.3	把手 1/2	外:10YR8/4灰白 内:2.5YR/4灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:ナデ	
	1410	-	包含層	弥生土器	水差	器高:△4.0 底径:2/3	把手 2/3	外・内:7.5YR8/3灰黄褐 断:10YR5/1灰白	φ3.5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ナデ	
	1411	125	包含層	弥生土器	石織	目さ:△3.45 底径:1.65 厚さ:0.45	-	-	サスカイト	-	重量: 2 g
	1412	125	包含層	弥生土器	石織	目さ:1.95 底径:1.9 厚さ:0.5	-	-	サスカイト	-	重量: 1 g
	1413	125	包含層	弥生土器	測片	目さ:2.7 底径:5.15 厚さ:0.8	-	-	サスカイト	-	重量: 17 g

表4 遺物観察表(49)

順次	標識番号	出土地	器種	圖形	法面(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	1414	126	包含層 磨製石器	大型斧 月刃斧	長さ:(5.1) 幅:(6.1) 厚さ:4.2	—	—	花崗閃綠岩	—	重量:190g
	1415	126	包含層 磨製石器	石臼丁	長さ:(6.2) 幅:(3.8) 厚さ:0.65	—	—	粘板岩	—	重量:20g
	1416	126	包含層 磨製石器	石臼丁	長さ:(6.3) 幅:(3.8) 厚さ:0.6	—	—	綠泥片岩	—	重量:17g
	1417	126	包含層 磨製石器	石臼丁	長さ:(7.1) 幅:(4.6) 厚さ:0.65	—	—	綠泥片岩	—	重量:29g
	1418	126	包含層 磨製石器	扁平片 月刃斧	長さ:(7.5) 幅:(6.3) 厚さ:2.4	—	—	砂岩	—	重量:213g
	1419	125	包含層 土製品	分離土製品	長さ:6.1 幅:5.1 厚さ:1.3	ほぼ完形	表:2.5Y6/1灰黄 裏:10YR6/3灰黄 裏:2.5Y7/1灰白	φ1mm以下の粗砂を含む	表面:ナデ、斜交 裏面:ナデ	
	1420	126	包含層 弔生土器	広口壺	口径:(17.6) 腹高:△2.0	口径部 1/8	外・内:10YR8/2灰白 断:10YR8/3灰黄相 軸:7.5YR6/3灰黄相	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ縫合む	外面:ヨコナデ、斜日 文、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	1421	126	包含層 弔生土器	広口壺	口径:(33.0) 腹高:△4.8	口径部 1/12	外・内:10YR8/2灰白 断:10YR8/3灰黄相 軸:7.5YR6/3灰黄相	φ5mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ縫合む	外面:ヨコナデ、斜日 文、ナデ 内面:ナデ	
	1422	—	包含層 弔生土器	広口壺	口径:(30.6) 腹高:△1.5	口径部 1/12	外:7.5YR8/4灰黄相 断:7.5YR6/3灰黄相 内:7.5YR6/4灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、斜日 文、ハケ 内面:ハケ	
	1423	126	包含層 弔生土器	広口壺	口径:(37.8) 腹高:△5.5	口径部 1/12	外・内:2.5Y8/2 底:4.8 断:10YR8/1灰白	φ2.5mm以下の石英、 長石、チャート、ケサ リ縫合む	外面:斜日文 内面:磨滅のため不明	
	1424	126	包含層 弔生土器	広口壺	口径:(17.7) 腹高:△7.0	口径部 1/4	外・内・外:10YR8/2 底:4.8	φ4mm程度の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ、ナデ	
	1425	—	包含層 弔生土器	壺	器高:△5.3	腹部 1/4	外:7.5YR7/3にぶい相 軸:2.5Y8/2灰白 内:5YR8/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、突窓、薄 縫直線文、内 面:ナデ、ハケ	
	1426	—	包含層 弔生土器	壺	器高:△6.0	—	外・内:10YR8/1灰白 断:10YR4/1灰白	φ1mm以下の白色粘土	外面:ナデ、竹管文 内面:ナデ	
	1427	—	包含層 弔生土器	壺	器高:△8.3	—	外:7.5YR8/4灰黄相 軸:7.5YR3/1黒褐 内:10YR7/2にぶい黄相	φ2mm程度の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、突窓 内面:ナデ、ユビオサ エ	
2016 -1	1428	—	包含層 弔生土器	壺	器高:△6.4	—	外:7.5YR8/3灰黄相 内:2.5YR7/4灰赤相	φ2mm程度の長石、砂 粒含む	外面:ナデ、突窓 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1429	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△3.2 底径:6.0	底部 1/3	外:7.5YR7/4にぶい相 軸:10YR5/1灰白 内:7.5YR7/2灰白	φ12mm程度の礫、 φ3mm程度の石英、長 石含む	外面:ナデ 内面:ミガリ	
	1430	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△4.2 底径:5.8	底部 完形	外:N2/2 内:10YR8/1灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉 外面保有
	1431	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△7.1 底径:7.8	底部 完形	外・内:7.5YR7/4 にぶい相 軸:7.5YR6/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面:磨滅のため不明 内面:ユビオサエ、ナ デ	底面:木葉 外面保有
	1432	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△8.3 底径:10.8	底部 完形	外・内・内:10YR8/3 底:4.8 断:10YR8/4灰赤相	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ縫合む	外面:ヘラナデ、ナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ	
	1433	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△4.7 底径:11.2	底部 完形	外:2.5Y8/3灰黄 軸:2.5Y8/1灰白 内:2.5Y8/2灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ユビオサエ	
	1434	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△4.0 底径:10.8	底部 1/2	外:5YR7/6相 内:5YR6/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1435	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△4.1 底径:10.6	底部 1/2	外:10YR7/3にぶい黄相 軸:5YR7/6相 内:5YR7/5にぶい相	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ケサ リ縫合む	外面:ハケ、ナデ 内面:磨滅のため不明	
	1436	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△3.7 底径:8.2	底部 1/3	外:7.5YR8/3灰黄相 内:7.5YR7/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉
	1437	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△3.8 底径:9.2	底部 1/2	外:10YR8/2灰白 内:2.5Y8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石、ケサリ縫合む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉
	1438	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△7.2 底径:9.0	底部 2/3	外・内:7.5YR7/6相 軸:10YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石、ケサリ縫合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1439	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△5.0 底径:9.2	底部 完形	外・内:10YR8/2灰白 内:10YR6/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面:ハケ 内面:ユビオサエ	
	1440	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△3.2 底径:9.4	底部 2/3	外・内:7.5YR7/2 にぶい相 軸:10YR7/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石、ケサリ縫合む	外・内面:ナデ	
	1441	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△2.1 底径:10.0	底部 完形	外・内:2.5Y8/1灰白 内:10YR8/4灰黄相	φ4mm以下の石英、長 石含む	男・内面:ナデ	
	1442	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△6.4 (8.2)	底部 1/3	外:5YR7/4/2相 内:5YR3/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石、ケサリ縫合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1443	—	包含層 弔生土器	底部	器高:△4.7 底径:7.4	底部 2/3	外:断:10YR8/2灰白 内:10YR8/4灰黄相	φ3mm以下の石英、長 石、ケサリ縫合む	外・内面:磨滅のため 不明	

表4 遺物觀察表(50)

開発 次段	探査 番号	出所番 号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 査	備考
	1444	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△5.4 底径:11.0	底部 完全形	外:10YR8/3浅黄 内:2.5YR6/4稍 内:2.5YR6/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外:ミガキ、ナデ 内面:ナデ		
	1445	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△3.6 底径:11.0	底部 完全形 2/3	外:△10YR6/2灰黃 内:10YR7/3にぶい黃 内:2.5YR1灰白	△1mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ		
	1446	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△2.3 底径:8.4	底部 完全形	外:△7.5YR8/4灰黃 内:△10YR8/2灰白 内:2.5YR1灰白	△1mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明		
	1447	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△3.8 底径:8.2	底部 完全形	外:△10YR8/2灰白 内:10YR2/1黑	△2mm以下の石英、長 石、カサリ繕合む	外:ナデ 内面:磨滅のため不明		
	1448	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△9.6 底径:(10.0)	底部 完全形 1/3	外:7.5YR8/4灰黃 内:10YR8/3灰黃 内:10YR8/2灰白	△4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明		
	1449	127	包含層 弥生土器	裏	口径:△(29.2) 底径:△16.5	口縁部 1/8	外:△7.5YR8/3灰黃 内:10YR6/1褐灰 内:10YR8/2灰白	△4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明		
	1450	-	包含層 弥生土器	裏	口径:△(31.0) 底径:△7.3	口縁部 1/10	外・内:△7.5YR8/3 灰黃	△4mm以下の石英、長 石含む	外・内面:磨滅のため 不明		
	1451	-	包含層 弥生土器	裏	口径:△(31.0) 底径:△5.3	口縁部 1/8	外:△2.5YR/2灰白 内:10YR8/3褐灰 内:10YR8/2灰白	△2mm以下の砂粒含む	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ハケ、ナデ		
	1452	-	包含層 弥生土器	裏	口径:△(31.8) 底径:△8.4	口縁部 1/6	外:△2.5YR/4灰黃 内:10YR8/3灰黃	△3mm以下の石英、長 石含む	外:ヨコナデ 内面:ハケ		
	1453	127	包含層 弥生土器	裏	口径:△(37.1) 底径:△7.0	口縁部 1/6	外・内:△10YR7/3 灰黃 内:△5.0	△2.5mm以下の石英、長 石、チャート、タ サリ繕合む	外:ヨコナデ、ハケ 内面:ハケ		
	1454	-	包含層 弥生土器	裏	口径:△(12.0) 底径:△3.1	口縁部 1/6	外:△2.5YR/1灰白 内:10YR8/2灰白	△3mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ		
	1455	-	包含層 弥生土器	裏	口径:△(17.5) 底径:△4.4	口縁部 1/10	外:△10YR8/2灰白 内:10YR8/3灰黃	△1mm以下の石英、長 石、チャート、カサ リ繕合む	外・内面:磨滅のため 不明		
	1456	-	包含層 弥生土器	裏	口径:△(19.9) 底径:△6.0	口縁部 1/4	外:△7.5YR8/4灰黃 内:△10YR7/4 灰黃	△2mm以下の石英、長 石、チャート、タ サリ繕合む	外面:ハケ 内面:ケズリ		
	1457	127	包含層 弥生土器	底部	器高:△18.4 底径:7.6	底部 完全形	外・内:△10YR8/2灰白 内:△10YR7/3にぶい黃 内:△5.0	△2mm以下の石英、長 石、チャート、タ サリ繕合む	外:ハケ 内面:ヨコナデ	底面:木葉	
2016 -1	1458	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△5.9 底径:△9.4	底部 完全形 1/3	外:△10YR7/3にぶい黃 内:△10YR6/1褐灰	△4mm程度の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉	
	1459	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△8.2 底径:8.4	底部 完全形 灰白	外・内:△10YR8/2 灰白	△3mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ、ナデ 内面:磨滅のため不明	底面:木葉	
	1460	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△15.0 底径:△12.4	底部 完全形 1/4	外:△7.5YR8/4灰黃 内:△10YR6/1褐灰 内:△10YR8/3灰黃	△3mm以下の石英、長 石、チャート含む	外:ハケ、ナデ 内面:ナデ		
	1461	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△6.0 底径:7.6	底部 完全形	外:△2.5YR/2灰白 内:△2.5YR/1灰白 内:△10YR8/2灰白	△1mm以下の石英、長 石、チャート、ケザ リ繕合む	外:磨滅のため不明 内面:ヨコナデ		
	1462	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△5.0 底径:8.2	底部 完全形	外・内:△10YR8/2 灰白 内:△5.0	△3.5mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナ デ	底面:木葉	
	1463	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△4.4 底径:7.8	底部 完全形	外:△7.5YR8/2灰黃 内:△10YR8/2灰白 内:△10YR8/3灰黃	△3mm以下の石英、長 石含む	外:ナデ 内面:ヨコナデ、ナ デ		
	1464	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△5.4 底径:8.2	底部 完全形 灰白	外・内:△10YR8/2 灰白	△2mm程度の砂粒含む	外:ハケ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナ デ		
	1465	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△2.8 底径:9.0	底部 完全形	外・内:△10YR8/2灰白 内:△10YR7/1褐灰	△4mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ、ナデ 内面:ヨコナデ	底面:木葉	
	1466	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△2.3 底径:5.6	底部 完全形 灰白	外:△10YR7/3にぶい黃 内:△10YR8/2灰白	△4mm以下の石英、長 石、カサリ繕合む	外:ナデ 内面:磨滅のため不明		
	1467	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△4.6 底径:6.8	底部 完全形	外・内:△7.5YR8/6灰黃 内:△10YR2/1黑	△6mm以下の石英、長 石、チャート含む	外:磨滅のため不明 内面:ヨコナデ		
	1468	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△3.6 底径:8.2	底部 完全形	外:△7.5YR8/2灰白 内:△10YR8/3灰黃 内:△7.5YR8/1灰白	△2mm以下の石英、長 石、チャート、ケザ リ繕合む	外・内面:磨滅のため 不明	底面:木葉	
	1469	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△5.4 底径:9.2	底部 完全形	外:△10YR7/3にぶい黃 内:△2.5YR/2灰白	△2mm以下の石英、長 石、チャート含む	外:磨滅のため不明 内面:ヨコナデ		
	1470	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△4.5 底径:4.6	底部 完全形	外・内:△10YR7/3にぶい黃 内:△10YR8/2灰白	△3mm以下の石英、長 石、チャート含む	外:磨滅のため不明 内面:ヨコナデ		
	1471	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△2.3 底径:4.2	底部 完全形	外・内:△10YR7/1褐灰 内:△10YR8/3灰黃	△3mm以下の石英、長 石、チャート含む	外:ナデ 内面:磨滅のため不明		
	1472	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△3.1 底径:8.2	底部 完全形	外・内:△10YR7/3にぶい黃 内:△10YR7/2灰白	△3mm以下の石英、長 石、チャート、ケザ リ繕合む	外:磨滅のため不明 内面:ヨコナデ		
	1473	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△3.4 底径:7.0	底部 完全形 4/5	外:△10YR7/3にぶい黃 内:△10YR8/2灰白	△3mm以下の石英、長 石含む	外:ハケ 内面:ナデ	底面:木葉	
	1474	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△3.3 底径:5.0	底部 完全形	外・内:△2.5YR/2灰白 内:△10YR8/3灰黃	△3mm程度の砂粒含む	外:ハケ、ナデ 内面:ナデ	底面:木葉	
	1475	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△2.5 底径:5.0	底部 完全形 2/3	外:△2.5YR/4 内:△10YR4/1褐灰	△3mm以下の石英、長 石、チャート、ケザ リ繕合む	外:磨滅のため不明 内面:ヨコナデ		
	1476	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△5.0 底径:6.0	底部 完全形 灰白	外・内:△10YR8/2 内:△10YR7/2	△3mm程度の石英、長 石含む	外:ナデ 内面:ハケ	底面:木葉 穿孔(1.2cm)	
	1477	-	包含層 弥生土器	底部	器高:△5.1 底径:5.6	底部 完全形	外:△10YR8/3にぶい黃 内:△10YR7/2	△1mm以下の石英、長 石、チャート含む	外:ナデ 内面:ヨコナデ、ユビオサ エ		

表4 遺物觀察表(51)

調査次数	探査番号	回収番号	出土地	器種	形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	1478	-	包含層	陶生土器	底部	器高:△3.5 底径:6.0	底部 2/3	外・断・内:10YR6/4 にぶい黄褐	φ2mm程度の石英、長 石、クサリ織合む	外面:ハゲ 内面:ナデ	
	1479	-	包含層	陶生土器	底部	器高:△3.4 底径:7.8	底部 完全	外・断・内:10YR7/3に 10YR7/4にぶい黄 10YR7/3にぶい相	φ3mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	
	1480	-	包含層	陶生土器	底部	器高:△2.8 底径:6.0	底部 完全	外・断・内:10YR8/1灰白 7.5YR8/3灰白相 7.5YR8/3灰白相	φ3mm程度の石英、長 石含む	外面:ハゲ 内面:ユビオサエ、ナ デ	底面:木葉 痕
	1481	-	包含層	陶生土器	底部	器高:△5.4 底径:4.2	底部 完全	外・断・内:2.5YR1灰白 7.5YR7/2灰白相 10YR4/1灰白 10YR3/1黒褐色	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:ハゲ、ナデ 内面:ナデ	底面:木葉 痕
	1482	-	包含層	陶生土器	底部	器高:△2.7 底径:5.0	底部 完全	外・断・内:10YR5/1褐色 10YR7/3灰白相 10YR8/1灰白相	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ミガキ、ナデ	
	1483	-	包含層	陶生土器	底部	器高:△4.6 底径:5.6	底部 完全	外・断・内:7.5YR5/4にぶい黄 10YR7/3にぶい黄 10YR8/1灰白相	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハゲ、ナデ 内面:磨滅のため不明	穿孔: 約1.2cm
	1484	-	包含層	陶生土器	底部	器高:△3.5 底径:15.6	底部 1/4	外・内:10YR3/3 10YR3/3灰白 7.5YR6/3にぶい相	φ1.5mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ハゲ、ヨコナデ 内面:ナデ	底面:木葉 痕
	1485	-	包含層	陶生土器	底部	器高:△2.1 底径:2.2	底部 完全	外・断・内:7.5YR7/4Cにぶい相 10YR8/3灰白相	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1486	122	包含層	陶生土器	跡	口径:△20.1 器高:△8.8	口縁部 1/3	外・断・内:10YR5/4にぶい赤褐 10YR8/2灰褐色	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ織合む	外面:ヨコナデ、構状 浮文	
	1487	-	包含層	陶生土器	高杯	口径:△20.0 器高:△4.4	口縁部 1/8	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、四線 浮文	
	1488	127	包含層	陶生土器	高杯	口径:△23.7 器高:△4.8	口縁部 1/8	外・断・内:2.5YR2灰白 5YR7/4にぶい相 7.5YR7/4Cにぶい相	φ1.5mm以下の石英、 長石、チャート、ク サリ織合む	外面:ヨコナデ、 四線浮文、ミガキ	
	1489	-	包含層	陶生土器	高杯	口径:△21.4 器高:△7.3	口縁部 1/8	外・断・内:10YR6/2灰褐色 10YR8/2灰白 10YR7/2Cにぶい黃	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、四 線浮文、シカリ痕	円盤充填
2016 -1	1490	127	包含層	陶生土器	高杯	口径:△15.4 器高:△4.3	口縁部 1/12	外・内:10YR8/2灰白 10YR7/2Cにぶい黃	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、四線 浮文	
	1491	127	包含層	陶生土器	高杯	口径:△18.1 器高:△3.4	口縁部 1/12	外・断・内:5YR8/4灰褐色 10YR6/1灰白 2.5YR1灰白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ、四 線浮文	
	1492	-	包含層	陶生土器	蓋	器高:△2.7	つまみ部 完全	外・内:10YR8/1灰白 7.5Y2/1灰	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨビオサエ、ナ デ	
	1493	-	包含層	陶生土器	蓋	器高:△4.3	つまみ部 完全	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ2.5mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1494	-	包含層	陶生土器	蓋	器高:△3.4	つまみ部 完全	外・内:7.5YR7/3にぶい相 10YR7/4Cにぶい黃	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨビオサエ、ナ デ	
	1495	-	包含層	陶生土器	蓋	器高:△3.6	つまみ部 完全	外・内:7.5YR7/3にぶい相 10YR7/4Cにぶい黃	φ2mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外面:ナデ、ヘラナデ	
	1496	-	包含層	陶生土器	水差	器高:△2.8	把手 2/3	外・内:7.5YR7/2灰褐色 10YR8/2灰白 7.5YR8/3灰白相	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ	
	1497	-	包含層	陶生土器	高杯	口径:△14.0 器高:△4.8	口縁部 1/4	外・断・内:7.5YR7/3 にぶい相 7.5YR7/4にぶい相	φ3mm以下の石英、長 石、クサリ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1498	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△4.8	杯底部 2/3	外・断・内:7.5YR8/4灰褐色 7.5YR8/1灰白	φ2mm程度の石英、長 石含む	外・内面:ナデ	円盤充填
	1499	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△4.3	杯底部 完全	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石、クサリ織合む	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ、ユビオサ エ、シカリ痕	円盤充填
	1500	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△4.0	杯底部 1/4	外・断・内:5YR6/6相 2.5YR6/6相	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨビオサエ、シ ボリ痕	円盤充填
	1501	127	包含層	陶生土器	高杯	器高:△9.9	脚柱部 完全	外・内:10YR8/1灰白 7.5YR7/4Cにぶい相 7.5YR7/3にぶい相	φ3.5mm以下の砂粒含 む	外面:ナデ、脚柱直 交文	
	1502	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△8.6	脚柱部 完全	外・断・内:7.5YR7/4Cにぶい相 2.5YR7/3灰白相 10R6/6赤褐色	φ4mm以下の石英、長 石含む	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ、シボリ痕	
	1503	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△5.0	脚柱部 完全	外・断・内:10YR8/3 にぶい相	φ6mm以下の石英、長 石、チャート、ク サリ織合む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1504	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△5.2	脚柱部 完全	外・内:7.5YR7/8灰褐色 10YR8/4灰褐色	φ1mm以下の白色粒含 む	外面:ミガキ 内面:ミガキ、シボリ痕	
	1505	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△5.9 底径:13.6	脚柱部 完全	外・断・内:7.5YR7/4Cにぶい相 2.5YR7/3灰白相 10R6/6赤褐色	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ 内面:ミガキ、シボリ痕	
	1506	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△11.3 底径:17.2	脚柱部 1/8	外・断・内:7.5YR6/4Cにぶい相 2.5YR6/6相	φ3mm程度の砂粒含む	外面:ミガキ 内面:ミガキ、シボリ痕	
	1507	122	包含層	陶生土器	高杯	器高:△15.8 底径:10.8	杯底部~ 底部完全	外・断・内:7.5YR7/3 にぶい相 10YR8/2灰白	φ2mm程度の石英、長 石、砂粒含む	外面:ナデ、沈線 ヨコナデ	
	1508	-	包含層	陶生土器	高杯	器高:△4.3 底径:18.0	底部 1/10	外・断・内:2.5YR6/6相	外・内面:磨滅のため 不明	内面:ナデ、ヨコナデ	

表4 遺物觀察表(52)

測定次数	標印番号	測定番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色 調	胎 土	調 整	備 考	
	1509	-	包含層 弥生土器	高杯	器高:△2.2 底径:△2.4	縦部 1/6	外・断・内:7.5YR7/3 白	φ1mm以下の白色粒合 セ	外面:ヨコナデ 内面:磨滅のため不明			
	1510	127	包含層 弥生土器	高杯	器高:△3.5 底径:△4.0	縦部 2/3	外:10YR7/1灰白 断・内:2.5YR7/1灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ 円形透かし 孔			
	1511	-	包含層 弥生土器	高杯	器高:△3.5 底径:△4.0	縦部 1/6	外:10YR8/3灰黄相 白 内:5.5YR8/4灰黄相 白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ヨコナデ 内面:ナデ			
	1512	-	包含層 弥生土器	高杯	器高:△3.4 底径:△4.0	縦部 1/10	外:10YR7/3灰黄相 白 内:10YR8/3灰黄相 白	φ3mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ヨコナデ 内面:ナデ			
	1513	-	包含層 弥生土器	高杯	器高:△4.1 底径:△13.0	縦部 1/6	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ1mm以下の石英、ク サリ融合含む	外面:ヨコナデ 内面:磨滅のため不明			
	1514	127	包含層 弥生土器	高杯	器高:△4.4 底径:△14.2	縦部 1/8	外・断・内:10YR8/2 灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ 内面:磨滅のため不明 円形透かし 孔			
	1515	127	包含層 弥生土器	高杯	器高:△4.7 底径:△18.6	縦部 1/8	外:10YR7/3にぶる黄相 白 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チャート含む	外面:ヨコナデ 内面:ナデ、ユビオサ エ、ナデ	円形透かし 孔		
	1516	-	包含層 弥生土器	高杯	器高:△2.3 底径:△14.2	縦部 1/4	外:7.5YR8/4灰黄相 白 内:5.5YR7/6灰白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外面:ヨコナデ 内面:ハケ			
	1517	-	包含層 弥生土器	高杯	器高:△2.5 底径:△12.4	縦部 1/8	外:2.5YR8/2灰白 内:10YR8/2灰白 内:5.5YR8/4灰黄	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:ナデ、ヨコナデ 内面:ハケ			
	1518	-	包含層 弥生土器	高杯	器高:△2.3 底径:△13.2	縦部 1/8	外・断・内:10YR8/2灰白 内:7.5YR8/4灰黄相 白	φ2mm以下の石英、長 石含む	外・内面:ヨコナデ 内面:磨滅のため不明 円形透かし 孔			
	1519	128	包含層 土製品 瓦製品	土製品 瓦製品	器高:△(5.4) 幅:△4.0 厚さ:△2.7	-	外・断・内:10YR8/1 灰白	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、クサ リ融合含む	外面:ナデ 内面:ユビオサエ			
	1520	128	包含層 磨石	石削	長さ:△(2.7) 幅:△3.5 厚さ:△0.7	-	-	粘板岩	-	重量:43g		
	1521	128	包含層 打製石器	石削	長さ:△4.9 幅:△3.5 厚さ:△0.9	完形	-	-	サヌカイト	-	重量:6g	
	1522	128	包含層 打製石器	片削	長さ:△3.1 幅:△2.9 厚さ:△0.3	-	-	-	サヌカイト	-	重量:3g	
2016 -1	1523	128	包含層 弥生土器	縦口壺	口径:△(4.0) 底径:△3.5	口縫部 1/8	外・断:10YR8/2灰白 内:10YR8/1灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:ナデ、門形透 文、四線、輪攝列点文 内面:ナデ			
	1524	-	包含層 弥生土器	直口壺	口径:△(4.0) 底径:△3.1	口縫部 1/4	外:10YR8/4灰黄相 白 内:7.5YR7/4灰白 内:10YR8/2灰白	φ6mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、門 形透文、ナデ 内面:ナデ、輪攝列点 文			
	1525	122	包含層 弥生土器	直口壺	口径:△(2.4) 底径:△8.0	口縫部 完形	外・断:7.5YR8/4灰黄相 白 内:7.5YR8/3灰黄相 白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線、円形透 文 内面:ナデ			
	1526	128	包含層 弥生土器	直口壺	口径:△(2.0) 底径:△5.4	口縫部 1/6	外:7.5YR8/4灰黄相 白 内:10YR8/3灰黄相 白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、輪 攝列点文、ハケ 内面:ハケ			
	1527	-	包含層 弥生土器	直口壺	口径:△(3.8) 底径:△2.5	口縫部 1/6	外:10YR8/4灰黄相 白 内:10YR8/3灰黄相 白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面:朝日文 内面:磨滅のため不明			
	1528	128	包含層 弥生土器	直口壺	口径:△(2.7) 底径:△7.6	口縫部 1/6	外:10YR8/3にぶる黄相 白 内:2.5YR7/6灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線、朝日文 内面:輪攝列点文 内面:ナデ			
	1529	128	包含層 弥生土器	直口壺	口径:△(4.4) 底径:△4.4	口縫部 1/6	外:2.5YR7/6灰白 内:2.5YR7/8灰白 内:2.5YR7/4灰白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線、円形透 文 内面:磨滅のため不明			
	1530	128	包含層 弥生土器	直口壺	口径:△(2.4) 底径:△9.0	口縫部 1/4	外:7.5YR8/2灰白 内:7.5YR8/6灰白 内:7.5YR8/3にぶる黄相 白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:輪攝波状文、櫛 縞文 内面:磨滅のため不明			
	1531	129	包含層 弥生土器	甕	口径:△(4.4) 底径:△12.9	口縫部 1/6	外:2.5YR8/2灰白 内:10YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ハケ 内面:磨滅のため不明			
	1532	131	包含層 弥生土器	甕	口径:△(1.8) 底径:△21.6	口縫部 2/3	外:10YR8/6灰白 内:10YR8/3灰黄相 白	φ4mm以下の石英、長 石、クサリ融合含む	外面:ヨコナデ、ハ ケ 内面:磨滅のため不明			
	1533	129	包含層 弥生土器	甕	口径:△(1.8) 底径:△21.6	口縫部 1/6	外:10YR8/6灰白 内:10YR8/3灰黄相 白 内:10YR7/2にぶる黄相 白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ 内面:磨滅のため不明			
	1534	129	包含層 弥生土器	甕	口径:△(3.78) 底径:△13.5	口縫部 1/6	外・断:10YR8/1灰白 内:10YR8/3灰黄相 白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、ハ ケ、朝日文 内面:ヨコナデ			
	1535	129	包含層 弥生土器	高杯	口径:△(2.7) 底径:△4.8	口縫部 1/6	外:10YR8/2灰黄相 白 内:7.5YR8/6灰白 内:10YR8/3灰黄相 白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:四線 内面:磨滅のため不明			
	1536	129	包含層 弥生土器	高杯	口径:△(3.2) 底径:△6.7	口縫部 1/8	外:10YR8/1灰白 内:10YR8/2にぶる黄相 白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、四 線、輪攝列点文、垂帶 内面:ヨコナデ			
	1537	-	包含層 弥生土器	高杯	口径:△6.1	口縫部 1/8	外:2.5YR7/6灰白 内:2.5YR7/4灰黄相 白 内:2.5YR7/3灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明			
	1538	131	包含層 弥生土器	鉢	口径:△(45.6) 底径:△15.7	口縫部 1/6	外:7.5YR8/1灰白 内:2.5YR8/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ナデ、円形透 文 内面:ナデ			
	1539	129	包含層 弥生土器	高杯	口径:△7.6 底径:△12.4	口縫部 1/4	外:2.5YR8/1灰白 内:2.5YR8/1灰白 内:10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明 円形透かし 孔			

表4 遺物観察表(53)

遺産次元	堆積層番号	回収番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	1540	-	包含層	甕生土器	高杯	器高:△9.1 底径:11.2	脚部 2/3	外:内:7.5YR8/3浅黄 断:N5/灰	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明	円形透かし 孔
	1541	-	包含層	甕生土器	高杯	器高:△8.5 底径:15.0	脚部 1/3	外:7.5YR6/4にぶい 断:7.5YR9/1灰 内:7.5YR7/3にぶい 断	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外:ヨコナデ、横消 内:ヨコナデ、シボ 引痕	
	1542	129	包含層	甕生土器	高杯	器高:△3.1 底径:(16.2)	脚部 1/1	外:内:2.5YR1/灰白 断:2.5YR6/4灰	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外面:ヨコナデ、横消 内面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	円形透かし 孔
	1543	-	包含層	甕生土器	器台	器高:△13.5	全体 1/4	外:7.5YR7/4にぶい 断:7.5YR8/3浅黄 内:2.5YR7/6灰	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面:円錐 内面:磨滅のため不明	
	1544	-	包含層	甕生土器	器台	器高:△8.9	全体 1/6	外:10YR6/4にぶい 断:7.5YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外面:円錐 内面:磨滅のため不明	
	1545	129	包含層	甕生土器	鉢	器高:△7.4	-	外:7.5YR7/4にぶい 断:10YR5/1灰 内:7.5YR8/3浅黄	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面:突堤 内面:磨滅のため不明	
	1546	129	包含層	甕生土器	鉢	口径:(75.2) 器高:△6.8	口縫部 1/8	外:5YR7/8灰 断:内:5YR8/4浅黄	φ2mm以下の石英、長 石、カサリ縫を含む	外面:凹線 内面:磨滅のため不明	
	1547	130	包含層	打製石器	石繩	長さ:4.15 幅:1.65 厚さ:0.65	-	-	サヌカイト	-	重量:4 g
	1548	130	包含層	磨製石器	石削	長さ:(9.9) 幅:3.2 厚さ:1.3	-	-	粘板岩	-	重量:42 g
	1549	130	包含層	磨製石器	大型始 刃石斧	長さ:(11.0) 幅:7.55 厚さ:4.9	-	-	砂岩	-	重量:711 g
2016-1	1550	-	包含層	須恵器	杯蓋	口径:(13.4) 器高:△4.0	口縫部 1/3	外:断:7.5Y7/1灰白 内:内:7.5灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ハラケズ 内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1551	-	包含層	須恵器	杯蓋	口径:(15.9) 器高:△3.0	口縫部 1/8	外:内:10YR8/1灰白 断:2.5YR8/1灰白	φ1mm以下の粗砂含む	外・内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1552	130	包含層	須恵器	杯蓋	口径:(13.8) 器高:△4.5	1/3	外:内:7N7/灰白 断:N5/灰	φ4mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1553	-	包含層	須恵器	杯身	口径:12.9 器高:△4.8	2/3	外:断:内:7N7/灰白 内:内:7N7/灰白	φ1mm以下の石英、長 石含む	外面:回転ナデ、回転 ハラケズリ、回転ハラ ケズリ 内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1554	-	包含層	須恵器	杯身	口径:(11.7) 器高:△3.9	口縫部 1/8	外:断:内:6N/灰 内:内:6N/灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1555	-	包含層	須恵器	杯身	口径:(11.1) 器高:△3.5	口縫部 1/6	外:断:内:6N/灰 内:内:6N/灰	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外面:回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1556	-	包含層	須恵器	杯身	口径:(14.6) 器高:△3.6	1/4	外:断:内:6N/灰 内:内:6N/灰	φ1mm以下の白色粒含 む	外面:回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1557	-	包含層	須恵器	杯身	口径:(14.0) 器高:△3.5	1/8	外:断:内:2.5Y6/1 灰白 内:内:2.5Y6/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外・内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1558	-	包含層	須恵器	杯身	口径:(15.3) 器高:△2.8	1/8	外:断:内:2.5Y6/1黄 灰白 内:内:2.5Y6/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒含 む	外・内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1559	-	包含層	須恵器	杯身	口径:(13.0) 器高:△2.4	1/6	外:断:内:7N7/灰白 内:内:7N7/灰白	φ1mm以下の粗砂含む	外・内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1560	-	包含層	須恵器	杯身	口径:(13.0) 器高:△3.7	1/3	外:断:内:7N5/灰 内:内:7N7/灰白	φ4mm以下の黒色粒、 白色粒含む	外面:回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1561	-	包含層	須恵器	杯身	口径:(13.4) 器高:△4.1	完形	外:断:内:7N5/灰 内:内:7N7/灰白	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、回転 ハラケズリ 内面:回転ナデ	T K43~ 209
	1562	-	包含層	土師器	把手	器高:△6.2	把手 完全	外:断:内:7.5YR8/3 浅黄	φ2mm程度の石英、長 石含む	外面:ナデ	
	1563	130	包含層	須恵器	縦	器高:△6.3	全体 完形	外:断:内:7N5/灰 内:内:7N6/灰	φ1mm以下の粗砂含 む	外面:回転ナデ、洗 筋 内面:回転ナデ	
	1564	-	包含層	須恵器	縦	口径:(21.4) 器高:△4.5	口縫部 1/6	外:断:10YR5/1灰 灰 内:10YR6/1灰灰	φ1mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、沈線 筋 内面:回転ナデ	
	1565	-	包含層	須恵器	縦	口径:(19.4) 器高:△6.3	口縫部 1/6	外:内:7N7/灰白 内:N8/灰白	φ3mm以下の砂粒含む	外面:回転ナデ、ハ ラケズリ、タタキ 内面:回転ナデ、同心 円当て目録	
	1566	131	包含層	須恵器	縦	口径:(22.6) 器高:△8.8	口縫部 1/6	外:断:内:2.5Y6/1 黄灰	φ2mm以下の砂粒含 む	外面:回転ナデ、洗 筋 内面:回転ナデ	
	1567	-	包含層	須恵器	縦	口径:(24.2) 器高:△8.9	口縫部 1/8	外:内:7N7/灰白 内:N6/灰	φ3mm以下の粗砂含 む	外面:回転ナデ、カキ ヌメ、タタキ 内面:回転ナデ、同心 円当て目録	
	1568	-	包含層	須恵器	縦	器高:△1.4	完形	外:内:断:7N7/灰白 内:内:7.5YR8/3 浅黄	φ1mm以下の砂粒含 む	外面:回転ナデ 内面:ナデ	
	1569	130	包含層	縦陶器	縦	器高:△2.7 底径:7.2	底部 1/4	外:内:断:7.5YR8/3 浅黄	φ1mm以下の白色粒含 む	外面:施釉、回転系切 り後ナデ 内面:施釉	

表4 遺物觀察表(54)

調査次数	博団 番号	国宝 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色 調	胎 土	調 研	備 考
	1570	131	5溝	弥生 土器	高杯	器高:△8.6 底径:14.2	2/3	外・断 内:△10YR8/4 黄土	φ5mm以下の石英、長 石。カサリ礫を含む	外:磨滅のため不明 内面:シボリ直	
	1571	131	6溝	弥生 土器	蓋	口径:[21.0] 高さ:6.0	1/3	外・内:△7.5YR8/3(浅黃) 断:△10YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石。粗粒を含む	外・内面:磨滅のため 不明	穿孔 (Φ0.5cm)
	1572	132	6溝	弥生 土器	広口壺	口径:△21.6 高さ:△15.1	口縁部 1/3	外:△10YR8/4(浅黃) 断:△2.5YR8/2灰白	φ4mm以下の石英、長 石。粗粒を含む	外:四輪、円形浮 水印、輪郭状、斜面 内面:彌縫目立文、ナ デ	
	1573	132	6溝	弥生 土器	甕	口径:△32.6 高さ:△13.3	口縁部 1/6	外:△10YR8/1(灰白) 断:△7.5YR8/4(浅黃) 底部 完全形	φ3mm以下の石英、長 石。粗粒を含む	外:側口文 内面:磨滅のため不明	
	1574	131	6溝	弥生 土器	底部	直径:△20.1 底径:10.0	外:△7.5YR8/4(灰) 断:△10YR7/3(灰) 黄土	φ3mm以下の石英、長 石。粗粒を含む	外:ナデ 内面:ナデ、ユビオ サエ		
	1575	132	11溝	弥生 土器	広口壺	口径:△25.6 高さ:△12.1	口縁部 1/3	外・断:△10YR8/2灰白 内:△10YR8/3(灰) 黄土	φ2mm以下の石英、長 石。粗粒を含む	外:四輪、丘頭帶 内面:磨滅のため不明	
	1576	132	11溝	弥生 土器	広口壺	口径:△23.4 高さ:△8.8	口縁部 1/4	外・断:△5YR7/4 内:△4.5 断:△7.5YR7/2(明闇灰	φ2mm以下の長石、タ ケリ礫を含む	外:四輪、櫛縫直線 文、ナデ 内面:ヨコナデ、ヨコ ナデ	
	1577	132	11溝	弥生 土器	広口壺	口径:△23.6 高さ:△10.7	口縁部 1/4	外:△7.5YR8/4(浅黃) 断:△2.5YR8/1灰白 内:△7.5YR7/2(明闇灰	φ2mm以下の石英、長 石を含む	外:ヨコナデ、ナ デ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ	
	1578	131	11溝	弥生 土器	広口壺	口径:△12.8 高さ:△15.8	口縁部 完全形	外:△5YR6/6(相 内:△1.△10YR8/3(浅黃)	φ1mm以下の石英、長 石を含む	外:ヨコナデ、ハ ケ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	把手付
	1579	133	10溝	弥生 土器	甕	口径:△32.4 高さ:△13.4	口縁部 1/3	外:△7.5YR8/2灰白 内:△7.5YR8/2(明闇灰	φ1mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:ヨコナデ	
	1580	134	10溝	弥生 土器	高杯	器高:△25.6 底径:17.4	ほぼ完形	外・断:△10YR7/3 内:△5YR8/2(灰)	φ3.5mm以下の石英、長 石を含む	外:ミガキ、ヨコナ デ、ハラヨリ直文 内面:ヨコナデ、シボ リ直	透かし孔 4方向
	1581	131	10溝	弥生 土器	高杯	器高:△6.8 底径:11.4	脚部 完全形	外:△5YR4/1(灰白) 断:△5YR6/6(相 内:△10YR8/3(灰)	φ1mm以下の石英、長 石を含む	外:ヘラナデ、ナ デ、ヨコナデ、シボ リ直、カサリ直 内面:シボリ直	円盤充填
2017-1	1582	133	10溝	弥生 土器	高杯	口径:△8.2 高さ:△8	脚部 完全形	外:△10YR8/2灰白 内:△2.5YR7/1灰白 △7.5YR7/3(灰)	φ4mm以下の石英、長 石。カサリ礫を含む	外:ヨコナデ、ミガ キ、直線文 内面:シボリ直	
	1583	133	10溝	弥生 土器	広口壺	口径:△15.0 高さ:△10.0	口縁部 1/6	外:△10YR7/3(灰) 断:△1.△10YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:ナデ	把手付
	1584	131	10溝	弥生 土器	広口壺	口径:△8.4 高さ:△17.1 底径:△5.6	ほぼ完形	外:△5YR7/4(灰) 内:△5YR7/4(灰白)	φ1mm以下の石英、長 石を含む	外:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ、ハケ	把手付
	1585	134	10溝	弥生 土器	器台	口径:△30.7 底径:26.0	2/3	外・断:△10YR8/3 内:△5YR8	φ1mm以下の石英、長 石。チャーブ、カ サリ礫を含む	外:ヨコナデ、四輪 内面:ヨビナデ、ハケ	透かし孔 4方向
	1586	134	10溝	弥生 土器	器台	口径:△21.9 高さ:△15.9 底径:14.2	ほぼ完形	外:△5YR7/4(灰) 断:△5YR6/6(相 内:△7.5YR7/3(灰)	φ1mm以下の石英、長 石を含む	外:ナデ、ヨビナ デ、ヨコナデ、ミガ キ、四輪 内面:ヨコナデ、ヨコ ナデ、シボリ直	
	1587	134	10溝	弥生 土器	器台	口径:△19.8 高さ:△14.1 底径:△16.0	ほぼ完形	外:△7.5YR8/3(浅黃) 断:△1.△10YR8/3(浅黃)	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1588	133	10溝	打製 石器	石器	長さ:△3.75 幅:△1.35 厚さ:△0.55	-	-	サヌカイト	-	重量:2 g
	1589	134	18上器 基	弥生 土器	底部	器高:△20.7 底径:8.4	底部 完全形	外:△2.5YR3/1(灰 断:△10YR4/1(灰 内:△7.5YR8/2灰白	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外:ハケ、ナデ 内面:ユビオサエ	
	1590	134	18上器 基	弥生 土器	広口壺	口径:△24.1 高さ:△32.9 底径:8.3	ほぼ完形	外・内:△10YR7/3 内:△5YR8/4(灰)	φ0.5~2mmの長石、 白英を含む	外:ヨコナデ、ハ ケ、ナデ、直線文、 輪郭状 内面:ヨコナデ、ユビ オサエ、ハケ	
	1591	133	包含層	弥生 土器	広口壺	口径:△23.4 高さ:△10.1	口縁部 1/6	外・断:△5YR8/3 内:△5YR8/4(灰)	φ5mm以下の石英、長 石。カサリ礫を含む	外:四輪、櫛縫波状 内面:ヨコナデ	
	1592	137	包含層	弥生 土器	広口壺	口径:△23.0 高さ:△8.6	口縁部 1/3	外:△10YR8/3(灰 断:△1.△10YR8/2(灰 内:△10YR8/2(灰)	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外:ヨコナデ、ハ ケ、ナデ 内面:ヨコナデ、ハケ	
	1593	137	包含層	弥生 土器	広口壺	口径:△12.6 高さ:△5.5	口縁部 完全形	外・内:△10YR5/1(灰) 断:△5YR7/6(相)	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外:四輪、波状 内面:ヨコナデ、ナ デ	
	1594	133	包含層	弥生 土器	広口壺	口径:△21.8 高さ:△10.9	口縁部 1/4	外・断:△7.5YR8/3 内:△5YR8/2(灰 断:△5YR8/3(灰)	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外:四輪、円形浮 文、輪郭状 内面:彌縫目立文	
	1595	133	包含層	弥生 土器	広口壺	口径:△23.0 高さ:△18.4	口縁部 1/3	外:△7.5YR8/3(浅黃) 断:△10YR4/1(灰 内:△7.5YR8/3(灰)	φ4mm以下の石英、長 石を含む	外:ヨコナデ、直線文 内面:磨滅のため不明	
	1596	137	包含層	弥生 土器	甕	口径:△14.4 高さ:△8.8	口縁部 1/4	外:△10YR8/2(灰 断:△7.5YR7/3(灰 内:△7.5YR8/3(灰)	φ5mm以下の石英、長 石。カサリ礫を含む	外・内面:磨滅のため 不明	
	1597	135	包含層	弥生 土器	甕	口径:△14.4 高さ:△8.8	口縁部 1/4	外:△10YR8/2(灰 断:△7.5YR7/3(灰 内:△7.5YR8/3(灰)	φ5mm以下の石英、長 石。カサリ礫を含む	外・内面:磨滅のため 不明	

表4 遺物観察表(55)

遺物 次元	博物 館番号	回数 番号	出土地	器種	器 形	法量 (cm)	現 存	色 調	胎 土	調 整	備 考
2017 -1	1598	135	包含層	弔生 土器	甕	口径:(37.1) 器高:△9.6	口縁部 1/6	外: 7.5YR5/4にぶい褐 断: 5YR7/6褐 内: 10YR6/2灰黄褐	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ハケ 内面: ヨコナデ、ナデ	
	1599	135	包含層	弔生 土器	甕	口径:(30.8) 器高:△15.8	口縁部 1/4	外: 7.5YR8/3灰褐色 断: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/3灰黄褐	φ5mm以下の石英、長 石を含む	外・内面: ヨコナデ、 ハケ	
	1600	135	包含層	弔生 土器	甕	口径:(32.4) 器高:△9.2	口縁部 1/6	外: 斜・内: 10YR8/2 灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、四 線、ハケ 内面: ヨコナデ、ハケ	
	1601	135	包含層	弔生 土器	甕	口径:(29.2) 器高:△8.5	口縁部 1/3	外: 5YR8/4灰褐 断: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR8/3灰黄褐	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、四 線 内面: ヨコナデ	
	1602	135	包含層	弔生 土器	甕	口径:(23.6) 器高:△17.4	口縁部 1/4	外: 10YR5/2灰黄褐 断: 7.5YR4/2灰白 内: 7.5YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ヨコナデ、ハケ 内面: ヨコナデ、ナデ	
	1603	136	包含層	弔生 土器	水差	器高:△7.6	把手 完形	外: 7.5YR7/4にぶい褐 断: 内: 7.5YR7/2明神灰	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ハケ、ナデ	
	1604	137	包含層	弔生 土器	水差	器高:△16.2	体部 1/2	外: 7.5YR8/4灰黄褐 断: 内: 7.5YR8/2灰白	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外面: ミガキ、櫛目 紋、櫛目状紋、ナ ラ子、ヘラヅの紋 内面: ナラ、シボリ痕	
	1605	136	包含層	弔生 土器	高杯	口径:(21.2) 器高:△6.2	口縁部 1/6	外: 7.5YR6/4にぶい褐 断: 内: 7.5YR8/3浅灰褐	φ3mm以下の石英、長 石を含む	外・内面: 壁面のため 不明	
	1606	134	包含層	弔生 土器	高杯	器高:△18.2 底径:13.6	脚柱部 完形	外・内: 10YR8/3 浅黄褐	φ3mm以下の石英、長 石、チャート、サザ リ縫を含む	外面: ミガキ、ヨコナ デ 内面: ナデ	円盤を埴 した孔
	1607	137	包含層	弔生 土器	高杯	器高:△7.2 底径:10.4	脚柱部 完形	外: 7.5YR7/3 にぶい褐 断: 7.5YR8/3灰黄褐	φ4mm以下の石英、長 石、クサリ縫を含む	外面: ハラヨ直線文 内面: シボリ痕	
	1608	137	包含層	弔生 土器	器台	口径:17.8 器高:△5.0 底径:10.0	2/3	外: N3:菊灰 断: 内: 10YR2/2灰白	φ6mm以下の石英、長 石を含む	外面: 四線 内面: 壁面のため不明	
	1609	136	包含層	須恵器	甕	口径:(12.0) 器高:△12.1	口縁部 1/4	外・内: N6/灰 N7/灰白	φ1mm以下の石英、長 石を含む	外面: 回転ナデ、タタ キ 内面: 回転ナデ、同心 円当て具痕	
	1610	137	包含層	須恵器	杯身	口径:11.6 器高:△3.6	完形	外: N5/灰 断: 内: N7/灰白	φ2mm以下の長石、相 鉄を含む	外面: 回転ナデ。回転 内面: トスナデ 内面: 回転ナデ	T K 43
	1611	136	包含層	打製 石器	薄片	長さ: 6.25 幅: 0.6 厚さ: 1.9	—	—	サヌカイト	—	重量: 73g
	1612	136	包含層	打製 石器	石核	長さ: 6.9 幅: 7.15 厚さ: 2.0	—	—	サヌカイト	—	重量: 79g
	1613	136	包含層	打製 石器	石核	長さ: (9.5) 幅: 4.15 厚さ: 1.2	—	—	サヌカイト	—	重量: 40g
	1614	136	包含層	磨製 石器	石臼丁	長さ: (6.25) 幅: 3.0 厚さ: 0.45	—	—	粘板岩	—	重量: 18g

写 真 図 版



1. A区 完掘状況  
(南から)



2. A区 溝1遺物出土  
状況 (南から)



3. B区 完掘状況  
(南から)



1978

1

調査  
遺構

査



1. C区 完掘状況  
(南から)



2. D区 完掘状況  
(南から)



3. D区 井戸1遺物  
出土状況 (西から)

1980  
2調査  
構遺

1. 調査区南半 完掘状況（東から）



2. 調査区北半 完掘状況（東から）

1990

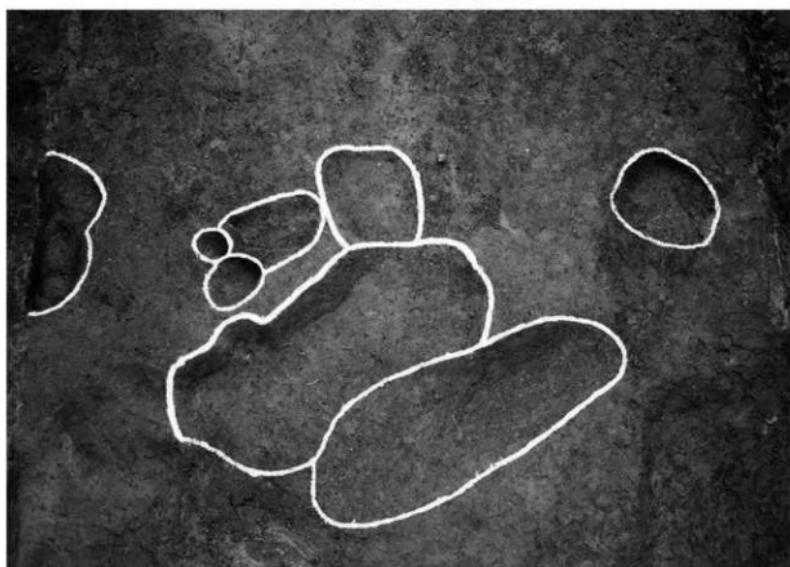
1

調査  
遺構

査



1. 第1遺構面 完掘状況（西から）



2. 第2遺構面 完掘状況（東から）



1. 第3遺構面 西側完掘状況（北から）



2. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構1・2完掘状況（南から）

1990

1

調査  
遺構

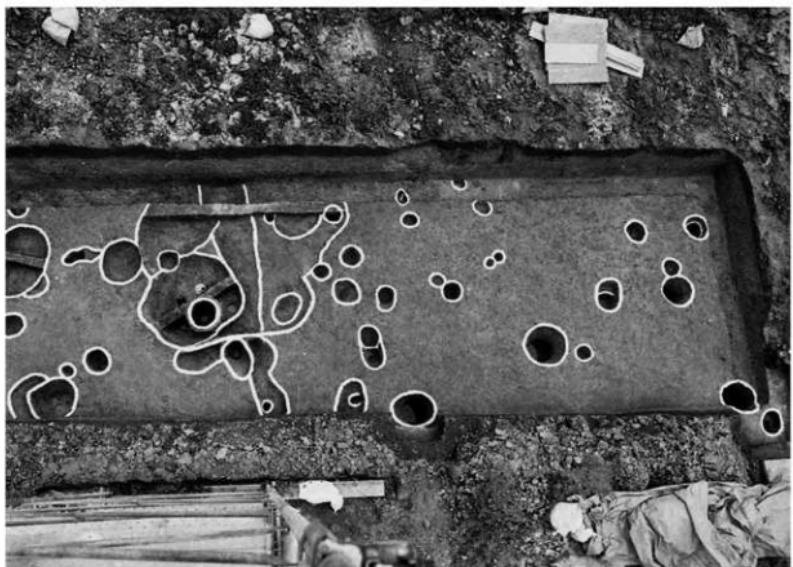
査



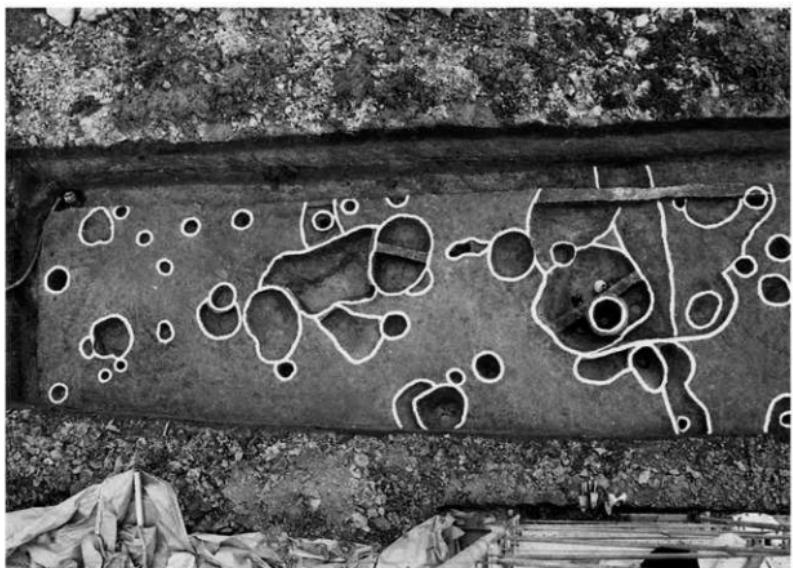
1. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構1完掘状況（南から）



2. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構2完掘状況（北から）



1. 調査区西半 完掘状況（北から）



2. 調査区東半 完掘状況（北から）

1992

1

調査  
遺構

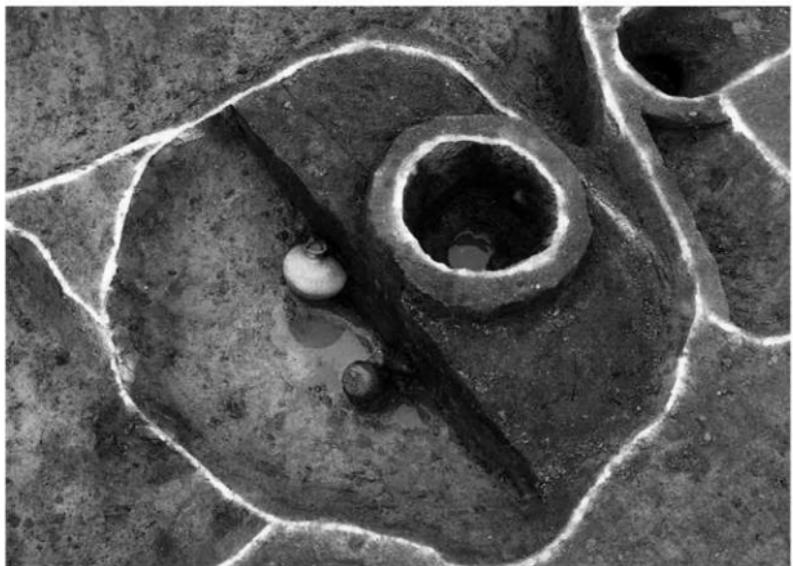
査



1. 調査区南壁 土層断面



2. S P 3遺物出土状況（北から）



1. SK 2遺物出土状況（北から）



2. SK 2遺物出土状況（東から）

1992

2

調査  
構

査



1. 調査区南壁  
土層断面（北から）



2. 調査区西半  
完掘状況（南から）



3. 調査区東半  
完掘状況（南から）

1992  
3調査  
構遺

1. 調査区南壁  
土層断面（北から）



2. 調査区  
完掘状況（北から）



3. 調査区中央部  
完掘状況（北から）



1997

1

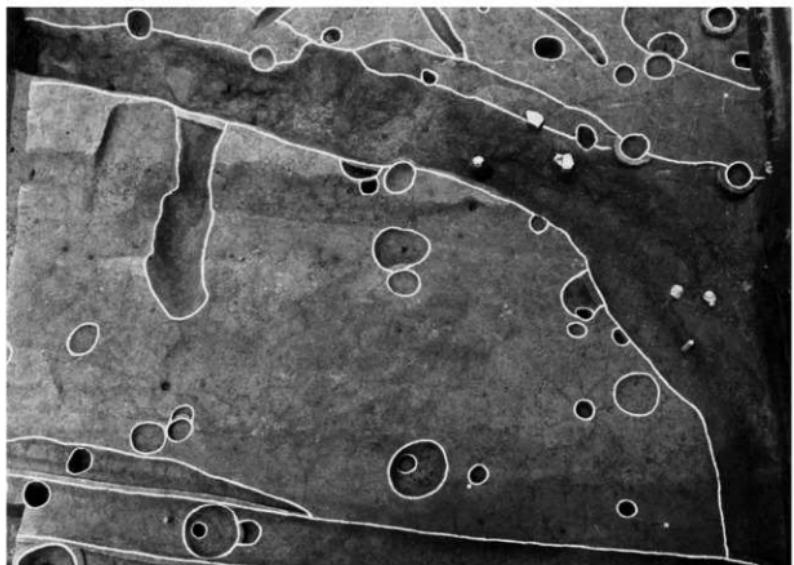
調査  
構



1. 調査区 完掘状況（東から）



2. 調査区 完掘状況（西から）



1. SD 18 完掘状況（東から）



2. SD 9・10・11 完掘状況（南から）

2001

1

調査  
構遺



1. B区 完掘状況（南から）



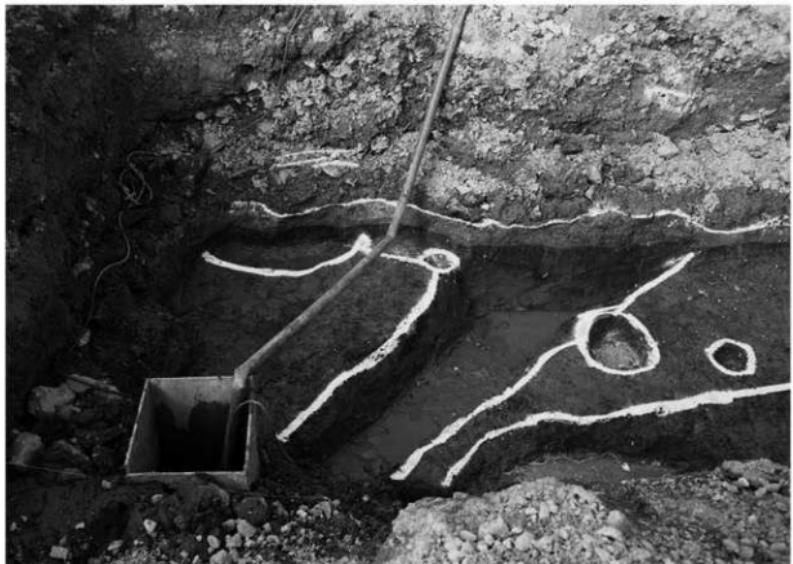
2. C区 完掘状況（西から）

2007

1

調査  
構遺

1. 調査区東側 完掘状況（南から）



2. 調査区西側 完掘状況（南から）



1. A区 遺構完掘状況（垂直・上が北）



2. A区 遺構完掘状況（東から）

2016

1

調査  
遺構

査



1. A区 遺構完掘状況（西から）



2. A区 北壁土層断面（南から）

2016

1

調査  
構遺

査



1. A区 2605 土坑・2618 溝土層断面（北西から）



2. A区 2623 竪穴建物・2610 溝土層断面（西から）

2016  
1調査  
構遺調

1. A区 2623 積穴建物完掘状況（北から）

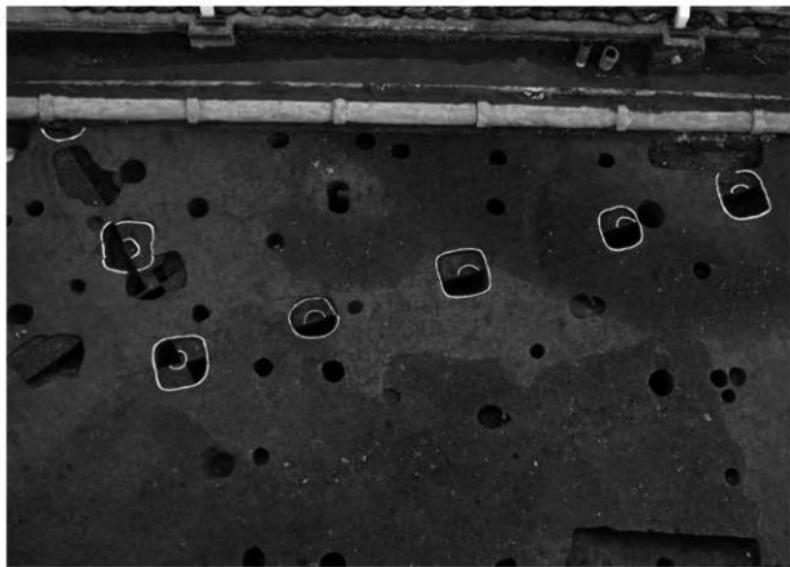


2. A区 2623 ~ 2628 積穴建物完掘状況（南から）

2016

1

調査  
遺構



1. A区 2631 挖立柱建物検出状況（南から）



2. A区 2632 挖立柱建物検出状況（南東から）

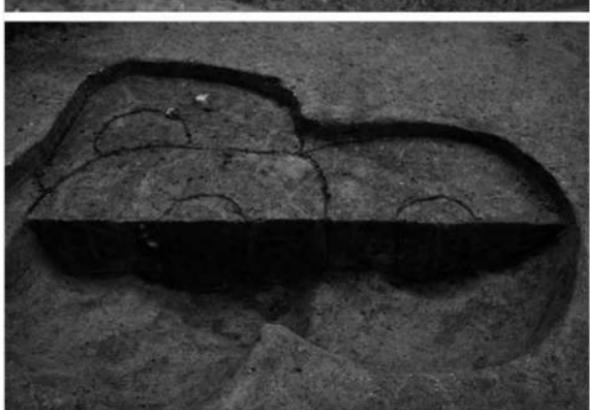
1. A区 2631 挖立柱  
建物 (2474 ピット)  
土層断面 (南から)



2. A区 2631 挖立柱  
建物 (2475 ピット)  
土層断面 (南から)



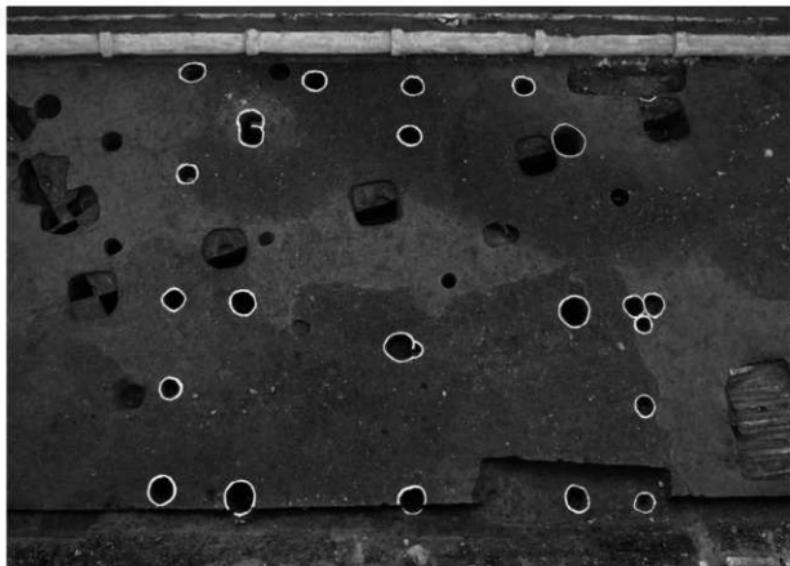
3. A区 2632 挖立柱  
建物 (2496 ~ 2498  
ピット) 土層断面  
(南東から)



2016

1

調査  
構遺



1. A区 2629・2630 掘立柱建物完掘状況（南から）



2. A区 2621 井戸 碓検出状況（西から）

2016  
1  
調査  
構遺調



1. A区 2621 井戸 井戸側検出状況（東から）



2. A区 2621 井戸 井戸枠内完掘状況（東から）

2016

1

調査  
構遺

査



1. B区 完掘状況（南から）



2. B区 完掘状況（北から）

2016  
1  
調査  
査



1. C区 完掘状況（南東から）



2. D区 完掘状況（東から）

2016

1

調査  
構遺調



1. D区 完掘状況（西から）



2. C区 南壁土層断面（北西から）



1. C区 963・964 土坑遺物出土状況（北東から）



2. C区 1327 方形周溝墓遺物出土状況（北から）

2016

1

調査  
構遺



1. C区 1327 方形周溝墓遺物出土状況（南から）



2. C区 1327 方形周溝墓遺物出土状況（東から）

1. C区 457土坑  
遺物出土状況  
(西から)



2. C区 463土坑  
遺物出土状況  
(南西から)



3. C区 877土坑  
遺物出土状況  
(東から)



2016

1

調査  
遺構

査



1. D区 1632 土坑遺物出土状況（南西から）



2. D区 1632 土坑遺物出土状況（南東から）

2016  
1調査  
構遺調

1. C区 406 土器棺墓検出状況（東から）



2. C区 406 土器棺墓検出状況（南から）

2016

1

調査  
遺構

査



1. C区 1036 土器棺墓検出状況（南から）



2. B区 1414 土器棺墓検出状況（南から）

2016  
1調  
遣  
構  
査

1. C区 1324 積穴建物完掘状況（南から）



2. C区 1322 堀立柱建物検出状況（南から）

2016

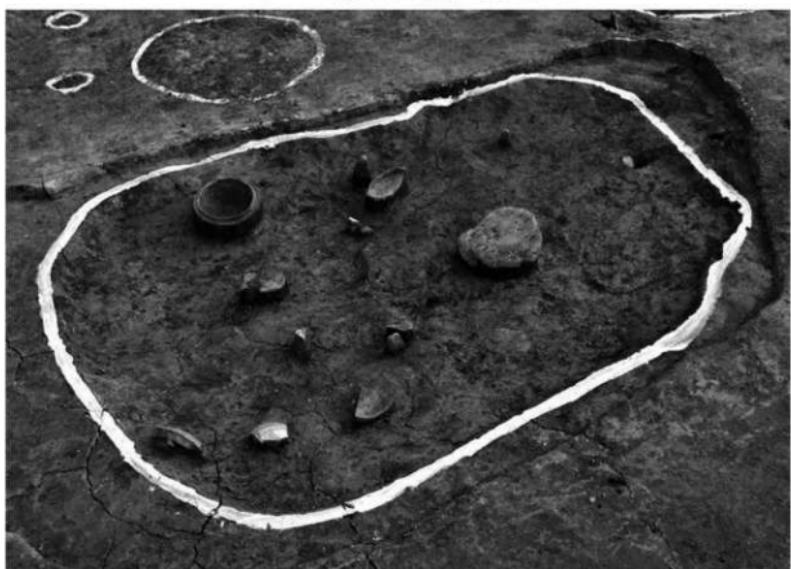
1

調査  
構遺調

査



1. C区 1320 方形周溝墓遺物出土状況（北から）



2. C区 697 土坑遺物出土状況（北から）

2017  
1調査  
構遺

1. A区 完掘状況（垂直・北が上）



2. A区 南壁土層断面（北東から）

2017

1

調査  
構遺調

査



1. A区 10溝上層遺物出土状況（南から）



2. A区 10溝下層遺物出土状況（南東から）



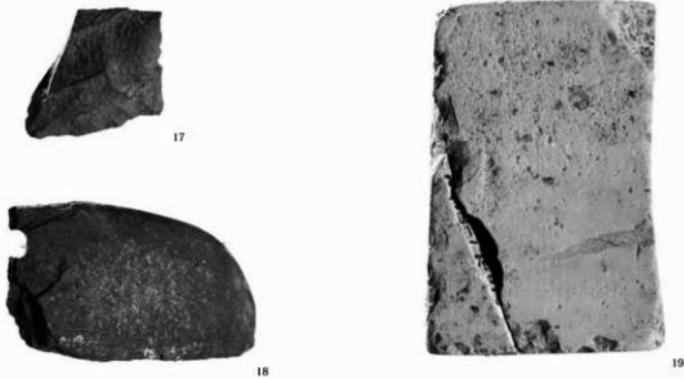
1. A区 18 土器棺墓検出状況（南から）



2. B区 完掘状況（西から）

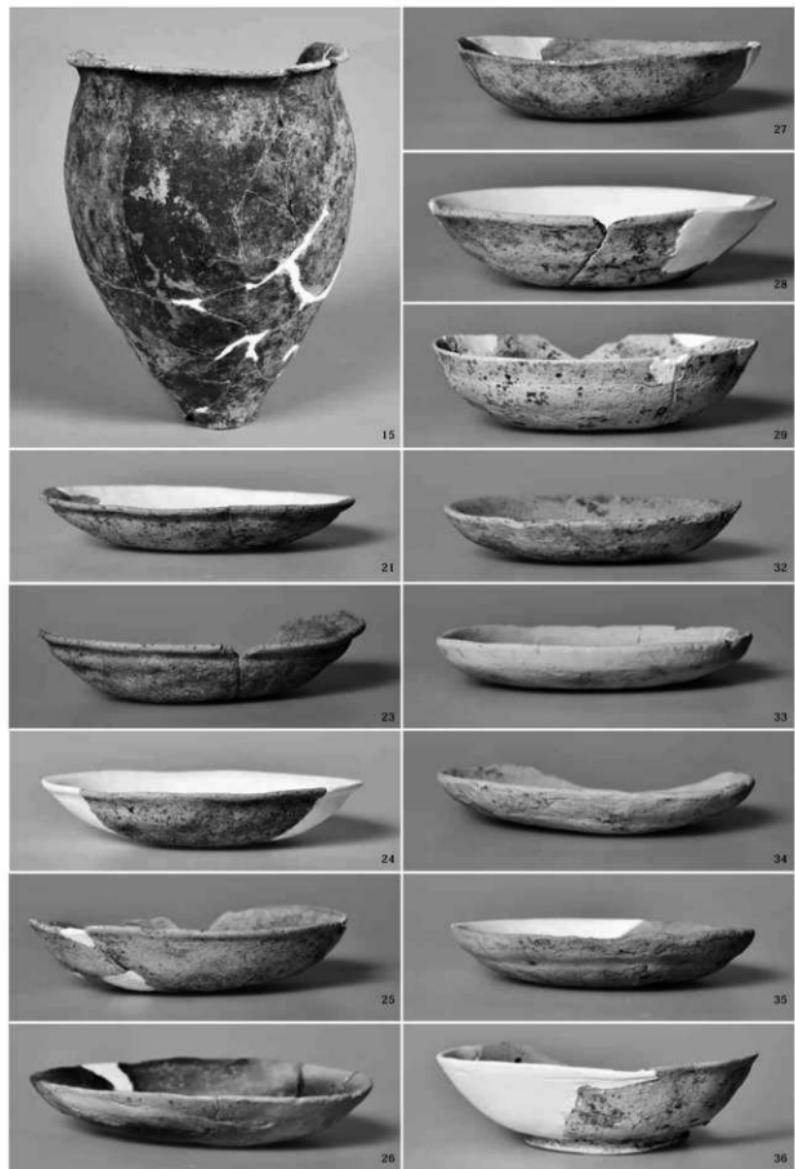
1978  
1調出土  
遺  
物

1. A区 溝1出土遺物



2. A区 溝1出土遺物

1978  
1  
調出土  
遺物



1. A区 溝1・D区 井戸1出土遺物

1978  
1調出土  
遺物

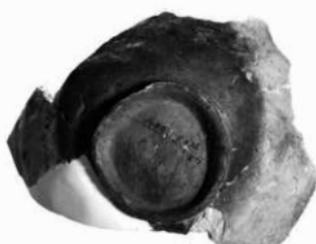
1. D区 井戸1・包含層出土遺物

1978  
1調出土  
査  
物

20



42



43



46

1. D区 井戸1出土遺物



62



63



65



66



67



68



69



71



72

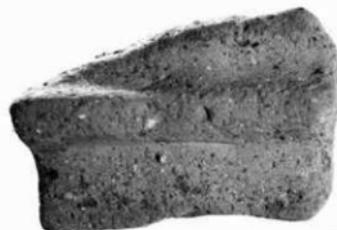


73

2. B区 包含層出土遺物

1978

1

調出土  
查  
物

80



75



74

1. B区 包含層出土遺物

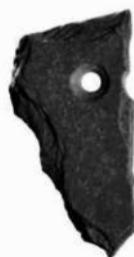


2. C区 包含層出土遺物

1978  
1  
80  
→ 2 調査  
出土  
遺物



105

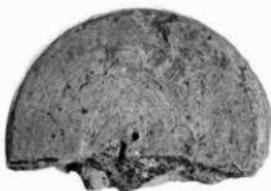


106

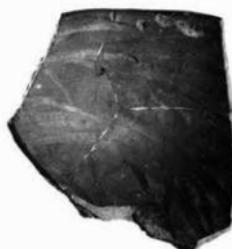


107

1. C区 包含層出土遺物



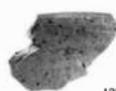
122



127



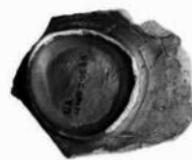
130



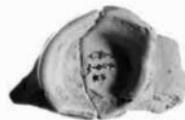
129



125



128



131

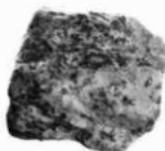
2. 井戸 1 出土遺物

1980

2

調出土  
遺

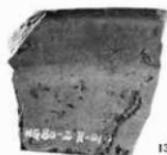
物



132



135



137



133



134



136

1. 井戸 2 出土遺物



141



143



142

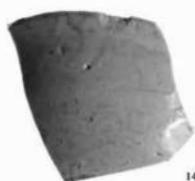
2. 落ち込み 1 出土遺物

1980  
21985  
1 調査

出土

遺

物



147



149



155



151



156

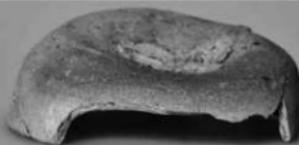
## 1. 包含層出土遺物



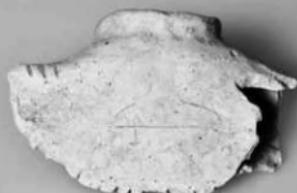
140



153



175



157

## 2. 井戸 3・包含層出土遺物

1985

1

調出土  
查

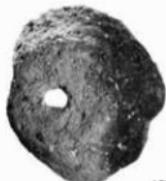
物



158



160



159



162



163

1. 出土遺物



164



165



170

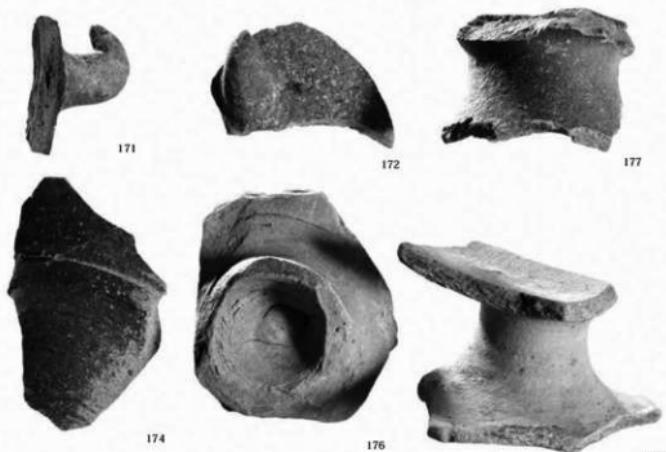


169

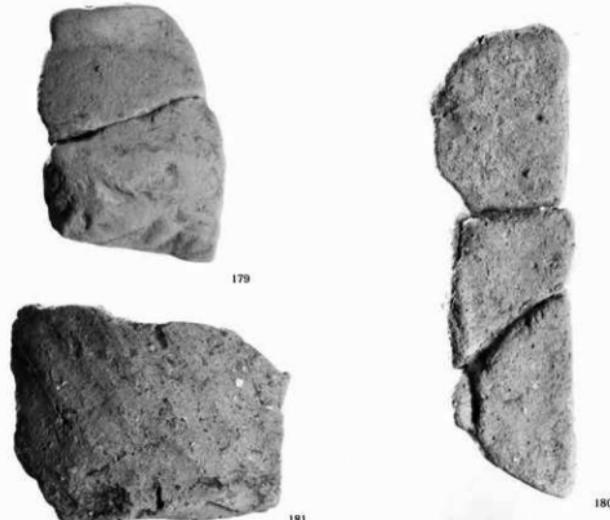


173

2. 出土遺物



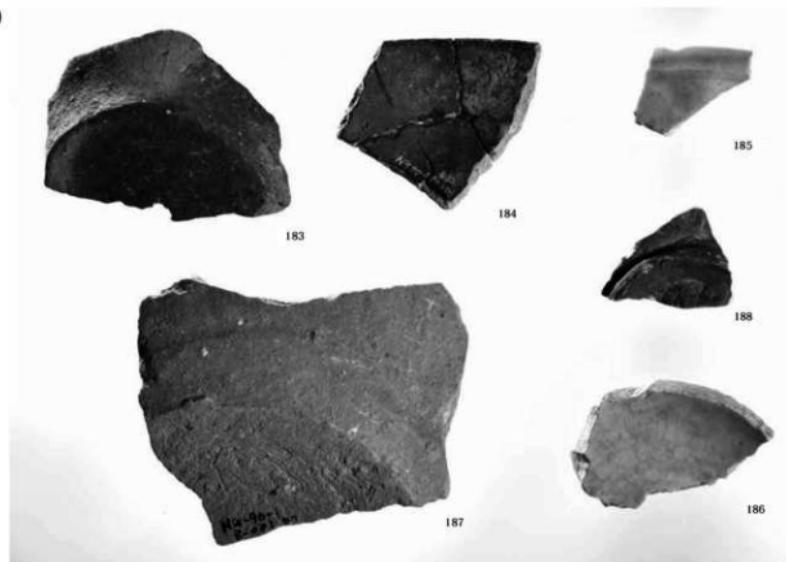
1. 出土遺物



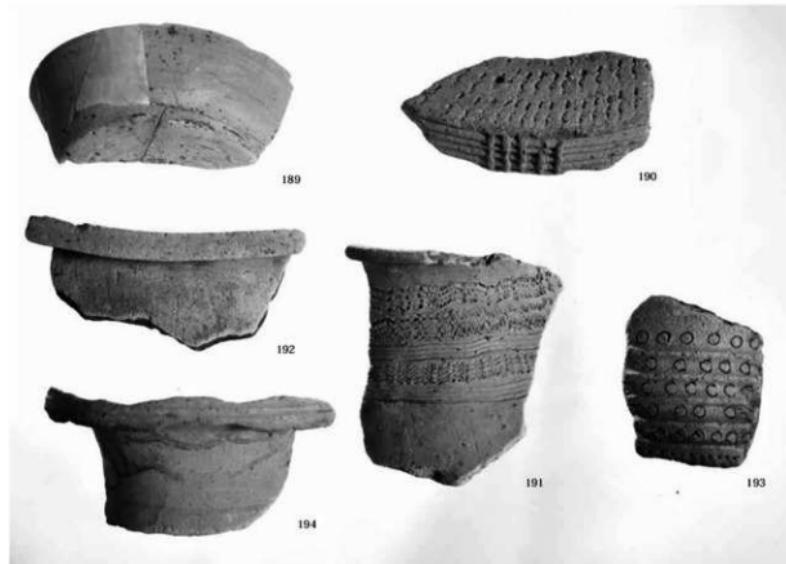
2. 出土遺物

1990  
1調出土  
遺

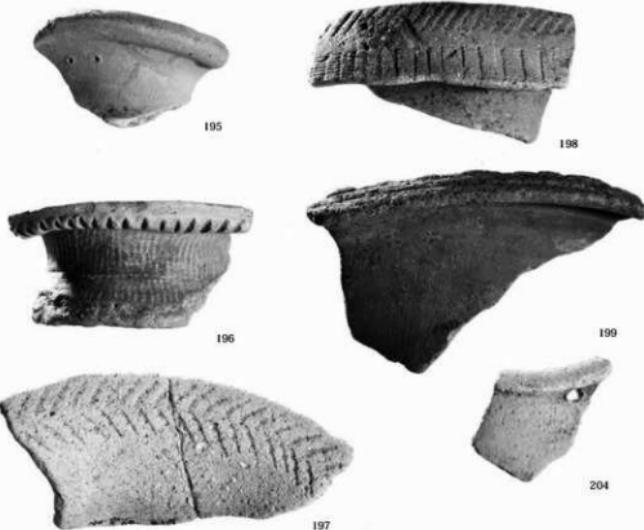
物



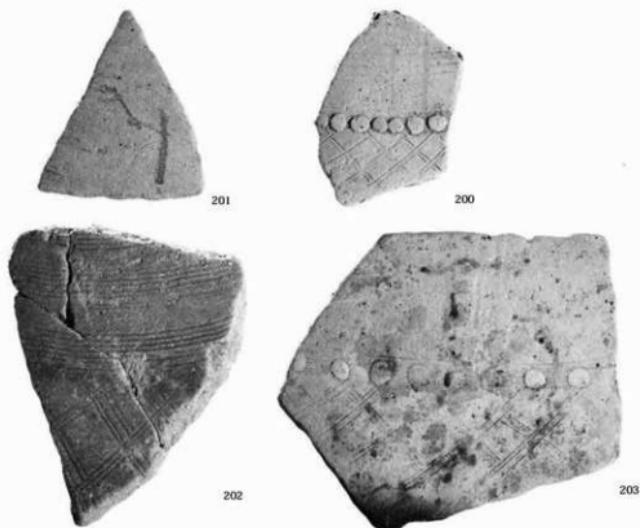
1. 第1遺構面 遺構出土遺物



2. 第2遺構面 遺構出土遺物

1990  
1調出土  
査  
物

1. 第3遺構面 SD 6出土遺物



2. 第3遺構面 SD 6出土遺物

1990

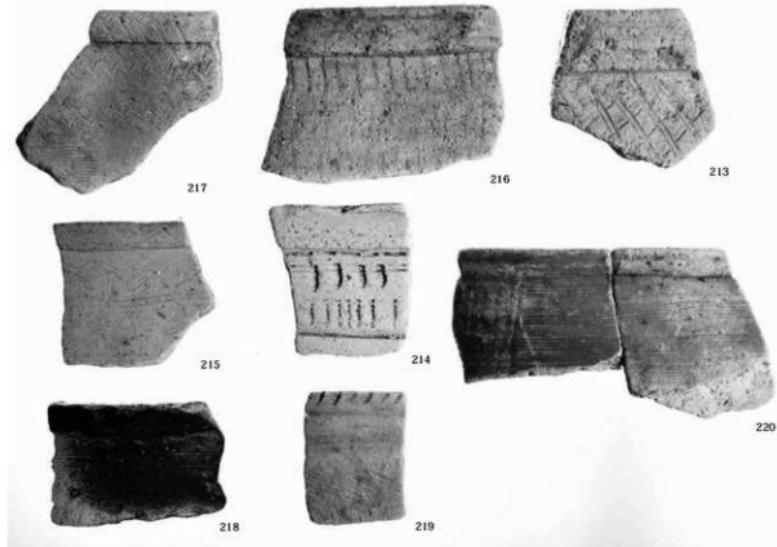
1

調出土  
査

物



1. 第3遺構面 SD 6出土遺物



2. 第3遺構面 SD 6出土遺物



221



226



225

1. 第3遺構面 SD 6出土遺物



227



233



228



231



230

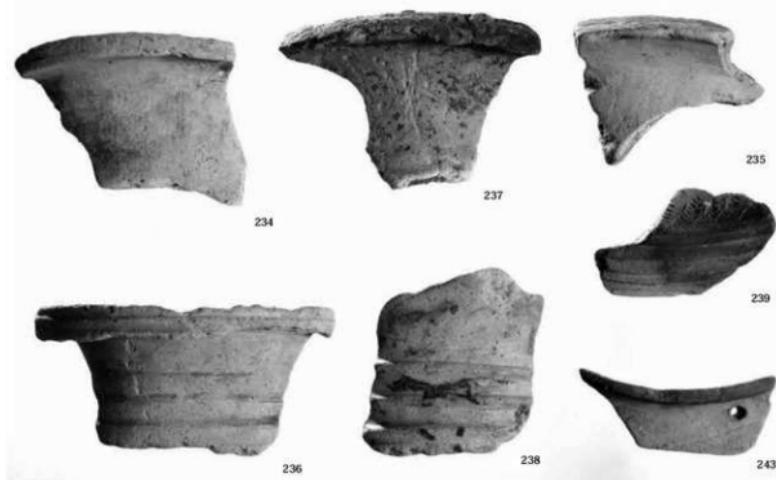


232

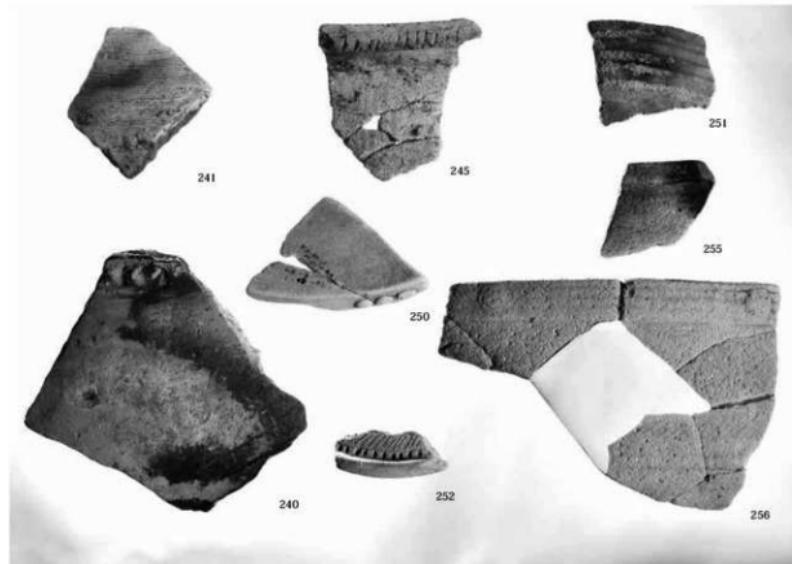
2. 第3遺構面 SD 7出土遺物

1990  
1調出土  
遺

物

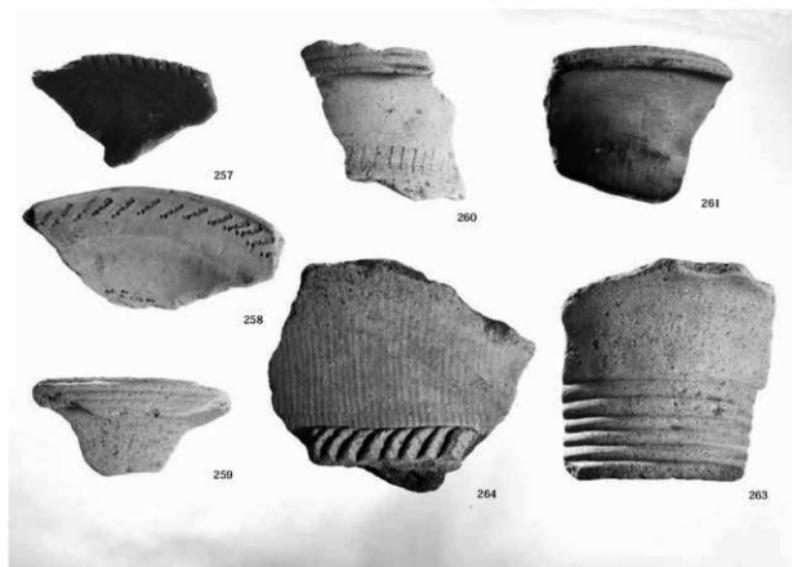


1. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構1・2出土遺物

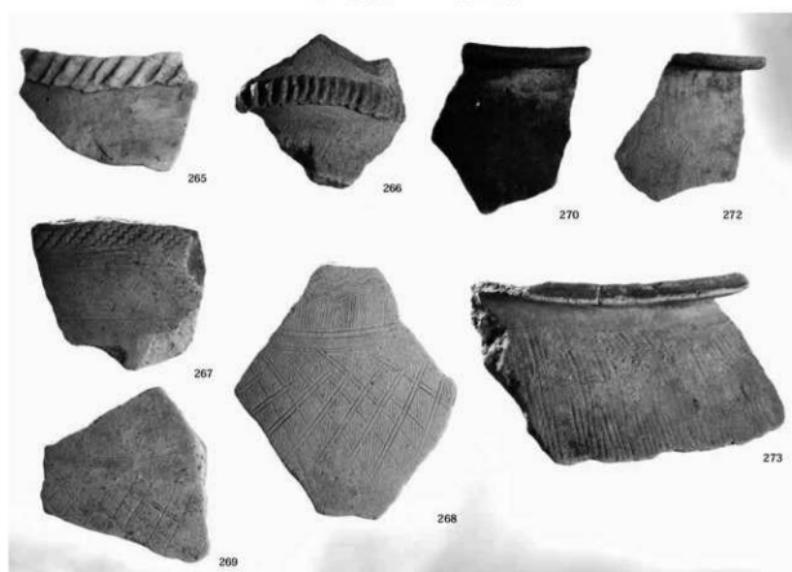


2. 第3遺構面 方形周溝墓状遺構1・2出土遺物

1990  
1  
調出土  
査  
物



1. 第3遺構面 SX 2出土遺物



2. 第3遺構面 SX 2出土遺物

1990

1

調出土

遺

物



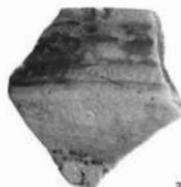
276



280



278



279



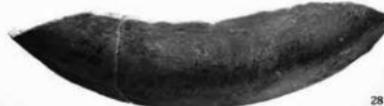
277



286



287



281



285

1. 第3造構面 SX 2出土遺物



290



293



294



291



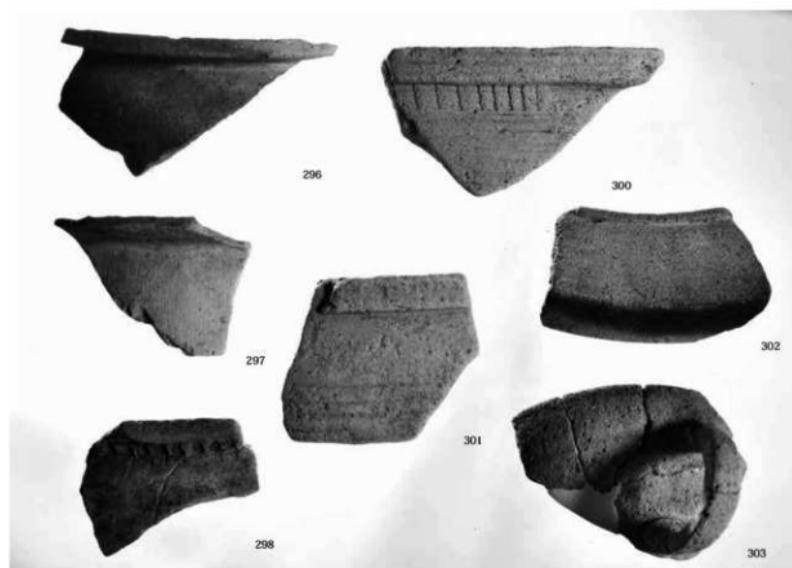
299



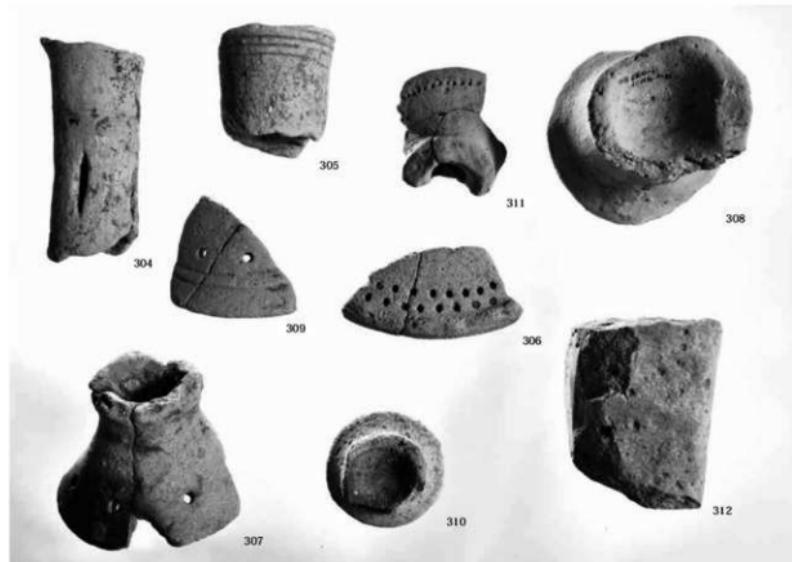
295

2. 包含層出土遺物

1990  
1  
調出土  
遺物

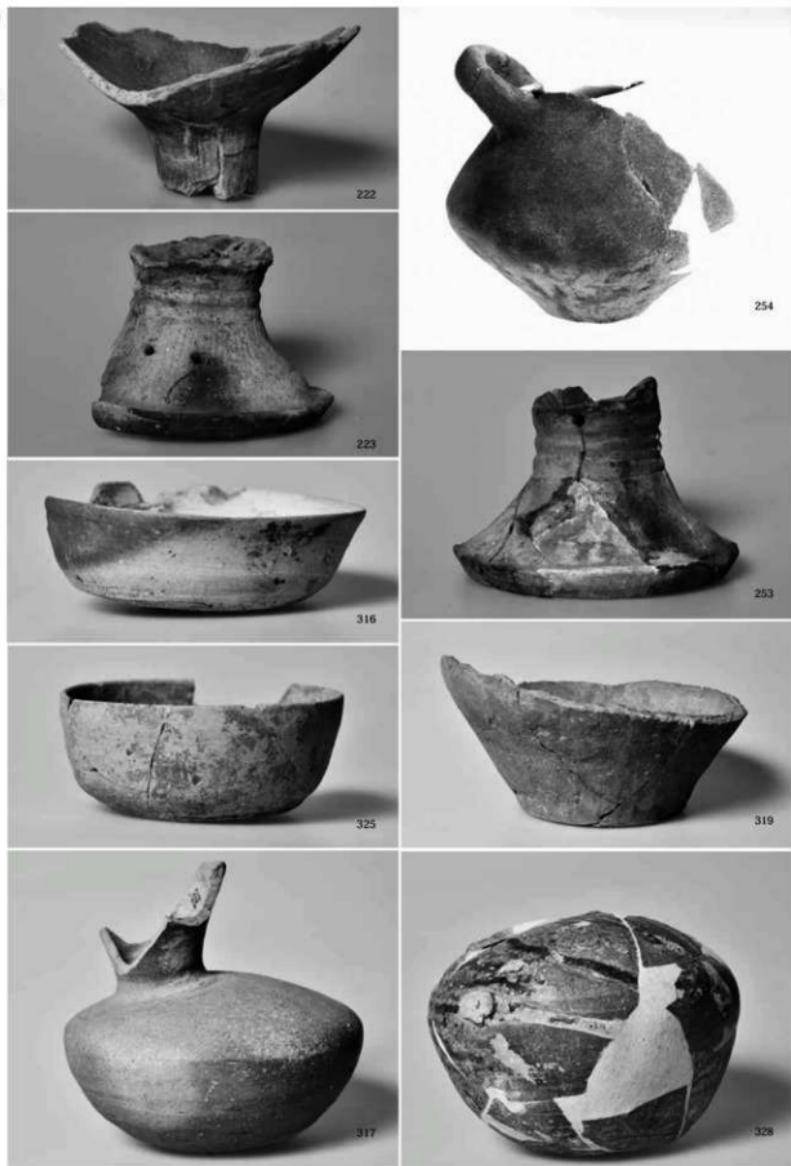


1. 包含層出土遺物

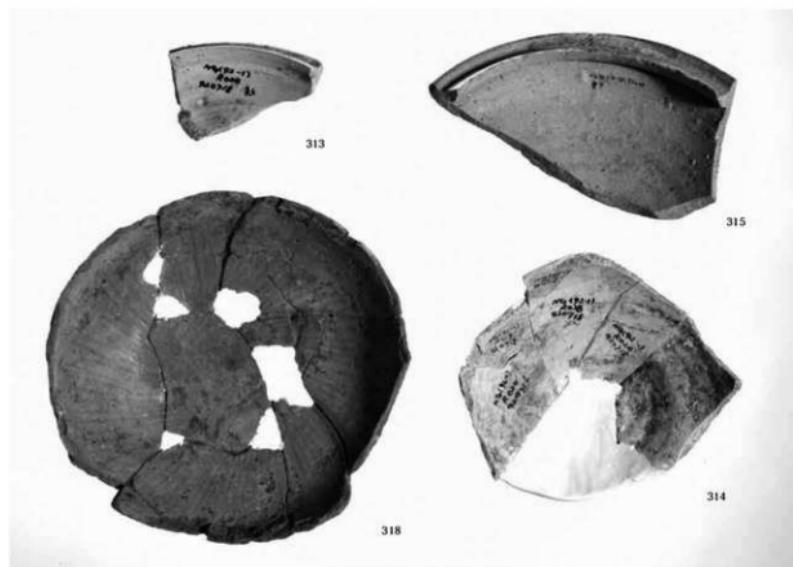


2. 包含層出土遺物

1990  
1  
1992  
1  
調査  
出土  
遺  
物



1. 包含層・SK2・SP3出土遺物



1. SK1・SK2出土遺物



2. SP3・SP5・SP9出土遺物

1992

1

1992

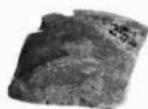
2

調

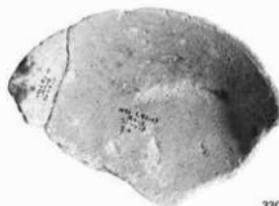
遺土

遺

物



323



330



331



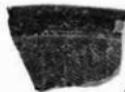
324



329



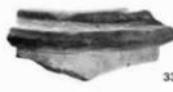
332



326



327



333

## 1. 包含層出土遺物



334

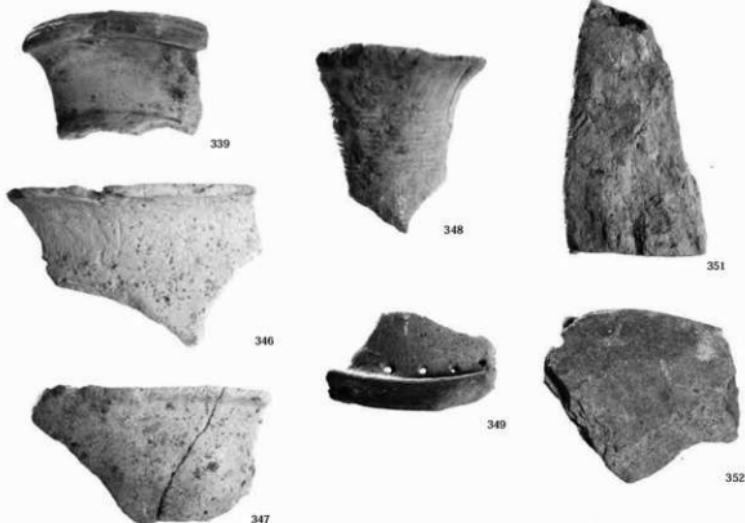


336

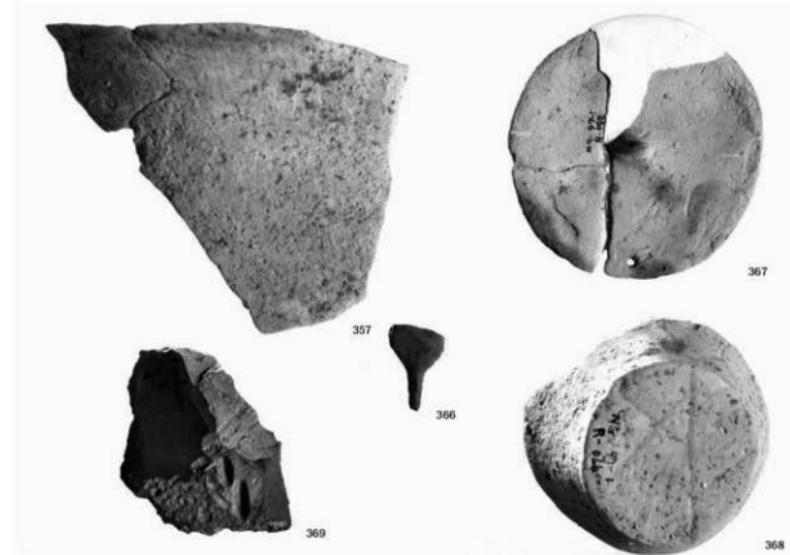


335

## 2. SD 1 · 包含層出土遺物

1997  
1調出土  
査  
物

1. SD 18 出土遺物



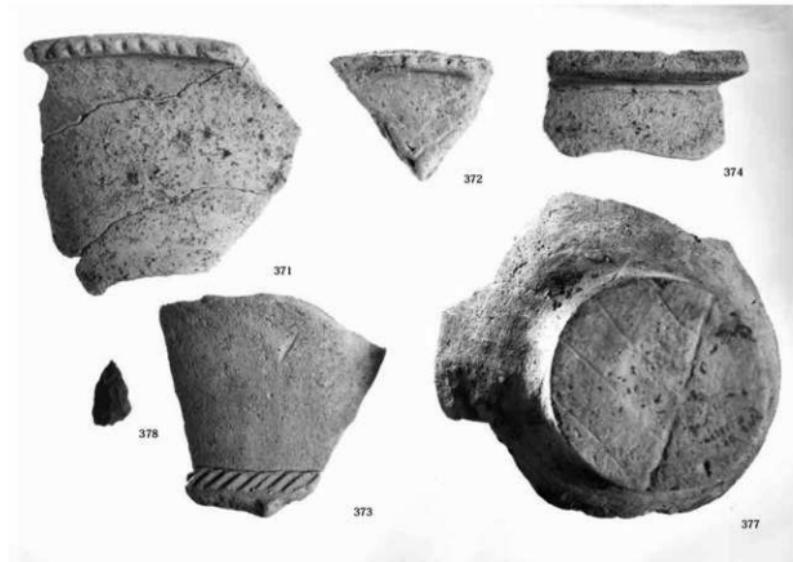
2. SD 17・SK 6・SP 71・SP 95・SK 134 出土遺物

1997  
1調出土  
遺

物



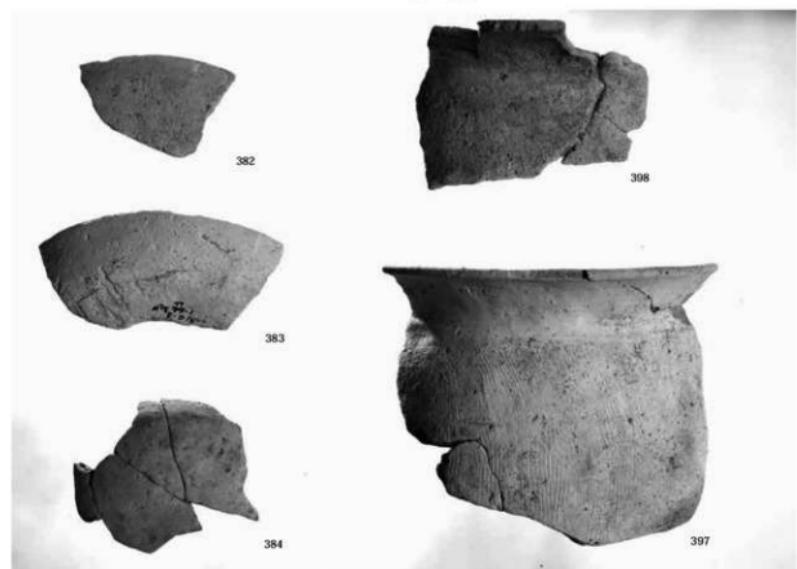
1. SK 6 出土遺物



2. SX 1 出土遺物



1. SK 4 出土遺物

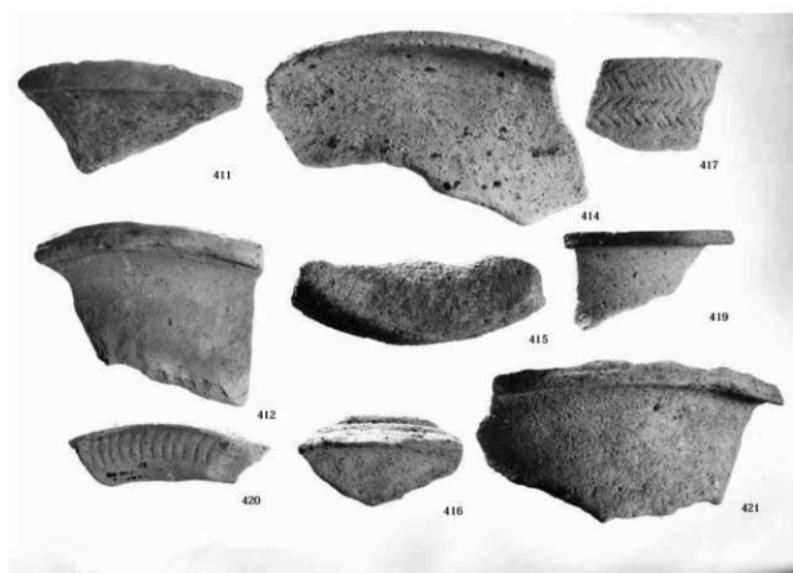


2. SK 4 出土遺物

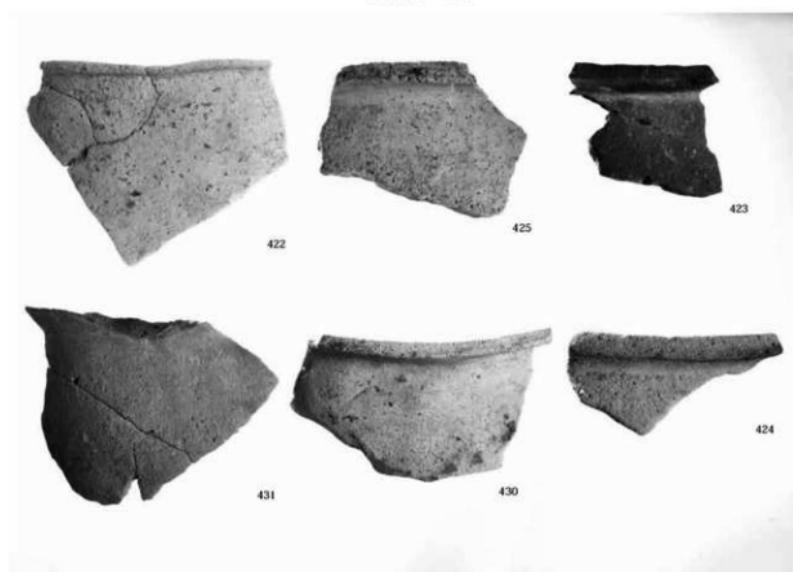
1997  
1調出土  
遺物

1. SD 17 • SD 18 • SK 4 • SK 6 • 包含層出土遺物

1997  
1  
調出土  
遺物



1. 包含層出土遺物



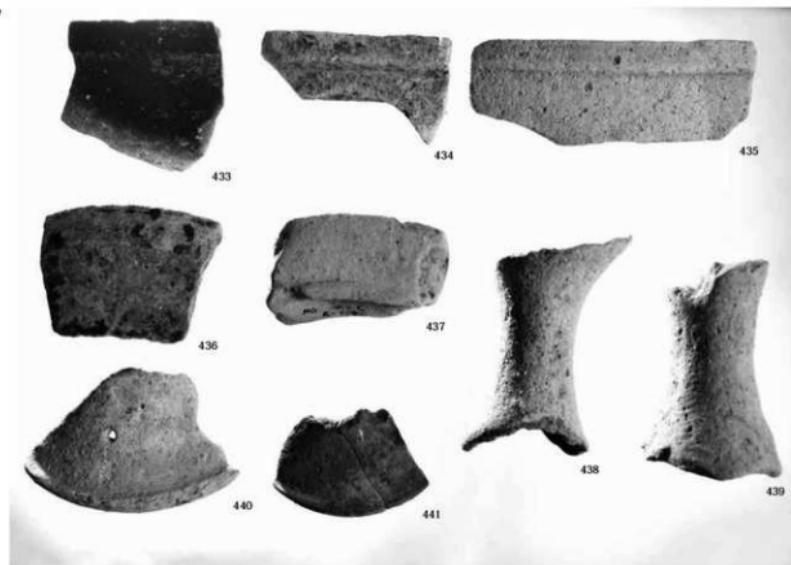
2. 包含層出土遺物

1997  
1

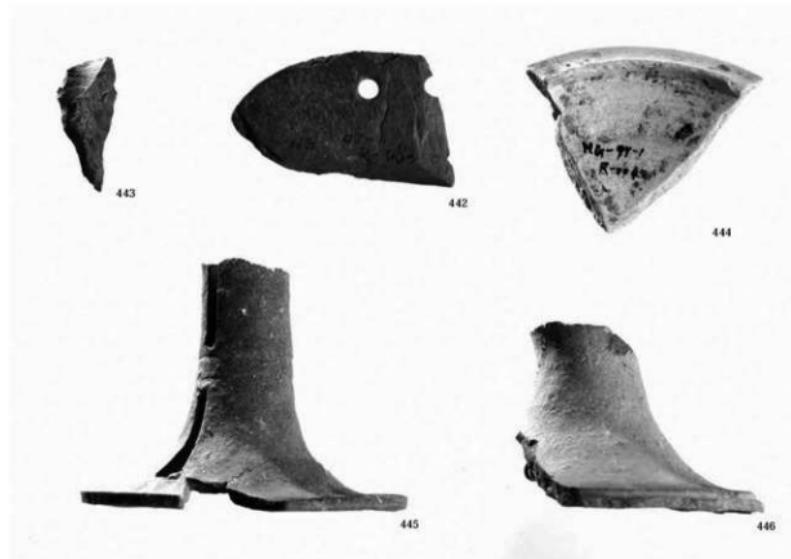
調出土

遺

物



1. 包含層出土遺物



2. 包含層出土遺物

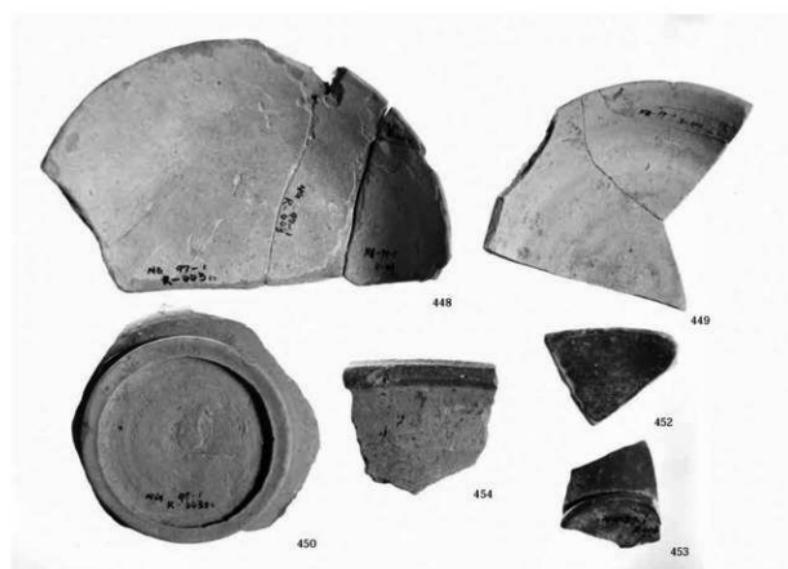
1997  
12001  
1

調査

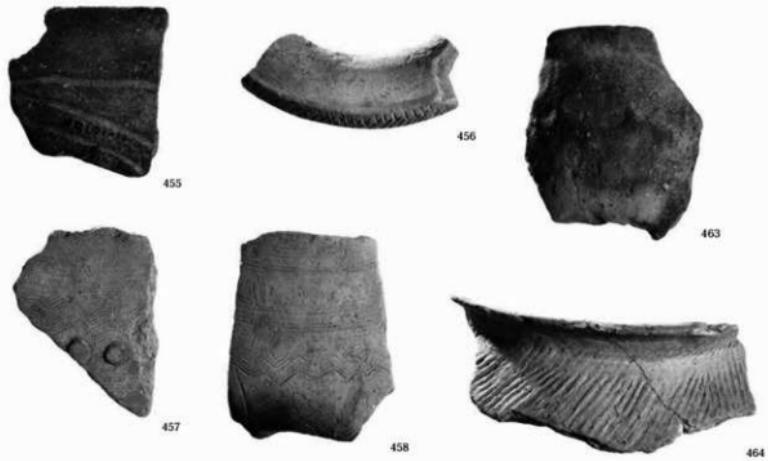
出土

遺

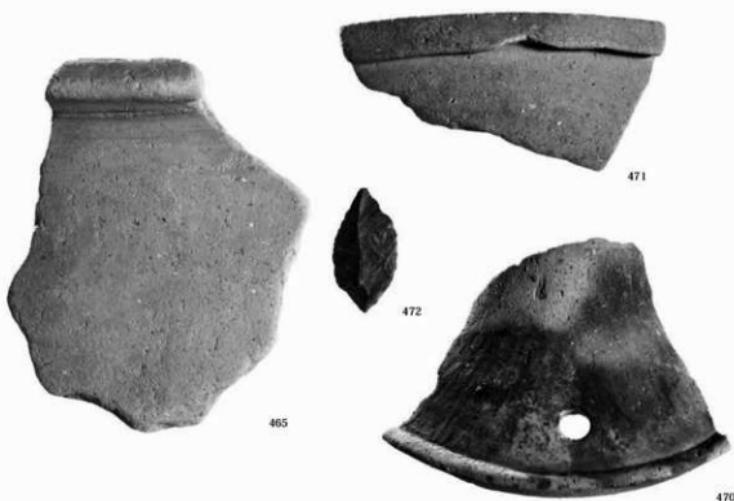
物



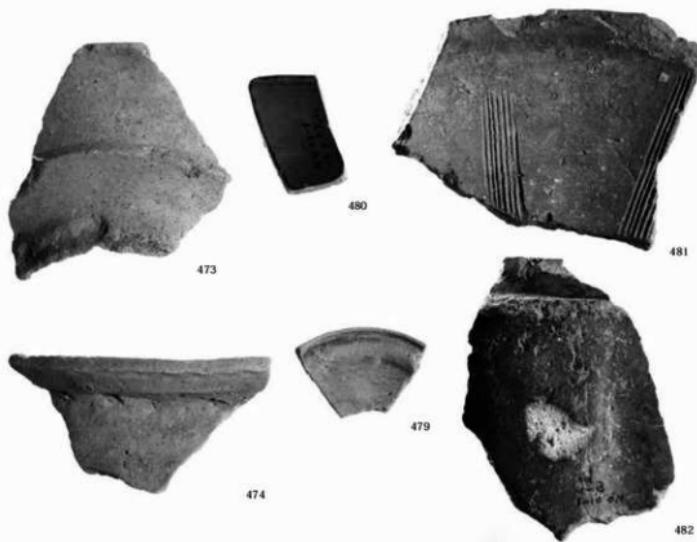
1. 包含層出土遺物



2. 出土遺物

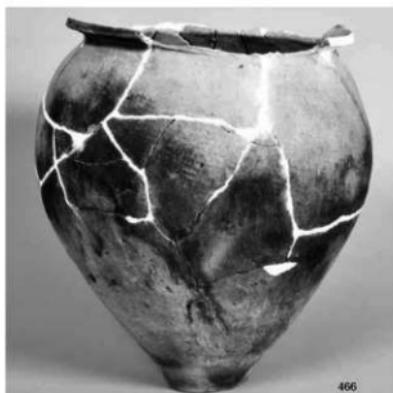
2001  
1調出土  
遺  
物

1. 出土遺物



2. 出土遺物

2001  
1  
2007  
1 調査 出土  
遺物



466



468



467



476



475



494



490



489

2007

1

2016

1

調查

出土

遺

物



483



492



491



486



493

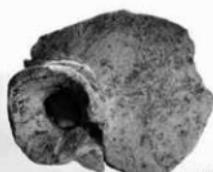
## 1. SP1 · SD7 · 包含層出土遺物



500



507



508

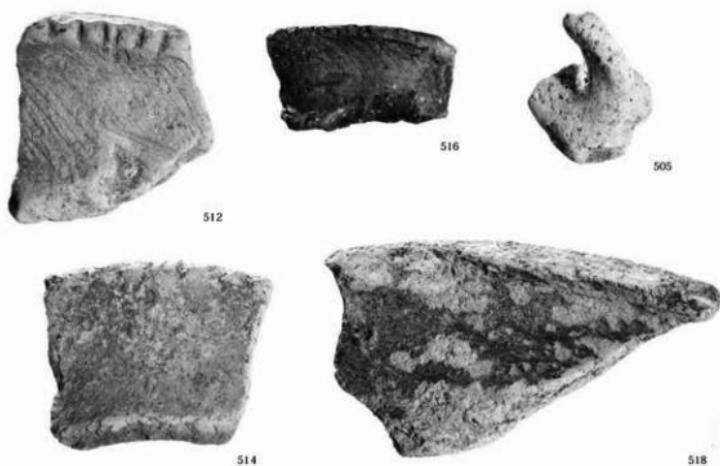


510

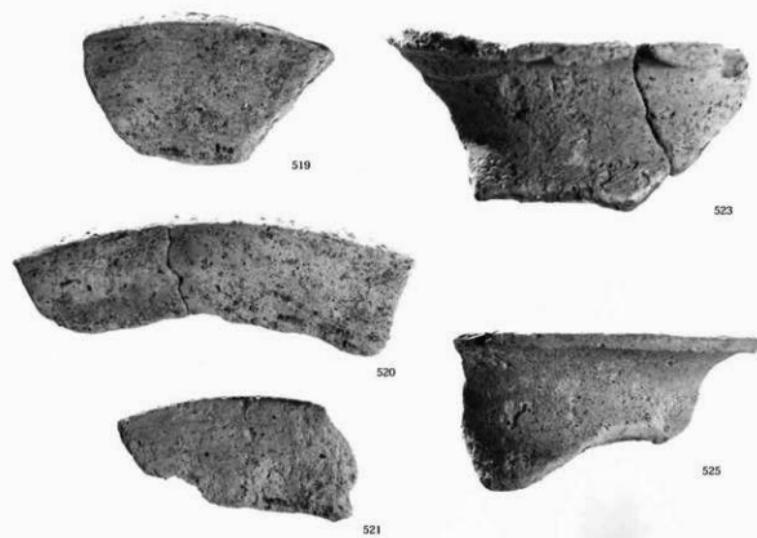
## 2. 2606 土坑 · 2620 溝出土遺物

調出土  
査

物



1. 2616 溝・2622 落ち込み・2623 竪穴建物出土遺物



2. 2610 溝出土遺物

2016

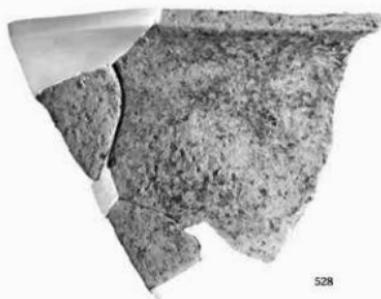
1

調出土  
遺

物



529



528

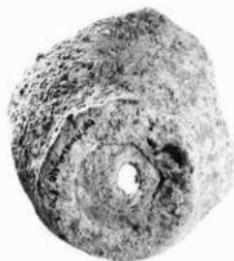


530

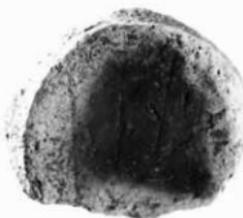


527

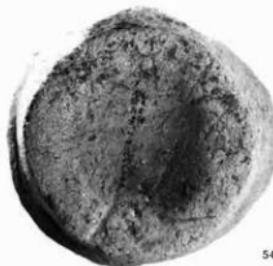
1. 2610 溝出土遺物



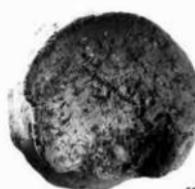
537



543

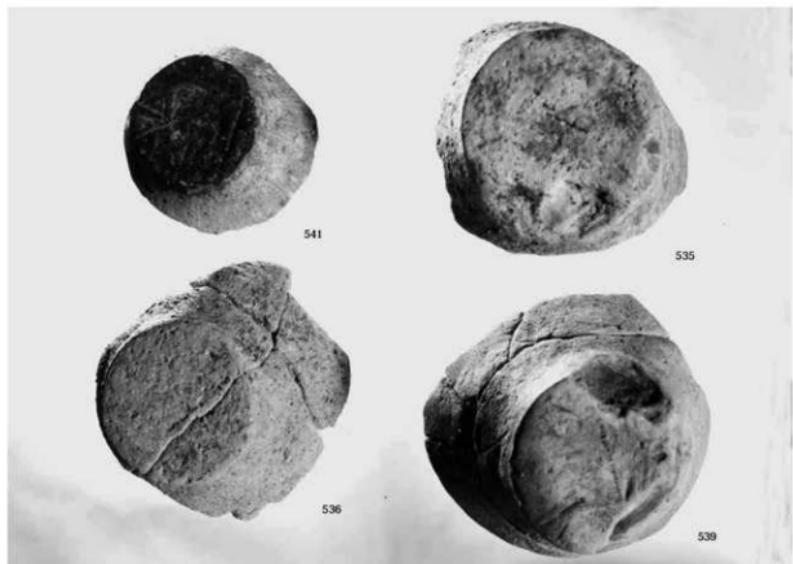


544

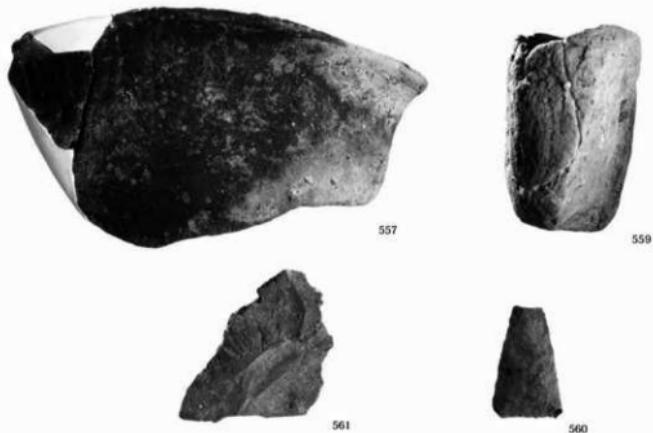


556

2. 2610 溝出土遺物

2016  
1調出土  
查  
物

1. 2610 溝出土遺物

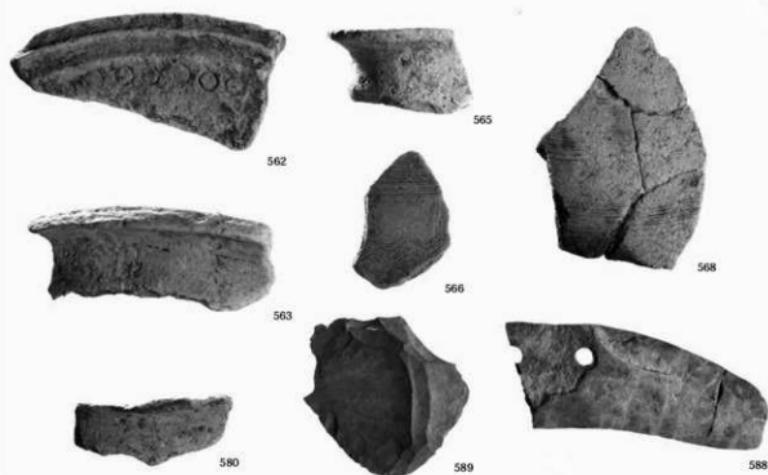


2. 2610 溝出土遺物

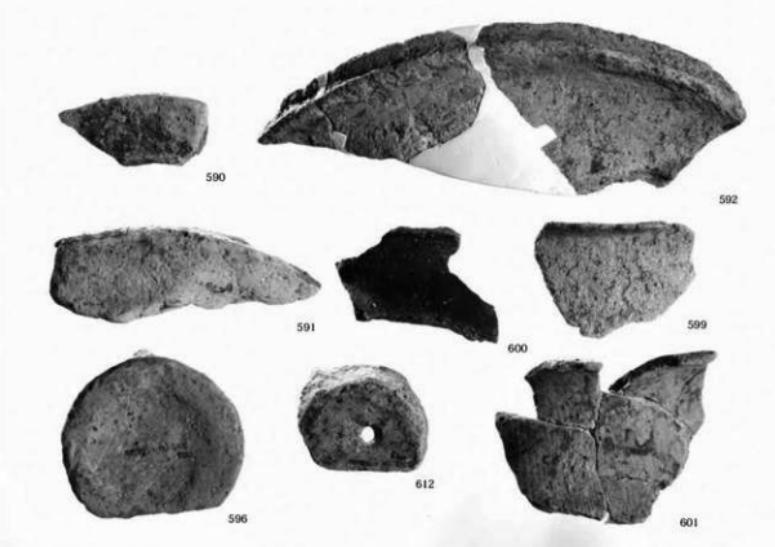
2016  
1調出土  
査  
物

1. 2610 溝・2618 溝・2605 土坑・2439 ピット・2621 井戸出土遺物

調出土  
査  
物



1. 2619 溝出土遺物



2. 2605 土坑出土遺物

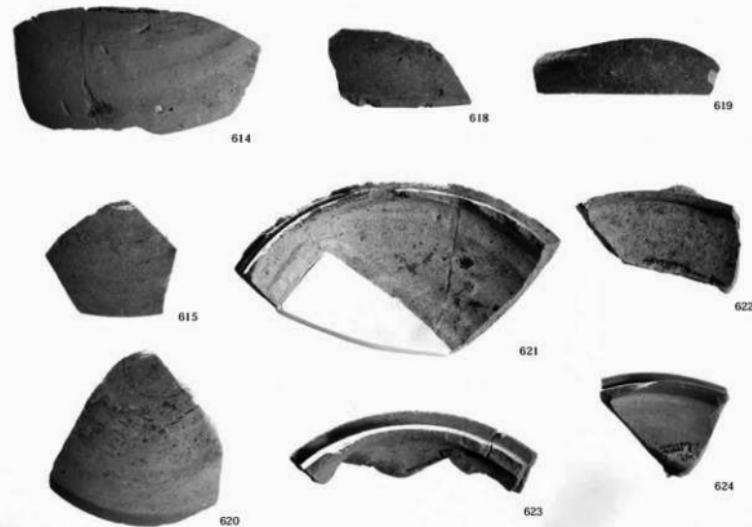
2016

1

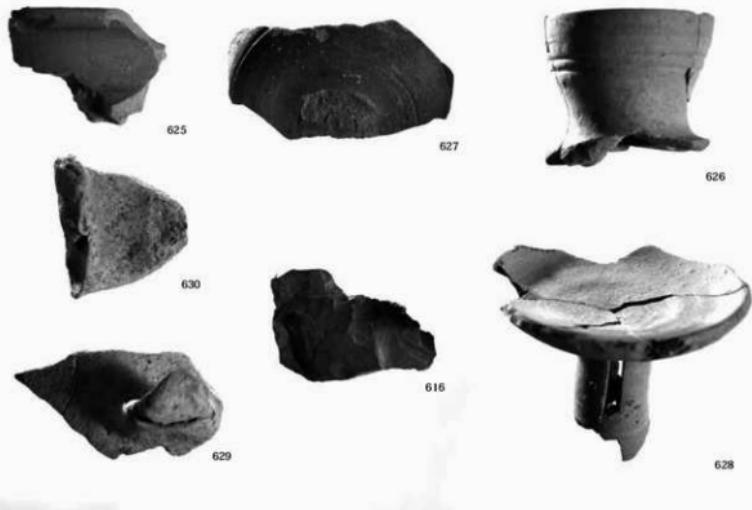
調出土

遺

物



1. 2624・2625 積穴建物出土遺物



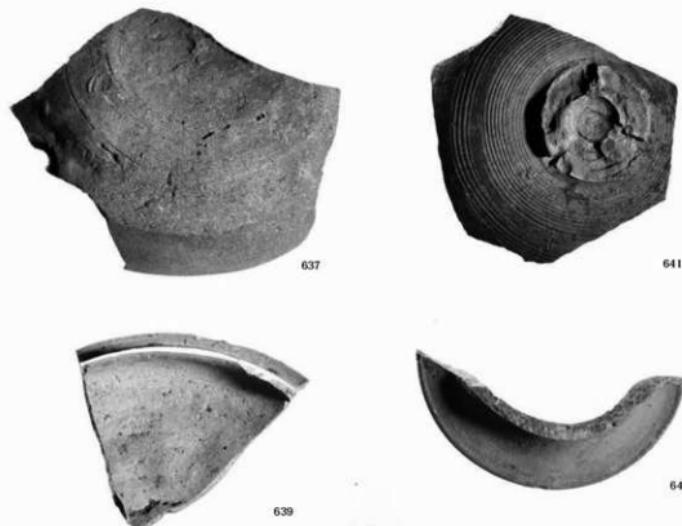
2. 2624・2625 積穴建物出土遺物

調出土  
查

物



1. 2626・2627 穹穴建物出土遺物



2. 2627・2628 穹穴建物出土遺物

2016

1

調出土  
遺

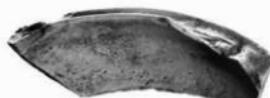
物



643



644



645

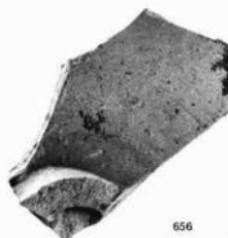


646

1. 2628 穹穴建物出土遺物



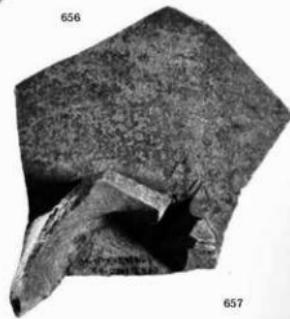
654



656



655



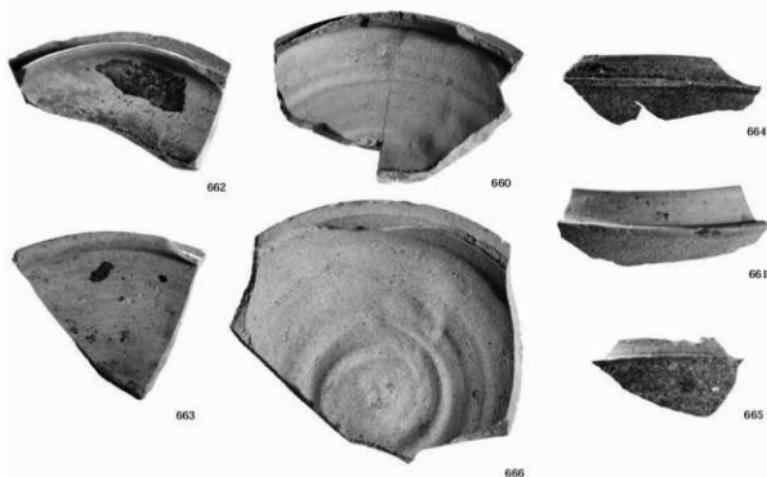
657

2. 2618 溝出土遺物

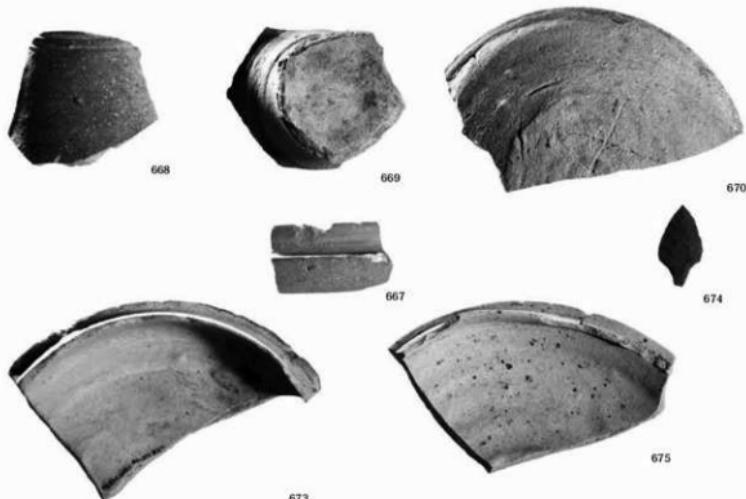
調出土

遺物

物



1. 2612 溝出土遺物



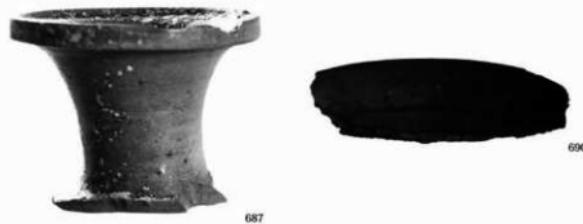
2. 2613 溝・2614 溝・2514 ピット・2494 ピット出土遺物

2016

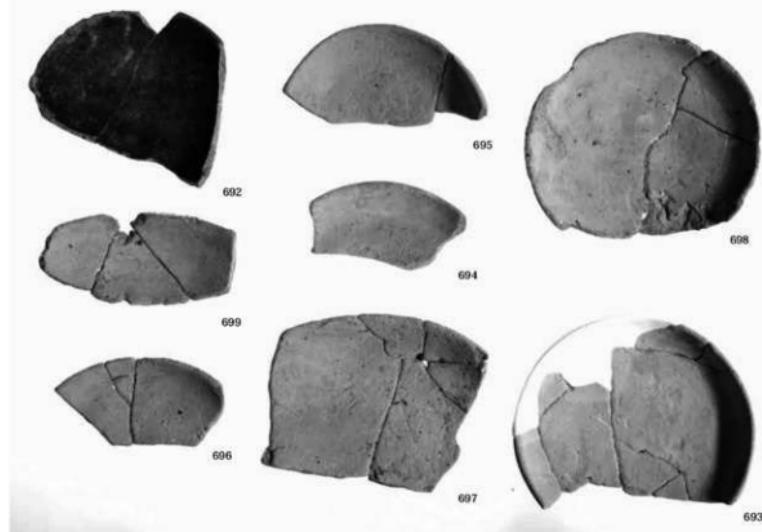
1

調出土  
遺  
物

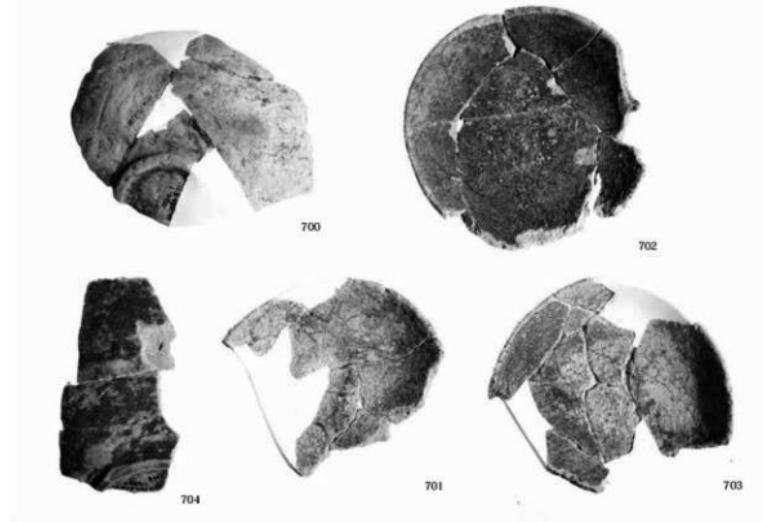
1. 2631 挖立柱建物出土遺物



2. 2621 井戸出土遺物



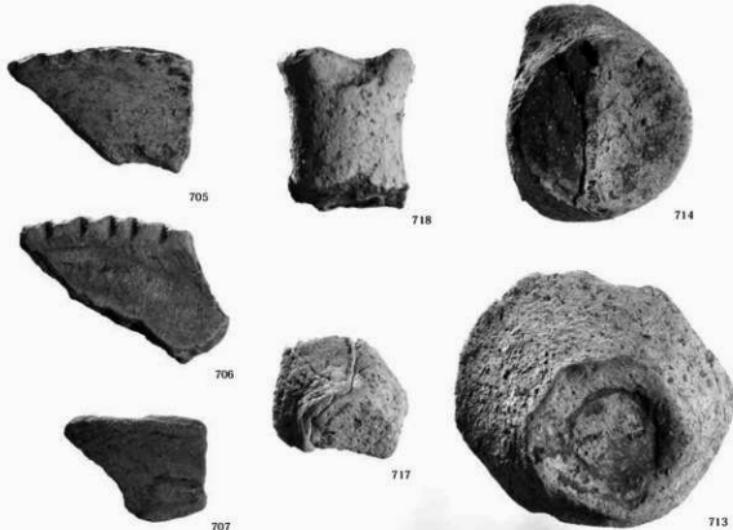
1. 2630 掘立柱建物出土遺物



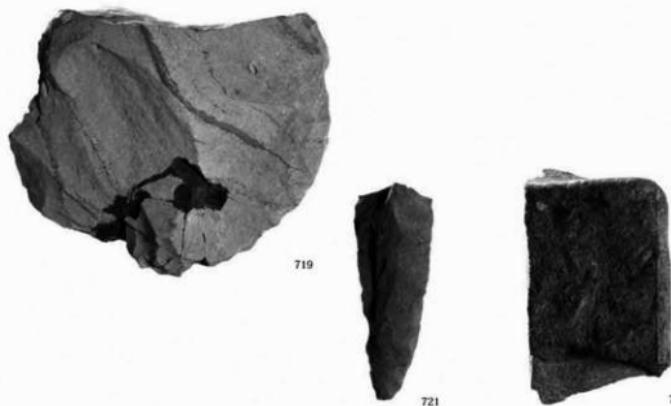
2. 2577 ピット・2578 ピット出土遺物

2016  
1調出土  
遺

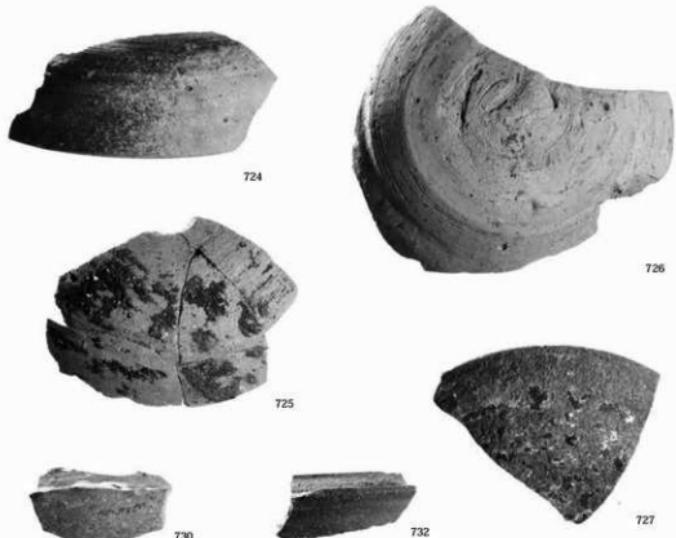
物



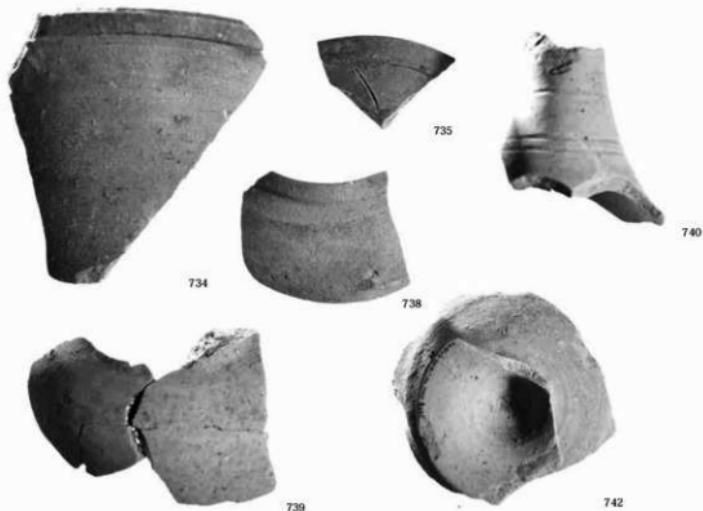
1. 包含層出土遺物



2. 包含層出土遺物



1. 包含層出土遺物



2. 包含層出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物



745



747



743

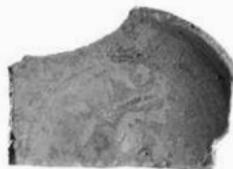


744



746

## 1. 包含層出土遺物



752



751



749



754



755

## 2. 包含層出土遺物



756



763



759



764



766



790



794



795

1. 463 土坑・963 土坑・964 土坑出土遺物

2016

1

調出土  
遺  
物

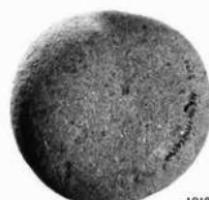
1343



765



1353



1018



853

1. 209 土坑・424 土坑・463 土坑・500 土坑・537 土坑出土遺物



770



767

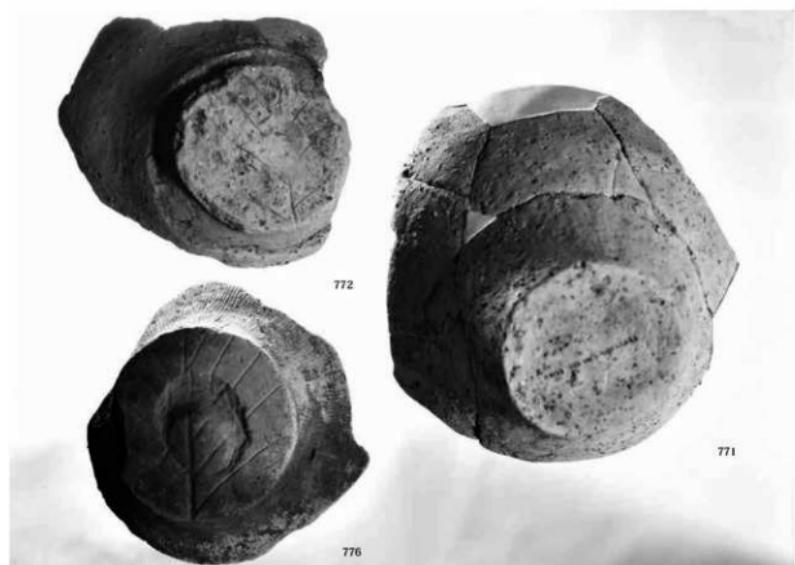


768

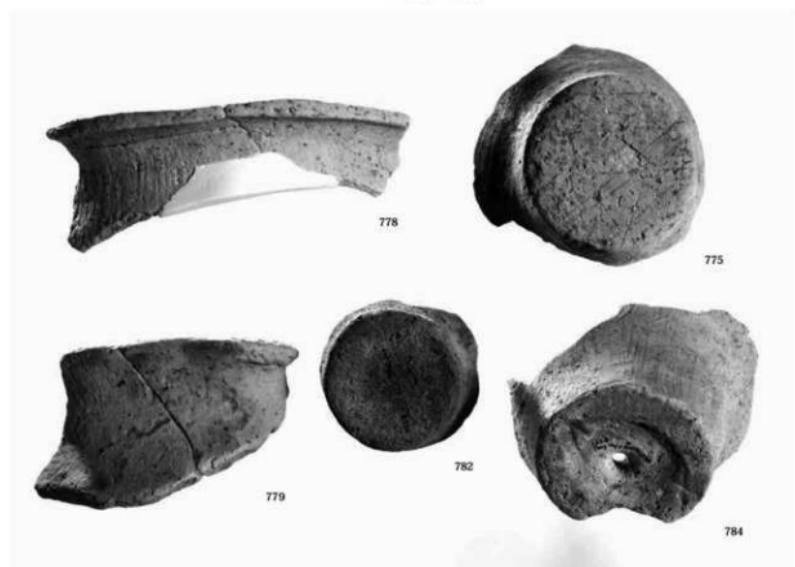


769

2. 963 土坑出土遺物



1. 963 土坑出土遺物



2. 963 土坑出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物



791



792

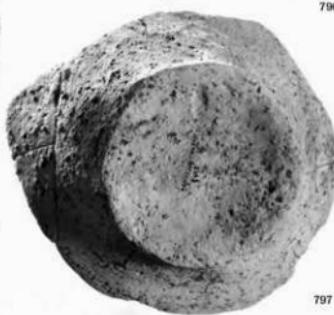
1. 963 土坑出土遺物



793

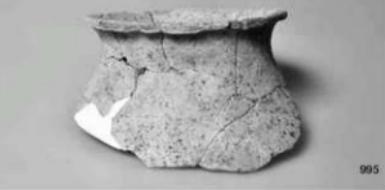


796



797

2. 964 土坑出土遺物



1. 1562 溝・1746 ピット・1327 方形周溝墓・1328 方形周溝墓・457 土坑出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物



800



805



806



807

1. 1562 溝出土遺物



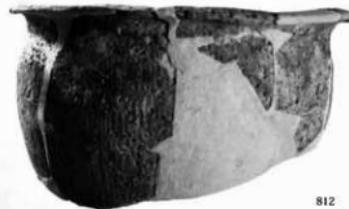
810



808

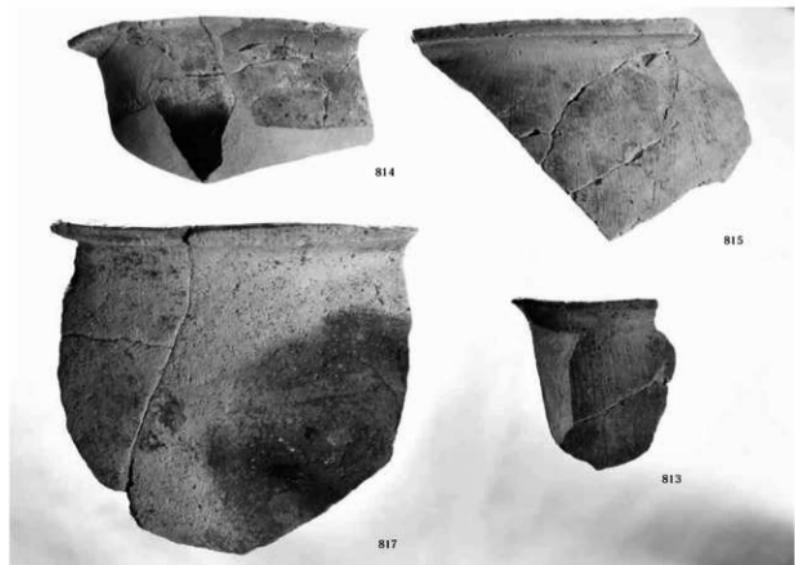


809



812

2. 1562 溝出土遺物

2016  
1調出土  
查  
物

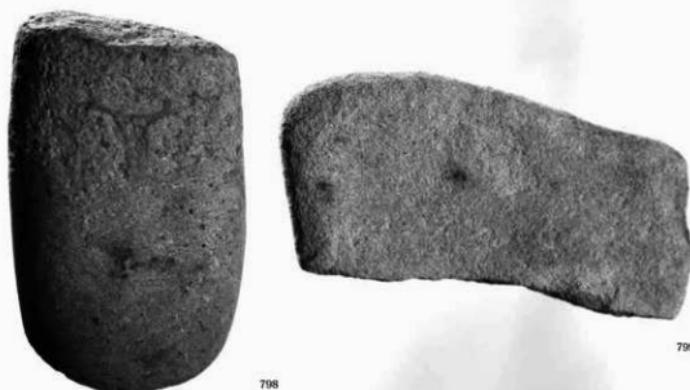
1. 1562 溝出土遺物



2. 1562 溝出土遺物

2016

1

調出土  
査  
物

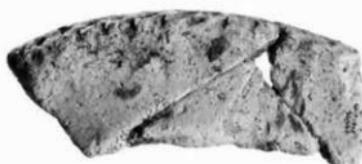
1. 1561 溝出土遺物



2. 1452 ピット・2020 ピット・985 溝・1360 溝・1390 溝・1666 土坑出土遺物



832



833



835



834

## 1. 210 土坑出土遺物



838



839

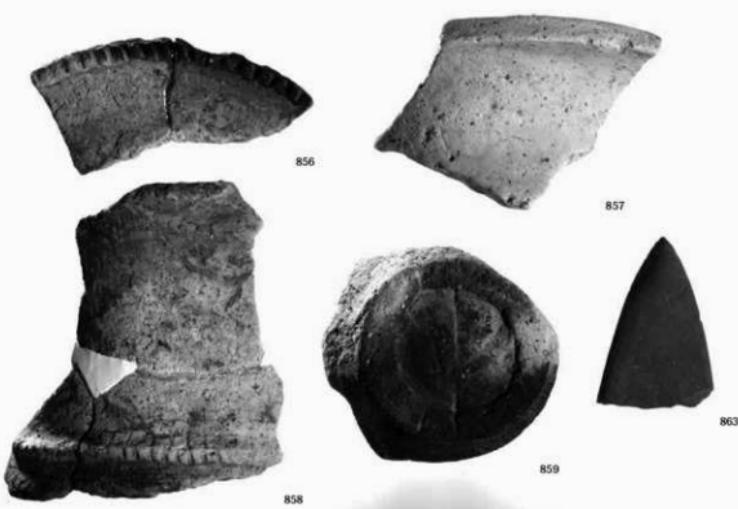


840

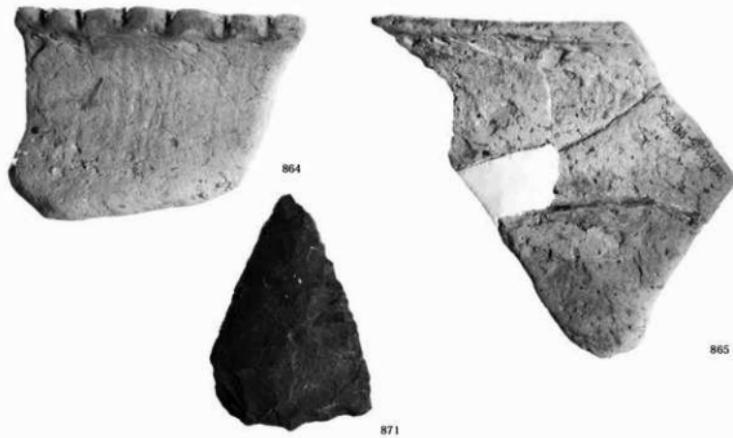
## 2. 368 土坑出土遺物

2016

1

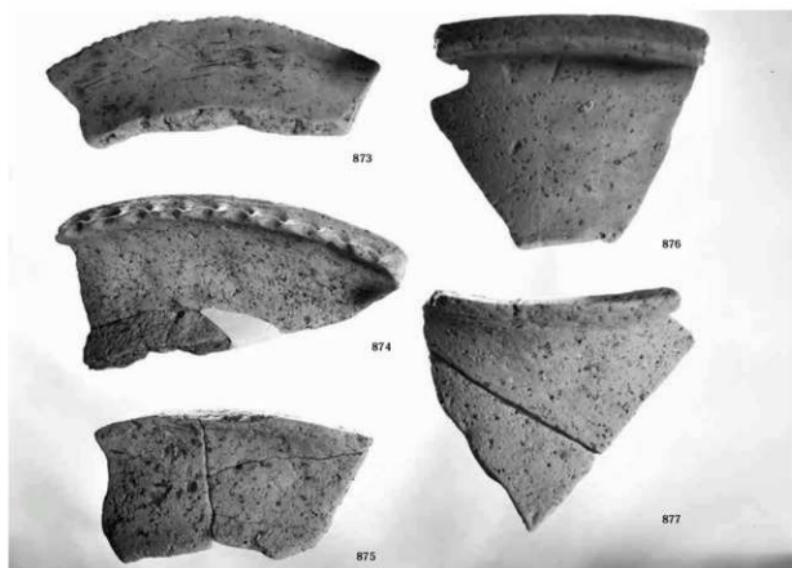
調出土  
遺物

1. 372 溝出土遺物

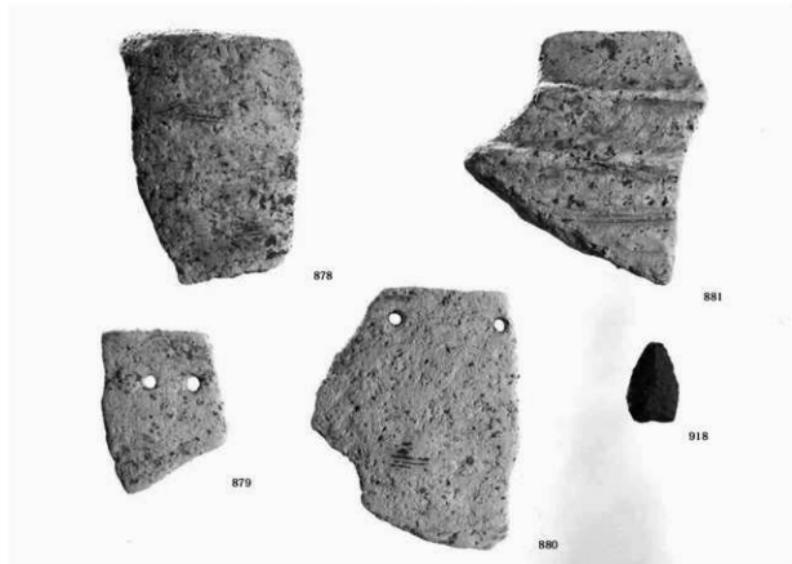


2. 396 溝出土遺物

2016  
1  
調出土  
查  
物



1. 1327 方形周溝墓出土遺物



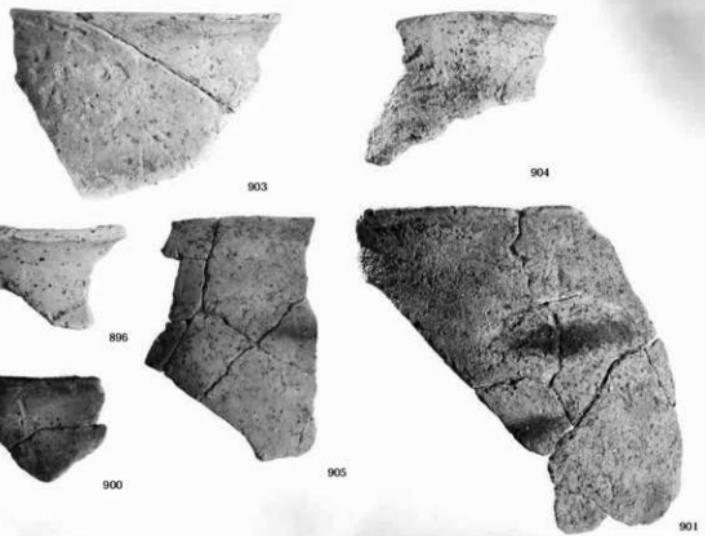
2. 1327 方形周溝墓出土遺物

2016

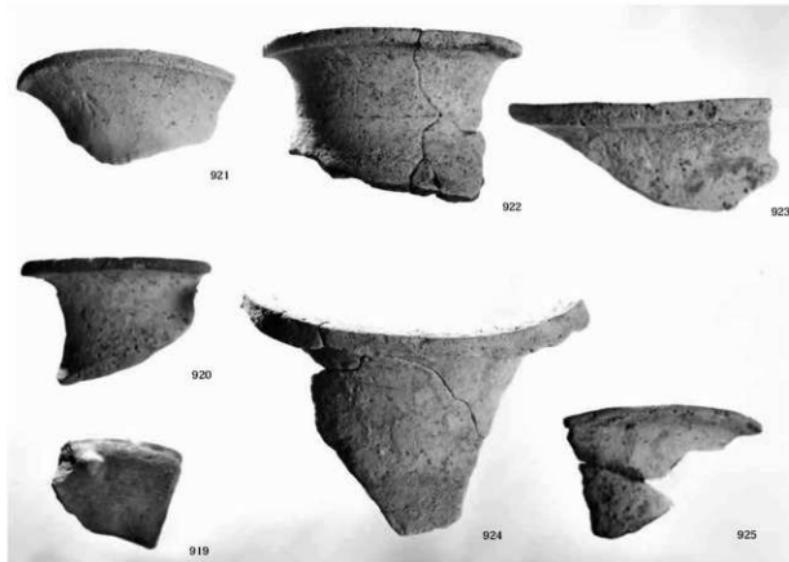
1

調出土  
遺

物



1. 1327 方形周溝墓出土遺物



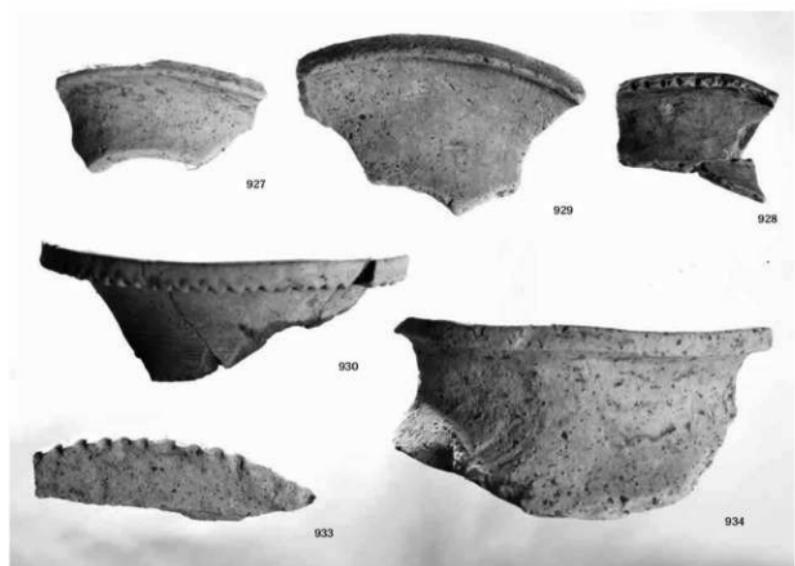
2. 1328 方形周溝墓出土遺物

2016  
1

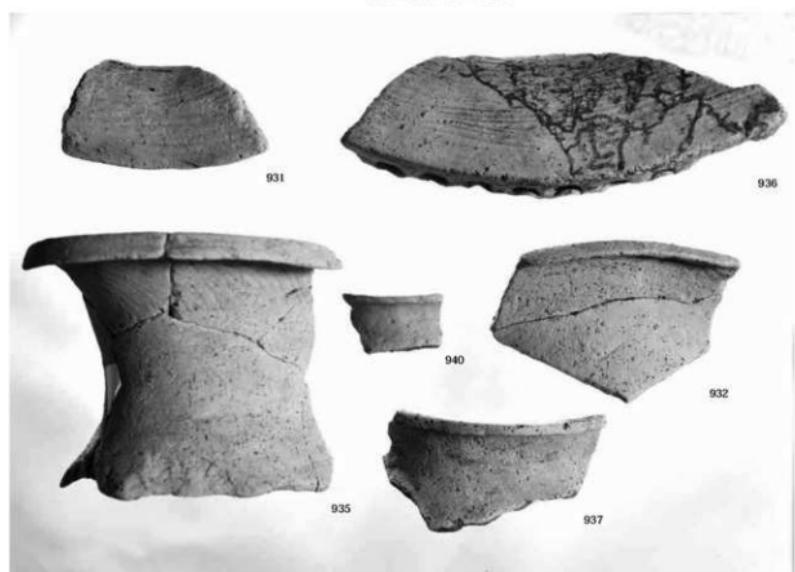
調出土

遺

物



1. 1328 方形周溝墓出土遺物



2. 1328 方形周溝墓出土遺物

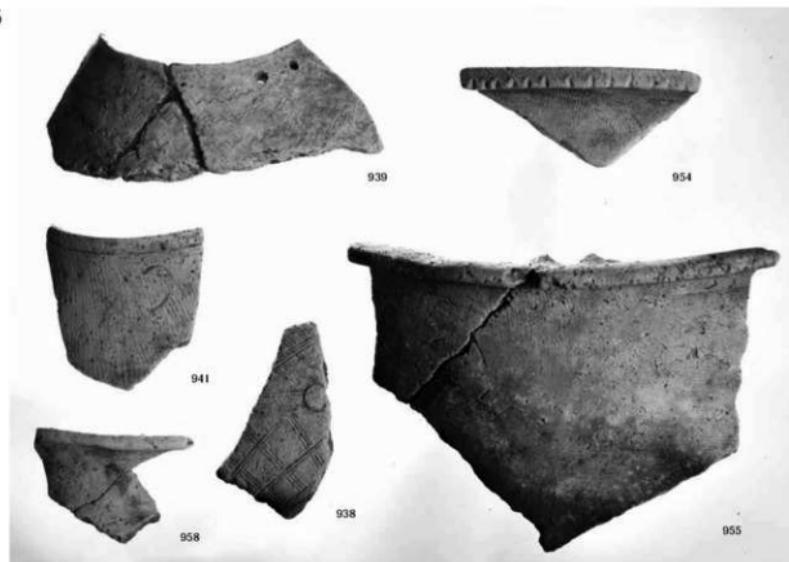
2016

1

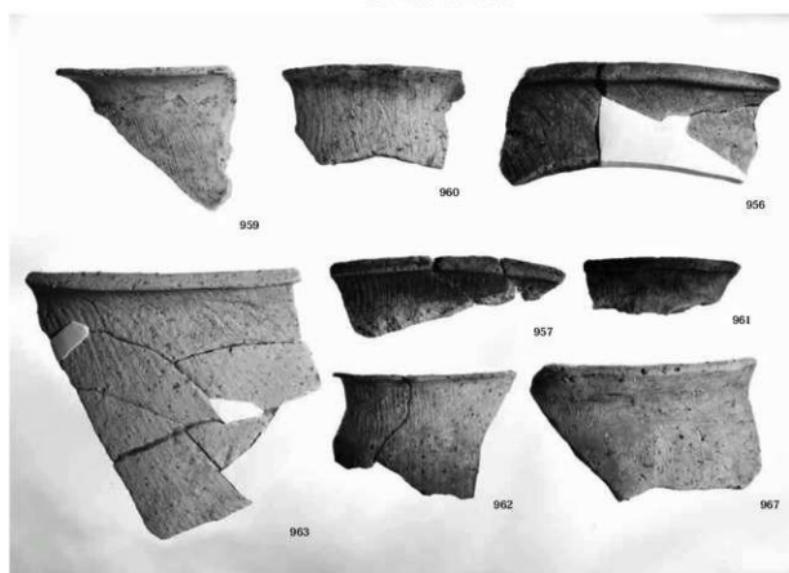
調出土

遺

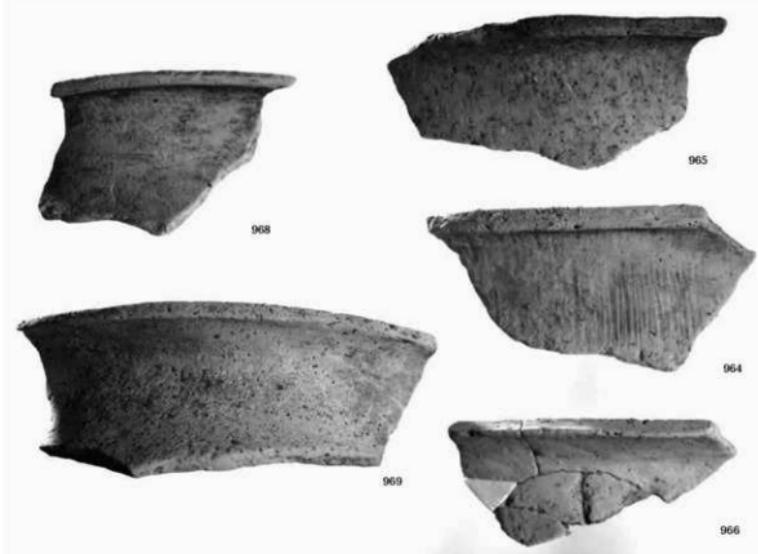
物



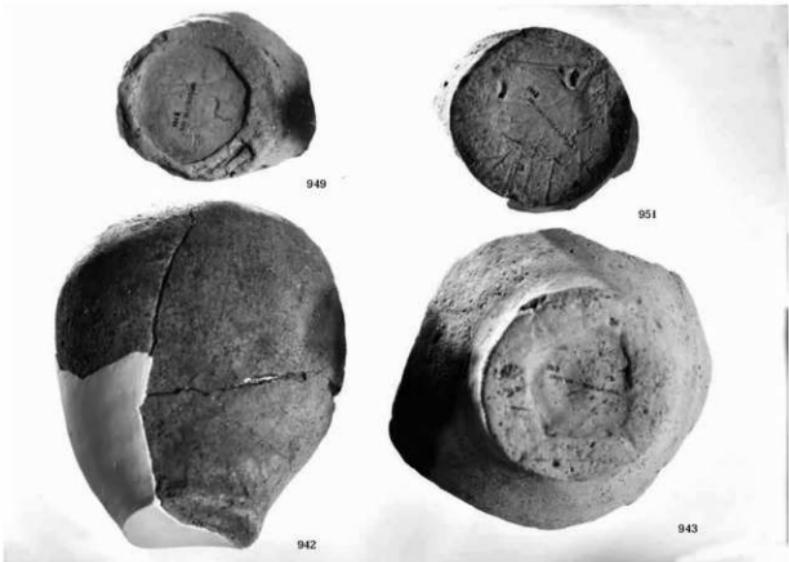
1. 1328 方形周溝墓出土遺物



2. 1328 方形周溝墓出土遺物



1. 1328 方形周溝墓出土遺物



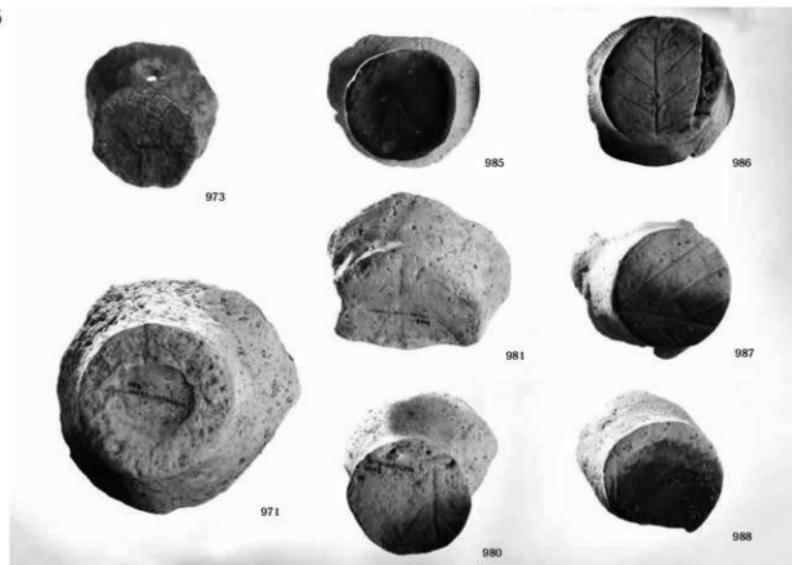
2. 1328 方形周溝墓出土遺物

2016

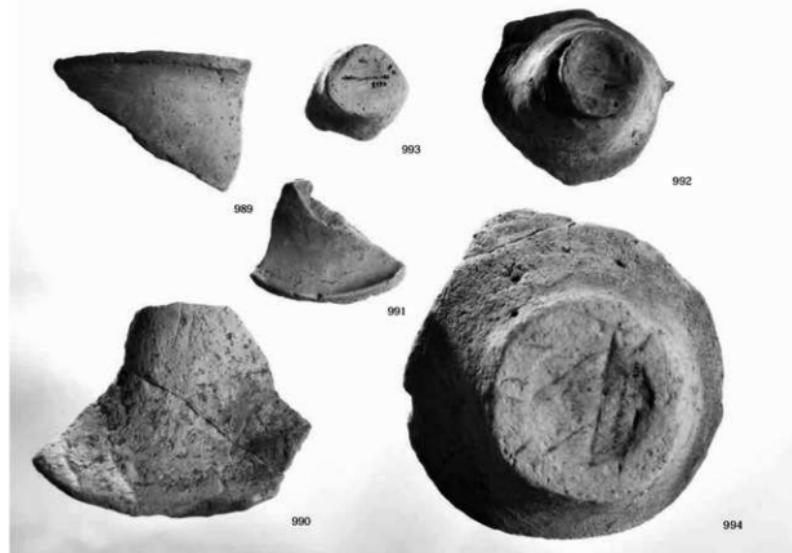
1

調出土  
查

物

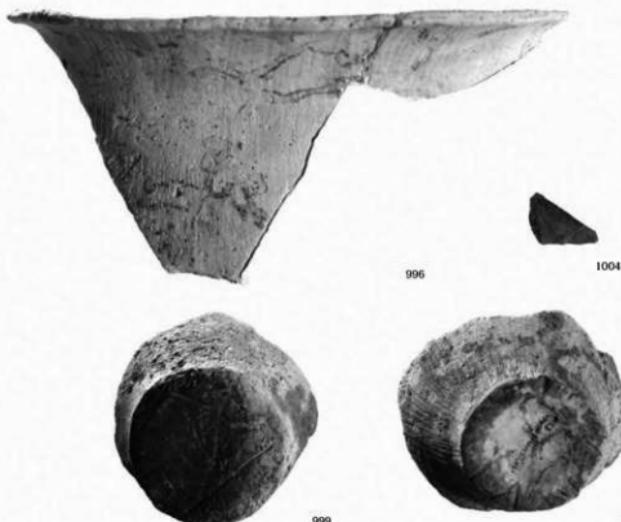


1. 1328 方形周溝墓出土遺物

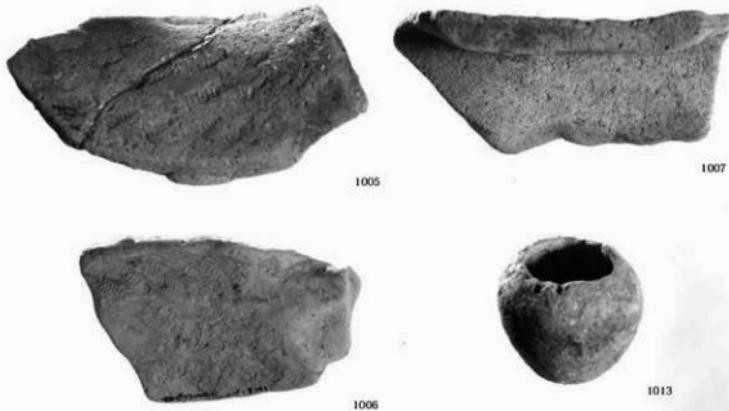


2. 1328 方形周溝墓・903 溝出土遺物

調出土  
查  
物



1. 457 土坑出土遺物



2. 385 土坑・468 土坑出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物



1011



1012

1010

1. 415 溝出土遺物



1024



1030



1071



1025



1073

2. 1629 土坑・1666 土坑・1920 土坑・2360 土坑出土遺物



1028



1050

1067



1076



1078



1083

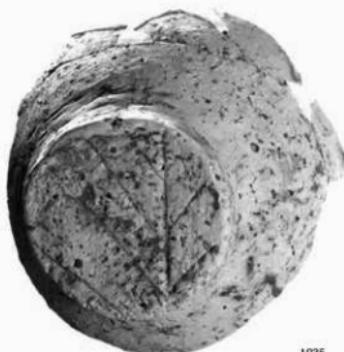


1086

1. 48 土坑・770 土坑・1632 土坑・1700 土坑出土遺物

2016

1

調出土  
遺  
物

1035



1033

1. 593 溝出土遺物



1036



1037



1040

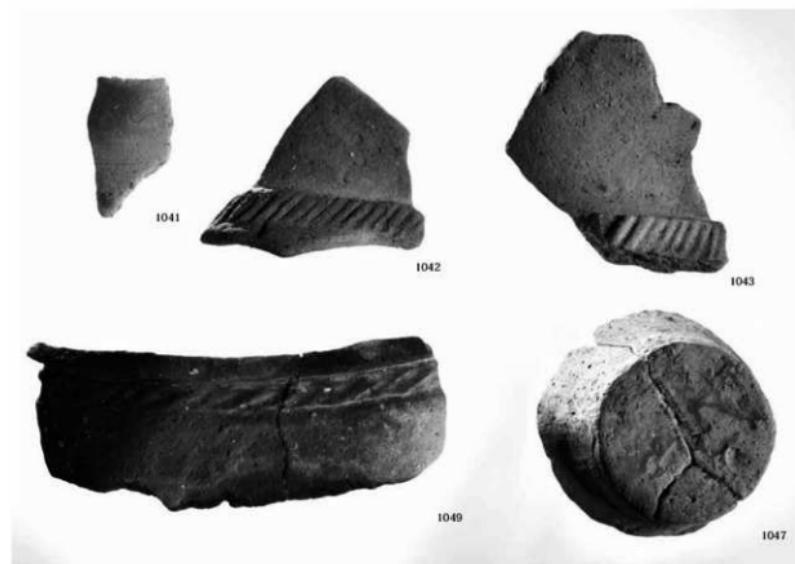


1038

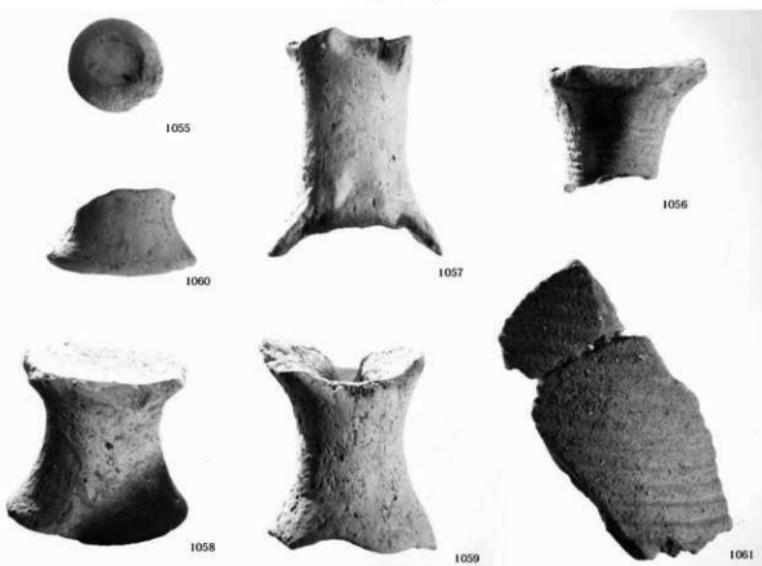


1039

2. 48 土坑出土遺物

2016  
1調出土  
查  
物

1. 48 土坑出土遺物



2. 48 土坑出土遺物

2016

1

調出土  
遺

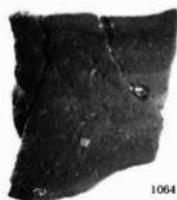
物



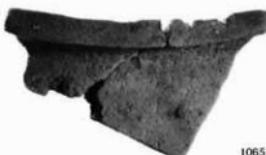
1062



1063



1064



1065



1066

1. 127 土坑出土遺物



1080



1077

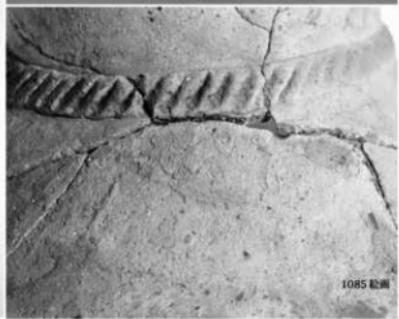


1084

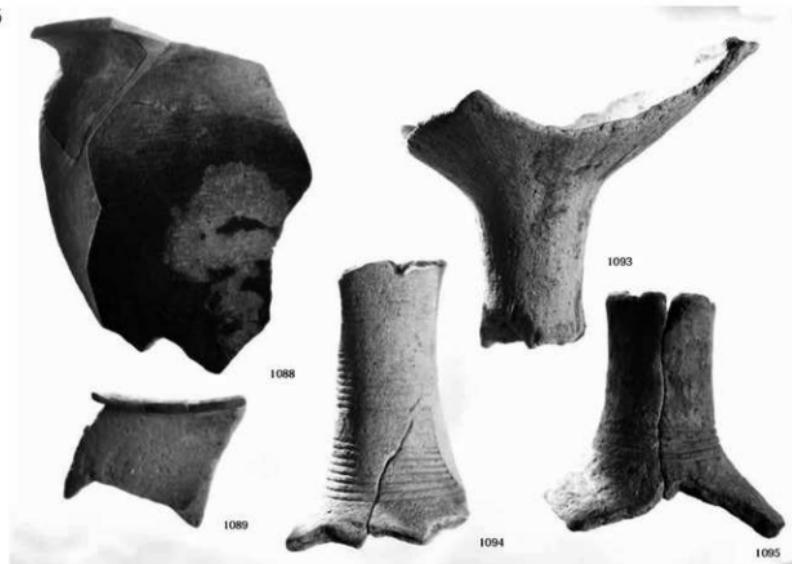


1081

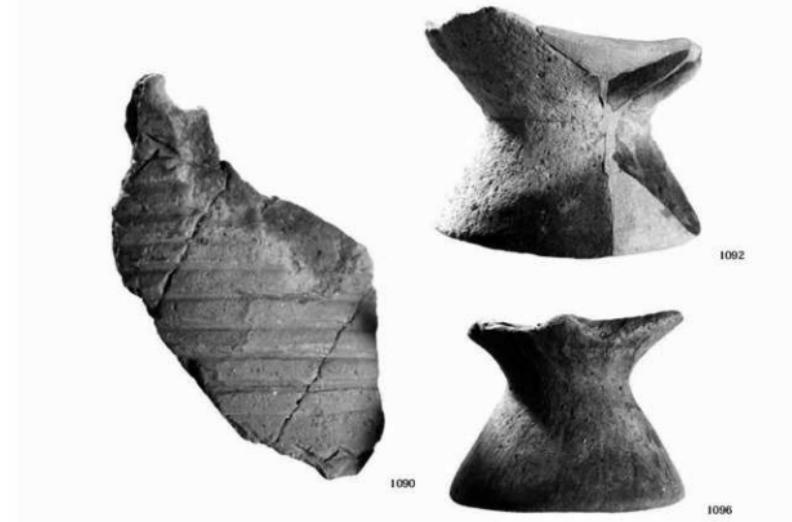
2. 1632 土坑出土遺物



1. 1632 土坑出土遺物

2016  
1調出土  
遺  
物

1. 1632 土坑出土遺物



2. 1632 土坑出土遺物

調出土  
查  
物



1098



1099



1100

1. 1632 土坑出土遺物



1101



1107



1106



1102

2. 2210 土坑出土遺物

2016

1

調出土  
遺物

1110



1223



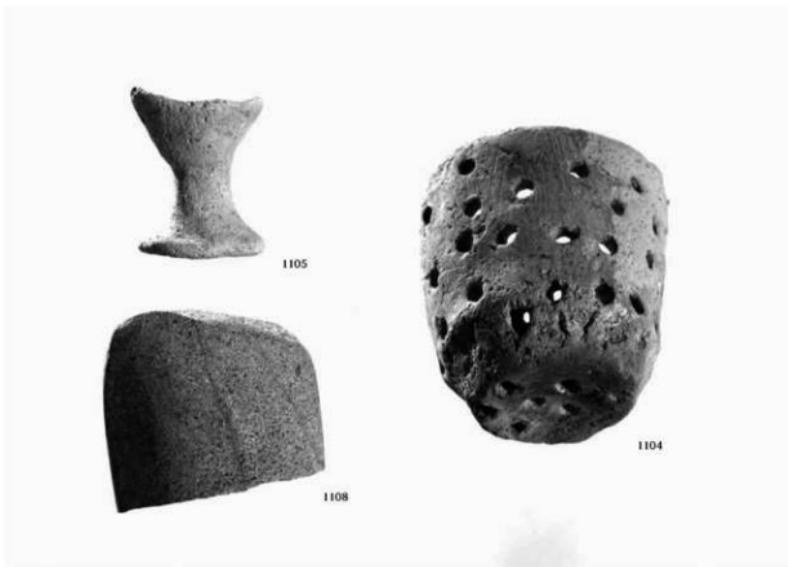
1142



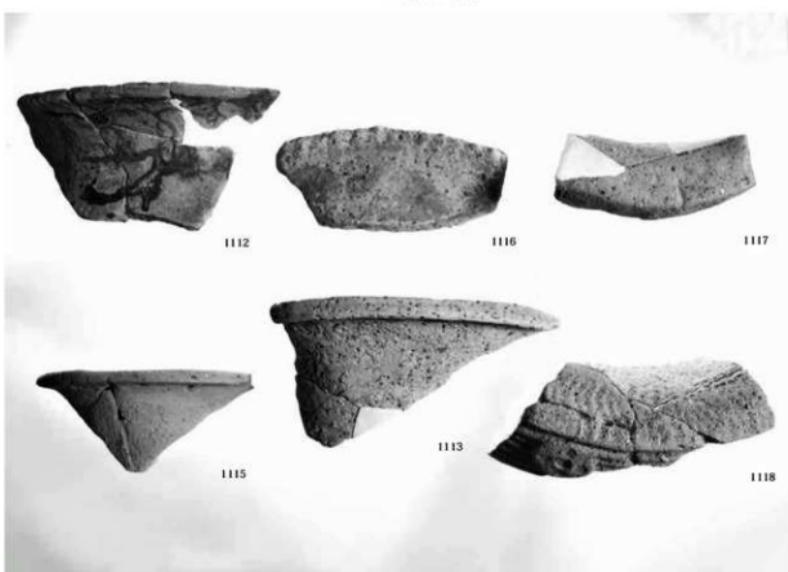
1235



1236



1. 2210 土坑出土遺物



2. 287 溝出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物



1121



1122



114



119



120



183



184

## 1. 287 溝出土遺物



1167



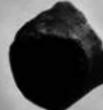
133



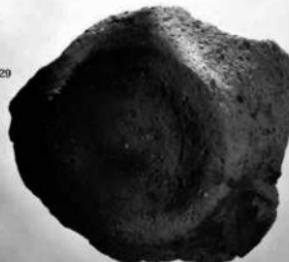
124



129



145



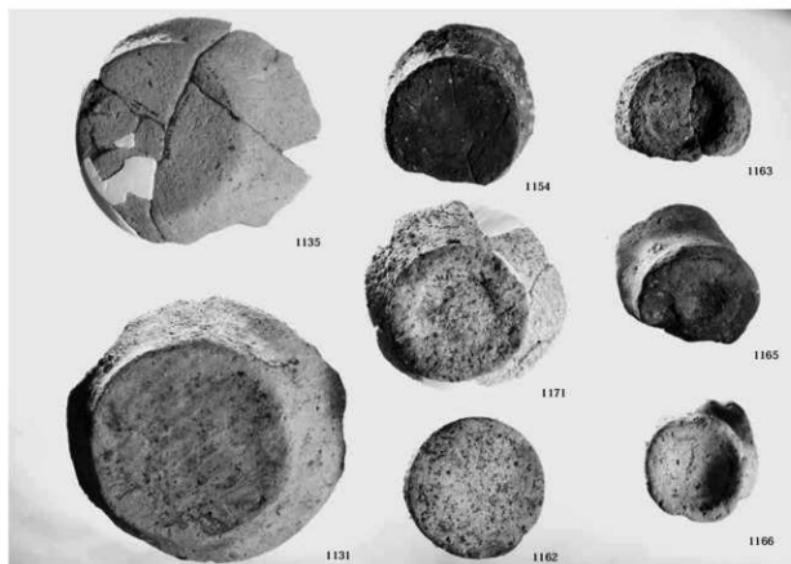
137



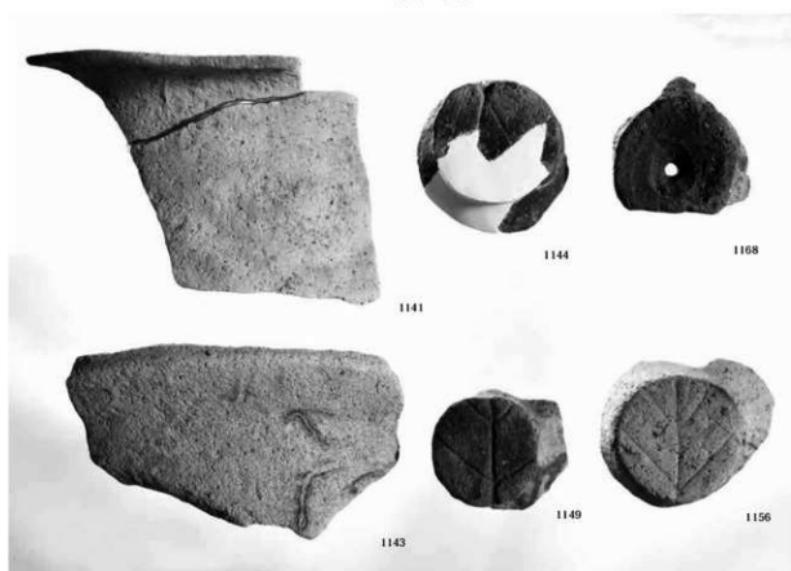
130

## 2. 287 溝出土遺物

2016  
1  
調出土  
遺物



1. 287 溝出土遺物



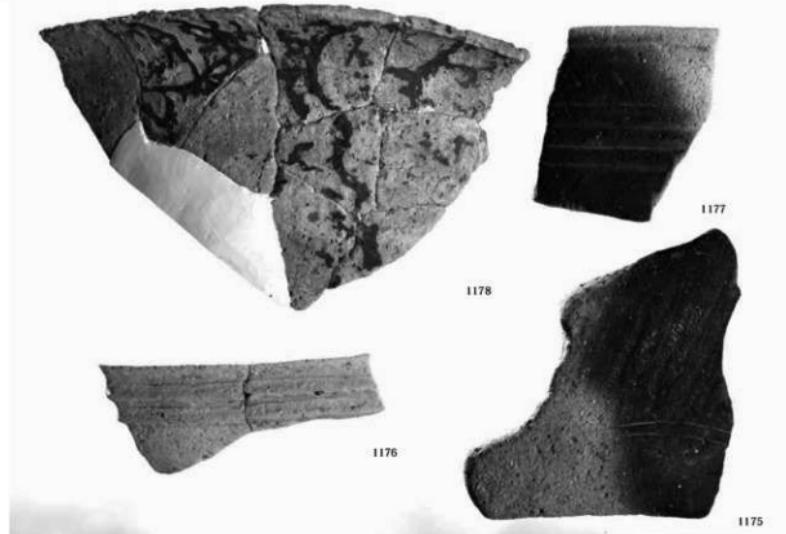
2. 287 溝出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物

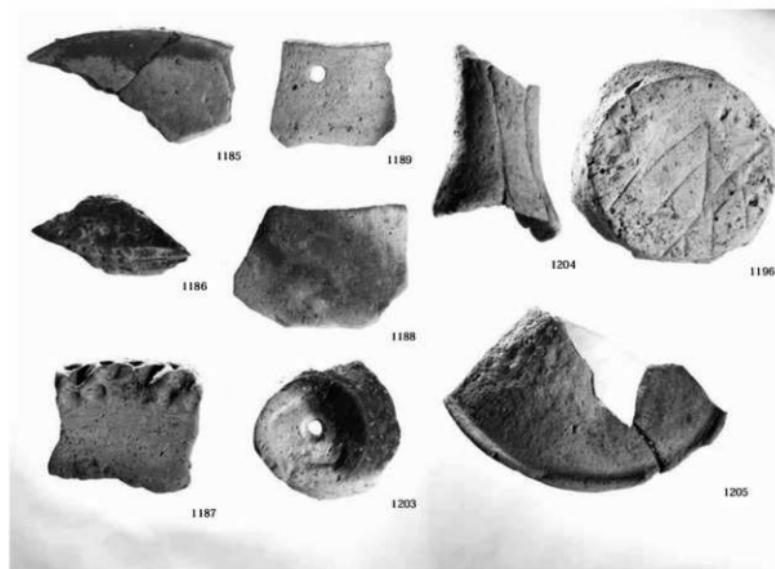


1. 287 溝出土遺物



2. 288 溝出土遺物

2016  
1  
調出土  
遺物



1. 288 溝出土遺物



2. 607 溝出土遺物

2016

1

調出土  
遺物

1209



1210

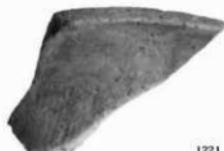


1211



1212

1. 607 溝出土遺物



1221



1224



1222

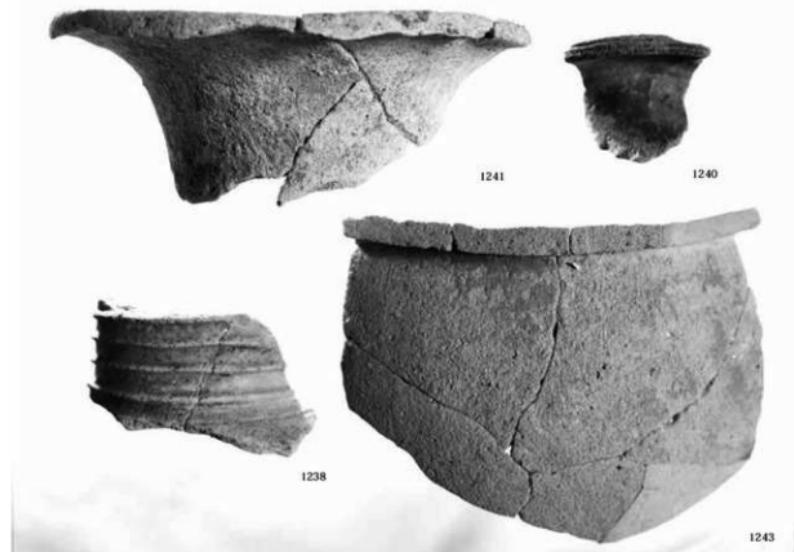


1234

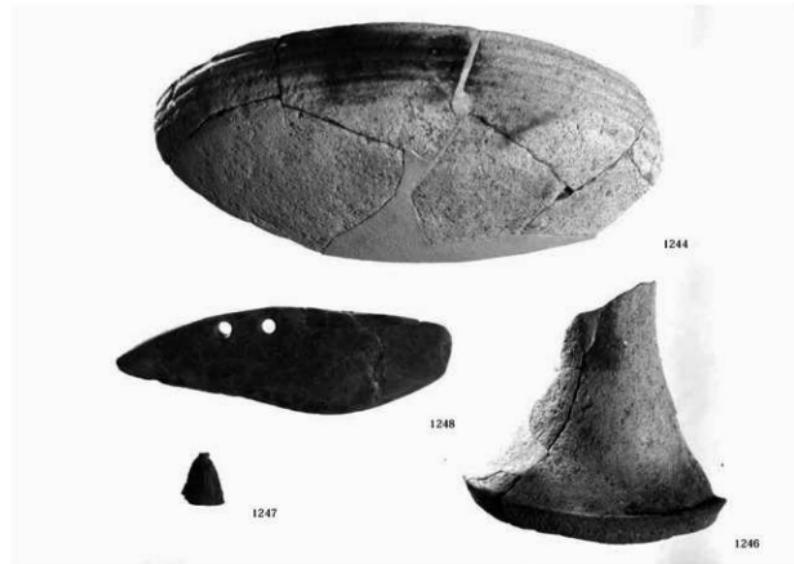


1233

2. 880 溝出土遺物



1. 1444 溝出土遺物



2. 1444 溝出土遺物

2016  
1  
調出土  
遺  
物



1237



1239



1245



1267



1273



1279



1278



1280

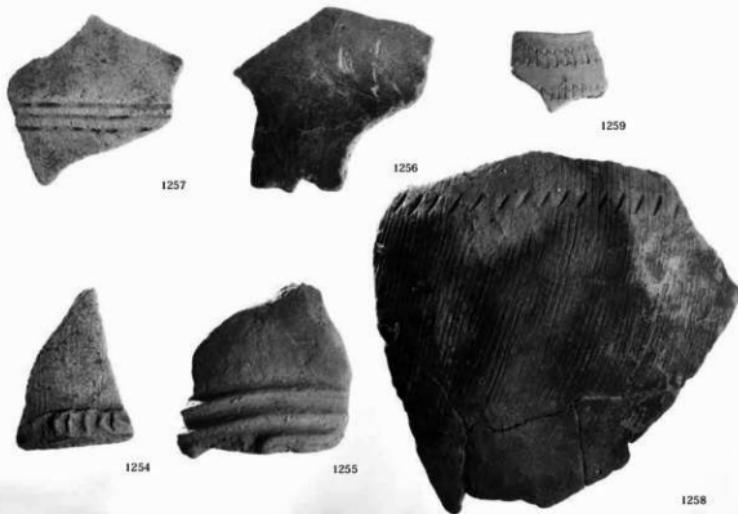


1282

調出土  
查  
物



1. 1320 方形周溝墓出土遺物



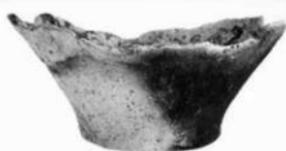
2. 1320 方形周溝墓出土遺物

2016

1

調出土  
査  
物

1288



1290



1289



1291



1296



1319



1304

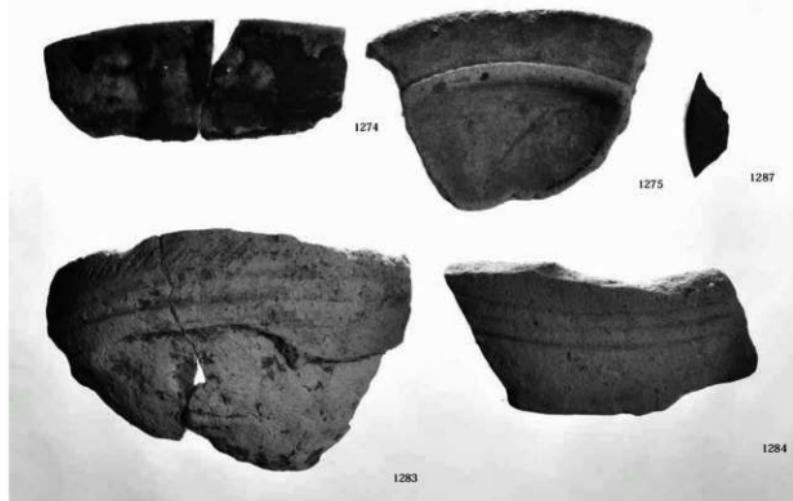


1360

調出土

查

物



1. 1320 方形周溝墓出土遺物



2. 1325 竪穴建物出土遺物

2016

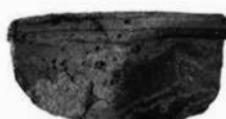
1

調出土  
遺

物



1300



1299



1298



1302

1. 112 ピット・118 ピット・188 ピット・990 ピット出土遺物



1315



1357



1330



1316



1317



1337

2. 174 ピット・352 ピット・907 ピット・470 溝・534 溝・933 土坑出土遺物



1333



1375



1334



1374

1. 471 溝・588 溝出土遺物



1365



1366



1367

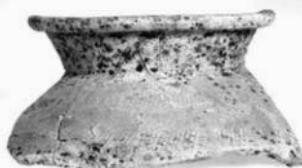
2. 1321 挖立柱建物・1322 挖立柱建物・2643 挖立柱建物出土遺物

2016  
1調出土  
物

1368



1370



1373



1377



1381



1378



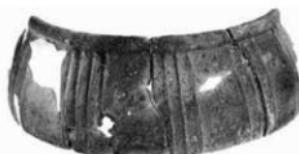
1383



1380



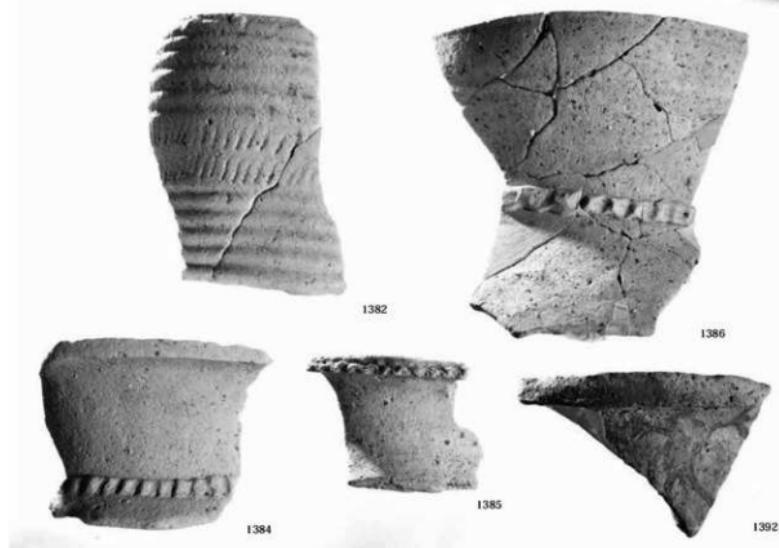
1390



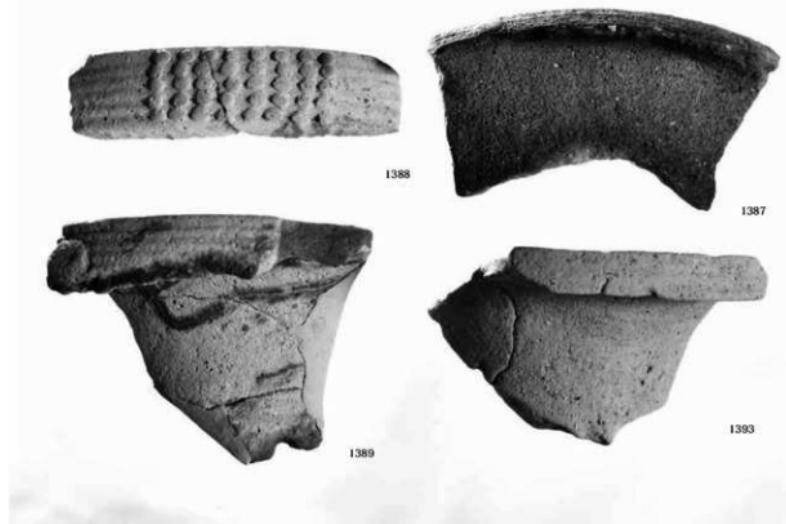
1486



1525



1. 包含層出土遺物



2. 包含層出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物



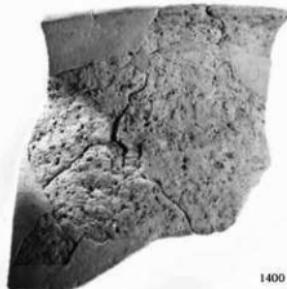
1391



1395



1394



1400

## 1. 包含層出土遺物



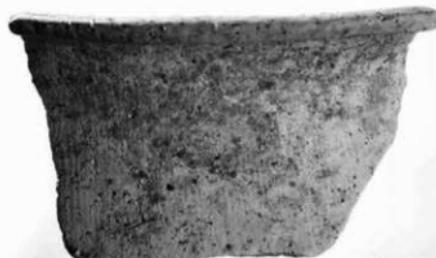
1396



1399



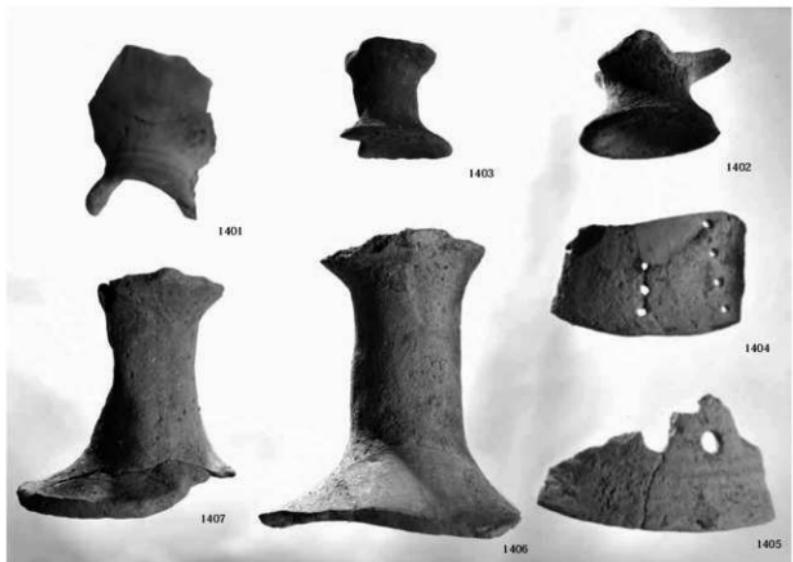
1397



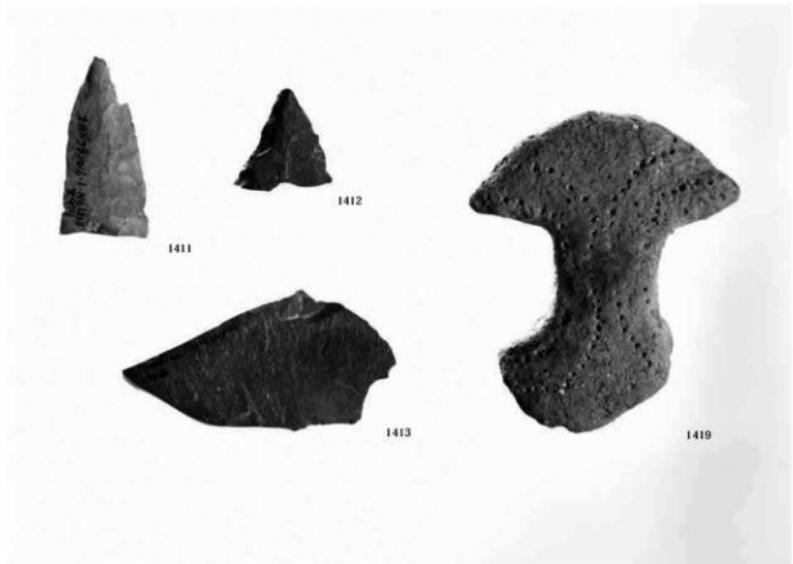
1398

## 2. 包含層出土遺物

2016  
1  
調出土  
遺物



1. 包含層出土遺物



2. 包含層出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物



1415



1414



1418



1416



1417

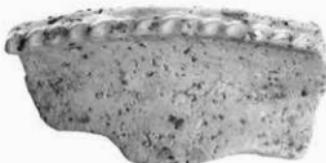
## 1. 包含層出土遺物



1420



1423

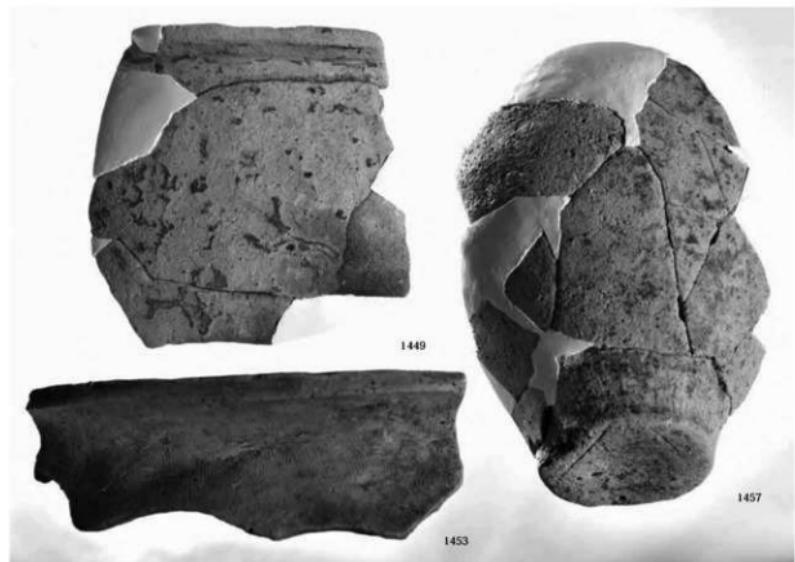


1421

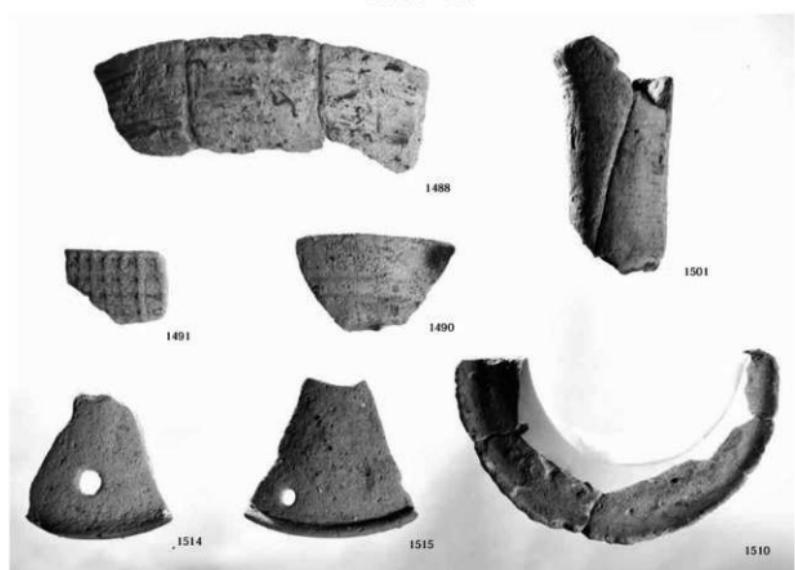


1424

## 2. 包含層出土遺物



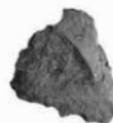
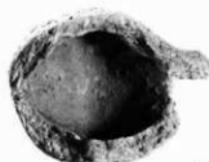
1. 包含層出土遺物



2. 包含層出土遺物

2016

1

調出土  
遺  
物

1520

1522

1521

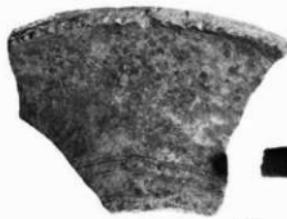
1519

1. 包含層出土遺物



1523

1529



1528

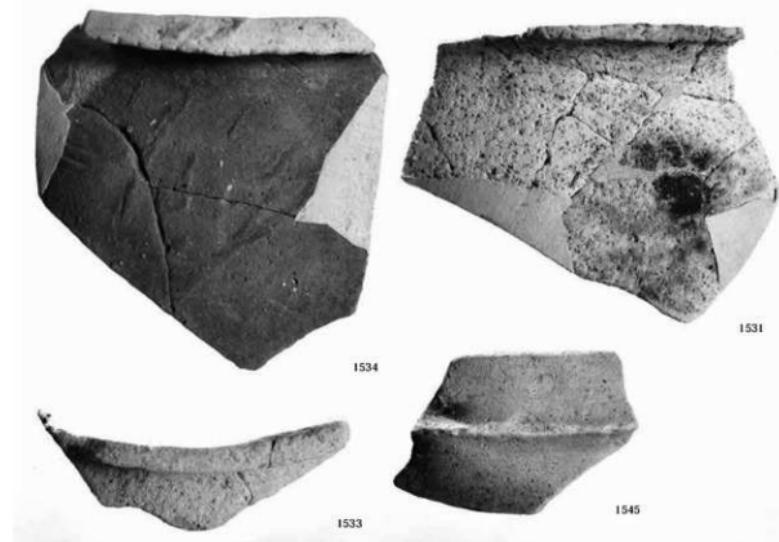


1530

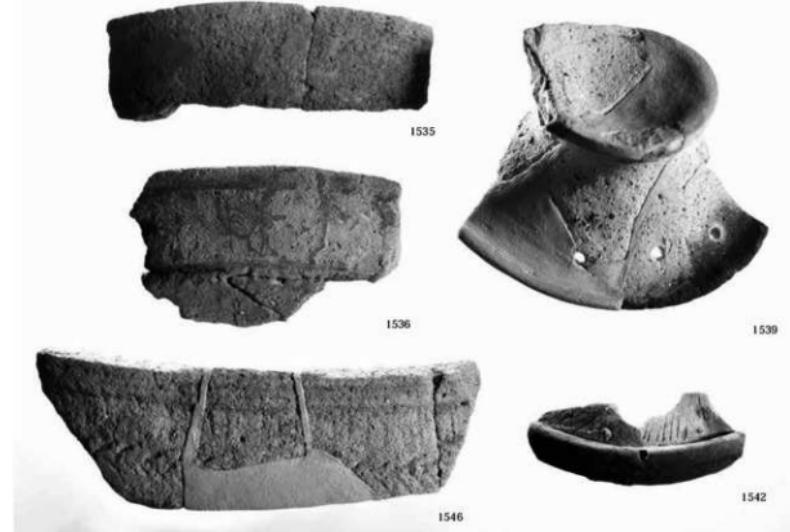
1526

2. 包含層出土遺物

調出土  
遺物



1. 包含層出土遺物



2. 包含層出土遺物

2016

1

調出土  
遺

物



1547



1548

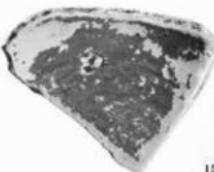


1549

1. 包含層出土遺物



1552



1560



1563

2. 包含層出土遺物

2016  
12017  
1  
調

董土

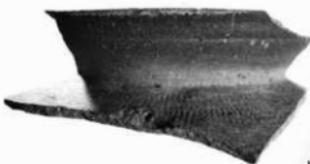
遺物



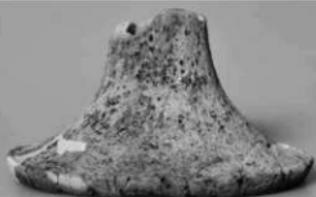
1532



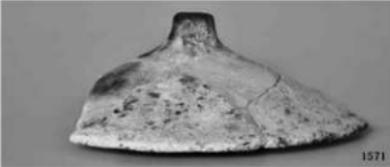
1538



1566



1570



1571



1574



1578



1581



1584

1. 包含層・5溝・6溝・10溝・11溝出土遺物

2017  
1調出土  
遺  
物

1. 6 溝出土遺物



2. 11 溝出土遺物



1588



1583



1582

1. 10 溝出土遺物



1591



1595



1594

2. 包含層出土遺物

2017  
1調出土  
遺

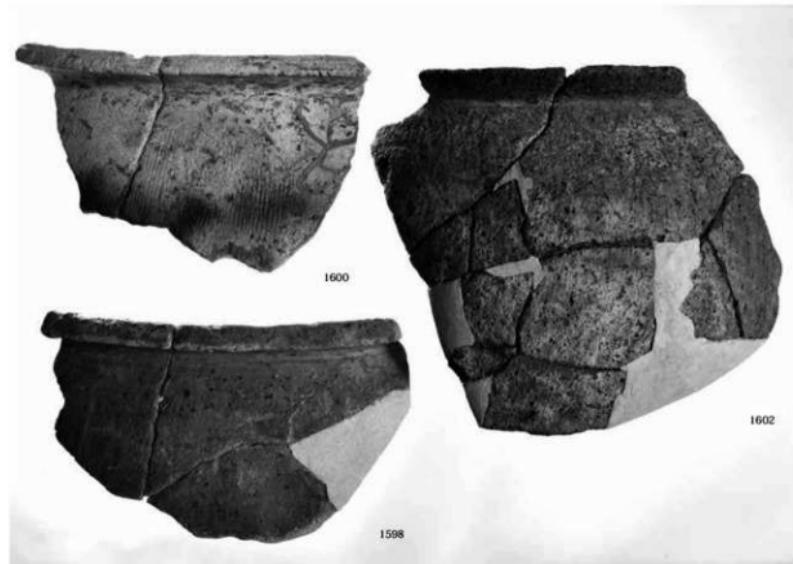
物



1. 10 满・18 土器棺墓・包含層出土遺物

2017  
1調出土  
查  
物

1. 包含層出土遺物



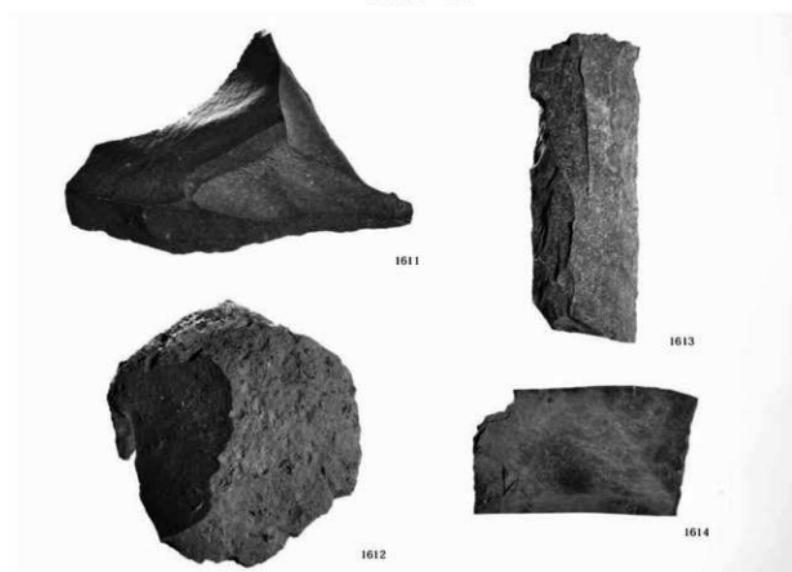
2. 包含層出土遺物

2017  
1調出土  
遺

物



1. 包含層出土遺物



2. 包含層出土遺物

2017  
1調出土  
遺

物



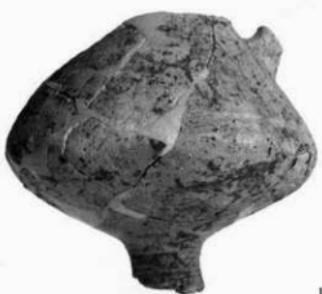
1592



1596



1593



1604



1608



1607



1610

## 報告書抄録

ふりがな	なかがわらいせき いち							
書名	中河原遺跡1							
副書名								
巻次名								
シリーズ名	茨木市文化財資料集							
シリーズ番号	第84集							
編著者名	木村健明(編) 高村勇士 富田卓見							
編集機関	茨木市教育委員会							
所在地	〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号 電話(072)622-8121(代表)							
発行年月日	令和5年(2023)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかがわらいせき 中河原遺跡	大阪府 茨木市 郡 四丁目	27211	34° 50' 02"	135° 33' 21"	1979.2.2 ~ 1979.3.7	80m <sup>2</sup>	倉庫建設	
	大阪府 茨木市 上郡一丁目		34° 50' 01"	135° 33' 20"	1980.12.22 ~ 1981.2.10	350m <sup>2</sup>	倉庫建設	
	大阪府 茨木市 郡 三丁目		34° 50' 09"	135° 33' 24"	1985.4.1 ~ 1985.4.30	180m <sup>2</sup>	倉庫建設	
	大阪府 茨木市 郡 三丁目		34° 50' 04"	135° 33' 27"	1990.10.1 ~ 1990.11.15	250m <sup>2</sup>	倉庫建設	
	大阪府 茨木市 郡 五丁目		34° 49' 55"	135° 33' 18"	1992.7.10 ~ 1992.7.22	45m <sup>2</sup>	共同住宅建設	
	大阪府 茨木市 郡 五丁目		34° 49' 57"	135° 33' 19"	1992.7.10 ~ 1992.7.30	53m <sup>2</sup>	共同住宅建設	
	大阪府 茨木市 郡 五丁目		34° 49' 54"	135° 33' 18"	1993.1.25 ~ 1993.1.29	33m <sup>2</sup>	共同住宅建設	
	大阪府 茨木市 上郡一丁目		34° 49' 59"	135° 33' 18"	1997.5.28 ~ 1997.6.21	330m <sup>2</sup>	共同住宅建設	
	大阪府 茨木市 上郡一丁目		34° 50' 05"	135° 33' 27"	2001.4.13 ~ 2001.6.28	203m <sup>2</sup>	倉庫建設	

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中河原遺跡	大阪府茨木市 四丁目	27211		34° 50' 04"	135° 33' 23"	2008.2.6 ~ 2008.2.8	11.6m <sup>2</sup>	油水分離槽 設置
				34° 50' 02"	135° 33' 22"	2016.7.12 ~ 2017.11.9	5,042.5m <sup>2</sup>	倉庫建設
				34° 50' 04"	135° 33' 21"	2017.6.27 ~ 2017.11.9	53.9m <sup>2</sup>	防火水槽 設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
中河原遺跡	集落	弥生時代～中世	土坑溝 土器植草 方形周溝墓 堅穴建物 掘立柱建物 井戸	弥生土器・石器・ 土師器・須恵器・ 瓦器・磁器			建物5棟を描く 絵画土器	
要 約		<p>中河原遺跡は弥生時代中期から中世に至る複合遺跡である。本書では既往の成果も併せて報告した。</p> <p>特に弥生時代中期の居住域と墓域を検出したことは特記される。調査地は居住域と墓域の境界に位置する可能性がある。また、建物5棟を描く絵画土器が出土した。一個体に描かれている棟数が多く、注目される。</p> <p>その他、古墳時代の掘立柱建物や飛鳥時代から中世の遺構・遺物も確認している。飛鳥時代の遺構・遺物は、茨木市内で検出例が少なく、貴重な成果となつた。</p>						

茨木市文化財資料集 第84集

## 中河原遺跡 1

発行日 令和5年3月31日

編 集 茨木市教育委員会

〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号

電話 (072) 622-8121 (代表)

発 行 茨木市教育委員会

印 刷 株式会社 明新社